

長野県松本市

*TAKABATAKE*

# 高畑遺跡

—第6次発掘調査報告書—

*2018.3*











松本市教育委員会





## 例 言

- 1 本書は、平成26年5月19日～平成28年3月25日に実施された、長野県松本市村井町南二丁目918番ほかに所在する高畑遺跡の第6次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、松本市村井町南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査であり、土地区画整理組合より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆分担について、本文冒頭に記名のないものについては、以下のとおりである。  
第Ⅱ章・第Ⅲ章第2節4：山本紀之、第Ⅲ章第3節3：原田健司、その他：小山奈津実
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。  
遺物洗浄・注記 井内南奈香・内田和子・佐々木正子・洞澤文江・三澤栄子  
遺物保存処理・接合復元 荒井留美子・内田和子・佐々木正子・竹平悦子・古林舞香・洞澤文江・三澤栄子  
遺物実測・トレース（土器、土製品）井内南奈香・久保田瑞恵・竹内直美・竹平悦子・田中正治郎・直井禎之介・原田梨恵・古林舞香・山口祥子・  
（株）シン技術コンサル  
（石器・石製品）原田健司  
（金属製品）洞澤文江  
遺構図整理・トレース 荒井留美子  
写真撮影（遺構）小山奈津実・原田健司・原田梨恵・福嶋彩子・山本紀之  
（空中写真）（株）アンドー  
（遺物）宮嶋洋一  
一覧表作成（遺構）荒井留美子・小山奈津実・山本紀之  
（土器、土製品）古林舞香  
（石器・石製品）原田健司  
（金属製品）小山奈津実・洞澤文江  
DTP 荒井留美子・小山奈津実・原田健司・古林舞香・山口祥子
- 5 本書で用いた略記は次のとおりである。  
第○号住居址→○住、第○号竪穴建物址・第○号竪穴状遺構→竪○、第○号掘立柱建物址→建○、第○号炭焼窯址→炭○、第○号土坑→土○、第○号炉址→炉○、第○号溝址→溝○、第○号畝址→畝○
- 6 図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、東北太平洋沖地震後の補正值である。
- 7 図類の縮尺は、遺構：1/40・1/80、土器：1/4、土製品：1/3、石器・石製品：2/3・1/3、金属製品：1/2で掲載した。写真図版の縮尺は、遺構：不同、遺物（俯瞰）：不同、遺物（平置き）：土器・土製品は1/2、石器・石製品は1/2・1/3、金属製品は1/1・1/2で掲載した。
- 8 本書では以下のものをスクリーントーンで表した。

遺構：焼土・被熱範囲  焼土・被熱範囲（硬）  炭化物   
炭化物・骨  貼床   
遺物：黒色土器  タール・煤  朱墨  被熱  溶滓 

- 9 遺構図の各々の住居址は基本カマドを天として掲載するが、カマドが確認できない住居址及び複雑に重複する住居址は位置の把握を容易にするために北を天として掲載した。
- 10 土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。
- 11 土器実測図の断面白抜きは土師器・黒色土器・土師質土器、黒塗りは須恵器・軟質須恵器・灰釉陶器・無釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁を示す。
- 12 発掘調査実施と報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。  
白沢勝彦、原明芳、百瀬正恒、山田真一（敬称略）
- 13 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒 399-0823 長野県松本市中山 3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に保管している。

#### 参考文献

- 松本市教育委員会 1987 『松本市文化財調査報告No. 51 松本市高畑遺跡』  
財 長野県埋蔵文化財センター 1990 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 4 - 松本市内  
その 1 - 総論編』
- 松本市教育委員会 2003 『松本市文化財調査報告No. 168 中山古墳群・鍬形原遺跡・鍬形原砦址』  
松本市教育委員会 2004 『松本市文化財調査報告No. 175 中山古墳群・鍬形原遺跡・鍬形原砦址』  
松本市教育委員会 2008 『松本市文化財調査報告No. 194 高畑遺跡 第 2・3・4・5 次』  
松本市教育委員会 2008 『松本市文化財調査報告No. 196 中山古墳群 14・15 カニホリ東・西遺跡』

# 目次

---

例言

目次

## 第I章 調査経緯

第1節 調査経過……………7

第2節 調査体制……………8

## 第II章 遺跡の環境

第1節 地理的環境……………9

第2節 歴史的環境……………11

第3節 過去の調査成果……………12

## 第III章 調査成果

第1節 調査の概要……………13

### 第2節 遺構

1 竪穴住居址、竪穴建物址……………14

2 竪穴状遺構……………16

3 掘立柱建物址……………16

4 炭焼窯……………17

5 土坑……………17

6 炉址……………18

7 溝址……………18

8 畝址……………19

### 第3節 遺物

1 土器・陶磁器……………20

2 土製品……………24

3 石器・石製品……………25

4 金属製品……………25

## 第IV章 総括……………27

附編 松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度……………30

高畑遺跡（第6次調査）の自然科学分析……………49

表

図版

写真図版

報告書抄録

## 表目次

第1表	竪穴住居址一覧表	第5表	土器観察表
第2表	竪穴建物址・竪穴状遺構一覧表	第6表	土製品一覧表
第3表	掘立柱建物址一覧表	第7表	石器・石製品一覧表
第4表	土坑一覧表	第8表	金属製品一覧表

## 図版目次

図版1	事業対象地と調査区の範囲、土層図	図版47	掘立柱建物址(2)
図版2	調査区全体図	図版48	掘立柱建物址(3)
図版3	A区全体図	図版49	掘立柱建物址(4)
図版4	B区全体図	図版50	掘立柱建物址(5)、炭焼窯
図版5	C区全体図	図版51	土坑(1)
図版6	D区全体図	図版52	土坑(2)
図版7	F区全体図	図版53	土坑(3)
図版8	G区全体図	図版54	土坑(4)
図版9	H・I区全体図	図版55	土坑(5)
図版10	J・K区全体図	図版56	土坑(6)、炉址
図版11	L区全体図	図版57	溝址
図版12	M区全体図	図版58	畝址
図版13	竪穴住居址(1)	図版59	土器(1)
図版14	竪穴住居址(2)	図版60	土器(2)
図版15	竪穴住居址(3)	図版61	土器(3)
図版16	竪穴住居址(4)	図版62	土器(4)
図版17	竪穴住居址(5)	図版63	土器(5)
図版18	竪穴住居址(6)	図版64	土器(6)
図版19	竪穴住居址(7)	図版65	土器(7)
図版20	竪穴住居址(8)	図版66	土器(8)
図版21	竪穴住居址(9)	図版67	土器(9)
図版22	竪穴住居址(10)	図版68	土器(10)
図版23	竪穴住居址(11)	図版69	土器(11)
図版24	竪穴住居址(12)	図版70	土器(12)
図版25	竪穴住居址(13)	図版71	土器(13)
図版26	竪穴住居址(14)	図版72	土器(14)
図版27	竪穴住居址(15)	図版73	土器(15)
図版28	竪穴住居址(16)	図版74	土器(16)
図版29	竪穴住居址(17)	図版75	土器(17)
図版30	竪穴住居址(18)	図版76	土器(18)
図版31	竪穴住居址(19)	図版77	土器(19)
図版32	竪穴住居址(20)	図版78	土器(20)
図版33	竪穴住居址(21)	図版79	土器(21)
図版34	竪穴住居址(22)	図版80	土器(22)
図版35	竪穴住居址(23)	図版81	土器(23)
図版36	竪穴住居址(24)	図版82	土器(24)
図版37	竪穴住居址(25)	図版83	土器(25)
図版38	竪穴住居址(26)	図版84	土器(26)
図版39	竪穴住居址(27)	図版85	土器(27)
図版40	竪穴住居址(28)	図版86	土器(28)
図版41	竪穴住居址(29)	図版87	土製品、石器・石製品(1)
図版42	竪穴住居址(30)	図版88	石器・石製品(2)
図版43	竪穴住居址(31)	図版89	金属製品(1)
図版44	竪穴住居址(32)、竪穴建物址(1)	図版90	金属製品(2)
図版45	竪穴建物址(2)、竪穴状遺構	図版91	金属製品(3)
図版46	掘立柱建物址(1)	図版92	2～6次調査全体図

## 写真図版目次

写真図版1	調査区全景	写真図版3～10	遺構
写真図版2	調査地遠景	写真図版11～28	遺物

# 第 I 章 調査経緯

## 第 1 節 調査経過

松本市村井町南土地区画整理組合（以下「組合」という。）により松本市村井町南二丁目 918 番ほかで土地区画整理事業が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である高畑遺跡に該当していた。そのため、松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では平成 26 年 3 月 25 日～4 月 24 日に事業地内で試掘確認調査を実施した。その結果、古墳時代～中世の遺物を伴う竪穴住居址などを検出し、対象地内の広範囲に遺跡が残存していることが確認された。

平成 26 年 5 月 9 日付で、文化財保護法第 93 条に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書が組合から長野県教育委員会（以下「県教委」という。）宛に提出された。市教委では、建設工事の際に遺跡が破壊される恐れがあるため、同日付で届出書を県教委に進達し、5 月 16 日付で県教委から埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査実施の通知を受けた。また、事業者である組合と協議を行い、発掘調査とこれに係る事務処理については市教委が実施することとし、組合と松本市の間に 5 月 12 日付で発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は平成 26 年 5 月 19 日～平成 28 年 3 月 25 日に実施した。調査終了後、平成 28 年 3 月 29 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また、3 月 29 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、4 月 8 日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け 7 月 11 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、11 月 1 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

### <平成 25 年度>

2 月 24 日 「公共事業に伴う農地転用届書（一時転用）」を農業委員会に提出

3 月 25 日～4 月 24 日 市教委が試掘確認調査実施

### <平成 26 年度>

5 月 9 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」を組合が市教委に提出、市教委が県教委に進達

5 月 12 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

5 月 16 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」県教委から組合と市教委に通知

5 月 19 日～3 月 24 日 市教委が発掘調査実施

3 月 24 日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

### <平成 27 年度>

4 月 1 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4 月 13 日～3 月 25 日 市教委が発掘調査実施

3 月 25 日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

3 月 29 日 「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を市教委が松本警察署、県教委に提出

3 月 29 日 「発掘調査終了報告書」を市教委が県教委に提出

### <平成 28 年度>

4 月 1 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4 月 8 日 「文化財の認定及び県帰属について」県教委から市教委に通知

7月11日 「出土文化財譲与申請書」を市教委が県教委へ提出  
11月1日 「出土文化財の譲与について」県教委から市教委に通知  
3月17日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出  
＜平成29年度＞  
4月3日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

## 第2節 調査体制

---

### ＜平成26年度＞

調査団長 吉江厚（松本市教育長）  
調査担当 原田健司（事務員）、小山奈津実（同）、山本紀之（囑託）、山田梨恵（同）  
事務局 松本市教育委員会文化財課  
内城秀典（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主任）、吉見寿美恵（囑託）

### ＜平成27年度＞

調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）  
調査担当 小山奈津実（主事）、福嶋彩子（事務員）、山本紀之（囑託）、山田梨恵（同）  
事務局 松本市教育委員会文化財課  
内城秀典（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（囑託）

### ＜平成28年度＞

調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）  
報告書担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（囑託）  
事務局 松本市教育委員会文化財課  
木下守（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（囑託）

### ＜平成29年度＞

調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）  
報告書担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（研究専門員）、原田健司（主事）  
事務局 松本市教育委員会文化財課  
大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（囑託）

### ＜調査員＞

熊谷康治、齋藤武士、田中正治郎、浜野安則、保柳康一、宮嶋洋一、森義直

### ＜発掘協力者＞

朝倉秀明、芦澤雅量、井内南奈香、井口方宏、伊藤節子、今井文雄、岩井健一郎、太田行信、大滝清次、折井完次、加藤朝夫、川崎勝英、小林和由、小林伸一、猿樂あい子、塩原政夫、清水陽子、鈴木あかね、鈴木高、関口滋、曾根原裕、田中重正、茅野信彦、鳥井和幸、直井知導、長岩千晴、中村明、西村一敏、林秋好、平出賢一、古屋美江、待井正和、三谷久美子、宮澤昭敬、宮澤文雄、百瀬二三子、柳さおり、矢野芳徳、山崎素行、矢満田伸子

### ＜整理協力者＞

阿形文、天野雅代、荒井留美子、井内南奈香、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、久保田瑞恵、佐々木正子、澤柳宜子、竹内直美、竹平悦子、直井槇之介、中澤温子、原田梨恵、洞澤文江、前沢里江、三澤栄子、宮本章江、村山牧枝、安田津由紀



## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

高畑遺跡のある芳川地区は松本市の南部に位置し、東に田川、西に奈良井川と大きな河川に挟まれた南北に細長い平地に立地する。この芳川地区の東を流れる田川のほとりに高畑遺跡は広がる。今回は高畑遺跡の南端にあたる場所で調査を行った。標高は620 m前後である。また、第1～5次調査地は今回の第6次調査地の北側に近接している。

調査地周辺は高畑という地名が示す通り全体的に概観すると一様に微高地平坦面を形成しているようにも見えるが、実際に現地表面を観察すると西側にある浅い谷状地形を呈する地形の最も低い部分を通過する国道19号線方向に向かって西及び北西方向に緩やかに傾斜していることが分かる。また、田川現河床との間には旧河床による窪地も見られる。

田川は現在では堤防によって護岸されているが、平常時には水量が乏しい河川として知られている。そのため、河床面と周囲の面との比高差はほとんどない状態であり、現在でも天井川となっている。このような状況であるため、大雨等の理由で田川が増水し洪水が発生すると流域一帯は当然洪水被害を蒙ることになると思われ、現に本遺跡でも氾濫の痕跡が多数認められている。田川洪積層は硬質砂岩、安山岩、ヒン岩、チャート、頁岩、石英閃緑岩などの細・中礫を多量に含み、鉄分やマンガンで汚染されているという特徴が見られるが、これらの礫を含んだ砂礫層が調査区全域に渡って見られた。このような田川洪積層は近接する小原遺跡や平田本郷遺跡でも確認されており、田川の影響が周辺一帯に及んでいることが窺える。ただし、前述の近接両遺跡で見られる調査地西方約1500 mに流れる奈良井川の洪積層は本遺跡では見られないことから、本遺跡は奈良井川の影響は受けていないと思われる。

調査面では大別して褐色砂礫層、褐色土層が見られる。褐色土層は褐色砂礫層範囲の中に島状に見られるため、氾濫により押し出された砂礫層からふるいだされて堆積したものであると考えられる。これらの堆積層は弓なりに曲線を感じさせる部分もあり、蛇行しながら押し出されていった様子が認められる。

今回検出された遺構の多くはこのような氾濫堆積層の上面に見られるが、前回までの調査では一部砂礫層下で検出される遺構も存在している。これは、氾濫が集落存続中にも幾度も起こっていたことを想像させる。今回の調査ではそのような所見は見られないことから、部分的な被害に留まっていた可能性も考えられる。

調査地やや東寄りには南北方向に流れる自然流路が見られた。この自然流路は幅5～8 m程もある大きなもので、今回の調査と第2・4次調査の結果を考え合わせて見ると、調査地の上流で田川本流から分流し、南東方向から調査地内へ流れ込み、調査地内を北流してからさらに北東方向へ向きを変えながら田川本流へ戻る状況が確認できる。覆土は砂質土と粘質土が幾層か重なり合っており、長期間の流れを想定することができる。これを示すように自然流路の覆土中及び上面にはほとんど遺構は見られず、各次調査で確認された溝跡の一部がこの自然流路に流れ込むように融合しているため、この流路は集落と同時期に存在していた可能性が高く用水等何らかの形で利用されていたことも考えられる。



●：今回の調査地点、■：過去の調査地点、数字は松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

遺跡

- |                                |           |            |            |            |
|--------------------------------|-----------|------------|------------|------------|
| 290：野溝遺跡                       | 292：平田遺跡  | 293：平田本郷遺跡 | 294：小原遺跡   | 295：高畑遺跡   |
| 296：小屋遺跡                       | 299：中二子遺跡 | 300：上二子遺跡  | 301：神戸遺跡   | 315：竹淵遺跡   |
| 316：瀬黒遺跡                       | 317：百瀬遺跡  | 318：白川遺跡   | 319：野田遺跡   | 320：北原遺跡   |
| 321：寿小赤遺跡                      | 322：石行遺跡  | 321：小池遺跡   | 322：竹淵南原遺跡 | 333：向原遺跡   |
| 461：松山遺跡                       | 462：横山城遺跡 | 463：エリ穴遺跡  | 464：一ツ家遺跡  | 465：くねの内遺跡 |
| 486：村井遺跡                       | 488：白姫遺跡  | 504：百瀬南遺跡  | 508：寿南久保遺跡 | 515：北起し遺跡  |
| 536：村井北遺跡（H 28 年 3 月に高畑遺跡から分離） |           |            |            |            |

古墳

- |          |               |               |
|----------|---------------|---------------|
| 334：耳塚古墳 | 335：長峰下 1 号古墳 | 336：長峰下 2 号古墳 |
|----------|---------------|---------------|

城館址

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 338：小池砦址 | 339：赤木城址 | 477：横山城址 |
|----------|----------|----------|

調査地の位置と周辺遺跡（1/25,000）



## 第2節 歴史的環境

高畑遺跡は松本市の最南端で塩尻市に接する芳川地区に位置する。この芳川地区は古くは中山道から分かれた北国脇往還（善光寺街道）が通っていた地区にあたる。周囲には東に田川、西に奈良井川が流れており、河川に挟まれた平地でもあったため氾濫の影響を受けやすく、やせた土地でもあった。この両河川はやはり集落の変遷にも密接に関わっており、氾濫が続いていたと思われる縄文時代、弥生時代の集落はほとんど見られない。周囲を見ると縄文時代には、田川右岸の百瀬遺跡で早期と後期の土器が出土しており、弥生時代になると出川西遺跡、出川南遺跡、百瀬遺跡などで集落の存在が確認されている。

古墳時代になると次第に集落が展開していくようになり、平田北遺跡、出川南遺跡で集落を確認している。特に出川南遺跡は大規模な集落であったと考えられ、古墳も発見されている。

奈良・平安時代に入ると水利が安定したためか奈良井川の堆積域を中心に次第に開発が広がっていったと考えられる。集落においても発展期に入り、小原遺跡、塩尻市吉田川西遺跡、塩尻市吉田向井遺跡などで大規模集落の存在を見て取ることができる。周辺では小原遺跡における集落の発展が特にめざましく、過去の調査でも130軒以上の竪穴住居址を検出している。遺物においても円面硯や墨書土器などの出土に公的な性格を持った有力者の存在が窺え、甲斐型土器などの外来系土器の出土に他地域との活発な交流が看取できることから、この集落は周辺集落のなかでも重要な位置付けにあったと思われる。また、「又」、「財富加」、「卍」と書かれた墨書土器や鉄鐸や鉄鈴なども出土しており、当時の信仰のあり方を推察することも可能である。芳川地区は、この時期において筑摩郡良田郷にあたる場所と推定されていることから、小原遺跡は良田郷内でも重要な集落であったことが窺える。

この他小原遺跡からやや南方の吉田川西遺跡、吉田向井遺跡も同様の大規模集落であったと目されている。吉田川西遺跡では、過去の調査で実に260軒を超える竪穴住居址が検出され、集落の規模の大きさを示している。出土した遺物では緑釉陶器や鉄器が特に目立っており、鍛冶遺構の存在も確認されている。先述した小原遺跡でも鍛冶遺構や鉄滓、多量の鉄器などが見られるため、このような点においても小原遺跡と様相が似ていると言えるであろう。吉田向井遺跡では、過去の調査で90軒近くの竪穴住居址と共に墓坑と目される土坑が多数検出されており、墓域としてのあり方も窺えるところである。

このような大規模集落は粗密を繰り返しながらも中世段階まで存続しており、高畑遺跡も含め小原遺跡、吉田川西遺跡、吉田向井遺跡共に中世の集落が検出されている。小原遺跡では奈良・平安期に比べて西側に集落が広がりを見せている。発見された住居数などは少ないものの、集落としては安定していたと思われる。土器とともに古瀬戸系陶器、龍泉窯青磁などや短刀、刀子なども出土している。さらに中世の小原遺跡で注目すべきは埋納銭の出土である。2,700枚を超す銭がサシになって出土したもので、完全にサシと判明したものは4本あり、1サシ平均98.5枚の銭が見られた。銭の9割は宋銭であり、下限は至大通宝（元）の1310年であった。このような古銭に関しては南方に近接する塩尻市吉田若宮遺跡でも出土しており、二度に渡る調査で計76,000枚の埋納銭が出土している。この埋納銭は14～15世紀のものと推察されており、小原遺跡とほぼ時期が一致する。このような状況から当該期においてこの周辺一帯には広く集落が分布している景観が想定でき、何らかの理由で大量の銭が埋納され、その後忘れ去られたものと思われる。

芳川地区は中世において地頭職にあった村井氏の支配地として支配が続いていたが、天文17（1548）年に塩尻峠の合戦の後に武田晴信が村井城に着城したことから、戦国期には武田氏の影響をうけることとなった。その後、松本藩領、筑摩県を経て現在に至っている。

### 第3節 過去の調査成果

---

高畑遺跡は、昭和61年度に第1次調査を実施して以来、平成15年度に第2・3次調査、平成16～17年度に第4・5次調査が行われ、縄文時代・弥生時代の遺物の出土ならびに古墳時代～鎌倉時代における集落址や遺構群が確認されている。ここでは過去における第1～5次調査の結果から、その概要を記したい。

#### <縄文時代・弥生時代>

第1次調査では土器棺墓1基を検出し、縄文晩期の土器2個体が出土している。しかしながらこの時期の土器片・石器類は検出面上から多数出土しているものの、そのほとんどが流入による磨耗が激しい状態にあり、また、住居址等の遺構が確認されていないことから、当該期における高畑遺跡周辺は集落址等に見られる定住空間ではなく、狩猟・採集に代表される経済活動区域であった可能性が高い。さらに第2・4次調査でも縄文土器片・弥生土器片・石器類が若干出土しているが、遺構は検出されていない。

#### <古墳時代～平安時代>

第1～5次調査では調査区域の東部から南部にかけて単独住居址が散在していることが確認された。遺構密度が低いことから集落の中でも縁辺部遺構になると思われる、今回の第6次調査で調査された遺構密度の高い集落中心部遺構群に繋がっていくものと考えられる。特記すべきは第3次調査での8世紀前半に比定される住居址内から出土した「美濃国」刻印須恵器片である。類例としては松本市内で5例目の出土であり、生産地での考察により生産時期が限定されているものである。周辺遺跡とともに最盛時期を迎える高畑集落の一端を窺うことができる資料である。

#### <鎌倉時代>

第2・4次調査の際に調査区域の西端部で確認された自然流路址の東側に当該期の遺構が高密度に分布する。この自然流路址は今回の第6次調査のA区・M区の自然流路址に繋がり遺跡地を南北に貫いて流れていたもので、当時は水路として利用されていたものと推定される。この流路址では、区画溝の可能性を持つ調査区内で検出された溝への分流もしくは流れ込みの痕跡がみられることから、流路跡自体が区画溝の性格を有すると思われる、修築等で長期にわたり使用されていたと考えられる。この流路址の東側に分布する遺構の中では第3次調査で出土した4間×5間の大型総柱掘立柱建物址が特筆的遺構である。この建物址とそれに付随する竪穴状遺構群を中心にして、周囲に主軸線をほぼ同じくする方形の竪穴状遺構がこの建物址を囲むように配置され、その間を埋めるように溝・土坑・ピット群がみられる。遺構の検出状況からこの建物址が集落の中心的存在であったことは確実であり、その規模から有力者の存在を想定することは十分可能であると思われる。また、これらの遺構覆土内には多量の礫が投げ込まれていることが共通特徴として捉えられることから、同時期における一連の遺構群と考えても良いと思われる。これらの建物址周囲に配置された竪穴状遺構は、遺構規模が3～4m程度と小型でかつ方形を呈しており、深さも60cm以上と深い割には柱穴が見られないことから、居住施設ではなく作業場や簡易な建物のような施設だった可能性も考えられる。ピットの数の多さから、中世という時代ゆえの把握しきれない建物址の存在が十分考えられるため、周辺に簡易な建物が多数配置されていたことも想像される。このような状況から大規模な用水によって区画された中で、西に居住域、南に掘立柱建物群、東に作業場のような施設が計画的に営まれている集落構造を推定することも可能となろう。

# 第三章 調査成果

## 第1節 調査の概要

### 1 調査区の設定

今回の開発予定地は約 50,000㎡に及ぶものであったが、本調査に先立ち各所に試掘トレンチを設定して、遺跡が広がる範囲を把握し、調査対象範囲を設定した。調査区は田畑の区画を基準に A～M 区の 13 地区に分けた。D・E 区は、平成 26 年度に掘削した箇所を D 区、平成 27 年度に D 区を南に拡張した箇所を E 区として調査を実施した。しかし、明確に区分けが行えないことから、ともに D 区として整理を行った。

### 2 調査の方法・手順

調査区はパワーショベルを用いて遺構検出が可能な深度まで表土を除去し、人力で遺構検出作業を進めた後、各遺構の掘り下げを行った。遺構番号は遺構の種別毎とし、竪穴住居址は高畑遺跡第 1 次調査からの通し番号を付け、14 号からとした。その他の遺構は今回の調査で 1 号から通し番号を付けた。遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。調査地内及び調査地周辺にある四等三角点、3 級基準点を基に調査地内に基準点を複数設置し、これらを基に調査区内に 3m のグリッドを設定した。測量基準点は X = 20,190.000、Y = -48,200.000 を NS0、EW0 とした。測量は簡易遣り方測量により作成した。平面図・各遺構図・断面図は 1/20、詳細図が必要なものについては 1/10 で作成した。写真は発掘作業の各段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況をフィルムカメラとデジタルカメラで撮影した。また、調査区全景はドローンによる空中写真測量を実施し、開発予定地のオルソ画像データに個々の調査区をプロットした。

### 3 調査成果の概要

調査面積 : 12,652㎡

#### 発見遺構

竪穴住居址 : 157 軒（奈良 4 軒、平安前期 64 軒、平安中期 26 軒、平安後期 61 軒、時期不明 2 軒）

竪穴建物址 : 5 軒（平安後期 1 軒、鎌倉 2 軒、時期不明 2 軒）

竪穴状遺構 : 1 基（鎌倉）

掘立柱建物跡 : 8 棟（平安後期以降 2 棟、鎌倉 1 棟、時期不明 5 棟）

炭焼窯 : 3 基（平安中期 2 基、時期不明 1 基）

土坑 : 1015 基

炉址 : 1 基（平安前期以降）

溝址 : 12 条（平安前期 1 条、時期不明 11 条）

畝址 : 16 本（平安後期以降）

#### 出土遺物

土器・陶磁器 : 土師器、黒色土器、須恵器、軟質須恵器、灰釉陶器、無釉陶器、緑釉陶器、青磁、白磁、土師質土器

土製品 : 土錘、羽口

石器・石製品 : 石鏃、石錐、小形刃器、楔形石器、打製石斧、砥石、磨石、台石、石核

金属製品 : 鏃、刀子、鎌、鋤、斧、鑿、苧引鉄、紡錘車、燧鉄、釘、鉸具、銭貨

## 第2節 遺構

### 1 竪穴住居址、竪穴建物址（第1・2表、図版13～45、写真図版3～9）

現場段階で古代の建物と推定された遺構は竪穴住居址、中世の建物と推定された遺構は竪穴建物址とした。竪穴住居址は157軒、竪穴建物址は5軒が検出された。内訳は奈良時代が4軒、平安時代前期が64軒、平安時代中期が26軒、平安時代後期が62軒、鎌倉時代が2軒、時期不明が4軒である。各遺構の詳細なデータは一覧表を参照されたい。本項では時期ごとにまとめて記述する。規模については、長辺が3m以下を小型住居、3～5mを中型住居、5m以上を大型住居としている。

#### (1) 3・4期（奈良時代／8世紀中葉～後葉）

4軒が該当し、内訳は、3期が15住、3・4期が28住、4期が73・81住である。平面形態は、73住の隅丸長方形以外の3軒は方形である。規模は中型住居2軒、大型住居2軒で、小型住居は見られない。カマドは73住以外の3軒で確認され、3軒ともに東壁中央である。15・28住は石組カマドとされる。貯蔵穴状のピットは81住のみで確認された。柱穴は28住で支柱穴4本が確認された。

#### (2) 6期（平安時代前期／9世紀前葉）

10軒が該当し、内訳は、6期が22・133・135・138・139・143・173住、6・7期が29・88・147住である。平面形態は方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が主体である。173住のみが小型住居であり、大型住居は見られない。カマドは6軒で確認され、東壁が3軒、西壁が3軒である。カマドの位置は中央が3軒、中央寄りが3軒で、隅は見られない。また、22・29・138・143・173住の5軒は石組カマドとされ、22住は粘土塊が袖石に貼り付いており、支柱石も確認できる。貯蔵穴状のピットは3軒で確認され、22住P1からは紡錘車が出土している。柱穴が確認できる住居は認められない。

#### (3) 7期（平安時代前期／9世紀中葉）

29軒が該当し、内訳は、7期が37・40・41・42・49・58・59・92・98・99・102・108・112・120・121・123・125・126・127・128・129・130・134・136・137・140住、7・8期が44・61・124住である。平面形態は6期と同様に方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が半数以上の19軒であるが、大型住居も8軒見られる。また、小型住居は61・137住の2軒である。カマドは24軒で確認され、東壁が16軒、西壁が5軒、北西隅が1軒、北壁が2軒である。カマドの位置は中央が13軒、中央寄りが9軒、隅が1軒、不明が1軒で、中央が半数以上を占める。また、13軒は石組カマドとされ、134住は天井石が確認できる。また、92住は当初東壁にあったカマドを北壁に造り替えたとされる。貯蔵穴状のピットは9軒で確認された。柱穴は120・124住で確認された。120住はカマドがある西壁以外の壁面で壁柱穴が確認された。124住は住居床面に4本の支柱穴、南壁以外の壁面に壁柱穴が確認された。壁柱穴のP12からは皇朝十二銭の富寿神宝が立つように出土していることから、地鎮のための埋納等が推定される。また、南東部床面では黒色土器の杯・椀、灰釉陶器がまとまって出土することから、儀礼の痕跡と予想される。さらに、緑釉陶器の皿に「禾」の刻書、黒色土器の杯に「禾」の墨書がされている等、他の住居とは異なる要素を持つ。

#### (4) 8期（平安時代前期／9世紀後葉）

25軒が該当し、内訳は、8期が30・31・32・34・38・45・60・87・97・109・111・115・119・



151・152・156・158・159住、8・9期が35・48・50・68・144・153・157住である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は7期と同様に中型住居が半数以上を占めるが、小型住居・大型住居も見られる。カマドは12軒で確認され、東壁が8軒、西壁が2軒、北壁が2軒である。カマドの位置は中央が6軒、中央寄りが6軒で、隅は見られない。また、9軒は石組カマドとされ、35住は当初東壁にあったカマドを北壁に造り替えたと思われる。貯蔵穴状のピットは4軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。153住は8・9期と10・11期の2時期の遺物が出土し、北壁と南壁の中央付近に不自然な屈曲が見られることから、本来は2軒の切り合いがあったが、捉えられずに1軒として調査した可能性が考えられる。

#### (5) 9～11期（平安時代中期／10世紀前葉～後葉）

26軒が該当し、内訳は、9期が26・27・36・43・51・95・100・104・105・113・114・141・142・149・150住、9・10期が116・146住、10期が39・47住、11期が14・23・57・65住、11・12期が46・101住、11～14期が54住である。平面形態は方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が半数以上を占めるが、小型住居・大型住居も見られる。カマドは14軒で確認され、東壁が8軒、南東隅が1軒、西壁が2軒、北壁が2軒、北東隅が1軒である。カマドの位置は中央が8軒、中央寄りが2軒、隅が4軒で、中央が多いものの、隅も見られるようになる。また、10軒は石組カマドとされ、43住は当初北壁にあったカマドを東壁に造り替えたと思われる。貯蔵穴状のピットは5軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。14住はカマドの左脇と南壁中央にテラス状の段が見られる。カマド左脇のテラスはカマド施設の一部、南壁中央のテラスは出入口に関わる施設と推定される。114住は北側より南側の床面が一段高くなっている。

#### (6) 12・13期（平安時代後期／11世紀前葉～中葉）

34軒が該当し、内訳は、12期が25・175住、12・13期が77・96・103・107・160・167・171・172住、13期以前が75住、13期が19・24・62・63・64・67・69・70・71・72・74・78・117・164・166・168・169・176住、13期以降が82住、13・14期が17・55・163住、竪6である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は中型住居が主体である。大型住居は62・64・96住の3軒で、小型住居は見られない。カマドは20軒で確認され、東壁が13軒、西壁が2軒、北壁が4軒、北東隅が1軒である。カマドの位置は中央が2軒、中央寄りが7軒、隅が11軒で、隅が半数以上を占める。また、12軒は石組カマドとされ、19住は天井石が確認できる。貯蔵穴状のピットは2軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。25住は床面中央・北壁付近で貼床を確認した。78・82住はカマドの右脇にテラス状の段が見られ、カマド施設の一部と推定される。

#### (7) 14・15期（平安時代後期／11世紀後葉～12世紀前葉）

28軒が該当し、内訳は、14期が16・18・21・53・66・84・85・90・91・93・94・131・162・170・174住、14期以降が161住、14・15期が89・122・165住、15期が20・56・79・80・83・86・106・110・132住である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は中型住居ないし大型住居であり、小型住居は見られない。カマドは12軒で確認され、東壁が9軒、南壁が1軒、西壁が1軒、北西隅が1軒である。カマドの位置は中央寄りが2軒、隅が10軒で、中央は見られず、隅が大半を占める。また、8軒が石組カマドとされる。110住は今回の調査唯一の南カマドであり、カマド左脇には礫が水平に敷かれており、カマド施設と推定される。貯蔵穴状のピットは6軒で確認され、132

住 P5 は土師器の杯・皿が出土し、覆土内には焼土塊・炭化物が混入する。柱穴が確認できる住居は認められない。カマド以外で火床面や炭化物が確認された住居は 18・20・80・83・85・122・161・170 住の 8 軒で、床面の中央 1 カ所で見られる住居（80・83・85・161・170 住）と、床面の複数箇所で見られる住居（18・20・122 住）がある。これは 14・15 期のみで確認されており、検出住居の 1/3 程度にあたる。この時期の住居廃絶時の儀礼の痕跡とも考えられる。

### (8) 中世（12 世紀後葉以降）

竪 1・7 の 2 軒が該当する。竪 1 は隅丸長方形で南西端は隅切りになっている。南西隅と北壁にはテラス状の段が見られ、南西隅のテラスは、出入口に関わる施設と推定される。床面には南側を中心に多量の礫が投げ込まれ、覆土内には下層を中心に焼土塊・炭化物が混入している。これらは、建物廃絶時の儀礼の痕跡とも考えられる。竪 7 は長辺が短辺の倍以上ある細長い隅丸長方形である。南側には頭頂部が窪んだ円錐台状の施設が見られるが、用途等の詳細は不明である。P1・2 は壁柱穴と思われる。本址の東側には土 162・163・164 が本址とほぼ平行に検出されており、本址に関わる遺構の可能性も考えられる。

## 2 竪穴状遺構（第 2 表、図版 45）

土坑よりも大型の穴を竪穴状遺構とした。遺構番号は竪穴建物址・竪穴状遺構での通し番号としている。詳細なデータは一覧表を参照されたい。竪穴状遺構は A 区南東で竪 4 が検出された。平面形態は約 3 × 2.5m の楕円形で、西側にテラス状の段が見られる。覆土は上層にのみ焼土塊が多量に混入しており、下層は自然埋没、上層は焼土投げ込みによる人為的な埋没と推定される。遺物は青磁片が 1 点出土するのみである。鎌倉時代と推定される。

## 3 掘立柱建物址（第 3 表、図版 46～50、写真図版 9）

掘立柱建物址は 8 棟が検出され、内訳は総柱建物 5 棟、側柱建物 3 棟である。各遺構の詳細なデータは一覧表を参照されたい。ただし、他にも土坑がまとめて検出された箇所があり、これらの中には認識できていない掘立柱建物址が存在する可能性がある。

**掘立柱建物 1** A 区南側に位置し、竪 6 を切る。3 間 × 3 間の総柱建物である。南面及び東面・西面の一部の柱間には柱穴が 1 本加わる。P2・4・6 の底には礫が出土している。遺物は P3 から常滑の壺片 1 点、P16 から土師質土器の皿 1 点出土するのみで、非常に少ない。鎌倉時代と推定される。

**掘立柱建物 2** B 区北西に位置し、建 5・6 と重なり合い、建 6 を切る。6 間 × 4 間の総柱建物である。柱穴は一部で見られない。南面には 4 間 × 1 間、西面には 1 間 × 1 間の張り出しが見られる。遺物は P3 から灰釉陶器片 1 点出土するのみで、時期は不明である。

**掘立柱建物 3** B 区東側に位置し、建 4 と重なり合い、畝を切る。3 間 × 2 間の総柱建物である。柱間は梁行の南側部分が他よりも広い。遺物は出土していない。時期は切り合いから 15 期以降と推定される。

**掘立柱建物 4** B 区東側に位置し、建 3 と重なり合い、畝を切る。5 間 × 2 間の側柱建物である。柱配置は東面に対して西面が不規則である。遺物は P13 から白磁碗片が 1 点出土するのみである。時期は切り合いから 15 期以降と推定される。

**掘立柱建物 5** B 区北西に位置し、建 2・6 と重なり合う。4 間 × 2 間の総柱建物である。東面中央には柱穴が見られない。南面には 2 間 × 1 間の張り出しが見られる。遺物は P14 から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

**掘立柱建物 6** B 区北西に位置し、建 2・5 と重なり合い、建 2 に切られる。3 間 × 2 間の総柱建物である。

西面中央には柱穴が見られない。東面中央の柱穴はやや東に寄る。遺物はP13から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

**掘立柱建物 7** H区南東に位置する。2間×1間の側柱建物である。桁行柱間は梁行に比べて広い。遺物はP2・3から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

**掘立柱建物 8** M区西側に位置する。2間×1間の側柱建物である。桁行柱間は梁行に比べてやや広い。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### 4 炭焼窯（図版 50、写真図版 9）

##### 炭焼窯 1

[主軸方向] N-102° -E [規模] 2.52 × 1.14 × 0.42 m [床面積] 2.63㎡ [切り合い] 炭焼窯 2 を切る

隅丸長方形を呈し、東壁中央に三角形の突出部が付属する。壁に焼土が見られる事や形状からこの突出部が焚口と推定される。焚口周辺の壁面には若干の焼土が見受けられるが、全体的に壁面は火熱を受けた痕跡をあまり有していない。ただし、焚口近くの北東角部から中央にかけての北壁は非常によく焼けており、堅く締まっていた。焚口から見て右側に炎が流れたものと思われる。床面はわずかに東へ傾斜しているもののほぼ平坦である。床面上に溝等の施設はない。床面直上のほぼ全面には、直径 1～3cm 程度の太さの木の枝もしくは幹と思われる炭化物が多量混入する炭化物層が広がっており、直径 5cm 前後の比較的太い炭化物は壁際付近に集中して残存していた。焚口の南東方向床面直上には、床面上の炭化物を覆うように焼けた土の塊が確認された。壁体の一部が崩落したものと推定される。遺物は非常に少ないが、土師器の食器類が出土している。8・9期の遺物を含むが、周辺遺構の混入品と思われる。11期と推定される。

##### 炭焼窯 2

[主軸方向] N-7° -E [規模] 3.02 × 1.18 × 0.38 m [床面積] 2.27㎡ [切り合い] 153 住を切り、炭焼窯 1 に切られる

隅丸長方形を呈し、北壁中央に半円形の突出部が付属する。壁面に良く焼けた焼土が貼りついていることからこの突出部が焚口と推定される。焚口部分は良く焼けており、特に西壁面は焼土も厚くかつ堅く締まっている。焚口の南方向延長線上の床面中央部には、溝が南北方向に掘られている。床面はほぼ平坦であった。

焼土及び炭化物層は焚口周辺の床面直上に集中して残存しており、それ以外ではあまり土は焼けておらず、炭化物も散見する程度であった。炭化物の大部分は直径 1.5～2cm 程度の太さであったが、直径 3cm 前後のものも北西部に若干見られた。形状からこれらの炭化物は木の枝もしくは幹の部分と思われる。遺物は少ないが、食器類が出土している。8・9期の遺物を含むが、周辺遺構の混入品と思われる。11期と推定される。

##### 炭焼窯 3

[主軸方向] N-85° -E [規模] 1.16 × 0.67 × 0.24 m [床面積] 0.58㎡ [切り合い] なし

隅丸長方形に近い楕円形を呈す。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、北壁と南壁は良く焼けて堅くなっている。床面は東側が西側より若干高くなっている。床面直上の焼土・炭化物の分布には均一性が見られず、中央やや東側の北寄りには高密度に堆積し、西側には散在していた。覆土は水平堆積を呈し、焼土・炭化物の混入は少ない。これらの状況から本址は焚口等の痕跡が見られないものの炭焼窯の可能性が高いと思われる。床面に広がる炭化物の直径は 2～3cm 程度のものが大多数であったが、直径 5cm 以上のものは北東部に集中していた。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### 5 土坑（第 4 表、図版 51～56、写真図版 9・10）

土坑は 1015 基が検出された。土坑の平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照さ

りたい。本項ではこれらの中から特徴的な土坑について記述する。

土 339 C区東側に位置する、隅丸長方形に近い楕円形の土坑。25住を切り、土 341 に切られる。覆土内には炭化物や焼土塊が含まれ、床面には南側を中心に炭化物が広がる。遺物は灰釉陶器の碗・皿や土師器の杯が出土している。13期と推定される。

土 347 C区南側に位置する、不整形の土坑。24・28住を切る。覆土内には焼土や炭化物が多量に含まれる層がある。遺物は土師器の盤や灰釉陶器の皿が出土している。13期と推定されるが、切り合い関係にある24住が13期と推定されること等から、土坑ではなく24住の覆土であった可能性も考えられる。

土 356 C区南西に位置する、円形の土坑。本址中央には須恵器の平瓶が正位で据えられたように出土している。穴の性格は不明であるが、何らかの目的を持って掘られ、人為的に埋められたものと思われる。3・4期と推定される。

土 360 C区南西に位置する、円形の土坑。床面には灰釉陶器の長頸壺が正位で据えられ、その周りに土師器の杯が4点配置されている。長頸壺の中は中空であったことから、蓋のようなものの存在が窺える。骨等は確認できなかったが、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。9期と推定される。

土 367 C区南東に位置する、楕円形の土坑。土 368・375を切り、土 366に切られる。南側床面には焼土が見られる。遺物は灰釉陶器の碗、土師器の杯・小型甕・羽釜、黒色土器の碗が出土している。11期と推定される。

土 383 D区北東に位置する、楕円形の土坑。64住を切る。床面付近では土師器の杯が伏せた状態で出土しており、意図的に置かれた可能性が考えられる。遺物は他に緑釉陶器の耳皿が1点出土している。14・15期と推定される。

土 398 D区北西に位置する、円形の土坑。96住を切る。床面には須恵器の長頸壺が正位で据えられている。長頸壺の中は中空であったことから、蓋のようなものの存在が窺える。骨等は確認できなかったが、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。遺物は須恵器の長頸壺の他に土師器・黒色土器の碗が出土している。長頸壺は頸部から口縁部への開きが大きく、灰釉陶器の広口瓶と類似している。また、類例として県町遺跡第4次調査の土 404で出土した須恵器の長頸壺があげられる。切り合いも考慮して、12・13期と推定される。

土 510 M区北側に位置する、隅丸方形の土坑。170住を切る。床面には多量の礫が見られる。遺物は非常に少ない。切り合いから14期以降と推定される。

土 556 D区南東に位置する、円形の土坑。床面には土師器の甕の下半が正位で据えられている。時期は不明である。

## 6 炉址 (図版 56、写真図版 10)

炉 1 D区北西に位置する、直径 30cm程度の円形の地床炉である。124住を切る。遺物は出土していない。時期は切り合いから7・8期以降と推定される。

## 7 溝址 (図版 57、写真図版 10)

溝址は12条が検出された。南北方向は4条、東西方向は5条、北東～南西方向は2条、南東～北西方向は1条である。本項ではこれらの中から特徴的な溝址について記述する。

溝 1 A区西側に位置し、溝 2を切る。南北方向に延び、水流は南→北方向と推定される。断面形はU字状である。遺物は土師器片が数点出土するのみで、時期は不明である。第2・3次調査の溝 4へ繋がる溝と思われる。



溝2・8 溝2はA区西側に位置し、溝1、土1・2・3・4・5・658・659・660・668・670・671・681に切られる。溝8はM区東側に位置する。区が異なることから遺構名を変えたが、位置から同一の溝である可能性が非常に高い。南北方向に延び、水流は南→北方向と推定される。断面形はU字状である。覆土内には10cm程度の礫が混入する層や細砂層が見られる。堆積状況から、本址は埋没により幅を変えながら流れが続いていたものと推定される。遺物は土師器・黒色土器・灰釉陶器の食器類が出土するが、非常に少なく、時期は不明である。第2・4次調査の自然流路へ繋がる溝と思われる。

溝4 F区中央に位置し、128住、土939・940・941・942・943に切られる。東西方向に延び、水流は東→西方向と推定される。遺物は出土していない。時期は切り合いから7期以前と推定される。G区溝6・9へ繋がる溝の可能性が考えられる。

溝7 L区東側に位置する。南北方向に延び、水流は北→南方向と推定される。断面形は台形である。本址の東側には竪穴住居等が見られるが、西側には見られないことから、本址は区画要素を持ち合わせた流水路と推定される。遺物は灰釉陶器・黒色土器・土師器の食器類や土師器の甕類が出土している。8・9期と推定される。

## 8 畝址 (図版 58、写真図版 10)

B区東側に位置する。20住を切り、建3・4、土175・177・178・200・650に切られる。ほぼ東西方向の畝が16本平行に並ぶ。断面形は大半が台形である。覆土はシルト質土で、礫の混入はほぼ認められない。遺物は出土していない。時期は切り合いから15期以降と推定される。

## 第3節 遺物

---

### 1 土器・陶磁器（第5表、図版59～86、写真図版11～25）

本遺跡出土土器群は、3～15期及び中世の範疇で捉えられる。このうち、出土量が多く、主体となるのは7～9期及び13・14期である。以下、各時期の土器様相と、代表的な出土土器群について記述する。

#### (1) 3・4期（奈良時代／8世紀中葉～後葉）

15・28・73・81住出土土器群が該当する。食器は須恵器杯A・杯B・蓋、煮炊具は土師器甕B・小型甕、貯蔵具は須恵器横瓶で構成される。

##### 第81号住居址出土土器群

食器は須恵器杯A（428・429）、須恵器杯B（430～433）、須恵器蓋B（425～427）で構成される。須恵器杯Aは底径が大きく、底部は回転ヘラ切りされる。煮炊具は土師器甕B（434～437）、土師器小型甕（439）が見られる。土師器甕Bは内面がハケ目調整され、436は底部に木葉痕を残す。貯蔵具は少なく、須恵器横瓶（438）が出土したのみである。

#### (2) 6期（平安時代前期／9世紀前葉）

22・29・88・133・135・138・139・143・147・173住出土土器群が該当する。食器は黒色土器A杯A、須恵器杯A・蓋で構成され、須恵器主体であるが、黒色土器の割合が増える。墨書土器は1点が確認されており、139住の須恵器杯A（882）外面に「五」が墨書される。煮炊具は土師器甕B・甕C・小型甕D、貯蔵具は須恵器長頸壺が見られる。

##### 第138号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A（874）、須恵器杯A（875～878）で構成される。874の黒色土器A杯Aは2法量の小型にあたる。須恵器杯Aの875・878は火襷痕が見られる。煮炊具は土師器甕B（879）、土師器小型甕D（880・881）が見られる。879の土師器甕Bは口縁部を長く折り曲げ、内面はナデアゲ調整される。土師器小型甕Dは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面にはカキ目が施される。貯蔵具は出土していない。

#### (3) 7期（平安時代前期／9世紀中葉）

37・40・41・42・49・58・59・92・98・99・102・108・112・120・121・123・125・126・127・128・129・130・134・136・137・140住出土土器群が該当する。食器は黒色土器A杯A・椀・皿B・鉢、須恵器杯A・蓋・椀・鉢、軟質須恵器杯、灰釉陶器碗・皿・蓋で構成され、黒色土器主体である。灰釉陶器は黒笹14号窯式及び光ヶ丘1号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕B・甕C・小型甕C・小型甕Dが見られる。134住出土の土師器甕（864）は、外面に繊維束でナデ調整した痕跡が確認される。貯蔵具は須恵器長頸壺・短頸壺・甕、灰釉陶器長頸壺・小瓶が見られる。また、120住の黒色土器A杯A（767）外面に墨書、42住の黒色土器A杯A（152）外面・102住の黒色土器A杯A（613）内面に線刻、92住の黒色土器A杯A（525）底部・99住の須恵器長頸壺（592）底部・102住の須恵器杯A（621）底部にヘラ記号が確認された。

##### 第37号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A（121～124）、黒色土器A椀（125・126）、黒色土器A皿B（127）、須恵器椀（128）、軟質須恵器杯（129）、灰釉陶器碗（130）、灰釉陶器蓋（134）で構成される。黒色土器A杯Aは2法量が見られる。130の灰釉陶器碗はハケ塗り施釉で、黒笹14号窯式とされる。煮炊具は土師器甕B（135）が

出土したのみで、口縁部の外反は弱く立ち上がり、内面はナデアゲ調整される。貯蔵具は須恵器長頸壺(132)、須恵器短頸壺(133)、灰釉陶器小瓶(131)が見られる。

#### 第108号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A(680～683)、黒色土器A皿B(684・685)、黒色土器A鉢(686)、須恵器杯A(687～690)で構成される。黒色土器A杯Aは2法量の小型にあたる。須恵器杯Aは外面にロクロ目が強く残り、開きの強い形態である。679の土師器盤Bは本址よりも新しい時期のものであり、混入品と思われる。煮炊具は土師器甕B(691・692)、土師器小型甕D(693)が見られる。土師器甕Bは口縁部の外反が弱く立ち上がり、内面はナデアゲ調整される。693の土師器小型甕Dは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面にはカキ目が施される。貯蔵具は出土していない。

#### (4) 7・8期(平安時代前期／9世紀中葉～後葉)

44・61・124住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤A、黒色土器A杯A・椀・皿B、須恵器杯A、軟質須恵器杯、灰釉陶器碗・皿・蓋、緑釉陶器碗・皿で構成され、黒色土器主体である。灰釉陶器は黒笹14号窯式から大原2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕・鍋が見られる。貯蔵具は須恵器甕や灰釉陶器壺等が出土したが、凶化していない。

#### 第44号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(175)、黒色土器A杯A(176・177)、黒色土器A皿B(178・179)、須恵器杯A(180)、灰釉陶器碗(181)、灰釉陶器皿(182)、緑釉陶器碗(183～185)で構成される。175の土師器杯Aは体部に穿孔が施される。黒色土器A杯Aは2法量が見られる。180の須恵器杯Aは外面にロクロ目が強く残り、開きの強い形態である。灰釉陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉が丁寧に施され、黒笹14号窯式から大原2号窯式とされる。緑釉陶器碗の184・185は胎土が灰色の硬質で、184は施釉されていない素地と思われる。185は釉の剥離が著しい。煮炊具は土師器甕B(186)、土師器鍋(187)が見られる。186の土師器甕Bは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面はハケ目が底部まで丁寧に施されている。187の土師器鍋は外面上部に横方向のカキ目、下部に縦方向のカキ目が施されている。貯蔵具は凶化していないが須恵器甕が見られる。

#### 第124号住居址出土土器群

食器は土師器椀(775)、土師器盤A(815・816)、黒色土器A杯A(776～795)、黒色土器A椀(796～800)、須恵器杯A(801)、軟質須恵器杯(802～804)、灰釉陶器碗(805～807)、灰釉陶器皿(808～812)、灰釉陶器蓋(818)、緑釉陶器皿(813・814)で構成され、黒色土器が大半を占める。黒色土器A杯Aは2法量が見られるが、小型が大半を占める。黒色土器A椀は体部が直線的に開く形態である。軟質須恵器杯の803・804は底部に穿孔が施される。灰釉陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉が丁寧に施され、光ヶ丘1号窯式及び大原2号窯式とされる。灰釉陶器皿のうち、811は稜皿、812は段皿である。緑釉陶器皿は胎土が淡黄褐色の軟質で、813は釉の剥落が著しい。814は淡黄緑色の釉が施され、蛇の目高台である。また、黒色土器A杯Aの777外面には墨書、緑釉陶器皿の814外面には刻書で「禾」とそれぞれ書かれている。煮炊具は土師器小型甕D(817)が出土したのみで、貯蔵具は出土していない。

#### (5) 8期(平安時代前期／9世紀後葉)

30・31・32・34・35・38・45・48・50・60・68・87・97・109・111・115・119・144・151・152・153・156・157・158・159住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀、黒色土器A杯A・椀・皿B・鉢、須恵器杯・椀・蓋、軟質須恵器杯、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器皿で構成され、黒色土器主体であるものの、土師器杯Aの割合が増える。灰釉陶器は光ヶ丘1号窯式及び大原2号窯式のものが見られる。また、34住

の須恵器（104）は高台部に透かしが見られ、盤もしくは硯と推定される。煮炊具は土師器甕 B・小型甕 D、貯蔵具は灰釉陶器長頸壺・短頸壺が見られる。

### 第 32 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A（85）、黒色土器 A 杯 A（86）、軟質須恵器杯（87～90）、灰釉陶器碗（91・92）、灰釉陶器皿（93・94）で構成される。灰釉陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉で、光ヶ丘 1 号窯式及び大原 2 号窯式とされる。灰釉陶器皿のうち、94 は耳皿である。煮炊具は土師器甕 B（98）、土師器小型甕 D（96・97）が見られる。98 の土師器甕 B は口縁端部に面取り後沈線を入れ、底部はヨコナデが施される。土師器小型甕 D は口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面はカキ目が全面に施されなくなる。貯蔵具は灰釉陶器長頸壺（95）が出土したのみである。

### (6) 9 期（平安時代中期／10 世紀前葉）

26・27・36・43・51・95・100・104・105・113・114・116・141・142・146・149・150 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯 A・椀・盤 B、黒色土器 A 杯 A・椀、軟質須恵器杯、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗で構成され、土師器主体であり、黒色土器 A 杯 A・軟質須恵器杯は若干見られる程度である。灰釉陶器は大原 2 号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕 B・小型甕 D が見られるが、個体数は少ない。貯蔵具は灰釉陶器壺・平瓶が見られる。

### 第 114 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A（723～726）、土師器盤 B（727）、黒色土器 A 杯 A（728・729）、黒色土器 A 椀（730）、軟質須恵器杯（731）、灰釉陶器碗（732）、灰釉陶器皿（733・734）、緑釉陶器碗（735）で構成される。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、大原 2 号窯式とされる。緑釉陶器碗の 735 は胎土が灰黄褐色の硬質で、濃緑色の釉が施される輪花碗である。煮炊具は出土しておらず、貯蔵具は灰釉陶器壺（736）が出土したのみである。

### (7) 10 期（平安時代中期／10 世紀中葉）

39・47 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯 A・椀、灰釉陶器碗で構成される。灰釉陶器は虎溪山 1 号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕、貯蔵具は灰釉陶器壺が見られる。土師器甕は 47 住より 194 が出土したが、口縁部は内側に面を持ち、外面は工具によるナデ調整で、甕 B とは異なる系統とされる。

### 第 39 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A（139・140）、土師器椀（141）、灰釉陶器碗（142）で構成される。142 の灰釉陶器碗は漬け掛け施釉で、虎溪山 1 号窯式とされる輪花碗である。煮炊具は出土しておらず、貯蔵具は灰釉陶器壺（143）が出土したのみである。

### (8) 11 期（平安時代中期／10 世紀後葉）

14・23・46・57・65・101 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯 A・椀・盤 B、黒色土器 A 椀、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗で構成され、土師器主体である。灰釉陶器は大原 2 号窯式及び虎溪山 1 号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕が出土したのみで、貯蔵具は出土していない。

### 第 14 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A（1・2）、黒色土器 A 椀（3）、灰釉陶器碗（4～7）、灰釉陶器段皿（8）で構成される。土師器杯 A は深めの形態である。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、大原 2 号窯式及び虎溪山 2 号窯式とされる。8 の灰釉陶器段皿は内面に墨が付着している。煮炊具は土師器甕（9）、図化していないが土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。



(9) 12期(平安時代後期/11世紀前葉)

25・175住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀、灰釉陶器碗・皿で構成される。灰釉陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は凶化していないが土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。

第175号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(1012・1013)、土師器椀(1014)、灰釉陶器碗(1015・1016)、灰釉陶器段皿(1017)で構成される。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式とされる。煮炊具・貯蔵具は出土していない。

(10) 12・13期(平安時代後期/11世紀前葉～中葉)

77・96・103・107・160・167・171・172住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A椀、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗で構成され、土師器主体である。灰釉陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜が見られ、貯蔵具は出土していない。

第96号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(541～543)、土師器椀(544・545)、土師器盤B(546～548)、黒色土器A椀(549・550)、灰釉陶器碗(551～553)、灰釉陶器皿(554～556)、緑釉陶器碗(558)で構成される。土師器杯Aは2法量の小型にあたる。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、丸石2号窯式とされる。灰釉陶器皿のうち、554は段皿である。緑釉陶器碗の558は胎土が灰褐色の硬質で、深緑色の釉を施している。557の緑釉陶器碗は本址よりも古い時期のものであり、混入品と思われる。煮炊具は土師器小型甕(561)、土師器羽釜(562～564)が見られる。559・560の土師器甕は本址よりも古い時期のものであり、混入品と思われる。貯蔵具は出土していない。

(11) 13期(平安時代後期/11世紀中葉)

17・19・24・55・62・63・64・67・69・70・71・74・78・117・163・164・166・168・169・176住、豎6出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A椀、黒色土器B椀、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗・皿で構成され、土師器主体である。灰釉陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜、貯蔵具は須恵器壺・甕、灰釉陶器小瓶が見られる。その他に176住で黒色土器B小型土器(1020)が出土している。

第169号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(984)、土師器椀(985)、土師器盤B(986・987)、灰釉陶器碗(988・989)、灰釉陶器段皿(990)で構成される。土師器盤Bは2法量が見られる。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式とされる。煮炊具は土師器小型甕(991)、土師器羽釜(992)が見られる。貯蔵具は出土していない。

(12) 14期(平安時代後期/11世紀後葉)

16・18・21・53・66・84・85・89・90・91・93・94・122・131・162・165・170・174住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・皿A・盤B、黒色土器A椀、黒色土器B椀、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗、白磁碗で構成され、土師器主体である。灰釉陶器は丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜が見られ、貯蔵具は出土していない。

### 第 18 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A (14～17)、土師器皿 A (18・19)、土師器盤 B (20)、黒色土器 A 椀 (21～23)、灰釉陶器碗 (24・25) で構成される。土師器杯 A は 2 法量が見られる。土師器皿 A は 2 法量が見られ、19 には煤の付着が認められる。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、丸石 2 号窯式とされる。煮炊具は土師器羽釜 (26) が見られる。貯蔵具は出土していない。

### 第 53 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A (208～212)、土師器椀 (213)、土師器皿 A (214)、土師器盤 B (215～217)、黒色土器 A 椀 (218～220)、灰釉陶器碗 (221～223)、灰釉陶器段皿 (224) で構成される。土師器杯 A は 2 法量が見られ、208 は底部に穿孔が施される。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、丸石 2 号窯式とされ、221 は輪花碗である。煮炊具は図化していないが土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。

### (13) 15 期 (平安時代後期／12 世紀前葉)

20・56・79・80・83・86・106・110・132 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯 A・椀・皿 A・盤 B、黒色土器 A 椀、灰釉陶器碗・皿、無釉陶器山茶碗、白磁杯・碗で構成される。灰釉陶器は丸石 2 号窯式のものが見られる。110 住の灰釉陶器碗 (708) は内面と割れ口に朱墨の付着が確認できる。碗が割れた後に転用したものと推定される。煮炊具は土師器羽釜、貯蔵具は灰釉陶器壺が見られる。

### 第 79 号住居址出土土器群

食器は土師器杯 A (409～411)、土師器椀 (412)、土師器盤 B (413・414)、灰釉陶器碗 (415～417)、灰釉陶器稜皿 (418)、白磁碗 (419・420) で構成される。土師器杯 A は 2 法量の小型にあたる。白磁碗の 419 は胎土が灰白色で、灰白色の釉を施し、内面には櫛目文が施される。420 は胎土が白色で、緑灰白色の釉を施し、口縁部には玉縁を持つ。煮炊具は土師器羽釜 (421) が見られる。貯蔵具は出土していない。

### (14) 中世 (12 世紀後葉以降)

豎 1・4・7 出土土器群が該当する。食器は無釉陶器片口鉢、青磁碗、白磁皿、土師質土器皿で構成される。煮炊具は土師質土器鍋が見られ、貯蔵具は出土していない。

### 第 1 号豎穴建物址出土土器群

食器は無釉陶器片口鉢 (1027・1028)、青磁碗 (1024・1025)、白磁皿 (1026)、土師質土器皿 (1029) で構成される。青磁碗の 1024 は胎土が灰色で、緑灰色の釉を施し、外面には鎬蓮弁文が施される。1025 は胎土が灰色で、暗緑灰色の釉を施し、内面には印花文が施される。1026 の白磁皿は胎土が白色で、灰白色の釉を施し、口縁端部が掻き取られている。1029 の土師質土器皿は手づくね成形である。1023 は胎土や技法から土師器杯 A と推定され、混入品と思われる。煮炊具は土師質土器鍋 (1030) が見られ、体部には穿孔が施される。貯蔵具は出土していない。

## 2 土製品 (第 6 表、図版 87、写真図版 26)

土製品は 12 点出土し、その内訳は土錘 2 点、羽口 7 点、粘土塊 3 点である。これらの出土地点・寸法等については一覧表を参照されたい。その内、比較的残存状態の良好なもの 4 点を図示している。遺物の記載にあたっては図番号を使用しているが、実測図の掲載ができなかったものについては一覧表の通番を用いて「ID 数字」で記載している。

土錘 (1・2) 2 点が出土し、ともに図示している。1・2 ともに細長い管状の形状をしている。

羽口(3・4) 7点が出土し、2点を図示している。3は外面に被熱痕と鉄滓の付着が見られる。49住からは3の他にID4・6も出土している。4は被熱痕や鉄滓の付着が認められない。

### 3 石器・石製品(第7表、図版87・88、写真図版26)

今回の調査で、合計41点の石器・石製品が出土した。器種の内訳は、石鏃2点、石錐2点、小形刃器3点、楔形石器2点、打製石斧1点、砥石9点、磨石7点、台石4点、石核2点、二次化加工ある剥片1点、剥片6点がある。このうち遺存状態のよい定型石器を中心に13点を図示し、概要を述べる。それ以外のもの一覧表を参照されたい。石器・石製品の帰属時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。なお、実測中における研磨・摩耗面は断面に矢印を付し表現した。新欠は白抜きとした。

石鏃(1・2) 1は、チャート製の無茎凹基鏃である。2は、チャート製の有茎凸基鏃である。尖頭部先端と茎部に欠損が見られる。

石錐(3・4) 3・4は、黒曜石製で平面形は逆三角形を呈し、錐部の先端が欠損している。つまみ部の加工は最低限に施されているだけで、錐部に二次加工が集中している。

打製石斧(5) 5は、頁岩製で平面形は短冊形を呈す。裏面の刃部・刃面は未加工で自然面が観察される。また、使用によるものかは判別できないが、やや斜刃になっている。

砥石(6～11) 6・7は、自然礫を素材にし、砥面がそれぞれ1面と2面観察される。7は、砥面部分に煤が付着しており、被熱の可能性がうかがえる。8・9は、6・7よりも粒子の細かい砂岩製で、直方体に整形が施されている。8は、使用により砥面がやや内湾している。10は、石質と形状から、縄文後期以降に見られる石刀を転用した可能性がある。刃物を研いだと思われる線状研磨痕が見られるため、砥石として使用されたと思われる。13は、やや粗粒の砂岩製で、溝状の研磨痕が複数観察される。砥面は2面あり、両者とも使用により内湾している。

磨石類(12・13) 自然礫を素材にし、磨面、敲部が単体もしくは複合してみられるものを、ここでは磨石類として一括で扱う。12は、棒状礫を素材にし、一端部に敲部痕が見られる。13は、平面形が短冊形で、横断面が楕円形を呈し、両端部に敲部痕、正面に磨面が観察される。強い敲打の結果なのか、下部に大きい剥離がある。

### 4 金属製品(第8表、図版89～91、写真図版27・28)

#### (1) 概要

金属製品は174点出土し、その内訳は鉄製品109点、銭貨5点である。その他、鉄滓が6498.0g出土している。これらの出土地点・器種・寸法等については一覧表を参照されたい。

器種は、鉄製品が鏃・刀子・鎌・鋤・斧・鑿・苧引鉄・紡錘車・燧鉄・釘・鉸具・その他不明品、銭貨である。その内、比較的残存状態の良好なもの、特徴的なものを中心に35点を図示し、36点を写真掲載している。遺物の記載にあたっては図番号を使用しているが、実測図の掲載ができなかったものについては一覧表の通番を用いて「ID数字」で記載している。また、遺物の形状等については、X線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

なお、一部の遺物については、長野県立歴史館の白沢勝彦専門主事に鑑定を依頼した。

#### (2) 鉄製品

鏃(1～5) 10点が出土し、5点を図示している。小松氏(小松1989)により、形状の分類が行われているため、現状から分類を試みる。3は身部平面が蛇頭状のため、VI類と推定される。2・4・5は身部平

面が長三角形のため、Ⅶ類と推定される。1は雁股鎌のため、Ⅷ類である。ID16・103・135は欠損箇所があり明確ではないがⅦ類と思われ、出土点数の半数以上がⅦ類になると推定される。

刀子(6～14) 26点が出土し、9点を図示している。関の有無は、銹化による膨張で不明瞭である。現状から推定可能な点のみを述べると、8・9・12・14は棟関になると思われる。また、8は茎部の両面に木質が銹着する。

鎌(15～17) 5点が出土し、3点を図示している。15・16は基部から刃部に向かい徐々に幅が増す。17は折り返しや湾曲が見られないが、形状から鎌と判断した。

鋤(18) 1点が出土し、図示している。18は耳部のみの残存のため、形状等は不明である。

斧(19) 1点が出土し、図示している。19は着柄部が袋状で、刃部は直線に近い形状をしている。

鑿(20～23) 4点が出土し、全て図示している。20は袋状を呈する。頭部周辺には紐状のものを巻いた痕跡があり、製品と柄を固定するためのものと推定される。21・22は茎部を持ち、両端に向かって尖るものと思われる。神戸遺跡から類似品が出土しており、鑿の可能性はある。23は上部が欠損しているが、茎部を持ち、関がやや張り出すものと思われる。下神遺跡から類似品が出土しており、鑿の可能性はある。

苧引鉄(24) 1点が出土し、図示している。24は肩が丸く、刃部は鋭利である。

紡錘車(25～27) 6点が出土し、3点を図示している。紡輪の断面形状は銹化による膨張で不明である。ID19～21は同一遺構内に25が出土していることから、紡軸の一部と判断した。

釘(28～32) 13点が出土し、5点を図示している。頭部が残存するものは2点ある。頭部の形状は、鑿の使用の有無、基部上端の折り曲げ・折り返しの有無が銹化による膨張で不明瞭な上、X線撮影を行っていないことから、特定が困難である。故に、小松氏により頭部形状による釘の分類が行われているが、現状から推定可能な点のみ述べたい。29は頭部先端を尖らせていることから、Ⅱ類と推定される。30は頭部先端を平坦にしていることから、Ⅰ類と推定される。

鉸具(33) 1点が出土し、図示している。33は長方形の縁金にT字形の刺金が接続する形状をしている。

不明(34・35) 40点が出土し、2点を図示している。34は小札状の板が折れ曲がった形状をしている。挟み込んで固定するためのものと推定される。35は中央付近に孔を持つ板状製品である。座金のようなものと推定される。

### (3) 錢貨

銅錢(36) 5点が出土し、1点を写真掲載している。36の富寿神宝は皇朝十二錢のひとつで、初鑄は818年である。松本市内では三間沢川左岸遺跡・小池遺跡に続き3例目の出土である。破損が非常に著しい。36以外のID142・143・145・146はいずれもⅠからの出土で、内訳は宋錢の皇宋通宝1点、元豊通宝1点、元祐通宝1点、不明1点である。

#### 参考文献

小松望 1989 「金属製品と鍛冶資料」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3—塩尻市内その2— 吉田川西遺跡』

(財)長野県埋蔵文化財センター

大竹憲昭 1989 「金属製品」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書5—松本市内その2— 神戸遺跡 上二子遺跡 中二子遺跡』長野県教育委員会

石上周蔵 1990 「銅製品・錢貨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書6—松本市内その3— 下神遺跡』長野県教育委員会

松本市教育委員会 1988 「錢貨」『三間沢川左岸遺跡(Ⅰ)平安時代集落址の緊急発掘調査概報』

松本市教育委員会 1991 「錢貨」『小池遺跡 平安時代集落址の発掘調査』



## 第IV章 総括

今回の調査では、奈良時代から中世にかけての集落址等が得られた。ここでは、出土遺物や遺構の重複関係から判明した各遺構の帰属時期に基づいて、集落の動きについて概観し、調査のまとめとしたい。

### 1 奈良時代：3・4期（8世紀中葉～後葉）

4軒の竪穴住居址が確認され、集落が展開される。最も古い住居址としては15住（3期）が挙げられる。遺構の検出数は少なく、また、散在していることから、空間構成は窺えない。住居址は5mを超える大型住居が2軒確認され、うち28住（3・4期）は柱穴を伴う。

遺物は各遺構から須恵器の食器類を中心に出土しているが、特殊遺物の出土はない。

### 2 平安時代前期：6～8期（9世紀前葉～後葉）

64軒の竪穴住居址が確認され、前段階に比べて集落は拡大している。とりわけ、7・8期は遺構が多数検出されており、本集落の最盛期の一つとされる。本段階の居住域は調査対象地の西側にあり、東側は空白地帯である。そして、6・7期は南西、8期は北西で遺構の検出数が多いことから、居住域は時期が下るにつれて北上するとされる。また、溝7（8・9期）を境に西側では住居址が検出されておらず、居住域の西縁は溝によって区画されていた可能性がある。居住域の中において、本段階の遺構は中心部に大型住居が集中する傾向が窺える。そのあり方は、規模が6mを超え、柱穴を伴う大型住居の124住（7・8期）を囲むように、5m規模の大型住居や中型住居等が存在する。

本段階の遺構群の遺物を見ると、大型住居を中心に墨書・刻書・線刻・ヘラ記号が施された土器が出土している。これらは本段階にしか見られない。また、緑釉陶器も大型住居を中心に出土している。とりわけ、124住は緑釉陶器2点、「禾」が施された墨書土器・刻書土器、皇朝十二銭の富寿神宝が出土したほか、南東部床面では黒色土器等がまとまって出土しており、注目される。

### 3 平安時代中期：9～11期（10世紀前葉～後葉）

26軒の竪穴住居址が確認された。9期までは前段階に引き続き集落は繁栄傾向にあるが、10・11期になると集落は縮小している。本段階の居住域は調査対象地の北西にある。前段階に居住域であった南西には3軒、空白地帯であった北東には1軒と若干の住居址は見られるが、基本的に南西及び東側は空白地帯である。また、前段階の居住域の西縁となる溝7は本段階には消滅しているとされるが、居住域が西側に拡大する様子は認められない。居住域の中において、大型住居は中心部ではなく東側に見られ、また、柱穴を伴う住居址は見られなくなる。本段階最大規模の104住（9期）も柱穴は伴わず、居住域の南東に位置している。特殊な遺構は、炭焼窯1・2（11期）や土360（9期）が確認された。炭焼窯は伏せ焼き法の製炭に用いられた坑内製炭遺構である。周辺では中山丘陵で多数確認されている。製炭に携わった人々の居住地はおそらくこの集落で問題ないだろうが、その用途等は不明である。土360は遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。墓址であるとすれば、9期居住域の北側に近接して作られていたとされる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、緑釉陶器は大型住居を中心に出土している。墨書土器等は前段階のみの出土であり、本段階では出土していない。

#### 4 平安時代後期：12～15期（11世紀前葉～12世紀前葉）

62軒の竪穴住居址が確認され、前段階に比べて集落は拡大している。とりわけ、13・14期は遺構が多数検出されており、7～9期と同様に本集落の最盛期の一つとされる。本段階の居住域は調査対象地の中央から北東にあり、前段階まで空白地帯であった地域である。前段階まで居住域であった西側は空白地帯となる。居住域の中において、本段階の遺構は中心部に大型住居が集中する傾向が窺える。さらに、6mを超える大型住居は他の段階では1軒程度の確認であるのに対し、本段階では7軒が確認され、特に後半（14・15期）に多く見られる。また、同時期の住居址の切り合いが頻繁に見られ、連続的に移行するものと推定される。また、後半には床面に火を焚いた痕跡が残る住居址が確認されることも特徴である。これらは居住中の行為とは考えにくく、住居廃絶時の儀礼の痕跡とも推定される。特殊な遺構は土383（14・15期）・398（12・13期）が確認された。土383は緑釉陶器耳皿や底面に伏せられた土師器杯が出土しており、用途は断定できないものの、意図的な設置が推定される。土398は前段階の土360と同様に、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。墓址であるとすれば、居住域内に作られていたとされる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、緑釉陶器は中心部の住居址を中心に出土している。また、後半には白磁が出土するが、こちらも中心部の住居址を中心に出土している。

#### 5 中世：（12世紀後葉以降）

2軒の竪穴建物址、1基の竪穴状遺構が確認され、掘立柱建物址の大半や畝址もこの時期であると推定される。本段階の遺構は今回の調査地の北に位置する第2～4次調査地で多数検出されている。本段階の居住等の活動域は前段階よりさらに北東にあり、第2～4次調査地まで続くとされる。掘立柱建物址は重なり合って検出されており、空間構成がなされていたと推定される。また、竪穴建物址の覆土内には礫の投げ込みが確認されている。これは第2～4次調査の竪穴状遺構でも見られ、本段階の遺構の共通した特徴といえる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、遺物量は多くないものの、竪1からは青磁2点、白磁1点、銭貨4枚、竪4からは青磁1点が出土している。

#### 6 まとめ

ここまで時期毎に集落の動きを概観してきたが、全体的な概略は以下のようにまとめることができる。

- ①集落は8世紀中葉に出現し、9世紀中葉～10世紀前葉・11世紀中葉～後葉の2時期に最盛が見られ、中世まで継続して運営された
- ②居住域は時代が下るにつれて、北東へ移動した
- ③集落形態は溝による区画や大型住居を中心とした配置が推定される時期も見られる
- ④炭焼窯や墓と思われる施設は居住域内もしくは近接に作られていた

以上、今回の調査では本遺跡でこれまであまり確認されていない古代を中心に集落址等が確認され、本遺跡及び芳川地区の集落の様相を考える上で非常に重要な成果を得ることができた。

最後に、本調査に際し多大なるご協力とご理解をいただいた松本市村井町南土地区画整理組合並びに関係機関、芳川村井町会をはじめとする地元の方々、そして最後に調査スタッフに感謝の意を表して本書の締めくくりとしたい。

# 附編

松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度

邊見涼・齋藤武士

高畑遺跡(第6次調査)の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

# 松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度

邊見涼<sup>1</sup>・齋藤武士<sup>2</sup>

1. 信州大学理工学系研究科地球生物圏科学専攻 (現 清水建設)
2. 信州大学学術研究院理学系

## 1. はじめに

土壌中には強い磁性を示す鉱物が含まれており、土壌がキュリー点(磁鉄鉱の場合は約580℃)以上に熱せられた場合、地球磁場の方向と強度が熱残留磁化(TRM)として磁性鉱物に記録される。地球磁場の方向と強度は時間変化しているため、過去の変動の様子(永年変化曲線)と鉱物に記録された磁化とを比較することで、磁性鉱物が最後に加熱されてTRMを獲得した時期を推定することができる。考古遺構や遺物からは精度の高い方位と強度が復元でき、地磁気と独立した考古学に基づく年代値(考古学年代)が得られることから、これまでに多くの研究が行われてきた(Watanabe, 1958; 1959)。広岡公夫による標準曲線(通称広岡曲線; Hirooka, 1971)の提出以降は、広岡曲線と比較した多くの研究例が報告されている(例えば、中島・夏原, 1981)。近年、岡山理科大学の畠山唯達らによって広岡曲線の改訂が試みられ、より信頼度の高い永年変化曲線が提案されている(Hatakeyama et al., in prep.; JRFM2K.1, <http://mag.center.ous.ac.jp/>)。

松本市高畑遺跡(東経137°57'50", 北緯36°10'50"付近)の第6次発掘に伴い、多数の住居址から被熱痕跡を示す土壌(焼土)が発見された。一般的に住居址の焼土は、須恵器などの窯跡の焼土(1000℃以上; 中嶋・夏原, 1981)と比べると低い温度までしか昇温しておらず、規模も小さく焼け方が不均質なことが多い。そのため試料採取や測定に困難が伴い、精度の劣る古地磁気データしか得られないと考えられてきた。しかし、窯跡の焼土と異なり、住居址は年代的にも地域的にも幅広く分布しており、発掘される頻度も高いため、有望な考古地磁気研究対象として古地磁気方位の抽出が試みられてきた(会田, 1980)。近年、実験機器の発達や手法の改善により、より精度の高いデータが得られるようになってきた(例えば、酒井ほか, 2013)。また、たき火による再現実験や実験室での加熱実験から、住居址の焼土でも部分的にはキュリー点以上の熱を受けていることや、焼かれた温度の違いによる磁気的性質の変化が明らかになってきており(例えば、Morinaga et al, 1999; Linford and Canti, 2001; Carrancho and Villalain, 2011)、高い被熱を受けた部分を用いれば精度の高い古地磁気データを得られることが分かってきた。このような背景を踏まえて最近、信州大学考古地磁気グループでは住居址の焼土に着目して研究を進めている(齋藤, 2014)。

今回、高畑遺跡から95個の焼土試料を採取する機会を得たため、古地磁気方位を抽出し、考古学的年代との整合性を検討した。加えて岩石磁気学的実験を行い、被熱の程度を評価した。さらに、古地磁気強度の推定も行った。古地磁気強度は方位と比べて復元が困難なため研究例も少なく、永年変化曲線の誤差も大きい(例えば、Yamamoto et al., 2015)。今後の永年変化曲線の確立に向けた基礎データを得るため、7個の測定試片に対し古地磁気強度実験を行い、妥当な地磁気強度が得られるか検討を行ったので報告する。なお本研究の一部は信州大学の卒業論文(邊見, 2015)、修士論文(邊見, 2017)と、4件の学会発表(邊見・齋藤, 2015a; 邊見・齋藤, 2015b; Hemmi and Saito, 2016; 邊見・齋藤, 2016)で報告済みである。

## 2. 試料採取

### 2-1. 住居址の焼土

2014年～2016年にかけて松本市教育委員会文化財課によって行われた高畑遺跡第6次発掘調査では、



多数の住居址 からかまど跡と考えられる被熱痕跡が発見された (Fig. 1, Fig. 2a)。また、被熱の理由が明らかでない、床面に散在するように分布する焼土も発見された (Fig. 2b)。現地調査を行って、土壌の色と固結度に基づいて被熱範囲を認定した (Fig. 3)。また被熱箇所が考古地磁気の研究対象として適切かどうか判定

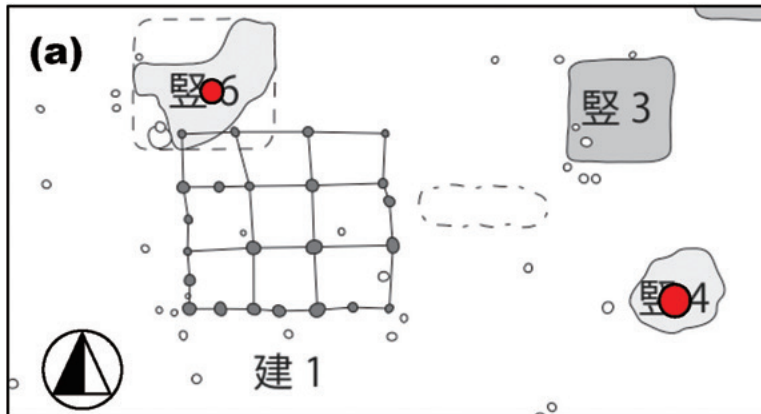
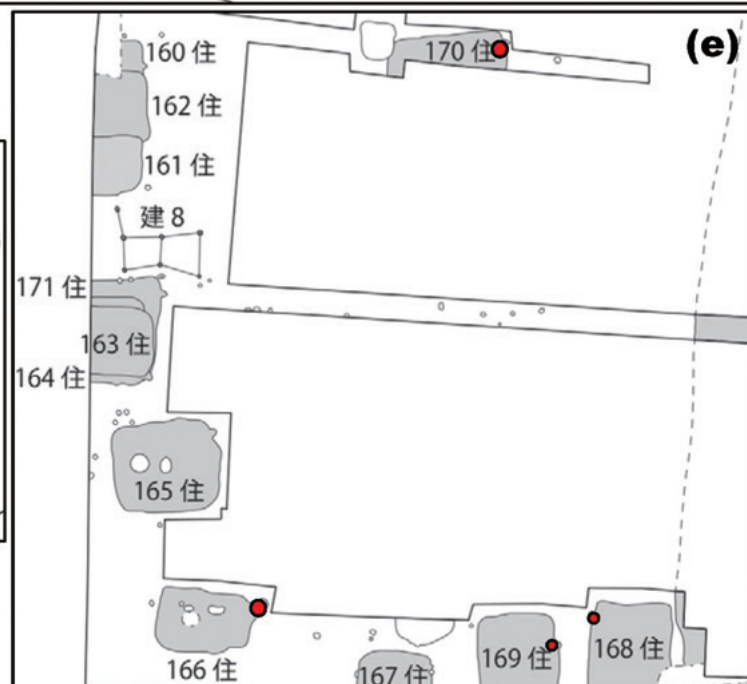
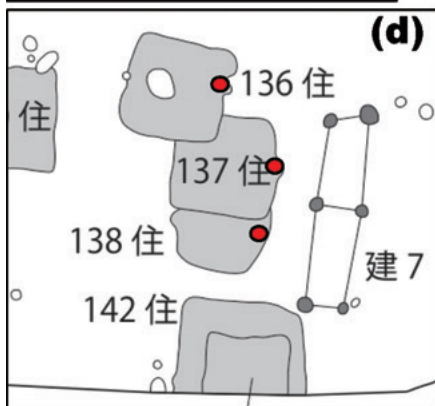
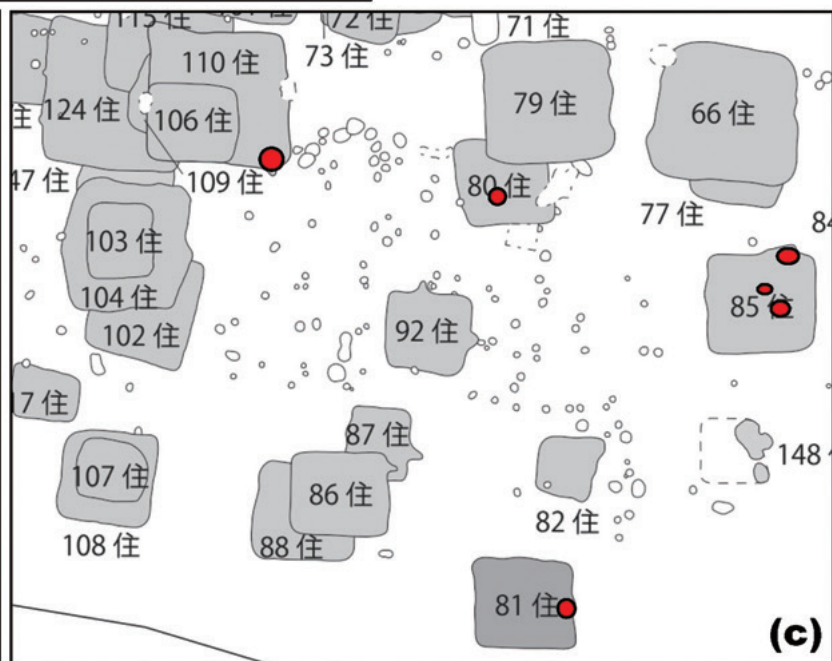
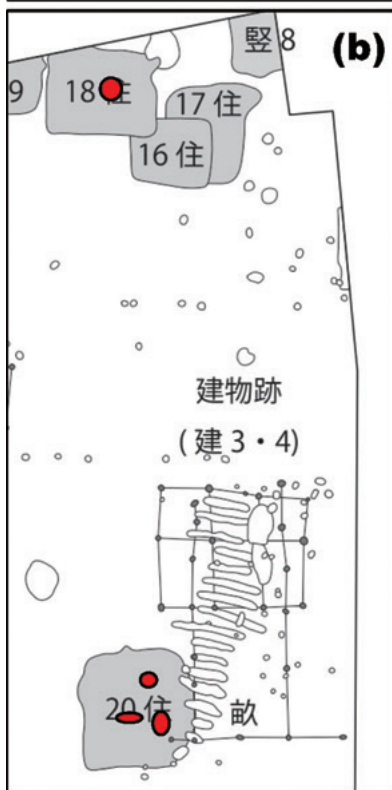


Fig. 1 高畑遺跡第6次発掘調査の遺構配置図と考古地磁気試料採取位置 (松本市教育委員会小山氏作成の図に加筆).

(a) 竪4, 竪6; (b) 18住, 20住; (c) 80住, 81住, 85住, 110住; (d) 136住, 137住, 138住; (e) 166住, 168住, 169住, 170住. 赤丸は、試料を採取した焼土の位置を示す.



するために、携帯帯磁率計 (Terraplus 社製 KT-10) を用いて、数か所の住居址で地表面の帯磁率分布を測定した。その結果、焼土周辺の熱せられた痕跡が認められない土壌と比べて、焼土は数倍高い帯磁率値を示すことが分かった (Fig. 3c)。熱せられることで磁性鉱物が新たに生成されたことを示しており、安定な TRM を記録していることが期待できる。20 住では現地調査で 5 箇所 (Fig. 3b の a ~ e の領域) の焼土が確認されたが、帯磁率が高い値を示したのは c ~ e の 3 領域であった。これを踏まえて、20 住ではこの 3 箇所を中心に考古地磁気用の定方位試料を採取した。



Fig. 2 住居址で検出された焼土 (矢印で示した箇所).  
 (a) 169 住のかまど跡; (b) 18 住の住居中央の床面に散在する焼土.

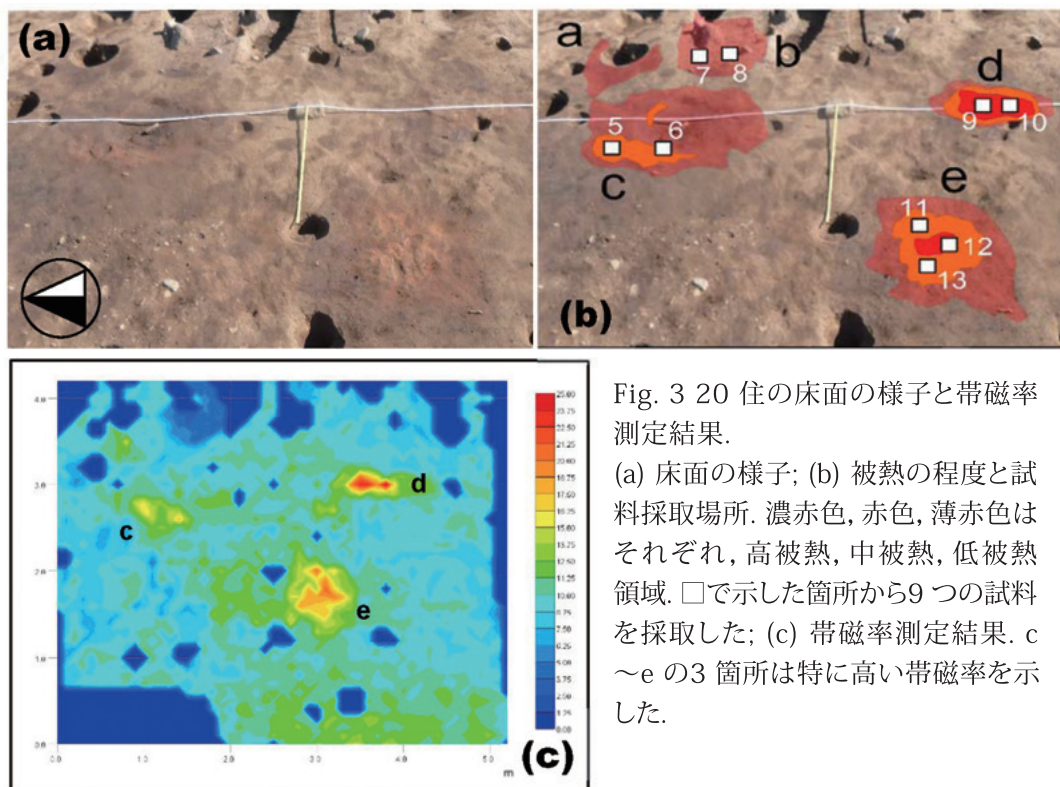


Fig. 3 20 住の床面の様子と帯磁率測定結果.  
 (a) 床面の様子; (b) 被熱の程度と試料採取場所. 濃赤色, 赤色, 薄赤色はそれぞれ, 高被熱, 中被熱, 低被熱領域. □で示した箇所から9つの試料を採取した; (c) 帯磁率測定結果. c ~ e の3箇所は特に高い帯磁率を示した.



## 2-2. 試料採取・整形

赤色や赤褐色を呈し固結度が高く帯磁率値の高い箇所から考古地磁気用の焼土試料(被熱試料)を20の住居址から計95個採取した。試料採取方法と整形方法については畠山ほか(2016)に詳しい。焼土試料は現地で石膏を用いて固めた上で、磁気コンパスを用いて方位付けをして採取した(Fig. 4a~c)。現地の偏角は、太陽方位との差を測定することで $-7.05^{\circ}$ と求め、この値を用いて磁北から地理的北への補正を行った。一つの被熱範囲から3~10個の試料を採取し、実験室で各試料から測定用試片を数~数十個作成した(Fig. 4d~f)。加えて、被熱の程度による磁気的特徴の変化を検討するために、プラスチックキューブを用いて焼かれた痕跡が認められない土壌(非被熱試料)も採取した。試料を採取した各住居址の考古学的な年代は、発掘された土器の編年やかまどの位置などに基づき、8世紀後葉から13世紀と推定されている(Table. 1)。

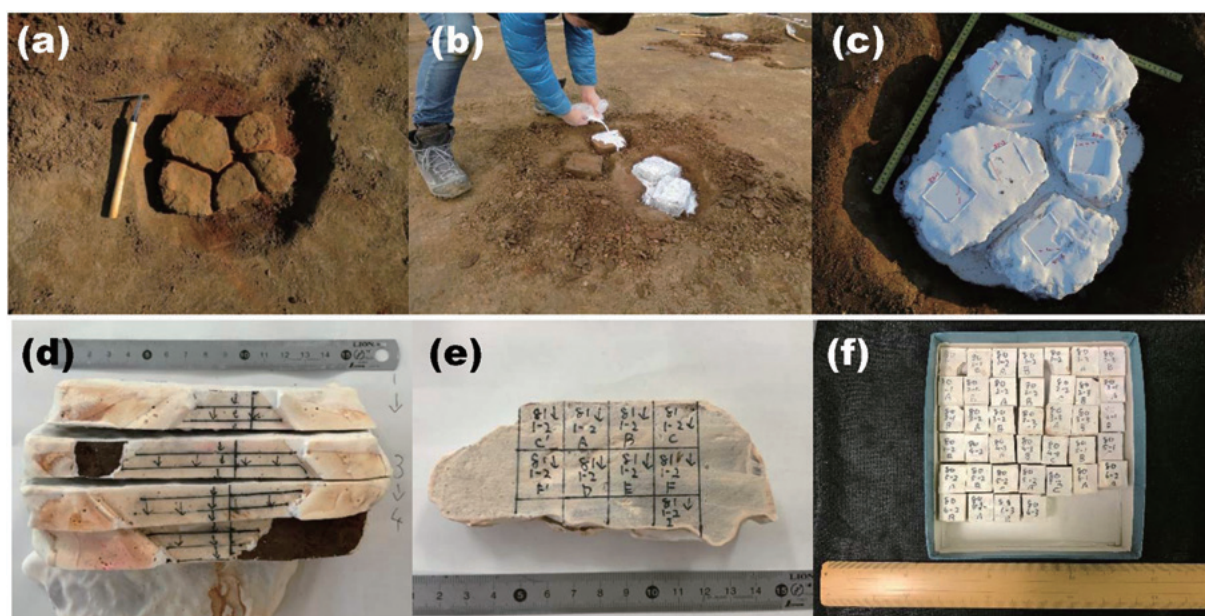


Fig. 4 試料採取と整形の様子。

(a) スコップで被熱箇所を10cm 四方形に掘り込む; (b) 石膏で周囲を固める; (c) アルミ板で作った平面に磁気コンパスを用いて方位付けを行う; (d) 方位を記録した線に沿って板状に切断する; (e) 切り出す試片をマーキングする; (f) 一辺15mmの立方体に整形された測定用試片。

## 3. 古地磁気方位

### 3-1. 測定方法

磁気測定は信州大学理学部の岩石磁気実験室で行った。はじめに帯磁率計(Bartington社製MS2)を用いて全ての試片の帯磁率を測定し、スピナー磁力計(夏原技研製SMD-88, ヤキルス社製Re-Mag)を用いて自然残留磁化(NRM)を測定した。測定結果をもとに被熱の程度を評価し、試料のグループ分けを行った。次に1試料から2~4の試片を選んで段階交流消磁実験(PAFD)を行い、古地磁気方位を求めた。交流消磁実験は交流消磁装置(夏原技研製DEM-95C)を用いて、最高で100~160mTまで行った。交流消磁実験の結果、磁化方位が大きくばらついた137住については、さらに2~4試片を選択し、段階熱消磁実験(PThD)を行った。熱消磁実験は熱消磁装置(夏原技研製TDS-1)を用いて、空気中で最高620°Cまで行った。消磁結果に対して、Zijderveld図上で残留磁化成分の直線性を判定し、Kirschvink(1980)の主成分解析法により古地磁気方位(平均磁化方向)を求めた。

### 3-2. 結果

#### 3-2-1. NRM・帯磁率測定結果

焼土試料のNRMは  $4 \times 10^{-5} \sim 6 \times 10^{-3}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ ), 帯磁率は  $1 \times 10^{-6} \sim 3 \times 10^{-5}$  ( $\text{m}^3/\text{kg}$ , SI 単位系) の値を示した (Fig. 5)。

Table 1 各住居址の考古学的な推定年代

住居址名	考古学年代	西暦表記
豎 4	13 世紀	1200~1300 年
豎 6	11 世紀中葉~後葉	1033~1100 年
18 住	11 世紀後葉	1067~1100 年
20 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
29 住	9 世紀前葉~中葉	800~867 年
43 住	10 世紀前葉	900~933 年
土 367	10 世紀後葉	967~1000 年
56 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
79 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
80 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
81 住	8 世紀後葉	767~800 年
85 住	11 世紀後葉	1067~1100 年
110 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
136 住	9 世紀中葉	833~867 年
137 住	9 世紀中葉	833~867 年
138 住	9 世紀前葉	800~833 年
166 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
168 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
169 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
170 住	11 世紀後葉	1067~1100 年

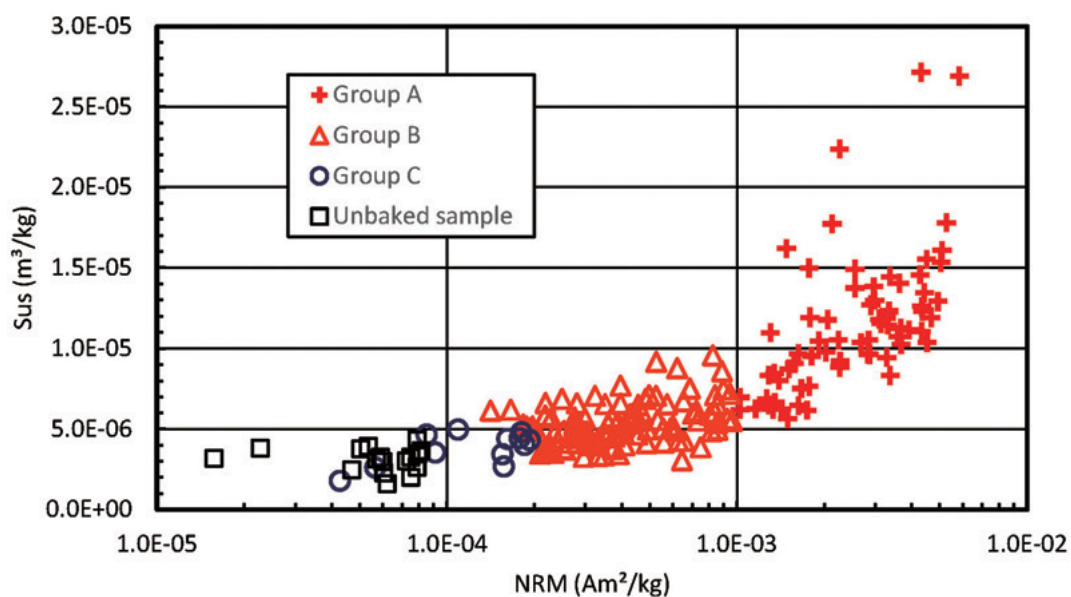


Fig. 5 NRM と帯磁率 (sus) 測定結果.



非被熱試料の NRM は  $1 \times 10^{-5} \sim 9 \times 10^{-5}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ )、帯磁率は  $1 \times 10^{-6} \sim 8 \times 10^{-6}$  ( $\text{m}^3/\text{kg}$ ) と被熱試料の値と比べて低い。被熱の程度によって焼土試料中に磁性鉱物が生成されることで帯磁率が高くなっており、高温から冷却される過程で TRM を獲得することで高い NRM の値を示していると考えられる。そこで本研究では、被熱試料を以下の 3 グループに分けて以降の実験を行った。

① Group A

NRM 強度が  $1 \times 10^{-3}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ ) 以上の試料。一番高い熱を受けたと考えられる試料群。

② Group B

NRM 強度が  $2 \times 10^{-4} \sim 1 \times 10^{-3}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ )、または帯磁率が  $5 \times 10^{-6} \sim 1 \times 10^{-5}$  ( $\text{m}^3/\text{kg}$ ) の試料。

Group A ほどではないが、Group C と比べれば十分に熱を受けたと考えられる試料群。

③ Group C

NRM 強度が  $2 \times 10^{-4}$  ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ ) 以下で、かつ帯磁率が  $5 \times 10^{-6}$  ( $\text{m}^3/\text{kg}$ ) 以下の試料。現地では被熱試料としてサンプリングを行ったが、岩石磁気学的には非被熱試料と区別ができない試料群。

3-2-2. 消磁実験結果

段階消磁実験を行った結果、全測定試片から安定な磁化成分が認められた。代表的な消磁結果を Fig. 6 に示す。Group A に分類される試片のほとんどや一部の Group B 試片は原点に向かうほぼ一直線の磁化成分を示した (Fig. 6a, 6b)。試料が冷却した際の TRM を記録していると考えられる。一部の Group B 試片や

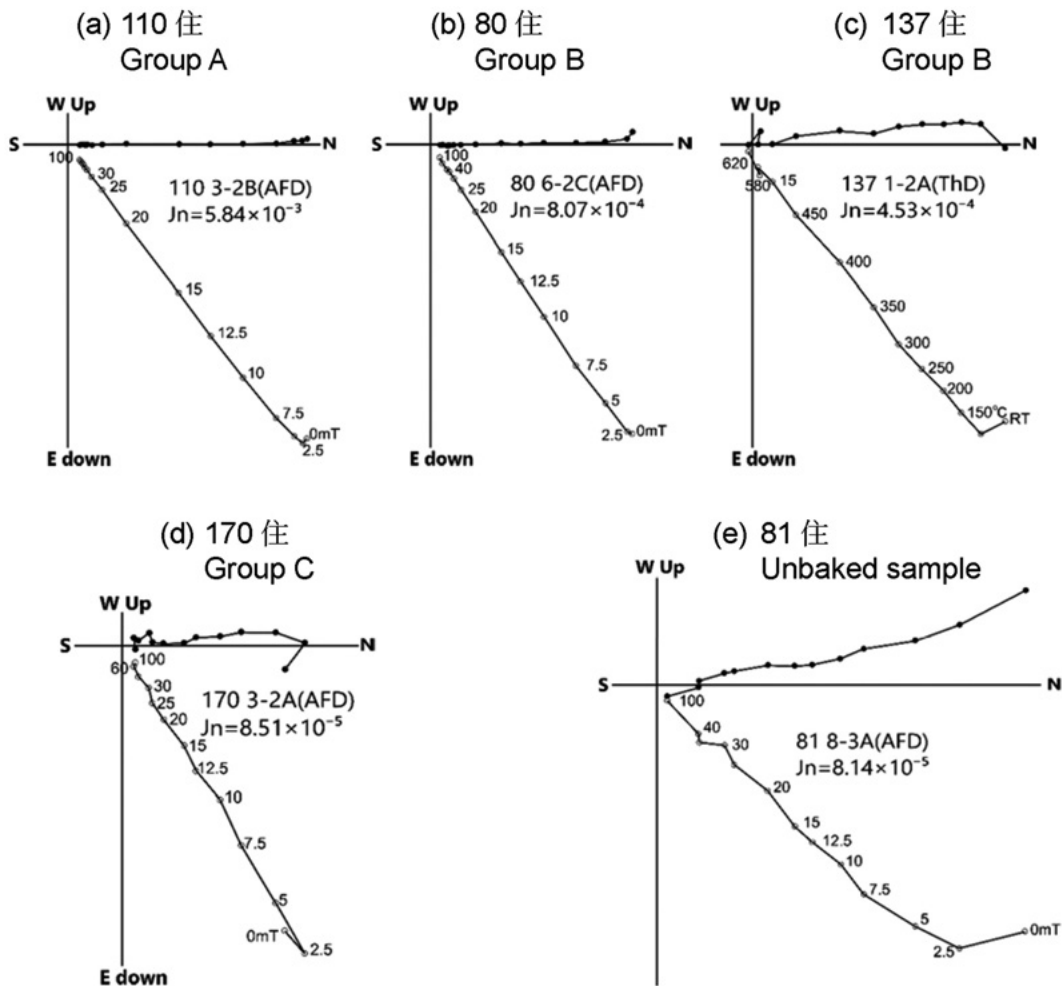


Fig. 6 代表的な消磁実験結果.

●: 水平面投影, ○: 南北鉛直面投影; AFD: 交流消磁, ThD: 熱消磁; Jn: NRM ( $\text{Am}^2/\text{kg}$ )

Group C 試片は、直線性がやや悪く、低消磁段階で分離される磁化成分と高消磁段階で分離される成分の2成分からなる (Fig. 6c, 6d)。低消磁段階で分離される磁化成分は TRM 獲得後に付着した2次成分と考え、解析の対象とはしない。非被熱試料は、磁化強度が弱く、直線性が劣るものの、焼土の示す磁化方位と大きく異なる磁化成分を示した (Fig. 6e)。試料は、遺跡周辺を流れる河川の氾濫による堆積物なので、堆積残留磁化 (DRM) を獲得していると考えられる。

Table 2 主成分解析結果

住居址名	考古学年代(西暦)	n1 / n2	N1 / N2	D (°)	I (°)	$\alpha_{95}$ (°)	k	備考
81 住	767-800	10 / 12	5 / 6	-11.0	52.1	1.7	779.9	
138 住	800-833	9 / 12	3 / 4	-11.4	49.1	1.7	941.6	礫あり
29 住	800-867	3 / 4	3 / 4	-14.4	48.8	4.9	630.3	
136 住	833-867	10 / 12	5 / 6	-10.9	50.1	1.3	1407.5	一部礫あり
137 住	833-867	10 / 15	2 / 3	/	/	/	/	一部礫あり
43 住	900-933	1 / 3	1 / 3	/	/	/	/	
土 367	967-1000	2 / 3	2 / 3	/	/	/	/	
166 住	1033-1067	0 / 12	0 / 4	/	/	/	/	被熱の程度が低い
168 住	1033-1067	12 / 12	4 / 4	-0.4	57.1	1.6	707.4	遺物少量
169 住	1033-1067	7 / 10	3 / 5	-7.0	51.7	1.6	1400.2	
竪 6	1033-1100	3 / 11	1 / 4	/	/	/	/	被熱の程度が低い 遺物少量
18 住	1067-1100	8 / 8	4 / 4	-3.7	52.3	1.6	1197.3	
85 住	1067-1100	10 / 14	5 / 7	-5.1	58.8	1.2	1526.7	遺物少量
170 住	1067-1100	10 / 15	3 / 5	-4.6	56.7	1.6	1010.5	
20 住	1100-1133	10 / 12	7 / 9	-1.2	56.3	2.1	528.6	遺物少量
56 住	1100-1133	3 / 4	3 / 4	-3.1	56.5	3.0	1698.8	
79 住	1100-1133	0 / 4	0 / 4	/	/	/	/	
80 住	1100-1133	12 / 12	6 / 6	0.0	55.6	1.5	816.9	
110 住	1100-1133	13 / 14	7 / 7	-1.9	55.9	1.6	660.1	
竪 4	1200-1300	0 / 5	0 / 3	/	/	/	/	焼土投げ込み 遺物少量

n1: 平均方向算出に用いた試片数, n2: 測定した試片数, N1: n1 が切り出された試料数, N2: 採取した試料数, D: 偏角, I: 伏角,  $\alpha_{95}$ : 95% 信頼限界円, k: 集中度パラメータ.

主成分解析を行った結果、13の住居址から古地磁気方位が得られた (Table 2)。なお直線性が悪く ( $MAD > 4^\circ$ )、方位の集中も悪い Group C の試片は、平均磁化方向の算出から除外した。試料中に礫が多く認められた試片も除外した。試料採取の際に礫を含む箇所はなるべく取り除いてから採取を行ったが、試料の内部に含まれる小礫について全てを除くことは困難である。実験室での試料整形の際に小礫が試料成形用カッターに噛むと試料が損壊したり、歪むことがある。またそもそも焼土周囲の礫が残留磁化の方位を乱している可能性もある。これらを考慮して、今回は平均方位の算出から除外した。統計的な信頼性から、TRM を獲得しているとした試片 (Table 2 中の n1) が3つ以上の試料 (Table 2 中の N1) から得られていない7住居址 (137 住, 43 住, 土 367, 166 住, 竪 6, 79 住, 竪 4) については有為な方位が得られなかったと考え、

方位の議論に用いなかった。13 住居址から得られた古地磁気方位は高い集中度を示した。方位のバラツキを示す集中度パラメータ ( $k$ ) は十分に大きく ( $k$  が大きいほど集中度が良い), 95% 信頼限界円 ( $\alpha_{95}$ ) は  $5^\circ$  以下と小さい ( $\alpha_{95}$  が小さいほど集中度が良い)。81 住の主成分解析結果を Fig. 7 に示す。非被熱試料は焼土と比べて方位が大きくばらつき, 磁化起源として TRM よりは DRM 起源の可能性が高いことが伺える。焼土試料のうち Group A, B に属する試片の結果のみを用いて算出した平均方向は, 偏角 =  $-11.0^\circ$ , 伏角 =  $52.1^\circ$  と高い集中 ( $k = 779.9$ ,  $\alpha_{95} = 1.7^\circ$ ) を示した。

#### 4. 古地磁気強度

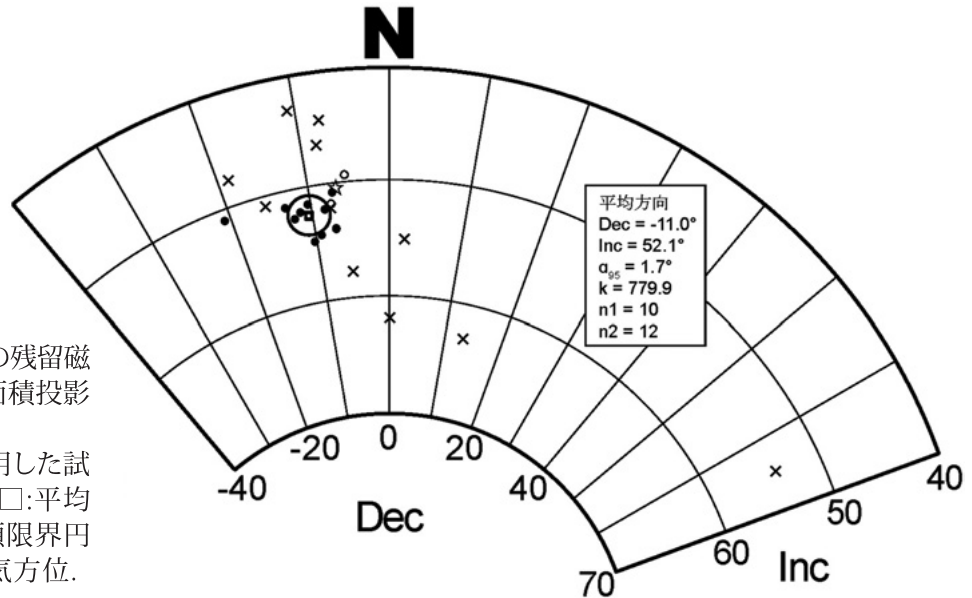


Fig. 7 81 住の試片ごとの残留磁化方位と平均方向 (等面積投影図).

×: 非被熱試料, ●: 採用した試片, ○: 除外した試片, □: 平均方向, 楕円: 95 % 信頼限界円 ( $\alpha_{95}$ ), ☆: 現在の地磁気方位.

##### 4-1. 測定方法

古地磁気強度は pTRM チェック付テリエ法 (Coe, 1967) を用いて実験を行った。テリエ法 (Thellier and Thellier, 1959) は, 段階的に加熱を行い消磁と着磁を繰り返すことで, 部分熱残留磁化 (pTRM) の消磁と着磁を行って古地磁気強度を算出する。しかし通常の段階熱消磁実験と比べて倍の加熱ステップを踏むため, 試料の熱変質が起りやすい。pTRM チェック付テリエ法は, 残留磁化獲得の再現性をチェックするステップ (pTRM チェックステップ) を挟むことで, 加熱による熱変質を評価し, 変質を受けているデータを除外できる。今回は, 高畑遺跡の 85 住・110 住から採取された 7 試料に対して実験を行った。消磁・着磁の各温度ステップは  $100^\circ\text{C}$  から  $500^\circ\text{C}$  までは  $50^\circ\text{C}$  刻み,  $500^\circ\text{C}$  からは約  $30^\circ\text{C}$  刻みで最大  $600^\circ\text{C}$  まで設定した。pTRM チェックは,  $300^\circ\text{C}$ ・ $400^\circ\text{C}$ ・ $500^\circ\text{C}$ ・ $600^\circ\text{C}$  の各着磁ステップの前に  $200^\circ\text{C}$ ・ $300^\circ\text{C}$ ・ $400^\circ\text{C}$ ・ $500^\circ\text{C}$  のチェックステップを挿入した。着磁は, 過去 2000 年間の日本におけるおおよその平均古地磁気強度を想定して  $50 \mu\text{T}$  に設定した。測定結果は NRM-TRM グラフ (Arai diagram; Arai, 1963) に投影し, pTRM チェックステップを含む 5 点以上のデータが高い直線性を示した場合に合格とし, その傾きから古地磁気強度を算出した。

##### 4-2. 結果

7 個の試片のうち 6 個の試片から古地磁気強度が得られた (Table 3)。Group A に分類される 4 試片は Arai diagram 上で高温段階に至るまで高い直線性を示した (Fig. 8a)。110 3-2A 試片は全体的に高い直線性を示したが,  $500^\circ\text{C}$  の pTRM チェックステップが直線からはずれたため, 熱変質が起きていると判断し,  $450^\circ\text{C}$  以下のデータから強度を算出した。Group B 試片は低温では直線を示したが,  $300 \sim 350^\circ\text{C}$  以上で湾曲したため, それ以下の温度区間を用いて強度を算出した (Fig. 8b)。Group C 試片は全体的に湾曲したため, 強度を算出できなかった (Fig. 8c)。Group A 試片は Group B 試片と比べて高い強度値を示した。

Table 3 古地磁気強度実験結果

測定試片	考古学年代 (西暦)	NRM (Am <sup>2</sup> /kg)	帯磁率 (m <sup>3</sup> /kg)	Group	採用区間 (°C)	強度 (μT)	Arai diagram での特徴
85 3-3B	1067-1100	3.66 E-03	1.16 E-05	A	100-500	48.9	直線的
85 4-2C	1067-1100	4.92 E-03	1.61 E-05	A	200-500	50.9	直線的
85 7-1A	1067-1100	4.10 E-04	5.75 E-06	B	100-300	40.7	湾曲
85 7-3C	1067-1100	3.73 E-04	5.67 E-06	B	100-350	40.7	湾曲
110 2-1A	1100-1133	1.48 E-04	2.61 E-06	C	/	/	湾曲
110 3-2A	1100-1133	7.49 E-03	2.93 E-05	A	100-450	49.2	直線的
110 3-3C	1100-1133	6.19 E-03	3.88 E-05	A	100-500	47.7	直線的

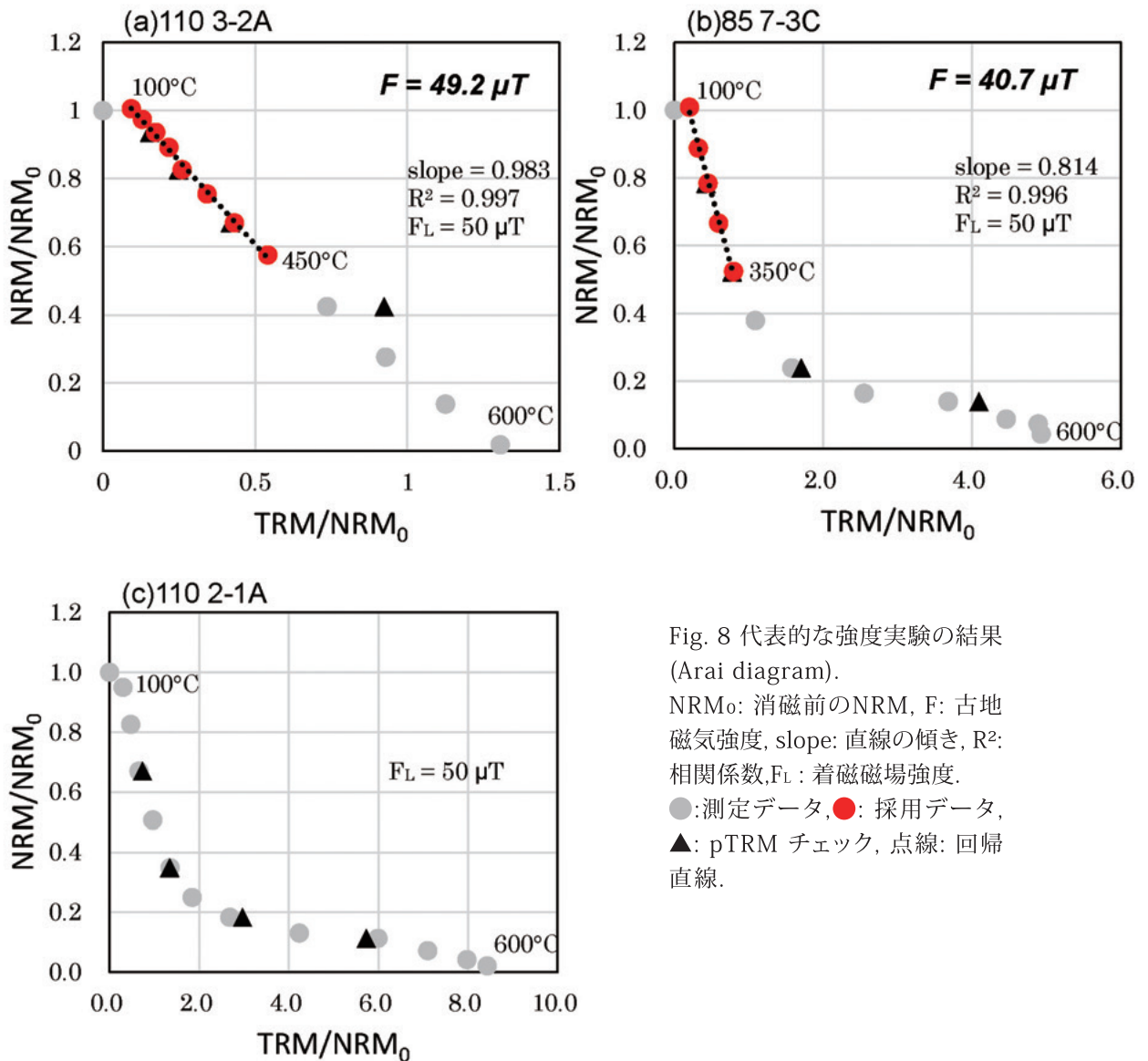


Fig. 8 代表的な強度実験の結果 (Arai diagram).

NRM<sub>0</sub>: 消磁前のNRM, F: 古地磁気強度, slope: 直線の傾き, R<sup>2</sup>: 相関係数, F<sub>L</sub>: 着磁磁場強度.

●: 測定データ, ●: 採用データ, ▲: pTRM チェック, 点線: 回歸直線.



## 5. 考察

### 5-1. 古地磁気学的手法による年代推定

得られた13住居址の古地磁気方位を永年変化曲線と比較する。永年変化曲線は、Hatakeyama et al. (in prep.) によって提案されている JRFM2K.1 を採用し、地磁気双極子仮説 (例えば、小玉, 1999) に基づいて、試料採取地点の値に変換した。古地磁気方位が得られた住居址は8世紀後葉から13世紀と推定されており、それ以前あるいは以降の可能性は極めて低い。そこで今回は700-1400年の永年変化曲線との比較を行った。以下、住居址ごとに推定される年代について述べる。

#### ① 18住 (Fig.9a)

永年変化曲線と比較すると、誤差範囲 ( $\alpha_{95}$ ) は1000-1025年付近の曲線と重なる。よって古地磁気年代は1000-1025年とした。

#### ② 20住 (Fig.9b)

永年変化曲線と重なるのは、1025-1125年である。よって古地磁気年代は1025-1125年とした。

#### ③ 29住 (Fig.9c)

本住居址から得られた古地磁気方位の精度は高くない。 $\alpha_{95}$  は $4.9^\circ$ と今回得られたデータの中で最も大きく、年代決定に採用された試片数も3と最も少ない。そのため、850年付近と950-1000年付近と誤差範囲で重なる。信頼性は低い、古地磁気年代は850年前後もしくは950-1000年とした。

#### ④ 56住 (Fig.9d)

29住と同様に試片数が3と少ないが、29住よりはk値、 $\alpha_{95}$ ともに高い集中度を示した。永年変化曲線とは誤差範囲が1225-1375年付近と重なる。よって古地磁気年代は1225-1375年とした。

#### ⑤ 80住 (Fig.9e)

誤差範囲は永年変化曲線と重ならないが、1050-1100年に近接する。試片数も多く、集中度も高いため、1050-1100年を古地磁気年代とした。

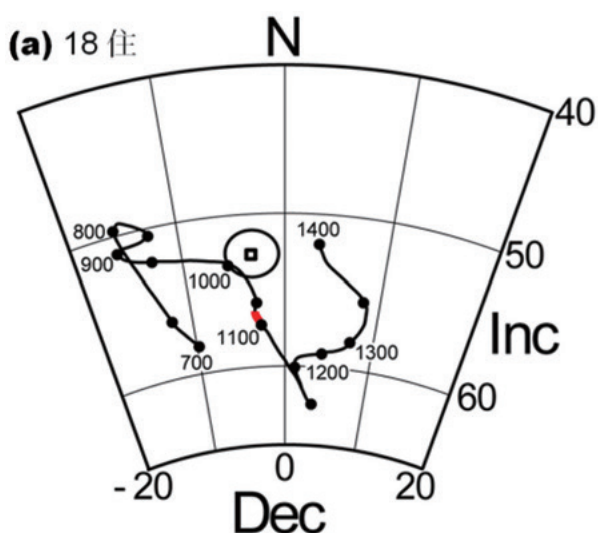


Fig. 9 古地磁気方位と地磁気永年変化曲線 (JRFM2K.1)との比較 (等面積投影図).  
□: 古地磁気方位, 楕円: 95%信頼限界円( $\alpha_{95}$ ).  
図中の数字は永年変化曲線側の年代.  
考古学年代と対応する永年変化曲線の部分は赤く強調した.

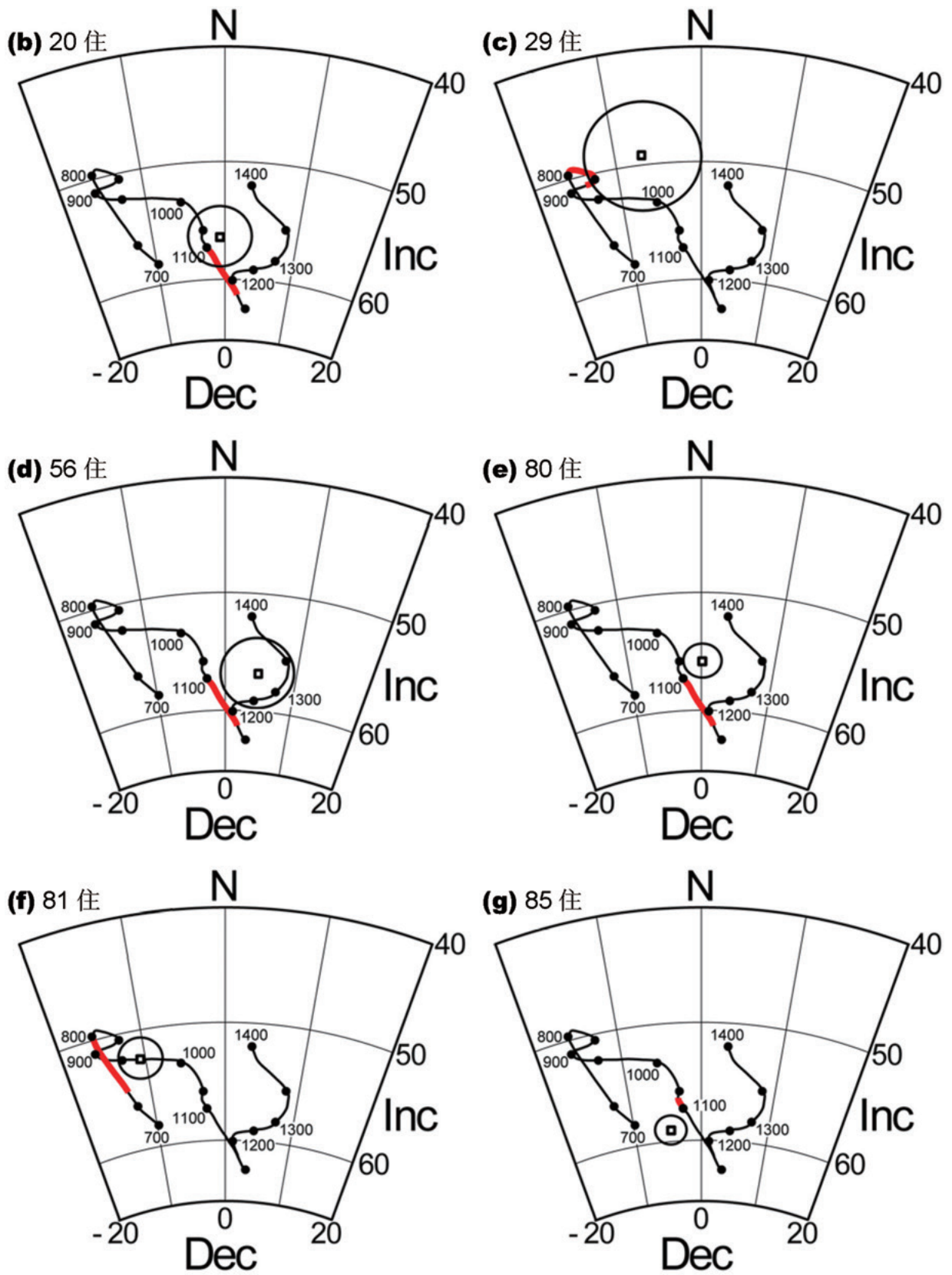


Fig. 9 古地磁気方位と地磁気永年変化曲線との比較 (続き).

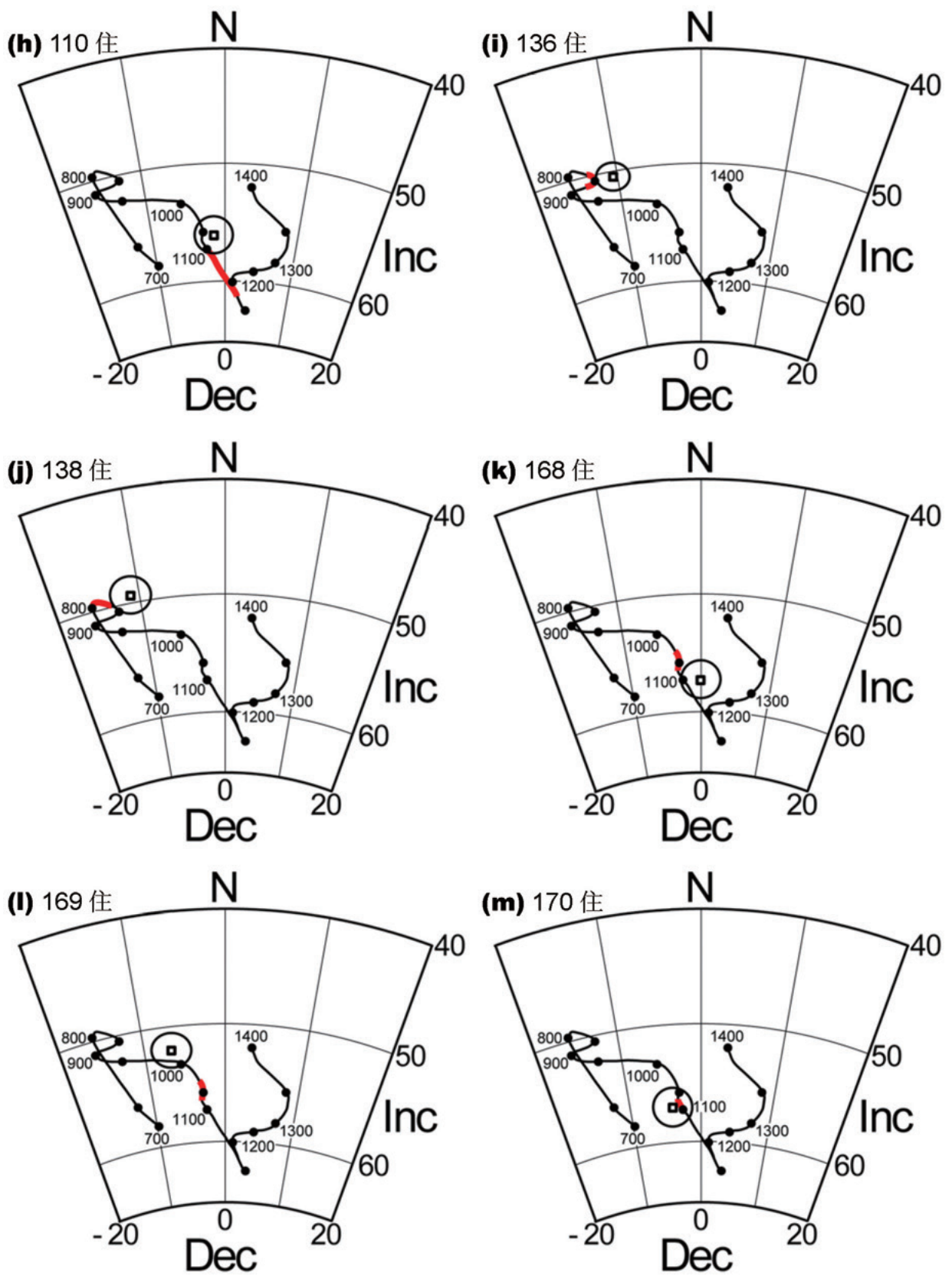


Fig. 9 古地磁気方位と地磁気永年変化曲線との比較 (続き).

⑥ 81 住 (Fig.9f)

古地磁気方位は永年変化曲線上に位置し、誤差範囲は 950-975 年と重なる。よって 950-975 年を古地磁気年代とした。

⑦ 85 住 (Fig.9g)

誤差範囲は永年変化曲線と重ならないが、80 住と同様に永年変化曲線に近接し、かつ平均方向の信頼度も高い。よって最も近接する 1100-1125 年を古地磁気年代とした。

⑧ 110 住 (Fig.9h)

永年変化曲線と重なるのは、1050-1100 年である。よって 1050-1100 年を古地磁気年代とした。

⑨ 136 住 (Fig.9i)

誤差範囲は、850 年と接する。よって古地磁気年代は 850 年前後とした。

⑩ 138 住 (Fig.9j)

誤差範囲は、850 年と接する。よって古地磁気年代は 850 年前後とした。

⑪ 168 住 (Fig.9k)

永年変化曲線と重なるのは、1100-1125 年である。よって 1100-1125 年を古地磁気年代とした。

⑫ 169 住 (Fig.9l)

永年変化曲線と重なるのは、975-1000 年である。よって 975-1000 年を古地磁気年代とした。

⑬ 170 住 (Fig.9m)

永年変化曲線と重なるのは、1050-1100 年である。よって 1050-1100 年を古地磁気年代とした。

## 5-2. 考古学年代と古地磁気年代の比較

今回得られた古地磁気年代を、考古学的見地から得られた年代と比較する (Fig. 10)。5 住居址 (138, 29, 136, 170, 20 住) は、得られた古地磁気年代と考古学年代が重なった。138 住, 136 住, 170 住では古地磁気方位の集中度が高く ( $\alpha_{95} = 1.3 - 1.7^\circ$ ), 50 年の幅で古地磁気年代が推定できており、考古学的手法と古地磁気学的手法による年代が遺跡の使用された年代を示していると考えてよいだろう。20 住も両年代が重なるが、古地磁気方位の集中度が先の 3 住居址と比べると若干悪く ( $\alpha_{95} = 2.1^\circ$ ), 誤差範囲に含まれる永年変化曲線が長いため、100 年の幅を持つ。考古学年代は 12 世紀前葉と精度よく求まっていることを考えれば 1100-1120 年頃が遺跡の使用された年代と考えられる。29 住からは、精度の高い古地磁気データを得ることができず (試片数 = 3,  $\alpha_{95} = 4.9^\circ$ ), 850 年前後もしくは 950-1000 年という複数の年代の可能性が示された (Fig. 9c)。一方、考古学的には 9 世紀前葉～中葉と推定されており、850 年前後と考えれば両データをうまく説明できる。

3 住居址 (85, 80, 110 住) は、両手法による年代値が重ならなかったものの、前後する値が得られた。いずれの住居址の古地磁気方位は集中度も高く ( $\alpha_{95} = 1.2 - 1.6^\circ$ ), 両手法の示す年代値付近が遺跡の使用された年代と考えられる。両手法による年代が重ならなかった点に関しては、両手法の持つ年代決定の精度に原因があると考えられる。古地磁気学的手法の精度に関しては、永年変化曲線の信頼性の向上、地域性の影響の評価ならびにその影響を踏まえた修正方法の確立、より精度の高い試料採取・分析法の提案などが今後の課題となるだろう。

5 住居址 (81, 168, 169, 18, 56 住) から得られた古地磁気年代は考古年代と重ならない。56 住は古地磁気データの精度が高くなく (試片数 = 3,  $\alpha_{95} = 3.0^\circ$ ), 1225-1375 年と長い永年変化曲線と重なるが、誤差円は 1100-1125 年付近の永年変化曲線とも近接する (Fig. 9d)。考古学的見地からは 12 世紀前葉と推定されており、遺跡の使用された年代が 1100-1125 年頃と考えれば、両手法の結果を矛盾なく説明できる。

81 住は、古地磁気年代が 950-1000 年、考古学年代が 767-800 年と推定され 150 年以上相違がある。



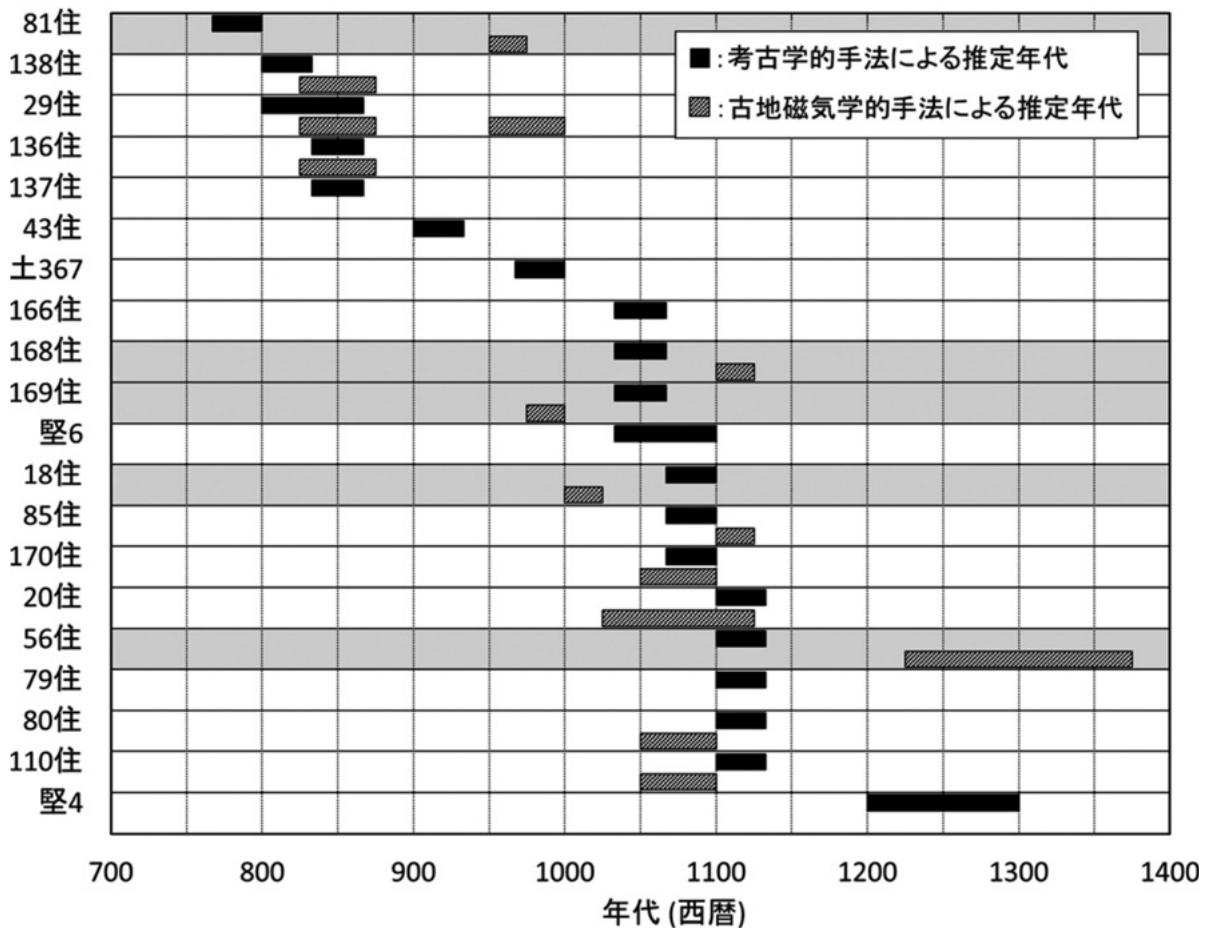


Fig. 10 考古学年代と古地磁気年代の比較.

両手法から得られた推定年代が大きく異なった5住居址は灰色で強調してある.

古地磁気方位は永年変化曲線上に位置し (Fig. 9f), データの信頼性は高い (試片数 = 10,  $\alpha_{95} = 1.7^\circ$ )。考古学年代も須恵器に基づいて推定されており, 信頼性は高い。考古学年代が遺跡の使用された真の年代値を示しているとするなら, 今回得られた古地磁気方位 (Dec =  $-11.0^\circ$ , Inc =  $52.1^\circ$ ) が何らかの原因で永年変化曲線とずれたことになる。永年変化曲線によると, 考古学年代が示す 767-800 年頃の古地磁気方位は偏角 =  $-13.6 - -15.7^\circ$ , 伏角 =  $54.2 - 49.7^\circ$  であり, 偏角が  $2.6 - 4.7^\circ$  東偏する必要がある。高畑遺跡の約 2.5km 北に位置する出川南遺跡で発掘された古墳時代後期 (600 年前後) の住居址の焼土から, 永年変化曲線より偏角が約  $7^\circ$  東偏した古地磁気方位が得られている (齋藤, 2014)。また歴史書によれば, 調査地域周辺では 762 年に地震があったとされ, 地質学的調査からも糸魚川 - 静岡構造線の活動による可能性が指摘されている (地質調査研究推進本部, 2015)。81 住の考古学年代 (767-800 年) は 762 年よりも若干新しいが, 今回研究対象とした住居址の中では最も古く, この地震によって偏角が数度東偏するような変動を被れば, 出川南遺跡や 81 住のデータを説明できる。しかしその様な変動を受けたという証拠はなく, 今後の検証が必要である。

168 住と 169 住の考古学年代はともに 1033-1067 年であるのに対し, 古地磁気年代は 1100-1125 年, 975-1000 年という値が得られた。古地磁気年代の精度は高く誤差も小さいため ( $\alpha_{95} = 1.6^\circ$ ), 信頼性は高い。永年変化曲線の 1050-1100 年の変化は小さく, 168 住については 1050 年頃を遺跡の使用年代と考えることもできる。一方で 169 住については, 古地磁気方位と考古学年代に相当する永年変化曲線は十分に離れており, 現在のデータでは年代を決定することが出来ない。ただ, 考古学的視点からは, 互いに接

するほど近接する竪穴住居が同時に使用された可能性は低いと考えられている(小山氏, 私信)。168住は169住と隣接しており(Fig. 1), 168住の使用年代が1050年頃であるとすれば, 169住の使用年代としては考古学年代(1033-1067年)よりも古地磁気年代(975-1000年)の方が適当であるかもしれない。

18住は, 古地磁気年代(1000-1025年)が考古学年代(1067-1100年)よりも古く推定された。18住の古地磁気方位の精度は良く(試片数 = 8,  $\alpha_{95} = 1.6^\circ$ ), 考古遺物も十分に見つかっているため, 古地磁気年代と考古学年代のどちらも信頼性が高い。とすれば, 両年代値共に真の年代を示している可能性がある。考古学年代は住居が使用された年代を示しているとして, 古地磁気年代は住居が使用された年代ではなく, 最後にキュリー一点以上に昇温し, TRMを獲得した年代を示している。通常のかまど跡の焼土は, 住居が使用されていた時にかまどが使用されることで加熱されて生じたと考え, 住居の使用年代と古地磁気年代が一致するものと考えて取り扱う。しかし18住で採取された焼土は住居中央の床面から採取されており(Fig. 1, Fig. 2b), この時期のかまどが住居の端に設置されることが多い(Fig. 2a)ことを考えると, かまど跡由来とは考えにくい。住居が廃棄される際に, 何らかの儀式によって意図的に焼かれた可能性や, 18住が使用される以前に形成された焼土である可能性がある。前者であれば, 考古学年代と古地磁気年代はそれ程ずれないと考えられるが, 後者であれば古地磁気年代が古くなることが説明できる。ただ18住の場合, 住居が廃棄された際の焼土である可能性が高いと考えられており(小山氏, 私信), そうであれば両年代の乖離は説明できない。

### 5-3. 古地磁気方位の変動の地域差

広岡(1981)によって, 古地磁気方位の変動には地域差があることが指摘されている。先行研究によって得られた永年変化曲線(Hatakeyama et al., in prep.)は, 主に西南日本と東海地方のデータに基づいており, 東日本側のデータは含まれていない。長野県のデータも少なく, 畠山らの永年変化曲線が東日本や長野県でも利用可能かどうかの検証は, 考古地磁気学の残された課題の一つである。

今回, 古地磁気方位が得られた13住居址の古地磁気年代を推定したが, 8住居址からは考古学年代と概ね一致した年代を得ることができた。5住居址の示した古地磁気年代は考古学年代と大きく異なった値を示したが, 前述したように, その多くの住居址では合理的な説明が可能である。少なくとも今回年代推定を行った700-1400年付近に関しては, 松本市でも畠山らの永年変化曲線が利用可能だと言える。しかし, 81住の古地磁気方位と出川南遺跡の結果(齋藤, 2014)が示したように, 762年に起こったとされる地震活動によってそれ以前の古地磁気方位が影響を受けた可能性がある。今後, さらに時空間的に広範囲の遺跡を対象に検討していく必要がある。

### 5-4. 古地磁気強度の推定と妥当性

得られた地磁気強度値から, 過去の古地磁気強度値を推定する。今回強度値が得られたのは6試片と少ないが, 方位と異なり強度値の測定は困難が伴い, 信大グループとしては今回の試みが初めての考古試料からの強度推定であるためここで報告する。

85住では4試片から $45.3 \pm 5.4 \mu\text{T}$ (誤差は標準偏差), 110住では2試片から $48.4 \pm 1.0 \mu\text{T}$ という強度値が得られた(Table 4)。85住の2試片はGroup Bに分類され, それらの強度値は $40.7 \mu\text{T}$ と低い(Table 3)。今回採用した手法はpTRMチェック付テリエ法(Coe, 1967)であり, テリエ法(Thellier and Thellier, 1959)よりも熱変質の評価が可能な分, 信頼性は高い。しかし試料のNRMがすべてTRM起源でない場合や, 試料に含まれる磁性鉱物の粒子サイズが多磁区(MD)粒子である場合などに, 妥当な強度値が得られないことが知られている(例えば, 山本・綱川, 2005)。Group B試片はGroup A試片と比べてNRMが小さく(Fig. 5), NRMの起源がすべてTRMでない可能性がある。Arai diagram上でもNRM-TRMグラフが湾曲し, MD粒子の影響が強いと考えられる(Fig. 8c)。そこでGroup B試片の値を除外して強度値

を求めたところ、 $49.9 \pm 1.4 \mu\text{T}$ と誤差が小さくなり、強度値は高くなった。

今回得られた強度値を先行研究と比較する (Fig. 11)。年代は考古学年代と古地磁気年代を合わせて、その最大と最小を誤差範囲とした。住居ごとに算出した値と、両住居址の年代がほぼ一緒なので一括して算

Table 4 推定された古地磁気強度

住居址名	推定年代 (西暦)		試片数 n1 / n2 / n3	古地磁気強度 ( $\mu\text{T}$ )	
	考古学年代	古地磁気年代		全試片	Group A のみ
85 住	1067-1100	1100-1125	2 / 4 / 4	$45.3 \pm 5.4$	$49.9 \pm 1.4$
110 住	1100-1133	1050-1100	2 / 2 / 3	$48.4 \pm 1.0$	$48.4 \pm 1.0$
85 住と 110 住	1067-1133	1050-1125	4 / 6 / 7	$46.3 \pm 4.5$	$49.2 \pm 1.3$

n1: 強度値が得られた試片の中で Group A に分類されるもの, n2: 強度値が得られた試片数,  
n3: 測定試片数

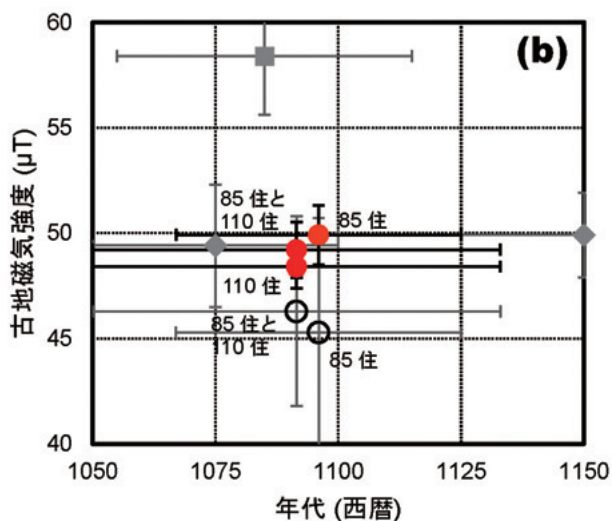
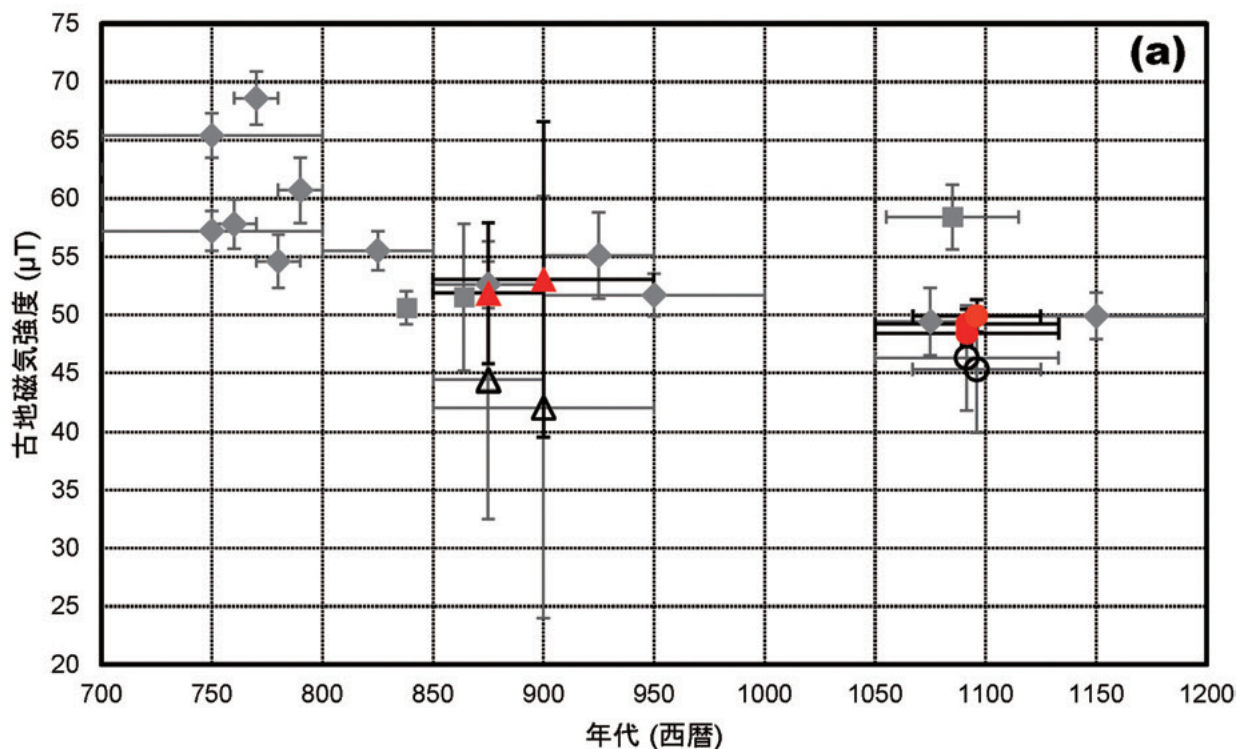


Fig. 11 古地磁気強度値の先行研究との比較。

(a) 700-1200 年間での比較, (b) 1050-1150 年間での比較。

●: Group A 試片から得られた強度値,  
○: 全合格試片から得られた強度値。  
◆: Sakai and Hirooka (1986), ■: Yoshihara et al. (2003), ▲ △: 邊見 (2017); 記号の区分は本研究結果と同様。



出した値をプロットした。700-1200年の強度値は緩やかに減少していることが知られている (Sakai and Hirooka, 1986; Yoshihara et al., 2003)。Group B 試片も含めた強度値は先行研究の値 (約 50  $\mu$  T) よりも低い (Fig. 11b の白丸)。Group A 試片のみから得た強度値はそれよりも高く、先行研究とほぼ一致する領域にプロットされた (Fig. 11b の赤丸)。同様の傾向は我々が山梨県北杜市の上原遺跡を対象に行った研究でも認められ、Group A 試片のみからの強度値は先行研究と一致する領域にプロットされた (Fig. 11a の三角；邊見, 2017)。古地磁気強度値を推定する際に、残留磁化起源や粒子サイズを検討すること、より高い被熱を受けた試片に限定することが重要であることが本研究の結果からも示された。

## 6. さいごに

高畑遺跡第6次発掘調査で出現した20の住居址から採取した焼土を対象に考古地磁気学的研究を行った結果、被熱の程度の高い焼土試料 (Group A, B) から精度の高い古地磁気方位を得ることができた。古地磁気方位と永年変化曲線から推定された8住居址の古地磁気年代は考古学的に推定された年代とほぼ一致した。5住居址からは考古学年代と大きく異なった値が得られたが、多くの住居址では考古学もしくは古地磁気学のどちらかの年代推定の精度が低いなどの合理的な説明を与えることが可能であった。今後研究を継続してデータを蓄積することで、古地磁気永年変化曲線の精度向上、地域性の検証、諸地質学イベントの影響などを評価し、より信頼性の高い年代決定が可能になるだろう。

2住居址からは古地磁気強度を推定し、特に被熱の程度の高い Group A の試片からは先行研究の値と妥当な強度値を得ることができた。しかし古地磁気強度に関しては、永年変化曲線の精度が方位ほど高くなく、また強度測定には複雑な実験や手続きが必要とされることもあり、すぐに年代制約に使用できるレベルにはない。年代が明らかな古地磁気強度値を増やすことで、永年変化曲線の確立に貢献していきたい。

また今回、古地磁気データが揃った段階で複数回、松本市教育委員会文化財課を訪問し、考古学的見地からの意見を加味することで議論を深めてきた。その結果、例えば81住、168住、169住、18住の結果を合理的に解釈することができた。異なる学問領域からのアプローチを双方向に重ねていくことの重要性を改めて認識するとともに、今回の様な研究活動を継続することで、考古地磁気学の発展に貢献していきたい。

## 謝辞

松本市教育委員会文化財課の小山奈津実氏と原田健司氏には、試料採取において便宜を図っていただいたとともに、考古学的見地から多くの助言をいただいた。同文化財課の直井雅尚氏をはじめ、スタッフの皆様には、考古学的見地から議論していただいた。岡山理科大学の畠山唯達氏には、試料採取・整形方法・考古地磁気データの取り扱いについて多くの助言をいただいた。九州大学の北原優氏には、考古地磁気学的見地から議論していただいた。信州大学大学院理工学系研究科の五十嵐蓮氏と勝家康太郎氏には試料採取を手伝っていただいた。信州大学理学部地質科学科の中村友香氏の一部の試料採取と磁気測定を行っていただいた。ここに記して厚く感謝いたします。

## 引用文献

- 会田信行 (1980) 下総台地西部に分布する縄文時代中期住居址内炉跡焼土の考古地磁気. 第四紀研究, 19(4), 311-316.
- Arai, T. (1963) Secular variation in the intensity of the past geomagnetic field. M. Sc. Thesis, Univ. of Tokyo.
- Carrancho, Á. and Villalaín, J.J. (2011) Different mechanisms of magnetisation recorded in experimental fires: Archaeomagnetic implications. Earth and Planetary Science Letters, 312(1), 176-187.



- Coe, R.S. (1967) Paleo - intensities of the Earth's magnetic field determined from Tertiary and Quaternary rocks. *Journal of Geophysical Research*, 72(12), 3247-3262.
- 畠山唯達, 北原優, 納本和孝, 鳥居雅之 (2016) 考古地磁気学における試料採取および成形: 測定精度の向上に向けて. *Naturalistae*, (20), 1-12.
- Hatakeyama, T., H. Shibuya, K. Hirooka, H. Nakamura, A. Yoshihara, M. Yamamoto, M. Tori. (in prep.) A New Archeomagnetic Database and Geomagnetic Secular Variation Model for the past 2ky of Japan.
- 邊見涼 (2015) 松本市高畑遺跡と和田太子堂遺跡の考古地磁気学的研究. 信州大学理学部地質科学科卒業論文. 51p.
- 邊見涼 (2017) 住居址で発掘される焼土を用いた古地磁気方位・強度の復元. 信州大学工学系研究科地球生物圏科学専攻修士論文. 67p.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2015a) 松本市高畑遺跡と和田太子堂遺跡の考古地磁気学的研究. 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, SEM34-P04.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2015b) 山梨県北杜市上原遺跡の考古地磁気学的研究. 第 138 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, R004-P02.
- Hemmi, R. and T. Saito. (2016) Archeomagnetic direction and intensity of ancient settlements at Koushin district, central Japan. *JPGU2016*, SEM05-P04.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2016) 8 ~ 12 世紀の甲信地方における考古地磁気方位の変化. 第 140 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, S001-P02.
- Hirooka, K. (1971) Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan. *Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral* 38:167-207.
- 広岡公夫 (1981) 考古地磁気による年代推定とその問題点. *考古学研究*, 28(1), 69-78.
- 地震調査研究推進本部 (2015) 糸魚川—静岡構造線断層帯の長期評価 (第二版). [http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou\\_pdf/41\\_42\\_44\\_itoigawa-shizuoka\\_2.pdf](http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/41_42_44_itoigawa-shizuoka_2.pdf).
- Kirschvink, J. L. (1980) The least-squares line and plane and the analysis of palaeomagnetic data. *Geophysical Journal International*, 62(3), 699-718.
- 小玉一人 (1999) 古地磁気学. 東大出版会, 248p.
- Linford, N. A. and Canti, M. G. (2001) Geophysical evidence for fires in antiquity: preliminary results from an experimental study. Paper given at the EGS XXIV General Assembly in The Hague, April 1999. *Archaeological Prospection*, 8(4), 211-225.
- Morinaga, H., Inokuchi, H., Yamashita, H., Ono, A. and Inada, T. (1999). Magnetic detection of heated soils at Paleolithic sites in Japan. *Geoarchaeology*, 14(5), 377-399.
- 中嶋正志, 夏原信義 (1981) 考古地磁気年代推定法. ニューサイエンス社. 95p.
- 齋藤武士 (2014) 松本市出川南第 21 次発掘調査で出現した焼土の考古地磁気. 松本市文化財調査報告 No.212 長野県松本市出川南遺跡 - 第 21 次発掘調査報告書 -, 38-43.
- Sakai, H. and Hirooka, K. (1986) Archaeointensity determinations from western Japan. *Journal of geomagnetism and geoelectricity*, 38(12), 1323-1329.
- 酒井英男, 菅頭明日香, 小黒智久 (2013) 竪穴住居上屋土壌の火災による落下状況を残留磁化から探る研究. *日本情報考古学会誌*, 19(1), 28-35.
- Thellier, E. and Thellier, O. (1959) Sur l'intensité du champ magnétique terrestre dans le passé historique et géologique. *Ann. Geophys.*, 15, 285-376.

- Watanabe, N. (1958) Secular variation in the direction of geomagnetism as the standard scale for geomagnetochemistry in Japan. *Nature*, 182(4632), 383-384.
- Watanabe, N. (1959) The direction of remanent magnetism of baked earth and its application to chronology for anthropology and archaeology in Japan: An introduction to geomagnetochemistry. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo*, 2, 1-188.
- 山本裕二, 綱川秀夫 (2005) 絶対古地磁気強度測定法の進展と新方法による過去 500 万年間の平均地球磁場強度 - 現在の地磁気は異常に強い? -. *地学雑誌*, 114, 161-173.
- Yamamoto, Y., Torii, M. and Natsuhara, N. (2015) Archeointensity study on baked clay samples taken from the reconstructed ancient kiln: implication for validity of the Tsunakawa-Shaw paleointensity method. *Earth, Planets and Space*, 67(1), 63.
- Yoshihara, A., Kondo, A., Ohno, M. and Hamano, Y. (2003) Secular variation of the geomagnetic field intensity during the past 2000 years in Japan. *Earth and Planetary Science Letters*, 210(1), 219-231.

# 高畑遺跡（第6次調査）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

高畑遺跡（長野県松本市村井町南地内）は、松本市南部、現在の田川の左岸に位置する。高畑遺跡は、これまでの発掘調査の結果、奈良・平安～鎌倉時代の集落であることが明らかとされており、今回の第6次調査においても古代および中世（鎌倉時代）を中心とする遺構・遺物が確認されている。

本報告では、第6次調査で検出された炭焼窯の年代観、炭焼窯より出土した炭化材の樹種および木材利用の検討を目的として、放射性炭素年代測定、樹種同定を実施した。

## 1. 試料

試料は、炭焼窯3基（L区炭焼窯1、L区炭焼窯2、D区炭焼窯3）より出土した炭化材である。いずれの炭化材試料も一括で採取されており、L区炭焼窯1,2はそれぞれビニール袋に保管された状態にあり、D区炭焼窯3はアルミホイルに包まれ保管された3点からなる。

これらの試料の観察では、L区炭焼窯1,2は炭化材が混じる（黒褐色～）暗褐色やや砂混じりの泥からなる。L区炭焼窯1は多量の炭化材が混じっており、芯持丸木状、分割材状（半裁状、ミカン割状、板状など）などの破片が確認され、その大きさも直径が1cm程度のものから3cm程度のものまで区々であった。L区炭焼窯2は炭化材が混じるものの、L区炭焼窯1との比較では概して少なく、芯持丸木状は極僅かであり、分割材状を含む破片が主体である。また、D区炭焼窯3は破片を主体とし、最大は長さ9cm、幅5cm、厚さ1.5cm程度の（柎目）板状を呈する破片が確認された。

放射性炭素年代測定試料には、上記の観察所見を参考とし、L区炭焼窯1が樹皮が残る芯持丸木の炭化材（仮名称a）、L区炭焼窯2が半裁状を呈する炭化材（仮名称a）、D区炭焼窯3が上記した炭化材最大片（仮名称a）の3点を選択し、いずれも最外年輪を含む数年輪分を供している。また、樹種同定には、上記の3点とともに、L区炭焼窯1は直径の異なる芯持丸木状の炭化材（仮名称b,c）と、加工痕（伐採痕）？と思われる痕跡が確認された芯持丸木状の炭化材（仮名称d）、L区炭焼窯2は小径の芯持丸木状の炭化材（仮名称b）と（柎目）板状を呈する炭化材（仮名称c,d）、D区炭焼窯3は炭化材最大片が保管されたアルミホイル以外の試料より抽出した（柎目）板状を呈する炭化材（仮名称b,c）の8点を供した。なお、各試料の詳細（形状、大きさなど）は樹種同定結果とともに表2に記したので参照されたい。

## 2. 分析方法

### (1) 放射性炭素年代測定

測定試料について、メスやピンセットなどを用いて土砂や根などの付着物を除去する。その後、炭質物や炭化材は、酸-アルカリ-酸（AAA）処理により不純物を化学的に処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では、水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。この際、アルカリ濃度が1Mに達した場合は「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表示する。

これらの処理の後、試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を発生させ、精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイトを生成させる。さらに生成したグラファイトは、内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX- II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に  $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$  の測定も行うため、この値を用いて  $\delta^{13}\text{C}$  を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1,950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。暦年較正は、OxCal4.2.4 を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、及び半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期  $5,730 \pm 40$  年) を較正することである。暦年較正は、OxCal4.2.4 のマニュアルに従い、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正結果は  $1\sigma \cdot 2\sigma$  ( $1\sigma$  は統計的に真の値が 68.2% の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が 95.4% の確率で存在する範囲) の値を示す。なお、現在使用されている較正曲線 (Intcal13; Reimer *et al.*, 2013) は、基本的に 10 年単位 (新しい時代では 5 年単位) で作成されている点や、測定年代、較正曲線の精度から、与えられた年代は 5 年もしくは 10 年単位で考えることが必要である (Stuiver and Polach, 1977)。ただし、本報告では、将来的な較正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う再計算に対応できるよう、表中には 1 年単位の値を記している。

## (2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995-1999) を参考にする。

## 3. 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

炭化材試料の同位体効果による補正を行った測定結果 (補正年代) は、L 区炭焼窯 1 が  $1,120 \pm 20\text{BP}$ 、L 区炭焼窯 2 が  $1,090 \pm 20\text{BP}$ 、D 区炭焼窯 3 が  $1,420 \pm 20\text{BP}$  である (表 1)。また、暦年較正結果 ( $2\sigma$  暦年代範囲) は、L 区炭焼窯 1 が calAD 889 - calAD 980、L 区炭焼窯 2 が calAD 892 - calAD 995、D 区炭焼窯 3 が calAD 602 - calAD 657 である (表 1、図 1.2)。

表 1. 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料名	処理方法	補正年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (BP)	暦年較正結果		測定番号
					1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	
L 区炭焼窯 1 炭化材 a (クヌギ節)	AAA	$1120 \pm 20$	$-24.85 \pm 0.26$	$1118 \pm 20$	895AD (34.8%) 929AD 940AD (33.4%) 969AD	889AD (95.4%) 980AD	IAAA-162109
L 区炭焼窯 2 炭化材 a (モモ)	AAA	$1090 \pm 20$	$-23.49 \pm 0.25$	$1092 \pm 19$	901AD (25.2%) 921AD 953AD (43.0%) 987AD	892AD (95.4%) 995AD	IAAA-162110
D 区炭焼窯 3 炭化材 a (クリ)	AAA	$1420 \pm 20$	$-25.44 \pm 0.20$	$1418 \pm 21$	618AD (68.2%) 650AD	602AD (95.4%) 657AD	IAAA-162111



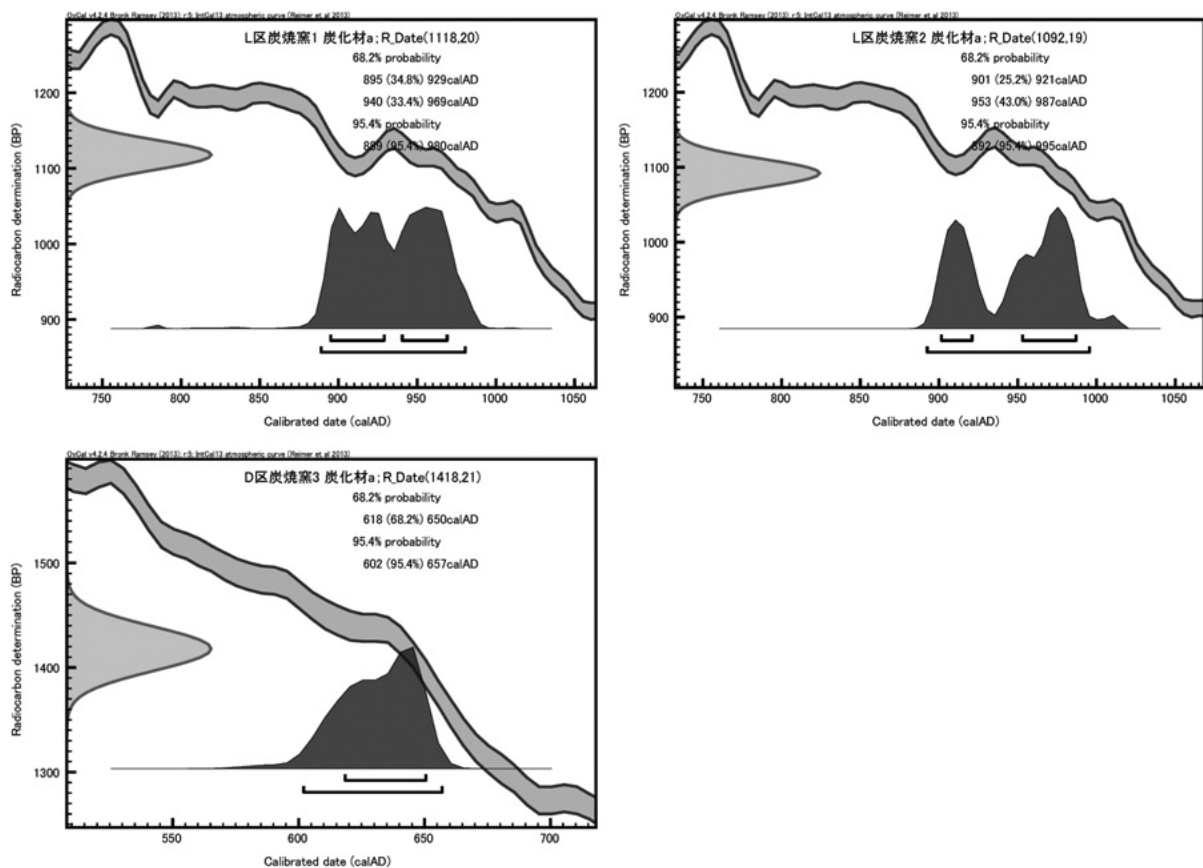


図 1. 暦年較正結果 (1)

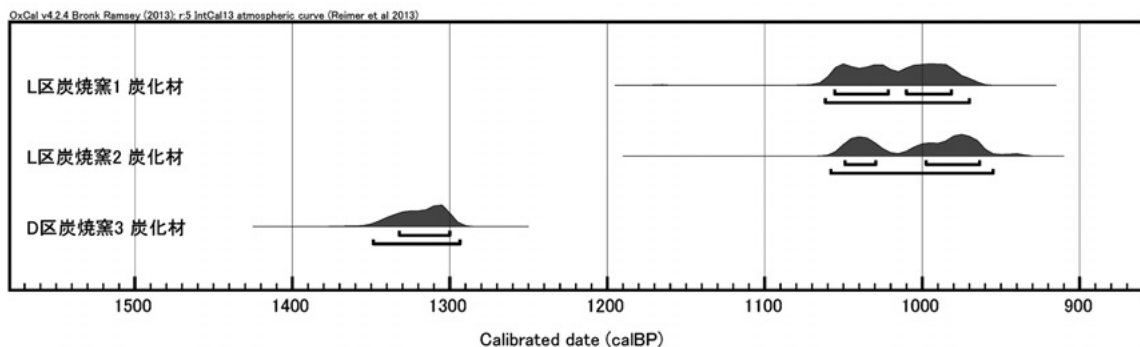


図 2. 暦年較正結果 (2)

## (2) 樹種同定

同定結果を表 2 に示す。炭化材は、広葉樹 4 分類群（コナラ属コナラ亜属クヌギ節、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、モモ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと同列放射組織とがある。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと同列放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・モモ (*Prunus persica* Lindley) バラ科サクラ属

環孔性を帯びた散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が3-4列配列し、やや急激に径を減じた後、単独または2-5個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

表 2. 樹種同定結果

遺構名	仮名称	形状	大きさ <sup>1)</sup> (cm)	樹種 <sup>2)</sup> (分類群)	年輪数	備考
L区炭焼窯 1	a	芯持丸木	(1.7 × 1.4)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節*	12年	樹皮あり
	b	芯持丸木	(3.5 × 2.5)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	10年	直径最大
	c	芯持丸木	(1.0)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	5年以上	直径最小
	d	芯持丸木	(3 × 2.5)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	9年	加工痕(伐採痕)?あり
L区炭焼窯 2	a	半裁状	(1.8)	モモ*	2年	
	b	芯持丸木	(1.0)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	2年	
	c	破片(柁目板状)	2 × 1.5 × 4	コナラ属コナラ亜属コナラ節	37年以上	半径2cm以上
	d	破片(柁目板状)	3 × 1 × 3	コナラ属コナラ亜属コナラ節	45年以上	半径3cm以上
E区炭焼窯 3	a	破片(柁目板状)	9 × 5 × 1.5	クリ*	4年	半径約2.5cm
	b	破片	1 × 1 × 1.5	クリ	10年	
	c	破片(柁目板状)	2.5 × 1 × 2.5	クリ	25年	

1) 括弧内の数値は直径を示す

2) \*は放射性炭素年代測定試料

#### 4. 考察

##### (1) 炭焼窯の年代

L区炭焼窯1,2およびD区炭焼窯3より出土した炭化材の暦年較正結果(2σ)についてみると、L区炭焼窯1,2はともに9世紀末から10世紀末頃、D区炭焼窯3が7世紀初頭から7世紀中頃を示した。この結果を参考とすると、L区炭焼窯1,2は平安時代、D区炭焼窯3は飛鳥時代頃の遺構と推定される。なお、調査所見では、L区炭焼窯1,2は検出状況から炭焼窯2→炭焼窯1という新旧関係が明らかとされている。今回の結果では調査所見を支持する結果は得られなかったが、暦年代範囲が近似することから、それほど時期差はなかったと考えられる。

##### (2) 木材利用

3基の炭焼窯から出土した炭化材の樹種同定の結果、広葉樹のクヌギ節、コナラ節、クリおよびモモの計4種類が確認された。このうち、クヌギ節は、日本にクヌギとアベマキの2種があるが、本地域にはクヌギのみが分布し、アベマキは分布しないことから、今回の試料はクヌギの可能性が高い。クヌギは、コナラと共に二次林を形成するが、より湿った環境を好み、エノキ等と共に河畔などにも生育する。木材は重硬で強度が高く、薪炭材としては国産材の中でも優良な部類に入る。コナラ節は、コナラ、ミズナラ、ナラガシワ、カシワの4種が日本に分布し、本地域では平地の二次林にコナラ、山地の落葉広葉樹林にミズナラが分布する。コナラとミズナラは、いずれも重硬で強度が高く、薪炭材としては優良な部類に入る。クリは、二次林等に生育する落葉高木である。木材は重硬で強度・耐朽性が高いが、焼成すると柔らかく燃焼性の高い木炭になるとされ、民俗事例ではマツ炭と共に鍛冶燃料材に利用される(岸本・杉浦,1980)。モモは、大陸から渡来した栽培種であり、弥生時代以降、日本各地で出土事例が知られている。木材は、比較的重硬・緻密で強度が高い。

各炭焼窯の樹種構成は、L区炭焼窯1がクヌギ節、L区炭焼窯2がコナラ節とモモ、D区炭焼窯3がクリからなり、遺構毎で組成が異なる傾向が認められた。L区炭焼窯1の炭化材については、3基の炭窯跡の中では、芯持丸木が比較的多く、径1cm~3cm前後までのものからなり、全体的に小径であるという特徴が

確認されたほか、伐採痕と思われる加工痕を有する炭化材も認められた。分析対象とした炭化材の年輪計測では、最大で10～12年程度であったことから、クヌギ節の枝材等に由来すると考えられる。これらの状況から、炭焼窯1では木炭の大部分が窯外に持ち出され、枝等の燃料材としてはやや劣る部分が残された可能性がある。また、製炭する際、木材が床に直接接触れるのを防ぐために枝等を床に敷くことがあり、こうした用途に利用された枝材に由来する可能性もある。

L区炭焼窯2は、モモとコナラ節が確認されたが、コナラ節が破片や小径の芯持丸木に認められたのに対し、モモは小径の半裁状を呈する炭化材に認められたのみである。この結果から、炭焼窯2ではコナラ節を主体として、モモが混じる組成であったと考えられる。コナラ節のうち、柎目板状の破片は、いずれも30年を越える年輪が認められたことから、製炭された幹材あるいは太い枝の一部の可能性はある。一方、径1cmの芯持丸木は2年生の若枝であり、前述と同様に床の敷材などに由来する可能性がある。モモについても2年生の小径木であったことから、コナラ節の小径木と同様の用途が推定される。なお、モモは、栽培種であることから、遺跡周辺におけるモモの栽培・利用も窺える。

L区炭焼窯1に確認されたクヌギ節と、L区炭焼窯2に確認されたコナラ節は、材質が類似し、いずれも火持ちの良い硬い炭となる(岸本・杉浦,1980)。このことから、これらの炭焼窯では、同様の材質の木材を製炭していたと考えられる。また、樹皮が残る、あるいは残っていたと思われる炭化材について、最外年輪の形成状況の観察を行った結果では、いずれも晩材部の形成が確認された。詳細な季節の特定は難しいが、晩材部が形成されている状況から、秋～初春の間に木材が伐採されたと考えられる。水分の少ない冬に伐採した木材は、木炭とした際に樹皮が剥がれにくく、材質も安定しているとされる(岸本・杉浦,1980)。また、冬期は乾燥しており、木炭が湿りにくいことから、この時期に製炭が行われていた可能性がある。

一方、D区炭焼窯3は、いずれも破片であり、芯持丸木状の炭化材は確認できなかった。破片の年輪数は、4年～25年まで認められ、幹や太枝の一部も含まれていると考えられる。炭化材は、分析対象とした試料は全てクリであり、L区の2基の炭焼窯とは樹種構成が異なる。クリは、燃焼性の良い柔らかい炭になるため、上記とは材質の異なる木炭を製炭していた可能性がある。

古代の木炭利用、とくに大量の木炭を利用するものとして、製鉄・鍛冶操業に関わる燃料材が挙げられる。製鉄や鍛冶遺構に関わる燃料材を対象とした群馬県渋川市域の調査事例では、金井製鉄遺跡の8世紀末頃とされる製鉄炉に付随する炭焼窯から出土した木炭は調査した全点がクヌギ節に同定されている(大塚・高橋,2015)。一方、薬師J遺跡や半田中原遺跡等で検出された奈良～平安時代の伏焼きの炭焼き土坑から出土した炭化材は、調査した範囲で全てクリに同定されており、炭焼きの方法によって樹種が異なること、クリは材質から鍛冶燃料材に利用された可能性があることが指摘されている(大塚,2000)。これらの事例から、本遺跡においても、クヌギ節・コナラ節の木炭と、クリの木炭とでは用途が異なっていた可能性がある。

長野県内における調査事例についてみると、野口遺跡(麻績村)の平安時代とされる炭窯から出土した炭化材にクヌギ節が、菅ノ沢遺跡(大町市)の8～11世紀と考えられる鉄滓共伴炭化材にクヌギ節とコナラ節が確認されている(伊東・山田,2012)。これらの結果は、今回の分析結果と同様の傾向を示す点で注目され、今後も同様の調査事例の蓄積による木材利用の検討が期待される。

#### <引用文献>

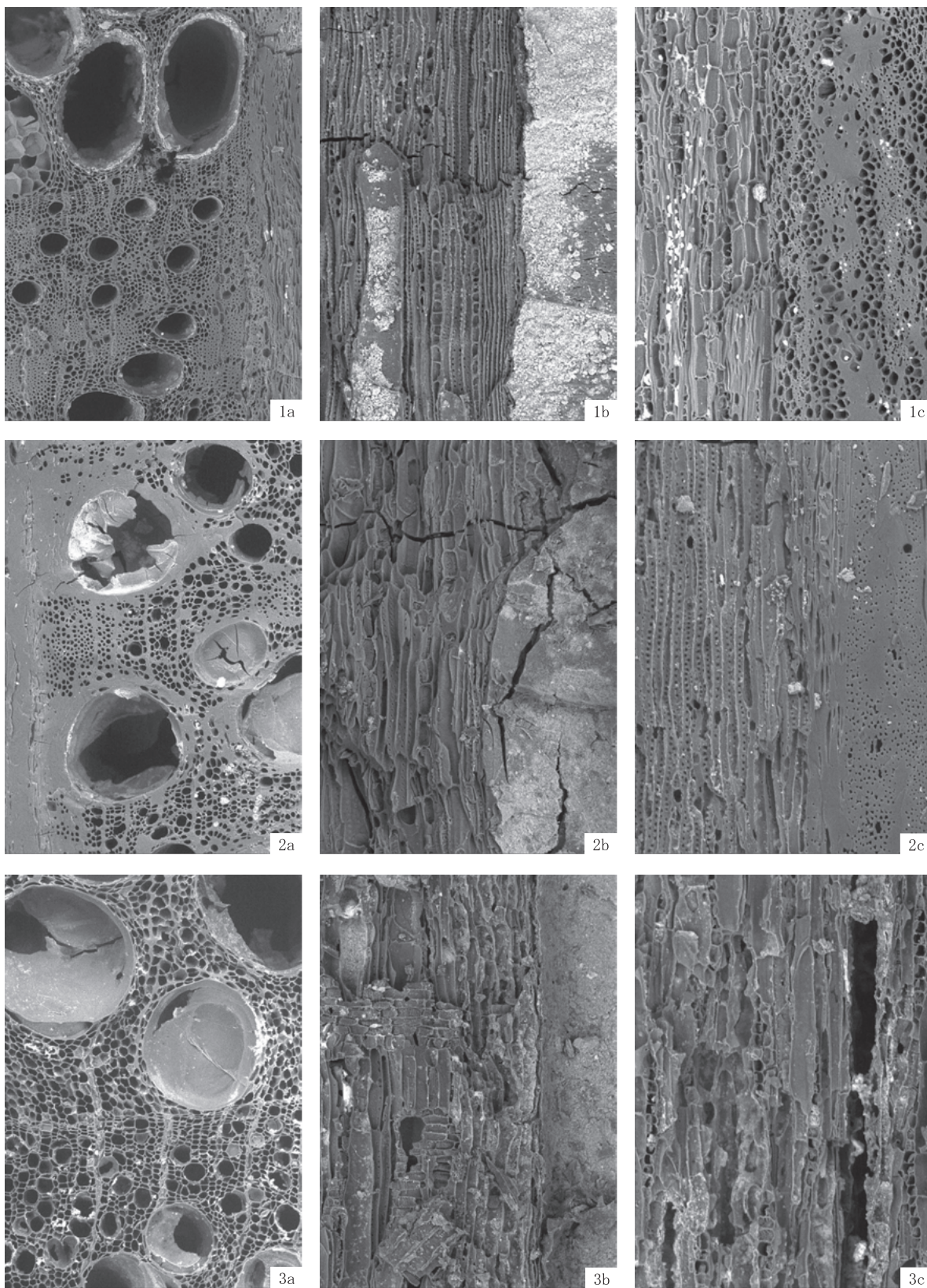
Bronk Ramsey, C., & Lee, S., 2013, Recent and Planned Developments of the Program OxCal. Radiocarbon, 55, 720-730.

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 岸本定吉・杉浦銀治,1980,日曜炭やき師入門.総合科学出版,250p.
- 大塚昌彦,2000,伏焼法による炭焼き土坑 一薬師・半田中原遺跡の製鉄関連炭焼き土坑一.群馬考古学手帳,10,群馬土器観会,55-67.
- 大塚昌彦・高橋 敦,2015,古代製鉄炉に併設する炭窯木炭の一考察 一金井製鉄遺跡の炭窯を中心として一.利根川,37,利根川同人,97-103.
- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Hafliðason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. ,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon ,55,1869–1887.
- Stuiver Minze and Polach A Henry,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon,19,355-363.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .



図版1 炭化材(1)



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節(L区炭焼窯2;d)

2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(L区炭焼窯1;b)

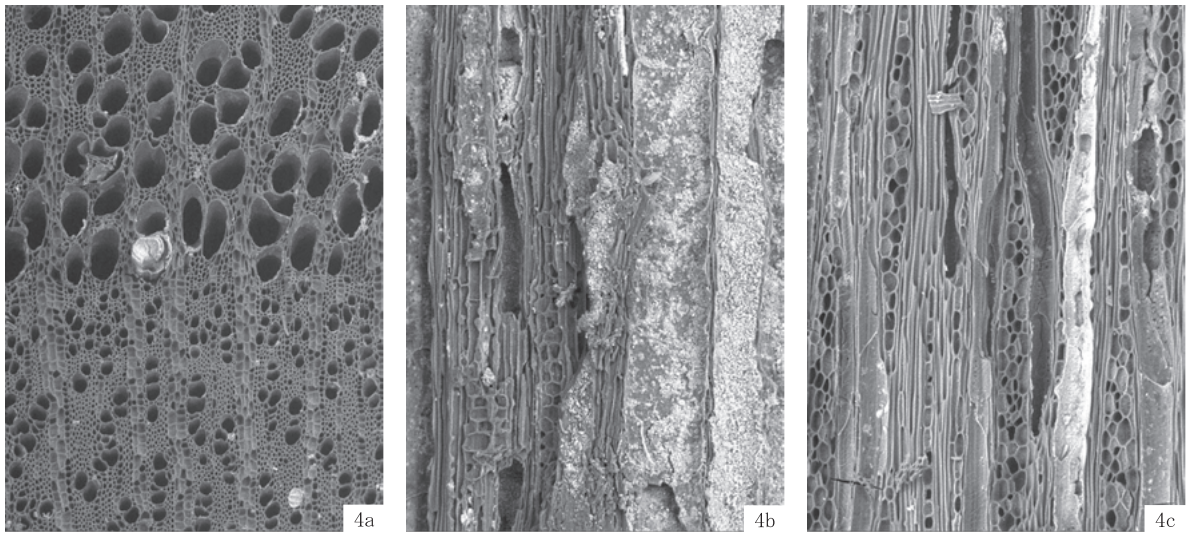
3. クリ(D区炭焼窯3;c)

a:木口, b:柾目, c:板目

100  $\mu$  m: a  
100  $\mu$  m: b, c

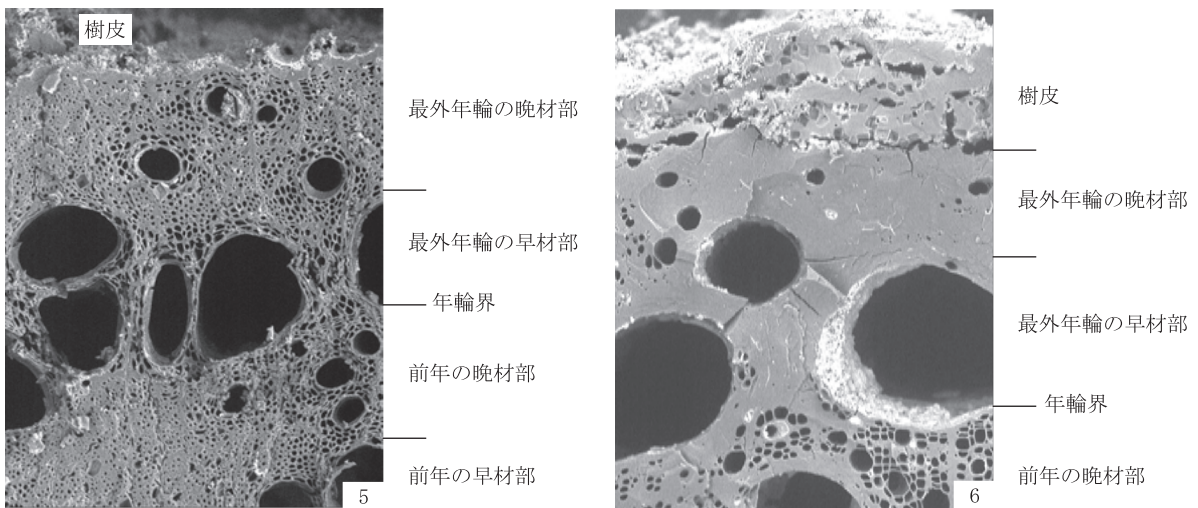


図版2 炭化材(2)



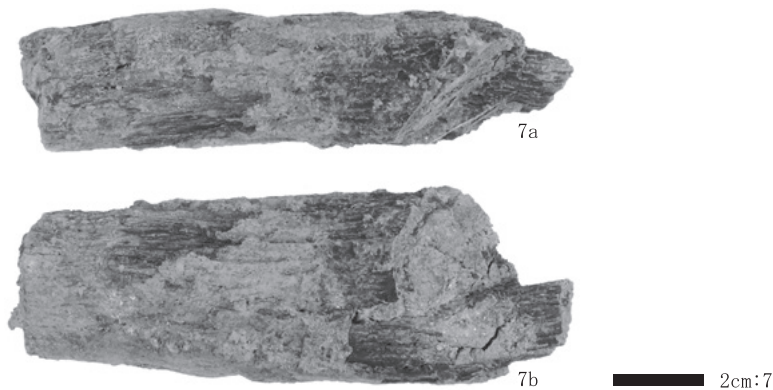
4. モモ (L区炭焼窯2; a)  
a:木口, b: 柁目, c: 板目

100 μm: 4a  
100 μm: 4b, c



5. 最外年輪の形成状況(コナラ属コナラ亜属クヌギ節; L区炭焼窯1; a)  
6. 最外年輪の形成状況(コナラ属コナラ亜属コナラ節; L区炭焼窯2; d)

100 μm: 5, 6



7. 伐採痕?を有する炭化材(L区炭窯跡1; d)

2cm: 7

---

---

# 表

---

---



第1表 竪穴住居址一覧表

遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態	遺構所見		推定時期
						カマド位置 カマド形態	本址より旧 本址より新	
14	A	隅丸方形 N-86°-E	398 × 382 × 34	12.6	東壁北端 石組	本址より新	カマドは両袖と火床面を残す。カマド範囲内から前面の床面には10～30cmの礫が散乱する。床面は平坦である。北壁西側から西壁及び東壁の一部に周溝がある。ピットは2基検出された。カマド左脇部と南壁中央にはテラス状の段が見られる。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類や土師器の羽釜を中心に出土。	11期
15	A	方形 N-89°-E	359 × <328> × 44	<9.8>	東壁中央 石組	土 40・53・85・86	東壁とカマドの一部は調査区外へ続く。カマドは袖石の一部と火床面を残す。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出されたが、いずれも浅い。遺物は須恵器の杯や土師器の鬚類を中心に出土。	3期
16	B	長方形 N-90°-W	363 × 312 × 26	<9.1>	不明	17住 18住	カマドの位置は不明であるが、北東部の床面に10～30cmの礫が散乱しており、カマド構築材の可能性が考えられる。床面はほぼ平坦であり、ピットは5基検出された。遺物は非常に少ない。	14期
17	B	隅丸長方形 N-86°-E	463 × 382 × 26	<7.9>	東壁北端 石組	16住	南西は16住により喪失する。カマドは両袖と火床面を残す。カマド範囲内には10～20cmの礫が散乱する。床面はほぼ平坦であり、焼土・炭化物が見られる。ピットは5基検出された。遺物は非常に少ない。	13・14期
18	B	隅丸長方形 N-62°-E	478 × 368 × 26	14.8	東壁北端 石組	16住、土 223	カマドは両袖を残すが、火床面ははっきりしない。カマド範囲内から前面には10～20cmの礫が散乱している。この礫を取り除いた下には焼土・炭化物・骨片が広く分布している。覆土中には、焼土塊及び炭化物が混入している。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出され、柱痕が見られるが、いずれも浅い。遺物は土師器・黒色土器の食器類を中心に出土。	14期
19	B	長方形 N-56°-E	342 × 302 × 36	8.7	北東隅 石組		カマドは両袖・火床面・煙道を残し、煙道入口には天井石が残存する。また、カマド範囲内から前面にかけての床面には10～30cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは6基検出され、柱痕が見られるものもあるが、いずれも浅い。遺物は少ない。	13期
20	B	隅丸長方形 N-3°-W	518 × 456 × 12	<21.06>	不明		東壁は祝状遺構により喪失する。床面には全面にわたり焼土が広がり、10～20cmの礫も散乱している。床面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。ピットは15基検出され、P16には大量の炭化物が層状に堆積している。遺物は少ないが、特殊なものとして、白磁碗の破片が5点出土。	15期
21	B	方形 N-86°-E	418 × 436 × 21	<15.8>	東壁北寄り 不明	土 175・180・183・184・215・217・218・222・279、畝 13・14・16	カマドは良好な火床面を残す。床面には10～20cmの礫が散乱する。床面はほぼ平坦である。ピットはカマド周辺を中心に10基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定された。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	14期
22	C	隅丸方形 N-94°-E	366 × 312 × 24	8.93	東壁南寄り 石組	土 342	カマドは両袖・支柱石・火床面が良好に残り、カマド構築材の一部と思われる粘土塊が袖石に沿うように貼りつく。北東隅からカマドにかけての床面には10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器の鬚類を中心に出土し、南壁中央付近の床面には土師器の鬚が潰れたような状態で出土している。P1からは紡錘車出土。	6期
23	C	隅丸長方形 N-82°-W	573 × 484 × 29	<21.55>	東壁北端 (石組)	26・36住 土 343	カマドは火床面が良好に残る。カマド範囲内から前面にかけての床面には構築材と思われる10～40cmの礫が散乱している。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。北壁に周溝が見られ、ピットは14基検出された。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器片1点、鉸具1点、雁又鏝1点がある。	11期
24	C	隅丸方形? N-14°-E	445 × <171> × 11	<4.26>	不明	28住、土 347	床面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。南西隅から西壁にかけて周溝が見られる。ピットは1基検出されたが浅い。遺物は非常に少ないが、食器類を中心に出土。遺物から、28住との切り合いは所見と異なり、本址の方が新しいと思われる。	13期
25	C	隅丸方形 N-92°-E	429 × 416 × 24	<12.01>	東壁北寄り 不明	土 339・340・341	カマドは火床面と支柱石の抜き取り痕を残すのみである。カマド周辺の床面には礫が散乱する。中央からカマド前面には良好な床面が残っている。ピットは3基検出した。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	12期
26	C	方形? N-10°-E	380 × <128> × 31	<3.21>	不明	23住	大半は23住により喪失する。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	9期
27	C	方形 N-3°-E	342 × 336 × 16	9.6	(東壁中央) 不明		カマドは支柱石と思われる礫を残すのみである。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は土師器の杯を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器の碗が2点ある。	9期
28	C	方形 N-101°-E	540 × 565 × 32	<26.95>	東壁中央 石組	24住 土 344・347・803	カマドは袖石の一部と焼土を残す。床面はほぼ平坦である。東壁を除く壁面には周溝が見られる。ピットは10基検出され、P9は大径ピットである。また、P2・4・7・10は位置から柱穴の可能性が考えられる。遺物は土師器の鬚類を中心に出土。遺物から、24住との切り合いは所見と異なり、本址の方が古いと思われる。24住との切り合いを見誤ったことから、24住の時期と思われる遺物が混ざる。	3・4期
29	C	方形 N-91°-E	398 × 378 × 44	11.3	東壁南寄り 石組	土 770	カマドは袖石の一部と火床面が良好に残る。カマド前面の床面には、構築材と思われる10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと推定された。遺物は須恵器・黒色土器の食器類や土師器の鬚類が出土。	6・7期



遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態	遺構所見		推定時期
						カマド位置	本址より旧 本址より新	
30	C	隅丸長方形 N-79°-E	<422> × 372 × 23	<12.89>	東壁中央 石組	本址より旧 本址より新	西壁は攪乱により喪失する。カマドは袖石の一部と火床面が良好に残る。カマド範囲から前面にかけての床面には10～20cmの礫が散乱する。平面形は若干のゆがみがあり、北東隅の床面が東へ張り出している。ピットは4基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器・土師器の食器類や土師器の糞類を中心に出土。	8期
31	C	隅丸長方形 N-112°-E	354 × 322 × 9	<9.34>	(東壁中央) 不明		西壁は攪乱により喪失する。カマドは焼土の分布範囲から位置を推定した。カマド右袖脇に地山の張り出しが見られる。ピットは5基検出された。遺物は食器類を中心に出土し、特殊なものとして、墨土器がある。	8期
32	C	方形? N-89°-E	291 × (283) × 21	(6.75)	西壁南寄り 石組		小型住居址である。カマドは両袖及び支柱石を残す。焼土は少なく火床面ははっきり確認できない。床面全体には10～30cmの礫が散乱する。床面はほぼ平坦である。ピットは大型のものが1基検出された。遺物は食器類・糞類を中心に出土。	8期
33	C				不明		C区東壁の土層断面観察で確認。規模等の詳細は不明である。遺物はない。	不明
34	C	隅丸方形 N-86°-E	438 × 418 × 39	14.68	東壁中央 石組	土723 土346	カマドは両袖を残す。焼土は少なく、火床面ははっきり確認できない。床面はほぼ平坦である。ピットは7基検出され、P1・2は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の杯や土師器の糞類を中心に出土。	8期
35	C	方形 N-2°-W	476 × 440 × 39	18.28	北壁東寄り 石組	37・38住、土747	カマドは両袖及び支柱石を残す。焼土は少なく、火床面ははっきり確認できない。カマド範囲内には10～30cmの礫が散乱している。床面は平坦である。南壁には中央を除いて周溝が見られる。ピットは6基検出され、P6は貯蔵穴状のピットと推定される。P1は底部に火床面状に硬くなった焼土と礫の抜き取り痕跡のような穴が見られることから、廃絶したカマドの痕跡の可能性が考えられる。遺物は食器類を中心に出土し、特殊なものとして緑釉陶器の皿1点、須恵器の椀1点がある。	8・9期
36	C	隅丸方形 N-101°-E	466 × (382) × 30	(11.69)	(東壁中央) 不明	23住	23住に切られるが床面が深いため全面を調査できた。東壁中央付近の床面には良好な焼土面が残存しており、カマドがあった可能性が考えられる。カマド構築材等は見られない。ほぼ床面は平坦である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ない。	9期
37	C	隅丸方形 N-88°-E	451 × 446 × 43	<16.69>	東壁中央 石組	土730・745 35住、土350	35住に切られるが床面が深いため全面を調査できた。カマドは袖石の一部と良好な火床面を残す。カマド範囲内には礫の抜き取り痕が見られる。床面全体には10～20cmの礫が散乱する。床面は平坦である。ピットは6基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器や土師器の糞類を中心に出土。	7期
38	C	方形? N-13°-W	298 × <168> × 27	<3.87>	北壁西寄り 石組	35住、土349	小型住居址である。南側は35住により喪失する。カマドは袖石の一部を残す。焼土は少なく、火床面ははっきり確認できない。カマド前面の床面には構築材と思われる20～40cmの礫が散乱している。床面は平坦であり、ピットは1基検出された。遺物は少ないが、食器類が出土。	8期
39	C	隅丸長方形 N-91°-E	489 × 341 × 37	12.98	東壁北寄り 石組	40住	カマドは両袖と火床面を残す。カマド範囲内から前面にかけての床面には10～30cmの礫が散乱している。床面は平坦である。ピットは4基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	10期
40	C	隅丸長方形 N-90°-W	362 × 276 × 13	<7.38>	不明	39住、土351	平面形は若干変形しており、西壁・東壁・南壁は膨らんで弧を描く。床面は西から東方向へ若干傾斜しており、ピットは5基検出された。遺物は須恵器の食器類を中心に出土。	7期
41	C	方形 N-93°-E	483 × 468 × 54	<16.02>	東壁南寄り 石組	42住	南東部は攪乱により喪失する。カマドは両袖が良好に残る。火床面は明確でないが、焼土・炭化物は多量確認される。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物はカマドを中心に須恵器・黒色土器の食器類や土師器の糞類が出土。8・9期の遺物がまとまって確認されることから、本址を切る遺構があったと思われる。	7期
42	C	隅丸長方形 N-0°-E	572 × <411> × 60	<19.98>	不明	41住	東壁は41住により喪失する。床面には10～20cmの礫が散乱している。床面は若干の凹凸を持ちながら北から南方向へ傾斜している。ピットはない。遺物は黒色土器の食器類を中心に出土。8・9期の遺物がまとまって確認されることから、本址を切る遺構があったと思われる。	7期
43	C	長方形 N-96°-E	561 × 480 × 30	22.85	東壁中央 石組	土373 土353・354	カマドは両袖を残す。火床面ははっきり確認できないが、カマド範囲内には焼土塊及び炭化物が多量に混入している。床面は平坦である。ピットは13基検出されたが、いずれも浅い。北壁際やや西寄り床面から北壁にかけて火床面及び炭化物が広範囲に確認されることから、廃絶したカマドの痕跡の可能性が考えられ、P7は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器の杯を中心に多数出土。	9期
44	C	隅丸長方形 N-87°-E	500 × 427 × 32	16.26	東壁南寄り 石組	45住 土806	カマドは袖石の一部と火床面を残す。床面には10～20cmの礫が散乱している。床面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。ピットは5基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の食器類や土師器の糞類を中心に出土し、特殊なものとして緑釉陶器の椀がある。カマド周辺では土師器の糞が濡れたような状態で見られる。遺物から、45住との切り合いは所見と異なり、本址の方が古いと思われる。	7・8期
45	C		376 × <152> × 8	<2.80>	不明	44住	北側は44住により喪失し、南側は調査区外へ続く。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ないが、土師器の食器類・糞類が出土。遺物から、44住との切り合いは所見と異なり、本址の方が新しいと思われる。	8期
46	C	隅丸長方形 N-88°-W	509 × 385 × 24	<16.70>	不明	土764・765 土352	床面には10～20cmの礫が散乱している。ピットは6基検出された。遺物は少ないが、灰釉陶器・土師器の食器類が出土。	11・12期

遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置 カマド形態	本址より旧		遺構所見	推定時期
					床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態		
47	C	隅丸方形 N-93°-W	433 × 392 × 14 14.37	不明 (西壁中央)	本址より旧 本址より新		西壁中央付近には焼土塊と10～20cmの礫が混入するくぼみがあり、カマドの痕跡の可能性が考えられる。床面には10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出されたが、いずれも浅い。遺物は少ないが、土師器の食器類が出土。	10期
48	C	隅丸長方形? N-2°-W	<518> × <184> × 17 8.41	不明			大半は調査区外へ続く。床面は平坦である。ピットは4基検出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	8・9期
49	C	方形? N-8°-E	341 × <298> × 26 <7.17>	不明 (北西隅)		土 355	南側は攪乱により喪失する。北西隅の床面には焼土及び炭化物が堆積する範囲があり、その周囲に20～30cmの礫が散乱していることから、カマドがあった可能性が考えられる。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は黒色土器・須恵器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、羽口が3点ある。	7期
50	C	隅丸長方形? N-92°-W	<396> × 301 × 28 <8.09>	不明			北西部は攪乱により喪失し、西側は調査区外へ続く。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は少ないが、食器類が出土。平面形等から住居址ではない可能性がある。	8・9期
51	C	隅丸方形? N-6°-W	(460) × <266> × 11 <10.38>	不明 (北東隅) (石組)		土 357	西側は調査区外へ続く。北東隅には10～30cmの礫が散乱しており、礫の中には焼けているものもあることから、カマドがあった可能性が考えられる。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は少ないが、食器類を中心に出土。	9期
52	欠番							
53	D	隅丸長方形 N-92°-W	<506> × 500 × 44 <23.74>	不明	84住、土 391 83・89住、土 390・402		東側は調査区外へ続く。他の遺構に切られるが、床面が深いため大部分を調査できた。北壁と南壁に周溝が見られる。ピットは10基検出され、P11には炭化物が多量に混入していた。遺物は西側を中心に食器類が出土し、特殊なものとして、緑釉陶器片が1点ある。	14期
54	D	隅丸方形 N-9°-E	314 × 306 × 7 <6.70>	不明		土 370・371	床面は自然堆積礫が全面に露出していることから凹凸が激しい。壁面は北西隅から北壁にかけて配えることができしたが、他の壁面はつきりしない。ピットは3基検出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	11～14期
55	D		492 × <256> × 33 <10.21>	不明			南東隅は攪乱により喪失し、北側は調査区外へ続く。床面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。ピットは長円形のもの2基が検出されたが、いずれも浅い。遺物は少ないが、食器類を中心に出土。	13・14期
56	D	隅丸方形 N-21°-W	431 × 391 × 12 (13.55)	北西隅 不明			カマドは良好な火床を残すのみである。床面はほぼ平坦であるが、北東部はつきりせず壁面も検出できない。ピットは9基検出され、P3・5には柱痕が見られる。遺物は非常に少ないが、白磁片が1点出土。	15期
57	D	隅丸方形? N-3°-E	<227> × (372) × 19 <5.13>	不明	58住 65住		一部床面は65住により喪失し、北側は調査区外へ続く。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	11期
58	D	隅丸長方形 N-0°-E	513 × 413 × 13 <15.84>	東壁南寄り (石組)	57・65住		北西部は57住に、東壁北側は攪乱により喪失する。カマド周辺には構築材と思われる10～30cmの礫が散乱している。焼土・炭化物は若干見られる程度である。床面はほぼ平坦であり、ピットは3基検出された。遺物はカマド周辺を中心に黒色土器・土師器の食器類、土師器の甕類が出土。	7期
59	D	方形 N-2°-E	448 × 406 × 42 <9.60>	不明 (東壁南寄り)	土 835		北西部は調査区外へ続く。砂礫層を掘り込んでため、床面はつきりせず自然礫が露出する。ピットは3基検出され、P2は焼土・炭化物が混入することから、カマドの痕跡の可能性が考えられる。遺物は土師器の甕類、黒色土器を中心に出土。	7期
60	D	隅丸方形 N-1°-W	360 × 332 × 27 <9.10>	東壁中央 不明	61住 土 376・377		床面は平坦である。カマドは石材の抜き取り痕が確認されるのみで軸石等は見られない。ピットはない。遺物は食器類を中心に出土。	8期
61	D	方形 N-1°-E	286 × <181> × 11 <4.13>	不明	60住、土 376・814		小型住居址である。60住等により喪失する部分があり、北側は調査区外へ続く。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は少ないが、食器類や土師器の甕類が出土。	7・8期
62	D	隅丸長方形 N-88°-W	506 × 402 × 31 14.55	不明	64・68住 63・67住		63・67住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。床面はほぼ平坦であり、ピットは1基検出された。遺物は食器類を中心に出土し、特殊なものとして緑釉陶器3点、鑿1点がある。	13期
63	D	隅丸長方形 N-81°-W	398 × 294 × 14 <7.64>	不明	62・64・67・68住		北東部は攪乱により喪失する。床面は若干の凹凸が見られるもののほぼ平坦であり、大型のピット1基が検出された。遺物は灰釉陶器・黒色土器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器が1点ある。	13期
64	D	隅丸長方形 N-6°-E	600 × 498 × 41 25.66	北壁中央 (石組)	68住 62・63・67住、土 383		大型住居址である。周囲の遺構に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは壁体が残って硬くなった煙道を残すが、全体的に焼土・炭化物は少ない。南側の床面には10～30cmの礫が散乱している。床面は平坦であり、ピットは1基検出された。遺物はカマド周辺を中心に食器類が出土。	13期
65	D	隅丸方形? N-125°-E	336 × <101> × 29 <2.38>	南東端 石組	57・58住		北側の大半は調査区外へ続く。カマドは両袖が残り、焼土・炭化物が若干残存している。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	11期

遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態	遺構所見		推定時期
					本址より旧 本址より新		
66	D	隅丸方形 N-84°-W	692 × 636 × 25 (38.35)	不明	77 住	大型住居址である。南東隅には 10～20cmの礫が散乱している。中央床面には、北寄りと南寄りに焼土堆積が確認できる。床面はほぼ平坦である。ピットは 4 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は特殊なものとして、土師器の皿 1 点、緑釉陶器の碗 1 点が出土。	14 期
67	D	隅丸方形 N-6°-E	382 × 368 × 14 <6.55>	不明	62・64・68 住 63 住	南側は 63 住と攪乱により喪失する。床面はほぼ平坦でピットはない。遺物は少ないが、緑釉陶器片が 1 点出土。	13 期
68	D	隅丸長方形 N-6°-E	415 × <272> × 37 <7.33>	不明	土 844・845 62・63・64・67 住	大半は 62・63・64・67 住及び攪乱により喪失する。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	8・9 期
69	D	隅丸長方形 N-86°-W	488 × 396 × 30 (16.11)	不明	70・71・72・73・74 住	北壁東寄りには 10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは 4 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は食器類、土師器の甕類が出土し、特殊なものとして、緑釉陶器の碗 2 点、羽口 1 点がある。	13 期
70	D	隅丸方形 N-11°-E	430 × <300> × 28 <5.57>	北壁中央 石組	71 住、土 389 69・74 住、土 382・386	西側は 69・74 住、東側は土 382・386 により喪失する。カマドは両袖が残り、火床面としての焼土が若干見られる。カマド範囲内には 10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦であり、ピットは 1 基検出された。遺物はカマド周辺と南東部を中心に出土し、特殊なものとして緑釉陶器片が 1 点ある。	13 期
71	D		482 × <162> × 23 <2.01>	不明	73 住 69・70 住、土 389	床面の大半は他の遺構及び攪乱により喪失する。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器の皿が 1 点ある。	13 期
72	D	隅丸方形 N-4°-E	358 × (328) × 11 <6.80>	不明	73・74 住 69 住	北東部は 69 住により喪失する。床面はほぼ平坦で、ピットはない。遺物は非常に少なく、図示したのも 73 住の混入品と思われる。切り合いから 13 期と推定される。	13 期
73	D	隅丸長方形	563 × 482 × 26 <10.23>	不明	69・71・72・74 住	北東部床面は他の遺構により喪失する。床面はほぼ平坦である。ピットは南西隅に 1 基検出されたが、浅い。遺物は壁沿いを中心に土師器の甕類、須恵器の杯が出土。緑釉陶器片が 2 点出土したが、本址を切る遺構の混入品と推定される。	4 期
74	D	隅丸方形 N-4°-E	447 × <200> × 19 <7.40>	不明	70・73・75 住 69・72 住	南側は 69・72 住により喪失する。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ないが、緑釉陶器の碗が 4 点出土。	13 期
75	D		<220> × <52> × 12 <0.50>	不明	74 住	大半は 74 住により喪失し、北西部の一部を残すのみである。遺物はない。切り合いから 13 期以前と推定される。	13 期以前
76	欠番						
77	D		429 × <115> × 18 <3.53>	不明	66 住	大半は 66 住により喪失し、床面の一部を残すのみである。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	12・13 期
78	D	隅丸方形 N-82°-E	432 × 414 × 37 14.45	東壁北端 石組	土 381・384・387	カマドは両袖と火床面を残し、カマド範囲内には 10～20cmの礫が散乱している。カマド右脇の東壁北寄りの壁は、東側へやや膨らみテラス状になる。カマド施設の一部の可能性が考えられる。床面はほぼ平坦である。ピットは 3 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、灰釉陶器の小瓶が 1 点ある。	13 期
79	D	隅丸方形 N-93°-W	604 × 570 × 27 29.46	不明	80 住・土 907	大型住居址である。床面はほぼ平坦である。ピットは 12 基検出され、P4・11 には柱痕が見られる。中央やや南寄りの覆土内に焼土が堆積する層が見られたが、位置から本址に伴う焼土ではなく、本址を切る遺構が存在した可能性が考えられる。遺物は特殊なものとして、白磁片 3 点、芋引金具 1 点が出土。	15 期
80	D	方形 N-6°-W	420 × 394 × 15 <11.74>	不明	土 917 79 住、土 388	北東は 79 住により喪失する。床面の中央付近では良好な焼土と炭化物が見られる。床面は平坦であり、ピットは 4 基検出された。遺物は非常に少ないが、白磁 3 点、山茶碗 1 点出土。	15 期
81	D	方形 N-89°-E	468 × 434 × 34 16.66	東壁中央 不明		カマドは良好な火床面を残すのみである。床面は平坦である。ピットは 2 基検出され、P1 は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物はカマド周辺を中心に、須恵器の杯・杯蓋・横皿、土師器の甕類などが出土。	4 期
82	D	隅丸方形 N-87°-E	303 × 284 × 16 6.87	東壁北端 石組	土 385	カマドは軸石の一部と良好な火床面を残す。また、東壁中央はテラス状の段が見られる。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少なく、混入品もある。	13 期以降
83	D	隅丸方形? N-15°-E	502 × <334> × 21 <13.92>	不明	53・84・89 住、土 402	東側は調査区外へ続く。床面中央付近には焼土及び炭化物が見られる。ピットは 5 基検出され、P3 には柱痕が見られた。遺物は少ないが、白磁の碗が 4 点出土。	15 期
84	D	隅丸方形? N-94°-W	<463> × <209> × 19 <5.40>	不明	53・83・89 住、土 395・401	北側は 53・83・89 住により喪失し、東側は調査区外へ続く。床面は若干の凹凸があるもののほぼ平坦である。ピットはない。遺物は非常に少ない。	14 期



遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置		本址より旧 本址より新	推定時期
				カマド位置	カマド形態		
85	D	隅丸方形 N-76°-E	524 × 473 × 20 22.37	東壁北端 石組	本址より新	カマドは袖石の一部と良好な火床面を残し、周辺には構築材と思われる10～20cmの礫が散乱している。カマド左袖脇にあたる北東隅には凹みが見られる。床面中央南寄りへ硬い焼土及び炭化物の分布が見られる。床面は平坦である。ピットは1基検出された。遺物は少ないが、土師器の皿1点、緑釉陶器2点、白磁碗1点が出土。	14期
86	D	隅丸長方形 N-83°-E	473 × 403 × 29 15.55	東壁北端 石組	87・88住	カマドは面袖と支柱石を残す。煙道部壁体で焼けて硬くなった部分があるものの、焼土は少なく火床面は確認できない。カマド範囲内には構築材と思われる礫が散乱している。覆土内には10～30cmの礫が混入しているが、床面より高いことから埋没過程に混入した可能性が考えられる。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出され、貯蔵穴状のピットと思われる。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	15期
87	D	隅丸方形 N-98°-E	341 × 296 × 24 <6.55>	東壁南寄り 石組	86住、土394	南西部は86住により喪失する。カマドは袖石と火床面を残す。また、煙道の壁体も焼けて良好に残存する。カマド周辺の床面には10～30cmの礫が散乱している。床面は平坦である。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと思われる。遺物はカマド内外から土師器・灰釉陶器の食器類や土師器の甕類が出土。	8期
88	D	方形 N-3°-E	474 × 458 × 8 <9.35>	不明	86住	北東は86住により喪失する。床面は平坦である。ピットは北西隅に2基検出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	6・7期
89	D	長方形? N-2°-E	600 × <281> × 32 <15.40>	不明	53・84住 83住、土402	東側は調査区外へ続く。西壁中央の床面上に焼土と炭化物が見られ、カマドの痕跡とも考えられるが不明。床面はほぼ平坦である。ピットは4基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	14・15期
90	D	隅丸長方形 N-88°-E	478 × 440 × 26 <17.37>	東壁北寄り 不明	91・93住	攪乱と91・93住に切られるが、床面が深いためほぼ全体を調査できた。カマドは火床面と袖石の一部と思われる礫が残存する。床面は平坦である。ピットは南東隅に2基検出された。遺物は東側を中心に土師器・灰釉陶器の食器類が出土。	14期
91	D	隅丸長方形 N-87°-W	<464> × 348 × 33 <14.03>	不明	90・93住	東壁は攪乱により喪失する。床面の中央やや東寄りの位置に焼土と炭化物が見られ、周囲には10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。南壁に周溝が見られ、ピットは6基検出された。遺物は少ないが、灰釉陶器・土師器の食器類を中心に出土。	14期
92	D	隅丸方形 N-4°-E	402 × 372 × 31 12.16	北壁西寄り 石組	土404・919 土393	カマドは袖石の一部、支柱石及び良好な火床面を残す。東壁中央には扉り出しや炭化物を伴うくぼきみ確認されることがから、隣接したカマドの痕跡の可能性が考えられ、東壁を何らかの理由で北壁に移動新設した可能性が推測できる。床面中央には10～30cmの礫が散乱している。床面は平坦であり、ピットは3基検出された。遺物は土師器の甕類や黒色土器の食器類を中心に出土。	7期
93	D	隅丸長方形 N-87°-W		不明	90住 91住	東壁は攪乱により喪失し、北側は調査区外へ続く。さらに91住とほとんど重複しているため壁面の一部を残すのみである。遺物は非常に少ない。	14期
94	D	隅丸方形 N-84°-E	397 × 371 × 10 <11.55>	(東壁北端) 不明	95住	東壁北端は焼土塊及び炭化物が混入していることから、カマドと推定される。床面は自然堆積層の礫が露出していることから若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。ピットは2基検出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	14期
95	D	隅丸方形 N-0°-E	396 × 364 × 17 <7.19>	不明	99住	北東隅は94住に、中央は土399により喪失する。床面は自然堆積層の礫が露出していることから若干凹凸が見られるものの、ほぼ平坦であり、ピットは少ない。遺物は少ないが、土師器・黒色土器の食器類や土師器の甕類が出土。	9期
96	D	隅丸方形 N-6°-E	508 × 494 × 32 <21.34>	東壁北端 石組	99・101住 土398	カマドは若玉の焼土塊及び炭化物を残すのみである。カマド周辺の床面には10～20cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは6基検出された。遺物は特殊なものとして、緑釉陶器2点、砥石1点が出土。	12・13期
97	D	隅丸方形 N-3°-E	358 × 348 × 21 <9.27>	不明	99住、土891	東壁及び床面の一部は攪乱により喪失する。床面中央には10～30cmの礫が広範囲に散乱しており、埋没過程に混入した可能性が考えられる。床面は平坦であり、ピットは4基検出された。遺物は食器類や土師器の甕類が出土。	8期
98	D	隅丸長方形 N-88°-W	378 × 262 × 32 6.47	不明	99住 土403	平面形は否みを持っていない。中央やや北寄りの床面には10～30cmの礫が見られる。床面はほぼ平坦で、ピットはない。遺物は少ないが、緑釉陶器が1点出土。	7期
99	D	隅丸長方形 N-94°-E	516 × 412 × 39 <10.77>	東壁中央 石組	95・96・97・98住、 土403・406・407	周囲の遺構に切られるが、床面が深いことから、北側以外は調査ができた。カマドは袖石の一部を残し、周辺には構築材と思われる10～30cmの礫が散乱している。しかし、焼土・炭化物は少なく良好な火床面は確認できない。床面はほぼ平坦である。ピットは南東隅に3基検出されたが、いずれも浅い。遺物は食器類や土師器の甕類が出土。	7期
100	D	方形 N-5°-E	492 × 468 × 30 <19.03>	(西壁中央) (石組)	105・112住、土409	西壁中央床面には焼土、炭化物を伴う集礫が見られ、カマドの痕跡と推測される。床面には10～30cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦であり、ピットは8基検出された。遺物は土師器・灰釉陶器の食器類を中心に出土。	9期
101	D	隅丸方形 N-6°-E	552 × 472 × 26 <5.85>	不明	115住 96住、土397	大半は96住により喪失する。床面は東から西方向へ若干傾斜している。ピットはない。遺物は非常に少ないが、緑釉陶器の碗が1点出土。	11・12期



遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置 カマド形態	本址より旧		遺構所見	推定時期
					本址より旧	本址より新		
102	D	隅丸方形 N-108°-E	518 × 488 × 37 床面積 (㎡) <11.61>	東壁南寄り 石組	103・104 住		北西部は 103・104 住により喪失する。カマドは両袖が残存し、構築材と思われる 10～30cm の礫が散乱している。カマド煙道部 壁体は良く焼けているもの、カマド内に良好な火床面は確認できない。カマド窓口及び左袖部には焼けて硬くなった焼土が見られ、 周辺の床面には炭化物が見られる。床面は平坦である。ピットはカマド周辺に 3 基検出されるが、いずれも浅い。遺物はカマド周辺 を中心に土師器の糞類や食器類が出土。 カマドは袖石の一部を残す。床面は平坦であり、ピットは 4 基検出された。遺物は 104 住のものが大量に混ざり、本址の時期を示 す土器で実測が可能なものは非常に少なかった。 12・13 期	7 期
103	D	隅丸方形 N-0°-E	358 × 322 × 47 9.47	東壁南寄り 不明	102・104 住 土 412		カマドは袖石の一部を残す。床面は平坦であり、ピットは 4 基検出された。遺物は 104 住のものが大量に混ざり、本址の時期を示 す土器で実測が可能なものは非常に少なかった。 12・13 期	12・13 期
104	D	隅丸方形 N-85°-E	614 × 568 × 43 <18.12>	東壁中央 石組	102・147 住 103 住、土 405・412		大型住居址である。中央床面は 103 住により喪失する。カマドは両袖と支柱石を残し、カマド範囲内には構築材と思われる 10～ 30cm の礫が散乱している。床面は若干凹凸が見られるもの、ほぼ平坦である。ピットは 7 基検出され、P2 は貯蔵が状のピットと推 定される。遺物は土師器・灰細陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、緑細陶器片 1 点、鉄鎌 1 点がある。 9 期	9 期
105	D		<254> × <74> × 24 <1.18>	不明	土 409 100 住		大半は 100 住と攪乱により喪失する。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。 9 期	9 期
106	D	隅丸方形	435 × 364 × 20	不明	109・110・115・124 住、 土 410		床面は若干の凹凸があるものの、ほぼ平坦である。ピットは 8 基検出された。遺物は混入品が多く、本址の時期を示す土器で実測が 可能なものはなかった。 15 期	15 期
107	D	N-86°-W 隅丸長方形 N-74°-E	330 × 284 × 18 (7.71)	北東端 石組	108 住		カマドは両袖と支柱石を残す。火床面は焼土が少なく確認できない。床面中央には 10～30cm の礫が多量に散乱する。遺物は土師器 の食器類を中心に出土。 12・13 期	12・13 期
108	D	方形 N-98°-E	434 × 431 × 26 16.12	(東壁中央) 不明	土 932 107 住		床面中央は 107 住により喪失する。東壁中央に炭化物や焼土を伴うくぼみが見られ、カマドと推定される。床面はほぼ平坦である。 ピットは 1 基検出されたが、浅い。遺物は土師器の糞類や須恵器・黒色土器の食器類、紡錘車 1 点が出土。 7 期	7 期
109	D	隅丸方形 N-93°-E	450 × 434 × 29 <15.55>	東壁南寄り 石組	115・124 住 106・110 住、土 410		106・110 住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは両袖と支柱石を残す。焼土が若干見られる程度で火床面は 確認できない。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は食器類や土師器の糞類を中心に出土。 8 期	8 期
110	D	隅丸方形 N-161°-E	608 × 622 × 21 <22.93>	南壁東端 石組	109・115・124 住 106 住、土 410		大型住居址である。南西部は 106 住により喪失する。カマドは袖石の一部と良好な火床面を残す。カマド周辺の床面には 10～30 cm の礫が散乱している。カマド左袖脇には 10～20cm の礫が水平に敷かれており、カマドの横に何らかの施設があった可能性がある。 床面は平坦である。ピットは 6 基検出され、P6 は貯蔵が状のピットと推定される。遺物は特殊なものとして、白磁の甕 2 点が出土。 切り合い関係にある遺構の遺物と思われるものも混入している。 15 期	15 期
111	D	隅丸長方形 N-3°-E	418 × 368 × 14 <12.31>	不明	113 住		南壁は 113 住により喪失する。床面は平坦であり、ピットは 2 基検出された。遺物は少ないが、土師器の糞類を中心に出土。 8 期	8 期
112	D	方形? N-98°-E	374 × <188> × 10 <6.41>	東壁中央 不明	100 住、土 408		西側は 100 住により喪失する。また、北壁の一部と西壁ははつきり確認できない。カマドは袖石の一部を残すのみで、焼土等は見ら れない。床面は自然砂礫層が表面に出ているため凹凸が激しい。ピットは 4 基検出された。遺物は非常に少ないが、P2 から黒色土 器の杯が完形に近い形が出土。 7 期	7 期
113	D	隅丸方形 N-3°-E	387 × 378 × 15 12.43	北壁中央 不明	111 住、土 411		カマドは焼土等を散見する程度である。床面は若干の凹凸があるものの、ほぼ平坦である。ピットは 6 基検出された。遺物は灰細陶器・ 土師器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、刀子が 1 点ある。 9 期	9 期
114	D	隅丸方形 N-5°-E	536 × 502 × 22 <22.56>	不明	土 423・933・934 土 422		南側の床面は一段高くなっている。北西部には 10～40cm の礫が散乱する。ピットはない。遺物は土師器の杯を中心に出土し、特殊 なものとして、緑細陶器の甕 4 点や土鎌 1 点がある。 9 期	9 期
115	D	隅丸長方形 N-91°-E	590 × 462 × 35 24.6	東壁中央 不明	124 住 101・106・109・110 住、 土 397		他の遺構に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは煙道部の壁体が良く焼けているもの、床面の焼土は少なく火 床面は確認できない。床面は北から南方向へ傾斜している。ピットは 6 基検出され、P7 は大型ピットである。遺物は黒色土器・灰 細陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、緑細陶器片が 1 点ある。 8 期	8 期
116	D	隅丸長方形 N-88°-W	406 × 321 × 11 10.66	不明	土 559		西壁中央付近の床面には 10～30cm の礫の集積が見られる。床面はほぼ平坦である。ピットは西壁中央付近に 1 基検出された。遺物 は非常に少ない。 9・10 期	9・10 期
117	D	隅丸長方形 N-80°-W	321 × 241 × 9 <5.97>	(西壁北端) 不明	土 418		北西隅壁際に火床面が見られることから、カマドがあった可能性が考えられる。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常 に少ないが、緑細陶器片が 1 点出土。 13 期	13 期
118	欠番							
119	D		<443> × <392> × 32 <12.15>	北壁東寄り 石組	土 629・645・646・ 936		南側と西側は調査区外へ続く。カマドは袖石の一部と支柱石を残し、カマド範囲内には構築材と思われる 10～30cm の礫が散乱して いる。床面には薄く焼土が堆積する程度で、火床面は確認出来ない。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物はカマド周辺で土 師器の糞類が出土したほか、土師器の食器類を中心に出土。特殊なものとして、緑細陶器片が 1 点ある。 8 期	8 期

遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置 カマド形態	本址より旧		遺構所見	推定時期
					床面積 (㎡)	本址より新		
120	F	方形 N-98°-W	516 × 492 × 28 22.39	西壁中央 石組			カマドは両袖を残し、前面の床面には10～30cmの礫が散乱している。焼土は少なく、火床面ははつきりしない。床面はほぼ平坦である。カマドのある西壁を除く北壁・東壁・南壁には、壁柱穴が各面に2基ずつ等間隔に配置している。遺物は黒色土器の食器類や土師器の甕類を中心に出土し、特殊なものとして、墨書土器が1点ある。	7期
121	F	方形 N-1°-E	306 × 304 × 6 (8.52)	不明	122住		ピットは2基検出し、P1は覆土に焼土が混ざる。遺物は非常に少ない。	7期
122	F	隅丸方形 N-89°-W	636 × 580 × 7 <30.82>	不明	121住		大型住居址である。床面には焼土・炭化物の堆積が見られたが、位置的にカマドの残存とは考えにくい。床面はほぼ平坦であり、北西側には周溝が見られる。ピットは10基検出された。遺物は少ないが、特殊なものとして、白磁碗の破片が5点ある。	14・15期
123	F	隅丸方形? N-90°-E	423 × <222> × 32 <8.23>	東壁 不明			南側は調査区外へ続く。カマドは火床面を残すのみで、軸石は見られない。カマド周辺の床面には10～40cmの礫が多数散乱している。ピットはない。遺物は土師器の甕類を中心に出土。	7期
124	D	方形 N-99°-E	662 × 658 × 48 <38.93>	(東壁中央) 不明	125・147住 106・109・110・115住、 土425・428、炉1		大型住居址である。北東部壁面は他の遺構により喪失する。床面はほぼ平坦である。ピット17基のうち、主柱穴4基、壁柱穴8基を検出した。P2は覆土内に焼土・炭化物が堆積していることからカマドの遺跡と推測されるが、詳細は不明である。遺物は黒色土器を中心に多数出土し、特殊なものとして、緑釉陶器皿が1点ある。南東隅床面では黒色土器の杯・椀、灰釉陶器がまとまって出土した。また、P12からは富寿神室1枚が立つよう出土している。	7・8期
125	D	方形? N-79°-W	411 × <284> × 18 <10.27>	西壁中央 不明	124住、土424・426・ 427・428・429・ 430・431		東側は124住により喪失する。カマドは石材の抜き取り痕が確認されるのみで、軸石等は見られない。床面はほぼ平坦である。ピットは5基検出され、P6は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は食器類や土師器の甕類を中心に出土。	7期
126	F	隅丸方形? N-94°-W	344 × <203> × 59 <5.87>	(西壁中央) 不明	127住		東側は調査区外へ続く。カマドは焼土の堆積状況から西壁中央にあったと思われる。南壁から西壁南側には周溝が見られる。遺物は非常に少ないが、土師器の甕類が出土。	7期
127	F	隅丸方形 N-89°-W	318 × 308 × 13 <8.08>	西壁南寄り (石組)	126住		カマドは火床面を良好に残し、床面には軸石と支柱石の抜き取り痕が見られる。東壁南側から南壁には周溝が見られる。ピットは4基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は非常に少ないが、黒色土器の食器類や土師器の甕類が出土。	7期
128	F	隅丸長方形 N-91°-E	<360> × 320 × 56 <9.50>	東壁中央 石組	溝4		東側は調査区外へ続く。カマドは袖石と支柱石を残すが、焼土は少なく火床面ははつきりしない。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の食器類や土師器の甕類が出土。	7期
129	F	隅丸方形 N-91°-E	584 × <406> × 22 <17.89>	(東壁中央) 不明	土950		南側は調査区外へ続く。平面形は変形しており、北壁が大きく膨らんでいる。焼土等の状況から東壁中央にカマドがあったと推定される。ピットは7基検出された。遺物は食器類や土師器の甕類を中心に出土。	7期
130	J	隅丸方形 N-91°-E	324 × 304 × 29 7.56	東壁北寄り 石組			カマドは袖石と火床面を残す。床面はほぼ平坦である。ピットは5基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の杯や土師器の甕類を中心に出土。	7期
131	J	隅丸方形? N-82°-W	522 × <256> × 42 <10.84>	西壁北端 石組			東側は調査区外へ続く。カマド周辺の床面には構築材と思われる礫が散乱している。焼土の残りが悪く、火床面ははつきりしない。カマドの右袖にあたる壁面は大きく北側に膨らんで空間を形成している。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。ピットは6基検出され、P3は大型のピットである。遺物は少ないが、土師器の食器類が出土。	14期
132	K	隅丸長方形 N-81°-E	608 × 505 × 18 27.57	東壁北端 石組	土433		大型住居址である。カマドは両袖を残すが、焼土等の残存状態は悪く、火床面は確認できない。床面はほぼ平坦である。ピットは5基検出され、貯蔵穴状のピットと推定される。P5からは土師器の杯・皿及び炭化物が確認された。遺物は土師器の食器類を中心に出土。	15期
133	K	隅丸方形? N-93°-E	380 × <290> × 41 <8.99>	西壁中央 不明	土434・435		北側は調査区外へ続く。カマドは火床面を良好に残す。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。ピットは5基検出されたが、いずれも浅い。遺物は少ないが、土師器の甕類を中心に出土。	6期
134	K	隅丸方形 N-5°-W	400 × 326 × 18 (11.25)	北壁東寄り 石組	135住		カマドは両袖及び崩れた状態の天井石を残すが、火床面ははつきりしない。カマド周辺には礫が散乱している。床面は凹凸が見られるがほぼ平坦である。ピットは3基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器・須恵器の杯や土師器の甕類を中心に出土。	7期
135	K	隅丸長方形 N-2°-E	442 × 425 × 16 <6.80>	不明	134住		大半は134住により喪失する。ピットは3基検出され、P2は大型のピットである。遺物は非常に少ないが、土師器の甕類を中心に出土。	6期
136	H	隅丸方形 N-105°-E	393 × 384 × 24 <12.05>	東壁中央 不明	137住 土437・438		カマドは火床面を良好に残し、支柱石の抜き取り痕と思われる穴が見られる。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器・須恵器の食器類や土師器の甕類を中心に出土。	7期
137	H	方形 N-91°-E	192 × 168 × 34 <10.97>	東壁中央 石組	138住 136住		小型住居址である。カマドは両袖と良好な火床面を残す。P1は大型のピットである。遺物は土師器の甕類を中心に出土。	7期

遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置 カマド形態	本址より旧 本址より新	遺構所見		推定時期
						床面積 (㎡)		
138	H	隅丸方形 N-77°-W	340 × 311 × 38 8.75	西壁中央 石組	本址より新 137住		137住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは両袖と良好な火床面を残す。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出され、P3は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器の甕類を中心に出土。	6期
139	H	隅丸長方形 N-90°-E	370 × 308 × 23 9.39	不明	溝11		西壁際の覆土内には焼土塊が若干混入する。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ないが、土師器の甕類や須恵器の杯が出土。	6期
140	H	方形 N-91°-W	392 × 390 × 22 12.49	西壁中央 不明	土439		カマドは火床面のみを残す。床面はほぼ平坦である。ピットは4基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土師器の食器類や土師器の甕類を中心に出土。	7期
141	H	隅丸方形? N-2°-E	287 × (280) × 12 (6.84)	不明	土447・449・982		小型住居址である。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	9期
142	H	隅丸方形? N-6°-E	496 × <370> × 31 <14.92>	東壁南寄り 石組	146住		南壁は調査区外へ続く。146住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは火床面のみを残す。カマド周辺の床面には10～30cmの礫が散乱している。ピットは9基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器・黒色土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。146住の混入品と思われる遺物もある。	9期
143	H	隅丸方形? N-87°-W	<330> × <200> × 12 <4.88>	西壁中央 石組	土450		南東部は調査区外へ続く。カマドは良好な火床面を残す。床面は若干の凹凸があるがほぼ平坦である。ピットは4基検出された。遺物は少ないが、土師器の甕類を中心に出土。	6期
144	H		478 × <110> × 18 <4.01>	不明			大半は調査区外へ続く。詳細は不明である。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ない。	8・9期
145	欠番							
146	H	方形? N-3°-E	444 × <240> × 22 <9.13>	不明	142住		南側は調査区外へ続く。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ないが、灰軸陶器・土師器・黒色土師器の食器類が出土。	9・10期
147	D		442 × <72> × 31 <2.16>	不明	104・124住		床面の大半は104・124住により喪失する。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ない。	6・7期
148	D			(東壁) 不明			袖石と思われる礫や硬い火床面が確認されたことから、住居址及びカマドの痕跡であると推定したが、平面形等の詳細は不明である。検出位置から、P1は本址に伴うピットと判断した。遺物は非常に少ない。	不明
149	L	隅丸長方形 N-4°-E	(434) × 378 × 24 (14.98)	北壁中央 石組	151住		カマドは両袖・支柱石・火床面を残す。カマド前面の床面には構築材と思われる10～30cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は灰軸陶器・土師器の食器類を中心に出土し、カマド周辺からは土師器の甕が出土。	9期
150	L	方形? N-9°-E	312 × <207> × 26 <5.45>	不明	151住 土459		南側は調査区外へ続く。床面はほぼ平坦である。ピットは1基検出されたが、浅い。遺物は非常に少ない。	9期
151	L	隅丸長方形 N-83°-W	547 × 454 × 19 <20.37>	(西壁中央) (石組)	149・150住		149住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドの位置ははっきり捉えることが出来ないが、西壁中央付近で礫がまわって出土したことから、この付近と推定される。ピットは8基検出された。遺物は黒色土師器・土師器の食器類を中心に出土。	8期
152	L	隅丸方形 N-8°-E	406 × 400 × 18 13.98	不明	156・159住		平面形は若干ゆがみが見られる。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。ピットは6基検出された。遺物は土師器の甕類や黒色土師器の食器類を中心に出土。	8期
153	L	隅丸長方形 N-83°-W	526 × 395 × 28 <16.75>	不明	158住、土478・495 炭2、土475・476・477		ピットは8基検出されたが、いずれも浅い。遺物は8・9期及び10・11期の2つの時期のものが出土。更に、北壁と南壁の中央付近に不自然な屈曲が見られることから、本来は2軒の切り合いがあったが、捉えられずに1軒としてしまったと思われる。	8・9期 10・11期
154	欠番							
155	欠番							
156	L	隅丸長方形? N-92°-E	240 × <183> × 11 <3.61>	不明	152住		小型住居址である。西側は152住により喪失する。床面は東から西方向へ若干傾斜している。ピットは北東壁際で1基検出された。遺物は非常に少ないが、黒色土師器・土師器の食器類や土師器の甕類が出土。	8期
157	L	N-10°-E	410 × 236 × 11 7.52	不明	土460・1021		床面は若干の凹凸はあるもののほぼ平坦である。ピットはない。遺物は非常に少ないが、黒色土師器の食器類や土師器の甕類が出土。	8・9期
158	L	隅丸方形? N-92°-E	403 × <116> × 21 <2.82>	不明	153・159住、土498		大半は他の遺構により喪失するため、詳細は不明である。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ないが、黒色土師器の食器類や土師器の甕類が出土。	8期
159	L	隅丸方形? N-92°-E	305 × <86> × 23 <2.06>	不明	158住、土498 152住		北側の大半は152住により喪失するため、詳細は不明である。床面は平坦であり、ピットはない。遺物は非常に少ないが、黒色土師器の食器類や土師器の甕類が出土。	8期



遺構 No.	地区	平面形 主軸方向	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置 カマド形態	遺構所見		推定時期
					本址より旧	本址より新	
160	M	N-88°-E	<236> × <170> × 77	東壁北寄り 石組	162住	南側は162住により喪失し、西側は調査区外へ続く。カマドは両袖を残し、カマド内には10～20cmの礫が残存している。焼土は少なく、火床面ははっきりしない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは2基検出された。遺物は少ないが、灰軸陶器・土師器の食器類を中心に出土。	12・13期
161	M	隅丸方形? N-3°-W	302 × <230> × 33 <5.92>	不明	162住	西側は調査区外へ続く。床面中央には良く焼けて硬くなく、遺物から北方向へ若干傾斜している。ピットは6基検出された。遺物は非常に少なく、遺物から14期以降と推定される。	14期以降
162	M	隅丸方形? N-2°-W	(372) × <270> × 55 <7.93>	不明	160住 161住	西側は調査区外へ続く。161住に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。東壁際や北寄りの床面には焼土が堆積している。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは7基検出され、P1・6は大型ピットである。遺物は非常に少ないが、土師器・灰軸陶器・黒色土器の食器類が出土し、特殊なものとして、白磁の碗が1点ある。	14期
163	M	隅丸長方形? N-96°-W	356 × <308> × 32 <9.67>	不明	164・171・172住、 土511・1081	西側は調査区外へ続く。ピットは4基検出された。遺物は土師器・灰軸陶器の食器類や土師器の羽釜を中心に出土。	13・14期
164	M	隅丸方形? N-115°-E	457 × <248> × 66 <9.54>	東壁南隅 不明	171・172住 163住、土511・1081	西側は調査区外へ続く。カマドは良好な火床面を残すのみで、袖石等は見られない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは3基検出された。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	13期
165	M	隅丸長方形 N-2°-W	544 × 483 × 45 21.72	東壁北端 石組	土503・504	カマドは構築材と思われ、10～20cmの礫が散乱しているのみである。焼土は少なく、火床面ははっきりしない。床面はほぼ平坦である。北壁から西壁の北側及び南壁の一部には周溝が見られる。ピットは14基検出され、P14は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器の杯や灰軸陶器の碗を中心に出土。	14・15期
166	M	隅丸長方形 N-69°-E	493 × 334 × 41 13.31	東壁北端 石組	土512・513・514	カマドは袖石の一部と火床面を残し、周辺には構築材と思われ、10～30cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは4基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	13期
167	M	隅丸方形? N-99°-E	386 × <194> × 30 <6.58>	東壁北端 石組	土1064 土506	南側は調査区外へ続く。カマドは袖石の一部と火床面を残し、周辺には構築材と思われ、10～20cmの礫が散乱する。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出され、P3は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	12・13期
168	M	方形 N-75°-W	472 × 432 × 15 <17.99>	西壁北端 不明		東壁の一部は礫乱により喪失する。カマドは火床面を残すのみで、袖石等は見られない。床面はほぼ平坦である。南壁から西壁南側には周溝が見られる。ピットは1基検出された。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	13期
169	M	隅丸方形 N-86°-E	424 × 416 × 19 <15.43>	東壁北寄り 石組		南西部は調査区外へ続く。カマドは両袖と良好な火床面を残す。カマド内及び周辺の床面には構築材と思われ、10～40cmの礫が散乱している。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	13期
170	M	隅丸長方形? N-85°-E	614 × <183> × 45 <7.83>	東壁北端 石組	土510	北西部は土510により喪失し、南側は調査区外へ続く。カマドは袖石の一部と火床面を残す。床面はほぼ平坦であり、中央には焼土・炭化物が見られる。ピットは6基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	14期
171	M	隅丸方形? N-86°-E	<272> × <342> × 53 <4.47>	東壁北寄り 不明	172住 163・164住、土500・ 509・511	大半は164住により喪失し、西側は調査区外へ続く。カマドは煙道を残すのみで、袖石等は見られない。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出された。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	12・13期
172	M	隅丸方形? N-1°-W	458 × <250> × 20 <9.79>	北壁東寄り 不明	163・164・171住、 土511	西側は調査区外へ続く。他の遺構に切られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは煙道を残すのみで、袖石等は見られない。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ない。	12・13期
173	F	方形 N-91°-E	267 × 262 × 14 5.73	東壁北寄り 石組		小型住居址である。カマドは両袖を残す。焼土は少なく、火床面ははっきりしない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは少ない。遺物は非常に少ないが、土師器の甕類を中心に出土。	6期
174	A	方形 N-5°-E	376 × <244> × 34 <7.58>	不明	土89・97・100	東側は調査区外へ続く。東壁際床面には20～30cmの礫が散乱する。床面はほぼ平坦である。ピットはない。遺物は土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	14期
175	A	方形 N-1.5°-E	336 × 316 × 14 9.35	不明	土95・96	東壁北寄りには炭化物が集中する範囲が見られるが、袖石や焼土等が見られないためカマドと断定できない。ピットは1基検出された。遺物は土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土し、特殊なものとして、刀子が1点ある。	12期
176	B	隅丸長方形 N-87.5°-E	398 × <216> × 54 <6.4>	東壁北寄り 不明		北側は調査区外へ続く。カマドは火床面を残すのみである。床面はほぼ平坦で、焼土が散乱する。ピットは4基検出された。遺物は少ないが、土師器・灰軸陶器の食器類を中心に出土。	13期

測量数値

<>:残存値、():推定値



第2表 竪穴建物址・竪穴状遺構一覧表

遺構No.	地区	平面形	長軸×短軸×深 (cm)	本址より旧	遺構所見	推定時期
		主軸方向	床面積 (㎡)	本址より新		
1	A	隅丸長方形	946 × 506 × 42		大型遺構である。北壁東寄りと南西隅壁の2カ所にテラス状の段が見られる。覆土内には10～40cmの礫が多量に投げ込まれるが、北壁付近には見られない。また、焼土塊・炭化物も混入する。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出された。遺物は土師質土器、青磁、白磁、古銭等が出土。	鎌倉
		N-91°-W	37.31			
2	欠番					
3	欠番					
4	A	楕円形	307 × 242 × 48		底面が2段になる大型の土坑状遺構。覆土内には焼土塊が多量に混入する。遺物は青磁片が1点出土するのみ。	鎌倉
			4.54			
5	A	方形	398 × 373 × 10		床面の一部がかろうじて残るのみで、全体像は掴めていない。ピットは2基検出された。遺物はない。	不明
		N-86°-E	<13.88>	土101		
6	A		<248> × <272> × 7		床面の一部がかろうじて残るのみで、全体像は掴めていない。遺物は非常に少ない。	13・14期
			<9.89>	建1P20、土150		
7	A	隅丸長方形	632 × 251 × 38	土166	長辺が短辺の倍以上ある長方形状の遺構である。床面には10～30cmの礫が散乱する。南側には頭頂部が窪んだ円錐台状の施設が見られるが、詳細は不明である。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは2基検出され、ともに柱穴の可能性が考えられる。遺物は非常に少ない。	鎌倉
		N-3°-W	12.18	土156・157・158・159・165		
8	B	隅丸方形?	<143> × <111> × 36	土169	北側と東側は調査区外へ続く。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物はない。	不明
			<4.28>	土167・168		
9	欠番					

測量数値

<>: 残存値、(): 推定値

第3表 掘立柱建物址一覧表

遺構No.	地区	平面形	主軸方向	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴		
		柱配り	面積 (㎡)			平面形	規模	柱痕
1	A	方形	N-88°-E	3間×3間	桁行170～245	円形	径17～42	9基
		総柱	35.8	640×560	梁行160～202		深4～30	径10～33
2	B	長方形	N-92°-E	6間×4間	桁行138～214	円形	径17～40	23基
		総柱	99.7(118.2)	1087×902	梁行180～286		深6～36	径6～18
3	B	長方形	N-92°-E	3間×2間	桁行156～245	円形	径26～38	9基
		総柱	32.2	634×506	梁行195～312		深3～34	径7～16
4	B	長方形	N-2°-W	5間×2間	桁行150～334	円形	径18～36	6基
		側柱	45.2	1106×406	梁行192～210		深7～45	径9～14
5	B	長方形	N-89°-W	4間×2間	桁行166～224	円形	径22～38	7基
		総柱	33.2(40.8)	774×398	梁行156～238		深4～26	径12～22
6	B	長方形	N-89°-W	3間×2間	桁行130～186	円形	径22～38	4基
		総柱	16.2	492×331	梁行146～188		深4～32	径12～20
7	H	長方形	N-6°-E	2間×1間	桁行320～378	円形	径30～72	
		側柱	12.0	708×167	梁行154～186		深12～20	
8	M	長方形	N-95°-W	2間×1間	桁行186～210	円形	径28～48	
		側柱	6.3	388×160	梁行158～162		深8～28	

面積

( ) 無: 母屋部分、( ) 有: 全体

第4表 土坑一覧表

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	円形	38	38	16	溝2			
2	A	円形	27	24	12	溝2			
3	A	円形	36	34	8	溝2			
4	A	円形	45	42	8	溝2			
5	A	円形	32	32	9	溝2			
6	欠番								
7	A	不明	<34>	63	<21>				
8	欠番								
9	A	楕円形	58	48	23				
10	A	楕円形	44	37	20				
11	A	円形	36	36	16				
12	A	楕円形	36	30	12				
13	A		24	23	3				
14	A	円形	44	42	20				
15	A	円形	32	28	11				
16	A	円形	54	48	20				
17	A	円形	39	38	13				
18	欠番								
19	A	円形	44	42	6				
20	欠番								
21	欠番								
22	欠番								
23	欠番								
24	欠番								
25	欠番								
26	A	円形	28	26	16				
27	A	円形	30	26	8			柱痕	
28	欠番								
29	A	円形	24	24	9			柱痕	
30	欠番								
31	欠番								
32	欠番								
33	欠番								
34	A	円形	20	20	4				
35	A	円形	21	20	23				
36	欠番								
37	欠番								
38	欠番								
39	A	長円形	154	40	11		溝1		
40	A	円形?	<38>	40	7	15住			
41	A	円形	36	35	15				
42	A	円形	38	36	5				
43	A	円形	47	47	13				
44	A	楕円形	38	32	20				
45	A	円形	36	33	20				
46	A	円形	40	40	15				
47	A	円形	30	26	6				
48	A	楕円形	50	41	14				
49	A	円形	28	27	16				
50	A	円形	34	33	11				
51	A	円形	35	34	8				
52	A	円形	33	32	9				
53	A	円形	26	23	19	15住			
54	A	楕円形	200	156	11				
55	A	円形	30	28	15				
56	A	円形	32	30	9				
57	A	楕円形	50	40	9				
58	A	円形	36	35	4				
59	A	円形	34	33	9				
60	A	円形	50	49	5				
61	A	円形	43	32	5				
62	A	円形	34	34	3				
63	A	円形	30	28	4				
64	A	楕円形	91	63	8				
65	A	円形	26	26	6				
66	A	円形	33	32	9				
67	A	円形	34	32	8				
68	A	円形	31	29	8				

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
69	A	円形	32	30	23				
70	A	円形	42	38	16				
71	A	楕円形	23	15	6				
72	A	円形	32	30	8				
73	A	円形	19	18	7				
74	A	楕円形	40	34	9				
75	A	円形	20	18	3				
76	A	楕円形	34	25	13				
77	A	円形	35	<15>	8				
78	A	円形	24	21	2				
79	A	円形	<32>	29	9				
80	A	円形	32	38	12				
81	A	円形	32	30	10				
82	A	楕円形	54	46	10				
83	A	円形	20	18	3				
84	A	円形	14	12	2				
85	A	楕円形	20	14	6	15住			
86	A	円形	18	18	16	15住			
87	欠番								
88	A	楕円形	80	66	22				
89	A	円形	32	28	9	174住			
90	A	円形	46	44	6				
91	A	円形	31	29	10				
92	A	円形	22	22	5				
93	A	円形	77	74	9				
94	A	円形?	18	<8>					
95	A	円形	26	24	9	175住			
96	A	円形	32	29	8	175住			
97	A	円形	20	19	15	174住			
98	A	円形	33	30	13				
99	A	円形	24	22	8				
100	A	円形	20	16	6	174住			
101	A	楕円形	20	16	6	縦5			
102	欠番								
103	欠番								
104	A	円形	21	20	13				
105	A	円形	20	18	12				柱痕
106	A	円形	24	22	7				
107	A	円形	20	19	10				
108	A	円形	18	18	7				
109	A	円形	48	48	9				
110	A	円形	22	21	10				
111	A	円形?	16	<16>	7				
112	A	円形	22	22	8				
113	A	円形	19	17	6				
114	A	円形	20	19	10			石鏃	
115	A	円形	18	16	5				
116	A	円形	19	18	4				
117	A	円形	18	16	6				
118	A	円形	34	30	4				
119	A	円形	21	20	10				柱痕
120	A	楕円形	51	33	10				
121	A	円形	27	26	8				
122	A	円形	26	26	9				
123	A	円形	10	10	1				
124	A	円形	21	19	12				
125	A	円形	28	26	13				
126	A	円形	15	14	4				
127	A	円形	15	13	6				
128	A	円形	18	18	11				
129	A	円形	23	21	13				
130	A	楕円形	14	10	14				
131	A	円形	156	14	10				
132	A	円形	18	16	6				
133	A	円形	32	32	8				
134	A	円形	26	25	12	土150			柱痕
135	A	円形	24	24	13				
136	A	楕円形	30	24	15				柱痕
137	A	円形	30	28	2				

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
138	A	円形	16	15	2				
139	A	楕円形	53	36	6				
140	A	楕円形	88	33	7				
141	A	円形	20	17	4				
142	A	楕円形	20	16	2				
143	A	円形	26	24	8	土 144			
144	A	楕円形	48	34	9		土 143		
145	A	円形	31	30	5				
146	A	円形	16	14	13				
147	A	円形	25	24	3				
148	A	楕円形	63	53	5				
149	A	円形	20	20	11				
6 t	A	円形	72	68	17	竪 6	土 134		
151	A	円形	14	14	7				
152	A	円形	14	14	4				
153	A	円形	12	10	4				
154	A	円形	12	10	1				
155	A	円形	18	18	10				
156	A	円形	16	<11>	13	竪 7			
157	A	円形	12	12	7	竪 7			
158	A	円形	20	20	20	竪 7			
159	A	円形	19	17	20	竪 7			
160	欠番								
161	欠番								
162	A	円形	16	16	2				
163	A	楕円形	18	14	9				
164	A	円形	18	18	7				
165	A	楕円形	51	36	11	竪 7、土 166			
166	A	不整形	(114)	(60)			竪 7、土 165	灰釉碗	未掘
167	B	不明	<78>	<50>	<12>	竪 8	土 168		
168	B	円形?	<18>	18	4	竪 8、土 167			
169	B	楕円形	58	<50>	19		竪 8		
170	B	円形	20	20	10				
171	B	円形	26	24	31				
172	B	円形	108	98	10				
173	B	円形	33	32	16				柱痕
174	欠番								
175	B	円形	52	48	7	20住、畝 12			
176	欠番								
177	B	楕円形	28	20	3	畝 5			
178	B	不整形	176	125	13	土 200、畝 2・3	竪 3、土 308		
179	B	円形	20	16	8				柱痕
180	B	楕円形	62	44	5	20住			
181	B	円形	30	28	6	21住			
182	B	楕円形	38	28	6	21住			
183	B	円形	18	16	7	20住			
184	B	楕円形	28	22	5	20住			
185	B	円形?	20	<12>	3				
186	B	円形	32	30	3				
187	B	楕円形	<14>	17	38				
188	B	楕円形	121	78	20				
189	B	楕円形	26	20	23				
190	B	円形	<30>	30	5				
191	B	楕円形	86	54	31				
192	B	不明	192	<34>	19			灰釉碗	
193	B	円形	20	18	5				
194	B	楕円形	36	22	16				
195	B	円形	56	53	2				
196	B	楕円形	26	22	7				
197	B	楕円形	66	43	14				
198	B	円形	20	16	7	土 200			
199	B	楕円形	102	63	27				
200	B	楕円形?				畝 4	土 178・198・309		
201	B	楕円形	34	27	4				
202	B	楕円形	44	36	19	21住		灰釉碗	
203	B	楕円形	70	56	21				
204	B	円形	16	12	25				
205	B	楕円形	30	20	6				



土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
206	B	円形	40	<30>	22				
207	B	楕円形	36	28	6				
208	B	円形	168	166	18			灰釉碗、緑釉碗	
209	欠番								
210	欠番								
211	欠番								
212	B	楕円形	96	66	6				
213	B	楕円形	91	80	7				
214	欠番								
215	B	円形	24	24	3	20住			
216	B	楕円形	54	36	6				
217	B	円形	20	18	19	20住			
218	B	楕円形	40	32	11	20住			
219	B	円形	12	11	3				
220	B	楕円形	32	22	11				
221	欠番								
222	B	円形	28	28	15	20住			
223	B	不整形	<145>	150	7		18住		
224	B	円形	172	166	33			土師器碗	
225	B	円形	28	26	13				
226	B	円形	22	20	13				
227	B	楕円形	26	21	8				柱痕
228	B	楕円形	43	27	5				柱痕
229	B	円形	26	24	5				
230	B	円形	24	22	9				柱痕
231	B	円形	20	20	6				
232	B	楕円形	25	18	9				
233	B	円形	17	16	13				
234	B	円形	22	20	10				
235	B	円形	30	30	10				
236	B	楕円形	42	36	4				
237	B	楕円形	50	40	4				
238	B	円形	24	20	5				
239	B	円形	15	14	5				
240	B	円形	20	20	6				柱痕
241	B	楕円形	40	31	25				柱痕
242	B	円形	16	14	5				
243	B	円形	18	17	5				
244	B	円形	19	18	5				
245	B	円形	14	14	6				
246	欠番								
247	B	楕円形	25	16	6				
248	B	円形	15	14	4				
249	B	円形	16	16	7				
250	B	楕円形	34	22	5				
251	B	円形	15	14	6				
252	B	円形	24	23	34				柱痕
253	B	楕円形	28	23	16				柱痕
254	B	円形	25	23	6				
255	B	楕円形	26	20	12				
256	B	円形	21	20	9				柱痕
257	B	楕円形	22	16	4				
258	B	楕円形	38	32	8				
259	B	円形	18	16	24				
260	B	楕円形	22	14	4				
261	B	円形	20	18	4				
262	B	楕円形	33	27	10				
263	B	楕円形	24	18	18				
264	B	円形	22	18	19				
265	B	円形	23	22	18				
266	B	円形	26	25	4				
267	B	楕円形	30	24	8				
268	B	円形	26	<18>	9				
269	B	円形	34	34	2				
270	B	楕円形	72	54	4				
271	B	楕円形	192	130	4	土 337	土 273		
272	B	不整形	124	78	19	土 331			
273	B	円形	27	26	3	土 271			
274	B	楕円形	33	25	29			土師器杯?	柱痕

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
275	B	橢円形	34	25	27				
276	B	円形	29	26	16				
277	B	橢円形	54	32	9				
278	B	不整形	136	64	18				
279	B	円形	38	36	15	20住			
280	B	橢円形	36	20	12				
281	B	橢円形	30	24	14				柱痕
282	B	橢円形	43	25	18				柱痕
283	B	円形	38	38	12				
284	B	円形	26	24	9				
285	B	円形	28	24	12				
286	B	橢円形	37	30	12				柱痕
287	B	橢円形	<104>	72	8				
288	B	円形?	200	<100>	11			土師器杯	
289	B	円形	22	22	15				
290	B	円形	24	24	19				
291	B	橢円形	56	41	12				
292	B	円形	20	20	7				
293	B	円形	22	20	7				
294	B	円形	18	18	9				
295	B	円形	20	20	9				
296	B	橢円形	30	24	8				
297	B	円形	30	28	11				
298	B	橢円形	46	37	6				
299	B	円形	24	22	3				
300	B	円形	24	22	7				
301	B	円形	28	26	10				
302	B	橢円形	<28>	20	6	土 303			
303	B	橢円形	82	48	12		土 302		
304	B	円形	82	<44>	7				
305	B	橢円形	34	30	3	土 330			
306	B	円形	23	22	11				
307	B	円形	24	20	4				
308	B	橢円形	50	42	4	土 178			
309	B	円形	26	24	2	土 200			
310	B	円形	32	30	10				
311	B	橢円形	35	30	8				
312	B	橢円形	22	16	28				柱痕
313	欠番								
314	B	橢円形	28	20	5				
315	B	橢円形	26	19	5				
316	B	円形	20	18	4				
317	B	円形	30	28	8				柱痕
318	B	橢円形	30	21	16				
319	B	円形	15	15	8				
320	欠番								
321	B	円形	24	22	8				柱痕
322	B	円形	26	26	26				柱痕
323	B	円形	30	28	3				
324	B	円形	22	22	9				柱痕
325	欠番								
326	B	円形	30	29	2				
327	B	円形	12	12	5				
328	B	橢円形	40	32	21				
329	B	円形	16	16	9				
330	B	不明	<302>	<30>	<22>		土 305		
331	B	円形	26	24	10		土 272		
332	B	円形	<20>	<20>	6				
333	B	円形	14	12	6				
334	B	円形	28	26	7				
335	B	橢円形	26	21	6				
336	B	円形	30	30	27				
337	B	円形	(33)	(28)			土 271		未掘
338	欠番								
339	C	橢円形	262	110	20	25住、土 341		土師器杯・椀・甗、灰釉碗・皿	
340	C	橢円形	52	42	13	25住			
341	C	橢円形	92	76	16	25住	土 339		
342	C	橢円形	40	30		22住			
343	C	橢円形	226	175	6	23住			

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
344	C	楕円形	134	82	31	28住			
345	欠番								
346	C	楕円形	190	84	14	34住			
347	C	不整形	295	84	16	24・28住	土師器盤、灰釉皿、鉄鏝		
348	C	楕円形	148	74	32	32住			
349	C	楕円形	44	36	12	38住			
350	C	円形	40	40	14	37住			
351	C	円形	24	24	11	40住			
352	C	楕円形	71	48	12	46住			
353	C	楕円形	100	92	8	43住			
354	C	円形	36	36	6	43住			
355	C	楕円形	<80>	<60>	11	49住			
356	C	円形	54	46	40		須恵器平瓶	柱痕	
357	C	楕円形	165	152	8	51住			
358	C	円形	46	42	6	51住			
359	C	円形	51	48	10	51住			
360	C	円形	60	56	15		土師器杯、灰釉長頸壺		
361	C	円形	(26)	(26)	8				
362	C	楕円形	<98>	<158>	8	土 366	土 1077・1078	黒色 A 椀	
363	C	円形	34	30	4	土 378			
364	C	円形	34	30	10	土 373・378		羽口?、鉄滓	
365	C	楕円形	38	28	9	土 378			
366	C	楕円形?	<212>	224	9	土 367・368・369・375	土 362	灰釉碗、鉄滓	
367	C	楕円形	<166>	58	14	土 368・375	土 366	土師器杯・小型甕・羽釜、黒色 A 椀、灰釉碗、金属製品、鉄滓	
368	C	楕円形	70	<30>	6	土 369	土 366・367		
369	C	円形	20	19	6	土 366・368			
370	D	楕円形	108	68	13	54住			
371	D	楕円形	<138>	<124>	4	54住		土師器盤・羽釜、鉄滓	
372	D	円形?	76	<46>	17	土 815			
373	C	楕円形?	172	<110>	7	土 378	43住、土 364	土師器杯・椀、灰釉壺	
374	欠番								
375	C	楕円形	30	<24>	4		土 366・367		
376	D	円形	66	62	5	61・60住		黒色 A 杯・椀	
377	D	楕円形	117	80	15	60住		土師器杯、黒色 A 杯・椀	
378	C	不明	136	<48>	8		土 363・364・365・373		
379	C	円形?	92	<56>	8			土師器椀・甕、須恵器甕、灰釉皿	
380	D	楕円形	40	30	9				
381	D	円形	20	18	9	78住			
382	D	円形	226	<210>		70住	土 386	土師器杯・盤、黒色 A 椀、須恵器蓋・甕、灰釉碗	
383	D	楕円形	193	86	12	64住		土師器杯・甕、緑釉耳皿	
384	D	楕円形	76	<20>	12	78住			
385	D	円形	28	25	8	82住			
386	D	楕円形	121	84	12	70住、土 382		黒色 A 杯・椀、灰釉碗	
387	D	円形	32	<15>	24	78住			
388	D	円形	34	28	7	80住			
389	D	楕円形	341	127	29	71住	70住	土師器杯・甕	
390	D	楕円形	53	44	16	53住		土師器甕、黒色 A 椀、灰釉碗	
391	D	楕円形?	302	<44>	33		53住	土師器杯、須恵器杯、灰釉碗	
392	欠番								
393	D	楕円形	26	18	15	92住			
394	D					87住			
395	D	円形	70	68	22	84住		土師器杯・椀、灰釉碗	
396	欠番								
397	D	円形	42	40	36	101・115住			
398	D	円形	66	56	16	96住		土師器杯・椀・盤・甕、黒色 A 椀、須恵器甕・長頸壺	
399	D	楕円形	278	162	6	95住		土師器杯・椀・甕、須恵器甕、刀子?	
400	D	円形	72	70	24			土師器杯・椀、須恵器甕、灰釉皿	
401	D	円形	96	<78>	36	84住		土師器杯・蓋?、灰釉碗・皿	
402	D					53・89住	83住		
403	D	円形	38	34	20	98・99住		土師器杯・椀・甕、黒色 A 杯・椀	
404	D	楕円形	(28)	(20)			92住	未掘	
405	D	楕円形	30	20	13	104住			
406	D	楕円形	52	44	30	99住			
407	D	円形	30	30	4	99住			
408	D	楕円形	34	28	5	112住			
409	D	不整形	(102)	(84)			100・105住	未掘	

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
410	D	楕円形	240	89	13	109・110住	106住	土師器杯・椀・甕、黒色A杯・椀、須恵器甕、灰釉碗・壺	
411	D	不整形	(170)	(60)			113住	土師器杯・椀	未掘
412	D	円形	32	<18>	19	104・103住			
413	D	円形	56	54	12				
414	D	円形	30	29	10				柱痕
415	D	楕円形	68	44	31			土師器甕、須恵器杯・甕	
416	D	楕円形	63	44	15			土師器甕	
417	D	円形	20	19	4				
418	D	楕円形	42	30	7	117住			
419	欠番								
420	欠番								
421	欠番								
422	D	円形	<60>	56	24	114住		土師器杯、須恵器甕、灰釉碗	
423	D	不整形	322	132	43		114住	土師器杯・椀・甕、黒色A杯、灰釉碗	
424	D	楕円形	55	40	11	125住		土師器甕	
425	D	円形	23	23	8	124住			
426	D	楕円形	27	18	22	125住			
427	D	円形	34	31	12	125住			
428	D	円形	31	30	20	124・125住		灰釉碗	
429	D	円形	21	21	8	125住			
430	D	円形	32	28	16	125住			
431	D	円形	23	21	11	125住			
432	欠番								
433	K	円形	32	29	6	132住			
434	K	円形	67	<40>		133住			
435	K	円形	38	32	24	133住			
436	欠番								
437	H	不明	106	<38>	19	136住		土師器甕、須恵器杯	
438	H	円形	<26>	29	12	136住			
439	H	楕円形	109	61	11	140住		土師器甕、須恵器甕	
440	欠番								
441	欠番								
442	欠番								
443	欠番								
444	欠番								
445	H	楕円形	79	62	11				
446	H	円形	<9>	30	10				
447	H	円形	102	99	33		141住	土師器杯・鉢・小型甕、黒色A杯、須恵器甕、灰釉碗、金属製品	
448	D	楕円形	(112)	(70)				土師器杯	未掘
449	H	楕円形	<110>	73	26		141住	土師器杯・椀	
450	H	楕円形	(124)	(76)		143住			未掘
451	欠番								
452	欠番								
453	欠番								
454	欠番								
455	欠番								
456	欠番								
457	D	楕円形	120	65	23				
458	H	円形	82	78	16			土師器杯・甕、黒色A杯、須恵器杯・甕、灰釉碗・壺	
459	L	楕円形?	<190>	<36>	25	150住		灰釉碗	
460	L	不整形	<213>	190	8		157住		
461	欠番								
462	L	円形	28	28	7				
463	L	楕円形	52	43	17				柱痕
464	L	楕円形	51	43	7				
465	L	円形	43	42	8				
466	L	円形	55	50	25				
467	L	円形	38	36	9				
468	L	楕円形	54	35	15	土493			
469	L	楕円形	65	51	21				
470	L	楕円形	38	29	9				
471	L	円形	30	29	8				
472	L	楕円形	26	19	3				
473	欠番								
474	欠番								
475	L	円形	26	26	10	153住、土476			
476	L	円形	67	<52>	12	153住	土475	土師器杯・椀、黒色A杯	



土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
477	L	楕円形	112	104	19	153住		土師器杯・甕、黒色A杯・椀、須恵器杯・甕、灰釉碗・皿	
478	L	楕円形	166	130	9		153住		
479	L	円形	32	32	16	土493			
480	L	円形	40	36	13	土492			
481	L	円形	80	72	34			鉄鑿?、鉄滓	
482	L	円形	117	107	24			黒色A杯・椀、鉄滓	
483	欠番								
484	欠番								
485	L	円形	31	31	5	土493			
486	L	円形	36	34	7				
487	L	円形?	64	<30>	23			土師器甕	
488	L	楕円形	43	35	9				
489	L	円形	26	26	17				
490	L	円形	31	29	38				
491	L	円形	32	31	21				
492	L	楕円形	126	66	43	土496	土480		
493	L	不整形	304	148	18		土468・479・485		
494	L	円形	34	32	7	土497			
495	L	楕円形	194	150	34		153住	土師器椀、須恵器甕、灰釉壺、緑釉碗	
496	L	楕円形?	<176>	106	15		土492		
497	L	楕円形	31	21	20		土494		
498	L	楕円形	<62>	50	19	158住	159住		
499	D	楕円形	48	35	8				
500	M	円形	26	24	14	171住			
501	L	円形?	84	<43>	29			灰釉碗	
502	L	円形	22	21	8				
503	M	楕円形	84	<26>	11	165住			
504	M	円形	90	88	12	165住		土師器杯、灰釉碗、白磁碗	
505	M	不整形	254	<138>	21			灰釉碗	
506	M	円形	28	26	22	167住			
507	欠番								
508	欠番								
509	M	円形	28	26	16	171住			
510	M	隅丸方形	192	<188>	23	170住		灰釉碗	
511	M	楕円形?	286	<108>	24	164・171・172住	163住	土師器椀・甕、黒色A椀、灰釉碗	
512	M	円形	22	21	10	166住		須恵器甕、灰釉碗	
513	M	円形	55	<30>	18	166住			
514	M	楕円形	95	<34>	21	166住		土師器杯	
515	G	円形	36	28	22	溝9			柱痕
516	G	円形	34	30	20	溝9			柱痕
517	G	円形	34	34	16	溝9			柱痕
518	D	円形	50	47	14			須恵器甕	柱痕
519	D	楕円形	51	40	9			土師器甕	
520	D	円形	72	70	20	土540		須恵器甕、灰釉壺	柱痕
521	D	楕円形	88	60	13	土566			
522	D	円形	74	64	18				
523	D	楕円形	40	26	12				
524	D	楕円形	38	30	12				
525	D	楕円形	35	26	15			土師器甕、灰釉壺	
526	D	円形	48	47	7				
527	D	円形	22	20	35			土師器杯・椀・甕	
528	D	円形	36	34	33				
529	D	楕円形	50	42	11				
530	D	円形	28	24	14				
531	D	円形	76	72	25				
532	D	円形	30	27	4				
533	D	円形	48	46	12				
534	D	円形	36	34	18				
535	D	円形	64	60	15				
536	D	円形	37	36	35				柱痕
537	D	円形	40	38	28			黒色A杯・椀	柱痕
538	D	円形	47	40	13				
539	D	円形	33	31	14				
540	D	楕円形	<86>	72	23		土520	灰釉碗	
541	D	円形	46	42	12				
542	D	楕円形	28	18	7				
543	D	円形	37	36	40				柱痕

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
544	D	円形	17	14	6			土師器甕	
545	D	楕円形	44	36	28				
546	D	楕円形	45	38	22				
547	D	楕円形	18	13	10				
548	D	楕円形	28	22	15				
549	D	楕円形	46	36	26				
550	D	円形	38	32	14				
551	D	円形	70	64	14	土 552			
552	D	楕円形	<70>	68	32		土 551	土師器杯、黒色 A 杯・椀、須恵器甕	
553	D	円形	36	33	13				
554	D	円形	34	33	26				柱痕
555	D	円形	38	36	26				
556	D	円形	35	34	10			土師器甕	
557	D	円形	40	36	42				柱痕
558	D	円形	34	34	21			灰釉碗	
559	D	楕円形	281	164	8		116 住		
560	D	円形	36	32	13				
561	D	円形	32	32	21				
562	D	円形	16	14	14				
563	D	円形	26	25	16				
564	D	円形	24	24	26				
565	D	楕円形	35	26	30			土師器杯・椀・甕、灰釉碗、鉄鋤	
566	D	円形	68	<46>	17		土 521	須恵器甕	
567	D	円形	19	19	12				
568	D	円形	22	20	12				
569	D	円形	22	22	12				
570	D	円形	25	22	8				
571	D	円形	19	18	8				
572	D	円形	14	14	16				
573	D	円形	14	14	11				
574	D	楕円形	47	36	15				
575	D	円形	34	28	17				
576	D	円形	19	18	10				
577	D	円形	21	21	23				
578	D	円形	23	20	12				
579	D	楕円形	29	19	11				
580	D	楕円形	48	30	13	土 581		須恵器甕	
581	D	円形	(33)	(30)			土 580		未掘
582	D	円形	35	32	25				柱痕
583	D	円形	22	20	4				
584	D	円形	22	20	3				
585	D	楕円形	23	16	24				
586	D	円形	34	28	11				
587	D	円形	26	22	17				
588	D	円形	28	26	24				
589	D	楕円形	22	16	13				
590	D	円形	48	48	11				
591	D	円形	16	16	5				
592	D	楕円形	44	34	25			土師器杯	
593	D	円形	40	36	30				
594	D	楕円形	21	15	15				
595	D	円形	23	22	25				
596	D	円形	36	33	14				
597	D	円形	29	26	20			須恵器蓋・甕	柱痕
598	D	円形	36	35	29				柱痕
599	D	円形	40	36	12				
600	D	円形	34	32	45	土 601			
601	D	円形	30	<20>	34		土 600		底に粘土塊
602	D	円形	16	15	11				
603	D	円形	24	24	19				
604	D	楕円形	45	34	20				
605	D	円形	16	16	6				
606	D	楕円形	96	71	6				
607	D	円形	62	62	10				
608	D	楕円形	52	38	27				柱痕
609	D	円形	14	14	9				
610	D	楕円形	84	62	7				
611	D	楕円形	30	20	11				
612	D	円形	34	32	3				

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
613	D	円形	24	22	3				
614	D	楕円形	40	30	15				
615	D	楕円形	18	14	12				
616	D	円形	34	32	11				
617	D	円形	42	39	24			灰釉碗	
618	D	円形	22	20	11				
619	D	円形	74	70	8				
620	D	円形	13	11	7				
621	D	円形	29	26	5				
622	D	楕円形	30	24	12				
623	D	円形	12	12	14				
624	欠番								
625	欠番								
626	D	楕円形	154	94	16		土 637	須恵器甕	
627	欠番								
628	D	不整形	265	126	12			土師器甕、黒色 B 碗、須恵器杯・甕、灰釉碗、鉄滓	
629	D	楕円形	<260>	<134>	7	土 645・646	119 住	土師器杯・碗、黒色 A 杯・碗、須恵器杯・甕、灰釉碗・壺	
630	D	楕円形	115	88	7				
631	F	円形	58	52	14	土 632			半割
632	F	楕円形	88	73	10		土 631		半割
633	F	円形	78	71	9				半割
634	F	円形	58	54	5				半割
635	F	円形	76	68	3				半割
636	F	円形	50	48	3				半割
637	D	楕円形	90	58	19	土 626			
638	D	円形	76	74	19				
639	D	円形	62	61	11				
640	D	楕円形	74	60	11			黒色 A 杯・碗	
641	D	楕円形	75	56	20			黒色 A 杯	
642	D	楕円形	90	52	29			黒色 A 碗	
643	D	円形	50	50	7				
644	D	楕円形	96	80	12				
645	D	円形	44	38	15		119 住、土 629		
646	D	楕円形	95	62	4		119 住、土 629		
647	D	楕円形	88	70	34			土師器杯・碗、黒色 A 杯・碗	
648	欠番								
649	欠番								
650	B	長円形	73	21	9	畝 8			
651	A	円形	(33)	(32)					未掘
652	A	楕円形	(45)	(37)					未掘
653	A	円形	(15)	(13)					未掘
654	A	長円形	(116)	(28)		土 655			未掘
655	A	方形?	(60)	(30)			土 654		未掘
656	A	円形	(16)	(15)					未掘
657	A	楕円形	(120)	(91)					未掘
658	A	楕円形	(48)	(38)		溝 2			未掘
659	A	円形	(41)	(38)		溝 2			未掘
660	A	円形	(36)	(33)		溝 2			未掘
661	A	円形	(32)	(30)					未掘
662	A	円形	(20)	(18)					未掘
663	A	円形	(58)	(56)					未掘
664	A	楕円形	(19)	(14)					未掘
665	A	円形	(20)	(18)					未掘
666	A	円形	(18)	(17)					未掘
667	A	円形	(17)	(17)					未掘
668	A	円形	(40)	(36)		溝 2			未掘
669	A	円形	(27)	(26)					未掘
670	A	円形	(22)	(21)		溝 2			未掘
671	A	円形	(15)	(14)		溝 2			未掘
672	A	楕円形	(48)	(32)			土 673		未掘
673	A	円形	(70)	(63)		土 672・674			未掘
674	A	円形?	(30)	(20)			土 673		未掘
675	A	円形	(24)	(22)					未掘
676	A	円形	(20)	(18)					未掘
677	A	楕円形	(50)	(38)					未掘
678	A	円形	(16)	(14)					未掘
679	A	円形	(16)	(16)					未掘
680	A	円形	(16)	(14)					未掘

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
681	A	楕円形	(46)	(34)		溝2		未掘	
682	A	円形	(36)	(35)				未掘	
683	A	円形	(26)	(24)				未掘	
684	A	楕円形	(48)	(40)				未掘	
685	A	楕円形	(55)	(43)				未掘	
686	A	円形	(15)	(13)				未掘	
687	A	円形	(20)	(19)				未掘	
688	A	楕円形	(94)	(78)				未掘	
689	A	円形	(50)	(50)				未掘	
690	A	円形	(36)	(34)				未掘	
691	A	円形	(76)	(76)				未掘	
692	A	円形	(15)	(15)				未掘	
693	A	円形	(15)	(14)				未掘	
694	A	円形	(39)	(37)				未掘	
695	A	円形	(16)	(15)				未掘	
696	A	楕円形	(16)	(12)				未掘	
697	A	円形	(38)	(36)				未掘	
698	A	円形	(52)	(52)				未掘	
699	B	円形	(14)	(13)			建2P34	未掘	
700	B	円形	(32)	(28)				未掘	
701	C	円形	(32)	(32)				未掘	
702	C	楕円形	(32)	(25)				未掘	
703	C	不整形	(164)	(46)		土704		未掘	
704	C	楕円形	(205)	(128)			土703	未掘	
705	C	楕円形	(30)	(18)				未掘	
706	C	円形	(20)	(19)				未掘	
707	C	楕円形	(193)	(118)				未掘	
708	C	円形	(19)	(18)				未掘	
709	C	円形	(24)	(24)				未掘	
710	C	円形	(19)	(18)				未掘	
711	C	円形	(25)	(22)				未掘	
712	C	円形	(16)	(15)				未掘	
713	C	長円形	(98)	(34)				未掘	
714	C	長円形	(88)	(35)				未掘	
715	C	不整形	(94)	(64)				未掘	
716	C	楕円形	(50)	(30)				未掘	
717	C	円形	(15)	(15)				未掘	
718	欠番								
719	C	円形	(33)	(16)				未掘	
720	C	円形	(21)	(20)				未掘	
721	C	長円形	(61)	(20)				未掘	
722	C	円形	(20)	(18)				未掘	
723	C	楕円形?	(66)	(30)			34住	未掘	
724	C	円形	(38)	(38)				未掘	
725	C	円形	(50)	(44)				未掘	
726	C	円形	(20)	(20)				未掘	
727	C	円形	(64)	(50)			32住	未掘	
728	C	円形	(28)	(27)				未掘	
729	C	楕円形	(114)	(73)				未掘	
730	C	円形	(24)	(24)			37住	未掘	
731	C	円形	(28)	(26)				未掘	
732	C	楕円形	(40)	(33)				未掘	
733	C	楕円形	(50)	(41)				未掘	
734	C	円形	(30)	(28)				未掘	
735	C	円形	(46)	(41)				未掘	
736	C	円形	(34)	(32)				未掘	
737	C	円形	(30)	(28)				未掘	
738	C	円形	(26)	(26)				未掘	
739	C	円形	(42)	(39)				未掘	
740	C	円形	(64)	(64)				未掘	
741	C	円形	(60)	(56)				未掘	
742	C	円形	(33)	(33)				未掘	
743	C	円形	(42)	(40)				未掘	
744	C	楕円形	(84)	(67)				未掘	
745	C	楕円形	(60)	(41)			37住	未掘	
746	C	円形	(26)	(24)				未掘	
747	C	円形	(23)	(14)			35住	未掘	
748	C	円形	(24)	(23)				未掘	
749	C	円形	(26)	(24)				未掘	



土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
750	C	円形	(26)	(26)				未掘	
751	C	長円形	(54)	(21)				未掘	
752	C	橢円形	(28)	(21)				未掘	
753	C	円形	(27)	(26)				未掘	
754	C	橢円形	(68)	(45)				未掘	
755	C	円形	(28)	(24)				未掘	
756	C	橢円形	(65)	(40)				未掘	
757	C	橢円形	(30)	(22)				未掘	
758	C	円形	(20)	(18)				未掘	
759	C	橢円形	(73)	(56)				未掘	
760	C	橢円形	(53)	(38)				未掘	
761	C	橢円形	(129)	(92)				未掘	
762	C	橢円形	(47)	(19)				未掘	
763	C	橢円形	(28)	(22)				未掘	
764	C	橢円形	(178)	(60)			46住	未掘	
765	C	橢円形	(127)	(81)			46住	未掘	
766	C	円形	(18)	(17)		土767		未掘	
767	C	橢円形	(26)	(17)			土766	未掘	
768	C	円形	(55)	(54)				未掘	
769	C	橢円形	(54)	(35)				未掘	
770	C	橢円形	(105)	(85)		29住		未掘	
771	C	不整形	(63)	(40)				未掘	
772	C	橢円形	(31)	(14)				未掘	
773	C	橢円形	(85)	(70)				未掘	
774	C	円形	(33)	(28)				未掘	
775	C	長円形	(72)	(37)				未掘	
776	C	橢円形	(27)	(21)				未掘	
777	C	橢円形	(26)	(22)				未掘	
778	C	橢円形	(45)	(38)				未掘	
779	C	円形	(22)	(19)				未掘	
780	C	橢円形	(44)	(36)				未掘	
781	C	円形	(37)	(36)				未掘	
782	C	円形	(48)	(46)				未掘	
783	C	円形	(25)	(25)				未掘	
784	C	長円形	(168)	(51)				未掘	
785	C	円形	(29)	(26)		土786		未掘	
786	C	円形	(19)	(12)			土785	未掘	
787	C	円形	(24)	(22)				未掘	
788	C	円形	(19)	(18)				未掘	
789	C	橢円形	(58)	(28)				未掘	
790	C	橢円形	(77)	(54)				未掘	
791	C	円形	(30)	(25)				未掘	
792	C	円形	(23)	(22)				未掘	
793	C	橢円形	(86)	(65)				未掘	
794	C	橢円形	(46)	(23)				未掘	
795	C	円形	(15)	(14)				未掘	
796	C	円形	(22)	(22)				未掘	
797	C	円形	(32)	(30)				未掘	
798	C	円形	(26)	(26)				未掘	
799	C	橢円形	(25)	(16)				未掘	
800	C	橢円形	(69)	(60)				未掘	
801	C	橢円形	(29)	(22)				未掘	
802	C	円形	(14)	(13)				未掘	
803	C	円形	(54)	(49)		28住		未掘	
804	C	円形	(20)	(20)				未掘	
805	C	橢円形	(30)	(21)				未掘	
806	C	橢円形	(101)	(69)		44住		未掘	
807	C	円形	(26)	(25)				未掘	
808	C	橢円形	(72)	(64)				未掘	
809	C	円形	(34)	(34)				未掘	
810	C	橢円形	(44)	(35)				未掘	
811	C	円形	(32)	(32)				未掘	
812	D	橢円形	(52)	(44)				未掘	
813	D	橢円形	(118)	(56)				未掘	
814	D	橢円形	(76)	(30)		61住		未掘	
815	D	不整形	(290)	(44)		土816	土372	未掘	
816	D	不整形	(264)	(102)			土815	未掘	
817	D	橢円形	(230)	(94)				未掘	
818	D	橢円形	(54)	(44)				未掘	

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
819	D	楕円形	(95)	(82)		土 820		未掘	
820	D	楕円形	(146)	(135)			土 819	未掘	
821	D	円形	(52)	(33)				未掘	
822	D	円形	(26)	(26)				未掘	
823	D	楕円形	(23)	(18)				未掘	
824	D	円形	(33)	(32)				未掘	
825	D	円形	(30)	(28)				未掘	
826	D	楕円形	(61)	(36)				未掘	
827	D	楕円形	(104)	(88)				未掘	
828	D	円形	(28)	(26)				未掘	
829	D	楕円形	(50)	(35)				未掘	
830	D	円形	(26)	(21)				未掘	
831	D	円形	(19)	(19)				未掘	
832	D	円形	(35)	(32)				未掘	
833	D	楕円形	(28)	(23)				未掘	
834	D	楕円形	(260)	(204)				未掘	
835	D	楕円形	(164)	(90)			59 住	未掘	
836	D	円形	(69)	(66)				未掘	
837	D	楕円形	(35)	(30)				未掘	
838	D	円形	(34)	(33)				未掘	
839	D	円形	(35)	(32)				未掘	
840	D	円形	(32)	(30)				未掘	
841	D	楕円形	(40)	(26)				未掘	
842	D	隅丸方形	(56)	(38)				未掘	
843	D	長円形	(112)	(42)				未掘	
844	D	楕円形	(22)	(20)			68 住	未掘	
845	D	楕円形	(58)	(50)			68 住	未掘	
846	D	円形	(30)	(28)				未掘	
847	D	円形	(32)	(30)				未掘	
848	D	円形	(20)	(20)				未掘	
849	D	円形	(40)	(38)				未掘	
850	D	円形	(22)	(20)				未掘	
851	D	円形	(25)	(24)				未掘	
852	D	長円形	(96)	(33)				未掘	
853	D	円形	(16)	(16)				未掘	
854	D	円形	(22)	(18)				未掘	
855	D	楕円形	(134)	(81)				未掘	
856	D	楕円形	(32)	(27)				未掘	
857	D	円形	(38)	(35)				未掘	
858	D	円形	(32)	(30)				未掘	
859	D	楕円形	(38)	(30)				未掘	
860	D	円形	(34)	(34)				未掘	
861	D	円形	(52)	(46)				未掘	
862	D	円形	(45)	(40)				未掘	
863	D	円形	(33)	(32)				未掘	
864	D	円形	(58)	(57)				未掘	
865	D	円形	(29)	(28)				未掘	
866	D	楕円形	(36)	(28)				未掘	
867	D	楕円形	(36)	(30)				未掘	
868	D	楕円形	(30)	(24)				未掘	
869	D	円形	(30)	(30)				未掘	
870	D	円形	(50)	(50)				未掘	
871	D	円形	(18)	(17)				未掘	
872	D	円形	(36)	(34)				未掘	
873	D	円形	(22)	(209)				未掘	
874	D	円形	(48)	(46)				未掘	
875	D	円形	(24)	(22)		土 876		未掘	
876	D	楕円形	(44)	(36)			土 875	未掘	
877	D	円形	(19)	(17)				未掘	
878	D	円形	(19)	(17)				未掘	
879	D	円形	(20)	(19)				未掘	
880	D	楕円形	(40)	(34)				未掘	
881	D	円形	(22)	(20)				未掘	
882	D	楕円形	(44)	(26)				未掘	
883	D	楕円形	(54)	(32)				未掘	
884	D	楕円形	(38)	(28)				未掘	
885	D	円形	(22)	(20)				未掘	
886	D	楕円形	(54)	(46)				未掘	
887	D	円形	(36)	(34)				未掘	

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
888	D	楕円形	(21)	(16)				未掘	
889	D	円形	(10)	(9)				未掘	
890	D	楕円形	(34)	(26)				未掘	
891	D	楕円形	(20)	(19)			97 住	未掘	
892	D	楕円形	(23)	(18)				未掘	
893	D	楕円形	(178)	(64)				未掘	
894	D	円形	(24)	(23)				未掘	
895	D	円形	(9)	(8)				未掘	
896	D	円形	(16)	(15)				未掘	
897	D	円形	(219)	(19)				未掘	
898	D	楕円形	(26)	(18)				未掘	
899	D	円形	(16)	(15)				未掘	
900	D	円形	(34)	(30)				未掘	
901	D	円形	(26)	(25)				未掘	
902	D	楕円形	(40)	(28)				未掘	
903	D	楕円形	(42)	(34)				未掘	
904	欠番								
905	D	楕円形	(59)	(50)				未掘	
906	D	円形	(36)	(33)				未掘	
907	D	楕円形	(84)	(56)			79 住	未掘	
908	D	円形	(34)	(30)				未掘	
909	D	円形	(46)	(40)				未掘	
910	D	円形	(24)	(23)				未掘	
911	D	円形	(38)	(20)			土 912	未掘	
912	D	円形	(61)	(59)		土 911		未掘	
913	D	円形	(16)	(14)				未掘	
914	D	円形	(18)	(17)				未掘	
915	D	円形	(38)	(36)				未掘	
916	D	長円形	(282)	(56)				未掘	
917	D	円形	(28)	(22)			80 住	未掘	
918	D	楕円形	(28)	(28)				未掘	
919	D	楕円形	(28)	(14)			92 住	未掘	
920	D	円形	(19)	(18)				未掘	
921	D	円形	(22)	(19)				未掘	
922	D	楕円形	(30)	(21)				未掘	
923	D	円形	(38)	(36)				未掘	
924	D	長円形	(84)	(43)				未掘	
925	D	楕円形	(78)	(46)				未掘	
926	D	楕円形	(78)	(28)				未掘	
927	D	円形	(16)	(14)				未掘	
928	D	楕円形	(60)	(46)				未掘	
929	D	円形	(18)	(18)				未掘	
930	D	円形	(12)	(12)				未掘	
931	D	円形	(26)	(22)				未掘	
932	D	楕円形	(44)	(40)			108 住	未掘	
933	D	円形	(76)	(36)			114 住	未掘	
934	D	隅丸方形	(142)	(68)			114 住	未掘	
935	D	楕円形	(62)	(30)				未掘	
936	D	隅丸方形	(98)	(38)			119 住	未掘	
937	F	円形	(54)	(52)				未掘	
938	F	楕円形	(72)	(60)				未掘	
939	F	円形	(26)	(24)		溝 4		未掘	
940	F	楕円形	(26)	(20)		溝 4		未掘	
941	F	円形	(29)	(28)		溝 4		未掘	
942	F	楕円形	(50)	(28)		溝 4		未掘	
943	F	円形	(25)	(25)		溝 4		未掘	
944	F	楕円形	(28)	(20)				未掘	
945	F	楕円形	(96)	(84)				未掘	
946	F	楕円形	(184)	(60)				未掘	
947	F	円形	(44)	(39)				未掘	
948	F	楕円形	(44)	(31)				未掘	
949	F	円形	(28)	(28)				未掘	
950	F	楕円形?	(135)	(90)			129 住	未掘	
951	F	楕円形	(73)	(48)				未掘	
952	G	楕円形	(54)	(46)				未掘	
953	G	円形	(21)	(20)				未掘	
954	G	円形	(35)	(20)		溝 6		未掘	
955	G	楕円形	(50)	(36)		溝 6		未掘	
956	G	円形	(40)	(38)		溝 6		未掘	

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
957	G	円形	(12)	(11)		土 958		未掘	
958	G	円形	(22)	(12)		溝 6	土 957	未掘	
959	G	円形	(34)	(12)		溝 6		未掘	
960	G	楕円形	(42)	(34)		溝 6	土 962	未掘	
961	G	楕円形	(172)	(90)		溝 6		未掘	
962	G	円形?	(10)	(5)		土 960		未掘	
963	G	円形	(20)	(20)				未掘	
964	G	円形	(80)	(40)				未掘	
965	G	円形	(30)	(20)				未掘	
966	G	楕円形	(50)	(30)				未掘	
967	G	長円形	(140)	(70)				未掘	
968	G	円形	(30)	(30)				未掘	
969	G	円形	(40)	(40)		溝 10		未掘	
970	H	円形	(84)	(40)				未掘	
971	H	楕円形	(138)	(116)				未掘	
972	H	円形	(68)	(66)				未掘	
973	H	円形	(82)	(72)				未掘	
974	H	円形	(32)	(31)				未掘	
975	H	円形	(48)	(46)				未掘	
976	H	円形	(42)	(38)				未掘	
977	H	楕円形	(188)	(120)				未掘	
978	H	円形	(70)	(70)				未掘	
979	H	円形	(22)	(21)				未掘	
980	H	楕円形	(58)	(51)				未掘	
981	H	円形?	(30)	(10)				未掘	
982	H	楕円形	(52)	(42)			141 住	未掘	
983	H	円形	(64)	(60)				未掘	
984	H	円形	(26)	(24)				未掘	
985	H	円形	(28)	(26)				未掘	
986	H	楕円形	(38)	(50)				未掘	
987	H	円形	(34)	(28)				未掘	
988	I	円形	(20)	(20)				未掘	
989	I	円形	(30)	(30)				未掘	
990	I	円形	(50)	(30)				未掘	
991	I	楕円形	(40)	(30)				未掘	
992	I	円形	(30)	(25)				未掘	
993	J	円形	(28)	(24)				未掘	
994	J	楕円形	(55)	(45)				未掘	
995	J	円形	(49)	(48)				未掘	
996	J	円形	(44)	(38)				未掘	
997	J	円形	(46)	(44)				未掘	
998	J	円形	(39)	(38)				未掘	
999	J	円形	(41)	(38)				未掘	
1000	J	楕円形	(50)	(42)		溝 5		未掘	
1001	J	楕円形	(62)	(54)		溝 5		未掘	
1002	J	円形?	(52)	(21)				未掘	
1003	J	楕円形	(48)	(39)				未掘	
1004	K	円形	(21)	(20)				未掘	
1005	K	円形	(36)	(33)				未掘	
1006	K	楕円形	(40)	(31)				未掘	
1007	K	円形	(23)	(23)				未掘	
1008	K	円形	(36)	(34)				未掘	
1009	K	楕円形	(68)	(45)				未掘	
1010	K	楕円形	(117)	(55)				未掘	
1011	K	楕円形	(61)	(46)				未掘	
1012	K	楕円形	(54)	(36)				未掘	
1013	K	円形	(53)	(44)				未掘	
1014	K	円形	(33)	(30)				未掘	
1015	L	楕円形	(66)	(50)				未掘	
1016	L	楕円形	(28)	(20)				未掘	
1017	L	円形	(43)	(42)				未掘	
1018	L	円形	(36)	(35)				未掘	
1019	L	楕円形?	(50)	(18)				未掘	
1020	L	楕円形	(136)	(114)				未掘	
1021	L	楕円形	(82)	(106)			157 住	未掘	
1022	L	楕円形	(55)	(40)		溝 14		未掘	
1023	L	長円形	(172)	(43)				未掘	
1024	L	楕円形	(68)	(51)				未掘	
1025	L	楕円形	(64)	(42)				未掘	



土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1026	L	橢円形	(43)	(30)				未掘	
1027	L	円形	(62)	(54)				未掘	
1028	L	橢円形	(32)	(24)		土 1030		未掘	
1029	L	橢円形	(26)	(21)		土 1030		未掘	
1030	L	隅丸方形	(164)	(153)			土 1028・1029	未掘	
1031	L	円形	(27)	(26)				未掘	
1032	L	長円形	(164)	(50)				未掘	
1033	L	円形	(104)	(100)				未掘	
1034	L	橢円形	(66)	(53)				未掘	
1035	L	円形	(36)	(32)				未掘	
1036	M	円形	(20)	(20)				未掘	
1037	M	円形	(20)	(18)				未掘	
1038	M	円形	(22)	(22)				未掘	
1039	M	円形	(22)	(21)				未掘	
1040	M	円形	(12)	(11)				未掘	
1041	M	円形	(17)	(16)				未掘	
1042	M	橢円形	(26)	(14)				未掘	
1043	M	橢円形	(18)	(11)				未掘	
1044	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1045	M	円形	(18)	(18)				未掘	
1046	M	円形	(24)	(22)				未掘	
1047	M	円形	(25)	(16)				未掘	
1048	M	橢円形	(20)	(18)				未掘	
1049	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1050	M	円形	(16)	(16)				未掘	
1051	M	円形	(18)	(18)				未掘	
1052	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1053	M	円形	(20)	(20)				未掘	
1054	M	円形	(24)	(20)				未掘	
1055	M	円形	(20)	(18)				未掘	
1056	M	円形	(21)	(21)				未掘	
1057	M	円形	(16)	(16)				未掘	
1058	M	円形	(21)	(13)				未掘	
1059	M	橢円形	(21)	(16)				未掘	
1060	M	円形	(15)	(14)				未掘	
1061	M	円形	(28)	(28)				未掘	
1062	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1063	M	円形	(39)	(36)				未掘	
1064	M	円形	(35)	(20)			167 住	未掘	
1065	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1066	D	円形	(30)	(28)				未掘	
1067	B	円形	22	22	8				
1068	B	橢円形	24	18	15				
1069	B	円形	28	24	8				
1070	B	円形	30	28	8				
1071	B	円形	24	22	7				
1072	B	円形	22	22	11				
1073	B	円形	14	14	22				
1074	B	円形	16	15	11				
1075	B	円形	16	16	9				
1076	B	円形	26	26	15				
1077	C					土 362・1078		壁面観察	
1078	C					土 362	土 1077	壁面観察	
1079	M	橢円形	22	16	14				
1080	M	円形	32	26	16				
1081	M					164 住	163 住	壁面観察	
1082	L	円形?	42	<20>					

測量数値

< > : 残存値、( ) : 推定値

第5表 土器観察表

図No.	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
1	14住	土	杯	(11.2)	5.8	3.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
2	14住	土	杯	(10.0)	5.0	3.3	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
3	14住	黒A	椀	(13.4)	6.4	6.05	わずか	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸	
4	14住	灰	碗	15.4	8.3	5.05	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
5	14住	灰	碗	(12.6)	7.3	3.9	3/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
6	14住	灰	碗	(15.4)	(10.2)	5.3	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
7	14住	灰	碗	(15.6)	8.0	4.6	1/4	5/8	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	内重焼痕
8	14住	灰	段皿	(13.6)	(8.2)	2.6	1/10	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内墨
9	14住	土	甌	(21.6)	20.0	23.1	1/3	2/3	口縁ヨコ、ナデ→磨滅、外工具	
10	15住	須	杯A	(15.2)	6.8	4.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
11	15住	須	杯A		8.0			完	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
12	15住	土	甕B		7.2			1/2	工具、底木葉痕→ナデ	
13	17住	灰	碗	(14.3)	(6.2)	5.25	1/10	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
14	18住	土	杯	(13.5)	6.8	4.15	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
15	18住	土	杯	(12.1)	(4.8)	3.85	1/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、内黒斑	
16	18住	土	杯	13.9	6.5	3.75	3/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤、種子圧痕
17	18住	土	杯	8.6	4.1	1.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ、黒斑	
18	18住	土	皿	8.7	4.8	1.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
19	18住	土	皿	16.6	6.4	3.6	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
20	18住	土	盤B	(9.2)	4.8	2.7	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、内黒斑	
21	18住	黒A	椀	(10.4)	5.2	3.65	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
22	18住	黒A	椀	10.5	5.45	4.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
23	18住	黒A	椀	11.2	5.6	3.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
24	18住	灰	碗	14.2	6.6	4.85	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	内重焼痕
25	18住	灰	碗	15.1	6.9	6.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ、漬掛け	タール、内自然釉、内重焼痕
26	18住	土	羽釜B	(31.1)			1/4		ナデ、内指頭圧痕、外工具→ケズリ	外煤
27	19住	土	椀	10.3			1/3		ロクロ、口縁ヨコ	
28	20住	灰	皿	(9.8)	5.25	2.2	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
29	21住	土	杯	(10.0)	(4.1)	2.1	3/8	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
30	21住	土	杯	(10.0)	5.9	2.25	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外タール
31	21住	土	杯	(14.0)	(5.8)	4.1	3/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
32	21住	土	杯	(13.9)	5.3	4.85	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤、外タール
33	21住	土	皿	10.3	4.7	1.2	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
34	21住	土	皿	(18.3)	7.7	4.6	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
35	21住	灰	碗	(11.8)	(7.5)	2.7	1/6	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
36	21住	灰	碗	14.4	7.2	5.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
37	22住	土	甕B	22.1	(9.4)	29.85	3/4	1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外ハケ、底ナデ	外煤
38	23住	土	杯	10.15	5.15	3.15	2/3	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅、底回糸→磨滅	
39	23住	土	杯	(9.6)	3.2	3.3	1/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
40	23住	土	杯	(11.4)	(5.5)	3.4	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	内煤
41	23住	土	盤B	(15.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
42	23住	黒A	椀	(15.8)			1/7		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
43	23住	黒A	椀	10.45	(5.4)	3.95	2/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒抜	
44	23住	灰	碗	(13.05)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
45	23住	灰	碗	(15.25)	7.45	7.3	1/2	11/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
46	23住	灰	碗	15.65			2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内自然釉
47	23住	灰	段皿	(14.8)	(7.9)	2.6	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
48	24住	土	杯	(10.8)	(6.9)	2.9	わずか	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
49	24住	黒A	椀	(12.6)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
50	24住	灰	碗		(6.2)			わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
51	25住	土	杯	(11.0)	5.4	2.8	わずか	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
52	25住	土	椀	(12.6)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ	
53	25住	灰	碗	(14.2)	7.6	5.4	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕、タール
54	25住	灰	碗	(15.4)	(7.4)	4.9	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
55	25住	灰	段皿	(13.2)	(7.6)	2.3	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
56	26住	土	杯	12.3	5.2	3.4	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
57	26住	土	杯or椀	(13.8)			1/8		ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅	
58	27住	土	杯	12.8	5.9	3.7	8/9	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
59	27住	土	杯	12.3	5.0	2.5	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
60	27住	土	杯	(13.2)	(5.2)	3.25	2/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
61	27住	土	杯	13.7	6.0	4.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
62	27住	土	杯	13.6	5.5	4.3	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外煤
63	27住	黒A	杯	12.7	4.9	3.8	1/4	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
64	27住	灰	碗	(14.6)	7.7	4.4	1/20	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
65	27住	緑	碗	(17.6)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ、ミガキ、輪花、施釉(黄緑)/淡褐	
66	27住	土	小型甕D	(11.4)	7.0	10.45	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
67	28住	土	杯	(9.85)	4.65	3.0	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
68	28住	土	杯or椀	(14.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
69	28住	須	杯B	(14.7)	(10.1)	3.6	5/16	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
70	28住	灰	碗		8.4			1/8	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
71	28住	土	小型甕	(16.3)			1/8		口縁ヨコ、内工具、外タテハケ	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
72	29住	黒A	杯	12.2	6.0	3.3	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
73	29住	土	甕C	19.7			1/2		内ナデ、外ケズリ	
74	30住	土	杯	12.7	5.8	4.3	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	タール、口縁切りこみ(後)
75	30住	土	杯	(11.2)	4.7	3.8	1/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
76	30住	軟	杯	(13.2)	(6.4)	3.8	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
77	30住	黒A	杯	13.3	5.0	4.1	2/3	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
78	30住	黒A	椀	(14.0)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
79	30住	黒A	皿	(13.4)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
80	30住	土	甕B	(24.0)			1/3		口縁ヨコ→内カキ、内工具→ナデ、外タテハケ	
81	31住	黒A	杯	(12.8)	5.35	4.0	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
82	31住	灰	碗	(16.9)	(8.2)	5.45	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
83	31住	灰	碗	(16.25)	9.1	4.85	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	底墨書
84	31住	土	甕B	(20.5)			1/6		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
85	32住	土	杯	15.2	5.8	4.35	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
86	32住	黒A	杯	13.5	6.8	3.95	1/3	4/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
87	32住	軟	杯	14.2	5.8	3.7	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
88	32住	軟	杯	13.1	5.3	4.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	外煤
89	32住	軟	杯	(12.8)	5.4	3.3	1/12	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
90	32住	軟	杯	13.0	6.4	2.8	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、黒斑	
91	32住	灰	碗	17.0	7.0	5.7	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、ハケ塗り	
92	32住	灰	碗	(15.0)	6.4	5.3	1/2	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内煤・重焼痕
93	32住	灰	皿	(14.6)	(7.0)	3.1	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
94	32住	灰	耳皿	11.6	4.6	2.1	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内種子圧痕?
95	32住	灰	長頸壺		4.8			完	ロクロ、底回糸→ナデ、漬掛け	
96	32住	土	小型甕D	12.7	7.2	14.1	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、外カキ→工具、底回糸	
97	32住	土	小型甕D	(14.1)	8.4	14.1	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、外カキ→工具、底回糸	
98	32住	土	甕B	23.4			7/8		口縁ヨコ→内カキ、内工具、外タテハケ→工具	
99	34住	黒A	杯	(13.0)	6.0	4.1	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ(暗)黒、底回糸	
100	34住	黒A	杯	12.7	5.8	4.0	7/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外煤
101	34住	黒A	杯	(12.2)	4.6	4.9	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
102	34住	黒A	椀	14.5			9/10		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
103	34住	黒A	皿	13.5	6.2	2.9	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
104	34住	須	盤 or 硯		(16.0)			1/10	ロクロ、口縁ヨコ、高台透かし	
105	34住	黒A	鉢	(23.2)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
106	34住	土	小型甕D	14.2			1/2		ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、内工具、外カキ	
107	34住	灰	碗	14.2	6.9	4.4	5/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
108	34住	土	甕B	21.4	9.2	32.0	1/3	1/3	口縁ヨコ→内カキ→内工具、内ナデ、外タテハケ、外・底ケズリ	
109	35住	土	杯	12.75	6.1	3.5	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
110	35住	土	杯	(12.0)	5.8	3.1	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
111	35住	土	杯	13.0	5.65	3.8	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
112	35住	黒A	杯	(12.6)	5.4	4.1	1/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
113	35住	黒A	皿	12.8	5.8	2.4	1/12	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
114	35住	須	椀		(5.2)			1/2	ロクロ、底回糸	
115	35住	灰	碗	(14.2)	(7.0)	3.9	わずか	3/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	高台種子圧痕?
116	35住	灰	碗	16.6	8.0	5.7	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	内重焼痕
117	35住	灰	碗	(15.6)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
118	35住	緑	皿	(13.8)	(6.0)	2.7	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(濃緑)/暗灰	
119	35住	土	甕B	(25.2)			1/8		口縁ヨコ→内カキ→磨滅、内ナデ→工具、外タテハケ	
120	36住	土	杯 or 椀	(12.2)			1/6		ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅	
121	37住	黒A	杯	(12.2)	(6.0)	4.6	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
122	37住	黒A	杯	(14.0)	(6.2)	4.2	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
123	37住	黒A	杯	(14.1)	(5.9)	4.45	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
124	37住	黒A	杯	(14.6)	(6.6)	4.0	1/3	1/3	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
125	37住	黒A	椀	(16.8)	(7.3)	7.15	1/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
126	37住	黒A	椀	14.9	7.4	5.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
127	37住	黒A	皿	(13.4)	(6.6)	3.2	1/7	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
128	37住	須	椀	(14.2)	(6.6)	5.1	1/9	2/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
129	37住	軟	杯	(13.2)	(6.0)	3.9	1/9	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
130	37住	灰	碗	(10.3)	(5.6)	3.5	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	
131	37住	灰	小瓶		(5.4)			1/4	ロクロ、外回ケ、ハケ塗り	
132	37住	須	長頸壺	5.1	5.15	10.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	自然釉
133	37住	須	短頸壺	(9.8)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外カキ、外回ケ	内自然釉
134	37住	灰	蓋						ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕
135	37住	土	甕B	(22.7)			2/3		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ→工具、外タテハケ	
136	38住	黒A	椀		(6.6)			1/8	ロクロ、内ミ黒、外回ケ	
137	38住	灰	碗		9.6			完	ロクロ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕
138	38住	土	甕B	(21.0)	10.0	32.0	1/5	9/10	口縁ヨコ→内カキ、内工具→ナデ、外タテハケ→工具→ケズリ、底工具	
139	39住	土	杯	11.0	4.7	3.0	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
140	39住	土	杯	11.1	4.65	3.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
141	39住	土	椀	14.0	6.6	5.15	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
142	39住	灰	碗	(19.05)	(8.8)	5.95	2/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	重焼痕
143	39住	灰	壺		(10.55)			2/5	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内自然釉、外重焼痕
144	40住	須	杯A	(11.95)	(5.05)	3.1	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
145	40住	須	杯A	(12.4)	6.1	3.85	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
146	40住	須	杯A	13.65	5.85	3.75	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
147	40住	須	長頸壺	(9.05)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ	外自然釉
148	41住	土	杯		5.55			4/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
149	41住	須	杯A	(11.1)	(5.25)	2.85	1/6	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
150	41住	灰	皿	(12.65)	(6.4)	2.5	1/16	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内重焼痕
151	41住	土	甕B	22.75	9.2	32.55	3/5	完	口縁ヨコ→内カキ、内指頭圧痕→ナデ、外タテハケ	煤
152	42住	黒A	杯		(7.5)			1/5	ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	外線刻
153	42住	黒A	杯	12.6	(5.5)	4.3	1/12	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
154	42住	黒A	杯	15.9	7.05	5.1	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
155	42住	黒A	皿	13.5	6.0	2.8	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
156	42住	須	杯A	(13.9)	6.35	3.6	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
157	42住	灰	段皿	(16.25)	(7.85)	3.65	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
158	43住	黒A	椀	14.8	(6.9)	5.7	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸	
159	43住	黒A	椀	15.9	6.8	6.1	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外・底煤
160	43住	土	杯	(10.1)	4.1	3.9	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
161	43住	土	杯	(11.3)	5.8	3.4	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
162	43住	土	杯	11.4	5.1	3.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	内・底煤
163	43住	土	杯	(11.4)	6.1	2.9	1/2	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
164	43住	土	杯	12.5	4.8	3.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
165	43住	土	杯	11.1	6.25	2.75	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
166	43住	土	杯	(12.4)	(6.4)	3.2	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
167	43住	土	杯	(12.7)	(5.0)	3.3	3/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
168	43住	土	椀	(15.9)	7.5	4.75	1/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
169	43住	土	椀	(14.4)	7.4	5.0	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
170	43住	軟	杯	12.3	4.5	2.9	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
171	43住	灰	碗	(12.95)	(7.4)	4.2	1/2	2/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
172	43住	灰	碗	(14.1)	8.0	4.6	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
173	43住	灰	碗	(14.0)	(7.5)	2.9	1/9	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
174	43住	灰	皿	14.6	7.0	3.5	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
175	44住	土	杯	(12.4)	16.0	3.2	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	穿孔(後)
176	44住	黒A	杯	(15.2)	(5.6)	5.3	1/8	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
177	44住	黒A	杯	(13.0)	5.8	4.4	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
178	44住	黒A	皿	12.6	6.5	2.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
179	44住	黒A	皿	(13.2)	5.4	2.8	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
180	44住	須	杯	(14.2)	6.5	3.7	わずか	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
181	44住	灰	碗	(14.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、ハケ塗り	
182	44住	灰	皿	15.4	7.2	2.1	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
183	44住	緑	碗		7.2			完	ロクロ、外回ケ、施釉(濃緑)/褐灰	トチン痕
184	44住	緑	碗	18.7	9.7	7.3	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミガキ、外回ケ→ミガキ、輪花、素地/灰	
185	44住	緑	碗	(22.6)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、内ミガキ、外回ケ→ミガキ、輪花、施釉(釉の剥離著しいため不明)/灰	
186	44住	土	甕B	20.0	8.9	33.1	完	完	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ・指頭圧痕、外タテハケ、底ナデ	
187	44住	土	鍋	(33.6)	(8.2)	16.9	1/4	1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ・工具、外ハケ→カキ→ナデ、外ケスリ	
188	45住	土	杯 or 椀	(14.1)			1/8		ロクロ→磨滅、口縁ヨコ	
189	45住	黒A	杯?	(13.0)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
190	46住	黒A	椀		(8.0)			1/2	内ミ黒、底回糸	
191	46住	灰	碗	13.5	6.55	4.1	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
192	46住	灰	皿	13.6	7.2	3.0	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
193	47住	土	椀		(8.2)			1/2	ロクロ、底回糸	
194	47住	土	甕	(16.0)			1/8		口縁ヨコ→工具、工具	
195	49住	黒A	杯	12.5	4.5	4.1	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸、外黒斑	
196	49住	黒A	杯	16.0	6.6	5.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
197	49住	土	甕B	(22.0)			わずか		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、内指頭圧痕、外タテハケ	
198	50住	土	甕B	(25.9)			1/4		口縁ヨコ→内カキ、ロクロ?→磨滅	
199	50住	土	杯	(13.0)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ	
200	50住	土	杯 or 椀	(10.0)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ	穿孔(後)
201	50住	土	椀	(14.2)	6.3	4.3	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
202	50住	黒A	杯 or 椀	(12.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
203	50住	灰	碗	(13.0)	(7.1)	3.0	1/16	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
204	51住	土	杯	(11.4)	6.05	3.25	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
205	51住	土	杯	14.95	6.2	4.55	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	内煤
206	51住	灰	碗	16.75	8.6	5.8	1/2	4/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
207	51住	灰	平瓶						ロクロ、口縁ヨコ、ハケ塗り?	自然釉
208	53住	土	杯	9.5	5.0	1.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	穿孔(後)
209	53住	土	杯	(9.0)	4.6	1.4	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
210	53住	土	杯	9.7	5.2	1.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
211	53住	土	杯	(13.4)	(5.9)	4.0	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
212	53住	土	杯	14.8	6.6	3.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	内煤
213	53住	土	椀	13.6	6.6	4.9	完	完	ロクロ→内ナデ、口縁ヨコ、底回糸	
214	53住	土	皿	(9.8)	(4.4)	1.35	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
215	53住	土	盤B	10.5	5.1	2.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
216	53住	土	盤?	(9.5)	4.7	3.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
217	53住	土	盤B		10.3			3/4	ロクロ	



図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
218	53住	黒A	椀	10.1	5.5	3.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	口縁タール
219	53住	黒A	椀						ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	
220	53住	黒A	椀	(18.2)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
221	53住	灰	碗	(13.0)	(6.0)	5.0	1/2	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
222	53住	灰	碗	14.1	7.3	6.3	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
223	53住	灰	碗	(14.7)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
224	53住	灰	段皿	(10.9)	6.2	2.1	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
225	54住	土	盤B	(14.0)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ	
226	55住	土	杯	(9.25)	(5.1)	2.4	1/6	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
227	55住	土	杯		(5.0)			2/5	ロクロ→磨滅、底回糸	
228	55住	黒A	椀		6.9			完	ロクロ、内ミ(暗)黒、底ナデ→擦痕	
229	55住	灰	碗	(16.8)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
230	55住	灰	碗		(7.7)			1/4	ロクロ、底回糸、漬掛け	
231	56住	須	杯	(15.4)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
232	56住	灰	碗?						ロクロ、外回ケ、漬掛け	内煤
233	57住	土	杯	(9.8)	(5.0)	3.3	1/26	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
234	57住	黒A	杯 or 椀	(14.0)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅	
235	57住	灰	碗		(8.8)			2/5	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
236	57住	灰	碗	(14.6)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
237	58住	黒A	杯	(13.3)	5.3	4.15	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
238	58住	黒A	杯	(13.1)	(6.0)	3.6	1/12	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ→磨滅	
239	58住	黒A	椀		7.2			完	ロクロ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
240	58住	黒A	杯 or 椀	(15.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒	
241	58住	黒A	椀	(16.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
242	58住	黒A	鉢	(24.8)	(9.6)	12.5	1/3	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
243	58住	須	杯A	(12.8)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
244	58住	土	甃B		8.7			7/8	外タテハケ、内ナデ、底ナデ→磨滅	
245	59住	黒A	杯 or 椀	(13.0)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
246	59住	黒A	杯	(15.6)	(6.8)	5.5	1/12	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
247	59住	黒A	椀		(9.9)			完	ロクロ、内ミ(暗)黒、外回ケ→ナデ	
248	59住	黒A	皿	(12.3)	(6.8)	1.7	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
249	60住	土	杯		(5.9)			完	ロクロ、底回糸	
250	60住	土	椀		(6.5)			1/2	ロクロ、底回糸	
251	60住	黒A	杯		(4.9)			1/2	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
252	60住	黒A	杯		(7.2)			完	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
253	60住	黒A	杯	14.5	4.1	7.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
254	60住	黒A	杯	(16.6)			1/11		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
255	60住	黒A	杯?	(13.5)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
256	60住	黒A	椀	(14.2)	(6.4)	5.0	1/14	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
257	60住	灰	段皿	(19.6)			1/9		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
258	60住	軟	杯	(13.4)			1/10		ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内黒斑	
259	60住	灰	碗		(8.8)			2/3	ロクロ、外回ケ、漬掛け	重焼痕
260	60住	灰	碗 or 皿		(8.2)			1/3	ロクロ、外回ケ、漬掛け	重焼痕
261	60住	土	甃B	(22.0)			1/4		口縁ヨコ→内カキ、外タテハケ、内ナデ→指頭圧痕	
262	61住	土	杯 or 椀	(12.2)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
263	61住	黒A	椀		(7.0)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
264	61住	黒A	杯 or 椀	(13.8)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
265	61住	黒A	椀	(14.6)	(5.1)	4.2	わずか	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
266	61住	須	杯A		(5.6)			1/3	ロクロ、底回糸	
267	61住	軟	杯	(13.9)	(6.2)	3.8	1/6	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
268	61住	軟	杯	(13.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
269	61住	灰	碗	(15.3)			1/7		ロクロ、口縁ヨコ	
270	62住	土	杯	(9.1)	(4.6)	2.6	1/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
271	62住	土	杯	(10.4)	5.5	2.6	1/5	7/8	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸	
272	62住	土	杯	(10.1)	(4.6)	2.8	1/10	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
273	62住	土	杯	(12.5)	5.1	4.3	1/7	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
274	62住	土	杯	(12.0)	(5.1)	3.05	1/11	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
275	62住	土	盤B	10.5			1/4		ロクロ	
276	62住	土	盤B	10.9	5.6	2.9	3/4	完	ロクロ	
277	62住	土	盤B	10.5	5.8	3.0	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
278	62住	土	盤B	10.4	5.8	3.15	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
279	62住	土	盤B	(13.3)	(7.0)	5.45	1/5	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
280	62住	黒A	椀		(7.5)			1/4	内ミ黒、底ナデ	
281	62住	黒A	椀	10.8	(5.2)	3.8	完	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	口縁タール
282	62住	須	杯A	(13.3)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
283	62住	灰	碗					1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
284	62住	灰	碗		(7.0)			1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
285	62住	灰	碗	(11.4)	(6.5)	3.3	1/4	1/12	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
286	62住	灰	段皿	(11.0)	6.4	1.6	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、底回糸、漬掛け	
287	62住	灰	段皿	(11.4)	6.6	2.15	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
288	62住	灰	碗		(7.3)			完	ロクロ、底回糸→ナデ、漬掛け	底穿孔(後)
289	62住	灰	碗	(14.9)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
290	62住	灰	碗	(15.0)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
291	62住	灰	碗	(14.8)	7.5	6.8	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
292	62住	緑	碗	(15.8)	(7.3)	6.6	1/4	2/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、施釉(濃緑)/灰白	
293	63住	土	杯	(10.0)	(5.2)	3.0	1/12	1/2	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
294	63住	土	杯	(10.0)	4.8	2.6	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
295	63住	土	杯		(6.0)			1/3	ロクロ、底回糸	
296	63住	土	盤?		(8.3)			1/2	ロクロ	
297	63住	黒A	碗						ロクロ、内ミ黒抜→磨滅、底回糸→磨滅	
298	63住	黒A	碗		(7.6)			4/5	内ミ黒	
299	63住	灰	碗		(7.3)			1/2	ロクロ、底回ケ、漬掛け	
300	63住	灰	碗	(12.6)	5.9	5.05	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	内自然釉
301	63住	灰	碗	(14.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
302	63住	灰	碗	(15.3)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
303	63住	灰	皿	(12.0)	(6.3)	2.95	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	外煤?
304	64住	土	杯	9.9	5.2	2.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
305	64住	土	杯	9.1	4.8	2.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
306	64住	土	杯	9.9	4.8	2.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
307	64住	土	杯	(9.1)	4.2	2.5	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
308	64住	土	杯	(9.7)	5.0	2.85	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	煤
309	64住	土	盤B	10.4	(5.7)	3.1	完	1/2	ロクロ、口縁ヨコ	
310	64住	黒A	碗		6.8			完	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
311	64住	黒A	碗		6.2			完	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
312	64住	黒A	碗	(10.4)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒	
313	64住	灰	碗		5.9			完	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
314	64住	灰	碗	(11.8)	6.0	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、輪花、漬掛け	
315	64住	灰	碗	(13.6)	7.3	4.2	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
316	64住	灰	碗	(14.1)	7.3	4.05	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	
317	64住	灰	碗	(15.4)	7.4	5.45	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
318	64住	灰	皿	(11.0)	6.4	2.6	1/3	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
319	64住	灰	段皿	(11.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
320	64住	黒B	碗	(15.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、ミ黒	
321	64住	土	羽釜	(23.9)			1/6		口縁ヨコ、ナデ	
322	65住	土	杯	9.9	5.6	3.1	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
323	65住	土	碗		(7.5)			完	ロクロ、底回糸	
324	65住	黒A	碗	15.15	7.2	6.4	3/4	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸→ナデ	
325	66住	土	杯	9.4	4.9	2.4	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
326	66住	土	杯	(11.1)	(5.5)	2.6	わずか	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	内煤
327	66住	土	杯		(5.2)			1/4	ロクロ、底回糸	
328	66住	土	碗		5.4			1/2	ロクロ	内タール
329	66住	土	碗 or 盤						ロクロ	
330	66住	土	皿	9.3	4.0	1.9	7/8	完	ロクロ、口縁ケズリ→ナデ、底回糸	
331	66住	須	杯A	(15.2)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
332	66住	灰	碗		(5.2)			1/8	ロクロ、漬掛け	
333	66住	灰	碗	(12.7)	(7.8)	3.9	わずか	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
334	66住	灰	碗	14.6	7.0	6.15	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
335	66住	灰	碗	13.5	7.0	5.7	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、底回糸、漬掛け	
336	66住	灰	皿	(11.9)	6.2	2.75	1/4	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	
337	66住	緑	碗		(7.0)			わずか	ロクロ、底回糸、施釉(濃緑)/明黄褐	
338	66住	黒A	碗		(7.2)			3/8	ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	
339	66住	黒A	碗		4.8			完	ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	
340	66住	土	羽釜						外ナデ、内工具ナデ	
341	67住	土	碗						ロクロ、底回糸	
342	67住	灰	碗	(14.4)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
343	67住	灰	碗	(16.1)	8.0	6.95	1/4	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ、漬掛け	
344	67住	灰	段皿	(10.4)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
345	68住	灰	碗		(6.4)			1/4	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
346	68住	灰	碗	(11.5)	(6.6)	3.25	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	
347	69住	土	杯	(9.0)	(4.55)	2.7	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
348	69住	土	杯	(9.5)	5.8	3.0	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ	
349	69住	土	杯	(10.6)	(4.8)	2.15	1/5	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
350	69住	土	盤?		6.4			完	ロクロ→磨滅	
351	69住	黒A	碗	10.3	4.8	4.2	3/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	タール
352	69住	黒A	碗	(13.8)	7.1	5.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒	
353	69住	黒B	碗	(11.0)	(5.4)	4.2	1/4	2/5	ロクロ、口縁ヨコ、ミ黒、底回糸	
354	69住	須	杯A		(9.2)			2/5	ロクロ、回ヘラ	
355	69住	灰	碗	14.8	7.1	4.9	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ、漬掛け	内重焼痕
356	69住	灰	碗	15.1	6.9	5.95	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸→ナデ、漬掛け	
357	69住	灰	碗	(16.0)	(8.8)	6.35	1/12	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
358	69住	灰	段皿	(12.6)	6.9	2.65	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
359	69住	灰	段皿	(13.4)	6.9	5.95	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
360	69住	緑	碗	(13.8)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(濃緑)/灰白	
361	69住	須	甕	(44.6)			1/8		口縁ヨコ、ロクロ、外タタキ	外自然釉
362	70住	土	杯	9.9	4.7	2.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
363	70住	土	杯	(13.4)	6.3	4.4	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
364	70住	土	碗	13.5	7.2	5.05	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
365	70住	土	盤B	(11.6)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
366	70住	黒A	椀		6.5			完	ロクロ、内ミ黒	
367	70住	灰	碗	12.0	7.0	3.5		完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→回ケ、漬掛け	
368	70住	灰	碗	(12.4)	6.7	3.7	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	口縁タール、 内重焼痕
369	70住	灰	碗		10.2			完	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
370	70住	灰	段皿	12.0	7.7	2.4	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
371	71住	土	杯	(10.0)	5.4	3.0	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
372	71住	土	椀	(11.3)	6.3	4.3	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ	
373	71住	灰	碗	(15.2)	(9.0)	5.9	わずか	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
374	71住	灰	皿	10.9	6.6	1.8		完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
375	71住	灰	段皿	(13.4)	7.5	2.3	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
376	71住	緑	皿	11.9	6.1	1.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(濃緑)/灰	トチン痕
377	72住	須	杯A	(15.8)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
378	73住	須	杯A		(6.4)			2/5	ロクロ、底回糸	
379	73住	須	杯B	(16.1)	10.9	5.7	2/5	11/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、底回糸	
380	73住	須	杯B	17.4	12.3	5.9	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
381	73住	須	蓋	(14.4)		2.0	1/4		ロクロ、外回ケ	
382	73住	須	蓋	15.2		3.2	4/5		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
383	73住	須	蓋	(16.5)		2.7	1/3		ロクロ	
384	73住	土	糞B	(17.8)			1/5		内ハケ、口縁ヨコ→磨滅	
385	74住	土	杯	10.3	5.2	3.2	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
386	74住	黒A	椀		(5.6)			1/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
387	74住	黒B	椀		(5.6)			1/4	ロクロ→磨滅、ミ黒→磨滅	
388	74住	灰	碗	(15.8)	(8.2)	6.4	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
389	74住	灰	皿	(11.2)	6.3	2.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
390	74住	灰	皿	11.6	6.7	2.55	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
391	74住	灰	段皿	(11.3)	(6.9)	2.2	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
392	77住	土	杯	(10.2)	4.9	3.1	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
393	77住	土	杯	(14.2)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ	
394	77住	灰	碗	(12.3)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
395	77住	灰	段皿	(13.3)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
396	78住	土	杯	9.6	5.5	2.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
397	78住	土	杯	(10.5)	5.0	2.6	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
398	78住	土	杯		5.2			完	ロクロ、底回糸	
399	78住	土	椀		5.2			完	ロクロ、底回糸	
400	78住	土	盤B		7.4			完	ロクロ、底回糸	内煤
401	78住	黒A	椀		6.6			完	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
402	78住	灰	碗		8.4			完	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
403	78住	灰	碗	(14.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
404	78住	灰	稜皿	(11.2)			1/8		ロクロ、漬掛け	内重焼痕
405	78住	灰	段皿	(12.8)	7.8	2.35	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
406	78住	土	小型糞D	9.3	5.9	10.1	5/8	完	ナデ、口縁ヨコ	
407	78住	土	羽釜	(17.5)			1/8		口縁ヨコ、工具ナデ、指頭圧痕	
408	78住	灰	小瓶		(9.0)			1/2	ロクロ、外回ケ、底回糸	内自然釉、内 タール
409	79住	土	杯		4.5			1/2	ロクロ、底回糸	底穿孔(前)
410	79住	土	杯	9.7	4.0	1.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
411	79住	土	杯	(10.7)	5.7	2.8	1/4	1/2	ロクロ、底回糸	
412	79住	土	椀		(6.4)			完	ロクロ	
413	79住	土	盤B	10.5			1/8		ロクロ	
414	79住	土	盤B	(17.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
415	79住	灰	碗	(13.9)	7.0	5.2	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	
416	79住	灰	碗	16.4	7.9	6.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	
417	79住	灰	碗	14.8	7.8	6.5	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
418	79住	灰	稜皿	10.35	5.65	2.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	口縁タール
419	79住	白	碗						ロクロ、外回ケ、内櫛目文、施釉(灰白)/灰白	
420	79住	白	碗	(15.3)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、施釉(緑灰白)/白	
421	79住	土	羽釜	(21.4)			1/5		口縁ヨコ、ナデ	
422	80住	灰	皿	(10.0)			1/9		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
423	80住	無	山茶碗		(7.6)			完	ロクロ、底回糸	内重焼痕
424	80住	白	碗					1/4	ロクロ、外回ケ、内陰刻文、施釉(灰黄)/白	
425	81住	須	蓋	14.85		2.6	2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
426	81住	須	蓋	20.0		3.75	2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	外自然釉
427	81住	須	蓋	19.0			完		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
428	81住	須	杯A	13.45	6.6	3.85	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回ヘラ、火摺痕	
429	81住	須	杯A	14.45	7.0	4.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回ヘラ	
430	81住	須	杯B	(14.9)	(10.0)	3.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
431	81住	須	杯B	14.3	10.6	3.45	1/2	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、底ケズリ	
432	81住	須	杯B	14.45	10.4	4.3	9/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→底回ケ	
433	81住	須	杯B	(15.5)	11.6	3.7	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
434	81住	土	糞B		(8.5)			1/3	ナデ、内ヨコハケ、外タテハケ	
435	81住	土	糞B		8.95		1/2		ナデ、外タテハケ→磨滅、内・底ヨコハケ	
436	81住	土	糞B		(8.3)			完	ハケ、底木葉痕	
437	81住	土	糞B		8.6			完	底ナデ、外タテハケ、内ヨコハケ	
438	81住	須	横瓶	(14.0)		20.5	1/3		ロクロ、口縁ヨコ、外ナデ	

図No	出土地点	種別	器種器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
439	81住	土	小型甗	(11.2)	(7.1)	(9.2)	1/12	1/2	ロクロ、内ナデ、内指頭圧痕、口縁ヨコ、底ナデ→磨滅	
440	82住	灰	碗		(6.0)			1/2	ロクロ、底回糸、漬掛け	
441	82住	土	甗B		(9.0)			1/5	外タテハケ、内ヨコハケ、外工具	外煤
442	83住	土	杯		(6.3)			1/5	ロクロ、底回糸	
443	83住	土	杯 or 椀	(13.2)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ	
444	83住	土	椀		(4.6)			1/3	ロクロ→磨滅、底回糸	
445	83住	灰	碗		(7.4)			1/3	ロクロ、底回糸、漬掛け	
446	83住	灰	皿	(10.2)	(5.0)	1.8	1/12	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
447	83住	白	杯	(10.2)	(3.2)	2.65	1/12	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ、施釉(灰黄)/白	
448	83住	白	碗	(15.2)			1/20		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(白)/白	
449	84住	土	杯	(9.3)	(5.0)	1.9	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
450	84住	土	皿	(8.4)	4.8	2.0	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
451	84住	灰	碗		(8.0)			1/2	ロクロ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
452	85住	土	皿	(8.9)	(4.5)	1.7	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ	
453	85住	土	盤B		(9.7)			1/5	ロクロ→磨滅	
454	85住	灰	碗		(7.2)			1/2	ロクロ、外回ケ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
455	85住	灰	碗	(14.4)			1/24		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
456	85住	緑	碗						ロクロ、施釉(淡緑灰)/灰白	
457	86住	土	杯	(9.0)	(5.2)	1.5	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
458	86住	土	杯	(8.4)	4.3	1.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
459	86住	土	椀		(6.8)			1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
460	86住	土	盤B	(10.2)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	内タール
461	86住	土	盤B	(8.8)	(4.8)	2.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
462	86住	土	盤B	(11.25)	(5.8)	3.3	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
463	86住	須	杯A	(13.55)	(6.1)	4.5	1/20	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、内火樽痕	
464	86住	灰	碗		(6.4)			1/6	ロクロ、底回糸、漬掛け	
465	86住	灰	碗		(8.4)			1/6	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
466	86住	灰	碗		(7.15)			完	ロクロ、底回糸、漬掛け	
467	86住	灰	碗	(15.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
468	87住	土	杯	11.9	6.25	3.5	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
469	87住	土	杯	(12.6)	(5.4)	3.95	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
470	87住	土	杯	12.75	5.35	4.25	3/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
471	87住	土	杯	(13.6)	(5.8)	3.3	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
472	87住	土	椀	14.5	7.45	5.8	8/9	完	ロクロ、口縁ヨコ	
473	87住	灰	碗	13.7	7.3	4.5	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→底ナデ、漬掛け	
474	87住	灰	碗	(15.5)	(8.1)	5.65	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
475	87住	灰	碗	16.15	8.2	5.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
476	87住	灰	皿	(12.8)	(7.3)	3.0	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
477	87住	土	甗B		10.8			3/4	ナデ、外ハケ、外ケズリ、底ナデ	底煤
478	87住	土	甗B	20.0	10.6	23.3	11/12	3/4	口縁ヨコ、ロクロ→ナデ、外工具、底ナデ	
479	88住	須	杯A	(14.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内火樽痕	
480	88住	土	甗B		(9.0)			1/4	ナデ→磨滅、内ハケ、底ナデ	
481	89住	土	杯	(9.4)	4.1	1.7	1/4	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、内黒斑	
482	89住	土	杯	9.8	5.4	1.7	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
483	89住	土	椀?	(13.2)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ	
484	89住	土	盤B	18.15			完		ロクロ、口縁ヨコ	高台内タール
485	89住	灰	碗		6.9			完	ロクロ、外回ケ→ナデ、漬掛け	
486	89住	灰	碗		6.8			1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
487	89住	灰	耳皿				1/8		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
488	90住	土	杯	(10.2)	5.8	2.7	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
489	90住	土	杯	9.65	4.55	3.7	11/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
490	90住	土	杯	(11.2)	(6.4)	2.7	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
491	90住	土	皿	(10.2)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
492	90住	土	椀	10.5	5.85	4.65	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ	
493	90住	土	椀	11.85	6.3	4.4	完	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
494	90住	黒A	杯		(5.7)			完	ロクロ→磨滅、内ミ(暗)黒	
495	90住	黒A	杯 or 椀	(14.8)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜	
496	90住	黒A	椀		(6.6)			2/3	ロクロ→磨滅、内ミ黒	
497	90住	黒B	椀	(10.0)			1/8		ロクロ、ミ黒	
498	90住	灰	碗	(12.0)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
499	90住	灰	碗		(8.5)			1/4	ロクロ、底回糸、漬掛け	
500	90住	灰	碗	(12.9)	(6.9)	4.4	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
501	90住	灰	碗	(14.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	外煤
502	90住	灰	皿	11.5	7.6	2.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
503	90住	灰	皿	(13.5)	(7.0)	2.6	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
504	90住	土	羽釜A	(16.7)			2/3		口縁ヨコ、ナデ、内工具	
505	91住	土	杯		(5.4)			1/6	ロクロ、底回糸	
506	91住	土	杯		(7.1)			1/8	ロクロ、底回糸→磨滅	
507	91住	土	皿	(10.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
508	91住	土	盤B		(6.9)			1/4	ロクロ	
509	91住	黒A	椀		(7.0)			1/3	ロクロ、内ミ黒抜→磨滅	
510	91住	黒A	椀	(12.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
511	91住	灰	碗	(12.4)	6.0	4.1	わずか	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	
512	91住	灰	碗	(14.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	



図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
513	91住	灰	碗	(15.6)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
514	91住	灰	皿	13.0	7.1	2.7	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
515	91住	土	小型甕 D	7.1	5.0	7.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
516	91住	土	羽釜 B						ナデ	
517	92住	土	杯		4.8			完	ロクロ、底回糸	
518	92住	須	杯 B	(10.2)	5.8	4.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
519	92住	軟	杯	13.25	5.2	4.0	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
520	92住	灰	碗	13.8	7.2	4.2	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	内トチン痕
521	92住	灰	碗	(17.2)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
522	92住	黒A	杯	14.8	6.5	5.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
523	92住	黒A	杯	13.6	5.3	4.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
524	92住	黒A	杯	(13.2)	6.5	3.9	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
525	92住	黒A	杯	13.35	5.9	4.15	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	底へラ記号
526	92住	黒A	碗	(16.3)	7.8	5.65	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
527	92住	土	甕 B	(21.3)			1/2		口縁ヨコ→内カキ、外タテハケ、内指頭圧痕→ナデ	
528	92住	土	甕 B	(24.4)	9.4	30.4	1/16	2/3	口縁ヨコ→内カキ、外タテハケ、内指頭圧痕→ナデ、内ハケ	
529	92住	土	小型甕 D	(9.8)	5.2	7.8	1/16	完	ロクロ、口縁ヨコ、外カキ、底回糸	
530	92住	灰	長頸壺	4.7	4.75	10.25	2/3	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、底回糸、漬掛け	高台重焼痕
531	93住	灰	碗	(15.1)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
532	94住	土	杯	8.7	(4.2)	2.15	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	内煤
533	94住	灰	碗		(7.1)			1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
534	94住	灰	皿	(12.0)	(7.2)	2.0	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
535	95住	土	杯	(12.8)	(6.0)	3.7	2/3	2/3	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
536	95住	土	杯	(13.4)	(6.9)	3.85	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
537	95住	土	碗	(14.2)	(7.9)	5.0	1/8	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
538	95住	黒A	碗		(6.8)			3/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
539	95住	土	甕 B		(12.0)			1/3	ナデ、外ハケ、底工具→磨滅	煤
540	95住	土	小型甕 D		7.6			完	ロクロ、底回糸	
541	96住	土	杯	(10.2)	(5.7)	(3.8)	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
542	96住	土	杯	10.7	5.6	3.5	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
543	96住	土	杯	11.3	5.6	3.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
544	96住	土	碗		6.9			完	ロクロ、底回糸→磨滅	
545	96住	土	碗?	(13.2)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
546	96住	土	盤 B	13.5	5.8	3.6	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ	
547	96住	土	盤?	(14.3)	(6.9)	3.5	1/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅	
548	96住	土	盤 B	(15.0)	14.15	6.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
549	96住	黒A	碗	(12.0)	(6.4)	5.0	1/3	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒	
550	96住	黒A	碗	13.3	7.2	5.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
551	96住	灰	碗	12.6	6.4	4.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	口縁タール
552	96住	灰	碗	(12.7)	(7.4)	3.85	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
553	96住	灰	碗	(15.6)	7.3	5.45	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	
554	96住	灰	段皿		7.7			完	ロクロ、外回ケ→ナデ	
555	96住	灰	皿	(12.2)	(7.0)	2.4	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
556	96住	灰	皿	(14.1)	8.0	3.05	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
557	96住	緑	碗		(8.1)			1/5	ロクロ→内ミ、底回糸→ナデ、施釉(淡緑)/淡白	
558	96住	緑	碗	(12.6)			1/20		ロクロ→内ミ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(深緑)/灰褐	
559	96住	土	甕		(8.2)			1/2	ナデ→磨滅、底木葉痕?	
560	96住	土	甕		(10.7)			1/8	外タテハケ、内工具、底ナデ	
561	96住	土	小型甕 D	(13.4)			1/6		口縁ヨコ、外ナデ→磨滅、内工具	
562	96住	土	羽釜		(7.1)			完	ナデ→磨滅	
563	96住	土	羽釜	(23.4)			1/13		口縁ヨコ、外工具	
564	96住	土	羽釜	(25.0)			1/7		口縁ヨコ、内工具	内煤
565	97住	土	杯	(13.2)	6.0	3.7	1/3	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
566	97住	黒A	碗		(6.8)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
567	97住	黒A	杯	(12.8)	(5.2)	4.0	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
568	97住	黒A	杯	12.4	5.2	4.05	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
569	97住	黒A	杯	(13.4)	(5.9)	3.55	1/12	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
570	97住	灰	碗		(8.2)			完	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
571	97住	土	小型甕 D	(11.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、カキ	
572	97住	土	甕 B	(21.5)			1/6		口縁ヨコ、外タテハケ、内ナデ、内ヨコハケ→工具	煤
573	97住	土	甕 B		(12.0)			1/8	外タテハケ→ロクロ、内ナデ、底ナデ	煤
574	97住	土	甕		(10.6)			1/4	ナデ、底ナデ	
575	97住	土	甕 B	(23.8)			1/4		口縁ヨコ、外タテハケ、内ナデ→磨滅、内カキ	
576	97住	土	甕 B	(25.3)			1/6		口縁ヨコ、外タテハケ、内カキ、内工具→指頭圧痕	煤
577	97住	土	甕 B	(26.8)			1/6		口縁ヨコ、外タテハケ、内ナデ→磨滅、内カキ	外煤
578	98住	黒A	杯	16.25	6.9	4.55	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
579	98住	須	杯 A		(5.5)			1/8	ロクロ、底回糸	
580	98住	灰	壺		(10.25)			1/3	ロクロ、外回ケ	
581	99住	黒A	杯	(13.0)	6.5	3.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
582	99住	黒A	杯	15.7	7.2	4.55	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
583	99住	黒A	鉢	(23.0)	(9.0)	7.45	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底ケズリ	
584	99住	須	杯 A	(13.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
585	99住	須	杯 A	(12.2)	(5.8)	3.0	1/12	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
586	99住	須	蓋	(16.5)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考	
				口径	底径	器高	口縁	底部			
587	99住	灰	耳皿		4.5			完	ロクロ、底回糸、漬掛け		
588	99住	土	甕B		(9.2)			1/2	外タタキ、内底ナデ		
589	99住	土	甕B	(26.0)				1/4	口縁ヨコ→内カキ、内工具、外タテハケ		
590	99住	土	小型甕D	12.95	7.4	11.85		3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、カキ、底回糸	
591	99住	須	甕							ロクロ、内ナデ、タタキ	
592	99住	須	長頸壺		8.1				完	ロクロ、外回ケ、底回糸	外煤、外自然釉、底へラ記号
593	100住	土	杯	(11.6)	5.05	3.55	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
594	100住	土	杯	(11.8)	(5.0)	3.5	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
595	100住	土	杯	(12.0)	5.6	3.1	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
596	100住	土	椀	(14.8)	(8.3)	5.3	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
597	100住	黒A	杯	(16.0)	7.0	5.0	1/12	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅、底回糸		
598	100住	灰	碗	13.3	6.5	4.0	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕	
599	100住	灰	碗	(13.8)	7.4	4.2	1/7	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕	
600	100住	灰	皿	(12.2)	6.6	2.7	2/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け		
601	100住	灰	皿	(14.6)	6.6	2.9	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕	
602	101住	土	杯	10.1	6.0	3.3	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸→ナデ		
603	101住	土	盤B	(14.3)	(9.7)	6.45	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底ナデ		
604	101住	黒A	椀		(7.2)			1/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸		
605	101住	灰	碗	(17.0)	(8.8)	5.9	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け		
606	101住	緑	碗		(6.6)			完	ロクロ、施釉(暗緑)/灰	内トチン痕	
607	102住	土	杯		6.6			完	ロクロ、底回糸		
608	102住	黒A	杯	(12.15)	6.65	4.4	2/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
609	102住	黒A	杯	(13.4)	(7.4)	4.1	1/4	4/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
610	102住	黒A	杯	13.2	5.6	5.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
611	102住	黒A	椀	(16.8)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒		
612	102住	黒A	椀	(17.0)	(8.6)	(5.3)	1/2	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸		
613	102住	黒A	杯	16.3	6.5	5.0	1/16	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	内線刻	
614	102住	黒A	椀		(7.9)			完	ロクロ、内ミ黒、底回糸		
615	102住	黒A	皿	(13.9)	(6.6)	2.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
616	102住	黒A	皿	(13.4)	6.2	2.8	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒		
617	102住	黒A	皿	(13.6)				1/24	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒		
618	102住	須	杯A	(14.0)				1/5	ロクロ、口縁ヨコ		
619	102住	須	杯A	(13.2)	(6.7)	3.55	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、火罨痕		
620	102住	須	杯A		(4.45)			1/3	ロクロ、底回糸		
621	102住	須	杯A		(4.9)			1/6	ロクロ、底回糸	底へラ記号	
622	102住	灰	碗	(14.65)				わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、内ハケ塗り		
623	102住	灰	皿	(15.2)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、内ハケ塗り		
624	102住	土	甕B	(19.0)				1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ		
625	102住	土	甕B	(17.2)	(8.6)	30.6	1/2	1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ→工具、外タテハケ、底ナデ		
626	102住	土	小型甕C	(8.05)	(5.6)	10.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内工具→磨滅、外ケズリ→磨滅、底ケズリ		
627	102住	土	小型甕D		6.5			完	ロクロ、口縁ヨコ→カキ、外カキ、底回糸	底煤	
628	102住	須	長頸壺						ロクロ、外回ケ	外自然釉	
629	102住	須	甕						ロクロ、波状文		
630	103住	土	杯	(11.6)	5.9	2.7	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
631	103住	土	杯	13.5	(6.7)	3.15	1/12	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
632	103住	土	杯	12.7	6.5	3.25	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
633	103住	黒A	椀						ロクロ、内ミ黒、底回糸		
634	103住	黒A	椀						ロクロ、内ミ黒、底回糸		
635	103住	黒A	椀 or 皿		(6.7)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸		
636	103住	黒A	皿	(12.6)	(4.3)	2.2	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、内ミ黒、底回糸		
637	103住	灰	碗	14.6				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け		
638	103住	灰	碗	(15.3)	(7.3)	5.05	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	内自然釉	
639	103住	灰	碗	(15.2)	(8.7)	5.4	1/16	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け		
640	103住	灰	碗	(17.8)	(8.9)	5.8	2/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け		
641	103住	灰	皿	12.35	6.5	2.6	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け		
642	103住	灰	皿	13.5	6.8	3.0	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け		
643	103住	灰	皿	13.4	6.5	2.7	1/2	5/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸漬掛け		
644	103住	灰	皿	(16.5)	(8.9)	3.25	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け		
645	103住	土	甕	(18.0)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ	外煤	
646	104住	土	杯	12.2	4.8	3.1	1/8	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内コテナデ→磨滅、底回糸		
647	104住	土	杯	12.7	5.25	4.2	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
648	104住	土	杯	(12.4)	6.0	3.4	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
649	104住	土	杯	(12.8)	(6.6)	3.5	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸		
650	104住	土	椀	(14.6)	7.3	4.8	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ		
651	104住	土	椀	(14.6)	7.2	5.7	1/6	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	内煤	
652	104住	黒A	杯	(12.0)	5.0	4.3	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸	外煤	
653	104住	須	杯A		(6.0)			1/6	ロクロ、底回糸		
654	104住	軟	杯	(13.0)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ		
655	104住	灰	碗	(15.4)	7.8	4.8	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	内重焼痕	
656	104住	灰	碗	(16.7)	8.0	5.9	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け		
657	104住	灰	碗	(16.7)	8.3	5.4	1/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、ナデ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕	
658	104住	土	小型甕	(13.6)	(10.0)	12.0	1/6	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外指頭圧痕→ケズリ、底ナデ		
659	104住	土	小型甕D	(10.0)				1/7	ロクロ、口縁ヨコ、外カキ		

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
660	105住	土	椀	(14.4)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
661	106住	黒A	杯	(4.9)				完	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
662	106住	黒A	椀		(4.8)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
663	106住	黒A	杯 or 椀	(18.4)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
664	106住	須	杯A		(6.2)			1/3	ロクロ、底回糸	内重焼痕、底へラ記号
665	106住	灰	碗	(7.9)	(4.9)	3.6	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ	
666	106住	灰	碗		(8.0)			1/4	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
667	106住	灰	段皿		(13.2)			1/10	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
668	106住	灰	壺		(9.6)			1/4	ロクロ、外回ケ、底回糸	底へラ記号
669	107住	土	杯		(6.1)			7/8	ロクロ、底回糸	煤
670	107住	土	杯	(12.0)	(6.1)	3.4	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外煤
671	107住	土	椀	(13.7)	(6.5)	4.5	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	高台内タール
672	107住	土	甕	(21.8)			1/2		口縁ヨコ、内ナデ→磨滅、外タテハケ	
673	107住	黒A	杯		(8.0)			1/8	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
674	107住	黒A	杯		(7.4)			1/6	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
675	107住	黒A	杯	(13.0)	(6.6)	3.8	1/20	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
676	107住	黒A	椀	(10.6)	(6.5)	3.5	1/8	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒抜	
677	107住	灰	碗	(11.2)				1/9	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
678	107住	灰	碗	16.9	8.2	6.1	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、輪花、漬掛け	
679	108住	土	盤B	(11.8)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ	
680	108住	黒A	杯		(7.0)			2/5	ロクロ、内ミ黒抜、底回糸	
681	108住	黒A	杯	13.15	5.25	4.0	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸、外黒斑	
682	108住	黒A	杯	12.3	6.2	4.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
683	108住	黒A	杯	(14.0)	(6.4)	3.9	1/19	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
684	108住	黒A	皿	12.2			1/2		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
685	108住	黒A	皿	13.2			2/3		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
686	108住	黒A	鉢	19.0	7.7	8.2	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
687	108住	須	杯A	13.35	5.3	4.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
688	108住	須	杯A	13.75	6.3	4.4	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
689	108住	須	杯A	13.2	4.95	3.65	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
690	108住	須	杯A	13.0	5.4	3.55	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
691	108住	土	甕B	(23.4)			1/8		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
692	108住	土	甕B	(21.6)			1/5		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ、内工具	
693	108住	土	小型甕D	(13.8)	7.4	14.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ→カキ、外力キ、底回糸	
694	109住	土	杯	(13.4)	5.8	3.6	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸	
695	109住	黒A	杯	(14.85)	(5.10)	3.65	1/8	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
696	109住	須	杯A	(15.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
697	109住	須	蓋	(16.5)		2.95	1/12		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
698	109住	灰	碗	(16.05)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
699	109住	土	甕B	(20.4)			1/3		口縁ヨコ、外タテハケ、口縁内カキ、内ナデ→工具→指頭圧痕	
700	109住	土	甕B	(25.0)			1/6		口縁ヨコ、外タテハケ、内工具	外煤
701	109住	灰	短頸壺	(11.0)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
702	110住	土	皿 or 鉢		6.7			完	ロクロ、底回糸	
703	110住	黒A	杯 or 椀	(12.8)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
704	110住	須	杯A		(6.4)			1/4	ロクロ、底回糸	
705	110住	須	杯A		(7.0)			1/4	ロクロ、底回糸、内火燻痕	
706	110住	須	杯B		(13.8)			1/12	ロクロ、底ナデ	
707	110住	灰	碗		(8.6)			1/6	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
708	110住	灰	碗		(8.0)			2/3	ロクロ、底回糸、漬掛け	朱墨の転用硯
709	110住	灰	碗	(15.1)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
710	110住	灰	稜皿	(9.70)	(4.4)	2.2	1/16	1/16	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
711	110住	土	甕B		(9.2)		1/8		内ナデ、外タテハケ、底ナデ	
712	111住	黒A	杯	12.6	6.4	3.6	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
713	111住	軟	杯	(14.3)	6.1	3.7	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
714	111住	灰	碗	(12.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
715	111住	灰	碗		(7.2)			1/4	ロクロ、底回へラ、漬掛け	
716	112住	黒A	杯	13.4	7.2	3.95	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸	
717	112住	黒A	杯	(12.6)	(6.0)	4.1	1/12	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸	
718	113住	土	杯	11.9	5.0	3.3	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
719	113住	土	杯	(12.8)	6.2	3.2	3/8	5/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
720	113住	黒A	椀	(13.2)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
721	113住	灰	碗	(16.2)	(8.8)	(5.6)	3/8	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
722	113住	灰	耳皿		5.0		1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
723	114住	土	杯	(12.8)	6.0	3.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
724	114住	土	杯	(11.8)	5.0	3.3	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
725	114住	土	杯	(12.8)	(6.2)	3.6	3/8	5/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
726	114住	土	杯	(13.2)	5.6	3.7	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
727	114住	土	盤B	(15.0)	7.4	4.7	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
728	114住	黒A	杯	(12.1)	5.4	3.2	1/4	完	ロクロ、内ミ黒抜、口縁ヨコ、底回糸	
729	114住	黒A	杯	(17.8)	(8.6)	5.7	1/8	3/8	ロクロ、内ミ黒抜、口縁ヨコ、底回糸	
730	114住	黒A	椀	(16.6)			1/8		ロクロ、内ミ黒抜、口縁ヨコ、底回糸	
731	114住	軟	杯	(12.0)	(5.8)	2.8	3/8	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
732	114住	灰	碗	(13.8)	7.6	4.2	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
733	114住	灰	皿	(13.0)	(7.6)	2.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
734	114住	灰	皿	14.0	7.6	2.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
735	114住	緑	碗	(16.6)	(7.8)	5.5	3/8	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、施釉(濃緑)/灰黄褐	
736	114住	灰	壺		(9.8)			1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
737	115住	土	杯 or 椀	(14.0)				1/5	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ	
738	115住	軟	杯	(13.0)	(6.4)	3.8	1/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→ナデ→磨滅	
739	115住	黒A	杯	(12.4)	(5.2)	3.7	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	口縁タール
740	115住	黒A	杯	(12.7)	(6.8)	3.6	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
741	115住	黒A	杯	(13.0)	(5.1)	4.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
742	115住	黒A	椀		(8.1)			1/2	ロクロ、内ミ黒、外回ケ	
743	115住	灰	碗	(17.5)	(8.2)	4.7	1/8	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	
744	115住	灰	段皿	(13.4)	8.1	2.15	1/4	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
745	115住	灰	皿	(13.7)	(7.1)	2.6	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
746	115住	灰	耳皿					7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、内ハケ塗り	
747	115住	土	小型甕D	(11.3)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ→カキ、外カキ	
748	115住	土	小型甕D		(7.6)			1/2	ロクロ、外カキ、底回糸	
749	116住	土	杯	11.4	5.2	3.4	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
750	117住	土	杯	(10.2)	3.6	2.6	1/6	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
751	119住	土	杯		5.0			完	ロクロ、内コテナデ、底回糸	
752	119住	土	杯	(12.6)	(6.0)	3.3	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
753	119住	土	椀	(14.0)	(7.8)	4.65	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
754	119住	黒A	杯	(12.4)	6.2	4.15	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
755	119住	黒A	椀		(8.4)			完	ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	
756	119住	灰	碗	(15.7)	(8.8)	5.1	1/5	2/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
757	119住	灰	碗	(16.8)	(7.8)	5.35	1/30	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	
758	119住	灰	碗	(16.0)	(9.2)	5.25	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	
759	119住	灰	皿	(15.2)	(7.6)	2.9	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
760	119住	土	甕B	(23.6)				2/5	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
761	119住	灰	短頸壺	(11.2)				2/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
762	120住	黒A	杯	16.45	5.65	4.2	11/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
763	120住	黒A	杯	15.45	7.0	5.3	2/3	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
764	120住	黒A	杯	(15.0)	(6.3)	4.45	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
765	120住	黒A	杯	13.2	6.5	3.6	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
766	120住	黒A	杯	(12.8)	6.0	4.3	1/2	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
767	120住	黒A	杯	13.8	5.4	4.25	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外墨書
768	120住	須	杯A	(13.0)	(5.8)	3.4	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
769	120住	土	甕B	(21.6)				1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
770	121住	黒A	杯	(13.6)	(15.3)	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
771	122住	白	碗		(8.3)			1/4	ロクロ、底ケズリ、施釉(黄灰)/灰白	
772	122住	白	碗	(14.8)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、施釉(灰黄)/灰白	
773	123住	土	甕B	(21.4)				わずか	口縁ヨコ→内カキ、内工具→ナデ、外タテハケ	
774	123住	土	小型甕C	(10.2)	(3.4)	10.4		1/4	口縁ヨコ、内工具、外・底ケズリ	
775	124住	土	椀	(15.2)	(6.2)	5.7	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸→磨滅	
776	124住	黒A	杯	(14.0)	6.0	4.4	完	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
777	124住	黒A	杯	(13.5)	5.9	3.7	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	外墨書
778	124住	黒A	杯	12.9	6.2	4.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
779	124住	黒A	杯	12.9	5.75	4.3	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
780	124住	黒A	杯	(13.4)	(5.4)	4.7	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
781	124住	黒A	杯	13.75	6.65	4.8	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
782	124住	黒A	杯	13.6	7.1	5.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底ケズリ?	
783	124住	黒A	杯	13.45	5.9	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
784	124住	黒A	杯	13.3	6.05	4.5	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
785	124住	黒A	杯	13.45	5.9	4.35	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
786	124住	黒A	杯	13.85	5.85	4.3	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
787	124住	黒A	杯	13.95	6.2	4.45	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
788	124住	黒A	杯	13.8	6.2	4.45	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
789	124住	黒A	杯	14.0	5.9	4.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
790	124住	黒A	杯	13.8	5.8	4.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
791	124住	黒A	杯	(14.3)	5.1	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
792	124住	黒A	杯	13.3	6.3	3.9	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
793	124住	黒A	杯	14.0	6.0	4.95	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
794	124住	黒A	杯	15.5	6.3	5.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
795	124住	黒A	杯	(17.8)	8.4	6.2	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
796	124住	黒A	椀	14.6	6.45	4.8	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
797	124住	黒A	椀	15.4	7.5	5.45	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
798	124住	黒A	椀	15.6	6.5	5.15	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
799	124住	黒A	椀	(15.6)	(7.3)	5.95	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
800	124住	黒A	椀	15.7	6.5	5.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅、外回ケ→磨滅	
801	124住	須	杯A	(12.6)	5.7	4.0	2/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
802	124住	軟	杯	10.3	5.5	3.4	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
803	124住	軟	杯	13.2	6.4	4.1	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	穿孔(後)
804	124住	軟	杯	12.5	5.9	3.75	7/8	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	穿孔(後)
805	124住	灰	碗	12.4				1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
806	124住	灰	碗	17.25	9.05	5.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内重焼痕
807	124住	灰	碗	18.65	10.0	6.0	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内・高台重焼痕



図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
808	124住	灰	皿	(14.8)	7.0	2.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
809	124住	灰	皿	15.0	6.75	3.15	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕
810	124住	灰	皿	15.3	6.95	2.75	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	内・高台重焼痕
811	124住	灰	稜皿	(14.4)	(7.6)	2.35	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
812	124住	灰	段皿	(18.2)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	
813	124住	緑	碗 or 皿		6.4			完	ロクロ→磨滅、施釉(釉の剥離著しいため不明)/淡黄褐	
814	124住	緑	皿	14.5	6.45	2.3	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ、外回ケ、施釉(淡黄緑)/淡黄褐	外刻書
815	124住	土	盤A	(28.4)			1/20		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
816	124住	土	盤A	(31.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	内煤
817	124住	土	小型甕D	(12.5)	(6.70)	13.0	1/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、カキ、底回糸	
818	124住	灰	蓋	(18.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、ハケ塗り	
819	125住	土	杯	11.15	5.3	3.3	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
820	125住	黒A	碗	12.4	5.15	5.35	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、外回ケ→ナデ	
821	125住	須	杯A	13.2	5.6	3.6	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
822	125住	土	甕B	(24.3)			1/4		口縁ヨコ→内カキ、外タタキ、内工具→指頭圧痕	
823	125住	土	甕C	(20.2)			1/3		口縁ヨコ、外タタキ→ケズリ、内工具	
824	127住	黒A	杯	(13.0)	5.0	4.35	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
825	127住	黒A	杯	16.4	7.4	5.5	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
826	127住	黒A	皿	(14.0)	(7.2)	2.6	1/12	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
827	127住	土	小型甕D	(9.15)	5.2	7.1	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、カキ、底回糸	
828	128住	黒A	杯	(13.4)	(6.6)	3.8	1/6	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
829	128住	黒A	杯	13.3	6.6	3.75	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
830	128住	黒A	碗	16.9	8.2	5.75	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
831	128住	黒A	皿	12.8			完		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
832	128住	土	甕B	21.5			7/8		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	煤
833	128住	土	小型甕D	16.9	8.8	19.0	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、外カキ	
834	129住	黒A	杯	13.0	6.2	4.0	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
835	129住	黒A	杯	15.4	7.0	5.15	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール
836	129住	土	甕B	(22.6)			1/6		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
837	129住	須	長頸壺		8.0			1/2	ロクロ、底回糸	
838	130住	黒A	杯	12.55	6.2	3.65	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
839	130住	黒A	杯	(13.5)	(7.0)	3.55	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
840	130住	黒A	杯	(15.1)	(6.8)	5.3	1/7	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
841	130住	土	甕B	(22.0)			1/8		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ→カキ	
842	131住	土	盤B	16.4	9.95	6.0	完	2/3	ロクロ、口縁ヨコ	
843	132住	土	杯	8.9	4.5	1.7	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
844	132住	土	杯	(9.0)	4.6	1.6	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
845	132住	土	杯	(8.8)	4.1	1.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
846	132住	土	杯	9.3	4.35	2.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
847	132住	土	皿	(15.4)	7.0	3.1	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
848	132住	土	皿	(16.0)	6.7	3.6	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
849	132住	土	盤B	(10.8)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
850	132住	土	盤B	10.7	5.4	3.8	3/4	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
851	132住	灰	碗	16.1	7.5	6.65	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、輪花、漬掛け	
852	133住	須	杯A	(13.8)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
853	133住	土	甕B	(21.4)			1/2		口縁ヨコ→内カキ、内工具→指頭圧痕、外タテハケ	
854	133住	土	小型甕D	(12.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、外カキ	
855	134住	黒A	杯	(13.0)	(6.6)	3.8	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
856	134住	黒A	杯	(14.4)	(7.4)	3.2	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
857	134住	黒A	鉢	(21.4)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
858	134住	須	杯A	(13.3)	(6.0)	2.9	1/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
859	134住	須	杯A	(12.8)	(6.2)	3.5	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
860	134住	須	杯A	(14.3)	(8.2)	3.9	1/8	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
861	134住	須	蓋	(14.2)			3/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
862	134住	須	鉢	(21.0)	(11.4)	8.0	3/8	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ	
863	134住	須	鉢	(20.2)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
864	134住	土	甕	(21.2)			1/4		口縁ヨコ、工具	
865	135住	黒A	杯	(13.4)	(6.4)	3.7	1/10	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
866	135住	須	杯A	(14.4)	(7.0)	2.9	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
867	135住	土	甕B	(22.0)			1/8		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ→指頭圧痕、外タテハケ	
868	136住	黒A	鉢	20.0	8.9	7.1	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
869	136住	須	杯A	(12.75)	(5.6)	3.0	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
870	137住	黒A	杯	15.5	7.2	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	外重焼痕?
871	137住	須	杯A	(12.4)			3/8		ロクロ、口縁ヨコ	
872	137住	土	甕B	(20.2)			1/8		口縁ヨコ→カキ、内ナデ、外タテハケ	
873	137住	土	甕C	(19.6)			1/12		口縁ヨコ、内ナデ、外ケズリ	
874	138住	黒A	杯	13.05	6.2	4.25	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(暗)黒、底回糸→ナデ	
875	138住	須	杯A	13.1	6.4	3.7	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、火燻痕	
876	138住	須	杯A	13.4	(7.2)	3.9	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
877	138住	須	杯A	(12.6)	(7.1)	3.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
878	138住	須	杯A	13.5	6.6	3.95	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、火燻痕	
879	138住	土	甕B	(21.0)			3/8		口縁ヨコ→内カキ、内指頭圧痕→ナデ、外タテハケ	
880	138住	土	小型甕D	(14.6)	6.7	12.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、外カキ、底工具	煤
881	138住	土	小型甕D	12.0	7.2	10.0	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ→内カキ、外カキ→ヨコ、底回糸	煤

図No	出土地点	種別	器種器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
882	139住	須	杯A	(12.6)	5.4	3.2	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外墨書
883	139住	土	甕B	(23.0)			わずか		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
884	140住	黒A	杯	13.2	6.4	3.4	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール
885	140住	黒A	杯	13.2	6.0	3.9	3/8	5/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
886	140住	黒A	杯	(13.4)	6.4	4.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
887	140住	黒A	椀	15.2	7.2	6.3	完	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	外タール
888	140住	軟	杯	13.4	6.6	3.35	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
889	140住	須	杯A	12.8	5.2	3.9	1/4	5/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
890	140住	須	杯A	13.8	7.0	4.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、火摺痕	
891	140住	土	甕B	(23.2)			1/6		口縁ヨコ→内カキ、内工具、外タテハケ	
892	141住	土	杯	(11.9)	5.0	3.55	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
893	141住	黒A	杯	12.6	5.6	3.65	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
894	141住	黒A	杯	12.35	5.4	4.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
895	142住	土	杯	(13.0)	(6.8)	3.2	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
896	142住	土	杯	13.2	6.2	3.0	5/12	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
897	142住	土	椀	(14.3)	7.4	5.25	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外タール
898	142住	土	椀	(15.0)	7.8	5.0	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
899	142住	黒A	椀	(14.5)	7.6	6.75	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール
900	142住	黒A	椀	15.0	7.4	6.6	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール
901	142住	灰	碗	14.2	7.15	4.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内タール
902	142住	灰	碗	(16.2)	(8.4)	5.5	1/10	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
903	142住	灰	皿	12.8	7.0	2.75	11/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
904	142住	灰	皿	(13.4)	7.0	2.6	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
905	142住	灰	皿	14.95	7.15	2.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕、自然釉
906	143住	黒A	杯	13.65	6.0	3.7	1/2	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
907	143住	須	蓋	(17.85)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
908	143住	土	甕B	(23.25)			1/4		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ→指頭圧痕→工具、外タテハケ	
909	146住	灰	碗	(15.8)	7.4	5.25	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
910	147住	黒A	杯		(6.7)			1/6	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
911	147住	黒A	杯 or 椀	(11.4)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
912	147住	須	杯A	(12.8)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
913	147住	須	杯B	(12.0)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
914	147住	須	長頸壺						ロクロ	
915	149住	土	杯	11.95	5.9	3.25	2/3	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
916	149住	土	杯	(11.9)	5.9	2.4	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
917	149住	土	杯	(12.9)	(5.7)	3.65	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
918	149住	土	椀	(14.8)	(6.3)	4.95	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
919	149住	黒A	杯	(12.8)	(5.55)	4.15	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
920	149住	灰	碗	(13.7)	(7.2)	4.75	5/6	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
921	149住	灰	皿	(13.4)	(7.3)	2.75	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
922	149住	土	甕B	(23.8)			1/3		口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
923	150住	灰	皿	(14.2)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
924	151住	土	杯	12.2	5.6	3.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
925	151住	土	杯	(12.0)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ	
926	151住	黒A	杯	(13.0)	(5.4)	4.15	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
927	151住	黒A	杯	12.6	6.2	3.75	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜、底回糸	
928	151住	黒A	椀	14.4	6.7	5.2	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
929	151住	黒A	椀	(14.8)	(6.6)	4.8	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
930	151住	黒A	皿	(10.8)	(6.1)	3.3	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸?	
931	151住	軟	杯	13.3	5.8	3.65	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
932	152住	土	杯	(12.4)	5.5	3.75	2/5	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→磨滅	
933	152住	土	杯	13.15	7.5	4.35	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
934	152住	土	杯	14.05	6.15	4.35	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
935	152住	黒A	杯	(12.7)	5.15	3.7	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
936	153住	土	盤B	10.85	(6.95)	3.35	2/3	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
937	153住	黒A	椀	(14.4)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜	
938	153住	黒A	椀	(14.25)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒抜	
939	153住	黒A	椀	14.95	7.75	4.75	4/5	3/4	ロクロ、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒→磨滅、底回糸	
940	153住	灰	碗	14.2	6.95	4.05	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	
941	153住	灰	碗	(15.75)	(8.25)	4.85	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	
942	153住	灰	碗	(14.6)	(7.8)	5.75	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内粘土痕
943	153住	灰	碗	(15.85)	(8.4)	6.85	1/5	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
944	153住	灰	段皿	14.05	8.3	2.65	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内自然釉
945	153住	土	甕B	(10.8)			1/10		口縁ヨコ、内工具→磨滅、外タテハケ→磨滅	
946	156住	黒A	鉢?	(32.0)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒抜→磨滅	
947	158住	黒A	杯	13.65	6.55	4.05	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
948	160住	土	杯	(12.2)	5.8	2.2	1/12	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
949	160住	灰	碗	(14.4)			2/7		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
950	162住	土	椀?		8.2			完	ロクロ、底回糸	外タール
951	162住	灰	碗		7.4			完	ロクロ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
952	162住	白	碗	17.0			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(乳白)/灰白	貫入
953	163住	土	杯	(10.4)	4.6	2.6	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
954	163住	土	杯	9.8	4.4	2.0	2/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	口縁タール
955	163住	土	椀	(14.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
956	163住	灰	碗	(15.0)	7.2	5.8	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
957	163住	灰	皿	11.8	7.0	1.9	1/6	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
958	163住	灰	段皿	(13.4)	(7.2)	2.5	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
959	163住	緑	碗		(7.0)			3/8	ロクロ、外回ケ、施釉(濃緑)/暗灰	
960	164住	灰	碗	16.2	8.0	6.1	3/8	3/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
961	165住	土	杯	10.0	4.4	2.1	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	外タール
962	165住	土	杯	(10.4)	4.2	2.2	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
963	165住	土	杯	(13.8)	6.0	3.8	1/20	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
964	165住	土	皿	(10.6)	4.4	2.4	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	タール
965	165住	灰	碗	(15.4)	7.0	5.9	1/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
966	165住	灰	碗	14.9	7.0	6.35	3/8	5/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
967	165住	灰	耳皿 or 碗		4.0			完	ロクロ、底回糸、漬掛け	
968	165住	灰	段皿	(12.6)	(7.0)	2.4	1/12	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
969	165住	灰	稜皿	10.5	6.1	2.1	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
970	165住	白	碗		(7.0)			1/2	ロクロ、外回ケ、施釉(黄灰)/灰白	
971	165住	白	碗	(15.7)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉(乳白)/灰白	
972	166住	土	杯	(9.95)	4.8	3.1	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
973	166住	土	杯	(13.0)	5.1	4.5	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
974	166住	灰	碗	(14.4)	(7.2)	4.5	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
975	166住	灰	碗	(16.0)	(7.95)	5.9	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
976	167住	土	杯	(11.2)	4.75	3.60	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
977	167住	土	盤B	(16.85)	(10.5)	6.45	1/4	わずか	ロクロ、口縁ヨコ	
978	167住	黒A	碗	(14.45)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸?	
979	167住	灰	碗	15.15	6.8	6.1	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
980	167住	灰	碗	(14.8)	7.2	6.75	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
981	167住	灰	皿	(10.55)	(6.15)	2.1	1/5	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
982	168住	土	盤A	(26.6)			1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底ナデ	
983	168住	須	壺						ロクロ、外回ケ	
984	169住	土	杯	(12.6)	5.6	4.1	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
985	169住	土	碗	10.0	4.7	3.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
986	169住	土	盤B	(9.9)	(6.2)	2.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
987	169住	土	盤B	(15.0)	8.3	5.85	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
988	169住	灰	碗	(13.6)	(7.2)	4.7	3/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
989	169住	灰	碗	11.1	5.95	4.1	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
990	169住	灰	段皿	(12.6)	(6.9)	2.2	1/9	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
991	169住	土	小型甕	14.3	10.0	12.05	1/2	完	口縁ヨコ、工具→外ケズリ、底ナデ	
992	169住	土	羽釜B	(26.6)			1/2		口縁ヨコ→工具、工具→内ナデ	煤
993	170住	土	杯	9.7	4.0	2.4	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
994	170住	土	杯	(14.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
995	170住	土	皿	(23.5)			1/6		ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅	
996	170住	灰	碗	(15.45)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、輪花、漬掛け	
997	171住	土	杯	(10.6)	(5.2)	2.2	わずか	1/2	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅、底回糸	
998	171住	灰	碗	(12.0)	(6.0)	3.5	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
999	171住	灰	碗	(13.9)	(6.9)	6.4	3/5	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1000	171住	灰	碗	(12.6)	(6.6)	4.15	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1001	171住	灰	段皿	(12.6)	(7.3)	2.3	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1002	172住	灰	段皿	(11.7)	6.4	2.1	1/2	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1003	172住	灰	段皿	(12.0)	(7.3)	2.2	1/5	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1004	173住	土	甕B	(20.6)	(7.9)	29.5	1/4	わずか	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ→工具、外タテハケ、底ナデ	
1005	173住	土	小型甕D	(12.7)			わずか		口縁ヨコ、内工具、外カキ	
1006	174住	土	皿	10.2	4.4	2.2	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1007	174住	土	皿	10.7	4.4	2.0	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1008	174住	土	盤B	14.2			2/3		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1009	174住	土	盤B	9.6	5.0	2.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1010	174住	灰	碗	14.7	7.8	6.6	1/2	完	ロクロ→内ナデ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重焼痕
1011	174住	灰	碗	(14.0)	(7.4)	6.15	1/12	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	内重焼痕
1012	175住	土	杯	(11.2)	(8.4)	3.9	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1013	175住	土	杯	13.5	(6.7)	3.95	完	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1014	175住	土	碗	(13.0)			3/8		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1015	175住	灰	碗	(14.2)	(6.6)	6.2	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1016	175住	灰	碗	(15.0)	7.0	6.1	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
1017	175住	灰	段皿	(11.8)	6.5	2.6	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
1018	176住	土	杯	(10.1)	4.5	2.4	1/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1019	176住	土	杯	(13.0)	(6.55)	4.4	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	底・内煤
1020	176住	黒B	小型土器	4.2	2.5	2.5	3/4	完	ロクロ、外ケズリ、ミ黒、底回糸	
1021	176住	灰	碗	(16.0)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
1022	176住	灰	段皿	(14.0)	(8.3)	2.6	1/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ヘラ?、漬掛け	
1023	豎1	土	杯	(8.9)	5.0	3.3	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1024	豎1	青	碗				わずか		ロクロ、口縁ヨコ、鎚連弁文、施釉(緑灰)/灰	
1025	豎1	青	碗		(5.0)			1/3	ロクロ、外回ケ、内印花文、施釉(暗緑灰)/灰	
1026	豎1	白	皿	(11.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、施釉(灰白)/白、口縁端部掻き取り	
1027	豎1	無	片口鉢	(28.8)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ	
1028	豎1	無	片口鉢		(15.2)			1/3	ロクロ、外回ケ	
1029	豎1	土師質	皿	(14.8)				1/12	ナデ、指頭圧痕、口縁ヨコ	

図No	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
1030	竪 1	土師質	鍋	(28.2)			わずか		工具、口縁ヨコ	穿孔 (前)
1031	竪 4	青	碗						ロクロ、鎬連弁文、施釉 (緑灰)/ 灰	
1032	竪 6	土	椀?	(11.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
1033	炭 2	土	杯	(10.3)	(5.7)	2.8	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1034	炭 2	灰	碗	(13.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
1035	土 339	灰	碗	(15.8)	8.1	6.2	1/8	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
1036	土 339	灰	皿	(11.6)	6.6	2.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1037	土 347	土	盤 B	9.4	4.9	2.0	完	完	ロクロ→内ナデ、口縁ヨコ	
1038	土 347	土	盤 B	8.9	4.3	1.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1039	土 347	土	盤 B	9.8	5.5	3.3	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ	内煤
1040	土 347	土	盤 B	8.7	5.8	2.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1041	土 347	土	盤 B	10.7	5.2	3.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1042	土 347	灰	皿	12.5	7.0	3.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ、漬掛け	
1043	土 356	須	平瓶		(6.5)			完	ロクロ、外回ケ	
1044	土 360	土	杯	11.8	6.0	3.1	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1045	土 360	土	杯	11.8	6.0	3.3	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1046	土 360	土	杯	11.7	5.4	3.3	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
1047	土 360	土	杯	11.3	5.8	3.2	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
1048	土 360	灰	長頸壺		(9.0)			完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1049	土 362	黒 A	椀	14.1	6.1	5.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
1050	土 366	灰	碗	16.5	9.2	6.5	1/4	8/9	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1051	土 367	灰	碗	(16.6)	(8.3)	5.7	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
1052	土 367	灰	碗	16.3	8.1	6.15	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、輪花、漬掛け	内重焼痕
1053	土 367	土	杯	10.2	5.5	2.95	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
1054	土 382	土	盤 B	(16.1)	8.45	5.6	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1055	土 383	土	杯	9.15	5.2	2.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
1056	土 383	緑	耳皿		5.25			完	ロクロ、漬掛け、施釉 (濃緑)/ 灰	
1057	土 398	黒 A	椀	(11.9)	6.55	4.5	1/8	3/4	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒→磨滅	
1058	土 398	須	長頸壺		(13.25)			完	ロクロ、外回ケ、底ナデ	
1059	土 477	灰	皿	13.0	7.45	3.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1060	土 501	灰	碗	(20.2)	9.6	6.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
1061	検出面	土	椀	(13.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	

【略称凡例】

種別

土：土師器 黒 A：黒色土器 A 黒 B：黒色土器 B 須：須恵器 軟：軟質須恵器 灰：灰陶器 無：無釉陶器 緑：緑釉陶器 青：青磁 白：白磁

土師質：土師質土器

成形・調整等

ナデ：指ナデ ロクロ：ロクロナデ ヨコ：ヨコナデ 工具：工具ナデ 回ケ：回転ケズリ ケズリ：静止ケズリ 回糸：回転糸切り 回ヘラ：回転ヘラ切り

ミ黒：ミガキのち黒色処理 ミ (暗)黒：暗文風ミガキのち黒色処理 黒抜：黒色処理が被熱等で失われたもの ハケ：ハケメ カキ：カキメ

緑釉陶器・青磁・白磁の施釉は、施釉 (釉の色)/ 胎土の色を表記

備考

穿孔 (前)：焼成前穿孔 穿孔 (後)：焼成後穿孔 タール：タール付着 煤：煤付着 墨：墨付着 朱墨：朱墨付着



第6表 土製品一覧表

実測	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
	1	B	20住		粘土塊				18	
1	2	C	43住	P7	土錘	42	22	9	18	完形、煤付着
	3	C	47住	南東	羽口か	<45>	<23>	<23>	42	鉄滓付着
	4	C	49住	No.7	羽口	<137>	72	26	346	鉄滓付着
3	5	C	49住	No.9	羽口	<116>	73	27	428	鉄滓付着
	6	C	49住	北西	羽口	<92>	<22>	22	82	鉄滓付着
4	7	D	69住	No.2	羽口	<106>	78	33	557	
2	8	D	114住	No.9	土錘	<28>	22	9	9	
	9	F	122住	P4	粘土塊				9	
	10	D	125住	カマド周囲	粘土塊				39	
	11	C	土364		羽口か	<65>	<90>	<31>	145	鉄滓付着
	12	試	T15		羽口	<97>	76	32	664	鉄滓付着

< > : 残存値

第7表 石器・石製品一覧表

注記	図	種類	地区	遺構	出土地点	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1		台石	A	14住	No.3	砂岩					完形	磨面2面
2		台石	A	15住	No.19	砂岩				(3895.0)	1/3程度欠損	磨面1面
6	6	砥石	C	28住	北西	砂岩		5.42	2.66	250.7	完形	砥面1面、荒砥
7		磨石類	C	28住	南西		10.58	3.94	2.54	142.6	完形	敲部1端部
8	3	石錐	C	49住	No.14	黒曜石	(3.36)	1.59	1.33	6.1	錐部欠損	平面形逆三角形
9		台石	C	49住	No.24	砂岩				3600.0	完形	磨面1面
10	7	砥石	D	78住	北西	砂岩		4.08	3.27	328.0	完形	砥面2面、自然礫素材、荒砥、被熱か
11		楔形石器	D	90住	東	黒曜石	1.84	1.82	5.60	2.2	完形	
12		磨石類	D	92住	南東	砂岩	(9.75)	(5.22)	(4.88)	(360.0)	1/2程度欠損	磨面1面、敲部1面(磨面と同一面)
13		小形刃器	D	93住		黒曜石	2.41	2.18	9.40	4.8	完形	搔器
14		石核	D	94住	P2	黒曜石	2.09	1.89	1.51	3.7	完形	打面3面以上
15	8	砥石	D	96住	No.10	砂岩		9.07	3.06	(822.0)	1/4欠損	砥面2面、4面整形、荒砥
16	9	砥石	D	103住	No.4	砂岩		5.47	2.32	350.0	完形	砥面2面、荒砥
17		剥片	D	104住	南西	黒曜石	1.57	2.11	1.05	2.7	完形	
18		剥片	D	115住	北西	黒曜石	2.93	3.63	1.08	5.3	完形	
23		石核	F	120住	北東	黒曜石	3.17	2.86	2.14	19.6	完形	打面4面以上
19		楔形石器	D	124住	南東	黒曜石	2.84	1.42	1.02	3.6	完形	
20		剥片	D	124住	南東	黒曜石	1.62	2.00	0.60	1.7	完形	
21		砥石	D	124住		凝灰岩	(5.22)	(4.44)	1.17	(45.5)	3/4以上欠損	砥面2面、中～仕上げ砥、7個体に割れ
24	12	磨石類	F	126住	北西	硬砂岩		4.25	3.00	454.0	完形	敲部2端部
28	10	砥石	K	132住	南西	粘板岩	(8.35)	(4.17)	(1.96)	(99.8)	3/4以上欠損	石刀(縄文)の転用か、中～仕上げ砥
29	11	砥石	K	135住		砂岩	(12.10)	(7.86)	(3.26)	(536.0)	1/2程度欠損	砥面21面、溝状研磨痕あり、荒砥
27		砥石	H	140住	南西	砂岩		(6.46)	(4.29)	(758.0)	1/2程度欠損	磨面1面
30		磨石類	L	151住	No.12	砂岩		5.44	4.01	692.0	完形	敲部1端部
34	13	磨石類	M	165住	南東	緑色片岩		5.27	3.28	(472.0)	表面剥離	敲部2端部
35		石核	M	165住	南	黒曜石	2.48	3.10	2.32	17.3	完形	打面3面以上
36	5	打製石斧	M	166住	北東	頁岩	11.40	6.92	2.10	229.3	完形	短冊形
37		剥片	M	166住	北西	黒曜石	3.32	3.53	1.06	9.6	完形	
38	1	石鏃	M	168住	北西	チャート	1.91	1.62	0.54	1.3	完形	無茎凹基鏃
39		剥片	M	168住	北拡張部	黒曜石	1.82	2.44	6.20	2.2	完形	
40		磨石類	M	170住	北東	砂岩	(11.53)	6.29	(4.06)	(462.0)	1/2程度欠損	磨面1面、敲部1面
3		砥石	A	竪1		砂岩	(7.02)	(4.19)	(2.20)	(124.4)	1/2程度欠損	砥面2面、荒砥
4		台石	A	竪7	No.2	砂岩				2456.0	完形	磨面1面
31	4	石錐	L	炭2	南	黒曜石	(3.60)	1.87	1.90	(8.0)	錐部欠損	平面形逆三角形
5	2	石鏃	A	土114	No.1	チャート	(2.32)	1.54	0.47	(1.3)	尖頭部先端と茎部欠損	有茎凸基鏃
32		小形刃器	L	溝7		黒曜石	3.23	2.40	9.50	6.8	完形	削器
33		小形刃器	L	溝7		黒曜石	2.11	1.77	7.30	1.7	完形	削器
25		石核	F	検出面	南東	黒曜石	4.52	4.91	2.41	37.7	完形	打面3面以上
26		二次加工ある剥片	F	検出面		黒曜石	3.10	2.30	1.05	3.8	完形	2縁辺二次加工
22		磨石類	D	排土		砂岩		5.56	4.66	598.0	完形	磨面2面、敲部2面
41		剥片		排土		黒曜石	(1.38)	(1.82)	(0.21)	(0.5)	1縁辺欠損	

※ ( ) 内数値は残存値を表す。

※ 300g未満は0.1g単位、300g以上は1g単位

第8表 金属製品一覧表

実測	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属 種別	備考
	1	A	14住	No.1	滓				145.0	Fe	
	2	A	14住	No.30	滓				166.0	Fe	
	3	A	14住	北東	不明	36.8	9.4	5.4	4.0	Fe	断面長方形の棒状製品
	4	B	18住	No.18	釘か	34.5	9.7	6.1	4.1	Fe	断面長方形の棒状製品
	5	B	18住	No.20	釘か	25.2	7.4	5.3	2.0	Fe	断面方形の棒状製品
	6	B	18住	No.27	滓				33.0	Fe	
	7	B	18住	No.28	不明	53.2	40.4	7.7	18.5	Fe	板状製品
	8	B	18住	No.29	不明	91.3	48.0	10.3	62.8	Fe	板状製品
	9	B	18住	カマド No.3	不明	43.2	14.9	8.6	5.7	Fe	板状製品
	10	B	18住	北西	不明	53.0	6.2	5.3	2.6	Fe	環状製品／一端が開く
	11	B	18住	北西	釘か	34.9	7.1	5.4	3.0	Fe	断面方形の棒状製品／J字形に曲がる
	12	B	20住	No.1	滓				7.0	Fe	
	13	B	20住	No.2	不明	30.9	12.1	9.0	6.5	Fe	断面長方形の棒状製品
	14	B	20住	No.3	釘か	16.3	6.3	5.7	1.1	Fe	断面方形の棒状製品
	15	B	20住	No.4	燧鉄	61.2	23.0	7.0	22.4	Fe	頂部、裾部欠
	16	B	21住	No.35	鏃	52.0	21.3	10.8	12.5	Fe	切先、茎部欠
	17	B	21住	No.40・41	不明	91.6	11.6	8.5	15.0	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明
25	18	C	22住	P1 No.2	紡錘車	48.8	44.7	6.9	26.7	Fe	紡輪及び紡軸の一部
	19	C	22住	P1	紡錘車か	35.4	6.9	6.8	2.2	Fe	紡軸の一部か／断面円形
	20	C	22住	P1	紡錘車か	36.8	4.4	4.1	1.0	Fe	紡軸先端か／断面円形
	21	C	22住	P1	紡錘車か	50.4	6.2	5.9	2.8	Fe	紡軸先端か／断面円形
33	22	C	23住	No.1	鉸具	67.6	45.7	11.9	40.6	Fe	完形
1	23	C	23住	No.2	鏃	129.5	29.4	8.8	18.0	Fe	雁股鏃／片側の刃部先端欠
	24	C	23住	南西上層	刀子か	46.7	7.4	4.7	2.4	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
2	25	C	24住	No.1	鏃	86.4	16.4	11.5	15.6	Fe	茎部欠
26	26	C	24住	No.3	紡錘車	266.0	52.6	7.9	38.6	Fe	紡輪の一部、紡軸先端欠
	27	C	24住	北西	滓				11.0	Fe	
	28	C	25住	No.3	不明	29.7	5.0	4.5	0.8	Fe	断面円形の棒状製品
6	29	C	25住	No.7	刀子	148.1	16.3	6.9	25.0	Fe	切先、茎尻欠
	30	C	28住	北西床直	滓				9.1	Fe	
	31	C	30住	北東	滓				11.0	Fe	
	32	C	31住	No.7	滓				190.0	Fe	
	33	C	34住	北東	不明	45.9	12.8	7.2	7.5	Fe	断面長方形の棒状／刀子に似るが刃部がない
	34	C	35住	南東	滓				55.7	Fe	
	35	C	37住	南	不明	38.6	5.2	5.1	2.0	Fe	断面円形の棒状製品
	36	C	37住	南	滓				262.0	Fe	
	37	C	39住	南東	滓				143.0	Fe	
	38	C	41住	No.1	不明	63.9	14.4	7.2	14.3	Fe	板状製品／やや湾曲する
	39	C	41住	北東上層	滓				212.0	Fe	
	40	C	43住	No.1	滓				125.0	Fe	
	41	C	43住	北西	滓				17.0	Fe	
	42	C	49住	No.3	滓				103.0	Fe	
	43	C	49住	No.4	滓				155.0	Fe	
	44	C	49住	No.16	滓				236.0	Fe	
	45	C	49住	No.20	滓				21.0	Fe	
	46	C	49住		滓				12.0	Fe	
	47	C	51住	東	刀子	23.4	12.1	4.2	1.7	Fe	切先のみ
	48	D	54住	北東	滓				15.9	Fe	
	49	D	54住	北東	滓				53.0	Fe	
	50	D	56住	南東	滓				38.3	Fe	
20	51	D	62住	No.2	鑿	169.0	25.5	24.0	119.9	Fe	先端欠／頭部周辺に紐状のものを巻いた痕跡あり
7	52	D	62住	No.20	刀子	106.2	16.2	5.8	13.4	Fe	切先欠
	53	D	62住	南西	刀子	54.7	16.9	6.1	12.5	Fe	身部及び茎部の一部欠
	54	D	62住	南西	不明	44.3	7.5	6.8	4.1	Fe	断面円形の棒状製品
	55	D	62・63・64・ 67・68住		滓				66.2	Fe	
	56	D	63・67・68住		不明	34.2	33.2	5.0	9.9	Fe	板状製品
28	57	D	69住	No.12	釘	85.4	12.0	11.7	22.0	Fe	頭部、脚部先端欠／断面方形
	58	D	70住	南	不明	34.3	29.2	8.5	15.9	Fe	板状製品
	59	D	78住	No.1	滓				103.0	Fe	
	60	D	78住	No.2	滓				113.0	Fe	
21	61	D	79住	No.8	鑿か	120.0	11.1	9.2	20.0	Fe	断面方形の棒状／残存中央付近が膨らみ、片端が尖る
24	62	D	79住	北東	芋引鉄	82.1	24.0	5.1	21.2	Fe	脚部欠
	63	D	80住	西	不明	32.6	8.7	7.7	3.7	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明
	64	D	80住	東	滓				18.0	Fe	
	65	D	83住	No.3	不明	102.5	8.1	6.4	9.8	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明／「7」字形に屈曲する
	66	D	86住		滓				34.0	Fe	
8	67	D	87住	No.8	刀子	136.3	16.6	8.6	18.4	Fe	切先、茎尻欠／茎部両面に木質錆着
22	68	D	92住	No.15	鑿か	144.3	25.8	14.9	54.1	Fe	断面方形の棒状／残存中央付近が膨らみ、片端が尖る
9	69	D	96住	No.9	刀子	187.5	15.5	8.0	30.5	Fe	切先欠
	70	D	100住	No.2	刀子	86.1	16.9	8.1	21.5	Fe	茎部の一部
	71	D	100住	南東	滓				40.2	Fe	

実測	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属 種別	備考
	72	D	100住	北東	滓				29.5	Fe	
	73	D	102住	南東	刀子か	45.0	12.2	4.8	6.9	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	74	D	102住	南東	刀子か	27.4	7.9	4.5	1.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	75	D	102住	南東	滓				580.0	Fe	
32	76	D	102住	カマド周辺	釘か	104.0	8.8	7.1	16.3	Fe	棒状製品／断面は部位により方形と円形で異なる
3	77	D	104住	No.1	鎌	80.8	28.5	11.3	31.5	Fe	茎部欠
	78	D	104住	P3	釘か	101.0	8.3	8.1	10.9	Fe	断面方形の棒状製品／片側の幅が徐々に減じる
	79	D	107住	カマド No.1	鎌か	43.8	25.1	3.9	8.5	Fe	薄い板状／刃部の一部か
	80	D	108住	No.2	刀子か	53.7	18.2	6.4	13.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	81	D	108住	No.12	刀子	78.6	16.3	6.8	14.3	Fe	切先、茎部の一部欠
27	82	D	108住	No.19	紡錘車	52.1	20.4	6.9	25.8	Fe	紡輪及び紡軸の一部
	83	D	110住	No.1	滓				46.0	Fe	
	84	D	110住	No.2	不明	41.7	14.4	9.9	8.0	Fe	断面長方形／片側が膨らむ
	85	D	110住	No.2	不明	42.1	13.1	5.3	6.1	Fe	板状製品／やや湾曲する
15	86	D	110住	No.3	鎌	116.8	21.7	6.5	28.3	Fe	刃部先端欠
	87	D	110住	P6	刀子か	40.5	16.0	7.2	7.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
29	88	D	110住	北東	釘	50.6	10.6	6.7	5.1	Fe	脚部先端欠／断面方形
	89	D	110住	北東	滓				22.0	Fe	
10	90	D	113住	No.2	刀子	109.2	15.7	7.2	15.0	Fe	茎尻欠
	91	D	114住	No.2	滓				141.0	Fe	
	92	D	114住	No.11	釘か	65.3	12.1	8.3	11.6	Fe	断面長方形の棒状製品／端部がやや湾曲する
	93	D	114住	北西 床直	不明	22.8	5.4	4.2	0.8	Fe	断面楕円形の棒状製品
	94	D	114住		滓				134.0	Fe	
	95	D	114住	カマド周辺	不明	40.5	6.1	5.8	2.3	Fe	断面円形の棒状製品／片側の幅が徐々に減じる
	96	D	117住	No.1	刀子か	40.6	10.8	4.4	3.6	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	97	D	117住	No.1	不明	26.2	5.0	4.5	1.0	Fe	断面円形の棒状製品
	98	D	119住	No.4	刀子 or 鎌か	116.3	16.8	11.3	23.9	Fe	形状は刀子や鎌に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
4	99	D	119住	No.5	鎌	78.0	16.2	10.8	10.8	Fe	茎部欠
	100	D	119住	西	滓				9.0	Fe	
	101	F	120住	No.2					431.0	Fe	
	102	F	120住		釘か	32.0	6.9	6.1	1.9	Fe	断面方形の棒状製品
	103	F	122住	No.4	鎌	72.1	22.8	6.9	20.0	Fe	茎部欠
36	104	D	124住	P12 No.1	富寿神宝	22.7	21.3	1.5	1.1	Cu	わずかに欠／初鑄 818年（嵯峨天皇）
11	105	D	125住	No.2	刀子	167.0	24.7	6.4	37.7	Fe	完形
12	106	F	129住	No.1	刀子	98.0	14.3	6.9	11.1	Fe	茎尻欠
	107	F	129住	No.9	不明	53.8	10.4	9.7	16.3	Fe	断面円形の棒状／J字形に曲がる／片側の先端が尖る
30	108	J	131住	No.2	釘	54.9	7.4	6.2	5.0	Fe	完形／断面方形
	109	K	132住	南西	刀子か	32.2	10.0	5.2	3.6	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
34	110	H	140住	北東	不明	30.8	20.5	6.5	5.7	Fe	小札状の板状製品が折れ曲がったもの
	111	H	140住	南東	滓				79.0	Fe	
	112	H	142住	No.10	刀子か	37.4	9.7	4.6	3.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	113	H	142住	西	釘か	36.3	8.7	6.6	3.2	Fe	断面方形の棒状製品／片側の幅が徐々に減じる
	114	D	148住	No.1	滓				29.0	Fe	
	115	D	148住	No.2	滓				22.0	Fe	
	116	L	149住	No.1	不明	105.3	8.8	7.2	16.0	Fe	断面方形の棒状製品
	117	L	149住		刀子か	36.6	11.1	6.1	4.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	118	L	150住		滓				9.6	Fe	
	119	L	151住		滓				68.7	Fe	
19	120	L	153住	No.1	斧	79.8	40.6	14.9	118.0	Fe	完形
	121	L	153住	南	不明	36.5	32.2	6.2	16.0	Fe	板状製品
	122	L	153住	南	不明	34.2	29.8	8.4	14.3	Fe	板状製品
35	123	L	156住	No.1	不明	34.2	23.4	3.0	4.6	Fe	板状製品／孔を持つ
	124	M	160住	南東	滓				23.4	Fe	
16	125	M	163住	No.1	鎌	88.0	19.3	6.1	21.7	Fe	刃部及び基部の一部欠
	126	M	165住	No.3	刀子	93.0	21.4	6.4	19.0	Fe	身部の一部、茎尻欠
	127	M	165住	No.4	滓				175.0	Fe	
	128	M	165住	北東	滓				90.0	Fe	
	129	M	165住	北東	不明	50.2	10.0	7.6	8.4	Fe	断面長方形の棒状製品／片側の幅が徐々に減じる
	130	M	165住	北東	滓				258.0	Fe	
	131	M	165住	南東	滓				48.0	Fe	
	132	M	165住	南西	不明	28.0	27.5	10.1	8.6	Fe	板状製品
	133	M	168住	北西	鎌か	61.2	36.8	7.5	36.7	Fe	折り返し部の一部か
	134	M	168住	カマド	滓				20.0	Fe	
	135	M	170住	No.1	鎌	72.1	21.7	5.1	14.6	Fe	切先、茎部欠
13	136	M	170住	北西	刀子	78.3	12.3	3.3	5.5	Fe	切先欠
17	137	A	174住	No.3	鎌	139.2	32.5	14.3	36.9	Fe	折り返しは見られないが、形状から鎌と思われる
14	138	A	175住	No.1	刀子	106.5	14.7	6.0	11.4	Fe	切先欠
	139	A	堅1	No.3	鎌	41.2	16.8	8.0	5.7	Fe	篋被部のみ
31	140	A	堅1	No.8	釘	46.5	7.0	7.0	3.9	Fe	頭部、脚部先端わずかに欠／断面方形
	141	A	堅1	No.12	不明	17.2	7.2	6.9	1.0	Fe	断面円形の棒状製品
	142	A	堅1	No.21	皇宋通宝	25.1	25.0	1.1	2.3	Cu	完形／初鑄 1039年（宋）
	143	A	堅1	No.22	元豊通宝	20.3	19.2	1.1	1.0	Cu	わずかに欠／初鑄 1078年（宋）
	144	A	堅1	No.23	不明	51.0	10.8	5.0	4.7	Fe	板状製品

実測	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属 種別	備考
	145	A	堅 1	No. 31	元祐通宝か	25.0	19.8	1.3	1.6	Cu	1/4 欠／初鑄 1086 年（宋）
	146	A	堅 1	No. 32	□□通宝	25.5	16.3	1.0	1.1	Cu	半欠
	147	L	炭 1		刀子か	24.4	9.7	4.7	1.7	Fe	形状は刀子に似るが、銹化による膨張で刃部の有無が不明
	148	L	炭 2	No. 1	滓				363.0	Fe	
5	149	C	土 347	No. 1	鏃	98.7	16.3	12.6	18.4	Fe	茎部欠
	150	C	土 364		滓				162.4	Fe	
	151	C	土 366	東	滓				61.0	Fe	
	152	C	土 367	No. 6	滓				38.5	Fe	
	153	C	土 367	No. 8	不明	61.0	7.3	6.2	1.8	Fe	断面円形の棒状製品
	154	C	土 367	No. 8	不明	28.3	7.3	6.2	1.8	Fe	断面円形の棒状製品
	155	C	土 367	東	不明	28.2	5.9	4.4	1.4	Fe	断面円形の棒状製品
	156	D	土 371	No. 1	滓				52.0	Fe	
	157	D	土 399	No. 1	刀子か	60.6	20.4	7.9	14.7	Fe	形状は刀子に似るが、銹化による膨張で刃部の有無が不明
	158	H	土 447	No. 1	不明	78.0	10.1	7.7	10.7	Fe	断面楕円形の棒状製品
23	159	L	土 481	No. 1	鑿か	101.9	22.5	13.1	42.5	Fe	断面方形の棒状／残存上部が膨らみ、片側の幅が徐々に減じる
	160	L	土 481		滓				360.0	Fe	
	161	L	土 482		滓				158.0	Fe	
	162	L	土 482		滓				466.0	Fe	
18	163	D	土 565		鋤	110.9	27.8	15.1	67.8	Fe	耳部のみ
	164	D	土 628		滓				46.0	Fe	
	165	D	炉 1		滓				14.0	Fe	
	166	A	溝 2	北	鏃	51.5	19.8	10.1	7.5	Fe	筥被部のみ
	167	A	溝 2	北	不明	55.4	6.7	5.4	4.5	Fe	断面円形の棒状製品
	168	B	検出面	畝付近	不明	32.4	30.7	2.8	6.2	Fe	板状製品
	169	C	検出面	南東	滓				8.0	Fe	
	170	C	検出面		不明	32.5	4.9	4.4	0.8	Fe	断面円形の棒状製品
	171	D	検出面	南東	不明	50.4	8.0	7.8	4.9	Fe	棒状製品／銹化による膨張で断面形不明
	172	D	検出面	南東	不明	125.0	5.8	5.7	10.3	Fe	断面円形の棒状製品／U 字形に曲がる
	173	L	検出面		滓				155.0	Fe	
	174	B	排土		滓				3.5	Fe	



---

---

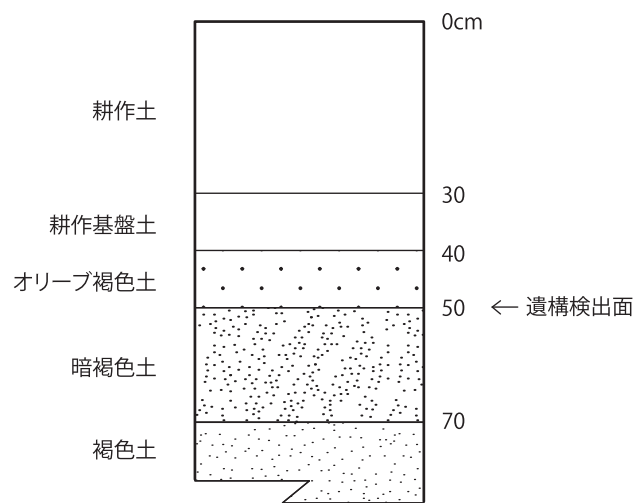
# 図 版

---

---





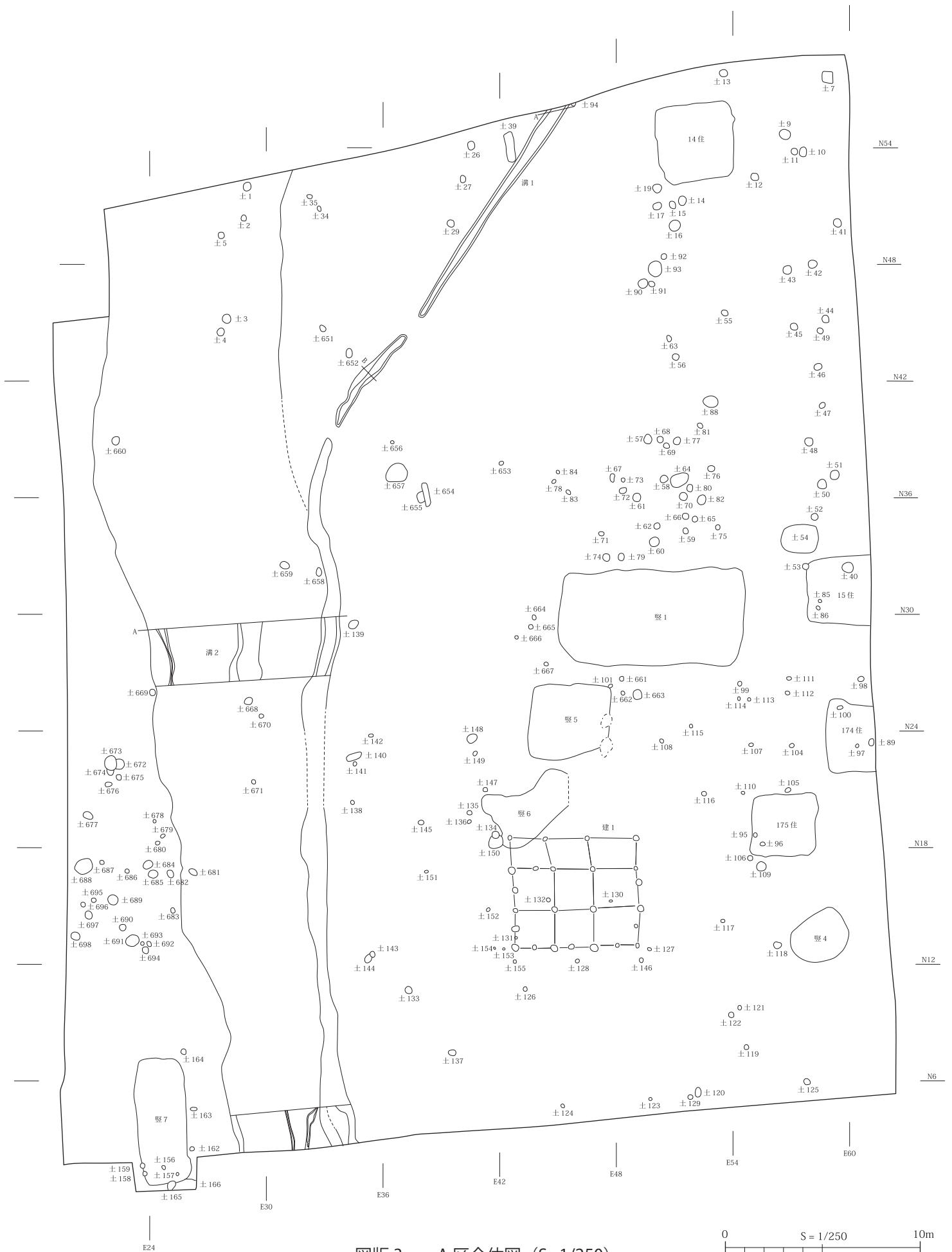


図版 1 事業対象地と調査区の範囲 (S=1/2,500)、土層図

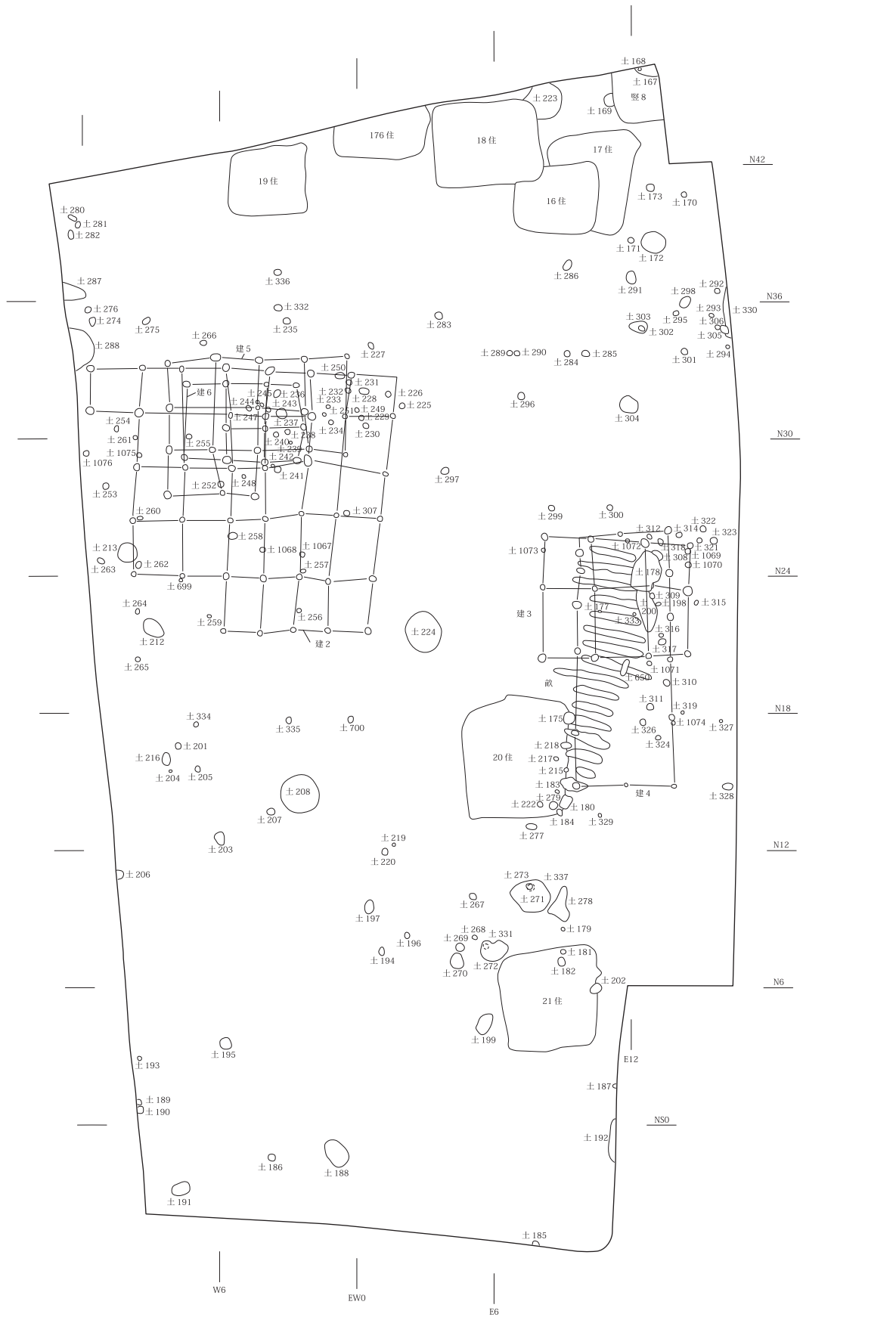


図版2 調査区全体図 (S=1/1,000)



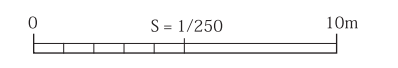


图版3 A区全体图 (S=1/250)

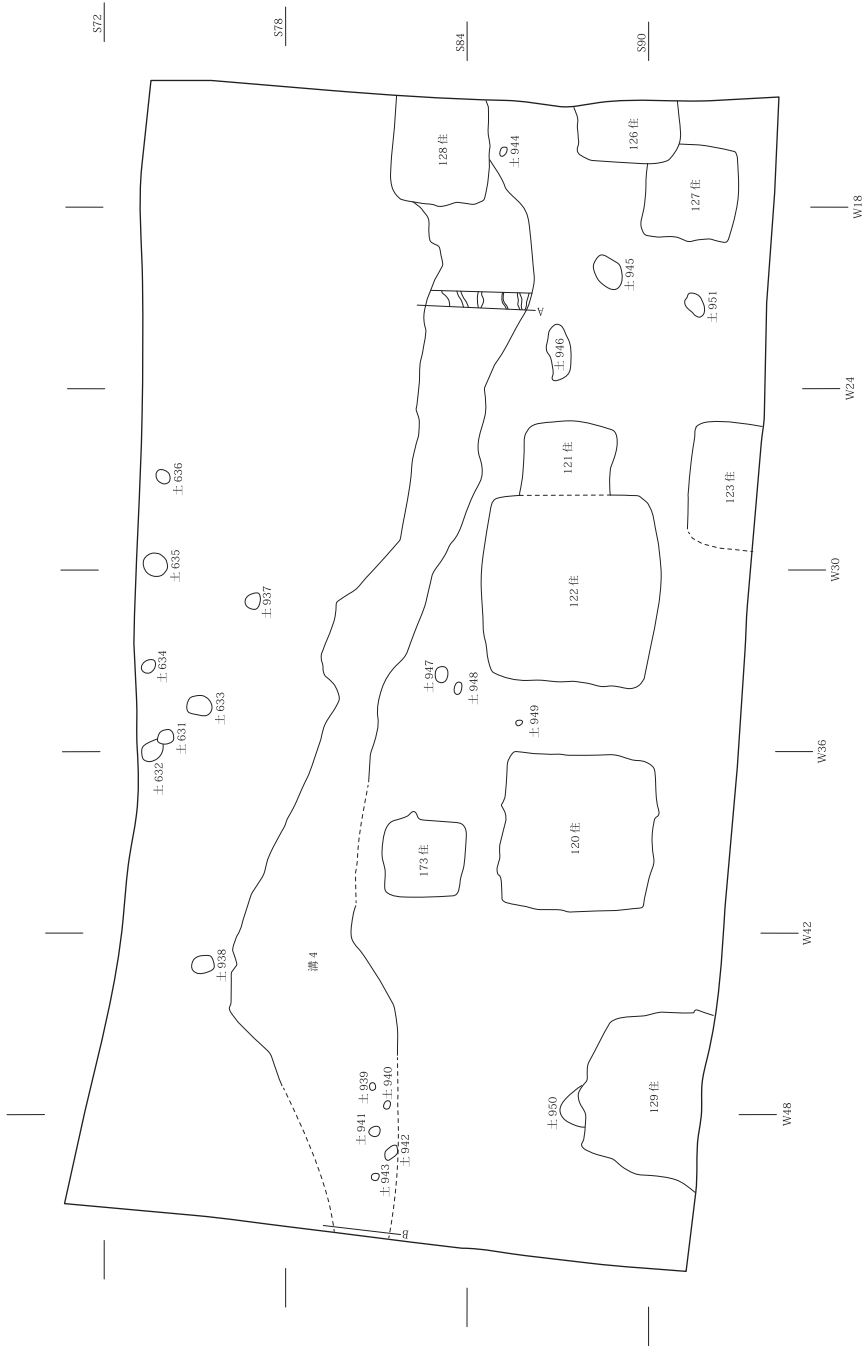


图版 4 B区全体图 (S=1/250)

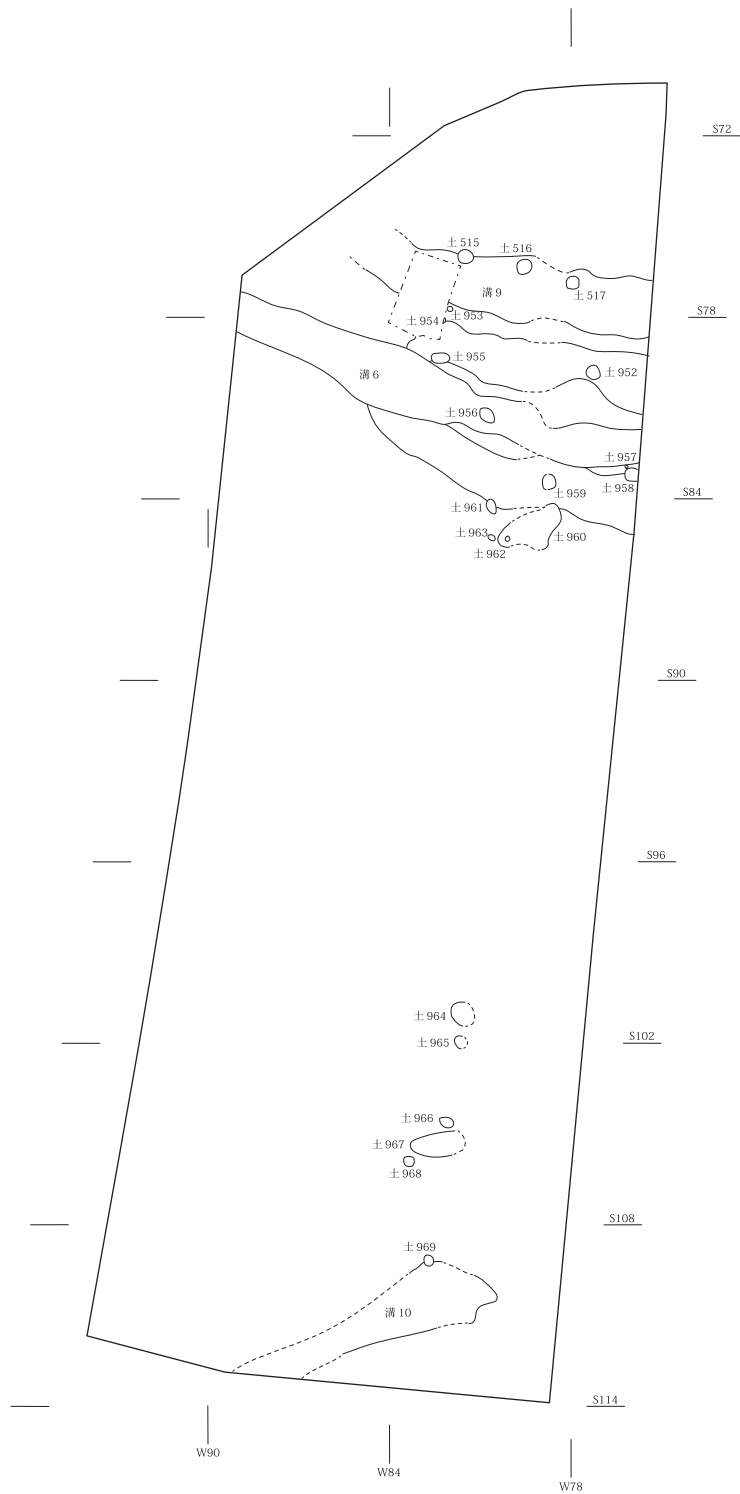




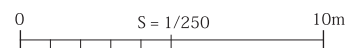


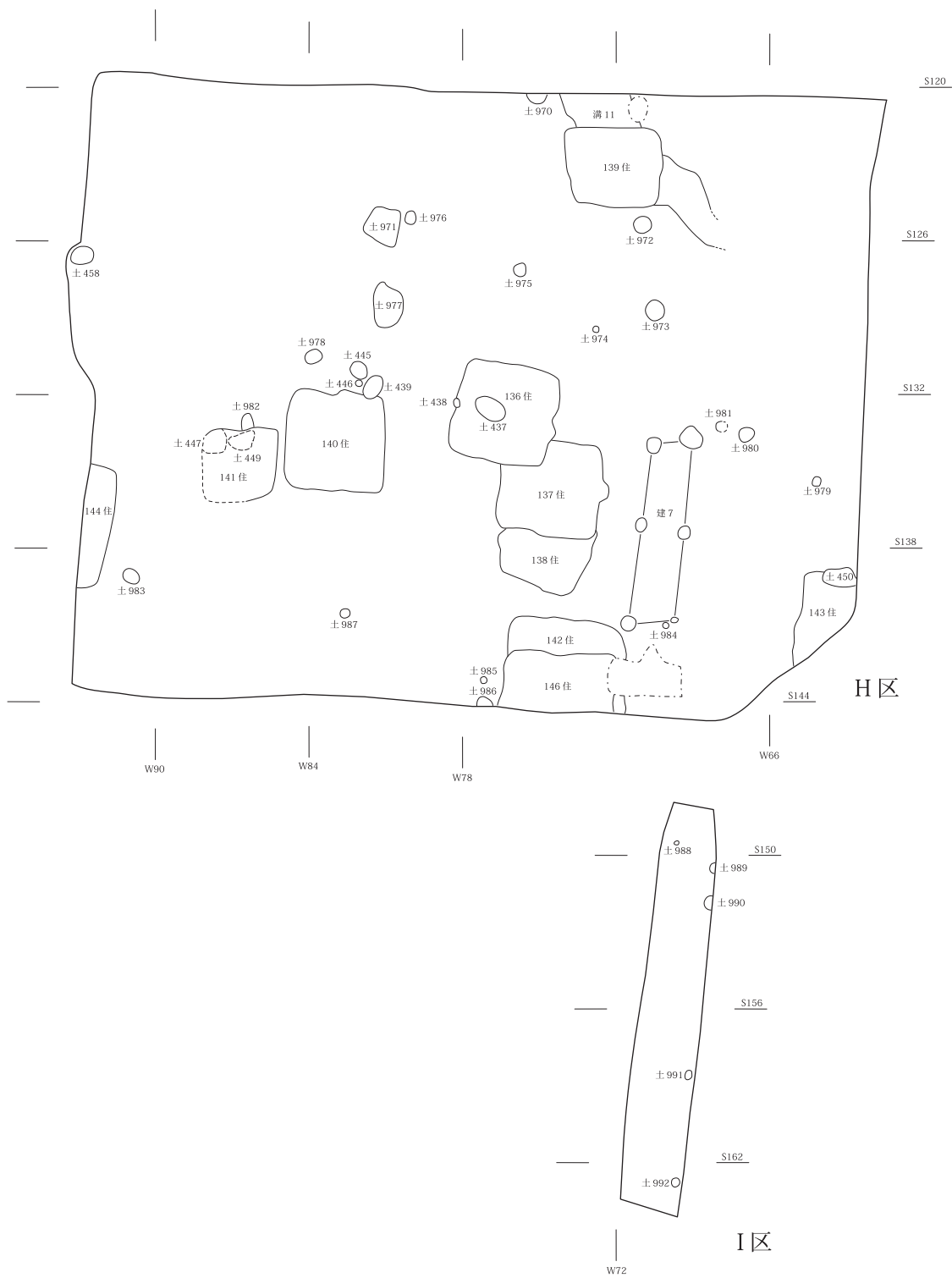


图版 7 F 区全体图 (S=1/250)

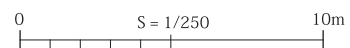


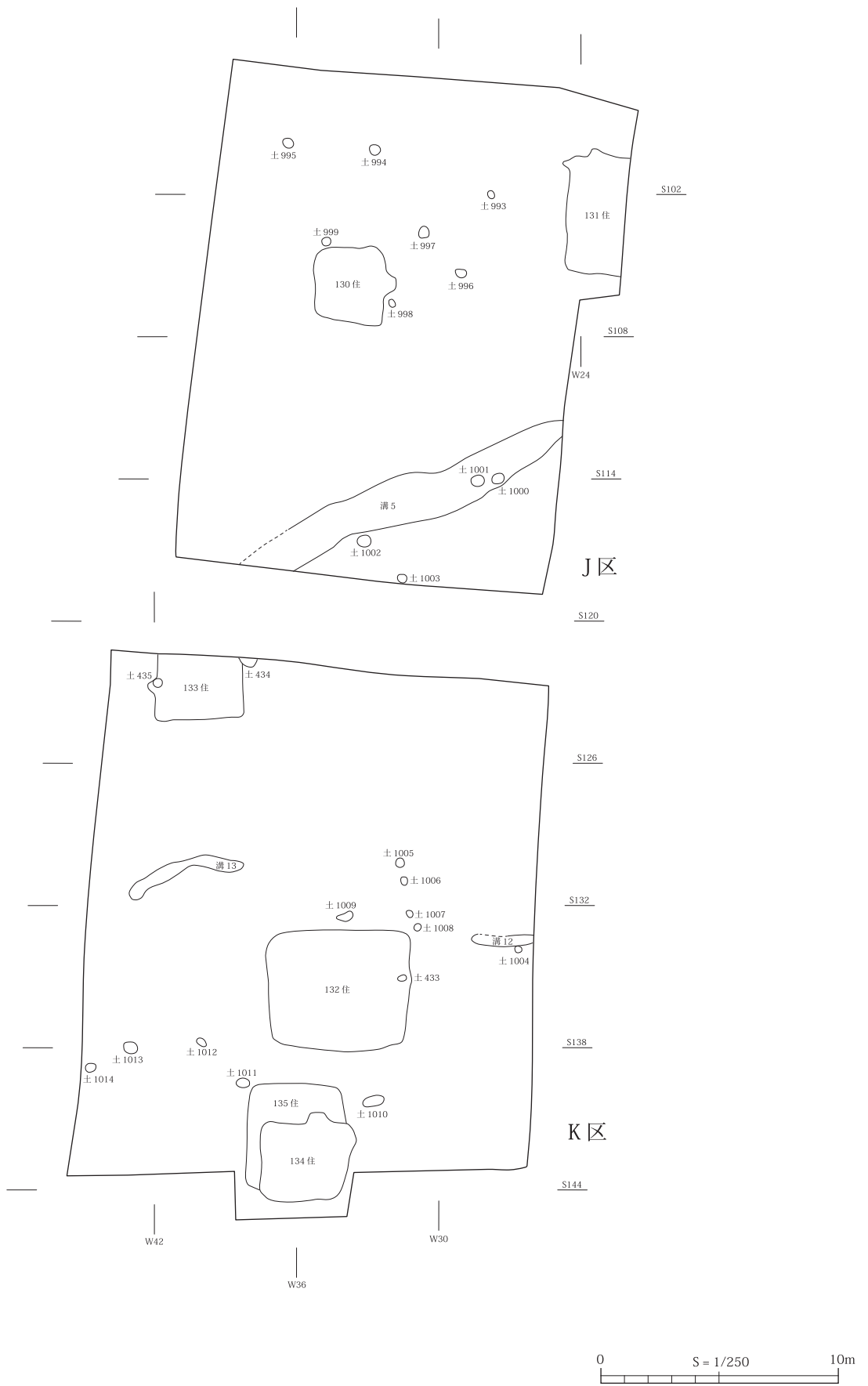
图版 8 G区全体图 (S=1/250)



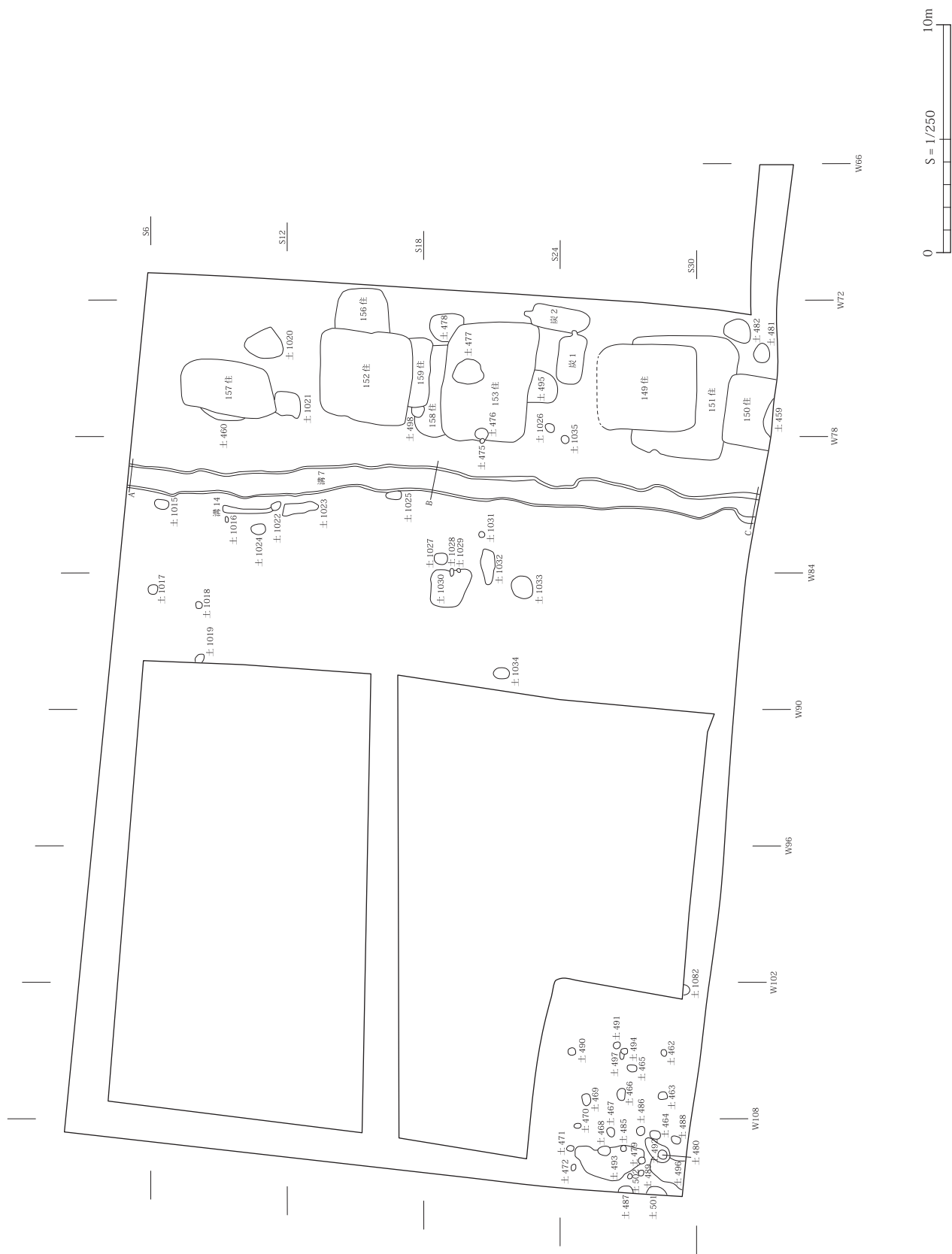


图版 9 H·I区全体图 (S=1/250)



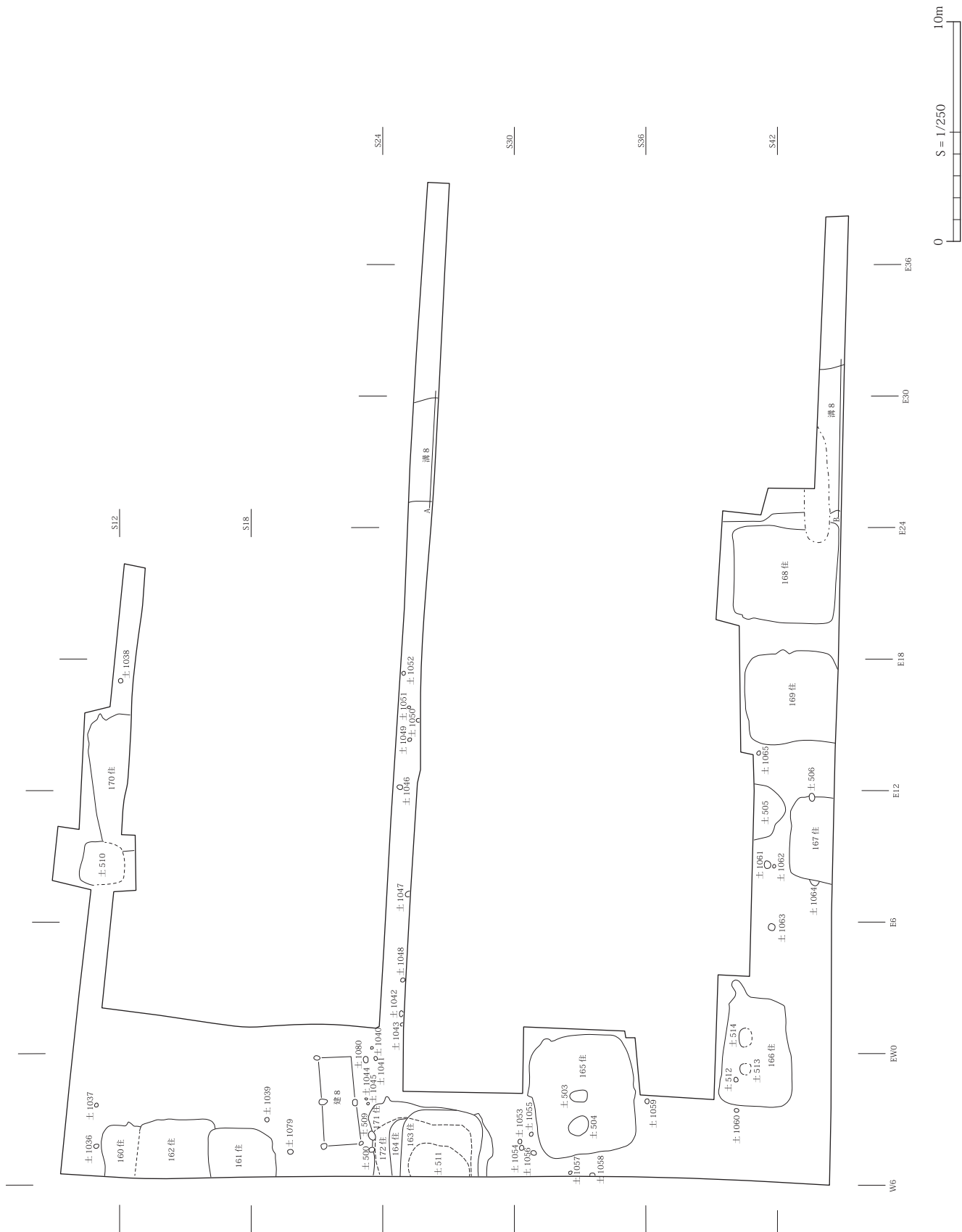


图版 10 J·K区全体图 (S=1/250)



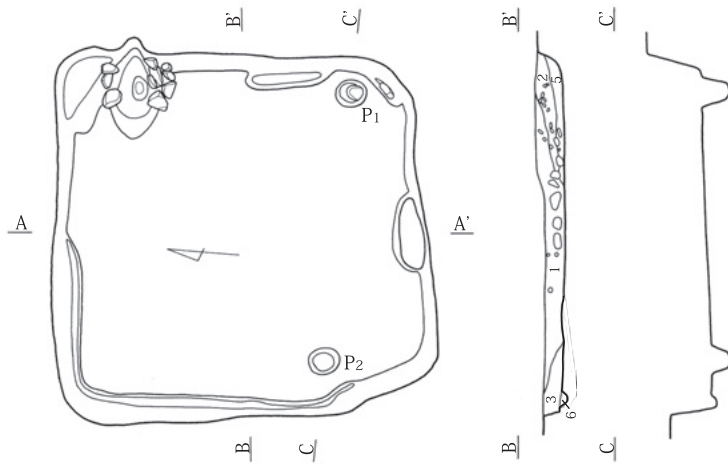
图版 11 L区全体图 (S=1/250)



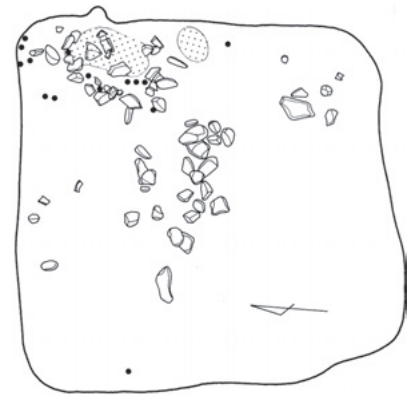


图版 12 M 区全体图 (S=1/250)

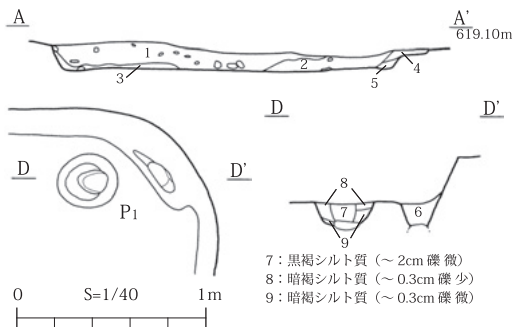
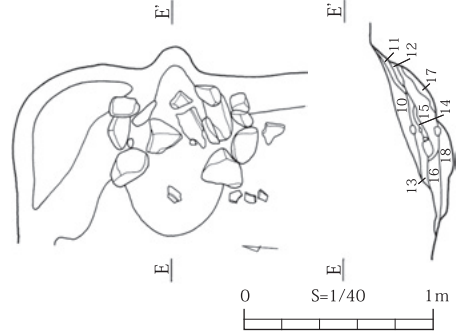
第 14 号住居址



14 住遺物出土状況



14 住カマド検出状況

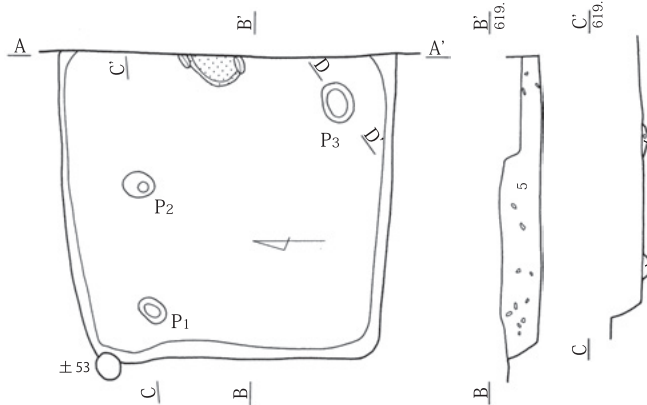


- 1: 灰黄褐シルト質 (～10cm 礫・黒褐土塊・褐灰土塊中、鉄分少、炭化物微)
- 2: 黒褐シルト質 (～5cm 礫・暗褐土塊・褐灰土塊中、鉄分・炭化物微)
- 3: 暗褐シルト質 (～1cm 礫・黄石粒・褐土塊少、炭化物微)
- 4: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫少、鉄分微)
- 5: 黒褐砂質シルト (炭化物・焼土塊少、～5cm 礫微)
- 6: 黒褐砂質シルト (～0.3cm 礫・黄石粒少、鉄分微)

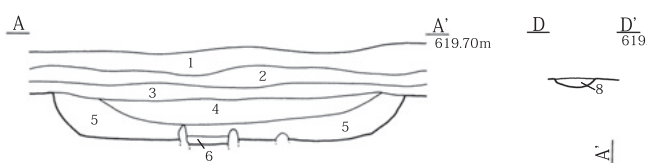
- 7: 黒褐シルト質 (～2cm 礫微)
- 8: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫少)
- 9: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫微)

- 10: 褐粘質シルト (焼土粒少、炭化物微)
- 11: 褐粘質シルト (焼土塊多、炭化物微)
- 12: 褐粘質シルト (黒褐土粒少、焼土粒・炭化物微)
- 13: 焼土 (暗褐土粒多)
- 14: 暗褐粘質
- 15: 褐粘質シルト (焼土塊大、炭化物微)
- 16: にぶい黄褐シルト質 (焼土粒・炭化物少)
- 17: 褐粘質シルト (焼土粒・炭化物微)
- 18: 黒褐シルト質 (炭化物多、焼土粒～2cm 礫少)

第 15 号住居址



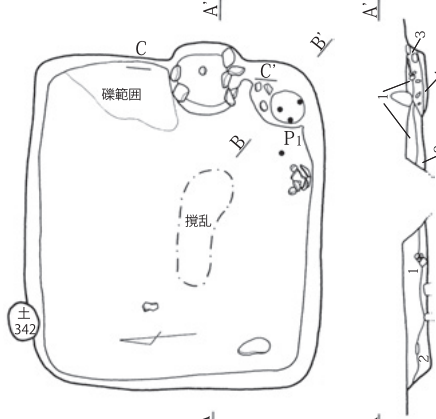
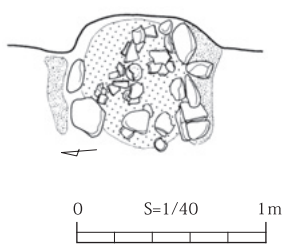
15 住遺物出土状況



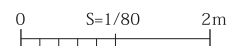
- 1: 耕作土
- 2: 水田基盤土
- 3: にぶい黄褐シルト質 (～2cm 礫・暗褐土粒少、鉄分・黄石粒微)
- 4: 黒褐シルト質 (～5cm 礫・褐土粒中、黄土粒少)
- 5: 黒褐シルト質 (～5cm 礫多、褐土粒中、黄土粒少)
- 6: 黒褐シルト質 (焼土粒・～5cm 礫多、炭化物・褐土粒中、黄土粒少)
- 7: 暗褐シルト質 (～2cm 礫・褐土粒少)
- 8: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多、褐土粒少)

第 22 号住居址

22 住カマド検出状況

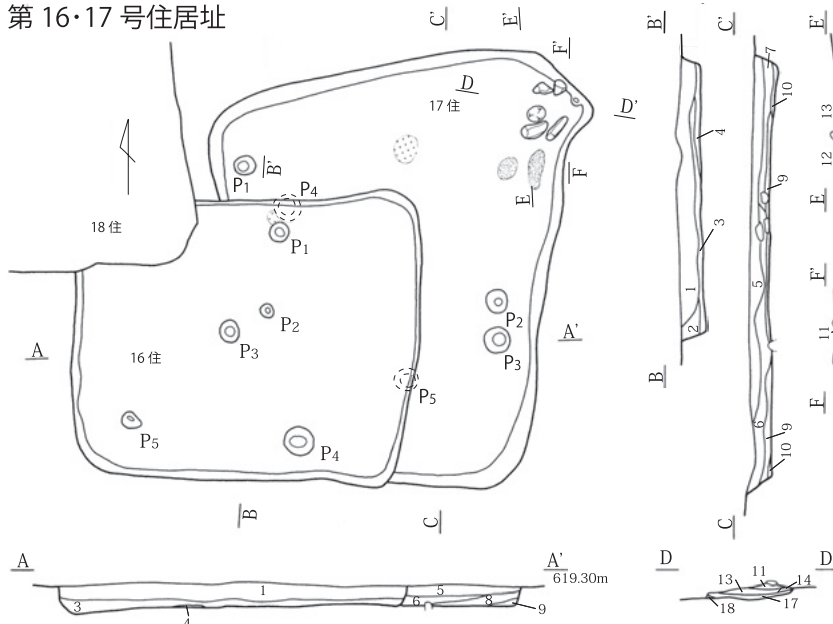


- 1: にぶい黄褐粘質シルト (～4cm 礫中)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (～10cm 礫中)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (焼土粒・～0.5cm 礫多)
- 4: にぶい黄褐シルト質 (焼土塊・炭化物多)

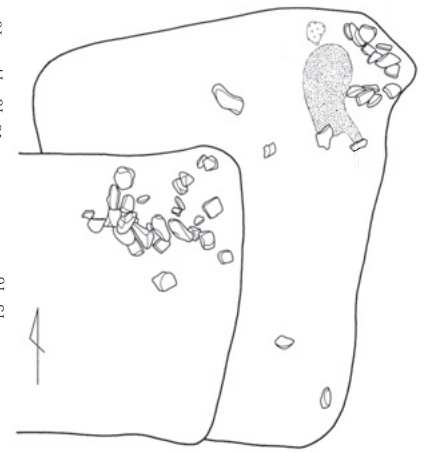


図版 13 竪穴住居址 (1)

第 16・17 号住居址



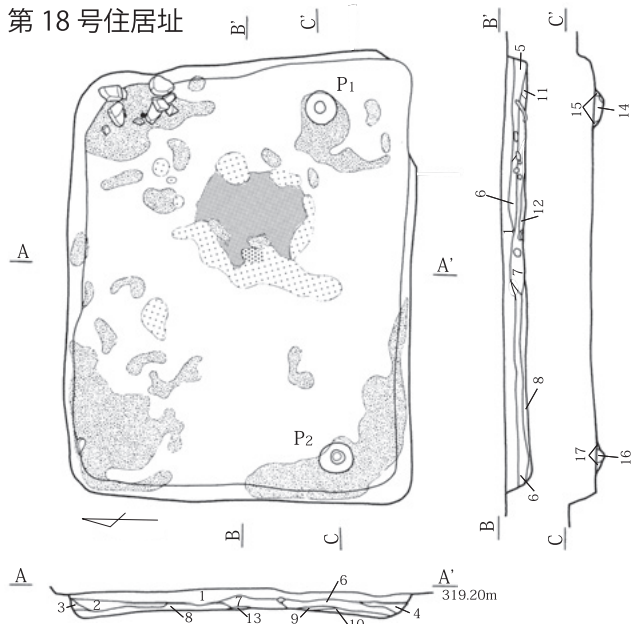
16・17 住遺物出土状況



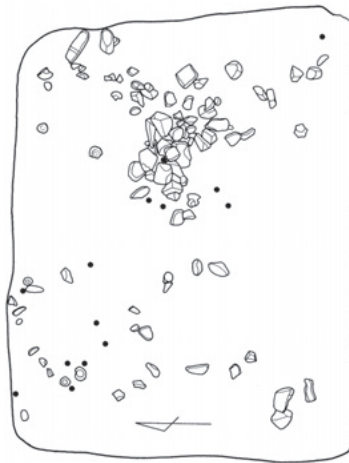
- 1: 褐粘質シルト (赤褐土塊・~1cm 礫・炭化物 少)
- 2: にぶい黄褐粘質シルト (~0.5cm 礫 少、赤褐石粒 微)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (炭化物・~1cm 礫 少)
- 4: にぶい黄褐シルト質 (~0.5cm 礫 中)
- 5: 暗褐シルト質 (~3cm 礫 中、鉄分・黄石粒 少)
- 6: にぶい黄褐砂質シルト (~0.3cm 礫 多、鉄分・炭化物 少)
- 7: 暗褐砂質シルト (~0.3cm 礫 多、鉄分 中)
- 8: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・~2cm 礫・褐土塊 少)
- 9: にぶい黄褐砂質シルト (~0.3cm 礫 大、鉄分・炭化物 微)
- 10: 褐シルト質 (~0.3cm 礫 多)

- 11: 褐砂質シルト (鉄分・~0.3cm 礫・炭化物 少)
- 12: 暗褐シルト質 (炭化物 中、~0.3cm 礫 少)
- 13: 褐シルト質 (炭化物・焼土塊 中、~0.3cm 礫 少)
- 14: 褐シルト質 (焼土塊・~0.3cm 礫 多、炭化物 中)
- 15: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫 少、炭化物・焼土粒 微)
- 16: 褐シルト質 (炭化物・~0.3cm 礫 多)
- 17: にぶい黄褐シルト質 (炭化物 大、焼土塊 少)
- 18: 褐砂質シルト (炭化物・~0.3cm 礫 中)

第 18 号住居址

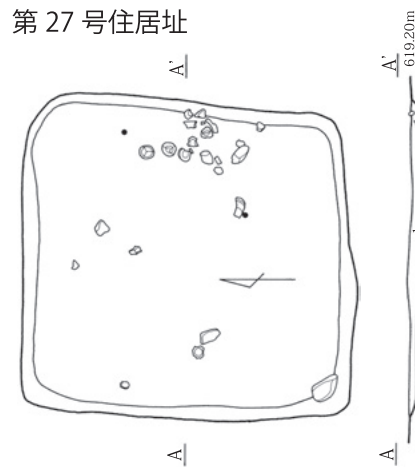


18 住遺物出土状況

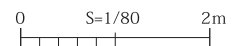


- 1: 褐粘質シルト (~0.5cm 礫・鉄分 中)
- 2: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫 中、鉄分 少)
- 3: 暗褐シルト質 (黒褐土塊 少)
- 4: 暗褐シルト質 (黒褐土塊 中、焼土粒 少、~3cm 礫 微)
- 5: 褐シルト質 (鉄分・~0.2cm 礫 中、黒褐土塊 少)
- 6: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫 中、炭化物 少、鉄分 微)
- 7: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫 中、灰褐土塊・鉄分・炭化物 少)
- 8: 暗褐砂質シルト (~0.5cm 礫 大、鉄分・炭化物・焼土粒 少)
- 9: 褐シルト質 (焼土塊 少)
- 10: 暗褐シルト質 (~3cm 礫 多)
- 11: 暗褐シルト質 (炭化物・焼土粒 少)
- 12: 暗褐砂質シルト (炭化物 多、焼土粒 少)
- 13: 焼土
- 14: にぶい黄褐粘質シルト (炭化物 多、~0.3cm 礫 中、焼土塊 少)
- 15: 褐粘質シルト (炭化物・~0.3cm 礫 少)
- 16: 暗褐シルト質 (焼土塊 中)
- 17: 暗褐シルト質 (焼土塊 中、炭化物 少)

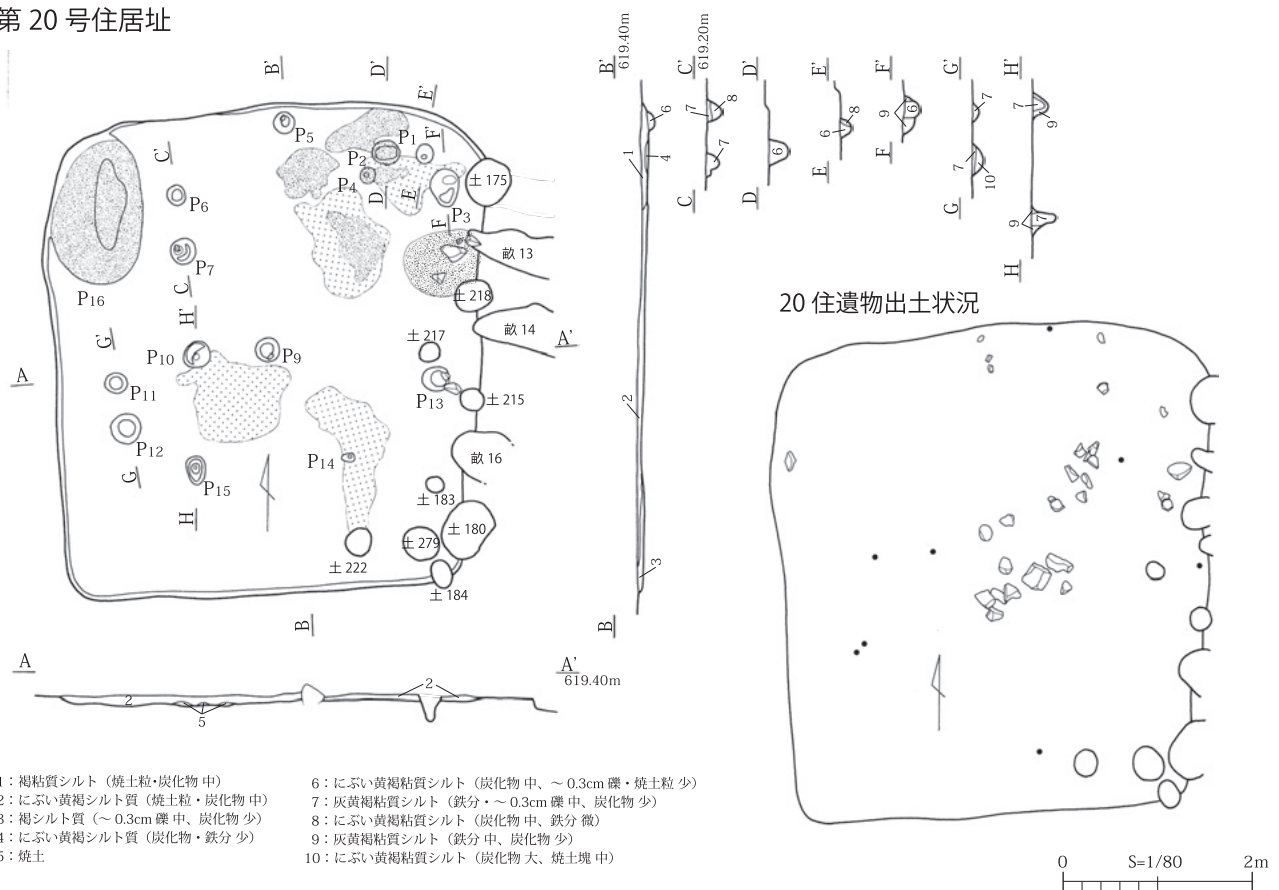
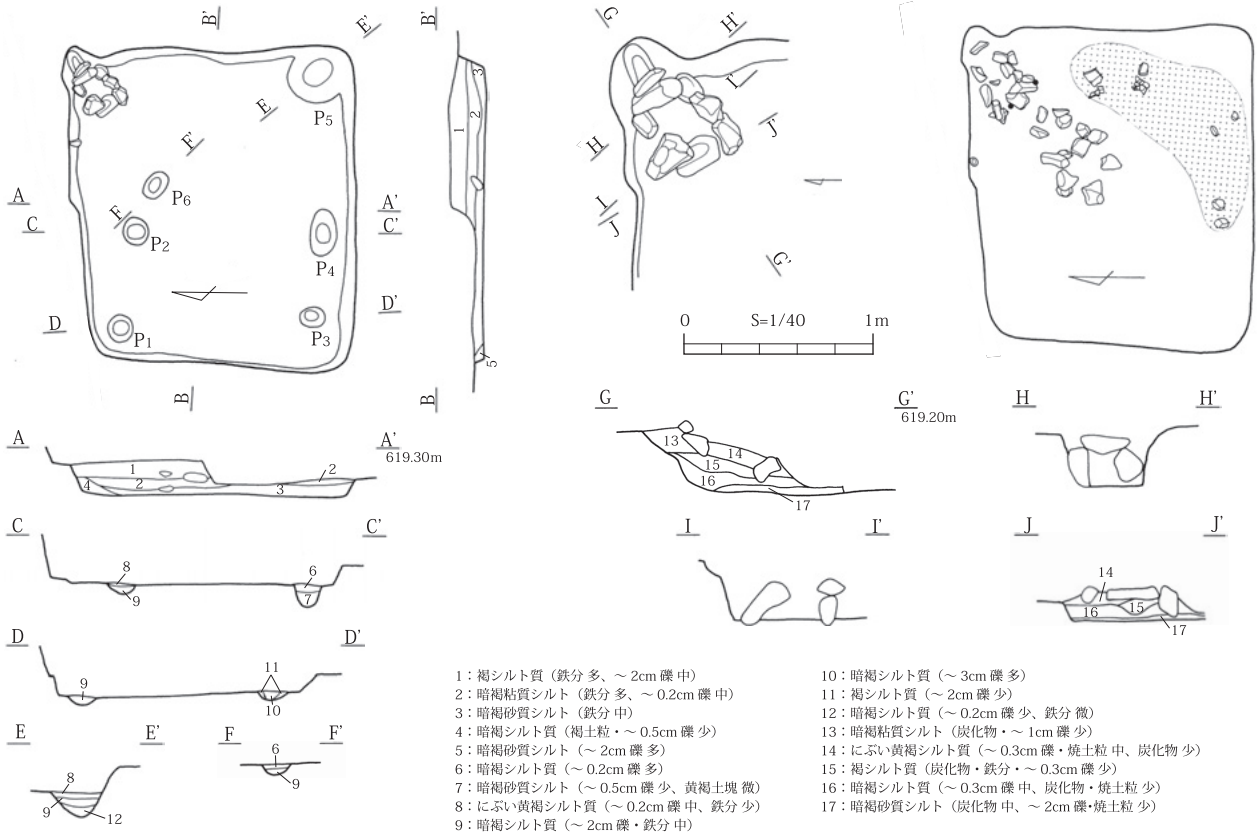
第 27 号住居址



- 1: 暗褐シルト質 (~2cm 礫 多)

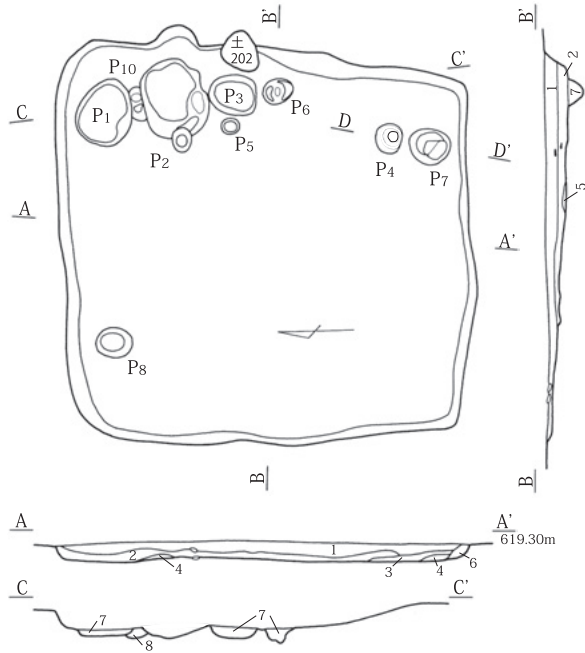


図版 14 竪穴住居址 (2)

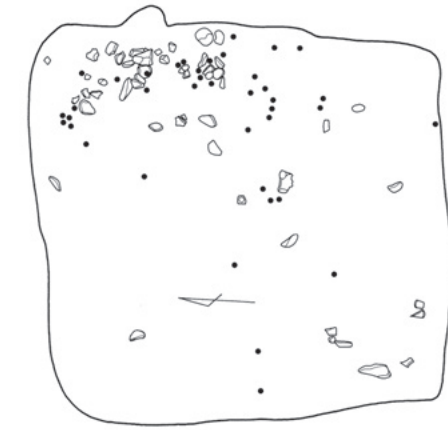


図版 15 竪穴住居址 (3)

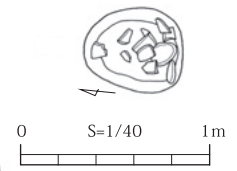
第 21 号住居址



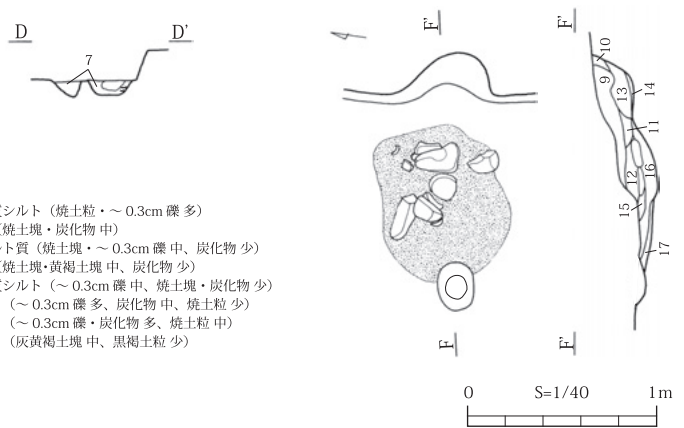
21 住遺物出土状況



P3 遺物出土状況



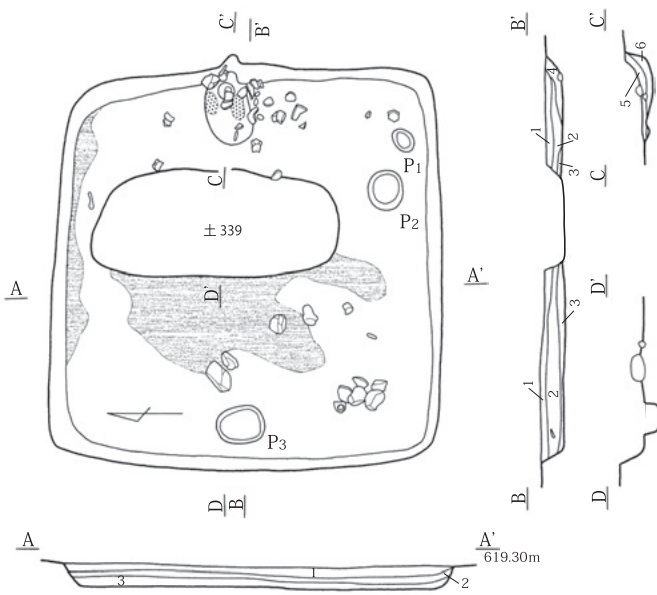
21 住カマド検出状況



- 1: にふい黄褐シルト質 (～2cm 礫・灰黄褐土塊 中)
- 2: にふい黄褐シルト質 (～1cm 礫・灰黄褐土塊・炭化物・焼土粒 少)
- 3: 暗褐砂質シルト (～5cm 礫 中)
- 4: 暗褐砂質シルト (～0.5cm 礫 大)
- 5: 暗褐シルト質 (焼土塊・～2cm 礫 少)
- 6: 褐砂質シルト (～1cm 礫 少)
- 7: にふい黄褐シルト質 (～1cm 礫 中、焼土粒・炭化物 少)
- 8: 暗褐砂質シルト (炭化物・焼土粒・灰土塊・黄褐土塊 少、～2cm 礫 大)
- 9: 暗褐粘質シルト (炭化物 中、焼土塊 少)

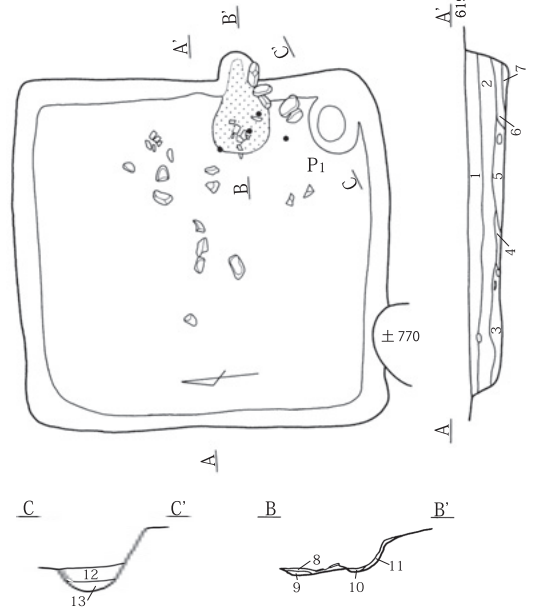
- 10: にふい黄褐粘質シルト (焼土粒・～0.3cm 礫 多)
- 11: 暗褐シルト質 (焼土塊・炭化物 中)
- 12: にふい黄褐シルト質 (焼土塊・～0.3cm 礫 中、炭化物 少)
- 13: 暗褐シルト質 (焼土塊・黄褐土塊 中、炭化物 少)
- 14: にふい黄褐粘質シルト (～0.3cm 礫 中、焼土塊・炭化物 少)
- 15: 暗褐粘質シルト (～0.3cm 礫 多、炭化物 中、焼土粒 少)
- 16: 暗褐粘質シルト (～0.3cm 礫・炭化物 多、焼土粒 中)
- 17: 暗褐砂質シルト (灰黄褐土塊 中、黒褐土粒 少)

第 25 号住居址



- 1: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫 多)
- 2: 褐シルト質 (～1cm 礫 多)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫 多、褐土粒 中)
- 4: 暗褐シルト質 (～2cm 礫・褐土塊 多)
- 5: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫 大、にふい黄褐土粒 中)
- 6: 黒褐シルト質 (～0.5cm 礫 多)

第 29 号住居址

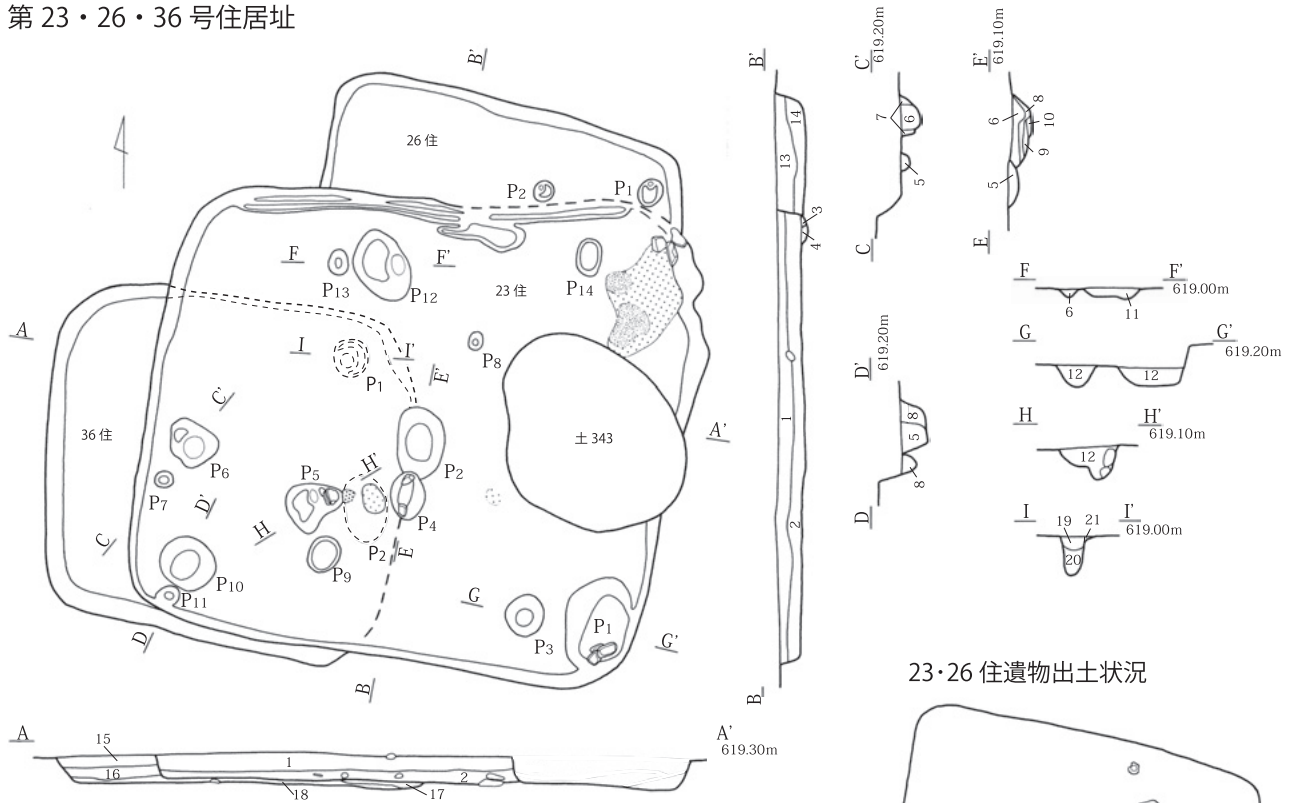


- 1: 褐シルト質 (～0.3cm 礫 多)
- 2: にふい黄褐シルト質 (～0.5cm 礫 中)
- 3: 暗褐シルト質 (炭化物 微)
- 4: にふい黄褐粘質シルト (鉄分 大)
- 5: 褐シルト質 (鉄分 中)
- 6: 褐シルト質 (焼土塊 大、砂粒 多)
- 7: 暗褐砂質
- 8: 暗褐シルト質 (砂粒・焼土塊 多)
- 9: 褐シルト質 (砂粒 多)
- 10: 暗褐シルト質 (砂粒 大、橙土粒 中)
- 11: 暗褐シルト質 (鉄分・焼土塊 多)
- 12: 暗褐シルト質 (～2cm 礫・焼土塊 少)
- 13: 黒褐シルト質 (焼土粒 少)

図版 16 竪穴住居址 (4)



第 23・26・36 号住居址

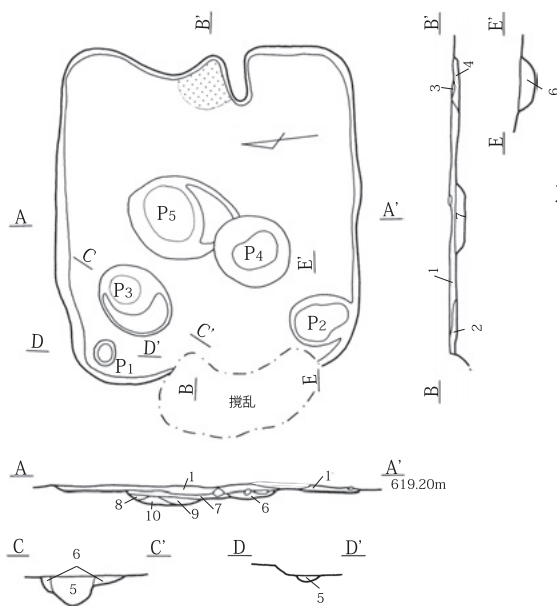


23・26 住遺物出土状況

- |                                  |                             |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1: 暗褐シルト質 (～5cm 礫多、赤褐土粒・炭化物微)    | 12: 暗褐シルト質 (～1cm 礫中、炭化物少)   |
| 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫中)              | 13: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・黄褐土塊中) |
| 3: 褐シルト質 (砂粒多)                   | 14: 暗褐シルト質 (砂粒多、褐土塊中)       |
| 4: 暗褐シルト質 (黄褐土塊中)                | 15: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)      |
| 5: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、褐土塊少)       | 16: 暗褐シルト質 (砂粒多、褐土塊中、炭化物微)  |
| 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、黄褐土塊少、炭化物微) | 17: 暗褐シルト質 (砂粒多)            |
| 7: 暗褐シルト質 (焼土塊・炭化物少)             | 18: 暗褐シルト質 (砂粒多、橙土粒中)       |
| 8: 暗褐シルト質 (黄褐土粒・～1cm 礫中、炭化物微)    | 19: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)      |
| 9: 黒褐粘質 (炭化物大)                   | 20: 暗褐シルト質 (黄褐土粒・～3cm 礫中)   |
| 10: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫多)        | 21: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫多)   |
| 11: 暗褐シルト質 (焼土塊大)                |                             |



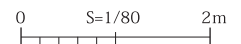
第 31 号住居址



31 住遺物出土状況

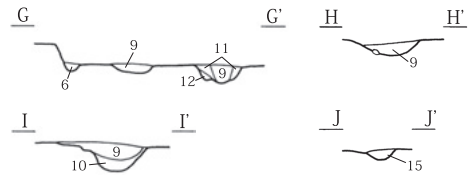
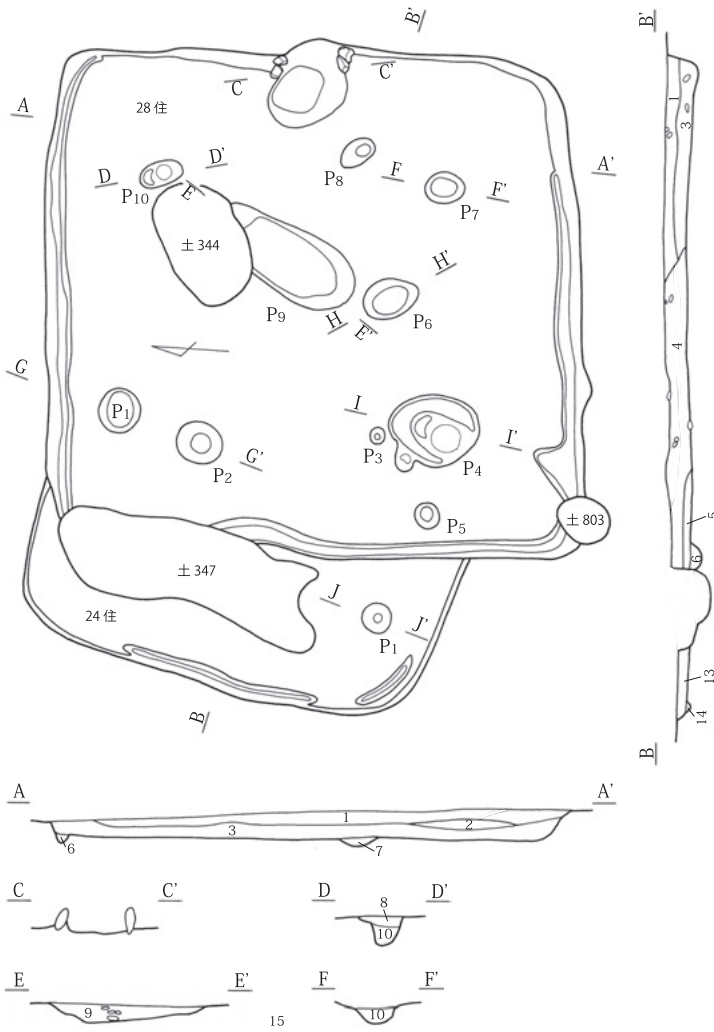


- |                                |
|--------------------------------|
| 1: 暗褐粘質シルト (～1cm 礫大)           |
| 2: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)          |
| 3: 暗褐シルト質 (炭化物中、焼土塊・～0.5cm 礫少) |
| 4: 褐砂質シルト (～1cm 礫多)            |
| 5: 暗褐シルト質 (赤褐土粒中、～1cm 礫少)      |
| 6: 暗褐シルト質 (～1cm 礫中、炭化物・焼土塊少)   |
| 7: 暗褐シルト質 (焼土塊・炭化物中、～0.5cm 礫少) |
| 8: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中)          |
| 9: 褐シルト質 (焼土粒大)                |
| 10: 褐シルト質 (～0.5cm 礫少)          |

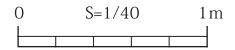


図版 17 竪穴住居址 (5)

第 24・28 号住居址

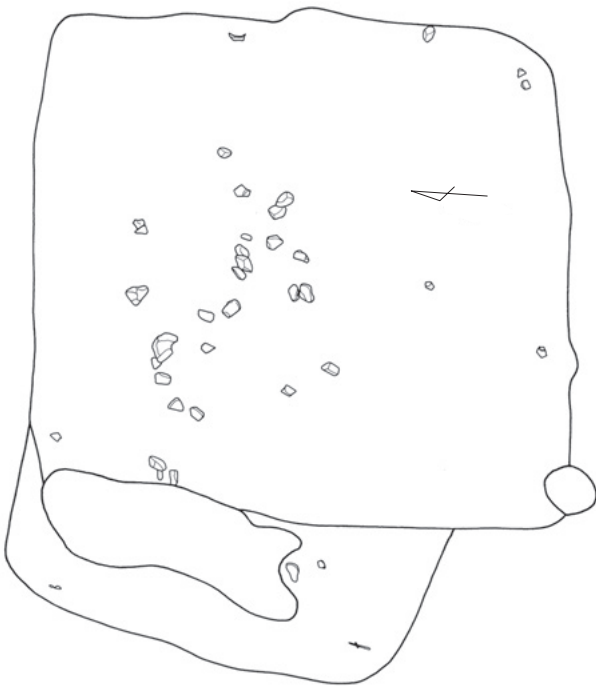


28 住カマド検出状況

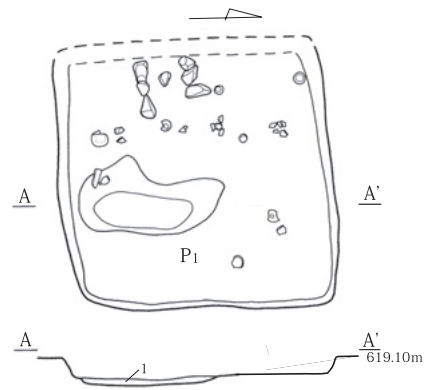


- 1: 暗褐色シルト質 (~3cm 礫中、褐土塊 少、焼土塊 微)
- 2: 黒褐色シルト質 (~1cm 礫 少)
- 3: 暗褐色シルト質 (~5cm 礫 少、炭化物 微)
- 4: にぶい黄褐色粘質シルト (~0.5cm 礫中、焼土塊・炭化物 少)
- 5: 褐粘質シルト (~0.3cm 礫多、黒褐土粒・赤褐土粒 少)
- 6: にぶい黄褐色シルト質 (~0.5cm 礫多)
- 7: にぶい黄褐色シルト質 (鉄分中、~0.3cm 礫 少)
- 8: 暗褐色シルト質 (~4cm 礫中)
- 9: 暗褐色シルト質 (~0.5cm 礫多、炭化物・褐土塊 少)
- 10: 暗褐色砂質シルト (~4cm 礫中、黄褐色土塊 少)
- 11: 暗褐色砂質シルト (黒褐土塊中、鉄分 少)
- 12: 暗褐色シルト質 (~0.3cm 礫中、炭化物 少)
- 13: 褐シルト質
- 14: 暗褐色シルト質 (~0.3cm 礫多)
- 15: 暗褐色シルト質 (~0.5cm 礫 少)

24・28 住遺物出土状況

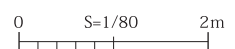
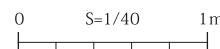
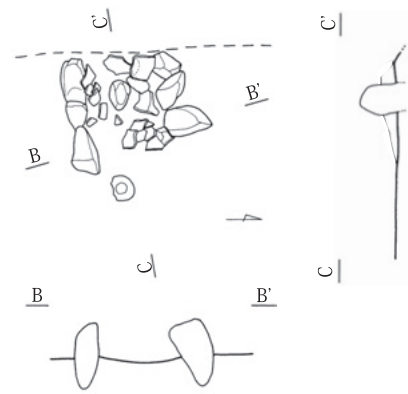


第 32 号住居址



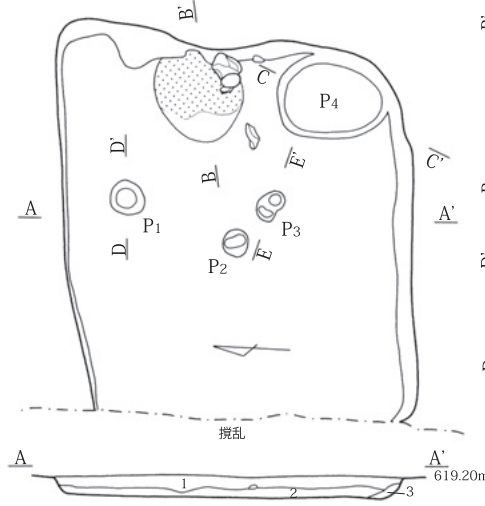
1: 暗褐色シルト質 (~3cm 礫大)

32 住カマド検出状況



図版 18 竪穴住居址 (6)

第 30 号住居址

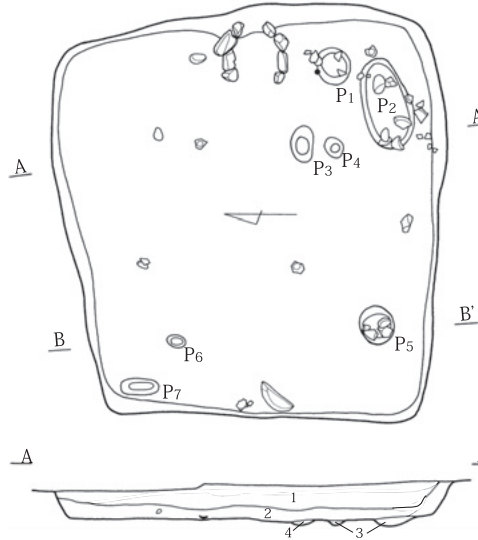


30 住遺物出土状況

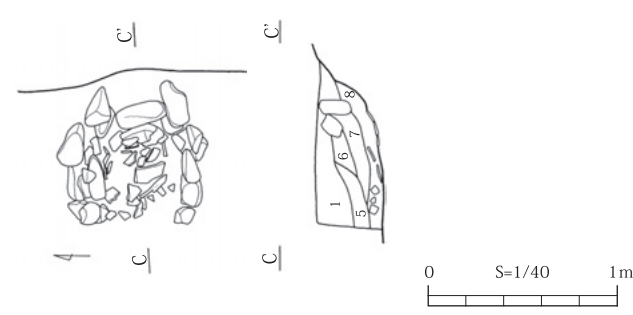


- 1: 褐シルト質 (～5cm 礫大、黄褐土粒中)
- 2: 暗褐シルト質 (～1cm 礫中)
- 3: 黄褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 4: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多)
- 5: 暗褐シルト質 (焼土塊多、～0.5cm 礫中)
- 6: 黒褐シルト質 (焼土粒・炭化物・～1cm 礫中)
- 7: 暗褐シルト質 (～4cm 礫中、炭化物少)

第 34 号住居址

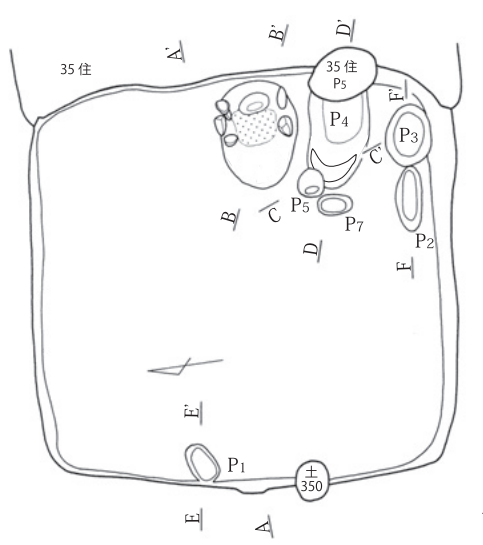


34 住カマド検出状況



- 1: 暗褐シルト質 (～3cm 礫少、炭化物微)
- 2: 黒褐シルト質 (～3cm 礫少)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 4: にぶい黄褐粘質シルト (～2cm 礫多、赤褐土塊少)
- 5: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫少)
- 7: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫少、焼土塊微)
- 8: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫少)

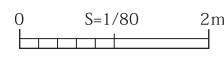
第 37 号住居址



37 住遺物出土状況

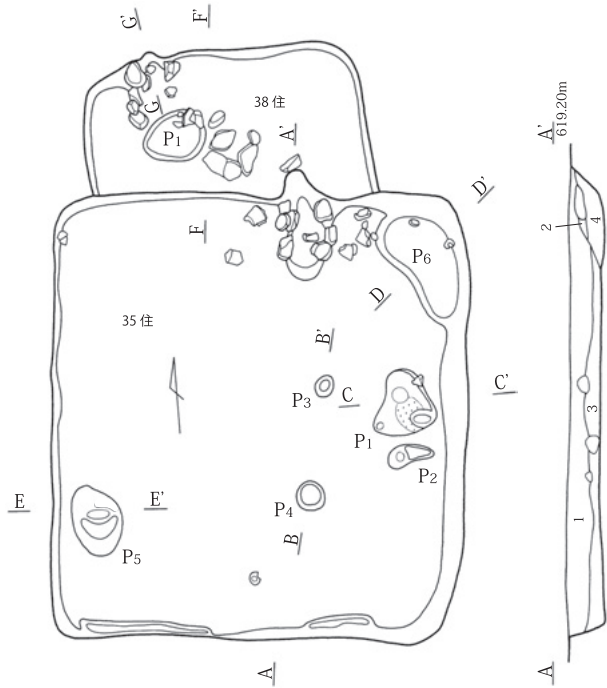


- 1: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多)
- 2: 暗褐シルト質 (～2cm 礫大、炭化物・橙土粒微)
- 3: 暗褐シルト質 (炭化物・橙土粒微)
- 4: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 5: 暗褐シルト質 (にぶい黄褐土塊中、～0.3cm 礫微)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・焼土塊多、炭化物中)
- 7: 焼土
- 8: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 9: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫大、炭化物微)
- 10: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、焼土塊中、炭化物微)

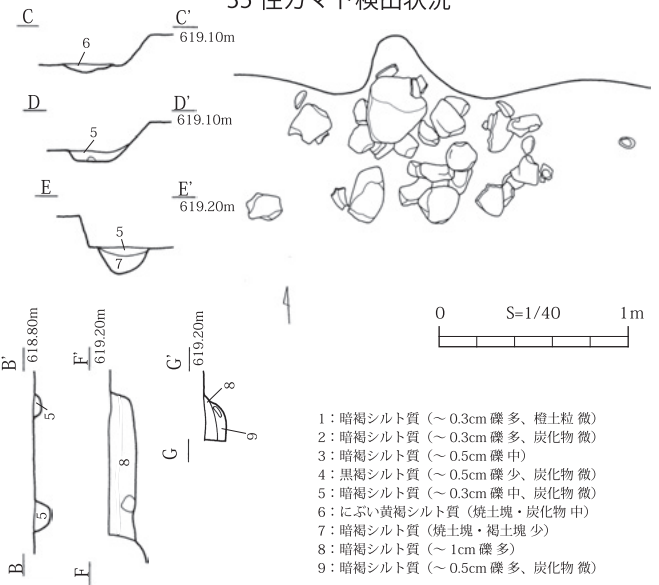


図版 19 竪穴住居址 (7)

第 35・38 号住居址

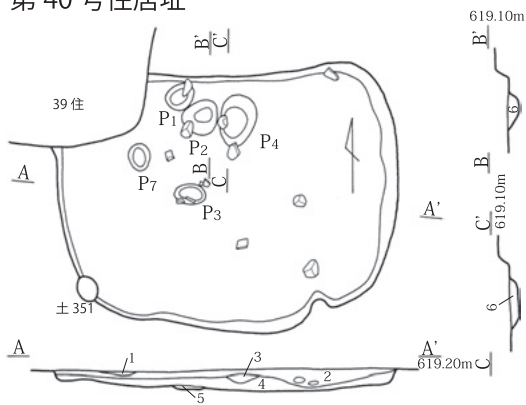


35 住カマド検出状況



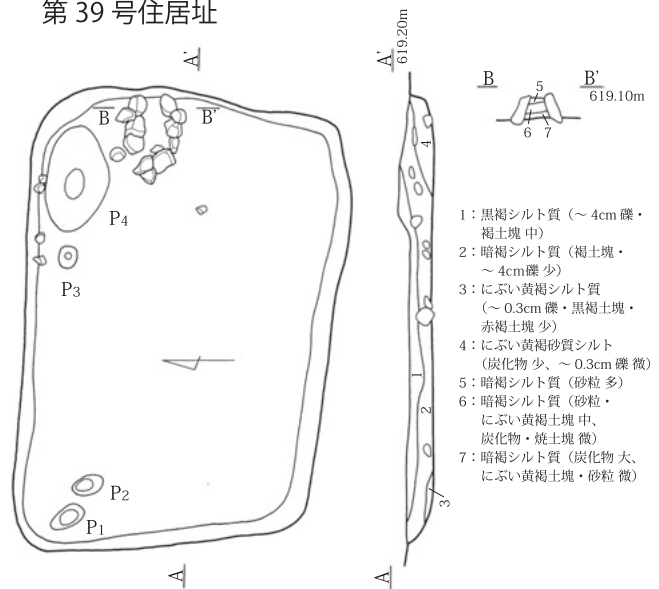
- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、植土粒 微)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、炭化物 微)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫中)
- 4: 黒褐色シルト質 (～0.5cm 礫少、炭化物 微)
- 5: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫中、炭化物 微)
- 6: にぶい黄褐色シルト質 (焼土塊・炭化物 中)
- 7: 暗褐色シルト質 (焼土塊・褐土塊 少)
- 8: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫多)
- 9: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物 微)

第 40 号住居址



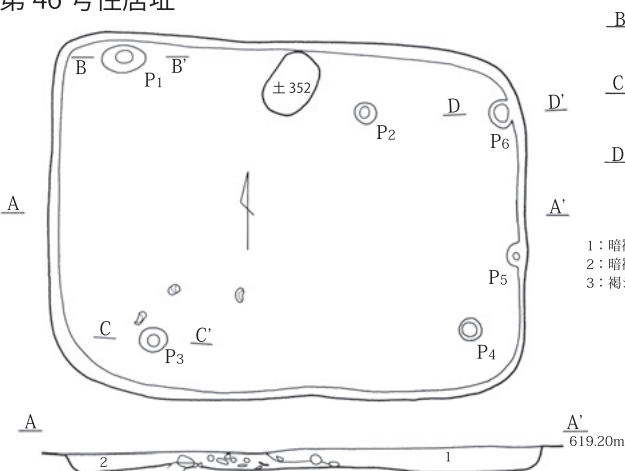
- 1: 暗褐色シルト質 (砂粒・焼土塊 多)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫大、炭化物 中)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 4: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、褐土塊 中)
- 5: にぶい黄褐色シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 6: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、炭化物 微)

第 39 号住居址



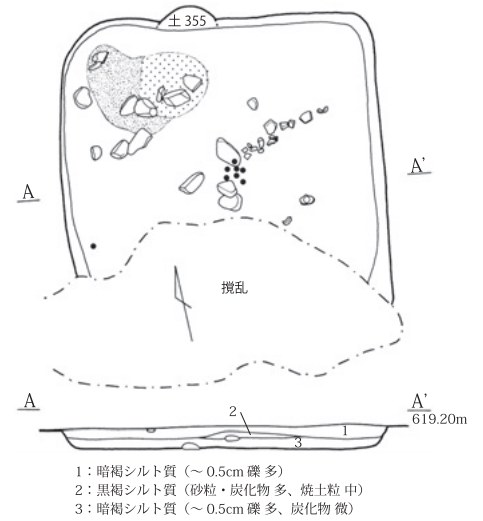
- 1: 黒褐色シルト質 (～4cm 礫・褐土塊 中)
- 2: 暗褐色シルト質 (褐土塊・～4cm 礫 少)
- 3: にぶい黄褐色シルト質 (～0.3cm 礫・黒褐土塊・赤褐土塊 少)
- 4: にぶい黄褐色砂質シルト (炭化物 少、～0.3cm 礫 微)
- 5: 暗褐色シルト質 (砂粒 多)
- 6: 暗褐色シルト質 (砂粒・にぶい黄褐色土塊 中、炭化物・焼土塊 微)
- 7: 暗褐色シルト質 (炭化物 大、にぶい黄褐色土塊・砂粒 微)

第 46 号住居址



- 1: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫大)
- 2: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫大)
- 3: 褐シルト質 (～0.5cm 礫多)

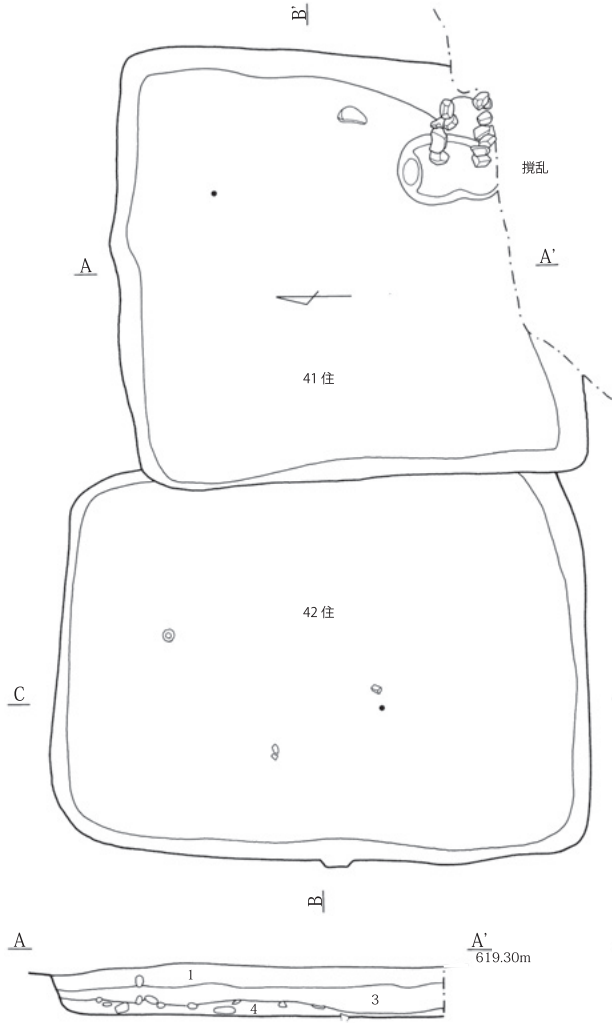
第 49 号住居址



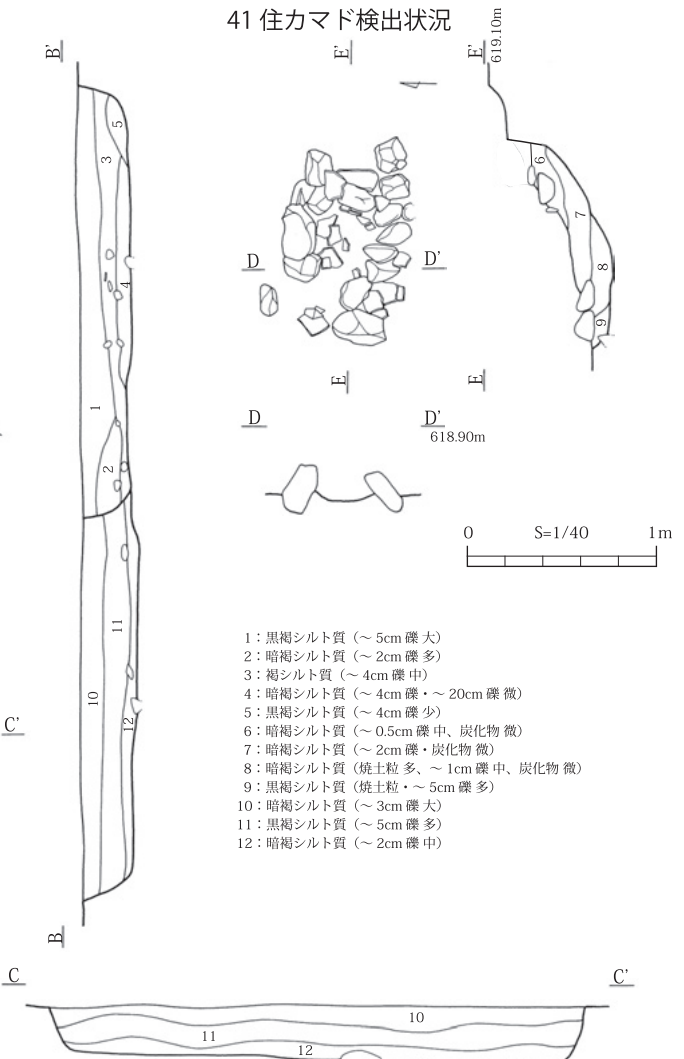
- 1: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多)
- 2: 黒褐色シルト質 (砂粒・炭化物 多、焼土粒 中)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物 微)

図版 20 竪穴住居址 (8)

第 41・42 号住居址

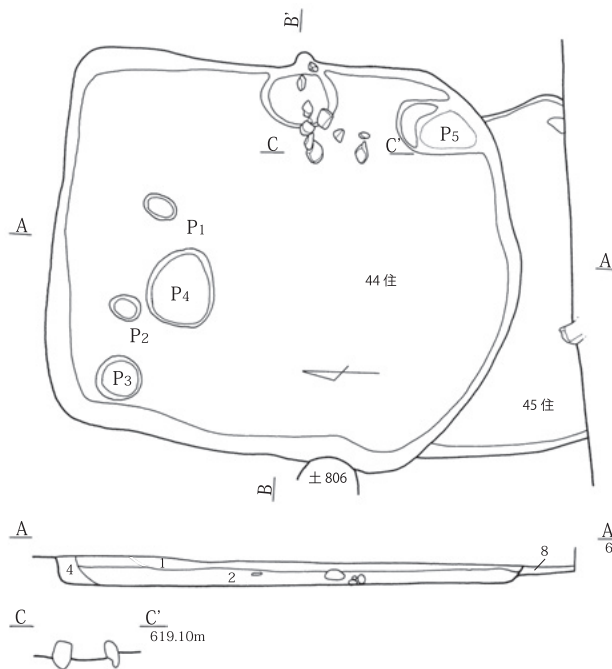


41 住カマド検出状況

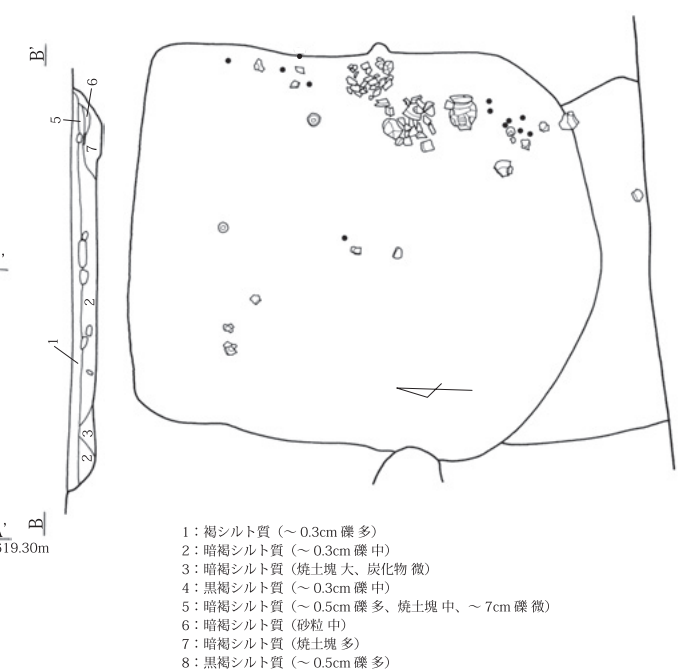


- 1: 黒褐シルト質 (～5cm 礫大)
- 2: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多)
- 3: 褐シルト質 (～4cm 礫中)
- 4: 暗褐シルト質 (～4cm 礫・～20cm 礫微)
- 5: 黒褐シルト質 (～4cm 礫少)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中、炭化物微)
- 7: 暗褐シルト質 (～2cm 礫・炭化物微)
- 8: 暗褐シルト質 (焼土粒多、～1cm 礫中、炭化物微)
- 9: 黒褐シルト質 (焼土粒・～5cm 礫多)
- 10: 暗褐シルト質 (～3cm 礫大)
- 11: 黒褐シルト質 (～5cm 礫多)
- 12: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中)

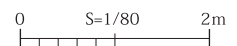
第 44・45 号住居址



44・45 住遺物出土状況



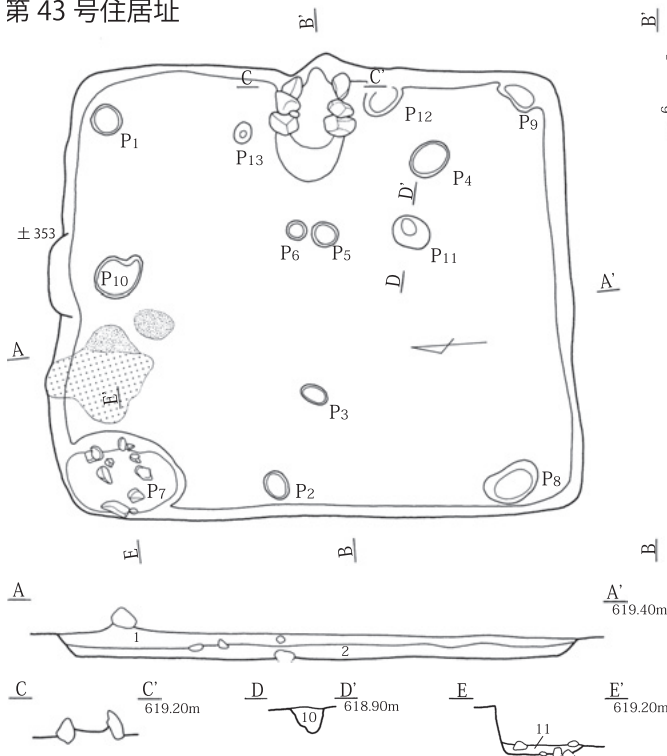
- 1: 褐シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 2: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 3: 暗褐シルト質 (焼土塊大、炭化物微)
- 4: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 5: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多、焼土塊中、～7cm 礫微)
- 6: 暗褐シルト質 (砂粒中)
- 7: 暗褐シルト質 (焼土塊多)
- 8: 黒褐シルト質 (～0.5cm 礫多)



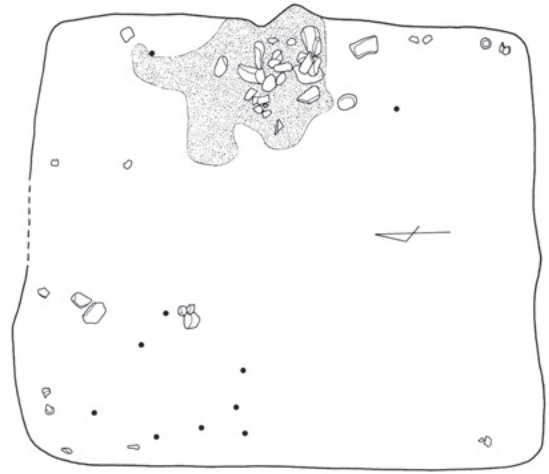
図版 21 竪穴住居址 (9)



第 43 号住居址

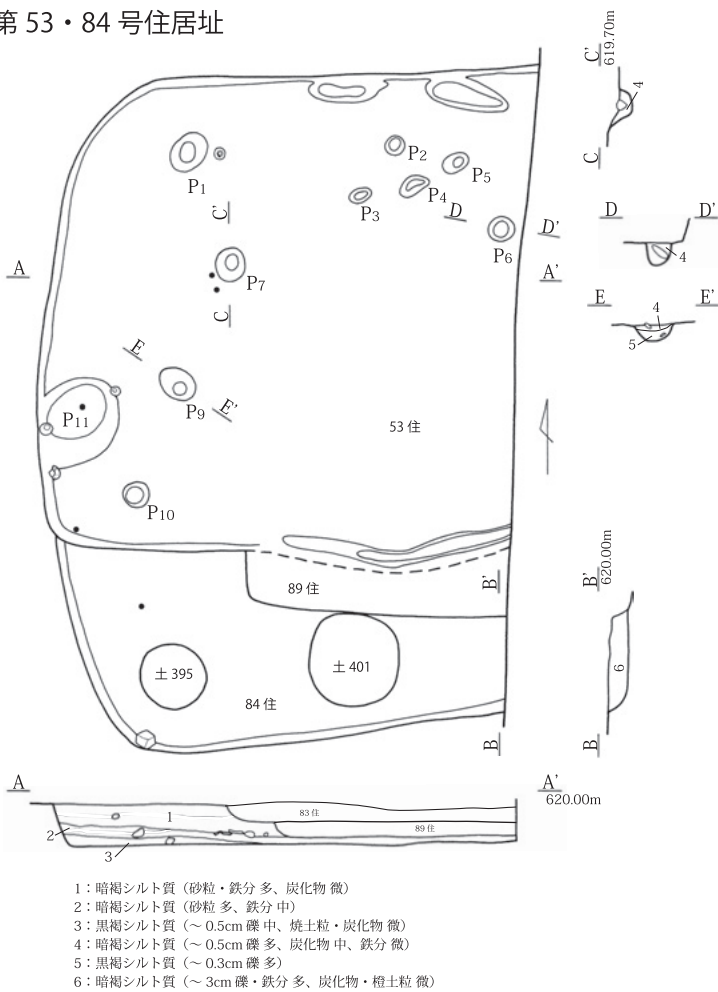


43 住遺物出土状況



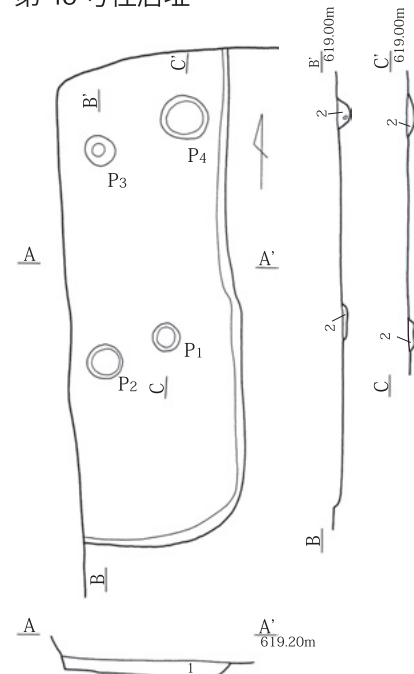
- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、褐色土塊中)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫・鉄分多、炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (砂粒・暗褐色土塊多)
- 5: 暗褐色シルト質 (暗赤褐色土塊多、焼土粒中)
- 6: 暗褐色シルト質 (炭化物・焼土塊多、～0.3cm 礫中)
- 7: 暗褐色シルト質 (砂粒多、焼土塊中)
- 8: 暗褐色シルト質 (焼土塊・砂粒多)
- 9: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫・炭化物多、焼土塊中)
- 10: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、～2cm 礫微)
- 11: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、炭化物中、焼土塊微)

第 53・84 号住居址

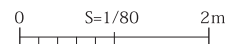


- 1: 暗褐色シルト質 (砂粒・鉄分多、炭化物微)
- 2: 暗褐色シルト質 (砂粒多、鉄分中)
- 3: 黒褐色シルト質 (～0.5cm 礫中、焼土粒・炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物中、鉄分微)
- 5: 黒褐色シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 6: 暗褐色シルト質 (～3cm 礫・鉄分多、炭化物・橙土粒微)

第 48 号住居址

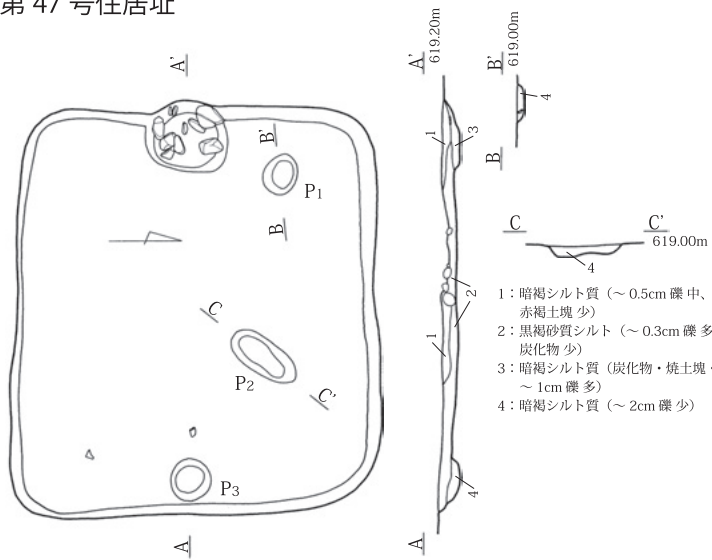


- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、～7cm 礫微)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫大)



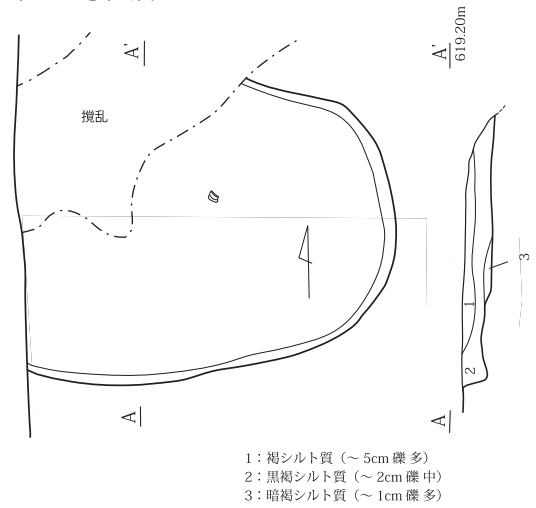
図版 22 竪穴住居址 (10)

第 47 号住居址



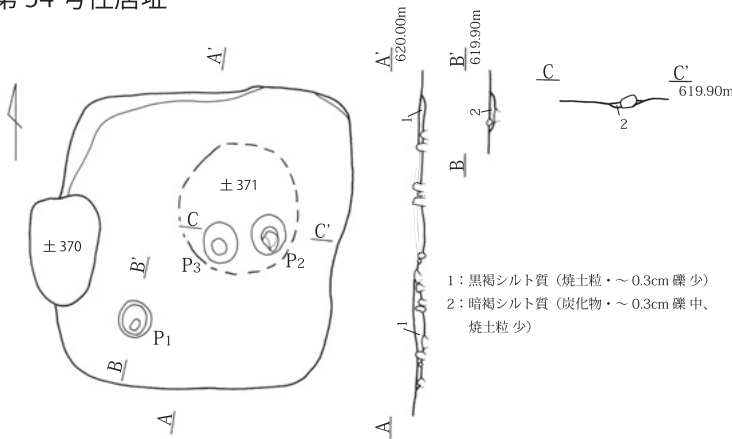
- 1: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中、赤褐土塊 少)
- 2: 黒褐砂質シルト (～0.3cm 礫多、炭化物 少)
- 3: 暗褐シルト質 (炭化物・焼土塊・～1cm 礫多)
- 4: 暗褐シルト質 (～2cm 礫少)

第 50 号住居址



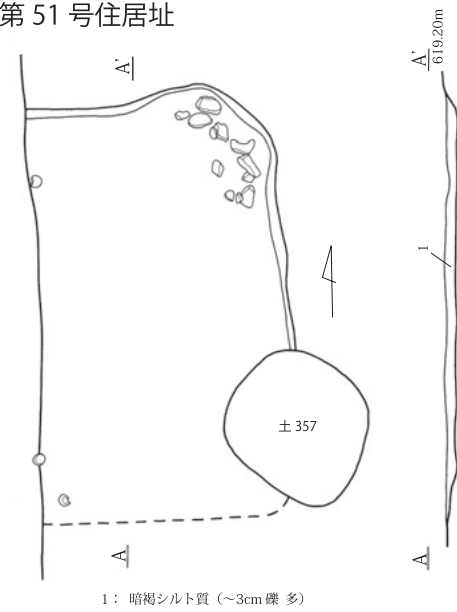
- 1: 褐シルト質 (～5cm 礫多)
- 2: 黒褐シルト質 (～2cm 礫中)
- 3: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多)

第 54 号住居址



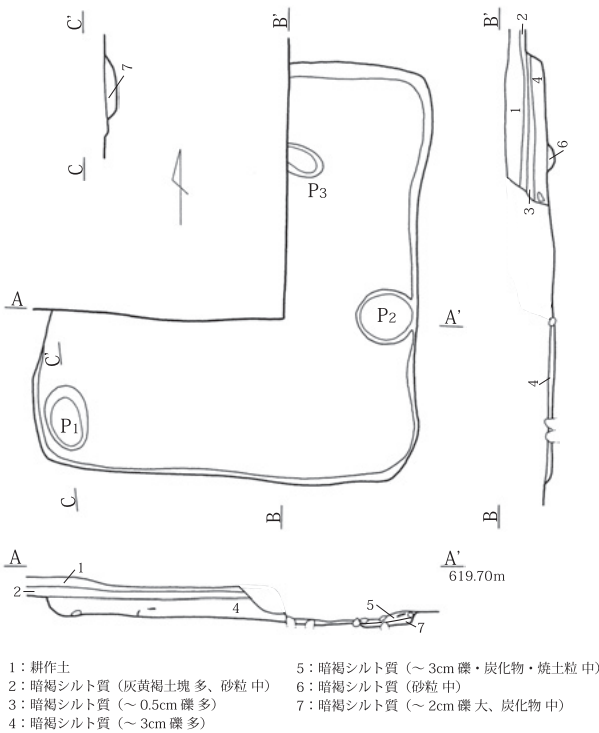
- 1: 黒褐シルト質 (焼土粒・～0.3cm 礫少)
- 2: 暗褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫中、焼土粒 少)

第 51 号住居址



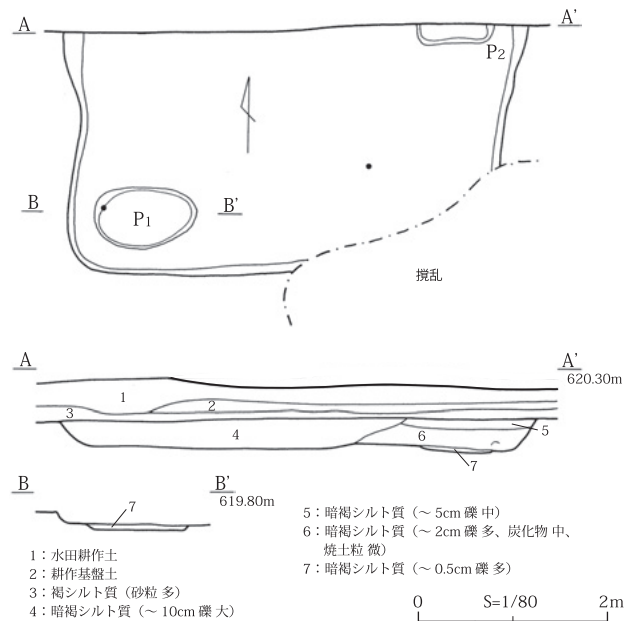
- 1: 暗褐シルト質 (～3cm 礫多)

第 59 号住居址

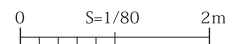


- 1: 耕作土
- 2: 暗褐シルト質 (灰黄褐土塊 多、砂粒 中)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多)
- 4: 暗褐シルト質 (～3cm 礫多)
- 5: 暗褐シルト質 (～3cm 礫・炭化物・焼土粒 中)
- 6: 暗褐シルト質 (砂粒 中)
- 7: 暗褐シルト質 (～2cm 礫大、炭化物 中)

第 55 号住居址

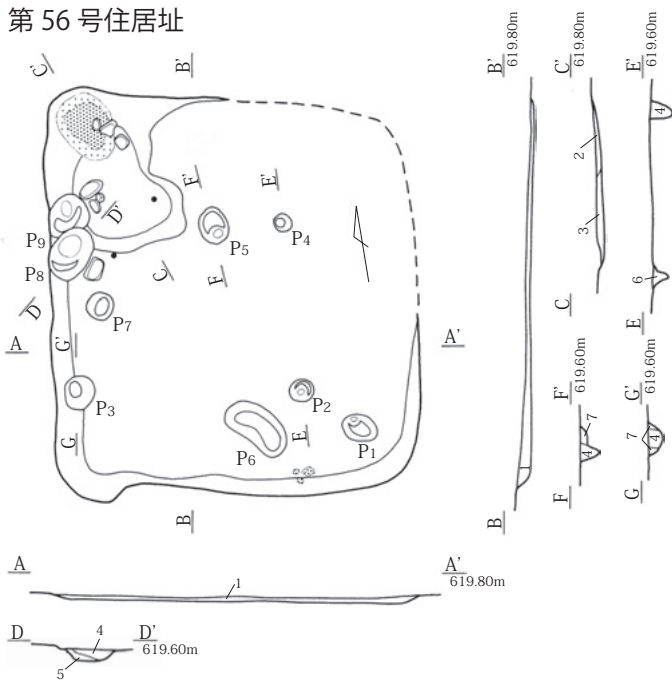


- 1: 水田耕作土
- 2: 耕作基盤土
- 3: 褐シルト質 (砂粒 多)
- 4: 暗褐シルト質 (～10cm 礫大)
- 5: 暗褐シルト質 (～5cm 礫中)
- 6: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多、炭化物 中、焼土粒 微)
- 7: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多)



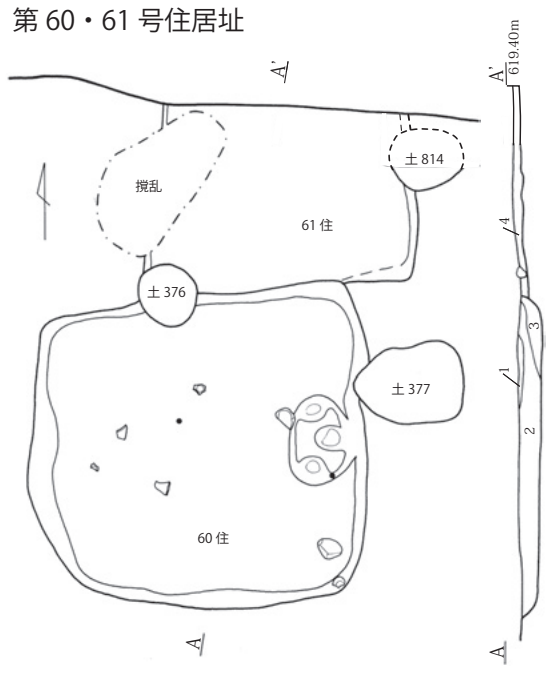
図版 23 竪穴住居址 (11)

第 56 号住居址



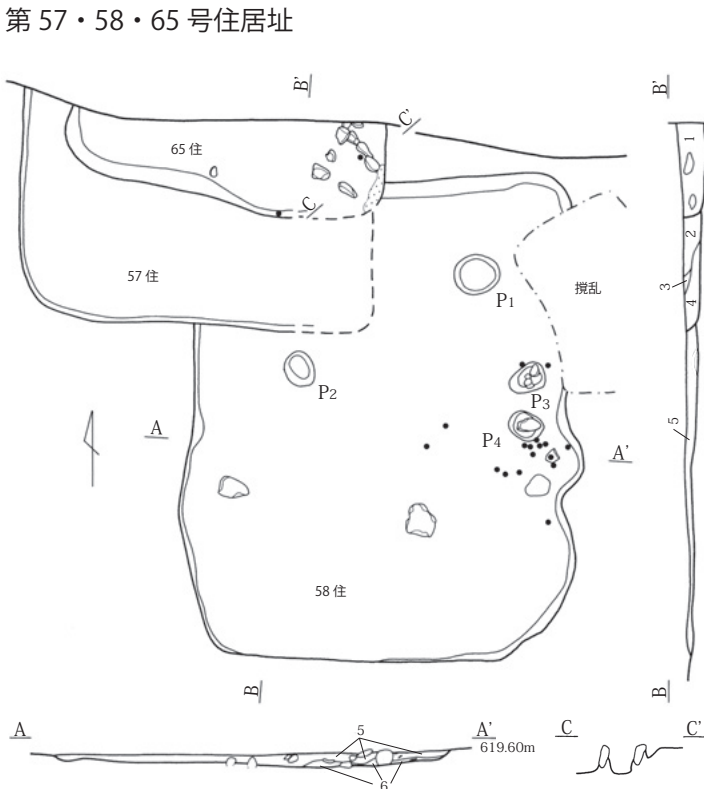
- 1: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・炭化物多、褐土塊中、焼土塊微)
- 2: 黒褐粘質 (炭化物・焼土塊中)
- 3: 黒褐粘質シルト (～0.3cm 礫少)
- 4: 暗褐シルト質 (砂粒多、鉄分中)
- 5: 黒褐シルト質 (砂粒・褐土塊多)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・炭化物多、焼土粒微)
- 7: 暗褐シルト質 (砂粒多、炭化物・焼土粒中)

第 60・61 号住居址



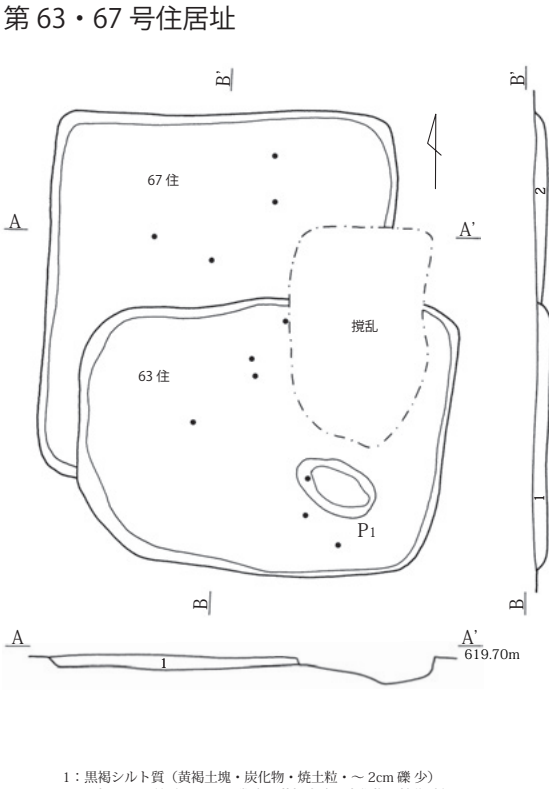
- 1: にぶい黄褐シルト質 (～0.4cm 礫中)
- 2: 暗褐シルト質 (～5cm 礫多、炭化物少)
- 3: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中)
- 4: 褐シルト質 (～1cm 礫中)

第 57・58・65 号住居址

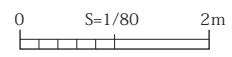


- 1: 暗褐シルト質 (炭化物・～3cm 礫・焼土粒少)
- 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫中、黒褐土塊少、焼土粒微)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、赤褐土塊少)
- 4: 黒褐シルト質 (～2cm 礫中)
- 5: 暗褐シルト質 (～4cm 礫・赤褐土塊・炭化物・鉄分少)
- 6: 黒褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫・赤褐土粒少)

第 63・67 号住居址

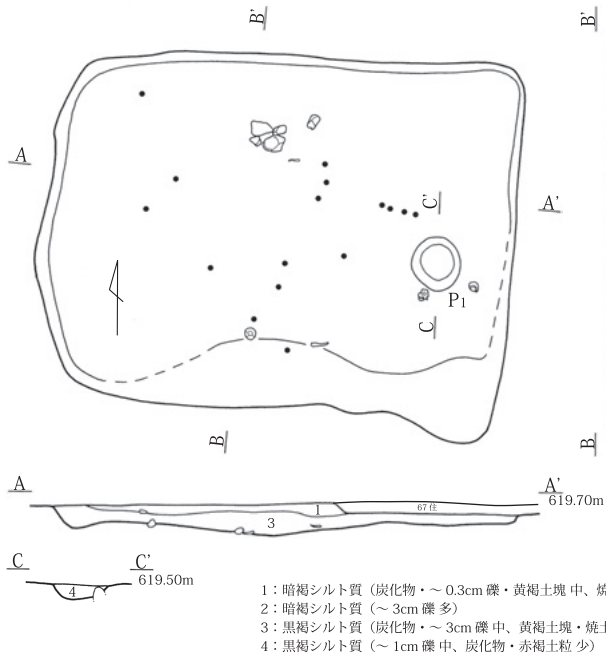


- 1: 黒褐シルト質 (黄褐土塊・炭化物・焼土粒・～2cm 礫少)
- 2: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫多、黄褐土塊・炭化物・鉄分少)

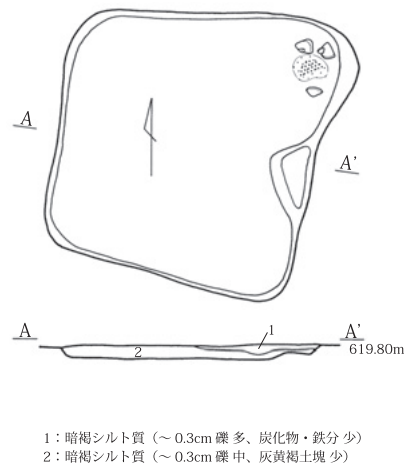


図版 24 竪穴住居址 (12)

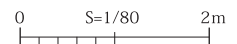
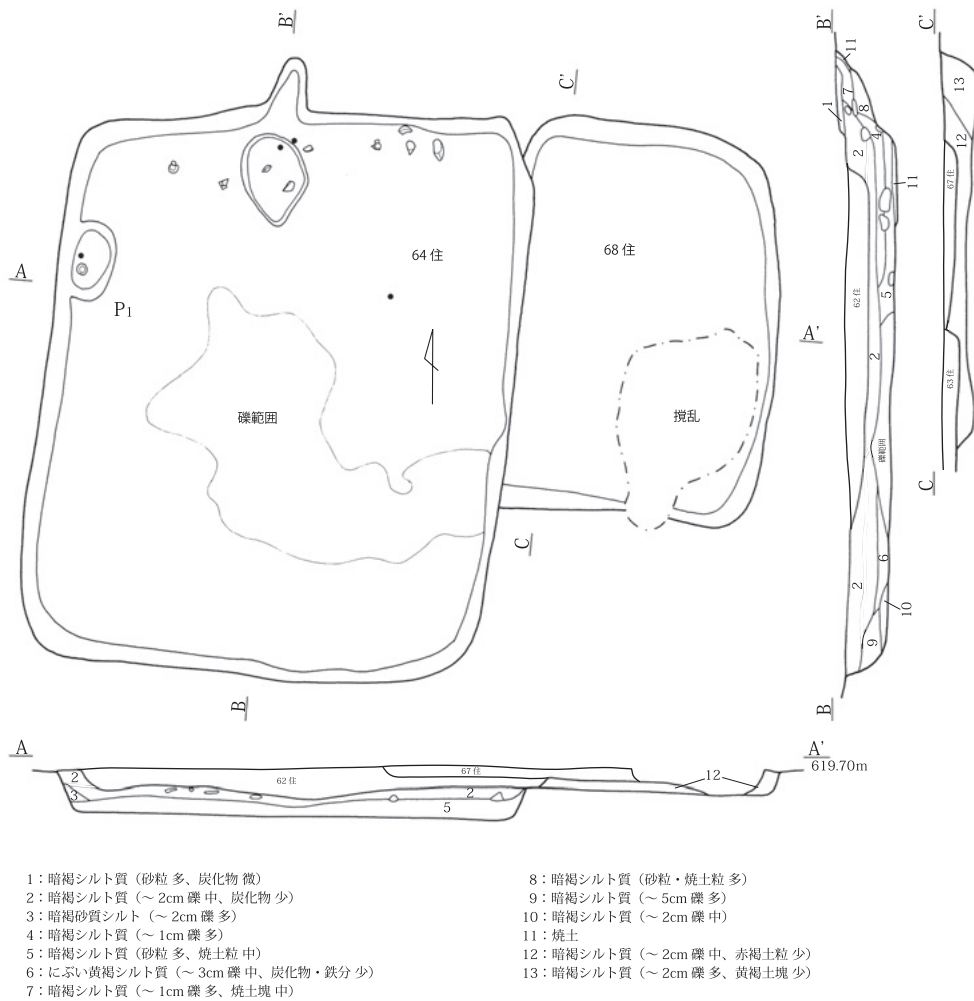
第 62 号住居址



第 82 号住居址

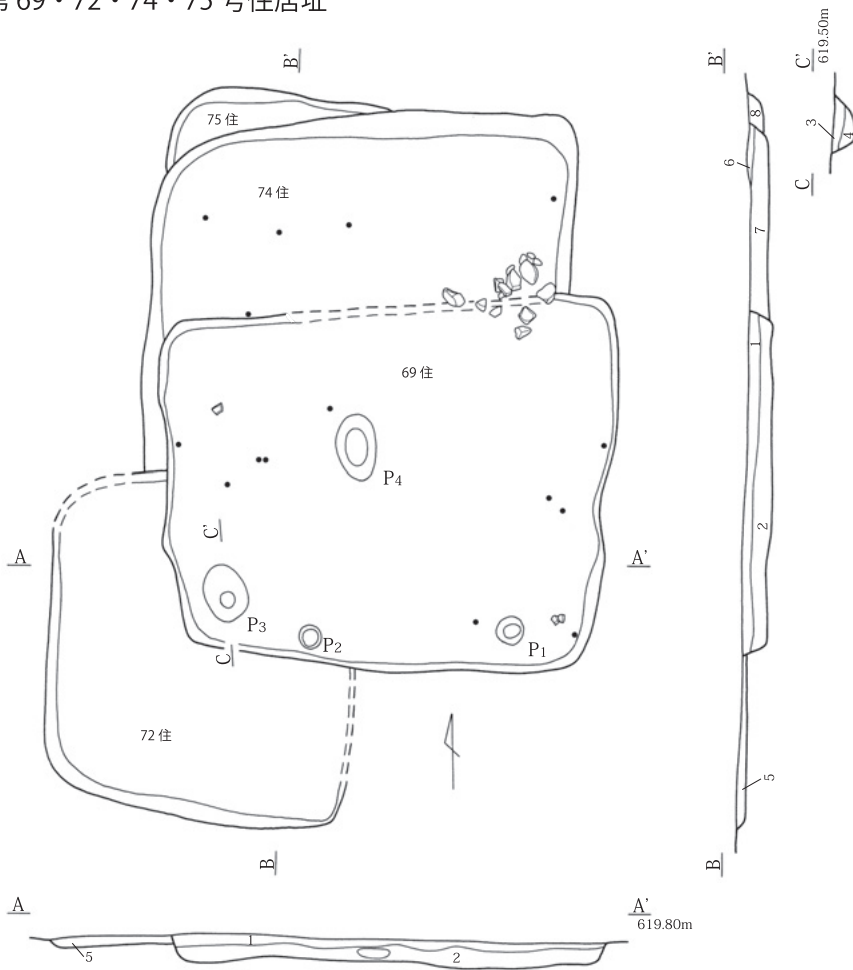


第 64・68 号住居址



図版 25 竪穴住居址 (13)

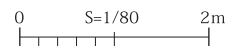
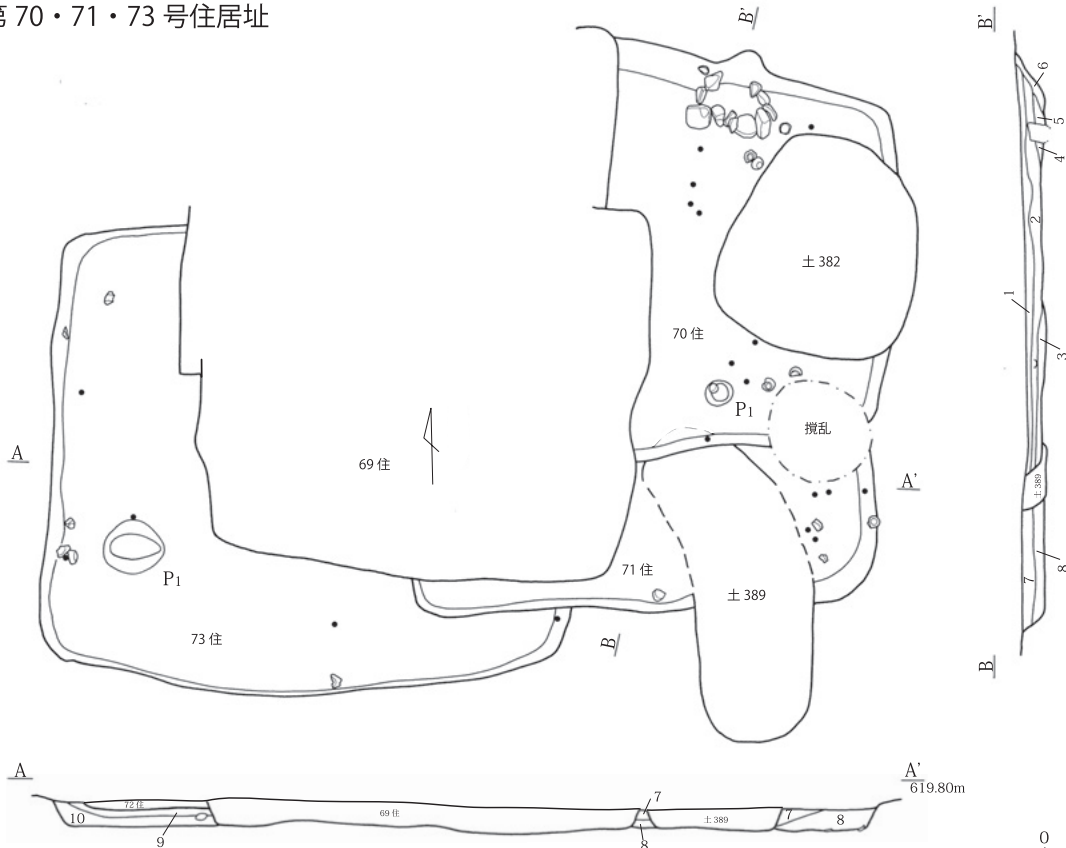
第 69・72・74・75 号住居址



- 69・72・74・75 住
- 1: 暗褐色シルト質 (鉄分多、~1cm 礫微)
  - 2: 暗褐色シルト質 (~1cm 礫多、鉄分微)
  - 3: 暗褐色シルト質 (~1cm 礫中)
  - 4: 黒褐色シルト質 (~3cm 礫中、鉄分・炭化物少)
  - 5: 暗褐色シルト質 (砂粒多、鉄分中)
  - 6: 暗褐色シルト質 (砂粒多)
  - 7: 暗褐色シルト質 (~3cm 礫・鉄分中)
  - 8: 褐色シルト質 (~1cm 礫多)

- 70・71・73 住
- 1: 暗褐色シルト質 (~2cm 礫微)
  - 2: 暗褐色シルト質 (~1cm 礫中、炭化物微)
  - 3: 暗褐色シルト質 (~0.5cm 礫・鉄分中)
  - 4: 暗褐色シルト質 (~0.5cm 礫多)
  - 5: 暗褐色シルト質 (炭化物・粘土塊多、~2cm 礫中)
  - 6: 黒褐色シルト質 (~2cm 礫・橙土粒微)
  - 7: 暗褐色シルト質 (~0.5cm 礫・鉄分多)
  - 8: 暗褐色シルト質 (~2cm 礫・鉄分中)
  - 9: 黒褐色シルト質 (砂粒・鉄分多)
  - 10: 黒褐色シルト質 (鉄分中、~0.5cm 礫微)

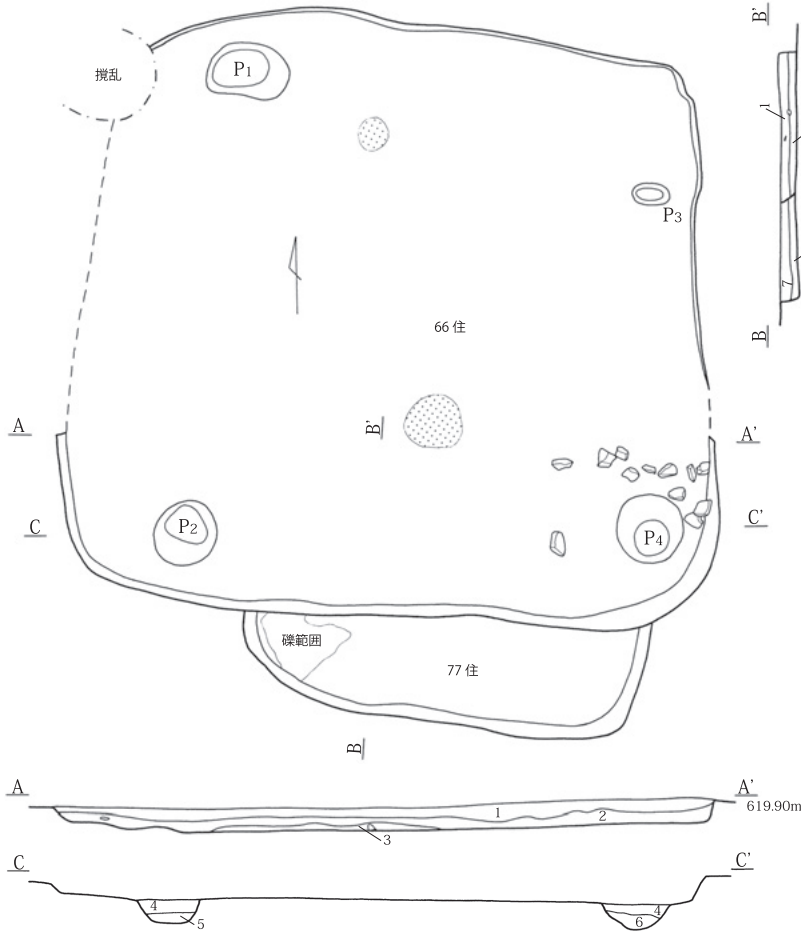
第 70・71・73 号住居址



図版 26 竪穴住居址 (14)

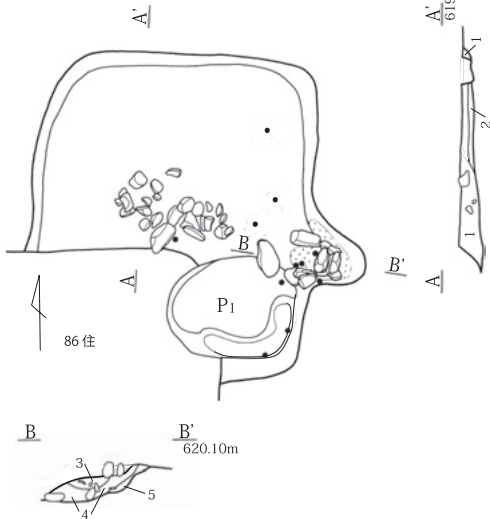


第 66・77 号住居址



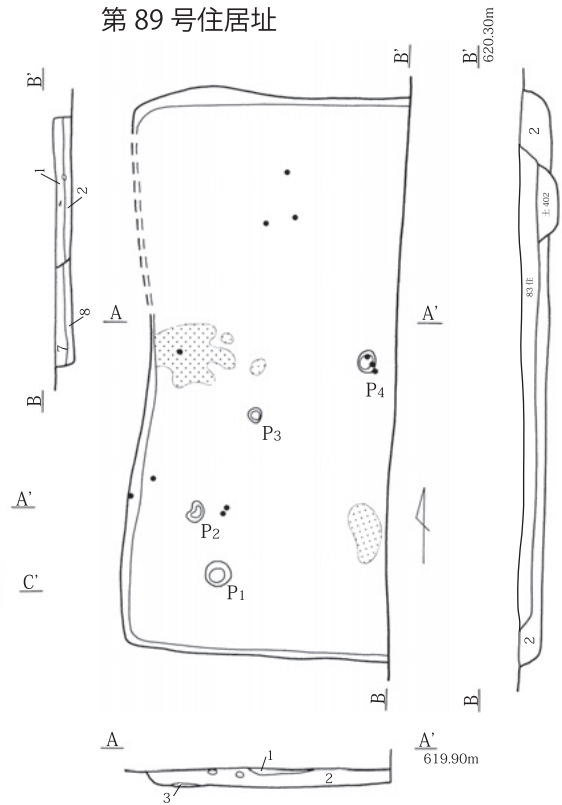
- 1: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫・鉄分多)
- 2: 暗褐色シルト質 (鉄分大、～0.5cm 礫多)
- 3: 黒褐色シルト質 (砂粒多、鉄分中、炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫中、焼土塊・炭化物少)
- 5: 黒褐色シルト質 (～0.3cm 礫・鉄分少)
- 6: 黒褐色砂質シルト (炭化物中、～3cm 礫・赤褐土粒少)
- 7: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫多、鉄分微)
- 8: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多)

第 87 号住居址



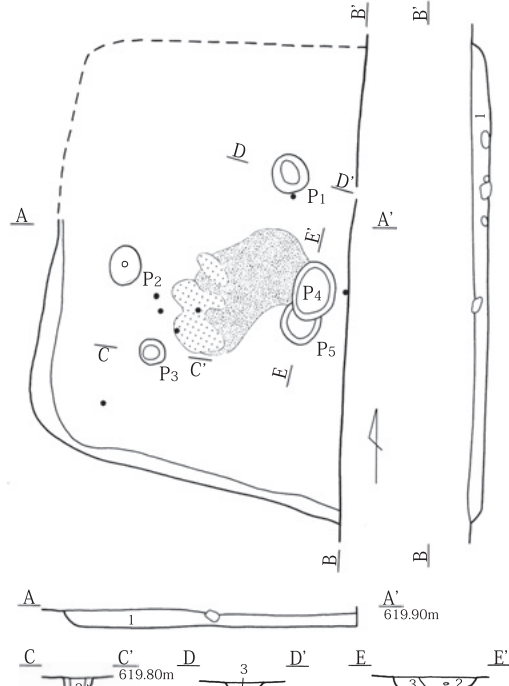
- 1: 暗褐色シルト質 (砂粒多、鉄分・橙土粒中、炭化物微)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫中)
- 3: 暗褐色シルト質 (砂粒多、鉄分・焼土粒中、炭化物少)
- 4: 暗褐色シルト質 (焼土塊多、砂粒・炭化物少)
- 5: 暗褐色シルト質 (砂粒・鉄分・焼土塊少)

第 89 号住居址

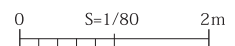


- 1: にふい黄褐色シルト質 (～0.3cm 礫・鉄分多)
- 2: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫中、炭化物・鉄分少、焼土粒微)
- 3: 焼土

第 83 号住居址

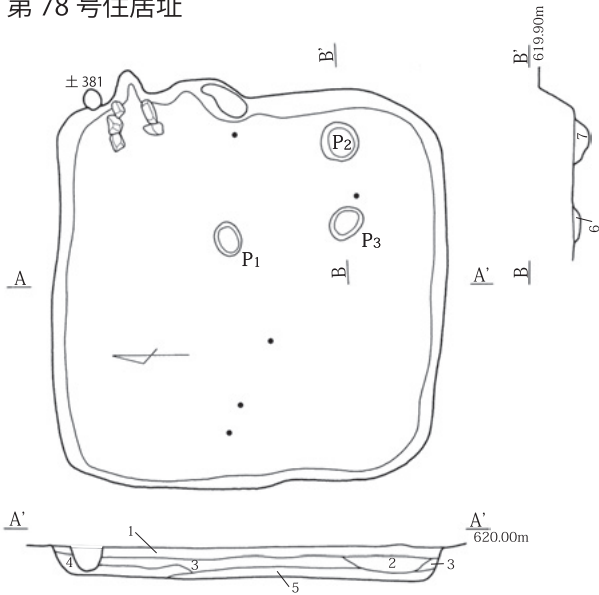


- 1: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、鉄分中、炭化物微)
- 2: にふい黄褐色シルト質 (炭化物・焼土粒・鉄分少)
- 3: 暗褐色シルト質 (炭化物・鉄分・黄褐色土粒・～0.3cm 礫少)

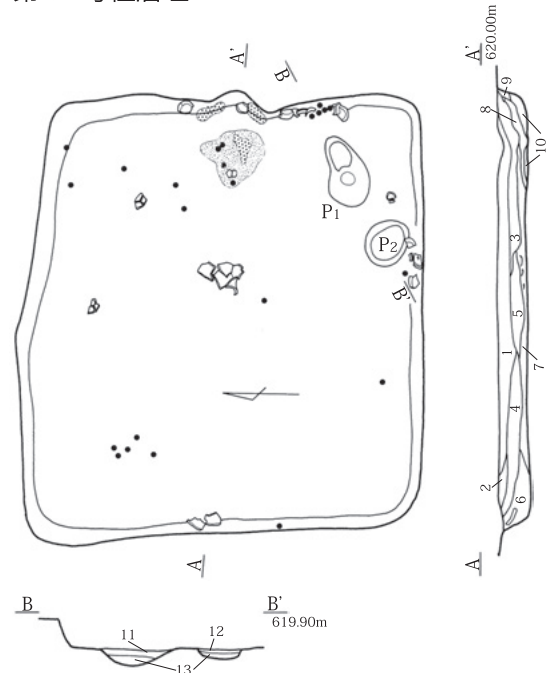


図版 27 竪穴住居址 (15)

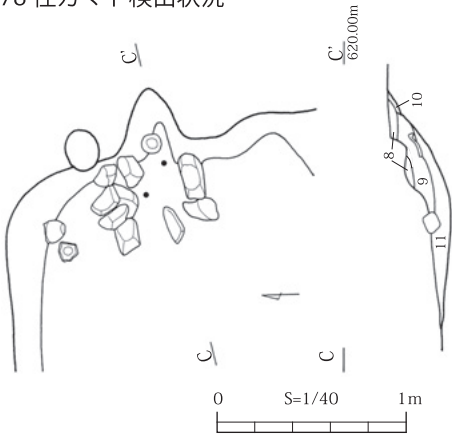
第 78 号住居址



第 81 号住居址



78 住カマド検出状況



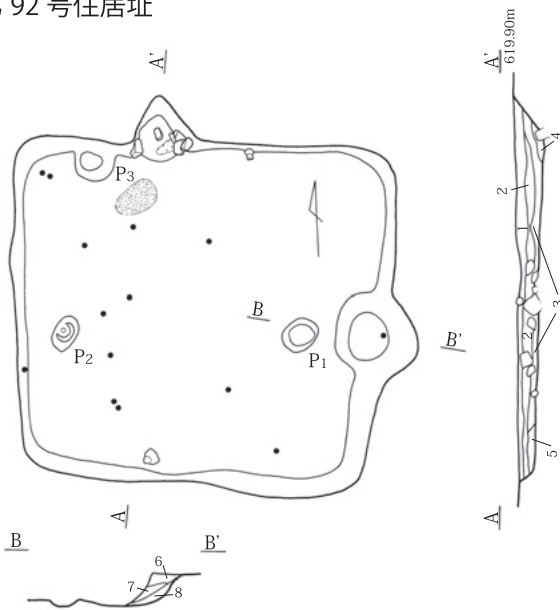
78 住

- 1: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫中、炭化物少)
- 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫多、炭化物少)
- 3: 黒褐シルト質 (～1cm 礫中、炭化物少)
- 4: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多、鉄分少)
- 5: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、赤褐土粒少)
- 6: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、黄褐土塊・鉄分少)
- 7: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中、炭化物・赤褐土粒少)
- 8: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、焼土粒・炭化物少)
- 9: 暗褐シルト質 (焼土塊多、～0.3cm 礫中、炭化物少)
- 10: 暗褐シルト質 (焼土塊大、～0.3cm 礫多)
- 11: 黒褐シルト質 (炭化物中、焼土塊・～0.3cm 礫少)

81 住

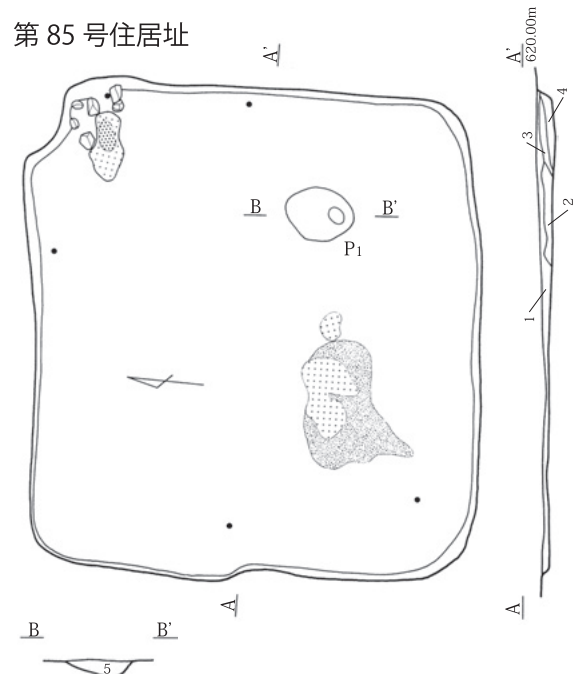
- 1: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多)
- 2: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、鉄分中)
- 3: 暗褐シルト質 (砂粒多、褐土塊中、鉄分微)
- 4: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、鉄分中)
- 5: 黒褐シルト質 (砂粒多、鉄分中)
- 6: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多)
- 7: 暗褐シルト質 (褐灰土粒大、褐土塊中)
- 8: 暗褐シルト質 (砂粒多、焼土塊中)
- 9: 暗褐シルト質 (砂粒・炭化物・焼土塊多)
- 10: 暗褐シルト質 (焼土塊・砂粒多)
- 11: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、炭化物・焼土粒少)
- 12: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中)
- 13: 暗褐シルト質 (～3cm 礫中、褐土塊少)

第 92 号住居址

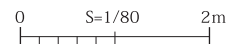


- 1: 暗褐砂質シルト (鉄分中、炭化物少、～0.3cm 礫微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物・～0.3cm 礫微)
- 3: 黒褐シルト質 (鉄分中、炭化物微)
- 4: 黒褐粘質シルト (焼土塊少、炭化物微)
- 5: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・～0.3cm 礫微)
- 6: にぶい黄褐砂質シルト (鉄分少、～0.3cm 礫微)
- 7: 暗褐シルト質 (鉄分・炭化物少、～0.3cm 礫微)
- 8: 黒褐シルト質 (鉄分少、炭化物・～0.3cm 礫微)

第 85 号住居址

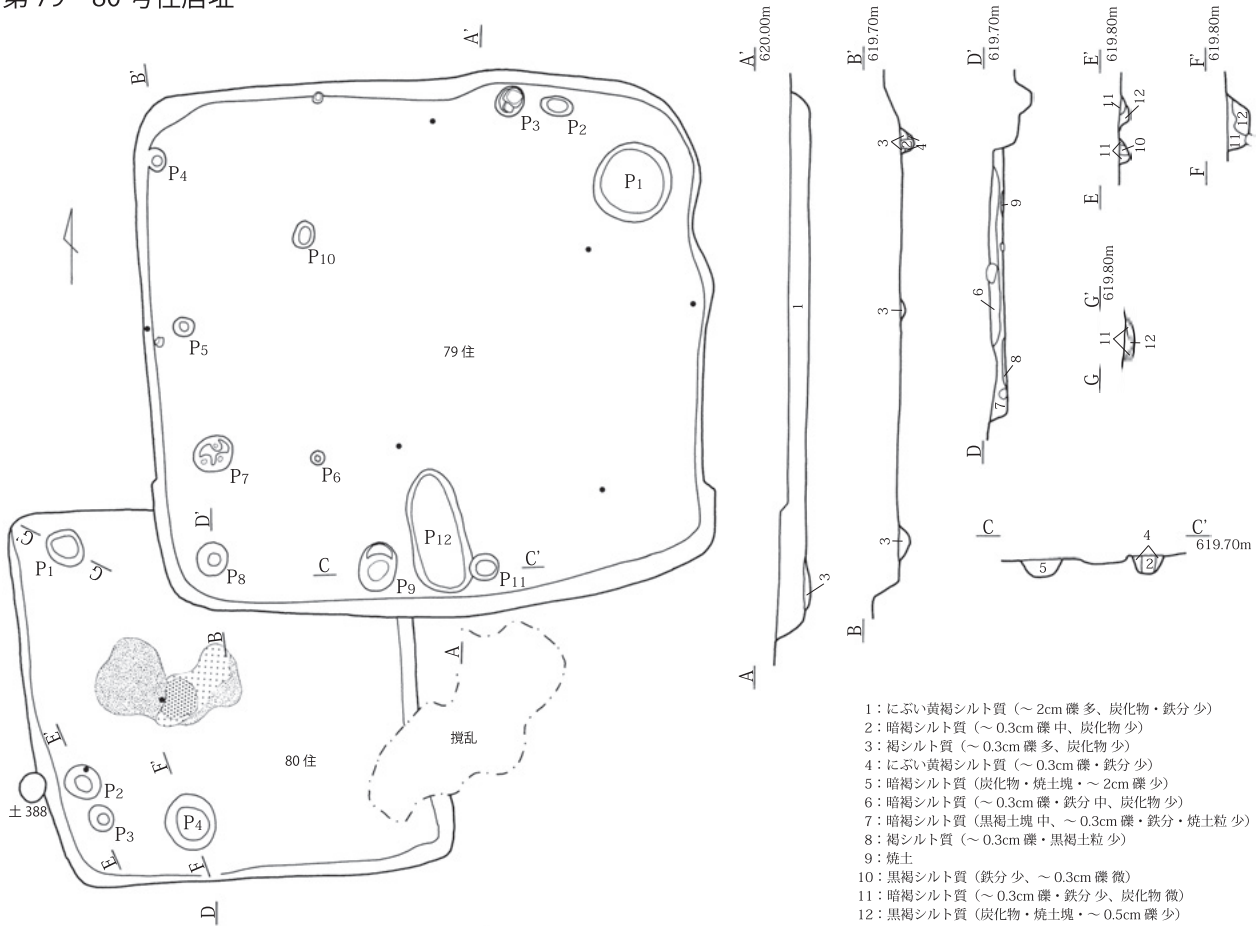


- 1: 暗褐シルト質 (灰褐土塊中、炭化物・焼土塊・鉄分・～0.3cm 礫少)
- 2: 暗褐シルト質 (灰褐土塊・褐土塊中、炭化物・焼土塊・鉄分少)
- 3: 灰黄褐シルト質 (炭化物・灰黄褐土塊・褐土塊・～4cm 礫・鉄分少)
- 4: 灰黄褐シルト質 (炭化物・灰褐土塊・～2cm 礫少)
- 5: 暗褐シルト質 (炭化物・～4cm 礫中)

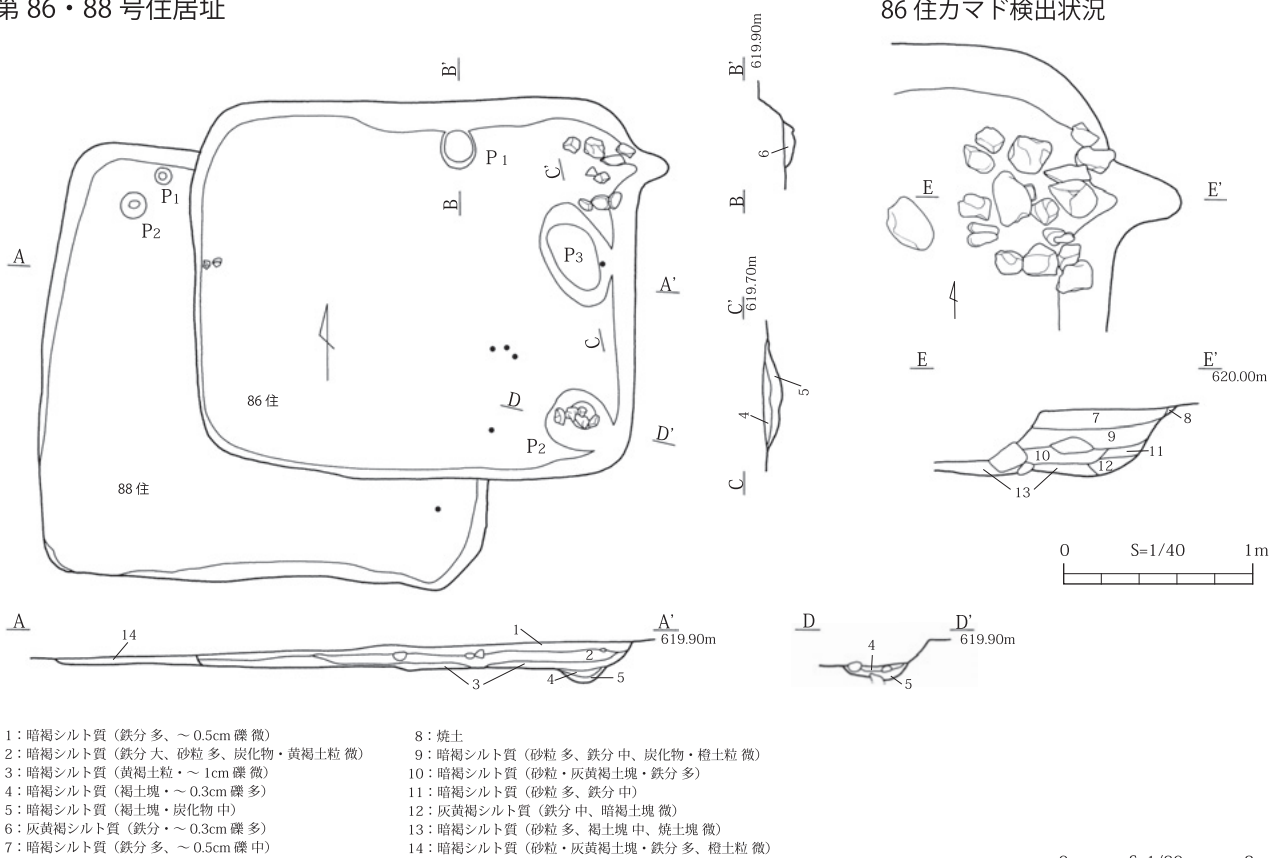


図版 28 竪穴住居址 (16)

第 79・80 号住居址

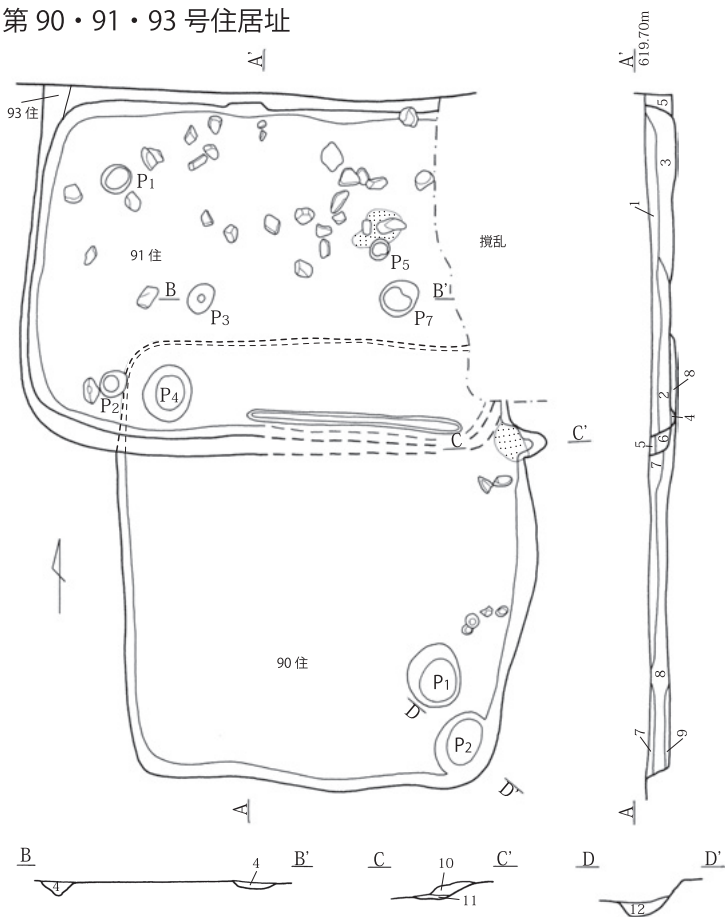


第 86・88 号住居址

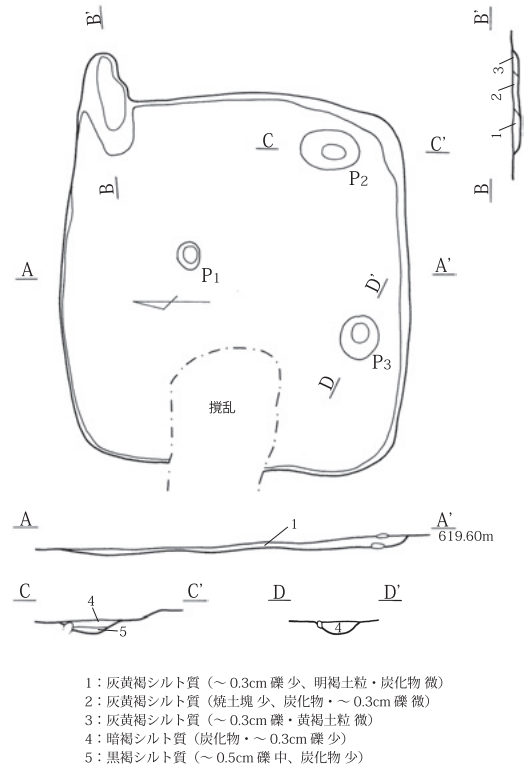


図版 29 竪穴住居址 (17)

第 90・91・93 号住居址



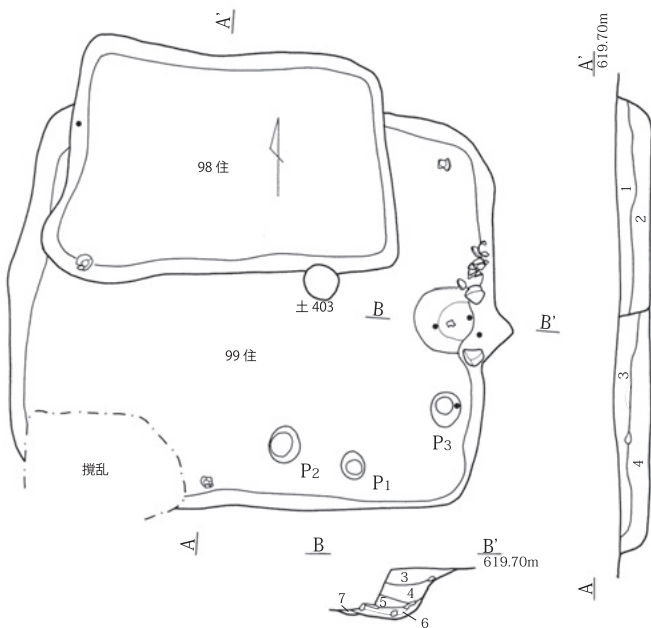
第 94 号住居址



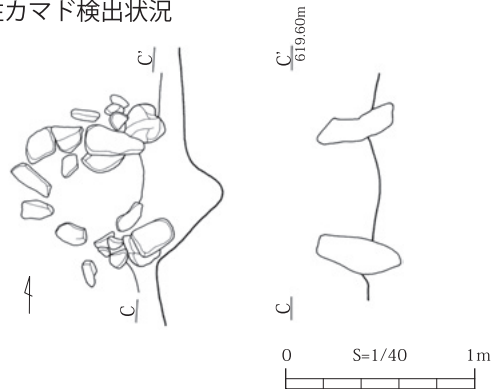
- 1: 灰黄褐シルト質 (～0.3cm 礫少、明褐土粒・炭化物微)
- 2: 灰黄褐シルト質 (焼土塊少、炭化物・～0.3cm 礫微)
- 3: 灰黄褐シルト質 (～0.3cm 礫・黄褐土粒微)
- 4: 暗褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫少)
- 5: 黒褐シルト質 (～0.5cm 礫中、炭化物少)

- 1: にぶい黄褐シルト質 (～3cm 礫中、炭化物・鉄分少)
- 2: 暗褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫中、赤褐土粒少)
- 3: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中、炭化物少、赤褐土粒微)
- 4: 暗褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫少)
- 5: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫少、炭化物微)
- 6: 褐シルト質 (～0.3cm 礫中、鉄分少、赤褐土粒微)
- 7: 褐シルト質 (～0.3cm 礫大、鉄分少)
- 8: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫大、炭化物・鉄分少)
- 9: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、鉄分少、炭化物微)
- 10: にぶい黄褐シルト質 (炭化物・焼土塊・～0.3cm 礫少)
- 11: 暗褐シルト質 (焼土塊中、炭化物・～1cm 礫少)
- 12: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫中、焼土塊・炭化物・鉄分少)

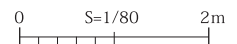
第 98・99 号住居址



99 住カマド検出状況

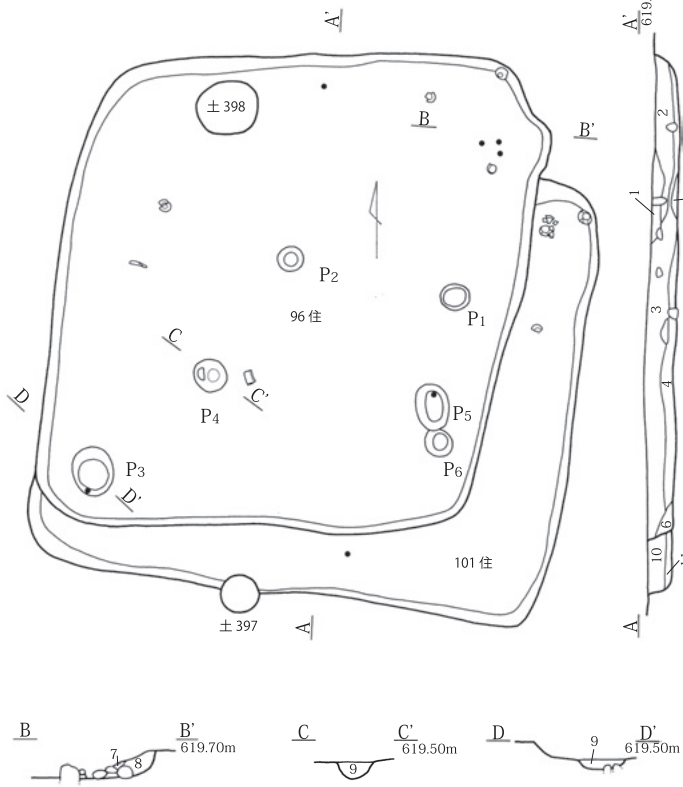


- 1: 暗褐シルト質 (～5cm 礫多、鉄分少)
- 2: 暗褐シルト質 (～5cm 礫多、灰褐土塊・鉄分中)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・～3cm 礫中、灰褐土塊少)
- 4: 暗褐シルト質 (～5cm 礫中、灰褐土塊少)
- 5: 暗褐シルト質 (～3cm 礫中、灰褐土塊微)
- 6: 暗褐シルト質 (焼土塊多、～0.5cm 礫少)
- 7: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中)

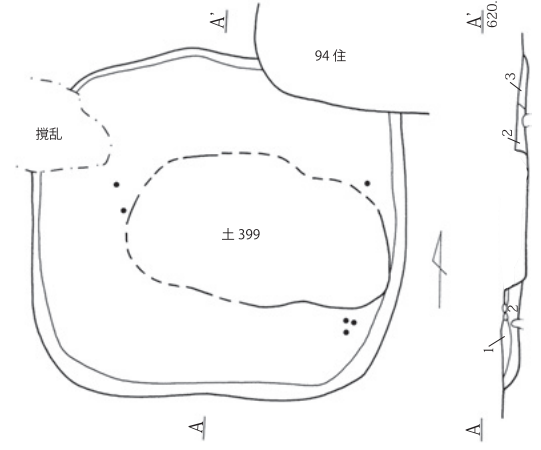


図版 30 竪穴住居址 (18)

第 96・101 号住居址



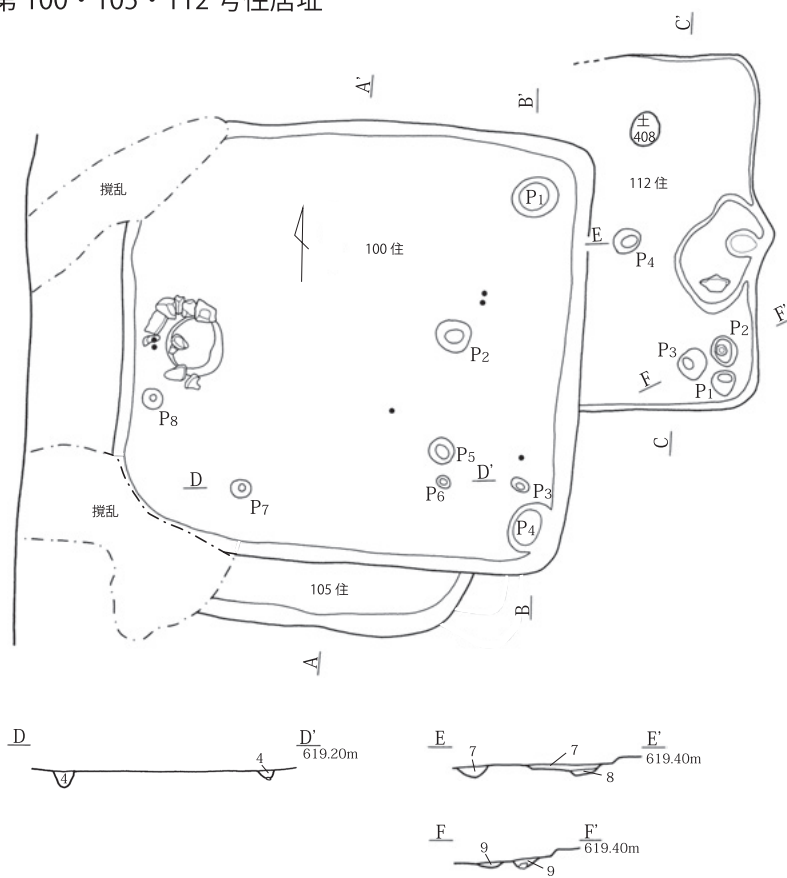
第 95 号住居址



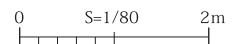
- 95 住
- 1: 褐シルト質 (～1cm 礫中、鉄分少)
  - 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫・炭化物少)
  - 3: 暗褐シルト質 (～4cm 礫中、灰粘土塊少)

- 96・101 住
- 1: 黒褐シルト質 (黄褐土塊中、焼土粒・炭化物・～2cm 礫少)
  - 2: 黒褐粘質シルト (黄褐土塊・焼土塊・炭化物少、～0.3cm 礫微)
  - 3: 黒褐シルト質 (黄褐土塊・～3cm 礫中、焼土塊・炭化物・鉄分少)
  - 4: 暗褐シルト質 (炭化物・鉄分・～1cm 礫少)
  - 5: 黒褐粘質シルト (～2cm 礫多、焼土粒微)
  - 6: 暗褐シルト質 (黄褐土塊多、炭化物・～0.3cm 礫少)
  - 7: 暗褐シルト質 (砂粒多、焼土粒・炭化物中)
  - 8: 暗褐シルト質 (砂粒・焼土粒多、炭化物微)
  - 9: 黒褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫少、赤褐土粒微)
  - 10: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、黄褐土塊少)
  - 11: 暗褐シルト質 (黒褐土塊・～0.3cm 礫中)

第 100・105・112 号住居址



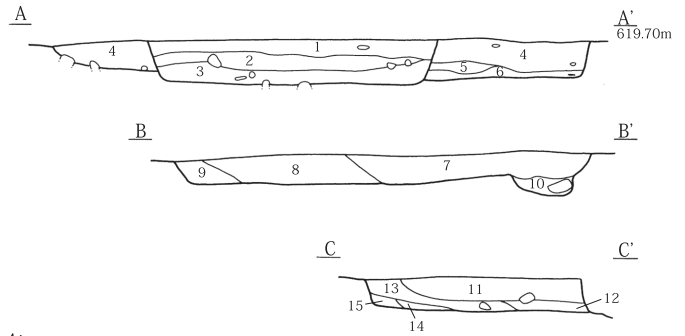
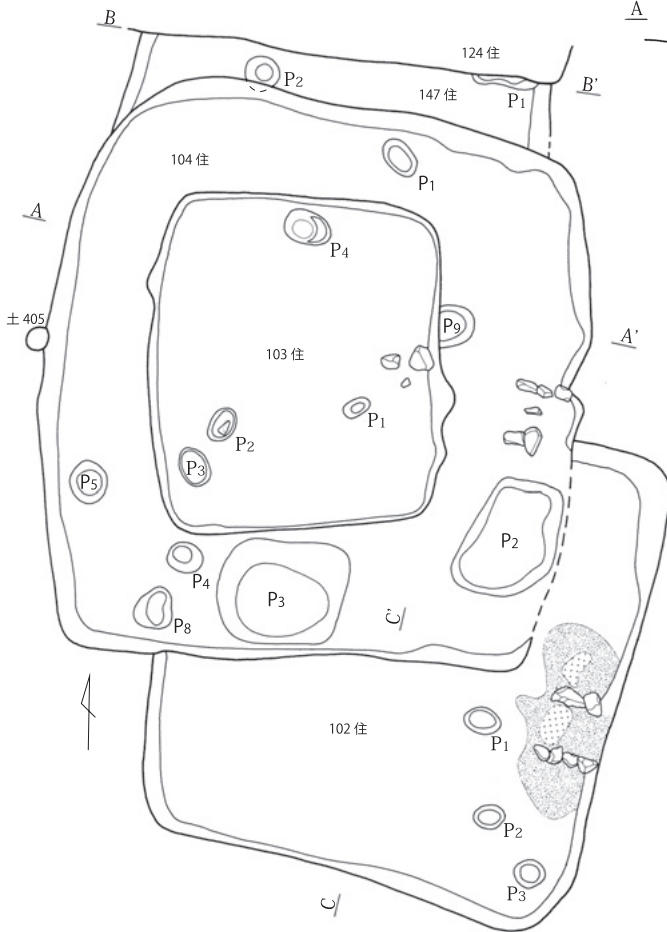
- 1: 暗褐シルト質 (炭化物・灰褐土塊・～3cm 礫少、鉄分微)
- 2: 黒褐シルト質 (～3cm 礫中、炭化物・灰褐土塊少)
- 3: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中、炭化物少)
- 4: にぶい黄褐シルト質 (鉄分中、～0.3cm 礫少)
- 5: 暗褐シルト質 (～3cm 礫少)
- 6: 暗褐シルト質 (～2cm 礫多、黒褐土粒少)
- 7: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、炭化物・焼土粒少)
- 8: 暗褐シルト質 (～4cm 礫中、炭化物・焼土粒少)
- 9: 暗褐シルト質 (炭化物・～0.3cm 礫少)



図版 31 竪穴住居址 (19)

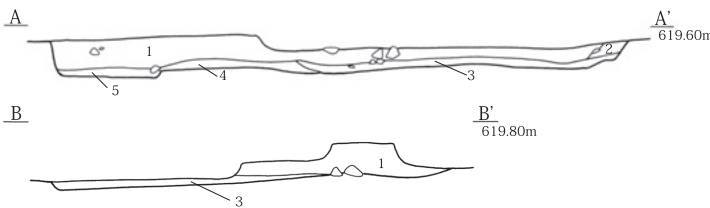
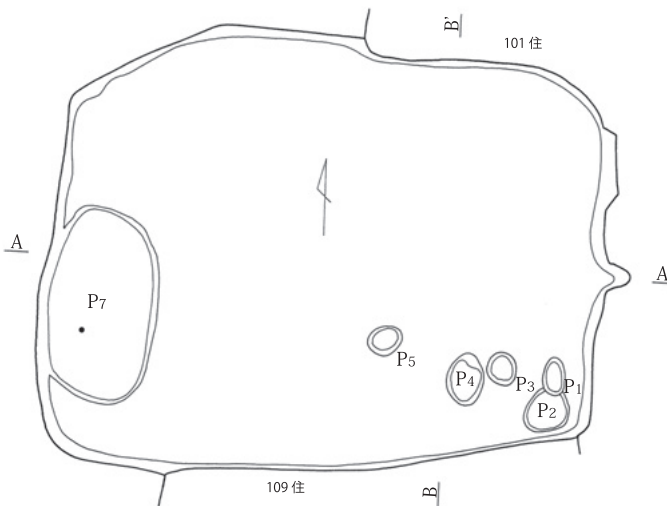


第 102・103・104・147 号住居址



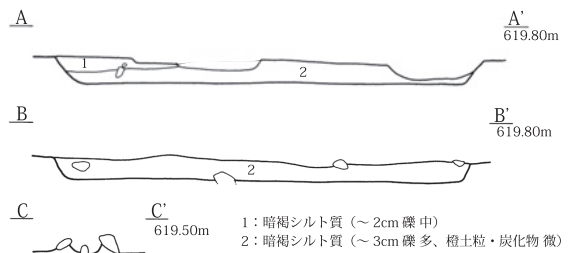
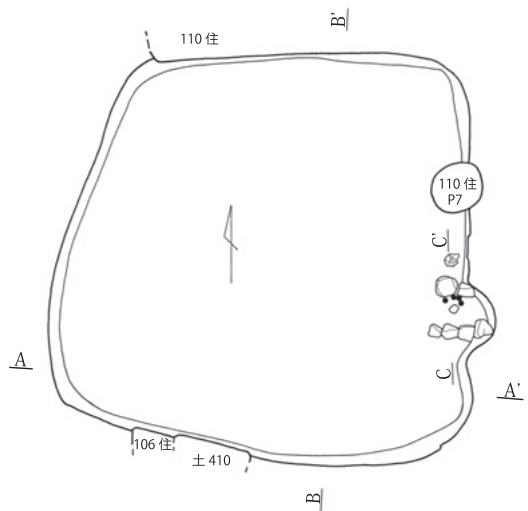
- 1: 暗褐シルト質 (～3cm 礫少、橙土粒・炭化物微)
- 2: 暗褐シルト質 (炭化物多、黄褐土塊・～5cm 礫中)
- 3: 黒褐シルト質 (黄褐土塊・焼土塊・炭化物・～5cm 礫中)
- 4: 暗褐シルト質 (～1cm 礫・鉄分中)
- 5: 黒褐シルト質 (砂粒多、褐土塊・炭化物少)
- 6: 黒褐シルト質 (砂粒・褐土塊多、炭化物中)
- 7: 暗褐シルト質 (鉄分・～3cm 礫少、炭化物微)
- 8: 暗褐シルト質 (7cm 礫大、鉄分少)
- 9: 黒褐シルト質 (鉄分中、～1cm 礫少、炭化物微)
- 10: 暗褐シルト質 (鉄分中、～2cm 礫微)
- 11: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、炭化物微)
- 12: 黒褐シルト質 (～0.5cm 礫・褐土塊中)
- 13: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中、焼土塊微)
- 14: 黒褐シルト質 (焼土塊大、炭化物中)
- 15: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫大)

第 115 号住居址

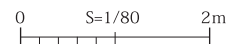


- 1: 暗褐シルト質 (炭化物・焼土塊・～3cm 礫少)
- 2: 暗褐シルト質 (焼土粒多、炭化物・～0.3cm 礫少)
- 3: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫多、焼土塊中、炭化物少)
- 4: 黒褐シルト質 (炭化物多、～0.3cm 礫中、焼土塊少)
- 5: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫中、焼土塊・炭化物少)

第 109 号住居址

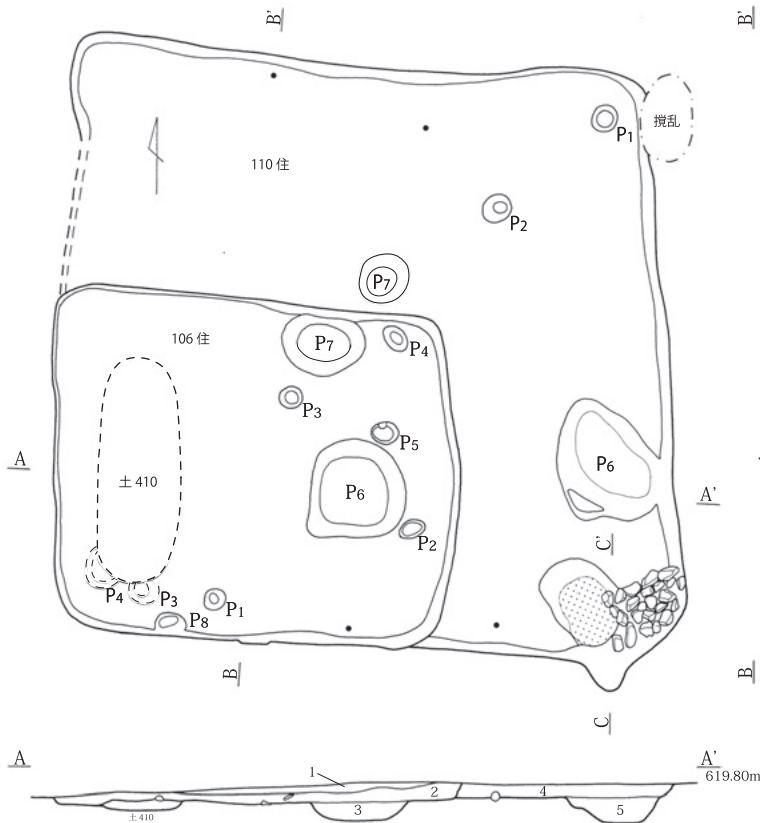


- 1: 暗褐シルト質 (～2cm 礫中)
- 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫多、橙土粒・炭化物微)



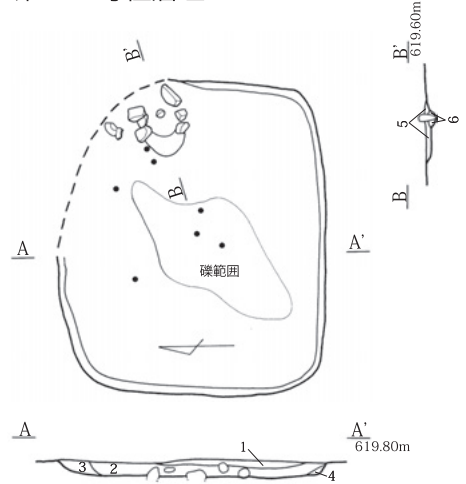
図版 32 竪穴住居址 (20)

第 106・110 号住居址



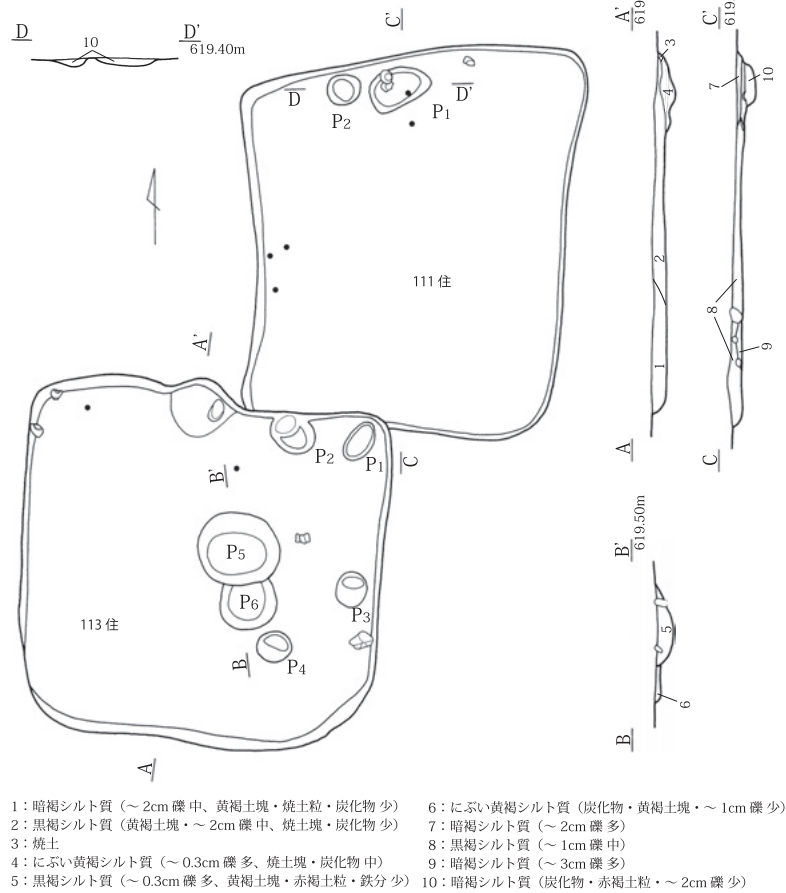
- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、黄褐色土塊・炭化物・鉄分少、焼土粒微)
- 2: 褐色シルト質 (～0.3cm 礫中、黄褐色土塊・炭化物・鉄分少)
- 3: 黒褐色シルト質 (～0.3cm 礫中、炭化物・焼土粒少)
- 4: 暗褐色シルト質 (にぶい黄褐色土塊多、～0.5cm 礫中)
- 5: 黒褐色シルト質 (炭化物中、焼土粒・～0.3cm 礫少)
- 6: 暗褐色シルト質 (焼土塊・～0.3cm 礫中、炭化物少)
- 7: 暗褐色シルト質 (焼土塊・～0.3cm 礫少)

第 107 号住居址



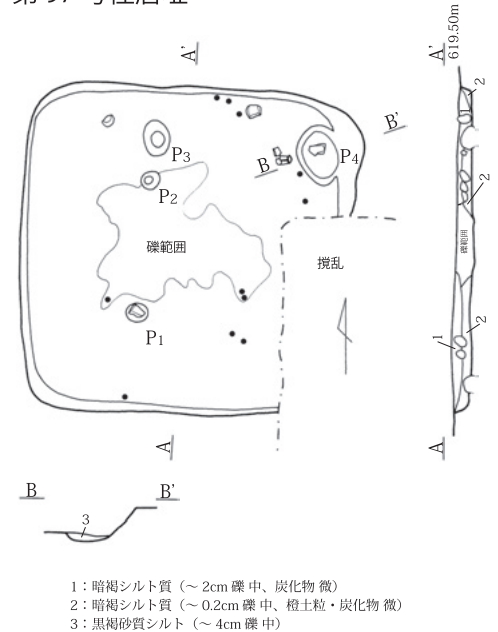
- 1: 暗褐色シルト質 (鉄分少、～0.3cm 礫中、炭化物微)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫・鉄分少、炭化物・焼土塊微)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、鉄分・炭化物微)
- 4: にぶい黄褐色シルト質 (鉄分少、～0.3cm 礫微)
- 5: 暗褐色シルト質 (炭化物・鉄分少)
- 6: にぶい黄褐色シルト質 (鉄分少、焼土塊微)

第 111・113 号住居址

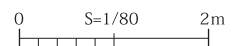


- 1: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫中、黄褐色土塊・焼土粒・炭化物少)
- 2: 黒褐色シルト質 (黄褐色土塊・～2cm 礫中、焼土塊・炭化物少)
- 3: 焼土
- 4: にぶい黄褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、焼土塊・炭化物中)
- 5: 黒褐色シルト質 (～0.3cm 礫多、黄褐色土塊・赤褐色土粒・鉄分少)
- 6: にぶい黄褐色シルト質 (炭化物・黄褐色土塊・～1cm 礫少)
- 7: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫多)
- 8: 黒褐色シルト質 (～1cm 礫中)
- 9: 暗褐色シルト質 (～3cm 礫多)
- 10: 暗褐色シルト質 (炭化物・赤褐色土粒・～2cm 礫少)

第 97 号住居址

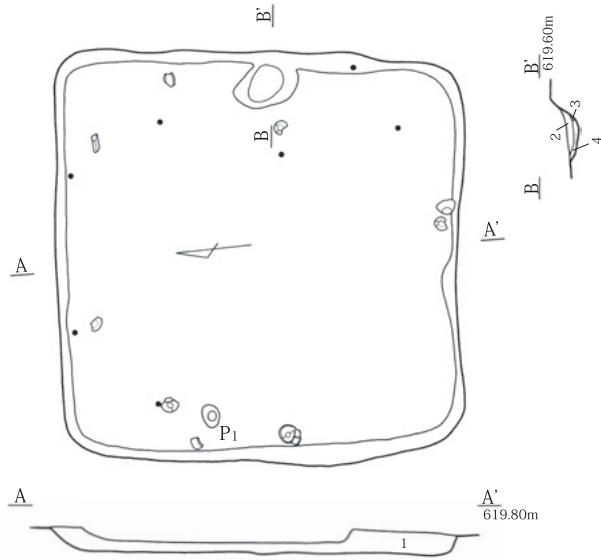


- 1: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫中、炭化物微)
- 2: 暗褐色シルト質 (～0.2cm 礫中、橙土粒・炭化物微)
- 3: 黒褐色砂質シルト (～4cm 礫中)



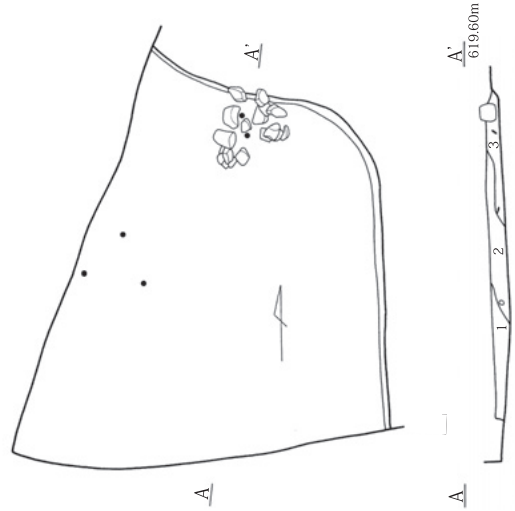
図版 33 竪穴住居址 (21)

第 108 号住居址



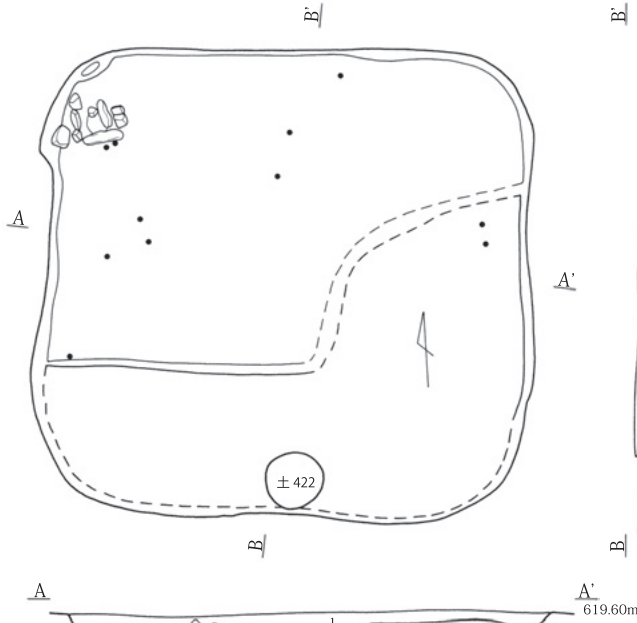
- 1: 暗褐色シルト質 (～3cm 礫多、鉄分少)      3: 暗褐色シルト質 (焼土塊中、鉄分少)  
 2: 暗褐色シルト質 (鉄分少、炭化物・焼土塊微)      4: 黒褐色シルト質 (鉄分少、炭化物微)

第 119 号住居址



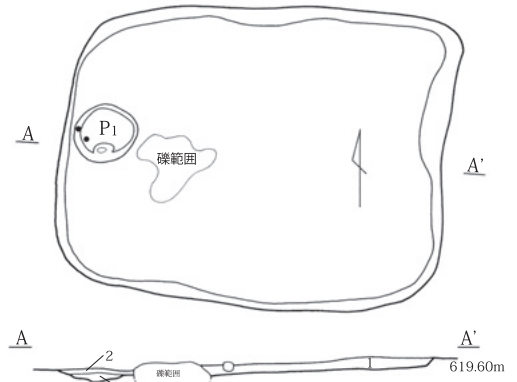
- 1: 黒褐色シルト質 (～2cm 礫中、炭化物少)  
 2: 暗褐色シルト質 (～4cm 礫中)  
 3: 黒褐色シルト質 (～2cm 礫・焼土塊中、炭化物少)

第 114 号住居址



- 1: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫多、にふい黄褐色土塊中)

第 116 号住居址



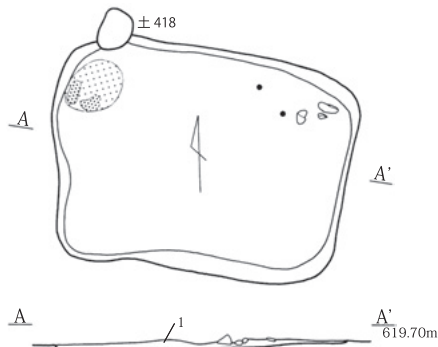
- 1: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫大、～7cm 礫微)  
 2: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫多、橙土塊中)  
 3: 暗褐色シルト質 (砂粒・焼土塊多、黄褐色土塊中、炭化物微)

第 123 号住居址

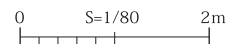


- 1: 耕作土  
 2: 褐シルト質 (鉄分多、～5cm 礫少)  
 3: 褐シルト質 (鉄分中、～1cm 礫微)  
 4: 暗褐色シルト質 (鉄分・～2cm 礫少、炭化物微)  
 5: 暗褐色シルト質 (～1cm 礫中、鉄分少、焼土塊微)  
 6: 暗褐色シルト質 (～5cm 礫中、鉄分少)  
 7: 暗褐色シルト質 (鉄分中、炭化物・～0.3cm 礫微)  
 8: 黒褐色シルト質 (焼土塊中、鉄分少、炭化物微)  
 9: 黒褐色シルト質 (焼土塊多、炭化物中、鉄分微)

第 117 号住居址

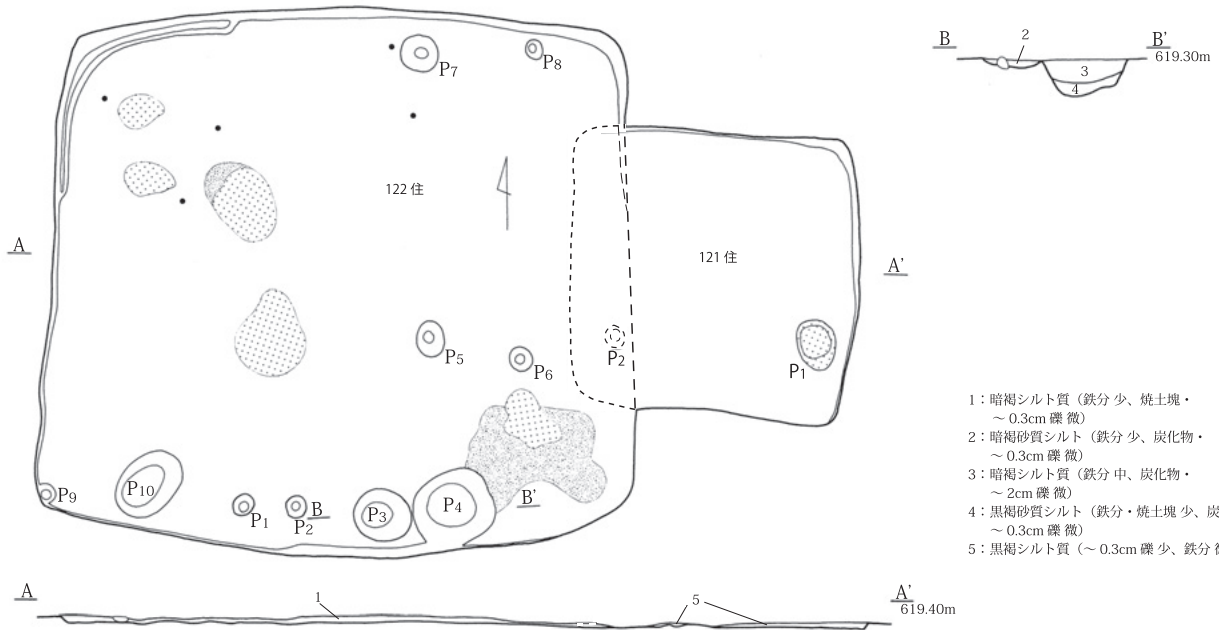


- 1: 暗褐色シルト質 (～2cm 礫多、炭化物少)

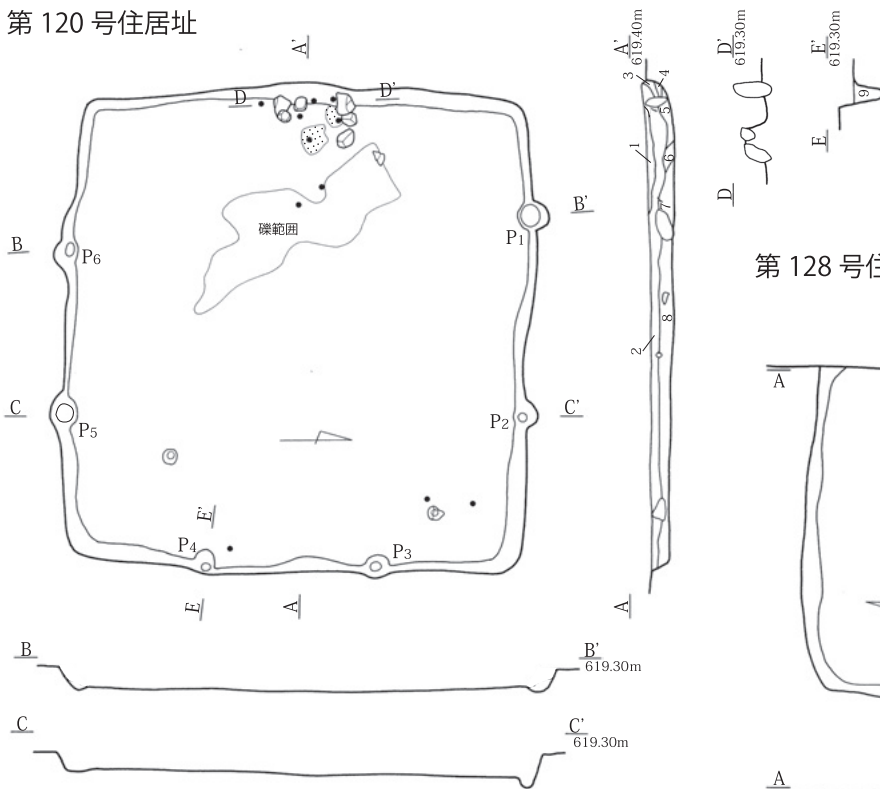


図版 34 竪穴住居址 (22)

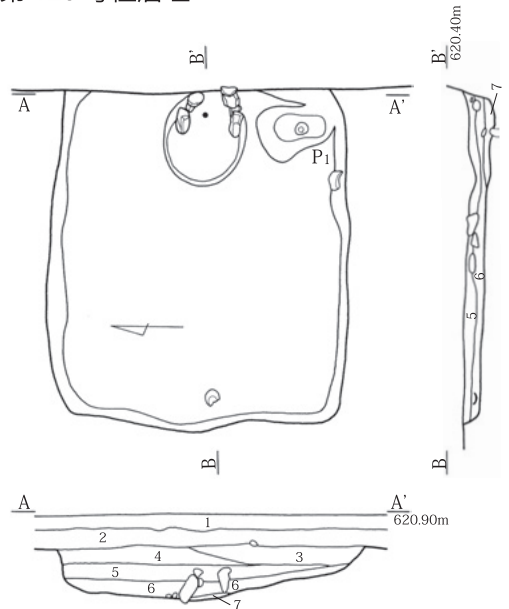
第 121・122 号住居址



第 120 号住居址



第 128 号住居址



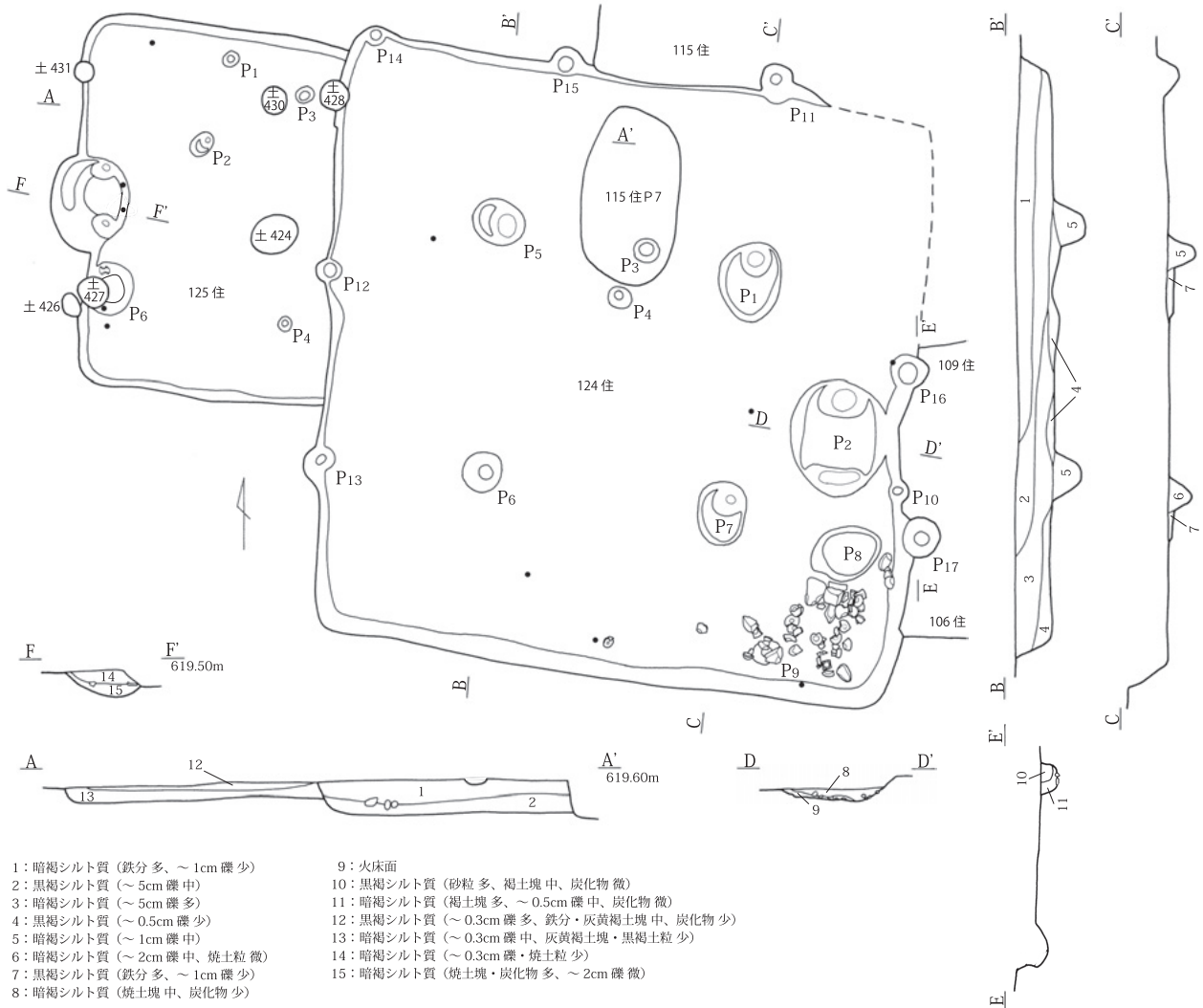
- 1: にふい黄褐色砂質シルト (鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 2: にふい黄褐色シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少、炭化物微)
- 3: 黒褐色シルト質 (焼土塊多、炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (焼土塊・鉄分少、炭化物微)
- 5: 暗褐色シルト質 (鉄分少、焼土塊微)
- 6: 暗褐色シルト質 (鉄分中、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 7: 黒褐色シルト質 (焼土塊中、鉄分少)
- 8: にふい黄褐色シルト質 (鉄分少、焼土塊・炭化物・~0.3cm 礫微)
- 9: 黒褐色シルト質 (鉄分少、~0.3cm 礫微)

- 1: 耕作土
- 2: 褐シルト質 (鉄分・~3cm 礫少)
- 3: 暗褐色シルト質 (鉄分中、炭化物・~1cm 礫微)
- 4: 暗褐色シルト質 (鉄分・~3cm 礫少)
- 5: 黒褐色シルト質 (鉄分中、~3cm 礫少)
- 6: 黒褐色シルト質 (鉄分少、炭化物・~1cm 礫微)
- 7: 黒褐色シルト質 (焼土塊中、炭化物少、鉄分微)

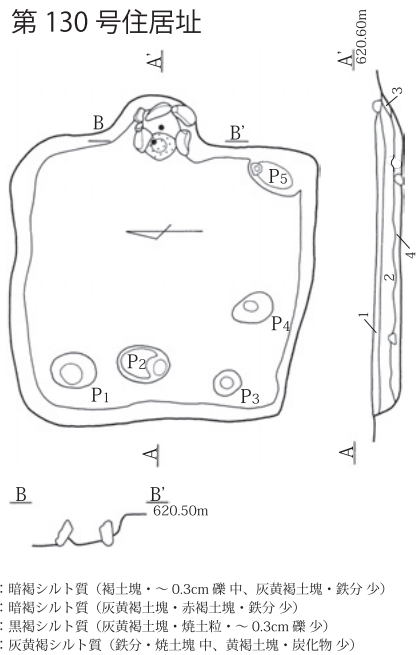
0 S=1/80 2m

図版 35 竪穴住居址 (23)

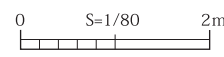
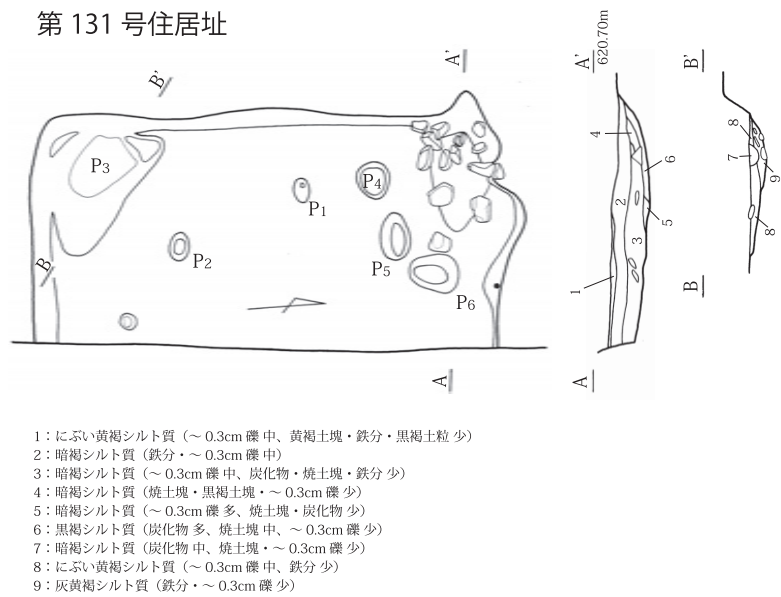
第 124・125 号住居址



第 130 号住居址



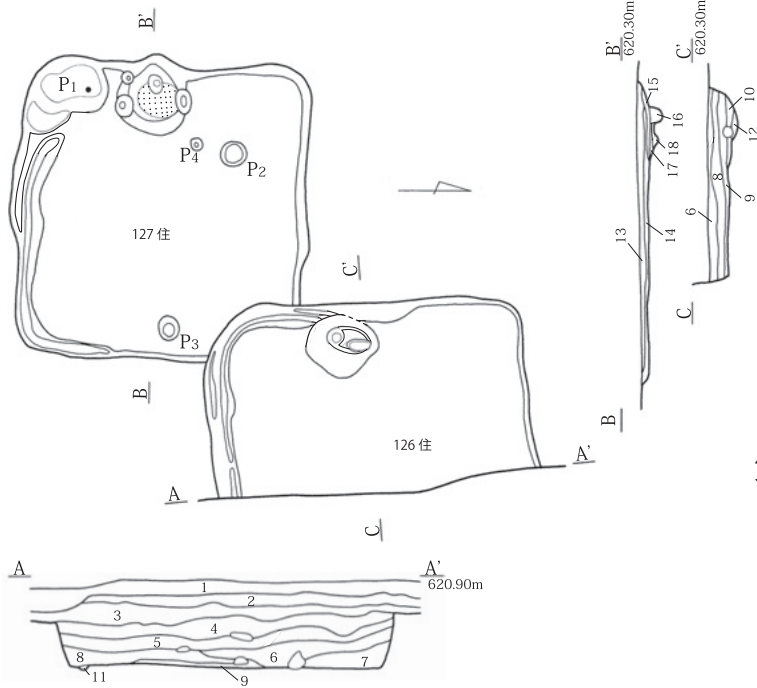
第 131 号住居址



図版 36 竪穴住居址 (24)

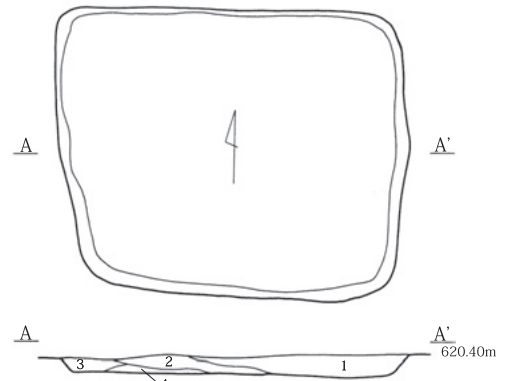


第 126・127 号住居址



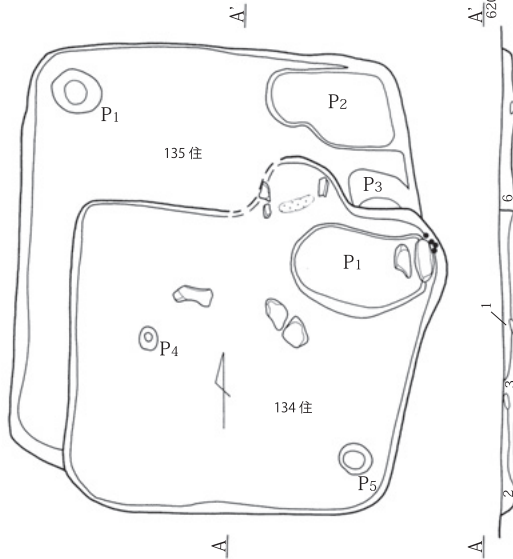
- 1: 耕作土
- 2: 褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~2cm 礫微)
- 3: 褐シルト質 (鉄分中、~2cm 礫少、炭化物微)
- 4: 褐シルト質 (~2cm 礫・鉄分少、炭化物微)
- 5: 褐シルト質 (鉄分中、~0.3cm 礫微)
- 6: 暗褐シルト質 (鉄分多、炭化物微)
- 7: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 8: 暗褐シルト質 (鉄分大、~0.3cm 礫微)
- 9: 暗褐シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫・炭化物微)
- 10: 暗褐シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少、焼土塊微)
- 11: 暗褐シルト質 (褐土塊・砂粒多)
- 12: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物微)
- 13: 暗褐シルト質 (鉄分中、~0.3cm 礫微)
- 14: 黒褐シルト質 (鉄分少、~0.3cm 礫微)
- 15: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・焼土塊微)
- 16: 暗褐シルト質 (鉄分少、焼土塊・炭化物・~0.3cm 礫微)
- 17: 暗褐シルト質 (焼土塊多、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 18: 黒褐シルト質 (焼土塊大)

第 139 号住居址

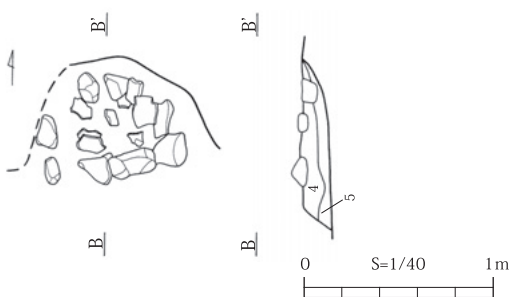


- 1: 暗褐シルト質 (~4cm 礫中)
- 2: 暗褐シルト質 (~4cm 礫大)
- 3: 暗褐シルト質 (焼土塊・~2cm 礫中)
- 4: 暗褐シルト質 (~2cm 礫多)

第 134・135 号住居址

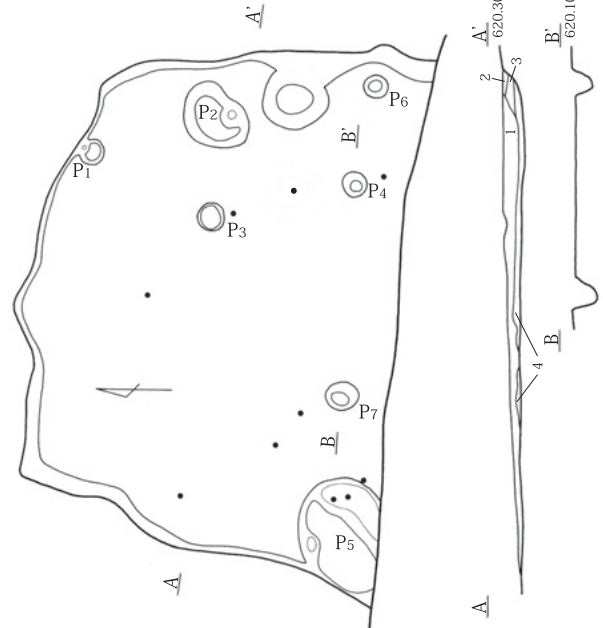


134 住カマド検出状況

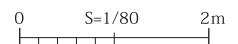


- 1: 灰黄褐シルト質 (鉄分・~3cm 礫中、炭化物少)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (~1cm 礫中、黄褐土塊・鉄分少)
- 3: 灰黄褐シルト質 (~4cm 礫・炭化物少)
- 4: 暗褐シルト質 (焼土塊・~0.3cm 礫中、炭化物少)
- 5: 暗褐シルト質 (焼土塊中、炭化物・~0.3cm 礫・灰黄褐土塊少)
- 6: 暗褐シルト質 (焼土粒・炭化物・黄褐土塊・~3cm 礫少)

第 129 号住居址

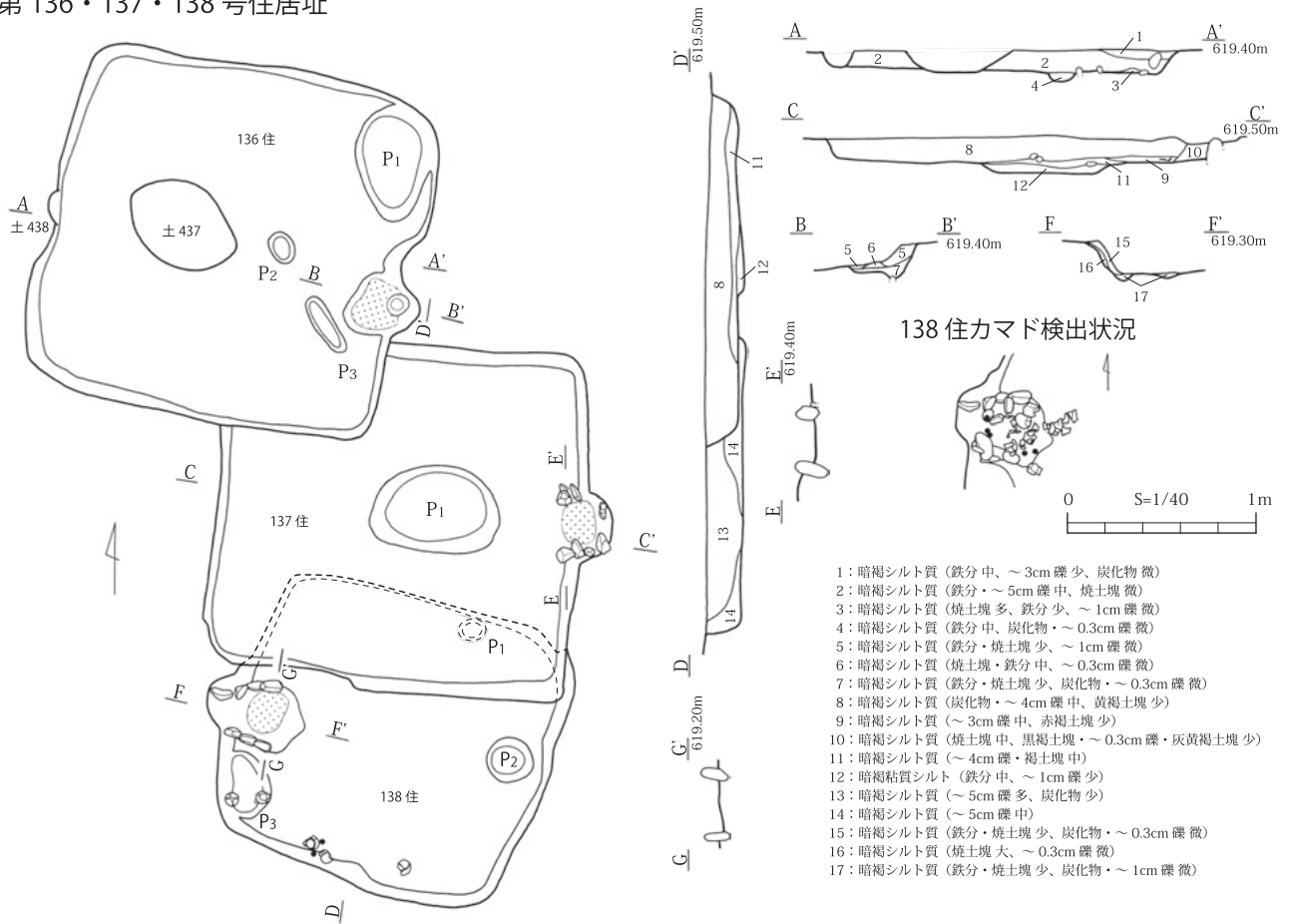


- 1: 暗褐シルト質 (鉄分中、~1cm 礫少、炭化物微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分少、~0.3cm 礫微)
- 3: 暗褐シルト質 (焼土塊・鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 4: 暗褐シルト質 (鉄分・~2cm 礫少、焼土塊微)

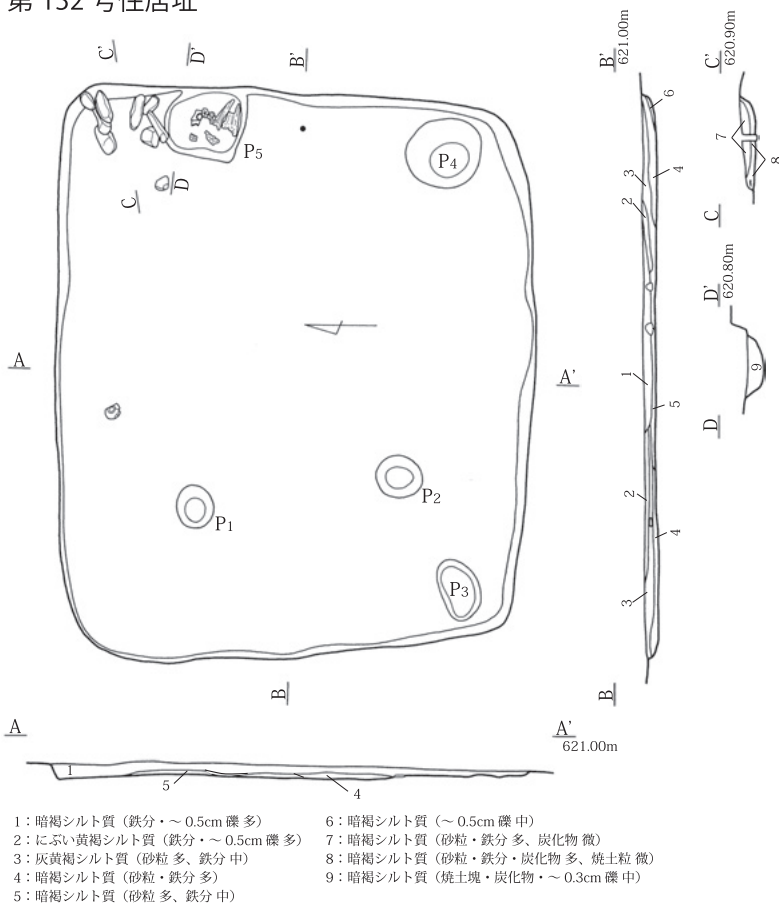


図版 37 竪穴住居址 (25)

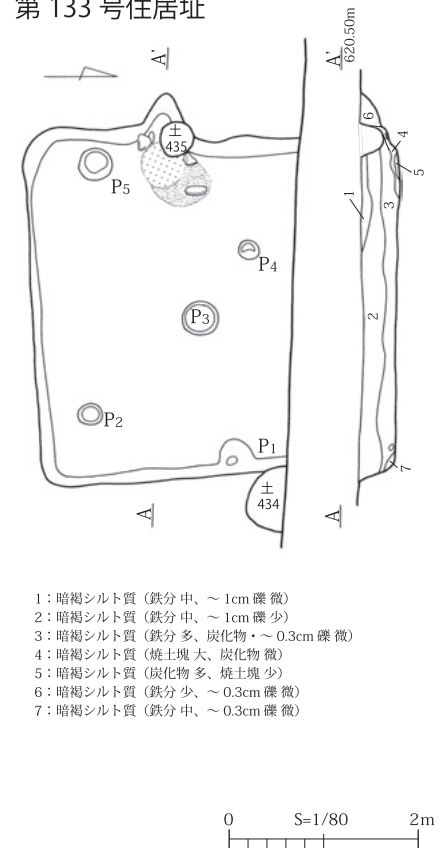
第 136・137・138 号住居址



第 132 号住居址

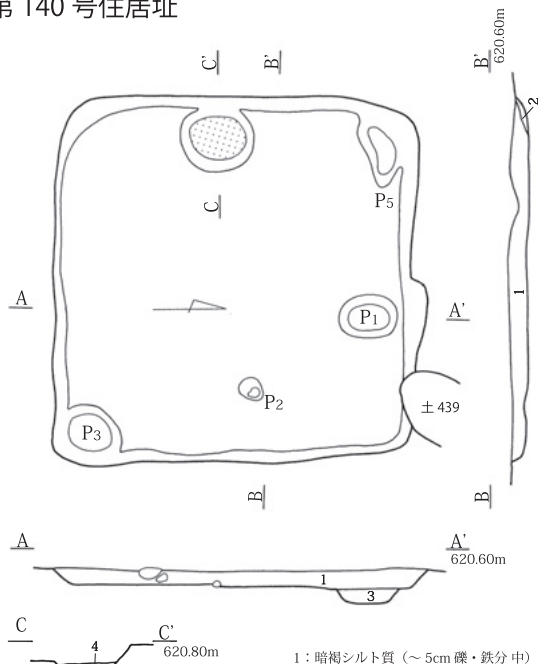


第 133 号住居址



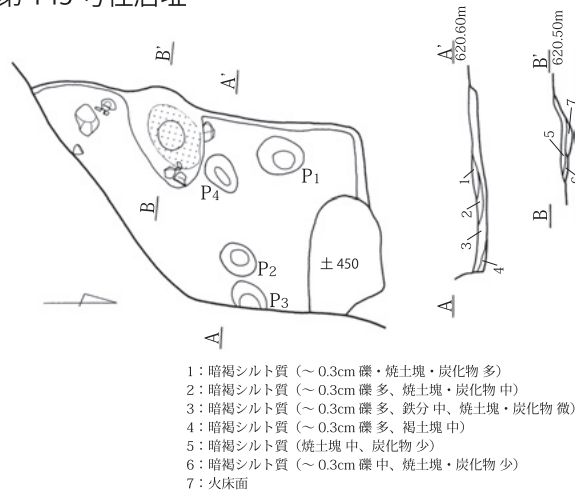
図版 38 竪穴住居址 (26)

第 140 号住居址



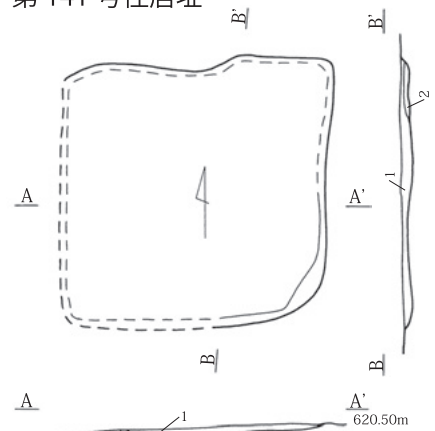
- 1: 暗褐シルト質 (～5cm 礫・鉄分中)
- 2: 暗褐シルト質 (褐土塊中、焼土粒・～0.3cm 礫少)
- 3: 暗褐シルト質 (～3cm 礫少)
- 4: 暗褐シルト質 (砂粒・褐土塊多、焼土塊・炭化物中)
- 5: 焼土

第 143 号住居址



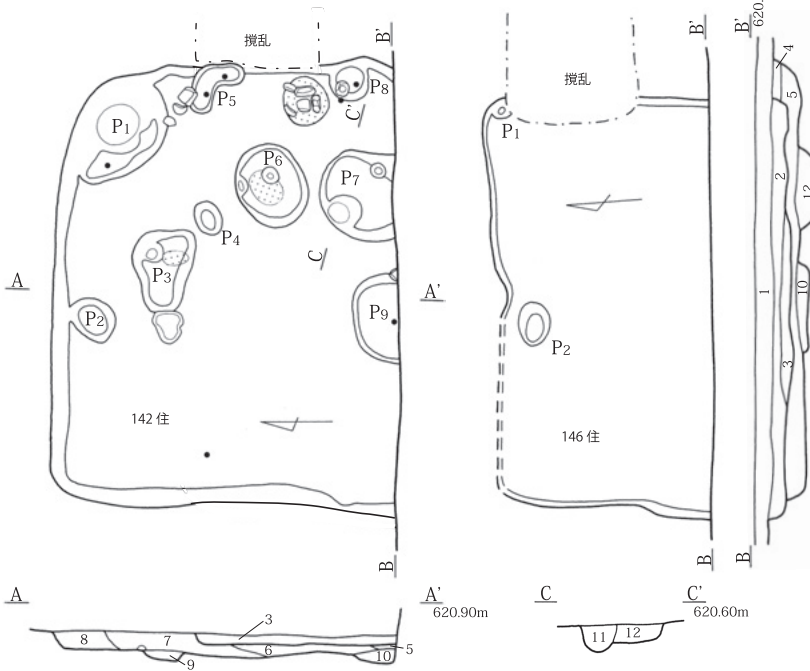
- 1: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・焼土塊・炭化物多)
- 2: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、焼土塊・炭化物中)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、鉄分中、焼土塊・炭化物微)
- 4: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、褐土塊中)
- 5: 暗褐シルト質 (焼土塊中、炭化物少)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、焼土塊・炭化物少)
- 7: 火床面

第 141 号住居址



- 1: 暗褐シルト質 (～4cm 礫多)
- 2: 褐シルト質 (～3cm 礫大)

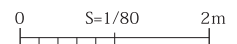
第 142・146 号住居址



- 142・146 住
- 1: 耕作土
  - 2: 暗褐シルト質 (～4cm 礫多、灰黄褐土塊・炭化物少)
  - 3: 黒褐シルト質 (鉄分中、～4cm 礫・灰黄褐土塊・炭化物少、赤褐土粒微)
  - 4: 黒褐シルト質 (灰黄褐土塊・鉄分中、～2cm 礫少)
  - 5: 暗褐シルト質 (灰黄褐土塊・～4cm 礫中、炭化物少、赤褐土粒微)
  - 6: 黒褐シルト質 (～3cm 礫中、焼土塊・炭化物少)
  - 7: 黒褐シルト質 (～5cm 礫中、鉄分・灰黄褐土塊・焼土塊少)
  - 8: 黒褐シルト質 (～5cm 礫中、炭化物・焼土塊・灰黄褐土塊少)
  - 9: 暗褐シルト質 (～3cm 礫・焼土塊少)
  - 10: 暗褐シルト質 (鉄分・～0.3cm 礫中、灰褐土塊少)
  - 11: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物・～3cm 礫微)
  - 12: 暗褐シルト質 (～3cm 礫中、鉄分少、焼土塊微)

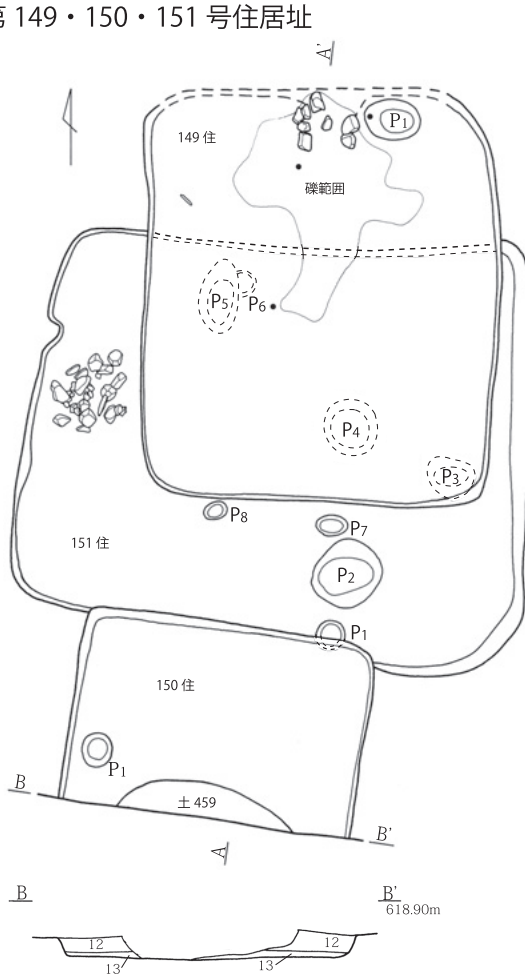
- 144 住
- 1: 耕作土
  - 2: 褐シルト質 (～4cm 礫少)
  - 3: 暗褐シルト質 (～5cm 礫多)
  - 4: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・炭化物少、～0.3cm 礫微)
  - 5: にぶい黄褐シルト質 (～2cm 礫中、褐土塊少)
  - 6: にぶい黄褐シルト質 (～4cm 礫中)
  - 7: 暗褐シルト質 (～4cm 礫中、黒褐土塊・灰黄褐土塊少)

第 144 号住居址

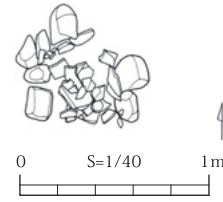


図版 39 竪穴住居址 (27)

第 149・150・151 号住居址

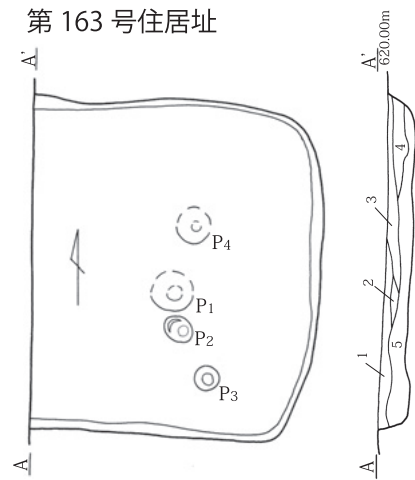


149 住カマド検出状況



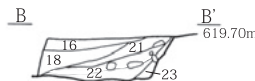
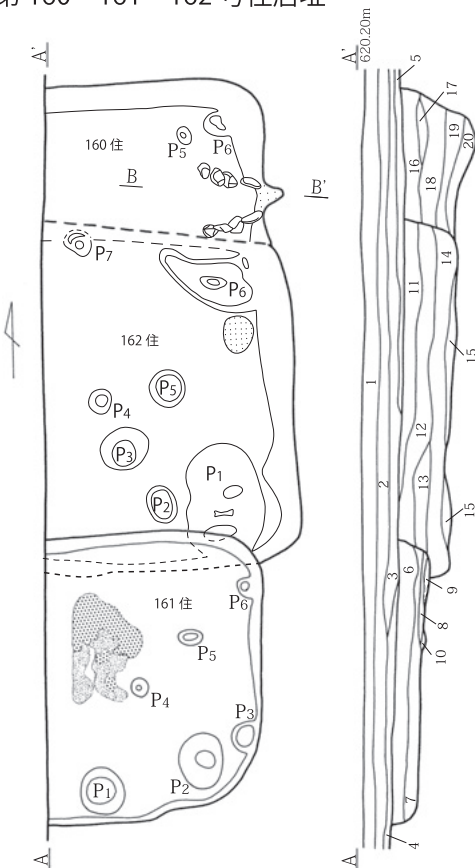
- 1: 暗褐色シルト質 (砂粒・鉄分多、炭化物 微)
- 2: 黒褐色シルト質 (～1cm 礫・鉄分多)
- 3: 黒褐色シルト質 (砂粒・鉄分多、焼土粒 中)
- 4: 暗褐色シルト質 (砂粒・鉄分多、焼土粒・炭化物 中)
- 5: 暗褐色シルト質 (鉄分・～1cm 礫中、炭化物 微)
- 6: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫・炭化物 中)
- 7: 黒褐色シルト質 (鉄分大、砂粒多、焼土粒・炭化物 微)
- 8: 黒褐色シルト質 (砂粒多、鉄分 中)
- 9: 暗褐色シルト質 (砂粒・焼土粒・炭化物 多、鉄分 中)
- 10: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、焼土塊 中、鉄分 微)
- 11: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多、鉄分 微)
- 12: 黒褐色シルト質 (～0.5cm 礫・鉄分 中、焼土粒 微)
- 13: 黒褐色シルト質 (～0.5cm 礫 中)
- 14: 暗褐色シルト質 (鉄分多、～0.5cm 礫・炭化物 微)
- 15: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、～0.5cm 礫・炭化物 微)
- 16: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫 中、鉄分 少)

第 163 号住居址



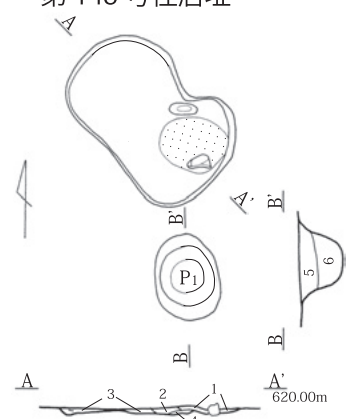
- 1: 暗褐色シルト質 (～3cm 礫・鉄分 少)
- 2: 暗褐色シルト質 (～7cm 礫 多)
- 3: にぶい黄褐色シルト質 (～5cm 礫 中、黄褐色土粒 少)
- 4: にぶい黄褐色シルト質 (灰黄褐色土塊 中、～5cm 礫 少)
- 5: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 礫・灰黄褐色土塊 中、炭化物・焼土塊 少)

第 160・161・162 号住居址

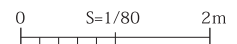


- 1: 耕作土
- 2: 褐色シルト質 (鉄分・～3cm 礫 少)
- 3: 褐色シルト質 (鉄分 中、～3cm 礫 少)
- 4: 褐色シルト質 (鉄分 多、～3cm 礫 少)
- 5: 褐色シルト質 (鉄分 多、～5cm 礫 少)
- 6: 黒褐色シルト質 (鉄分 中、炭化物 少、～3cm 礫 微)
- 7: 暗褐色シルト質 (鉄分 少、炭化物・～5cm 礫 微)
- 8: 暗褐色シルト質 (鉄分・炭化物 少、焼土塊・～0.3cm 礫 微)
- 9: 暗褐色シルト質 (鉄分 少、～0.3cm 礫 微)
- 10: 焼土
- 11: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、炭化物・～3cm 礫 微)
- 12: 暗褐色シルト質 (鉄分・～1cm 礫 少、炭化物 微)
- 13: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、～1cm 礫 少、炭化物・焼土塊 微)
- 14: 暗褐色シルト質 (鉄分 少、焼土塊・炭化物・～1cm 礫 微)
- 15: 暗褐色シルト質 (鉄分 少、炭化物・～0.3cm 礫 微)
- 16: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、～3cm 礫 少、炭化物 微)
- 17: 暗褐色シルト質 (鉄分 少、炭化物・～1cm 礫 微)
- 18: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、～3cm 礫 少、炭化物・焼土塊 微)
- 19: 暗褐色シルト質 (鉄分・～1cm 礫 少、炭化物・焼土塊 微)
- 20: 暗褐色シルト質 (鉄分・焼土塊 少、炭化物・～0.3cm 礫 微)
- 21: 暗褐色シルト質 (鉄分・焼土塊・5cm 礫 少、炭化物 微)
- 22: 暗褐色シルト質 (焼土塊 中、鉄分 少、炭化物・～1cm 礫 微)
- 23: 暗褐色シルト質 (鉄分・～1cm 礫 少、焼土塊 微)

第 148 号住居址

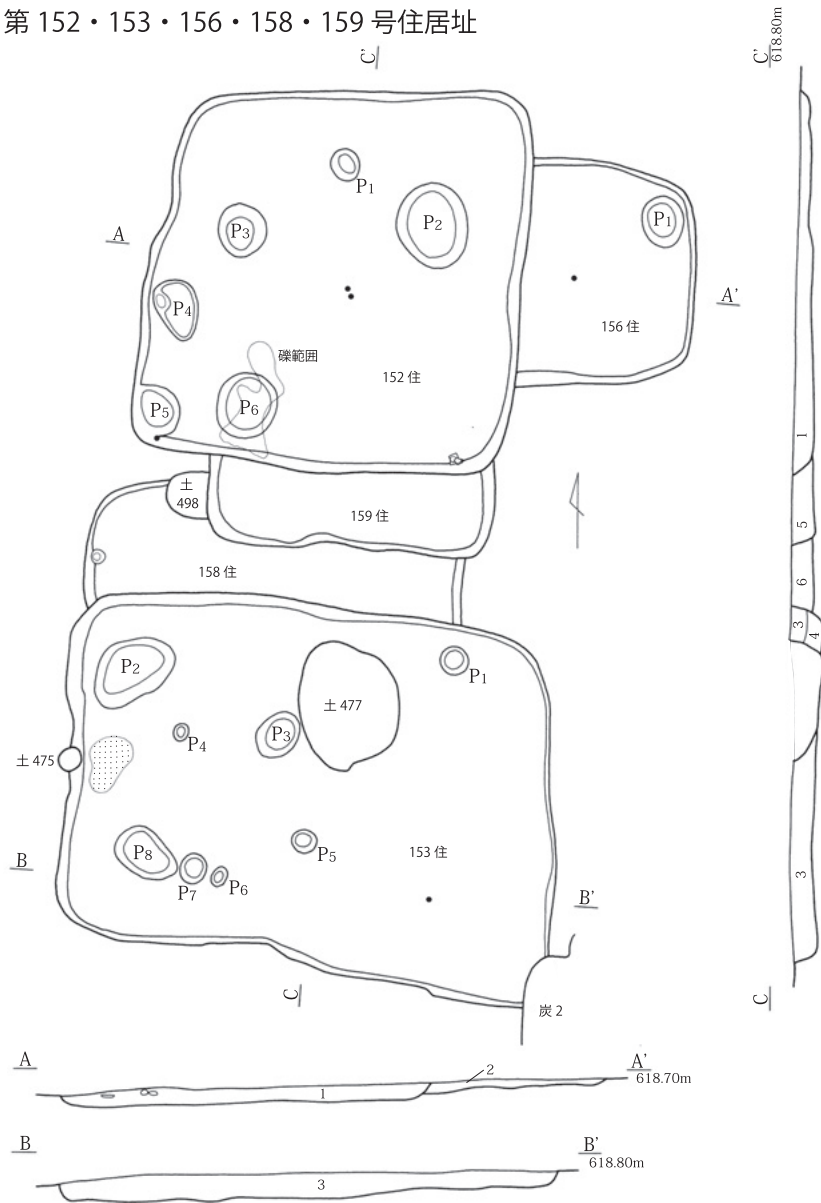


- 1: 暗褐色シルト質 (砂粒多、炭化物 中、焼土塊 少)
- 2: 暗褐色シルト質 (砂粒・炭化物 多、焼土塊 微)
- 3: 暗褐色シルト質 (砂粒多、炭化物・焼土塊 微)
- 4: 暗褐色シルト質 (砂粒多、焼土塊 中、炭化物 微)
- 5: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、炭化物・～1cm 礫 微)
- 6: 暗褐色シルト質 (鉄分 中、炭化物・～0.3cm 礫 微)



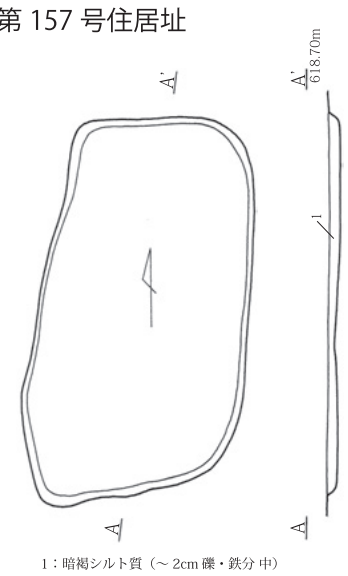
図版 40 竪穴住居址 (28)

第 152・153・156・158・159 号住居址



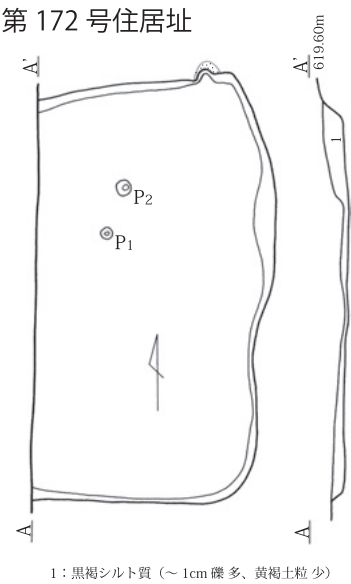
- 1: 暗褐シルト質 (鉄分・~5cm 礫少、炭化物微)      4: 黒褐シルト質 (炭化物中、1cm 礫微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分中、~1cm 礫少、炭化物微)      5: 暗褐シルト質 (~1cm 礫中、鉄分微)
- 3: 暗褐シルト質 (鉄分中、~5cm 礫少、炭化物・焼土粒微)      6: 暗褐シルト質 (~2cm 礫少)

第 157 号住居址



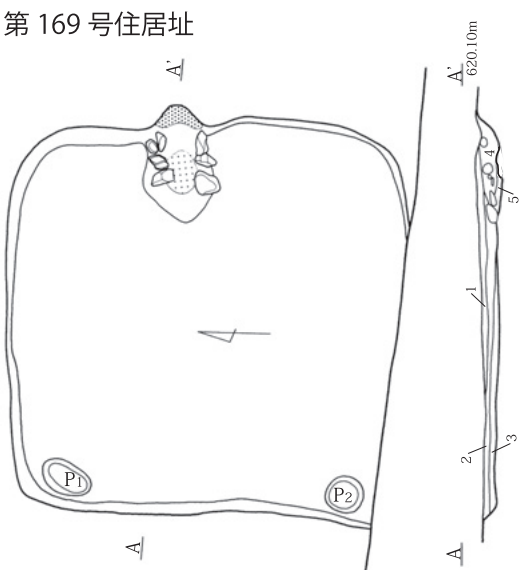
- 1: 暗褐シルト質 (~2cm 礫・鉄分中)

第 172 号住居址

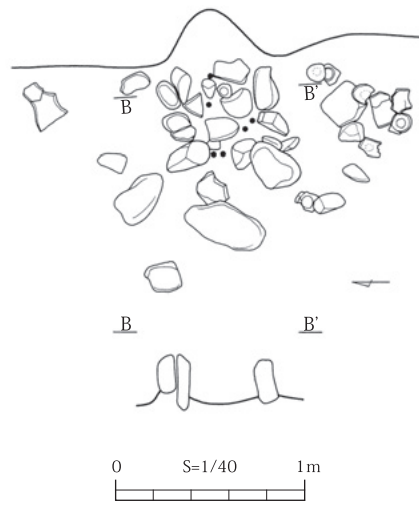


- 1: 黒褐シルト質 (~1cm 礫多、黄褐土粒少)

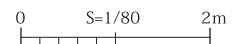
第 169 号住居址



169 住カマド検出状況



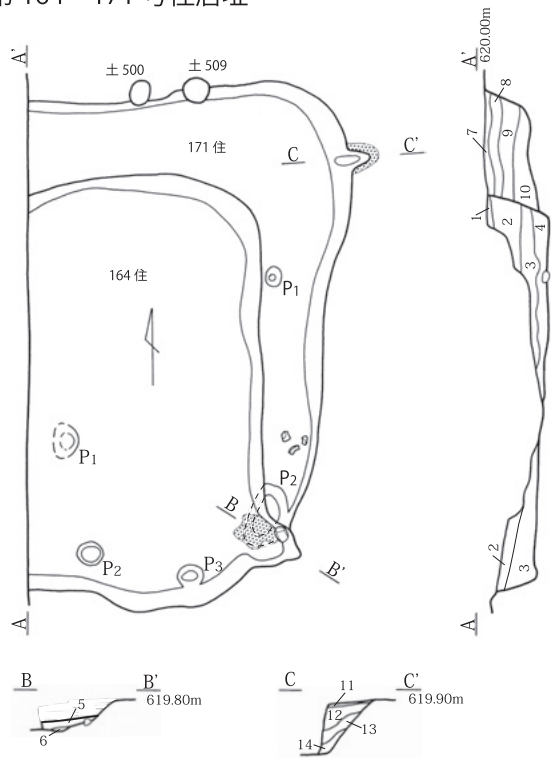
- 1: 褐シルト質 (鉄分中、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物・~1cm 礫微)
- 3: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 4: 褐シルト質 (鉄分少、焼土塊・炭化物・~0.5cm 礫微)
- 5: 褐シルト質 (炭化物多、焼土塊少)



図版 41 竪穴住居址 (29)

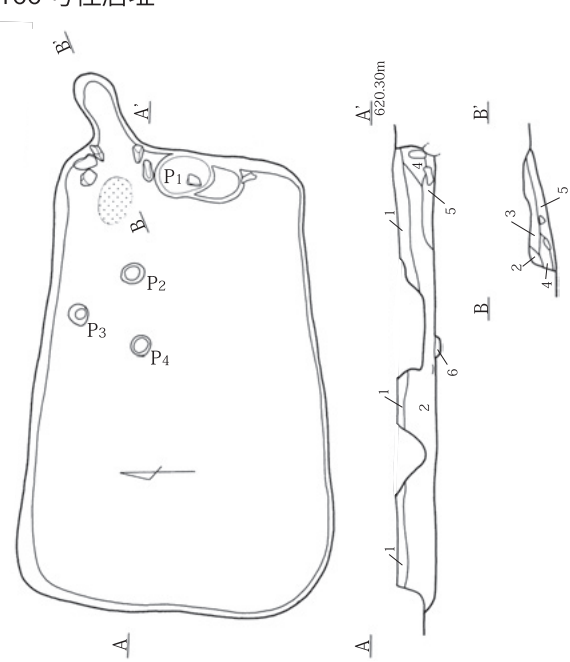


第 164・171 号住居址



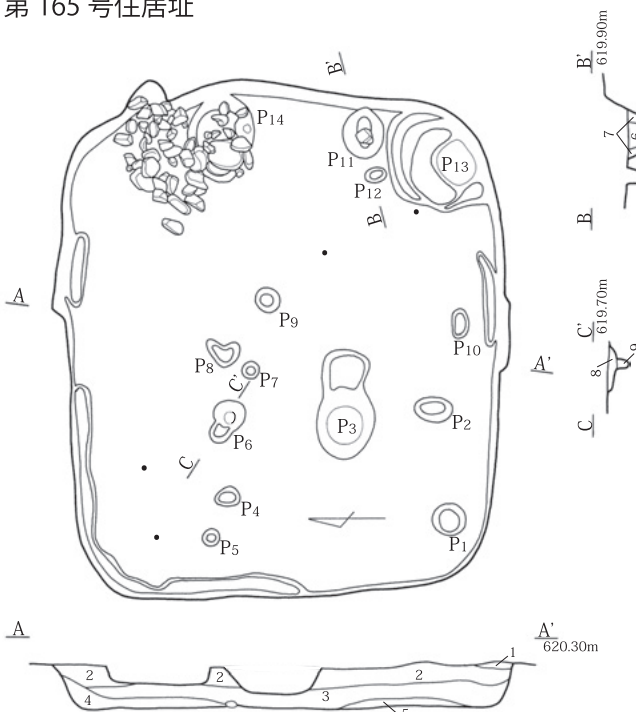
- 1: 黒褐シルト質 (鉄分多、~0.5cm 礫少)
- 2: 暗褐シルト質 (~1cm 礫・明黄褐土粒少)
- 3: 暗褐シルト質 (~1cm 礫多、明黄褐土粒中)
- 4: 黒褐シルト質 (~0.3cm 礫中)
- 5: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫中、焼土塊・炭化物微)
- 6: 焼土
- 7: 黒褐シルト質 (~0.5cm 礫少)
- 8: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫・灰黄褐土塊少)
- 9: 暗褐シルト質 (~3cm 礫・鉄分少)
- 10: 暗褐シルト質 (~5cm 礫中、黄褐土粒少)
- 11: 褐シルト質 (鉄分少、~1cm 礫微)
- 12: 暗褐シルト質 (~1cm 礫中、鉄分少、焼土塊・炭化物微)
- 13: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物・焼土塊・~1cm 礫微)
- 14: 暗褐シルト質 (鉄分・焼土塊少、炭化物・~0.3cm 礫微)

第 166 号住居址



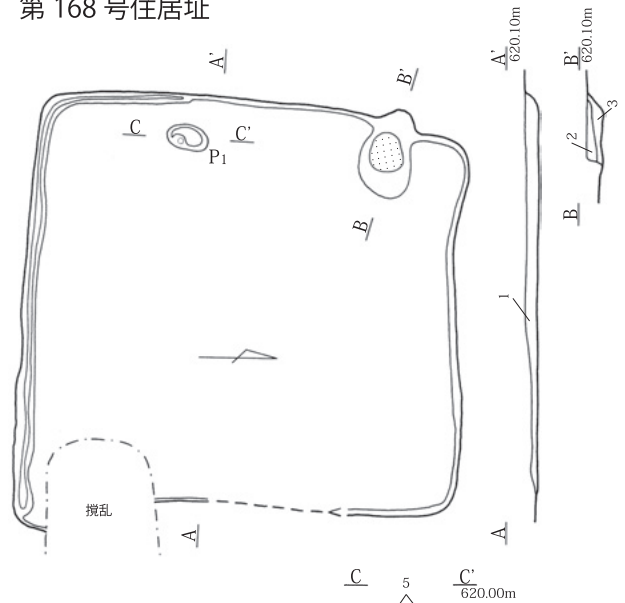
- 1: 暗褐シルト質 (鉄分少、~0.3cm 礫微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分中、~1cm 礫少、炭化物微)
- 3: 暗褐シルト質 (焼土塊中、鉄分少)
- 4: 黒褐シルト質 (鉄分少、焼土塊・炭化物・~1cm 礫微)
- 5: 暗褐シルト質 (鉄分・焼土塊少、炭化物・~2cm 礫微)
- 6: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫中、焼土塊・炭化物・灰褐土塊少)

第 165 号住居址

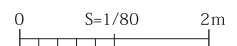


- 1: 灰黄褐シルト (~1cm 礫中、鉄分少、炭化物微)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物少、焼土塊・~0.3cm 礫微)
- 3: 暗褐シルト質 (鉄分・炭化物少、~0.5cm 礫微)
- 4: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~2cm 礫微)
- 5: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・焼土塊・~0.5cm 礫微)
- 6: 暗褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 7: 暗褐シルト質 (鉄分・褐土塊少、炭化物・~0.5cm 礫微)
- 8: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫多、炭化物・灰褐土塊少、焼土粒微)
- 9: 暗褐シルト質 (灰褐土塊少)

第 168 号住居址

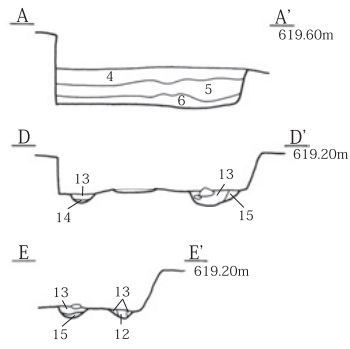
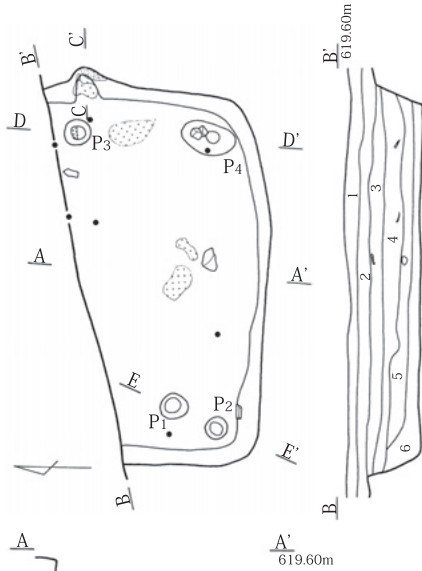


- 1: 灰黄褐シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫中、炭化物・赤褐土粒・灰黄褐土塊少)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (鉄分少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・焼土塊少、炭化物・~0.3cm 礫微)
- 4: 暗褐シルト質 (鉄分少、~0.3cm 礫微)
- 5: 黒褐シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少)



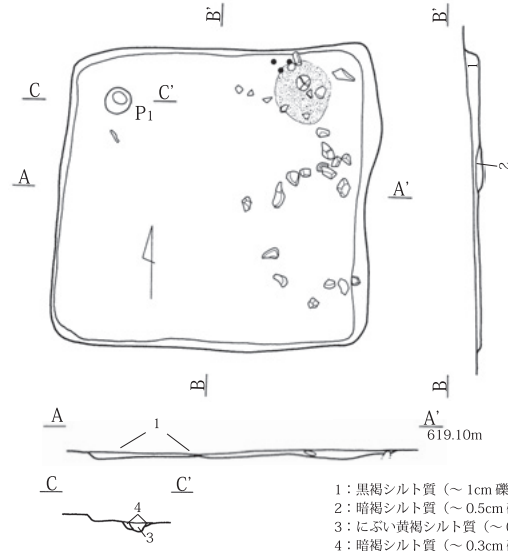
図版 42 竪穴住居址 (30)

第 176 号住居址



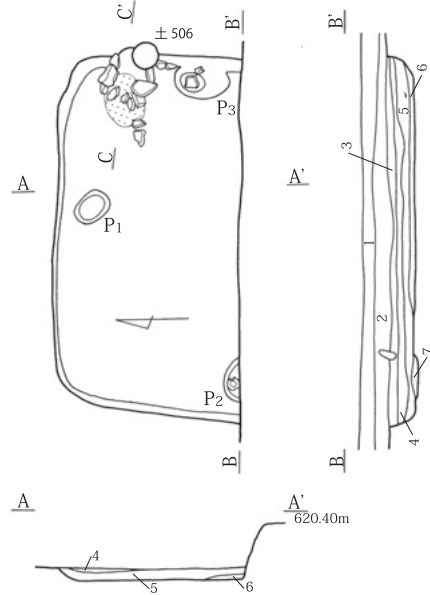
- 1: 耕作土
- 2: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・炭化物・黄褐土粒 少)
- 3: 褐シルト質 (鉄分・黄褐土粒・~0.5cm 礫 少)
- 4: 暗褐シルト質 (鉄分・~2cm 礫 中、黄褐土粒 少)
- 5: 黒褐砂質シルト (鉄分中、黄褐土粒・~3cm 礫 少、炭化物 微)
- 6: 黒褐砂質シルト (鉄分中、炭化物・~2cm 礫 少)
- 7: 暗褐シルト質 (赤褐土塊・~0.5cm 礫 少)
- 8: 黒褐砂質シルト (赤褐土塊・~1cm 礫 少)
- 9: 黒褐砂質シルト (鉄分 少)
- 10: 褐シルト質 (焼土塊 多、~1cm 礫 少)
- 11: にぶい黄褐シルト質 (~0.3cm 礫 中、炭化物 少)
- 12: にぶい黄褐シルト質 (砂粒・黒褐土塊 少)
- 13: 暗褐シルト質 (砂粒 中、炭化物・灰褐土塊 少、焼土粒 微)
- 14: 暗褐シルト質 (焼土塊 多)
- 15: 暗褐シルト質 (黄褐土粒 少)

第 175 号住居址



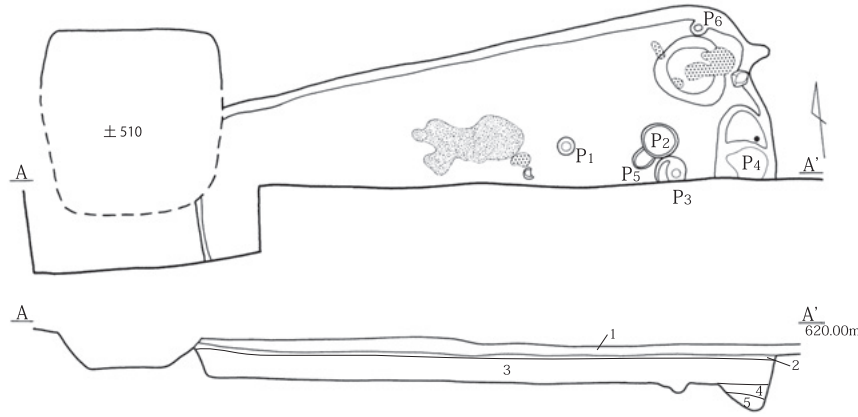
- 1: 黒褐シルト質 (~1cm 礫 中、炭化物・焼土 少)
- 2: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫 多)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (~0.3cm 礫 少、褐土粒 微)
- 4: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫 少、褐土粒 微)

第 167 号住居址



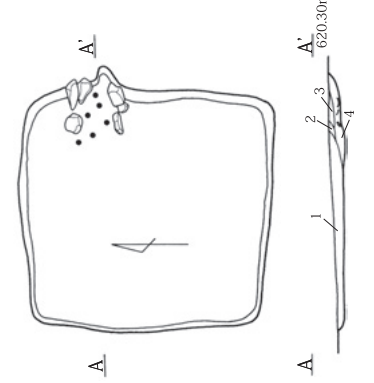
- 1: 耕作土
- 2: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫 中、炭化物・灰黄褐土塊・赤褐土塊 少)
- 3: 褐シルト質 (鉄分 多、炭化物・焼土粒・~2cm 礫 少)
- 4: 暗褐シルト質 (鉄分 中、灰褐土塊・~1cm 礫 少)
- 5: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫 多、炭化物・灰褐土塊・鉄分 少)
- 6: 暗褐シルト質 (灰褐土塊 多、鉄分 少)
- 7: にぶい黄褐シルト質 (鉄分 中、灰褐土塊・~2cm 礫 少)
- 8: 暗褐シルト質 (焼土塊 中)
- 9: 暗褐シルト質 (炭化物・焼土粒 少)
- 10: 火床面

第 170 号住居址

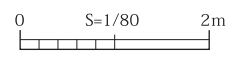


- 1: 暗褐シルト質 (鉄分 中、~3cm 礫 少)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分 中、~1cm 礫 少)
- 3: 暗褐シルト質 (鉄分・~2cm 礫 中、炭化物 微)
- 4: 黒褐シルト質 (炭化物・焼土塊・灰褐土塊・~0.5cm 礫 少)
- 5: 黒褐砂質シルト (炭化物・褐土塊 少、焼土塊 微)

第 173 号住居址

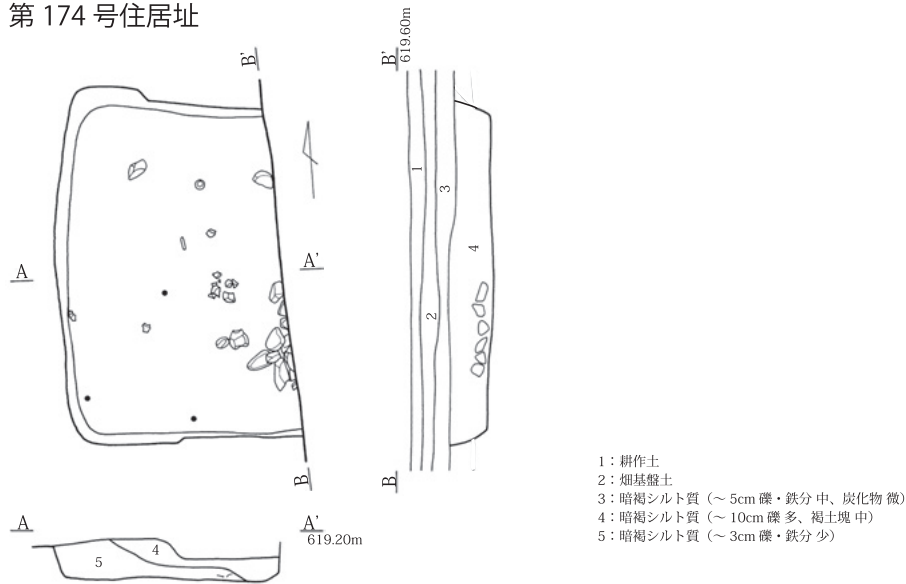


- 1: 暗褐シルト質 (~2cm 礫 多)
- 2: 暗褐シルト質 (焼土塊 大、~2cm 礫 中)
- 3: 暗褐シルト質 (~2cm 礫 中)
- 4: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫・灰黄褐土塊 中、焼土粒・炭化物 微)

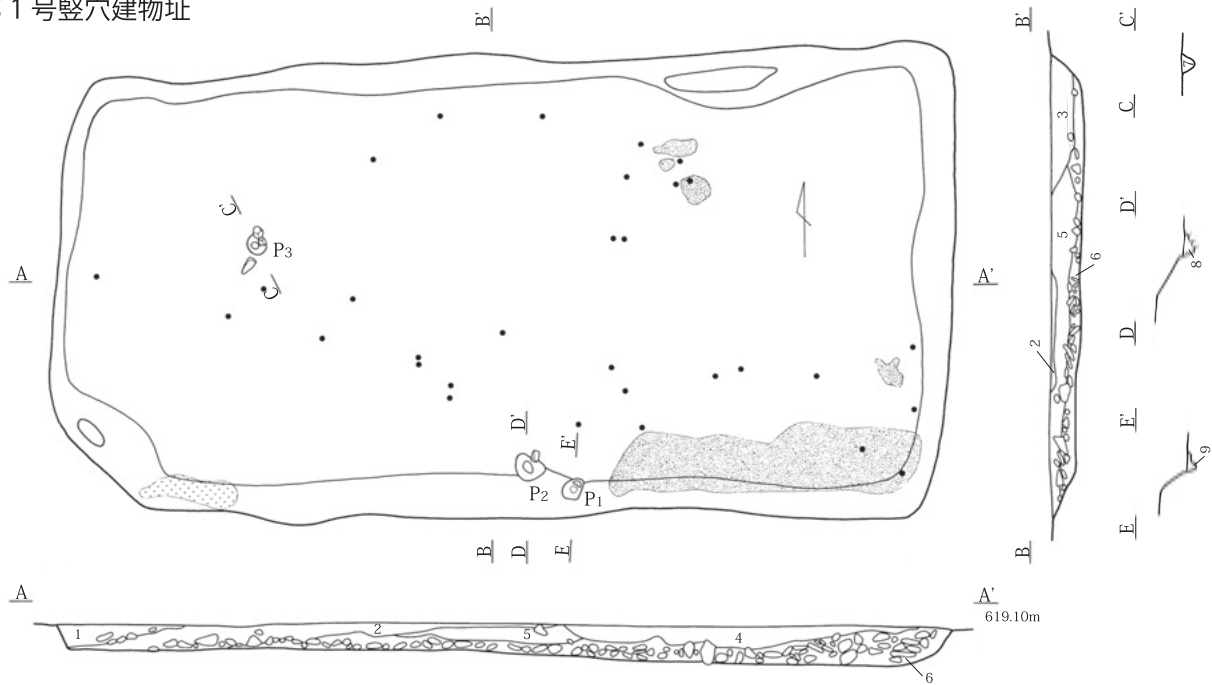


図版 43 竪穴住居址 (31)

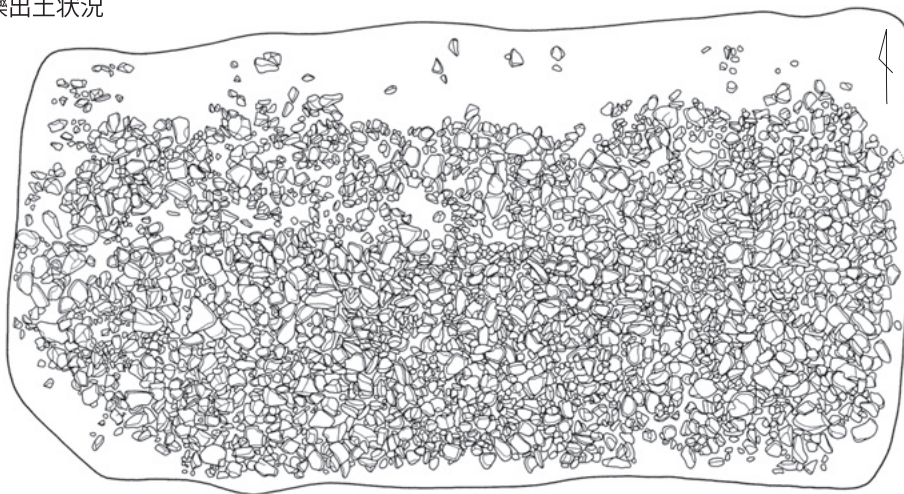
第 174 号住居址



第 1 号竪穴建物址



竪 1 礫出土状況

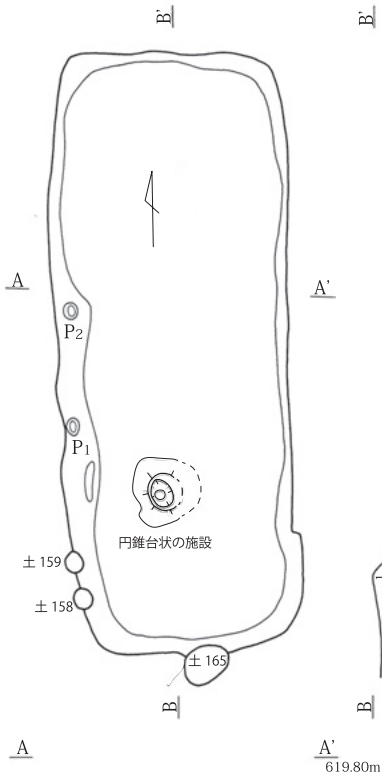


- 1: にぶい黄褐色シルト質 (～1cm 礫少、黄褐色土粒・炭化物微)
- 2: 暗褐色シルト質 (鉄分・焼土塊中、～1cm 礫少)
- 3: 暗褐色シルト質 (鉄分中、～2cm 礫少、焼土塊・炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (～0.5cm 礫多)
- 5: 暗褐色シルト質 (焼土塊中、炭化物少、～3cm 礫微)
- 6: 灰黄褐色シルト質 (鉄分多、～1cm 礫少)
- 7: 灰黄褐色シルト質 (炭化物中、焼土粒少)
- 8: にぶい黄褐色シルト質 (炭化物中、～1cm 礫少、焼土粒微)
- 9: 灰黄褐色砂質 (炭化物・～3cm 礫中)

0 S=1/80 2m

図版 44 竪穴住居址 (32)、竪穴建物址 (1)

第7号竖穴建物址



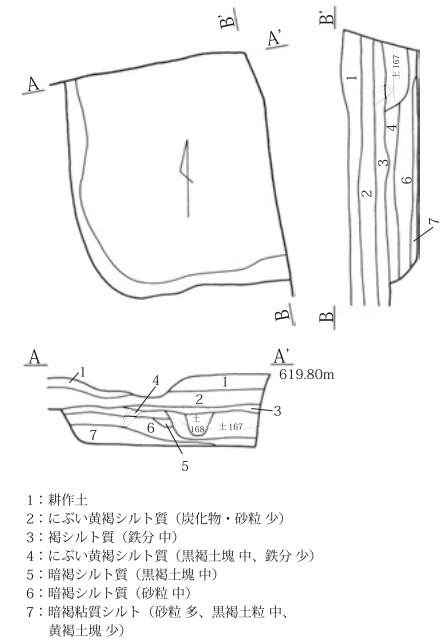
- 竖7  
 1: 耕作土  
 2: 水田基盤土  
 3: にぶい黄褐シルト質 (鉄分少、~0.5cm 礫微)  
 4: にぶい黄褐シルト質 (鉄分中、~1cm 礫少)  
 5: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・黄土塊・~0.5cm 礫少)  
 6: 暗褐シルト質 (鉄分・黄土塊・~0.5cm 礫少)  
 7: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・~1cm 礫少、黄土塊微)  
 8: 黒褐シルト質 (鉄分中、明黄褐土粒微)  
 9: 褐シルト質 (~0.3cm 礫・暗褐土塊少)

竖7 遺物出土状況



- 竖6  
 1: 暗褐シルト質 (焼土粒多、炭化物・黄土塊中、~0.5cm 礫少)  
 2: 暗褐シルト質 (~1cm 礫・黄土塊中)  
 3: 暗褐シルト質 (鉄分・~0.5cm 礫少、

第8号竖穴建物址

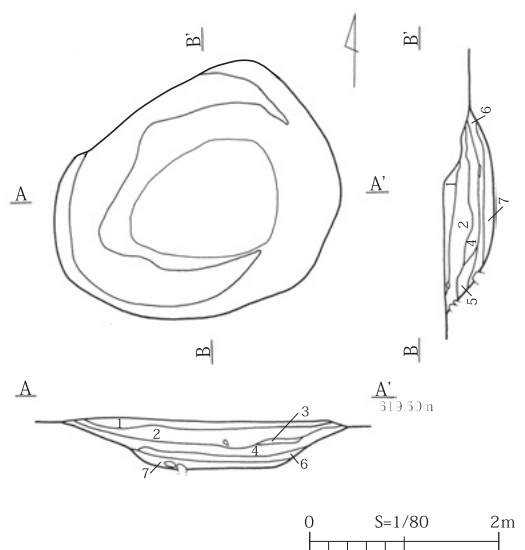


- 1: 耕作土  
 2: にぶい黄褐シルト質 (炭化物・砂粒少)  
 3: 褐シルト質 (鉄分中)  
 4: にぶい黄褐シルト質 (黒褐土塊中、鉄分少)  
 5: 暗褐シルト質 (黒褐土塊中)  
 6: 暗褐シルト質 (砂粒中)  
 7: 暗褐粘質シルト (砂粒多、黒褐土粒中、黄褐土塊少)

第6号竖穴建物址

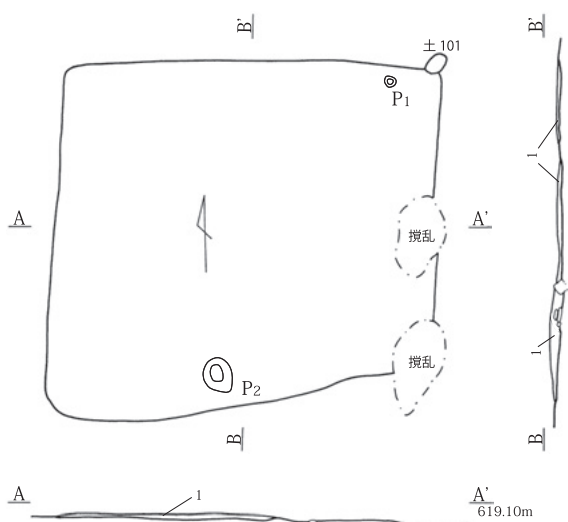


第4号竖穴状遺構



- 竖4  
 1: 暗褐シルト質 (鉄分・焼土塊多、褐土塊少、炭化物微)  
 2: 暗褐シルト質 (焼土塊多、褐土塊少、炭化物・鉄分微)  
 3: 褐シルト質 (焼土塊少、~1cm 礫微)  
 4: にぶい黄褐シルト質 (鉄分中、炭化物微)  
 5: 暗褐シルト質 (鉄分中、炭化物・~2cm 礫微)  
 6: 灰黄褐シルト質 (鉄分中)  
 7: 灰黄褐シルト質 (鉄分中、~10cm 礫微)

第5号竖穴建物址

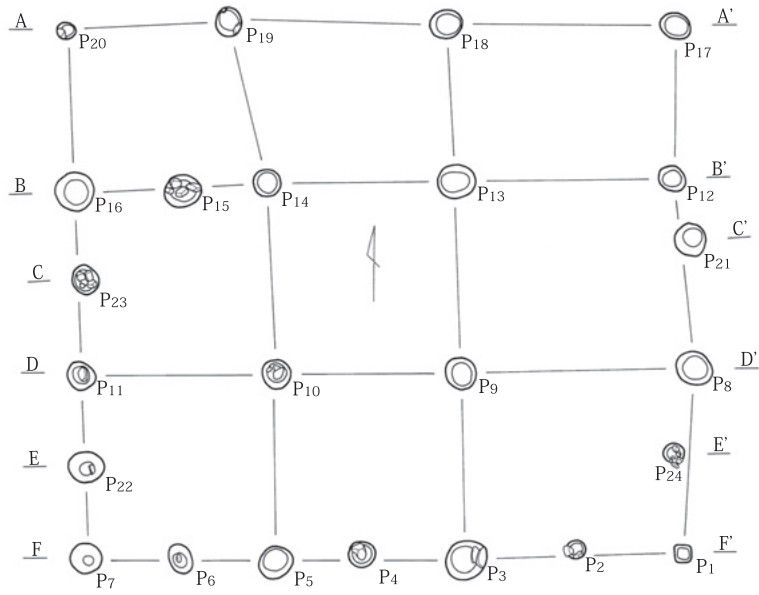


- 竖5  
 1: 暗褐シルト質 (~2cm 礫少)

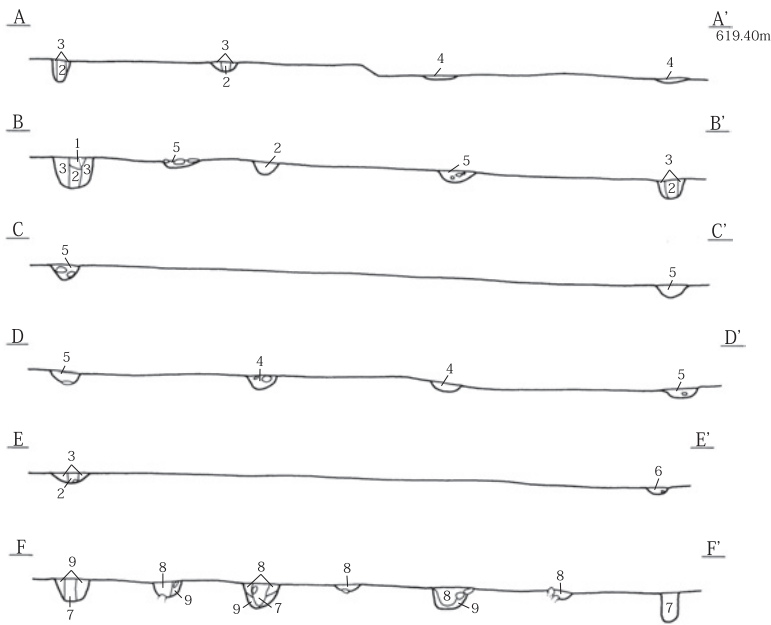
図版45 竖穴建物址(2)、竖穴状遺構



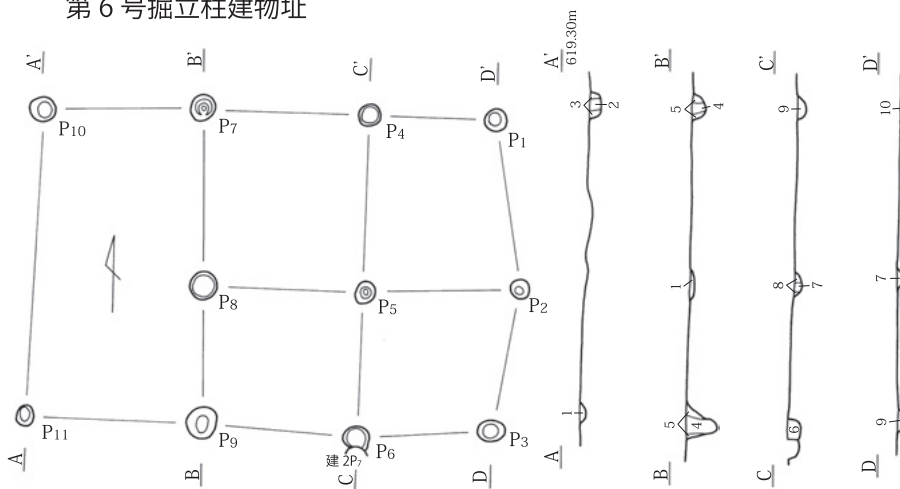
第1号掘立柱建物址



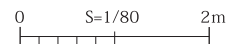
- 1: 暗褐シルト質 (粘土塊大、~0.5cm 礫少)
- 2: 暗褐シルト質 (鉄分少、~1cm 礫微)
- 3: 暗褐シルト質 (褐土粒・鉄分少、~1cm 礫微)
- 4: 黒褐シルト質 (~1cm 礫少、黄褐土塊微)
- 5: 暗褐シルト質 (~5cm 礫・黄褐土塊・褐土塊少)
- 6: 黒褐シルト質 (明黄褐土塊大、砂粒少)
- 7: にぶい黄褐シルト質 (~1cm 礫・黄褐土粒微)
- 8: 暗褐シルト質 (~3cm 礫・褐土粒少)
- 9: 暗褐シルト質 (~1cm 礫少、炭化物微)



第6号掘立柱建物址



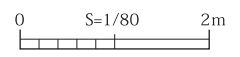
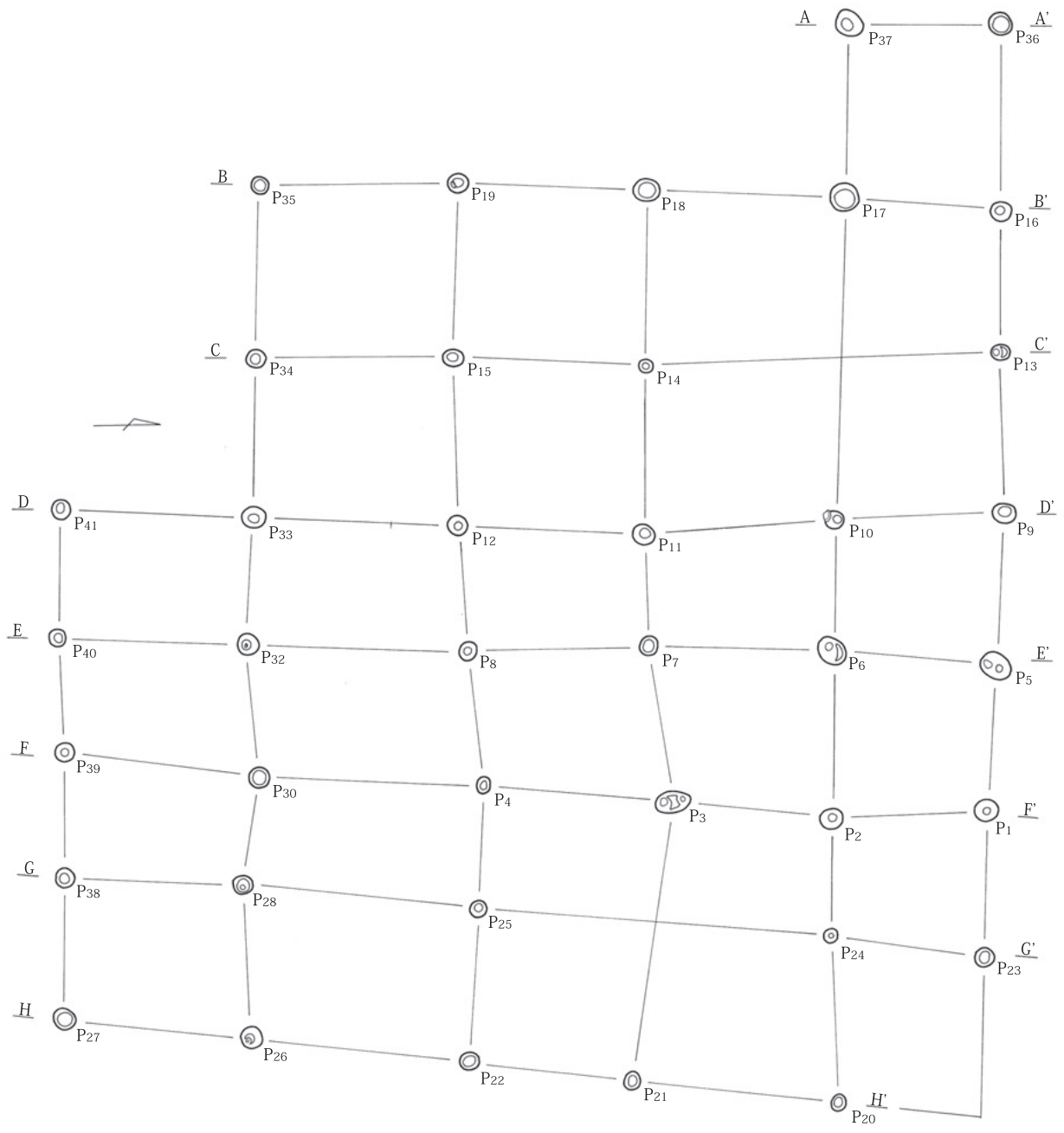
- 1: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分中、~0.3cm 礫・炭化物少)
- 2: 灰黄褐粘質シルト (炭化物中、黄褐土塊少)
- 3: 灰黄褐粘質シルト (~0.3cm 礫多、炭化物少)
- 4: 暗褐粘質シルト (鉄分中、~0.3cm 礫少)
- 5: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分・~0.3cm 礫中)
- 6: にぶい黄褐粘質シルト (~0.5cm 礫多、鉄分中)
- 7: 暗褐シルト質 (黄褐土塊・~0.3cm 礫中、鉄分少)
- 8: にぶい黄褐シルト質 (~0.3cm 礫多、鉄分少)
- 9: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫少)
- 10: 褐粘質シルト (鉄分・~0.3cm 礫中、黄褐土塊少)



図版 46 掘立柱建物址 (1)

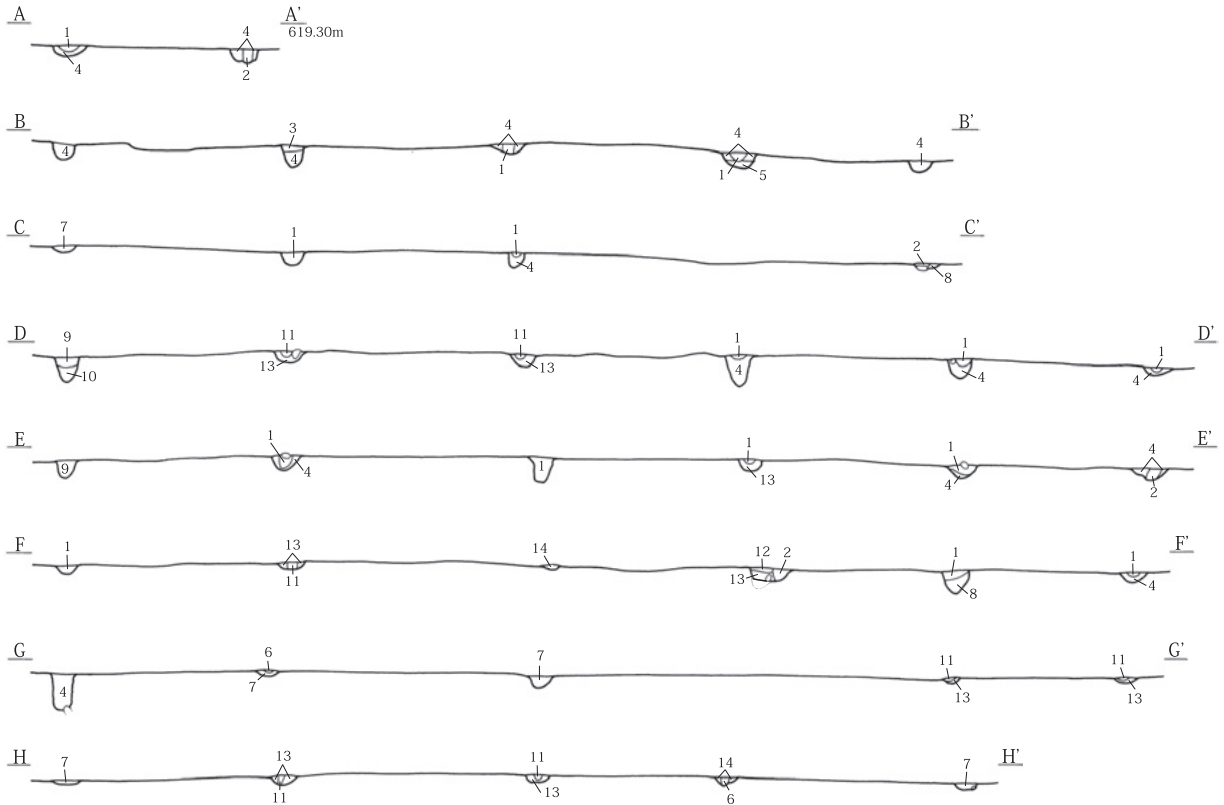


第 2 号掘立柱建物址



图版 47 掘立柱建物址 (2)

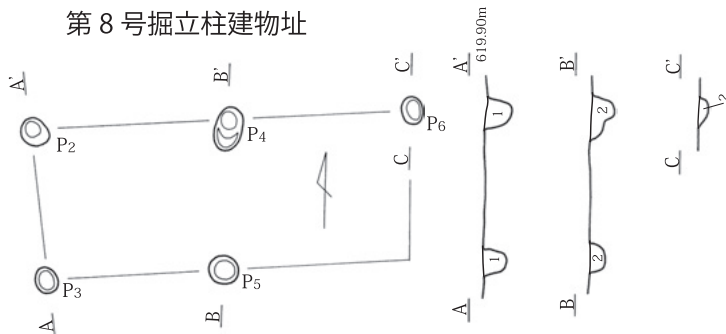
建 2



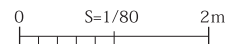
- 1：にぶい黄褐粘質シルト（鉄分・～0.3cm 礫少）
- 2：黒褐シルト質（～0.3cm 礫・黄褐土塊少）
- 3：にぶい黄褐粘質シルト（炭化物中、鉄分少）
- 4：にぶい黄褐粘質シルト（鉄分中、～0.3cm 礫少、炭化物微）
- 5：にぶい黄褐粘質シルト（鉄分少）
- 6：暗褐シルト質（～0.3cm 礫少）
- 7：暗褐シルト質（鉄分・～0.3cm 礫中、炭化物少）

- 8：暗褐シルト質（黄褐土塊・～0.3cm 礫・鉄分少）
- 9：にぶい黄褐シルト質（鉄分・～0.3cm 礫中、赤褐土粒少）
- 10：黒褐シルト質（～0.3cm 礫微）
- 11：褐粘質シルト（鉄分少、～0.3cm 礫微）
- 12：にぶい黄褐粘質シルト（鉄分・～0.3cm 礫微）
- 13：にぶい黄褐粘質シルト（～0.5cm 礫・鉄分・灰褐土塊少）
- 14：暗褐シルト質（～0.5cm 礫少、鉄分微）

第 8 号掘立柱建物址

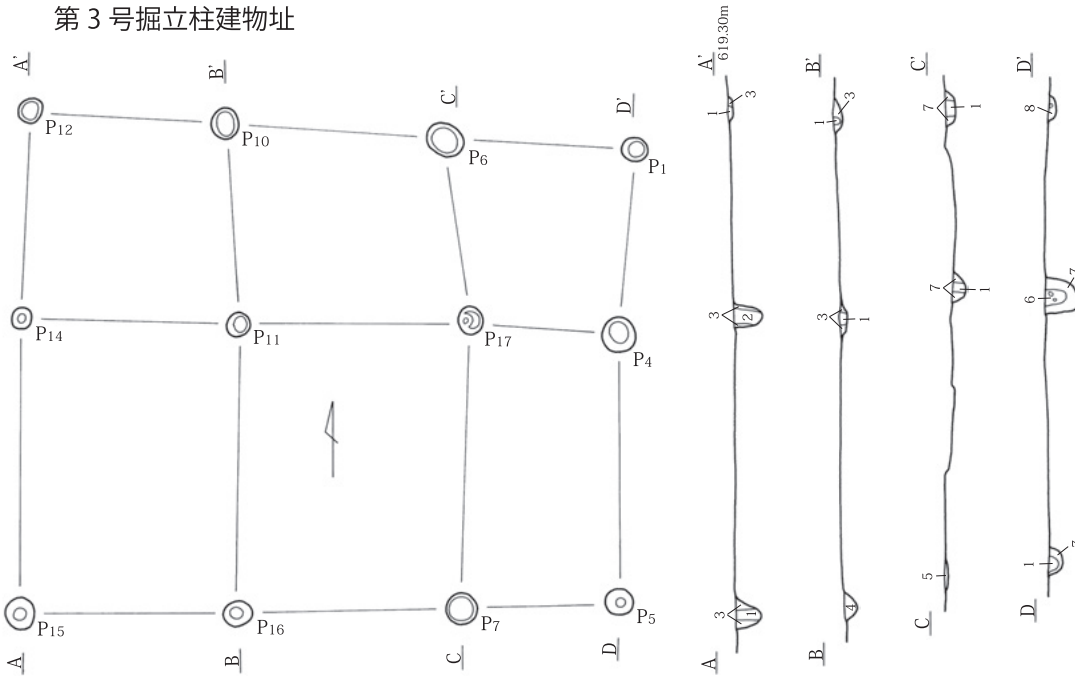


- 1：暗褐シルト質（～0.5cm 礫・鉄分少）
- 2：にぶい黄褐シルト質（鉄分・～0.3cm 礫・炭化物・黄褐土塊少）



図版 48 掘立柱建物址 (3)

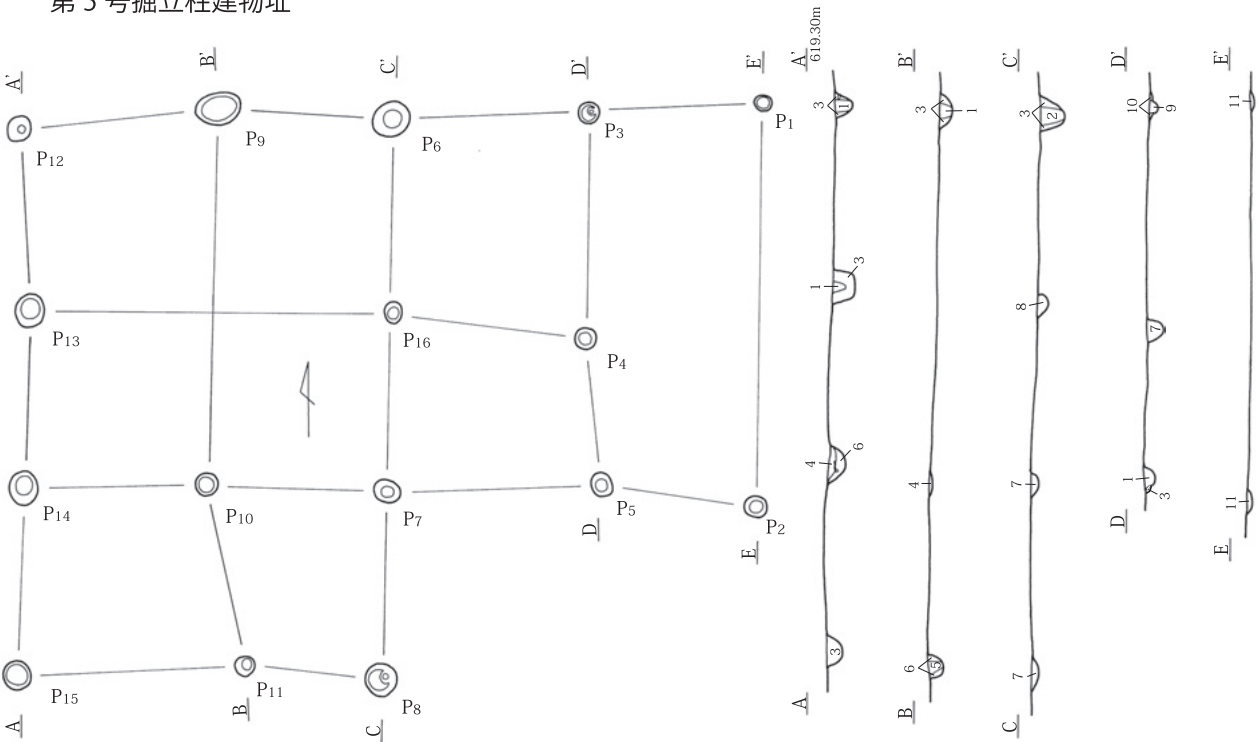
第3号掘立柱建物址



- 1: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分・黄褐土塊 中、～0.3cm 礫少)
- 2: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分多、灰黄褐土塊 中)
- 3: 褐シルト質 (黄褐土塊・～0.3cm 礫 中、鉄分少)
- 4: 暗褐シルト質 (黄褐土塊 少、～0.3cm 礫微)

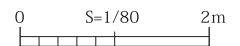
- 5: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分 少)
- 6: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分 中、黄褐土塊・～2cm 礫少)
- 7: 暗褐粘質シルト (鉄分 中)
- 8: 暗褐シルト (～1cm 礫・黄褐土塊 中)

第5号掘立柱建物址



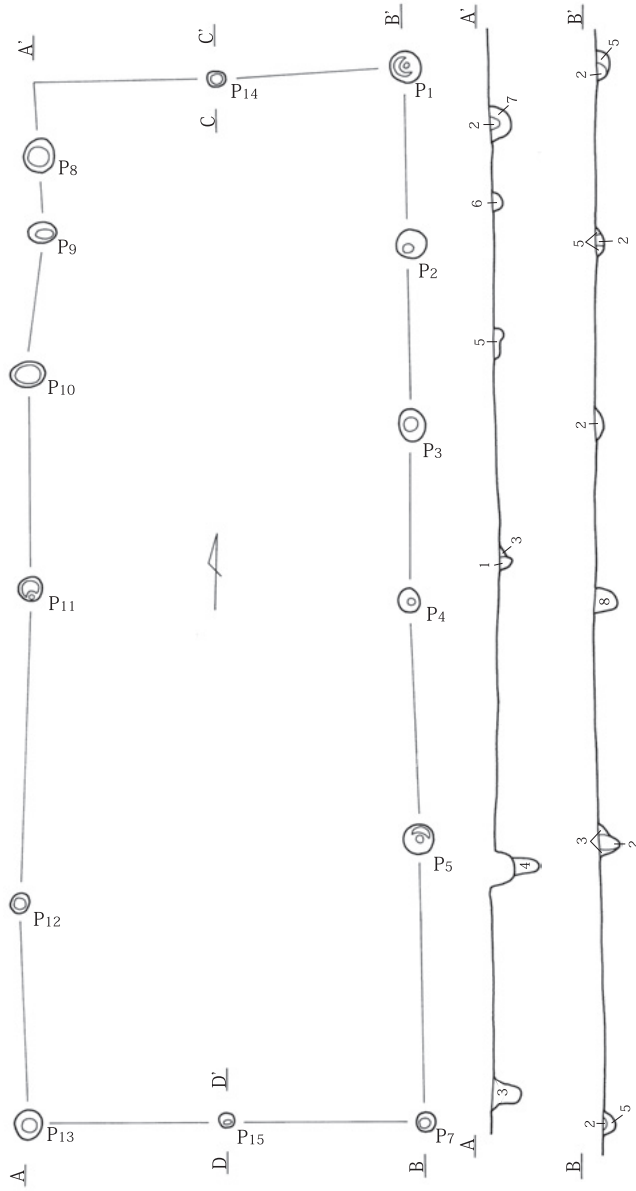
- 1: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫 中、鉄分・黒褐土塊 少)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (灰褐土塊 中、鉄分・～0.3cm 礫 少)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫 中、鉄分 少)
- 4: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分・～0.3cm 礫 中)
- 5: 暗褐シルト質 (黄褐土塊 中)
- 6: 黒褐シルト質 (鉄分 中、～0.3cm 礫 少)

- 7: にぶい黄褐粘質シルト (鉄分・～0.3cm 礫 少)
- 8: にぶい黄褐シルト質 (鉄分 少)
- 9: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫 中、鉄分・黄褐土塊 少)
- 10: 褐シルト質 (鉄分 少)
- 11: 褐粘質シルト (～0.3cm 礫・灰褐土塊・鉄分 中)

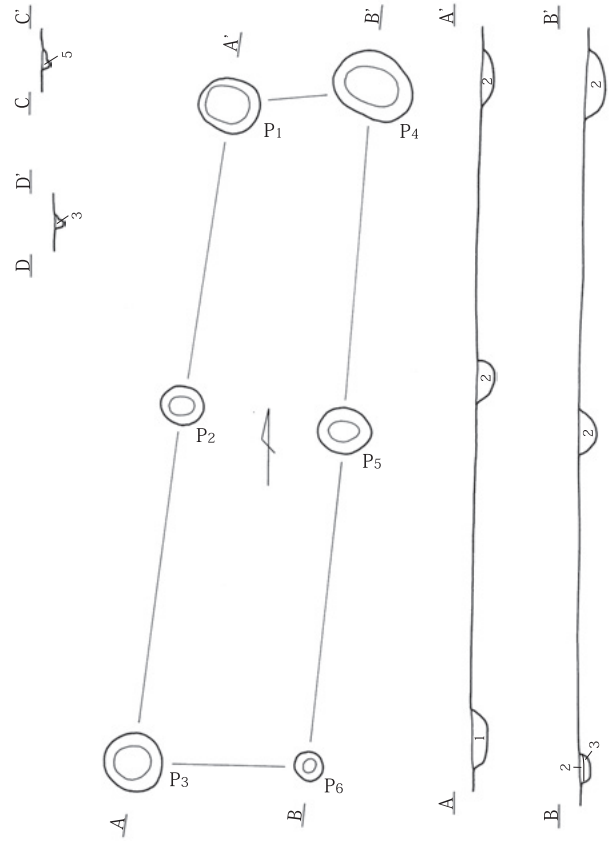


図版 49 掘立柱建物址 (4)

第4号掘立柱建物址



第7号掘立柱建物址



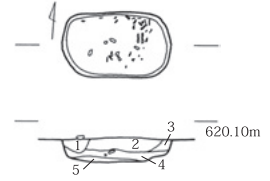
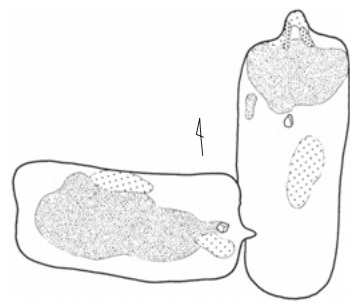
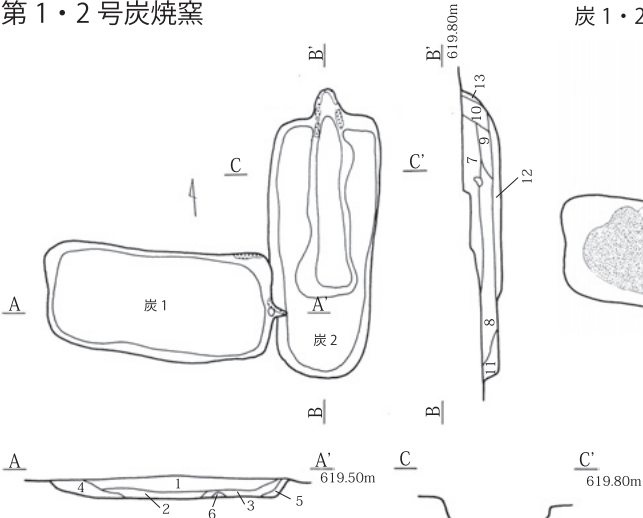
- 建4
- 1: 暗褐シルト質 (～5cm 礫少)
  - 2: にぶい黄褐シルト質 (鉄分中、～0.3cm 礫少)
  - 3: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫中、鉄分・炭化物少)
  - 4: 暗褐シルト質 (鉄分中、焼土・炭化物少)
  - 5: 褐シルト質 (～0.3cm 礫・鉄分少)
  - 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)
  - 7: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・灰黄褐土塊中、～1cm 礫少)
  - 8: にぶい黄褐シルト質 (焼土塊中、炭化物少)

- 建7
- 1: 暗褐シルト質 (～4cm 礫多、炭化物・焼土粒少)
  - 2: 暗褐シルト質 (～3cm 礫多)
  - 3: 黒褐シルト質 (灰褐土塊・黒褐土塊・～0.3cm 礫少)

第1・2号炭焼窯

炭1・2炭化物出土状況

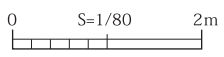
第3号炭焼窯



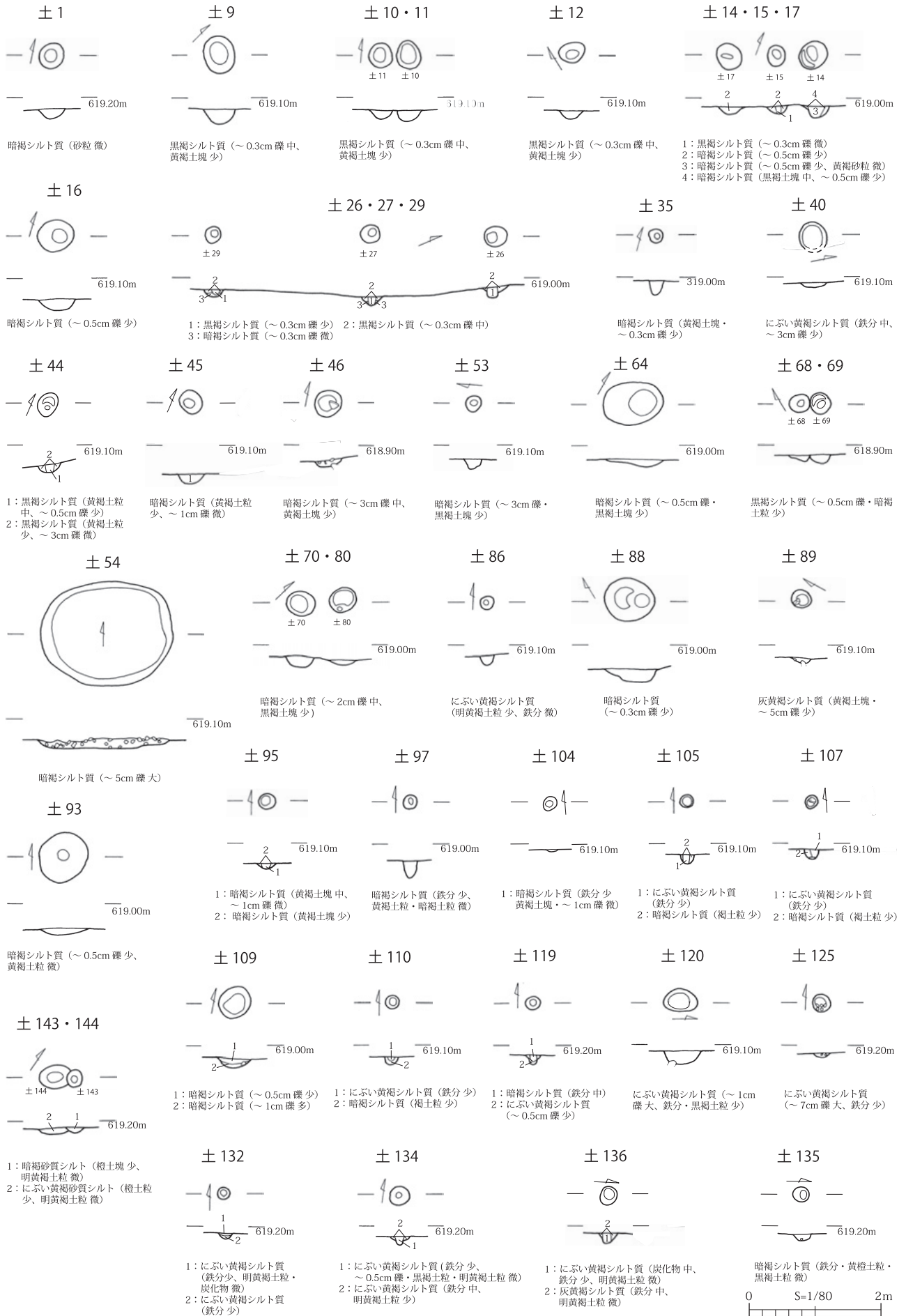
- 炭1・2
- 1: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、炭化物・焼土粒中)
  - 2: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫・焼土塊中)
  - 3: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・焼土塊多)
  - 4: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、炭化物・焼土塊中)
  - 5: 暗褐シルト質 (砂粒・焼土粒・炭化物多)
  - 6: 焼土

- 7: 暗褐シルト質 (～1cm 礫多、炭化物中)
- 8: 暗褐シルト質 (鉄分・炭化物・～2cm 礫少)
- 9: 暗褐シルト質 (炭化物中、～4cm 礫少)
- 10: 黒褐シルト質 (～0.3cm 礫・炭化物多、焼土粒中)
- 11: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、鉄分中)
- 12: 暗褐シルト質 (砂粒多、焼土粒中、炭化物微)
- 13: 焼土

- 炭3
- 1: 灰黄褐シルト質 (～0.3cm 礫・褐土塊・鉄分中)
  - 2: 暗褐シルト質 (褐土塊多、～0.5cm 礫・鉄分中、炭化物微)
  - 3: 暗褐シルト質 (砂粒多、褐土塊中)
  - 4: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多、褐土塊中、炭化物微)
  - 5: 暗褐シルト質 (炭化物大、焼土塊中)

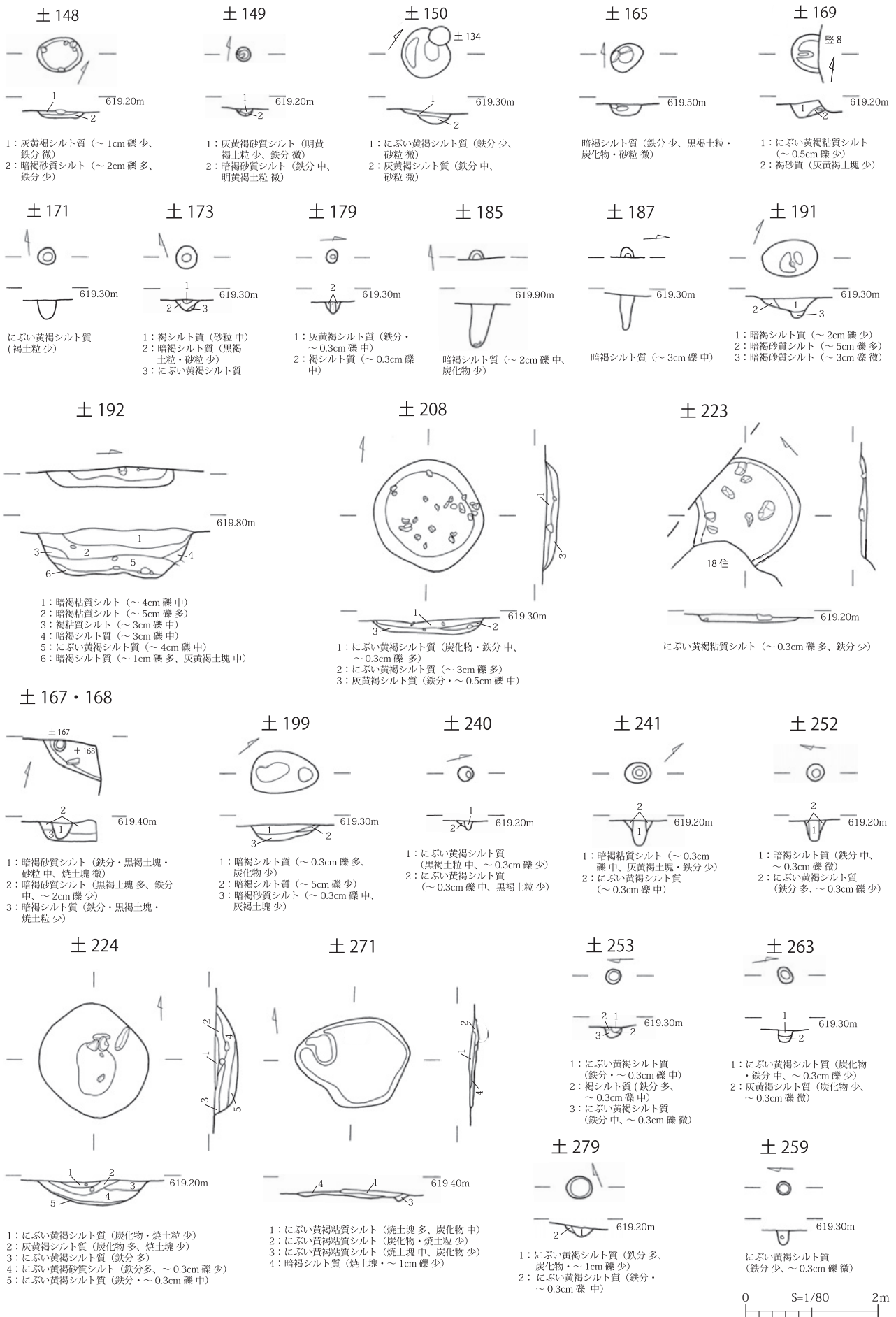


図版50 掘立柱建物址(5)、炭焼窯

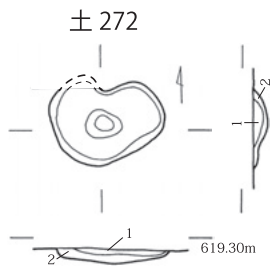


図版 51 土坑 (1)

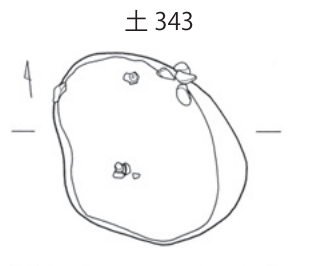




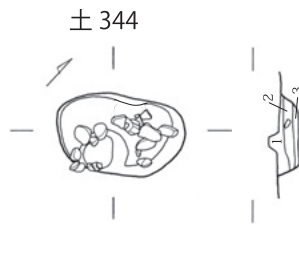
図版 52 土坑 (2)



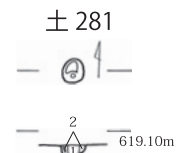
- 1: 焼土
- 2: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫多、焼土粒少)



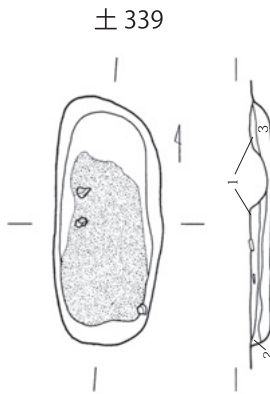
- 1: にぶい黄褐シルト質 (黄褐土粒・～1cm 礫多)
- 2: 黒褐シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物中)
- 3: 暗褐シルト質 (黄褐土粒・橙土粒多、炭化物微)



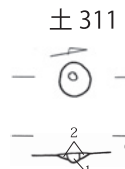
- 1: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫大)
- 2: 暗褐シルト質 (砂粒多、炭化物微)
- 3: 暗褐シルト質 (焼土粒多)



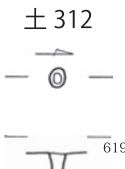
- 1: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中、灰黄褐土塊・炭化物少)
- 2: 暗褐シルト質 (灰黄褐土塊・炭化物少)



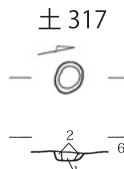
- 1: 暗褐シルト質 (焼土塊・～0.5cm 礫・炭化物少)
- 2: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・橙土粒中、炭化物微)
- 3: 黒褐シルト質 (褐粘質土塊・炭化物多)



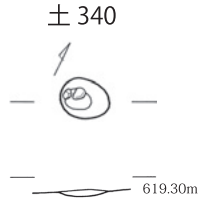
- 1: 暗褐粘質シルト (鉄分多、灰黄褐土塊少)
- 2: 暗褐粘質シルト (鉄分中、～0.3cm 礫少)



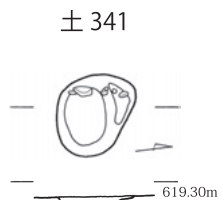
- にぶい黄褐シルト質 (鉄分多、～1cm 礫少)



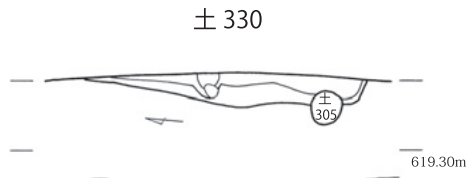
- 1: 暗褐粘質シルト (鉄分多、～0.3cm 礫少)
- 2: 褐粘質シルト (鉄分多、～0.3cm 礫中)



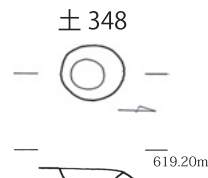
- 黒褐粘質シルト (炭化物・褐土塊少、赤褐土粒微)



- 暗褐粘質シルト (焼土塊・炭化物・～4cm 礫少)



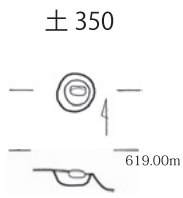
- 1: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・～0.3cm 礫中、炭化物少)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (～0.3cm 礫少)



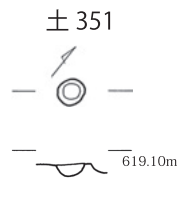
- 暗褐シルト質 (～4cm 礫少)



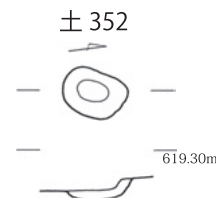
- 1: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫中)
- 2: 黒褐シルト質 (焼土粒大、炭化物多)
- 3: 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多、焼土塊少、炭化物微)



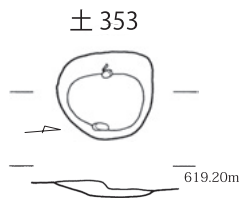
- 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物微)



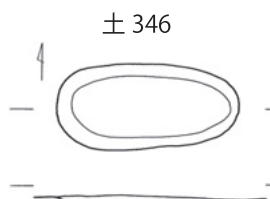
- 暗褐シルト質 (炭化物少、～0.3cm 礫微)



- 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫大)



- 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・褐土塊多)



- 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫・炭化物中、赤褐土粒微)



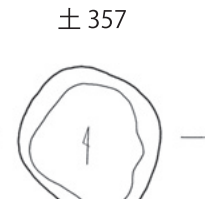
- 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫・褐土塊中、炭化物微)



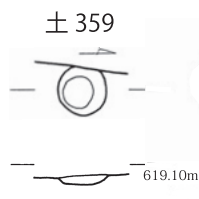
- 暗褐シルト質 (～1cm 礫多)



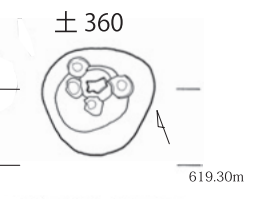
- 1: 褐シルト質 (～0.5cm 礫多)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (褐土塊・鉄分中)
- 3: 暗褐シルト質 (炭化物中、砂粒微)
- 4: 暗褐シルト質 (～2cm 礫微)
- 5: 褐シルト質 (砂粒微)
- 6: 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫中)
- 7: 褐シルト質 (～0.5cm 礫微)



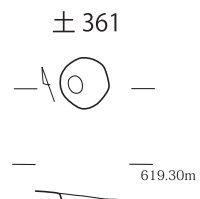
- 暗褐シルト質 (～4cm 礫中、炭化物・赤褐土粒少)



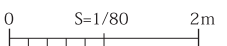
- 暗褐シルト質 (～5cm 礫中、赤褐土粒少)



- 暗褐シルト質 (～0.5cm 礫多、褐土塊中)

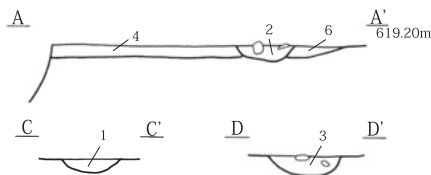
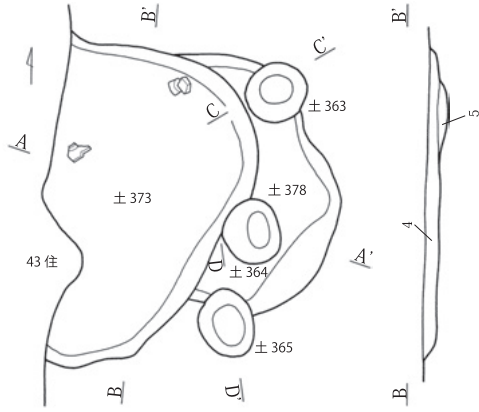


- 暗褐シルト質 (～0.3cm 礫多)



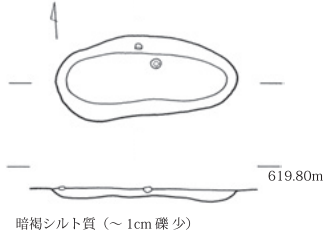
図版 53 土坑 (3)

± 363・364・365・373・378



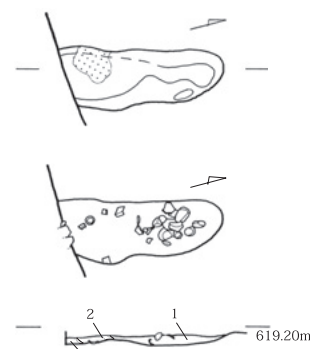
- 1: 暗褐色シルト質 (炭化物少、焼土塊多、 $\sim 0.5\text{cm}$  礫中)
- 2: 暗褐色シルト質 (炭化物多、 $\sim 0.3\text{cm}$  礫中、焼土塊少)
- 3: 暗褐色シルト質 (炭化物 $\cdot \sim 0.3\text{cm}$  礫少)
- 4: 暗褐色シルト質 ( $\sim 0.5\text{cm}$  礫中)
- 5: 暗褐色シルト質 ( $\sim 0.5\text{cm}$  礫 $\cdot$ 焼土塊中)
- 6: 暗褐色シルト質 ( $\sim 0.3\text{cm}$  礫多)

± 383



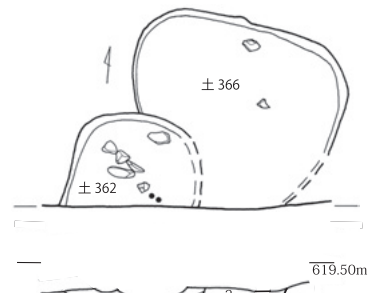
暗褐色シルト質 ( $\sim 1\text{cm}$  礫少)

± 367



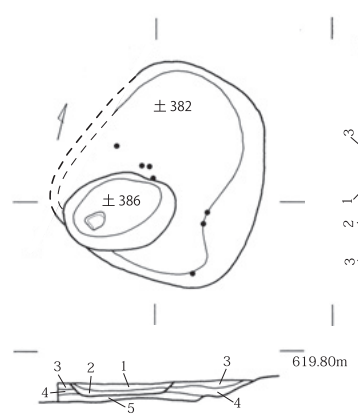
- 1: 暗褐色シルト質 (炭化物少、焼土塊 $\cdot \sim 0.5\text{cm}$  礫中)
- 2: にぶい黄褐色シルト質 (焼土塊多、炭化物少)
- 3: 暗褐色シルト質 (炭化物 $\cdot$ 焼土塊少)

± 362・366



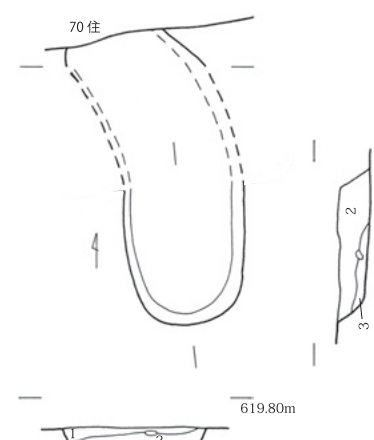
- 1: 暗褐色シルト質 ( $\sim 4\text{cm}$  礫 $\cdot$ 炭化物少)
- 2: 暗褐色シルト質 (砂粒 $\cdot$ 炭化物多)
- 3: にぶい黄褐色シルト質 (焼土塊 $\cdot \sim 0.3\text{cm}$  礫中)

± 382・386



- 1: 黒褐色シルト質 (砂粒 $\cdot$ 炭化物 $\cdot$ 橙土粒多)
- 2: 暗褐色シルト質 (砂粒多、炭化物中、橙土粒微)
- 3: 暗褐色シルト質 (砂粒多、鉄分中、炭化物微)
- 4: 暗褐色シルト質 (砂粒 $\cdot$ 鉄分多、炭化物 $\cdot$ 橙土粒微)
- 5: 黒褐色シルト質 (鉄分中、 $\sim 0.5\text{cm}$  礫少)

± 389



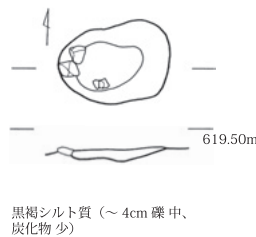
- 1: 暗褐色シルト質 ( $\sim 0.5\text{cm}$  礫大、鉄分中)
- 2: 黒褐色シルト質 ( $\sim 1\text{cm}$  礫 $\cdot$ 炭化物 $\cdot$ 焼土塊多)
- 3: 暗褐色シルト質 ( $\sim 2\text{cm}$  礫中、炭化物少)

± 371



黒褐色シルト質 (炭化物中、焼土粒 $\cdot \sim 0.5\text{cm}$  礫少)

± 377



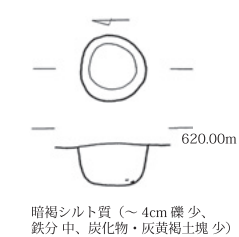
黒褐色シルト質 ( $\sim 4\text{cm}$  礫中、炭化物少)

± 390



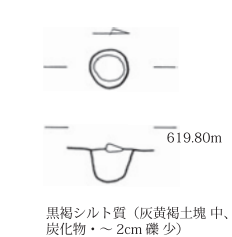
暗褐色シルト質 (炭化物 $\cdot$ 鉄分 $\cdot$ 灰褐色土塊少)

± 395



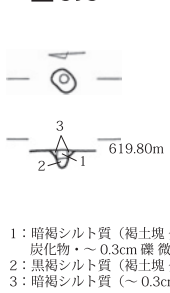
暗褐色シルト質 ( $\sim 4\text{cm}$  礫少、鉄分中、炭化物 $\cdot$ 灰褐色土塊少)

± 397



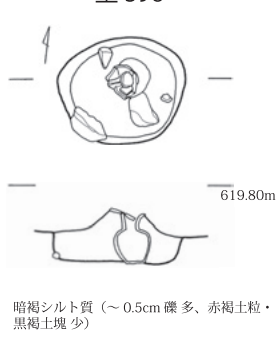
黒褐色シルト質 (灰褐色土塊中、炭化物 $\cdot \sim 2\text{cm}$  礫少)

± 393



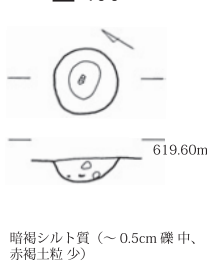
- 1: 暗褐色シルト質 (褐土塊少、炭化物 $\cdot \sim 0.3\text{cm}$  礫微)
- 2: 黒褐色シルト質 (褐土塊少)
- 3: 暗褐色シルト質 ( $\sim 0.3\text{cm}$  礫少)

± 398



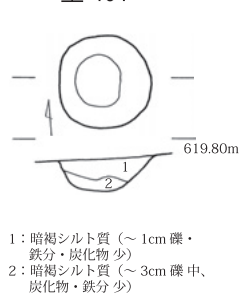
暗褐色シルト質 ( $\sim 0.5\text{cm}$  礫多、赤褐色土粒 $\cdot$ 黒褐色土塊少)

± 400



暗褐色シルト質 ( $\sim 0.5\text{cm}$  礫中、赤褐色土粒少)

± 401

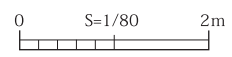


- 1: 暗褐色シルト質 ( $\sim 1\text{cm}$  礫 $\cdot$ 鉄分 $\cdot$ 炭化物少)
- 2: 暗褐色シルト質 ( $\sim 3\text{cm}$  礫中、炭化物 $\cdot$ 鉄分少)

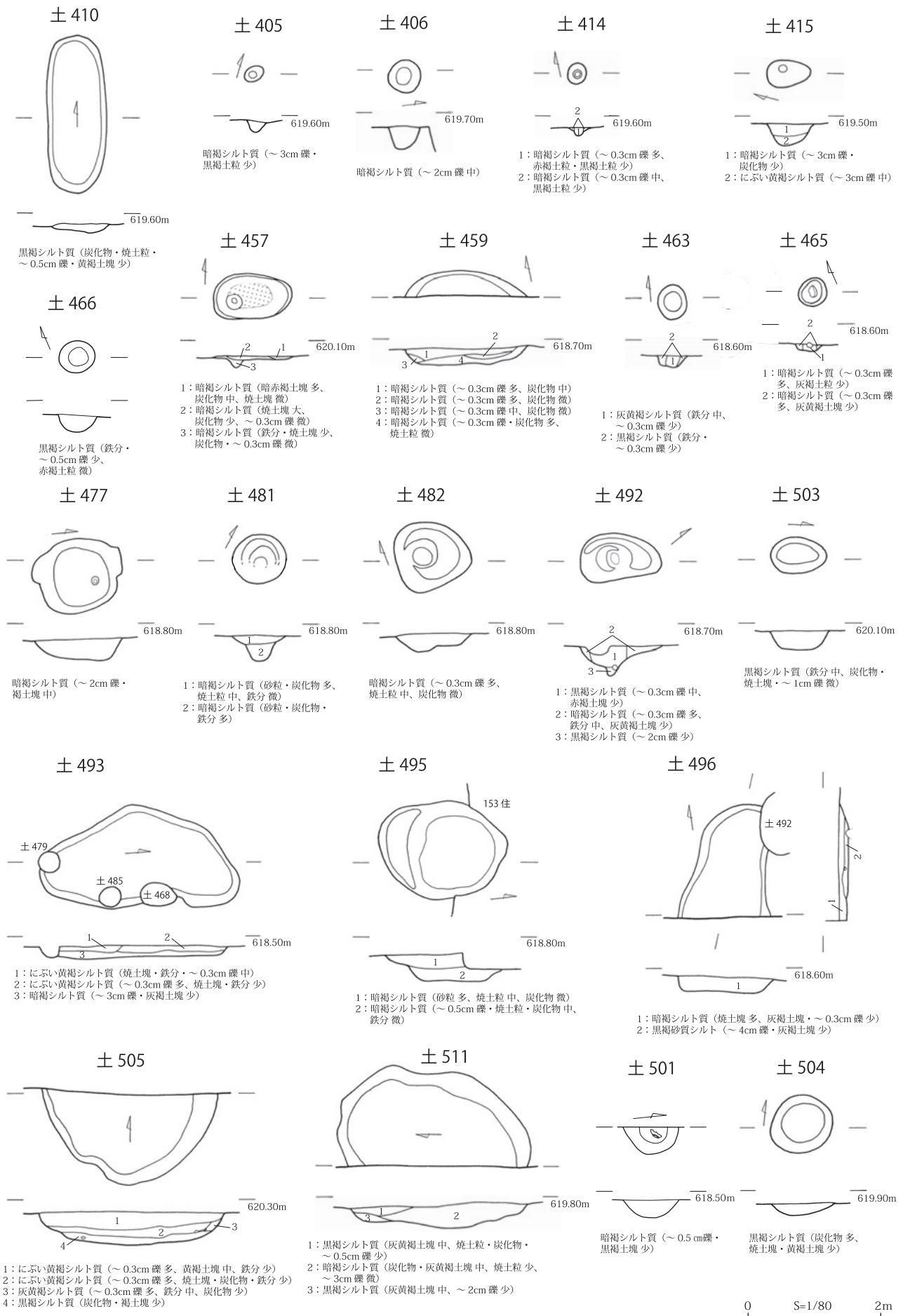
± 403



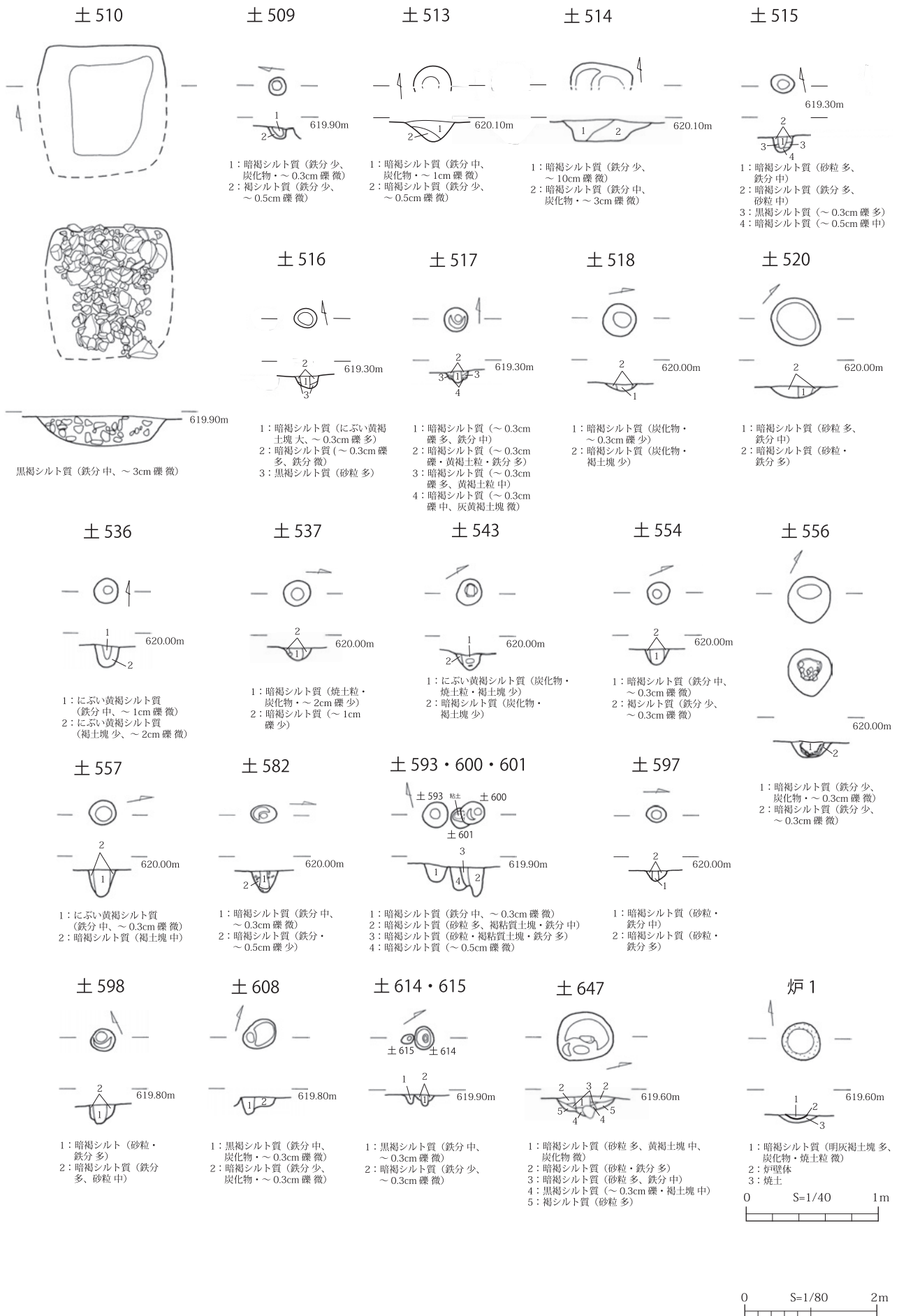
暗褐色シルト質 (鉄分少、炭化物 $\cdot \sim 0.3\text{cm}$  礫微)



図版 54 土坑 (4)



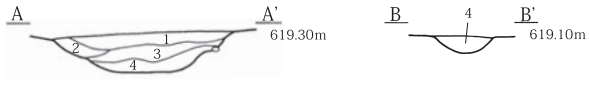
図版 55 土坑 (5)



図版 56 土坑 (6)、炉址

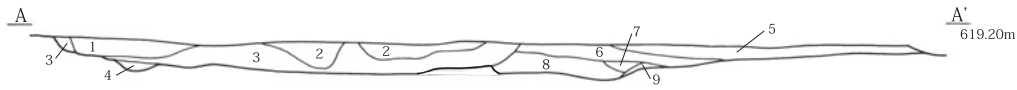


### 第1号溝址



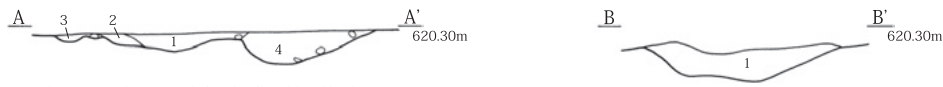
- 1: 暗褐シルト質 (鉄分微)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (鉄分少、明黄褐土粒微)
- 3: 黒褐砂質シルト (鉄分少、明黄褐土粒微)
- 4: 黒褐シルト質 (鉄分中、明黄褐土粒少)

### 第2号溝址



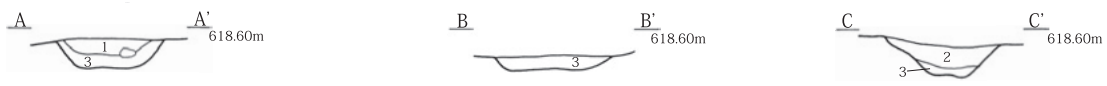
- 1: 灰黄褐シルト質 (~1cm 礫少、明黄褐土粒・鉄分微)
- 2: 黒褐シルト質 (~5cm 礫少、明黄褐土粒微)
- 3: 黒褐シルト質 (~10cm 礫大)
- 4: 灰黄褐細砂 (鉄分中、明黄褐土粒微)
- 5: 灰黄褐シルト質 (~5cm 礫中)
- 6: 灰黄褐シルト質 (~5cm 礫少、鉄分微)
- 7: 黒褐細砂 (鉄分中、~5cm 礫少)
- 8: にぶい黄褐シルト質 (~5cm 礫中、明黄褐土粒微)
- 9: 灰黄褐細砂 (鉄分・~1cm 礫少)

### 第4号溝址



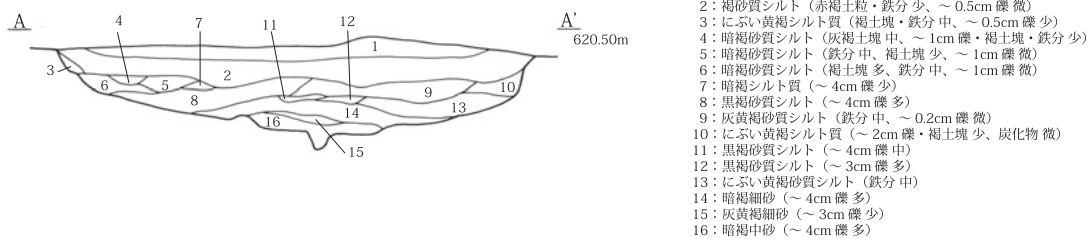
- 1: 黒褐シルト質 (~0.3cm 礫多、炭化物・赤褐土粒少)
- 2: 黒褐シルト質 (~0.5cm 礫多)
- 3: 暗褐シルト質 (~0.3cm 礫多、黄褐土塊少)
- 4: 黒褐砂質シルト (~0.3cm 礫多、黄褐土塊少)

### 第7号溝址



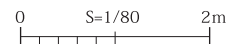
- 1: 黒褐シルト質 (~1cm 礫多、鉄分・~10cm 礫中)
- 2: にぶい黄褐シルト質 (鉄分多、~0.5cm 礫中、炭化物微)
- 3: 暗褐シルト質 (~0.5cm 礫・鉄分中)

### 第8号溝址



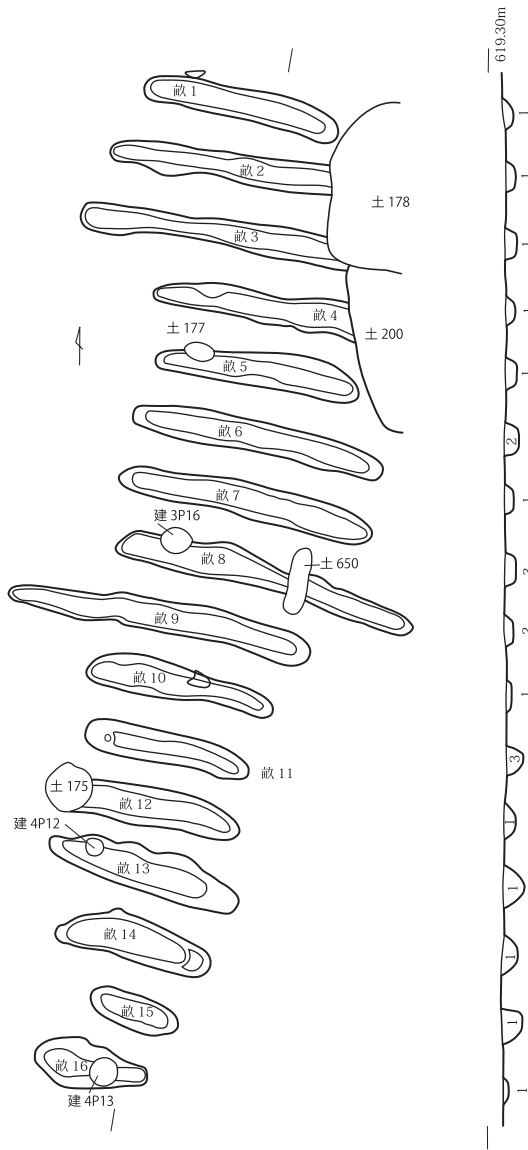
- 1: にぶい黄褐シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少)
- 2: 褐砂質シルト (赤褐土粒・鉄分少、~0.5cm 礫微)
- 3: にぶい黄褐シルト質 (褐土塊・鉄分中、~0.5cm 礫少)
- 4: 暗褐砂質シルト (灰褐土塊中、~1cm 礫・褐土塊・鉄分少)
- 5: 暗褐砂質シルト (鉄分中、褐土塊少、~1cm 礫微)
- 6: 暗褐砂質シルト (褐土塊多、鉄分中、~1cm 礫微)
- 7: 暗褐シルト質 (~4cm 礫少)
- 8: 黒褐砂質シルト (~4cm 礫多)
- 9: 灰黄褐砂質シルト (鉄分中、~0.2cm 礫微)
- 10: にぶい黄褐シルト質 (~2cm 礫・褐土塊少、炭化物微)
- 11: 黒褐砂質シルト (~4cm 礫中)
- 12: 黒褐砂質シルト (~3cm 礫多)
- 13: にぶい黄褐砂質シルト (鉄分中)
- 14: 暗褐細砂 (~4cm 礫多)
- 15: 灰黄褐細砂 (~3cm 礫少)
- 16: 暗褐中砂 (~4cm 礫多)

- 1: にぶい黄褐シルト質 (鉄分中、~0.3cm 礫少)
- 2: にぶい黄褐砂質シルト (鉄分・~0.3cm 礫・灰黄褐土塊少)
- 3: 褐砂質シルト (鉄分・灰褐土塊中、~2cm 礫少)
- 4: 暗褐砂質シルト (鉄分中、~2cm 礫・炭化物・灰褐土塊少)
- 5: にぶい黄褐砂質シルト (鉄分・灰褐土塊中、~0.5cm 礫微)
- 6: 暗褐砂質シルト (~0.2cm 礫中、褐土塊・灰褐土塊少)
- 7: 暗褐砂質シルト (鉄分中、褐土塊・灰褐土塊少)
- 8: 暗褐砂質シルト (鉄分中、~1cm 礫少)
- 9: にぶい黄褐砂質シルト (~0.3cm 礫少)
- 10: 褐砂質シルト (~0.3cm 礫中、褐土塊少)
- 11: 暗褐砂質シルト (~6cm 礫多)
- 12: 暗褐砂質シルト (~4cm 礫多)
- 13: 暗褐砂質シルト (~3cm 礫少)
- 14: にぶい黄褐砂質シルト (~3cm 礫少)
- 15: にぶい黄褐細砂 (~6cm 礫多)
- 16: 暗褐砂質シルト (鉄分中、~5cm 礫少)
- 17: 暗褐中砂 (~10cm 礫多)
- 18: 暗褐砂質シルト (褐土粒多)
- 19: 暗褐砂質シルト (鉄分・灰褐土塊中、~0.3cm 礫少、赤褐土粒微)
- 20: 褐砂質シルト (灰褐土塊・鉄分中)

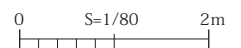


図版 57 溝址

畝址

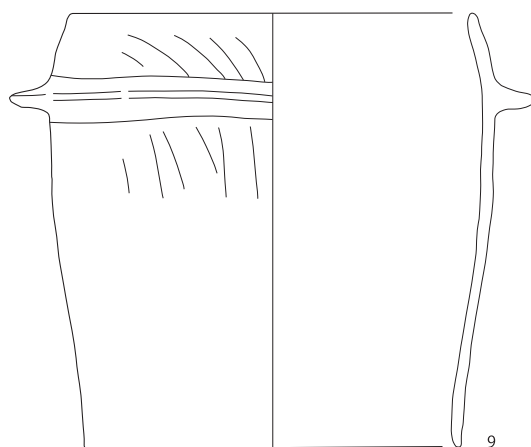
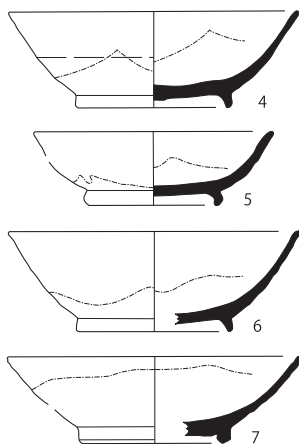
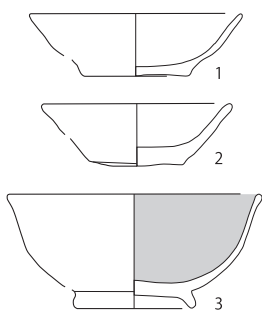


- 1: 暗褐色シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少)
- 2: 暗褐色シルト質 (鉄分・~0.3cm 礫少、炭化物微)
- 3: 暗褐色シルト質 (灰黄褐色土塊中、~0.3cm 礫少、鉄分微)

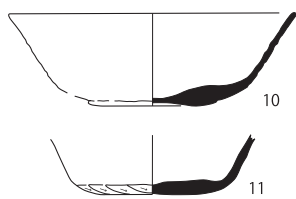


図版 58 畝址

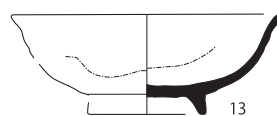
14住



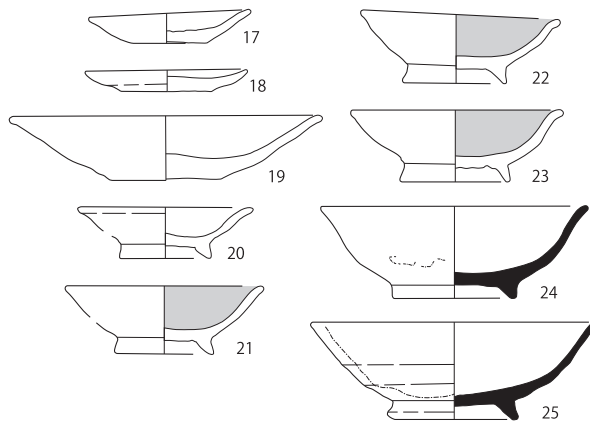
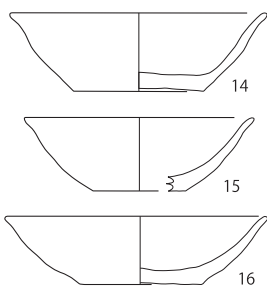
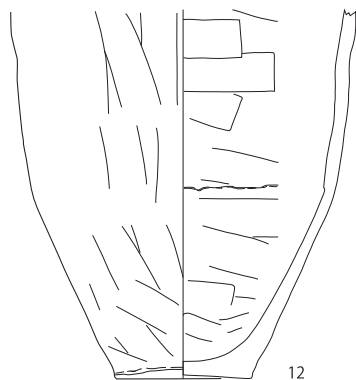
15住



17住



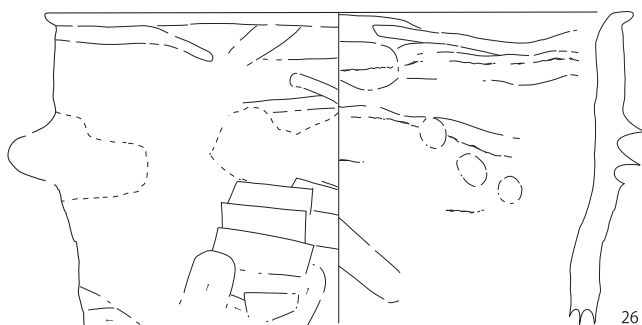
18住



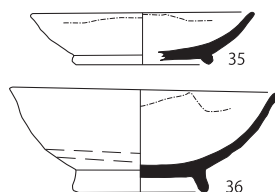
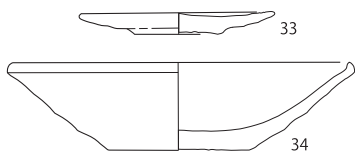
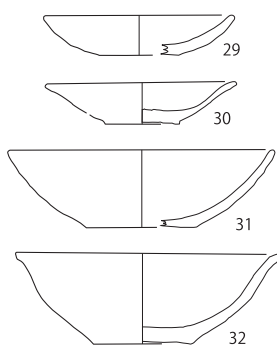
19住



20住



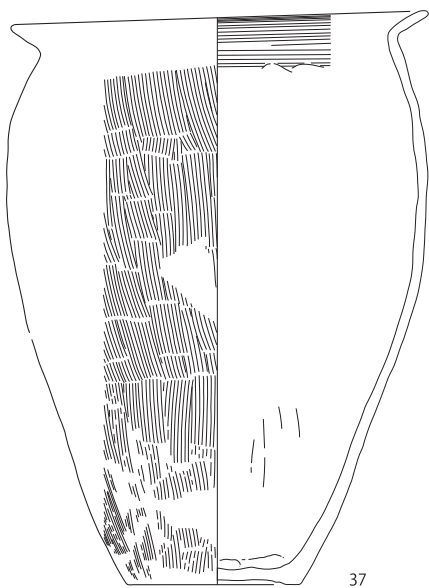
21住



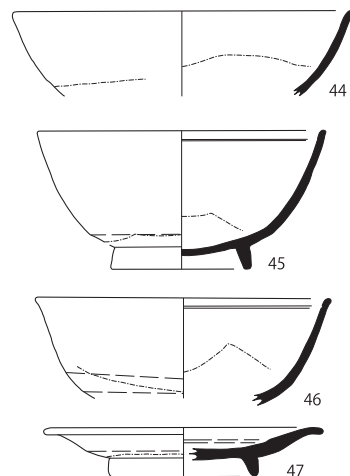
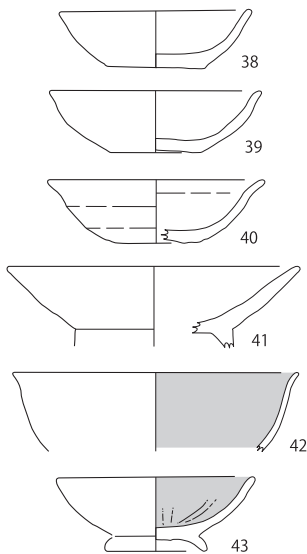
0 S=1/4 10cm

图版 59 土器 (1)

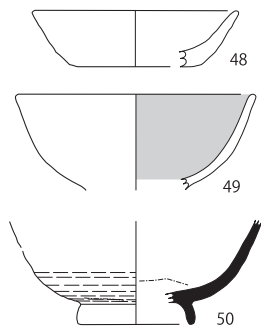
22住



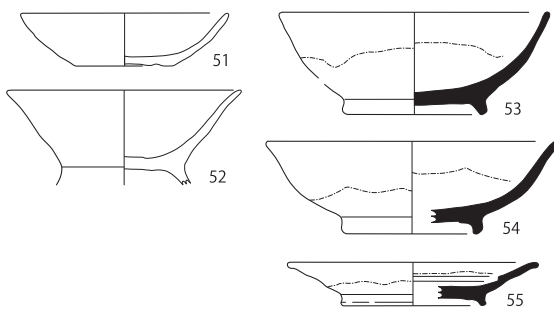
23住



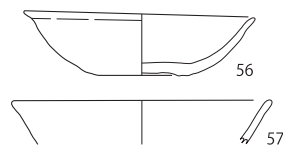
24住



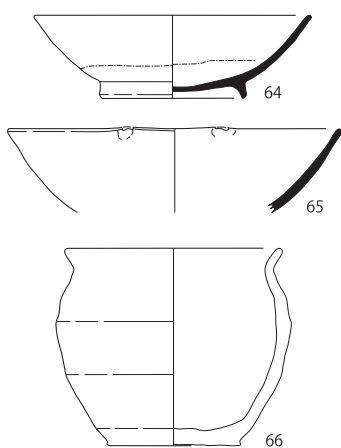
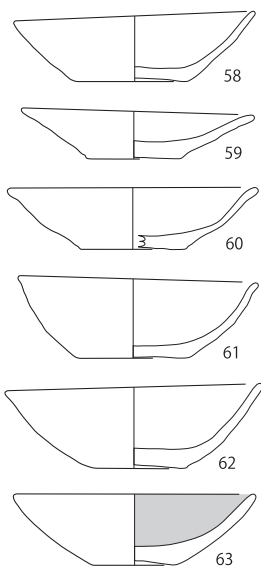
25住



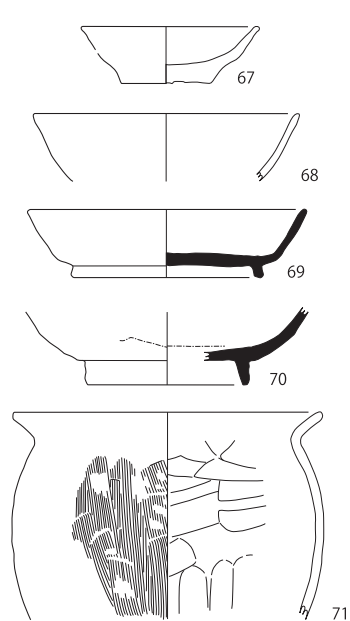
26住



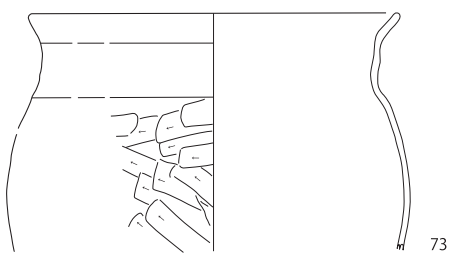
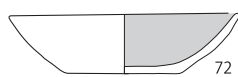
27住



28住



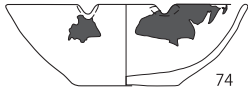
29住



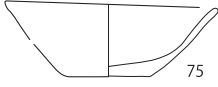
0 S=1/4 10cm

图版 60 土器 (2)

30住



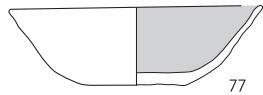
74



75



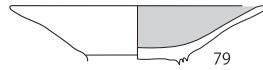
76



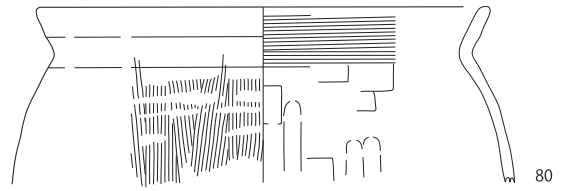
77



78

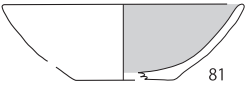


79

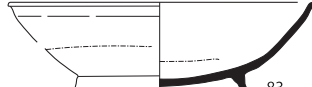


80

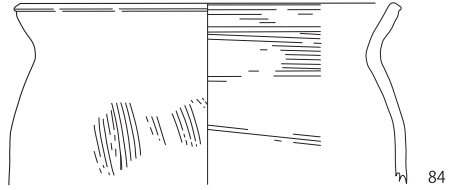
31住



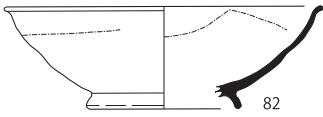
81



83

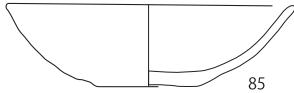


84

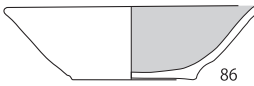


82

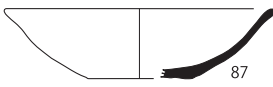
32住



85



86



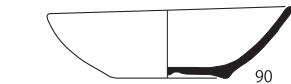
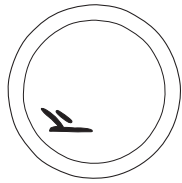
87



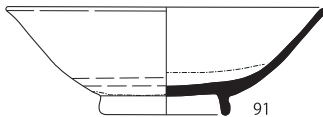
88



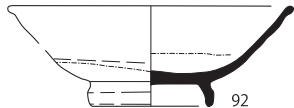
89



90



91



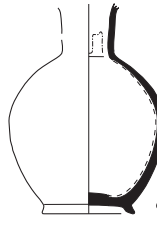
92



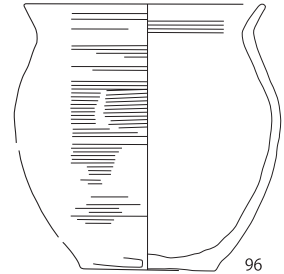
93



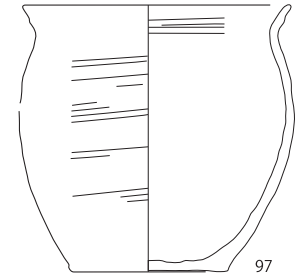
94



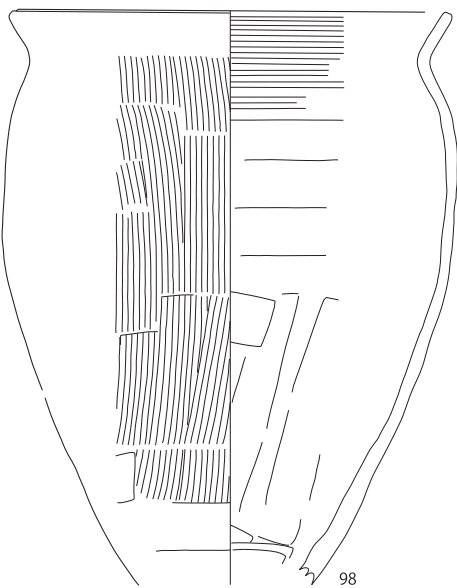
95



96

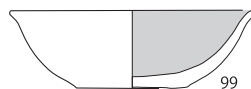


97

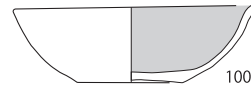


98

34住



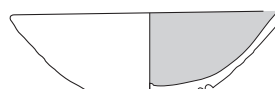
99



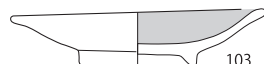
100



101



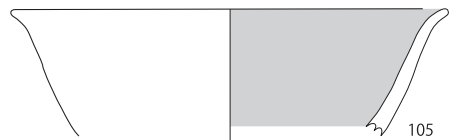
102



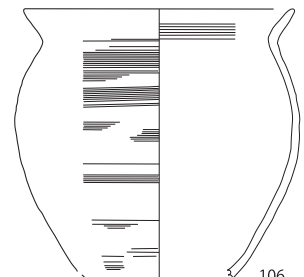
103



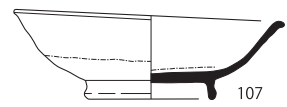
104



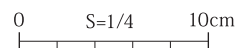
105



106

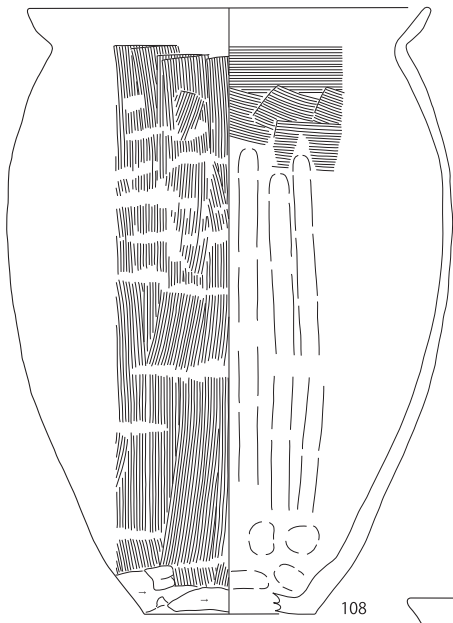


107

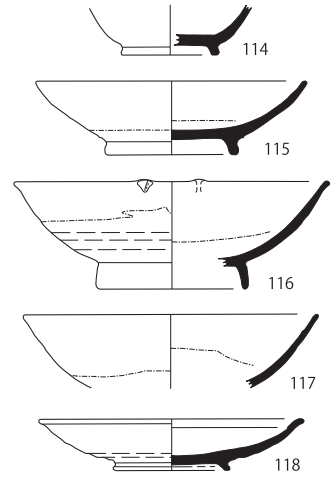
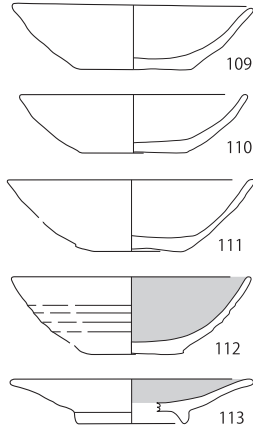


图版 61 土器 (3)

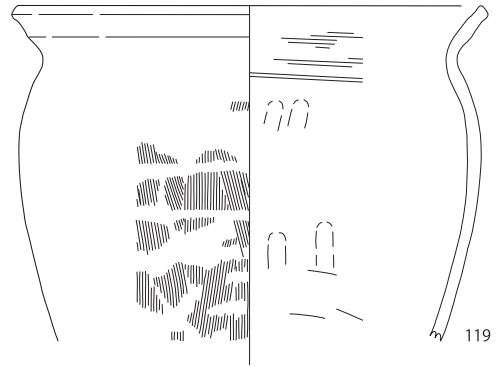
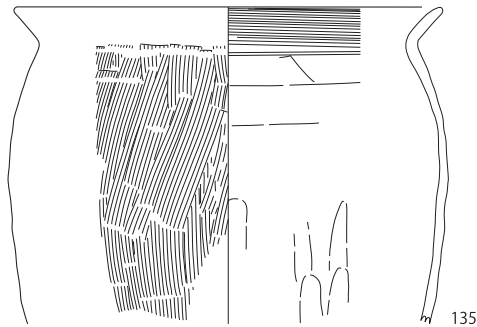
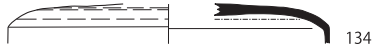
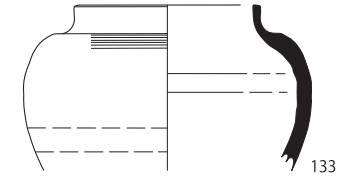
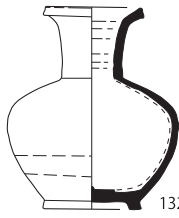
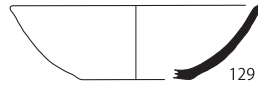
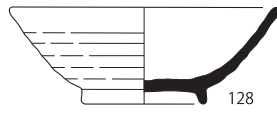




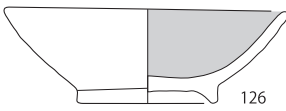
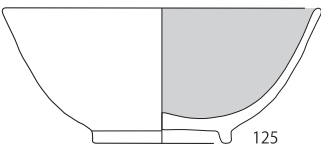
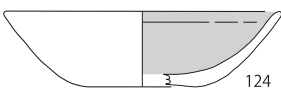
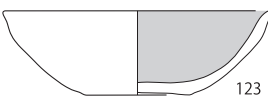
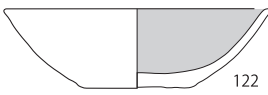
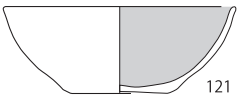
35住



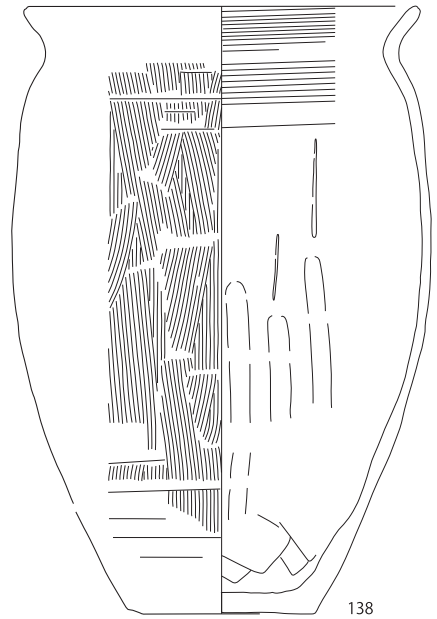
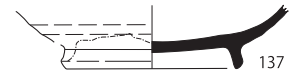
36住



37住



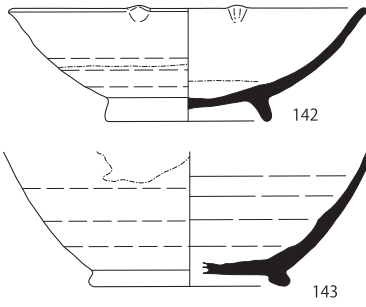
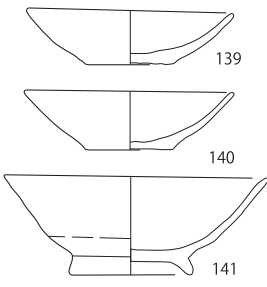
38住



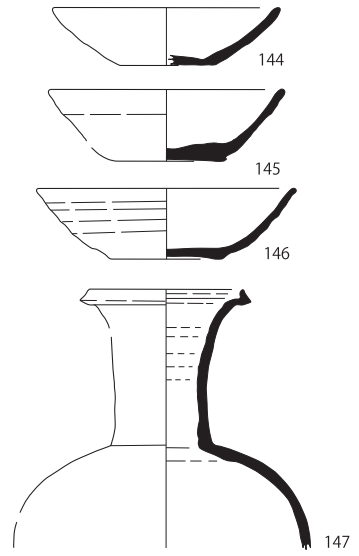
0 S=1/4 10cm

图版 62 土器 (4)

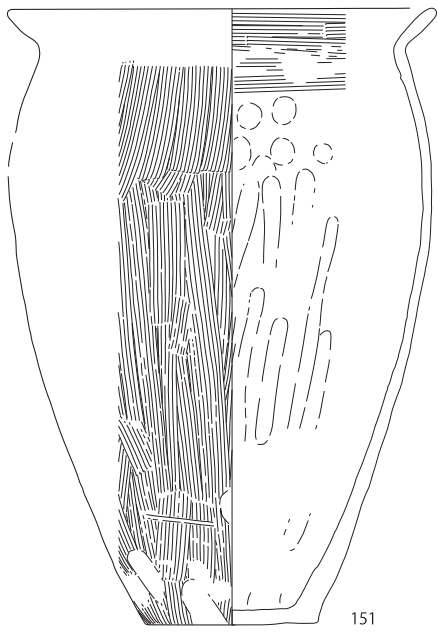
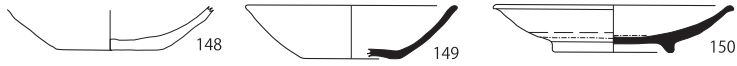
39住



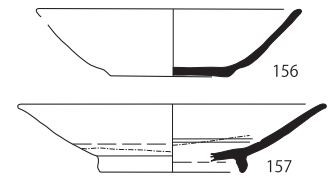
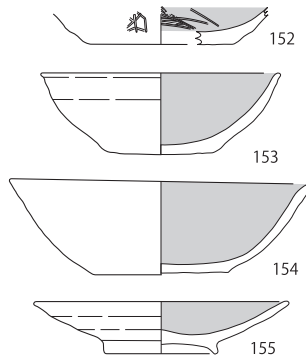
40住



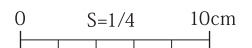
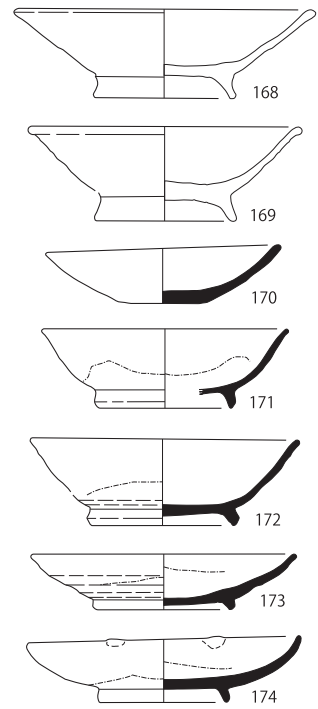
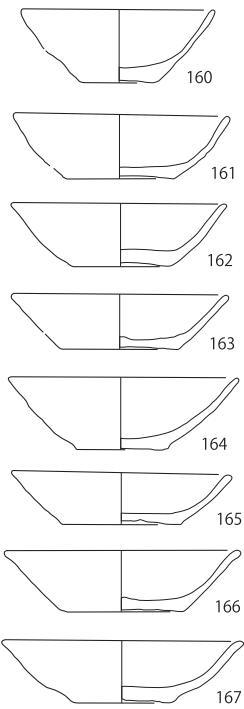
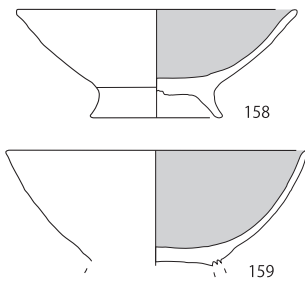
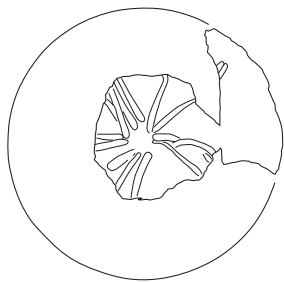
41住



42住

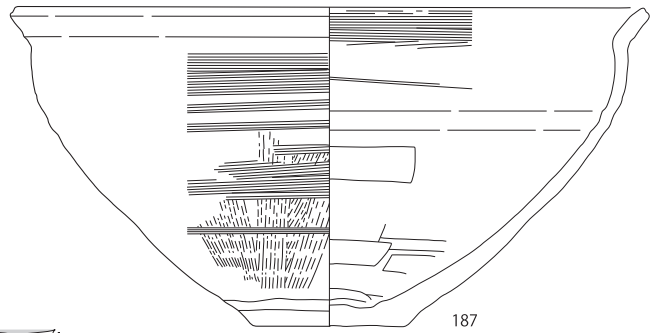
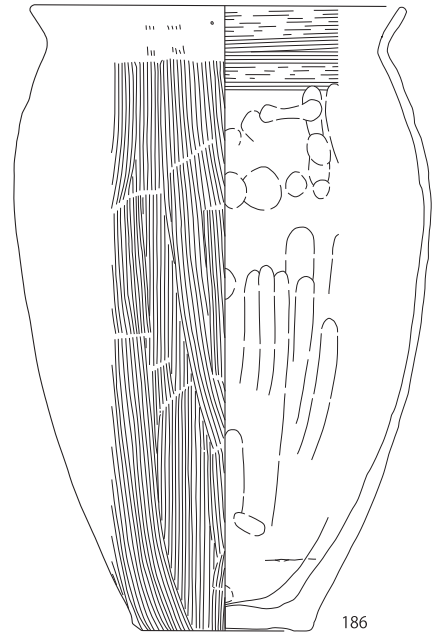
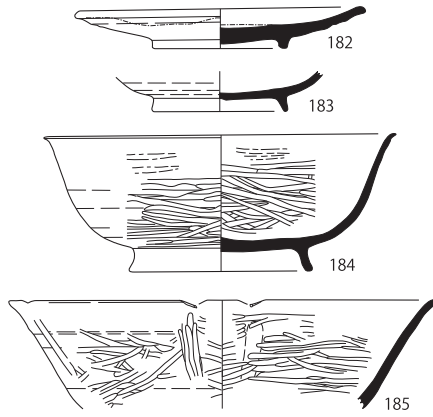
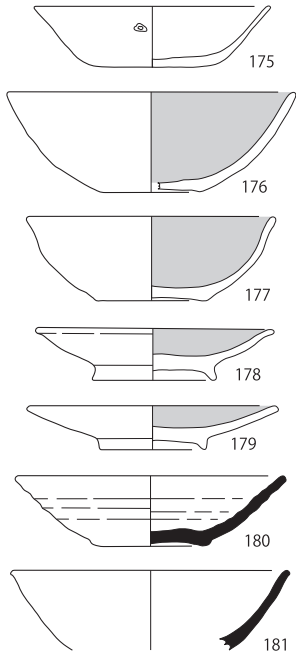


43住

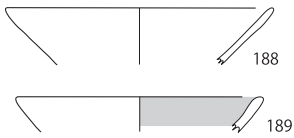


图版 63 土器 (5)

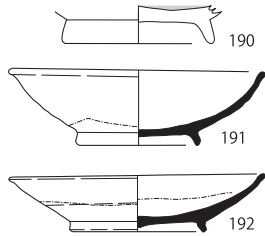
44住



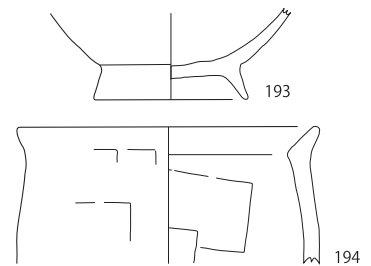
45住



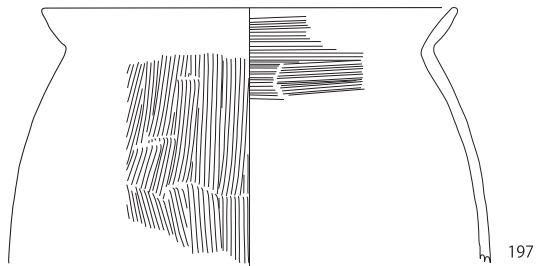
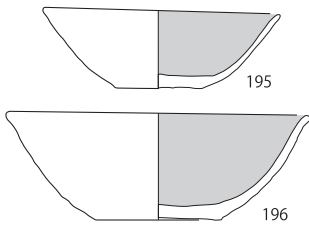
46住



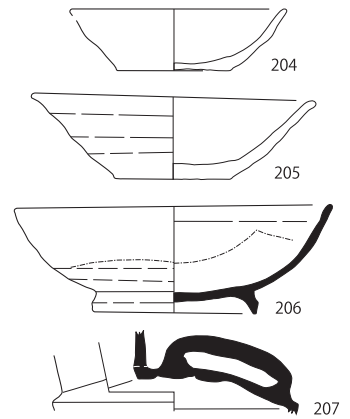
47住



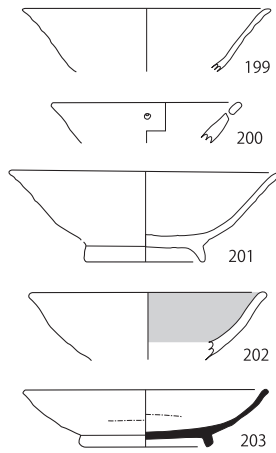
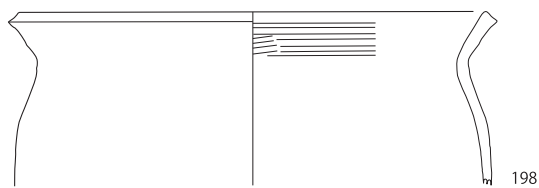
49住



51住



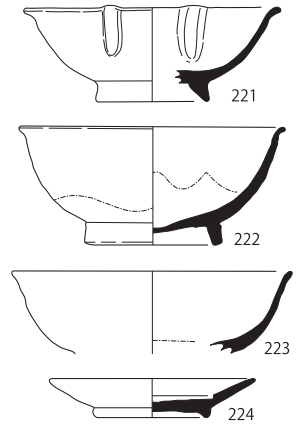
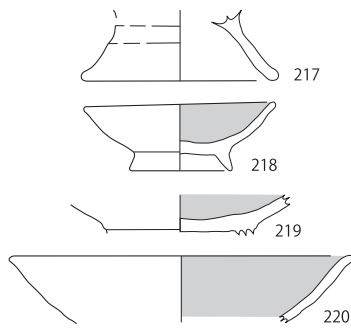
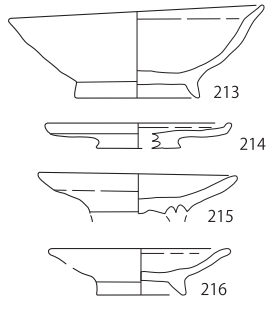
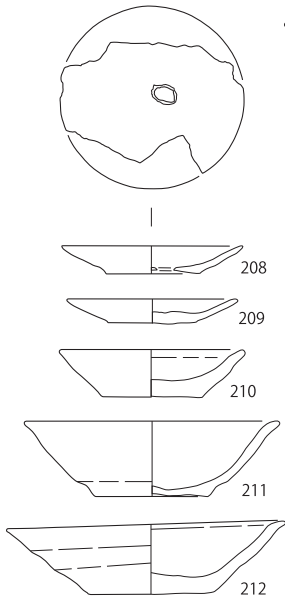
50住



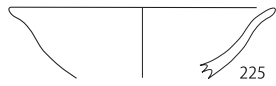
0 S=1/4 10cm

图版 64 土器 (6)

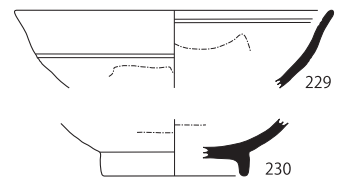
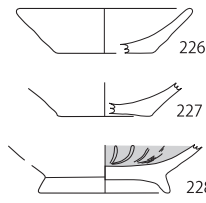
53住



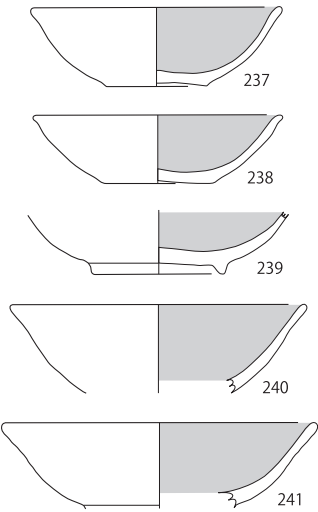
54住



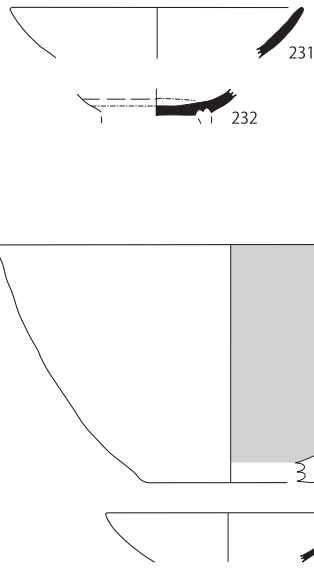
55住



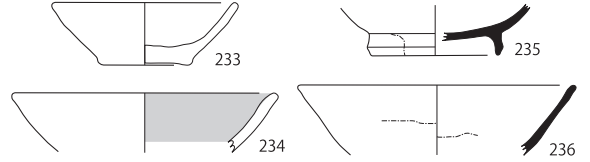
58住



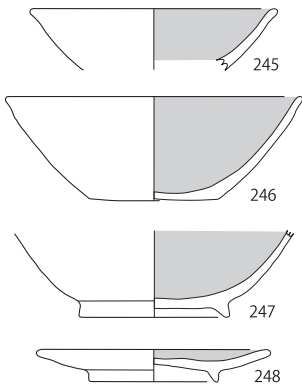
56住



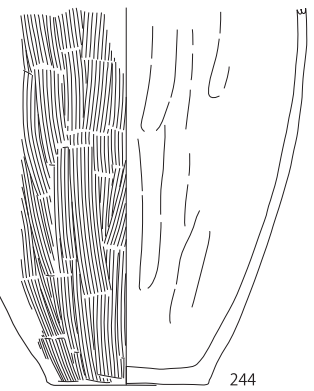
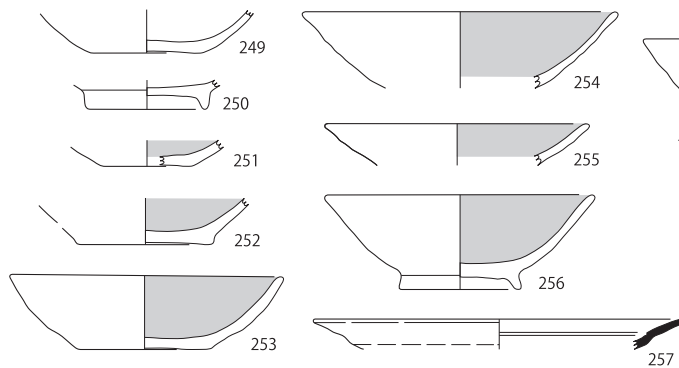
57住



59住



60住

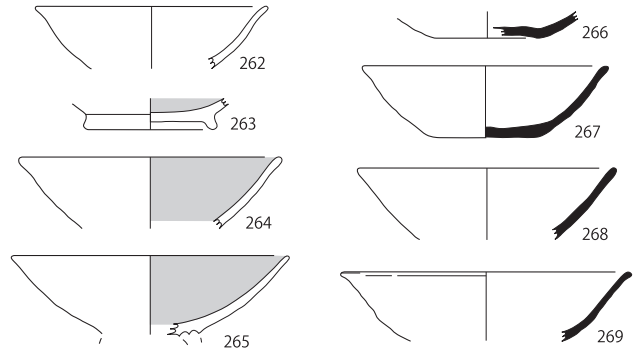


0 S=1/4 10cm

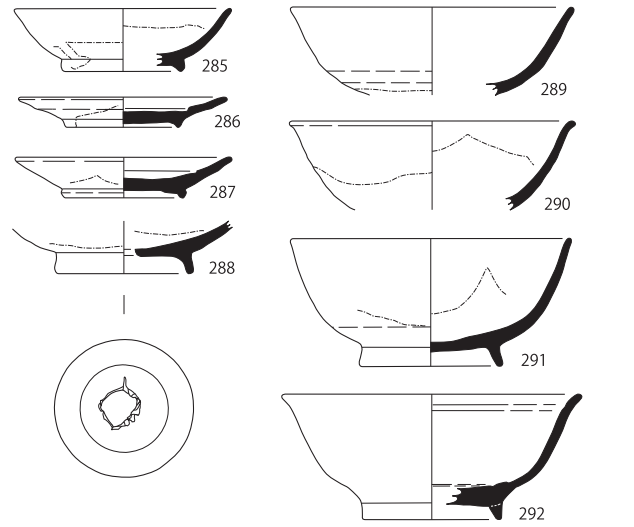
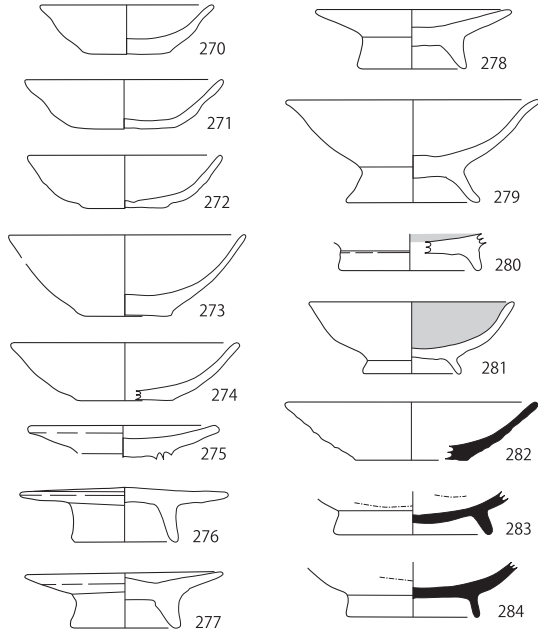
图版 65 土器 (7)



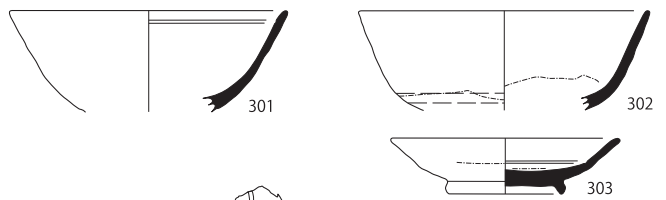
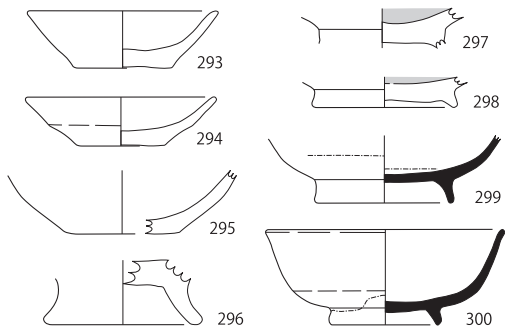
61住



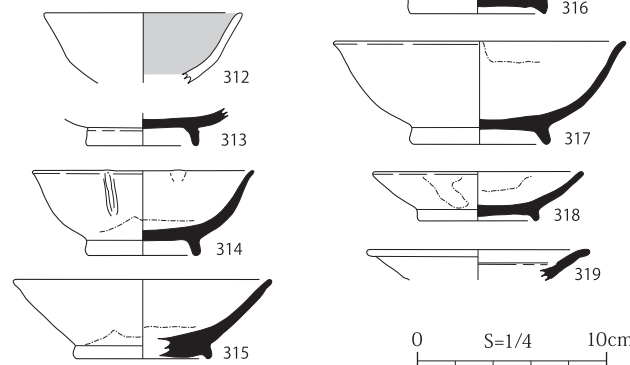
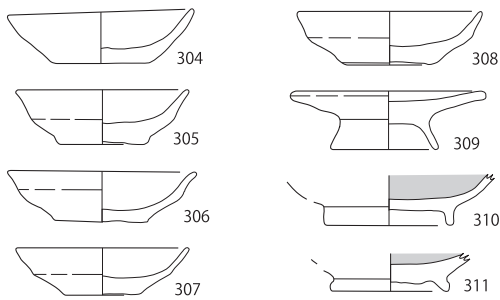
62住



63住

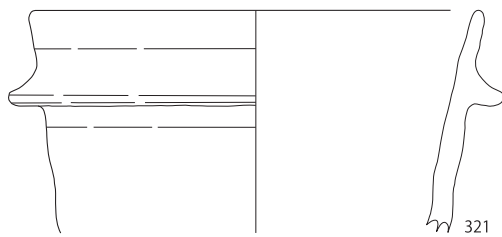


64住

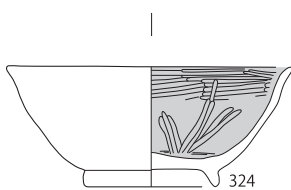
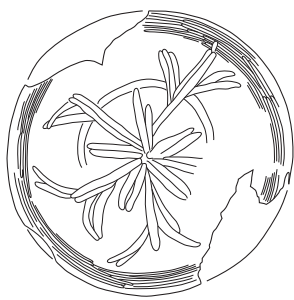
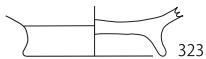
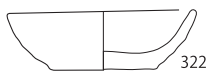


图版 66 土器 (8)

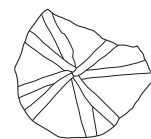
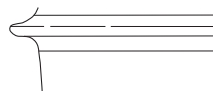
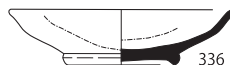
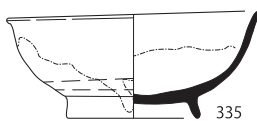
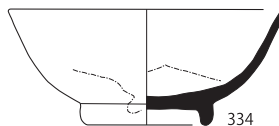
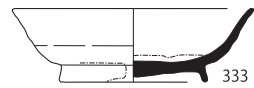
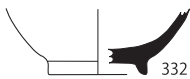
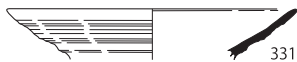
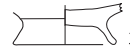
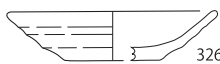




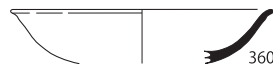
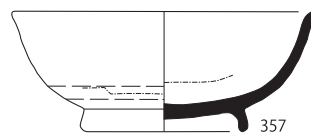
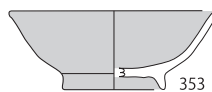
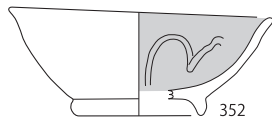
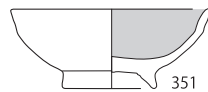
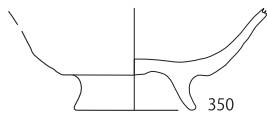
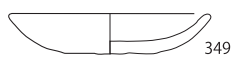
65住



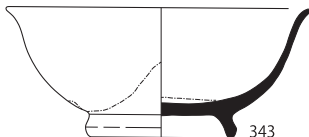
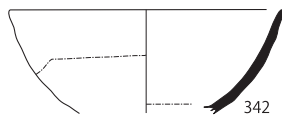
66住



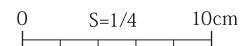
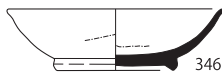
69住



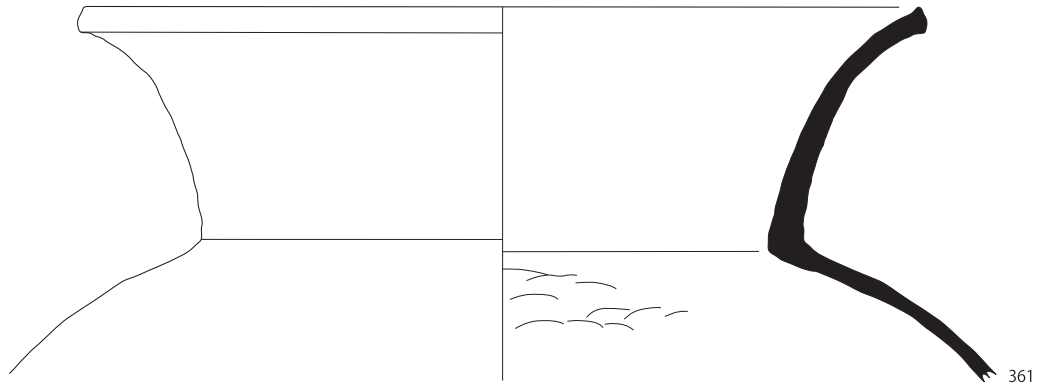
67住



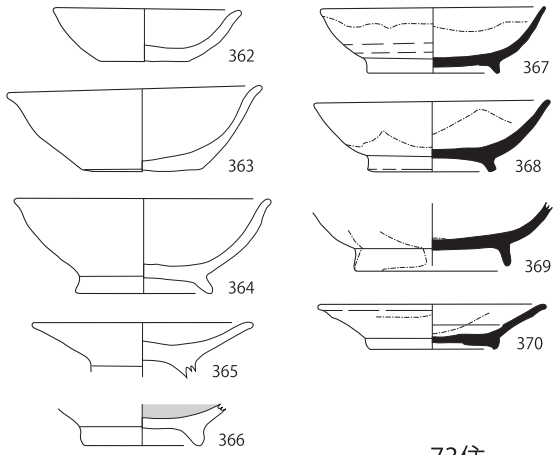
68住



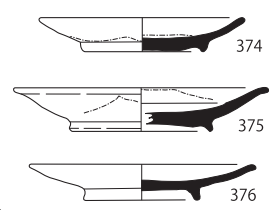
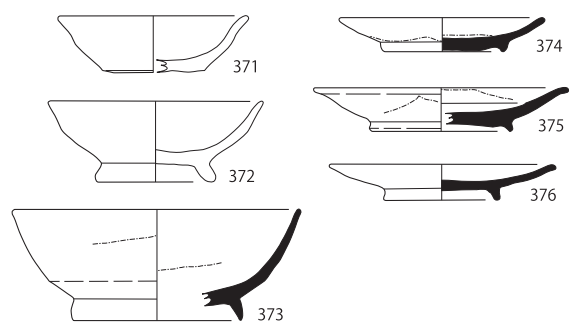
图版 67 土器 (9)



70住



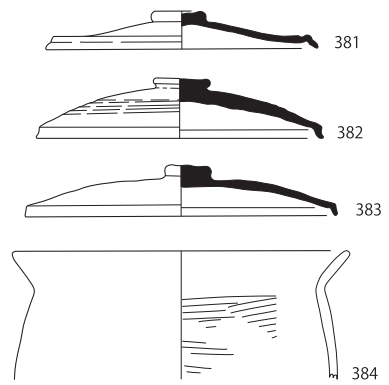
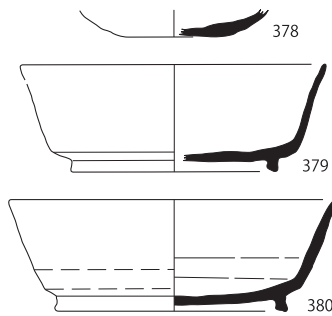
71住



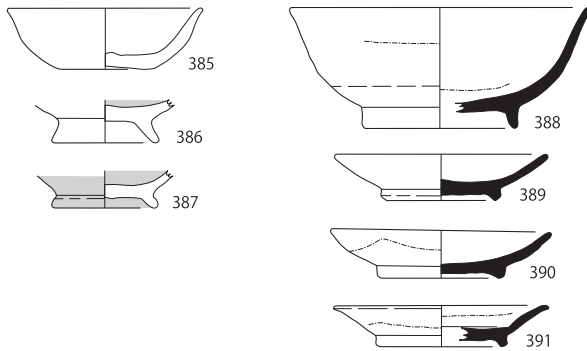
72住



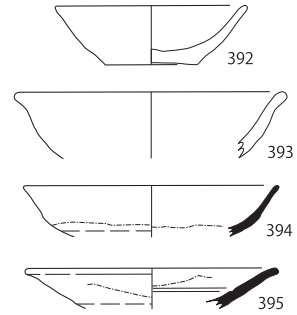
73住



74住



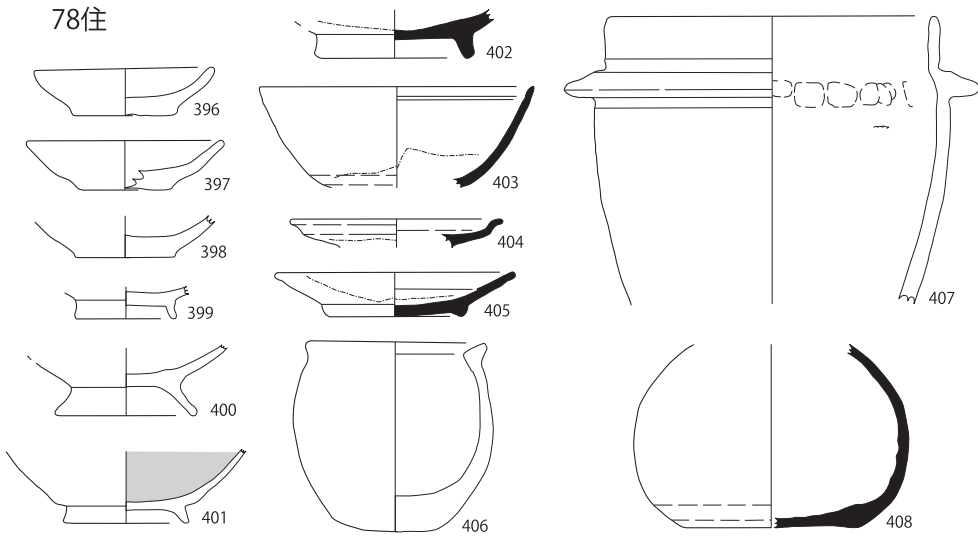
77住



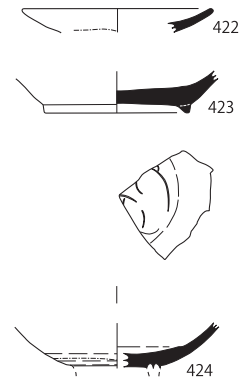
0 S=1/4 10cm

图版 68 土器 (10)

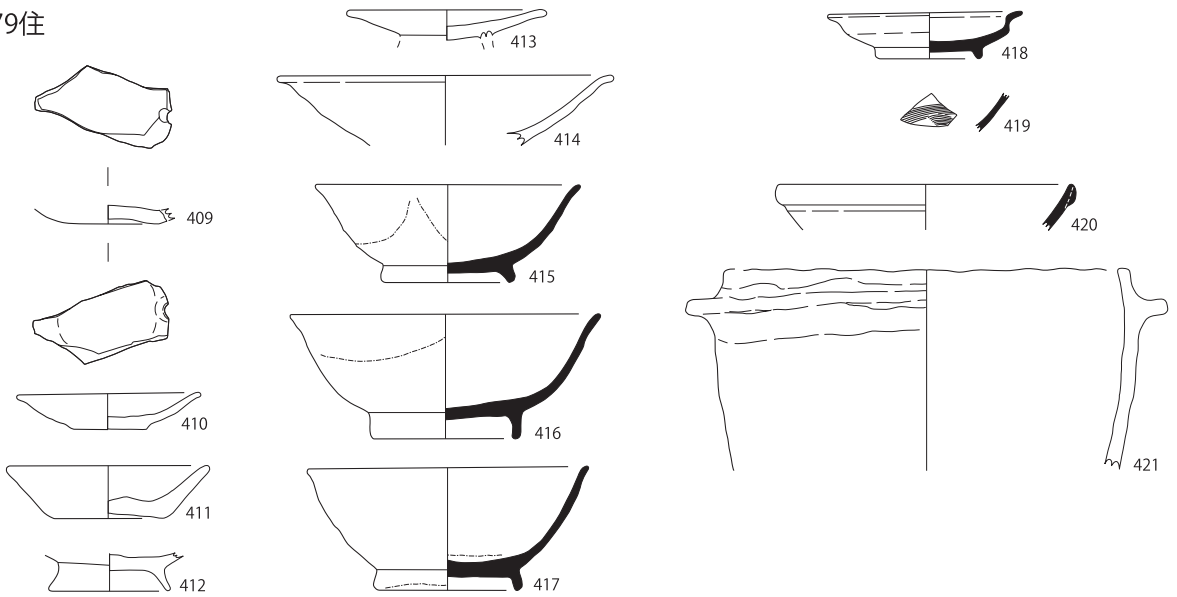
78住



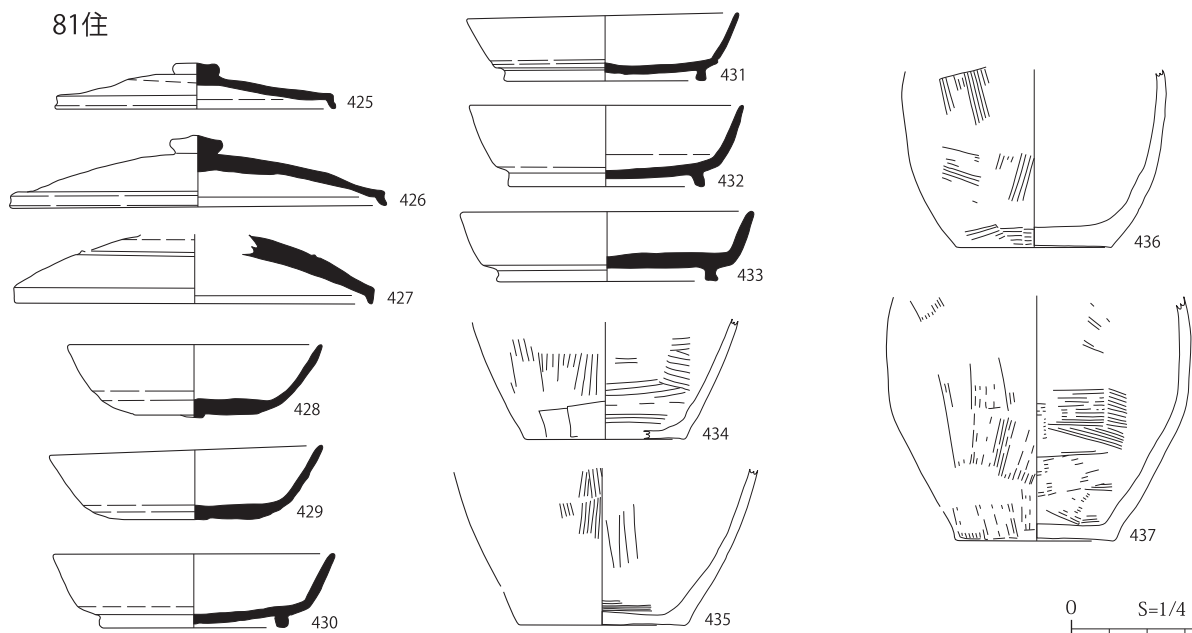
80住



79住

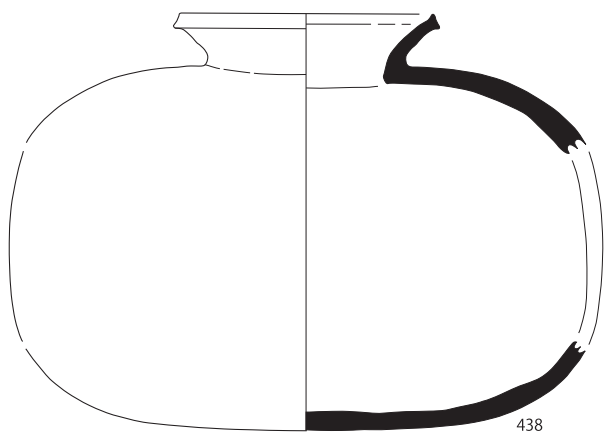


81住

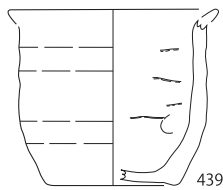


0 S=1/4 10cm

图版 69 土器 (11)

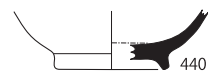


438



439

82住

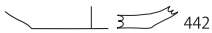


440



441

83住



442



443



444



445



446



447



448

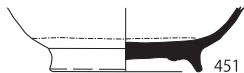
84住



449



450

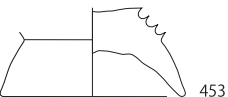


451

85住



452



453



454

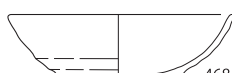


455

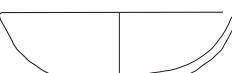


456

87住



468



469



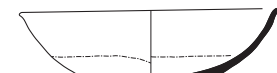
470



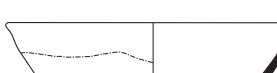
471



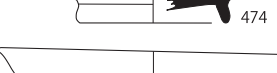
472



473



474



475



476

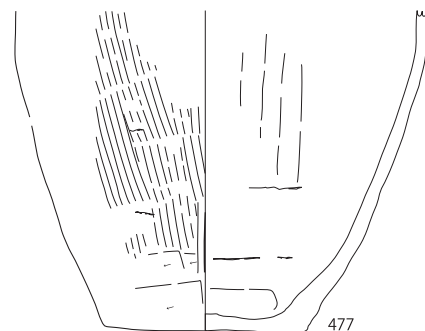
88住



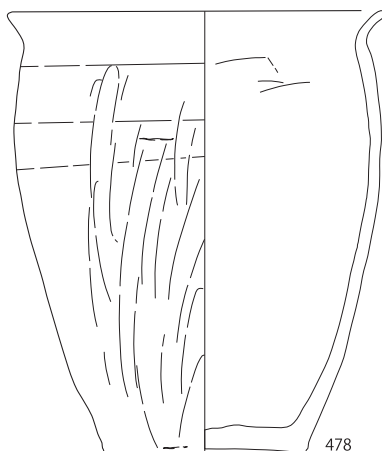
479



480



477

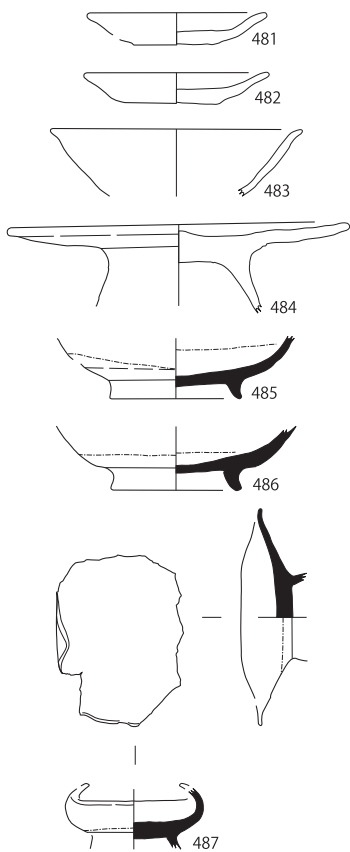


478

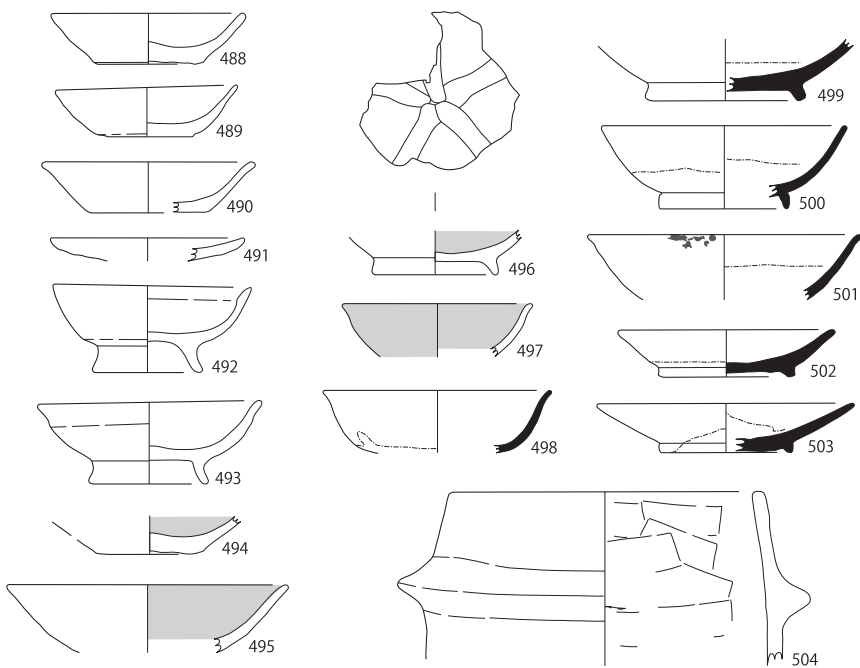
0 S=1/4 10cm

图版 70 土器 (12)

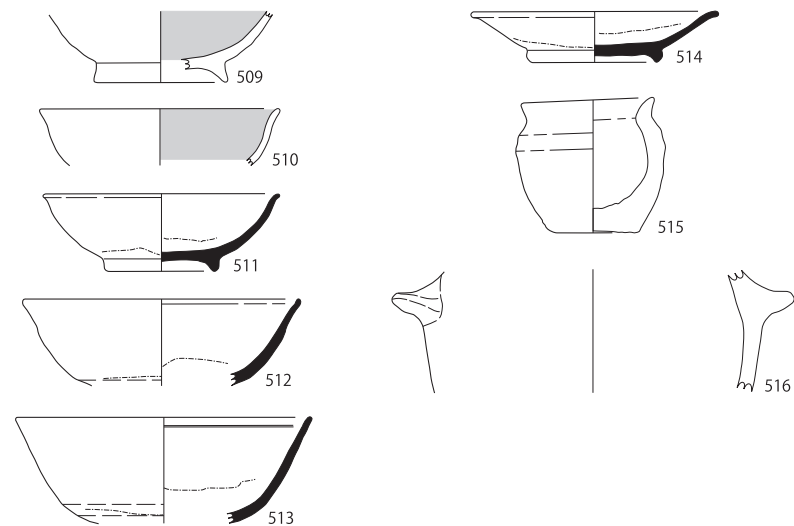
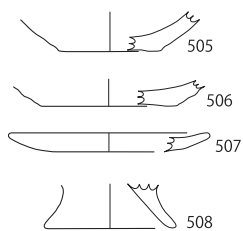
89住



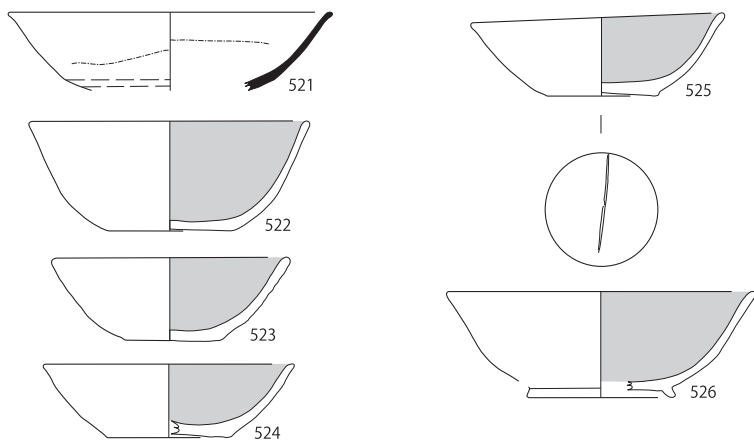
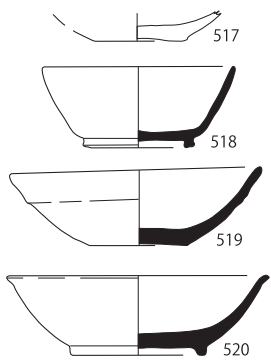
90住



91住



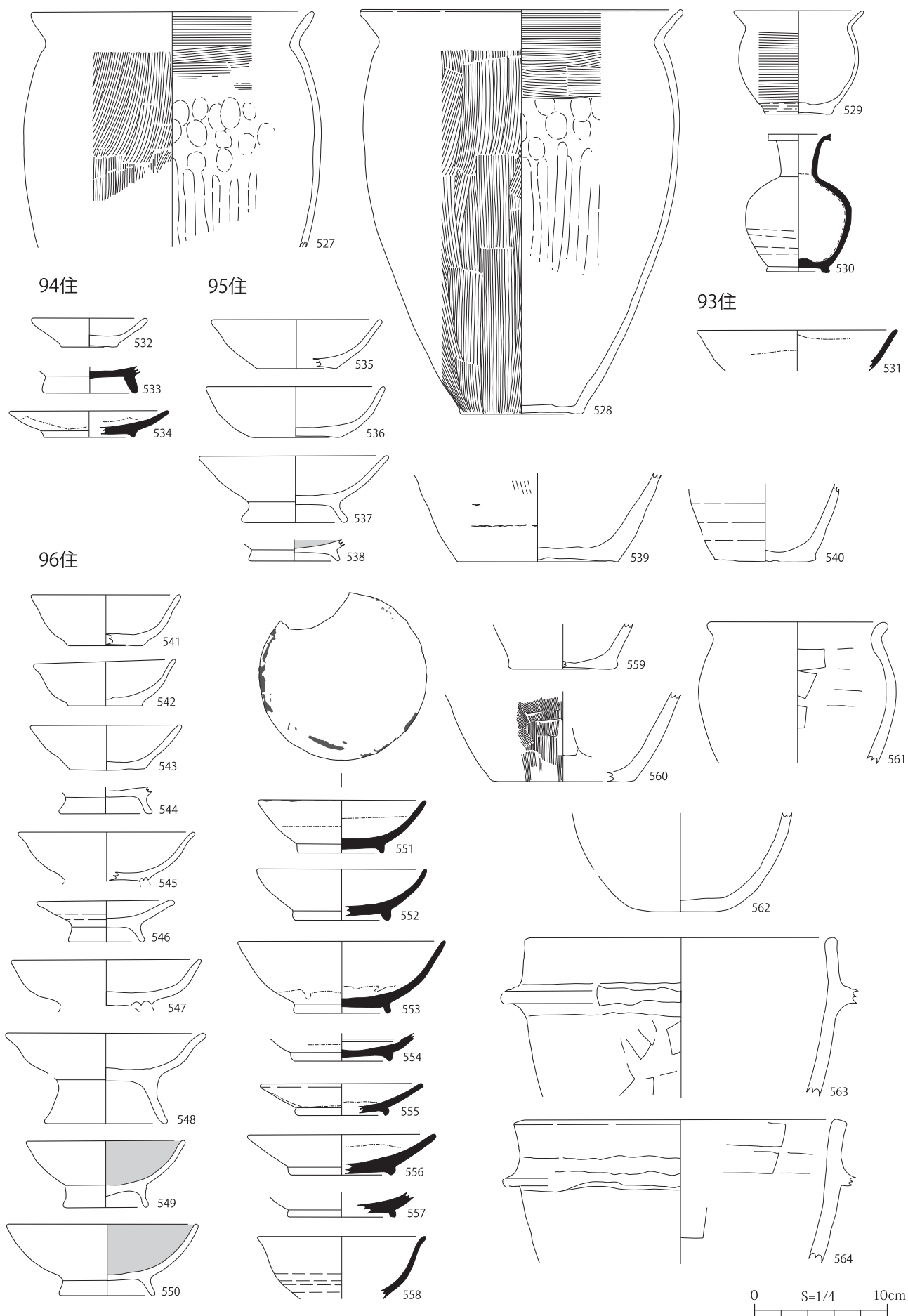
92住



0 S=1/4 10cm

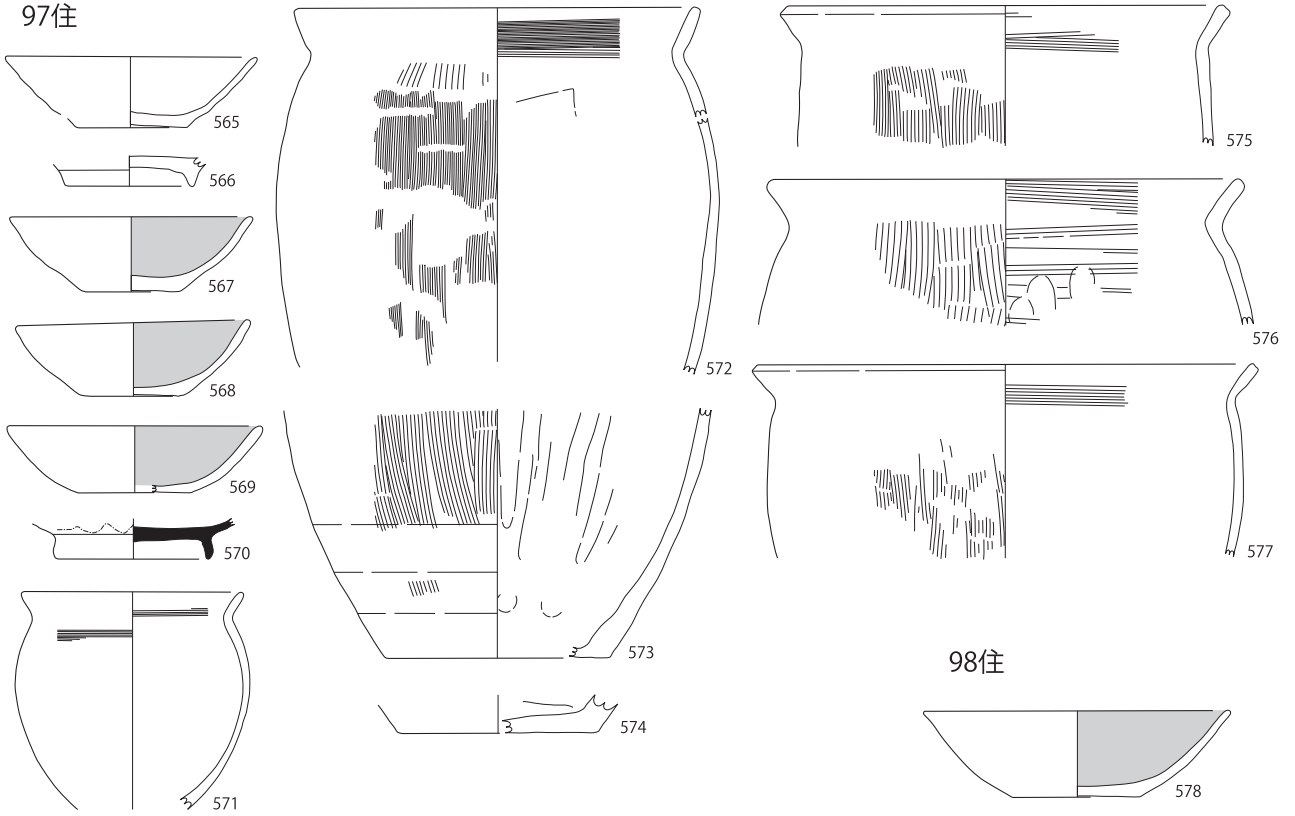
图版 71 土器 (13)



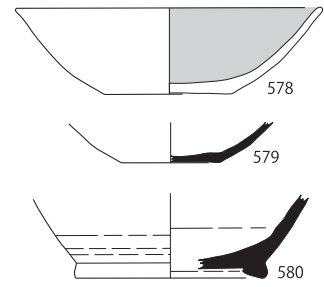


图版 72 土器 (14)

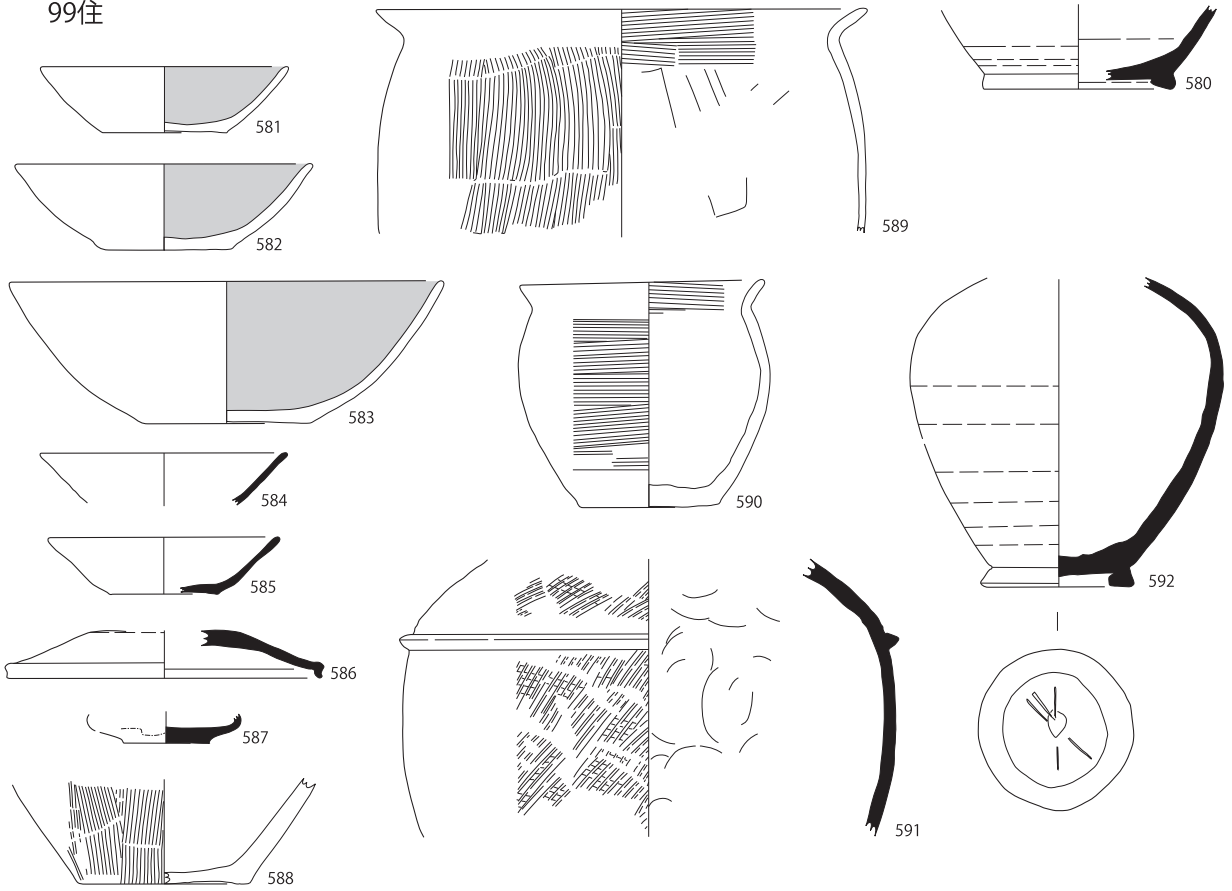
97住



98住



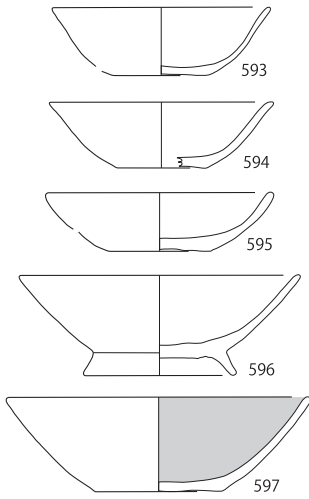
99住



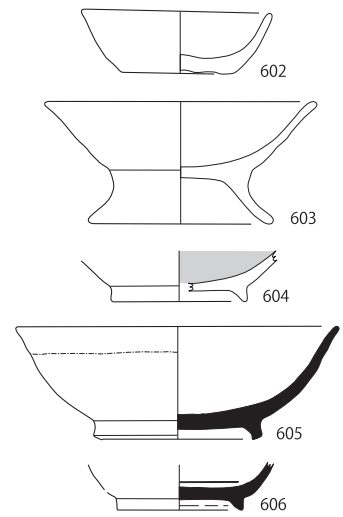
0 S=1/4 10cm

图版 73 土器 (15)

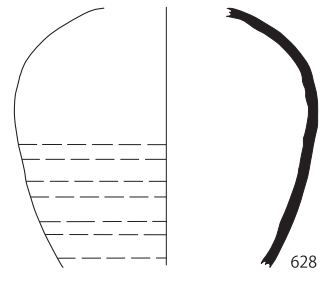
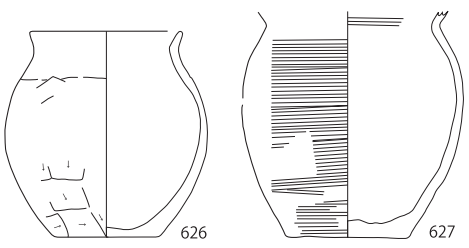
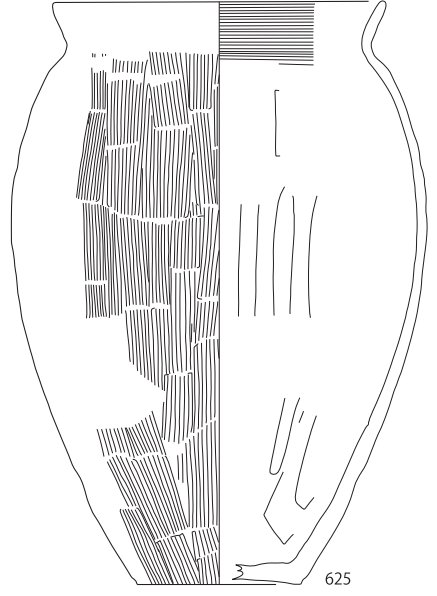
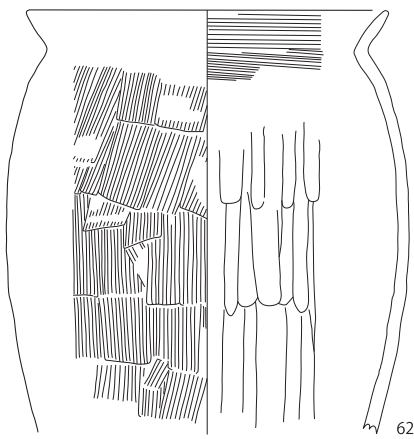
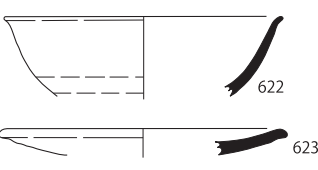
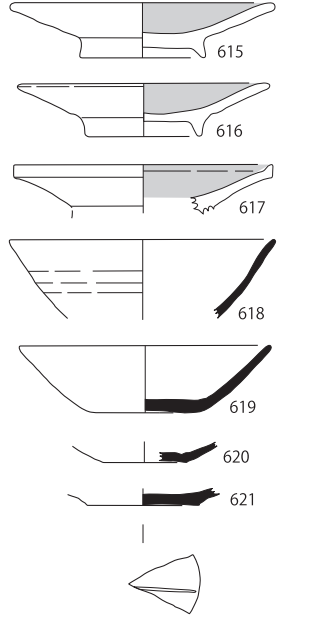
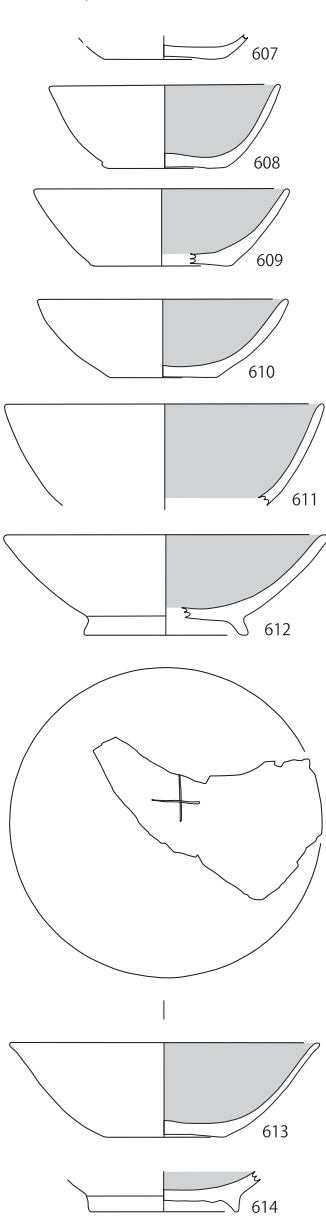
100住



101住

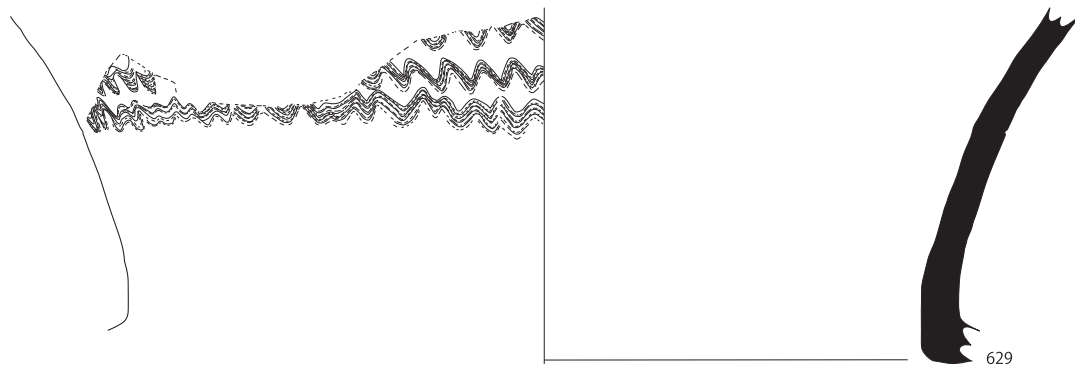


102住

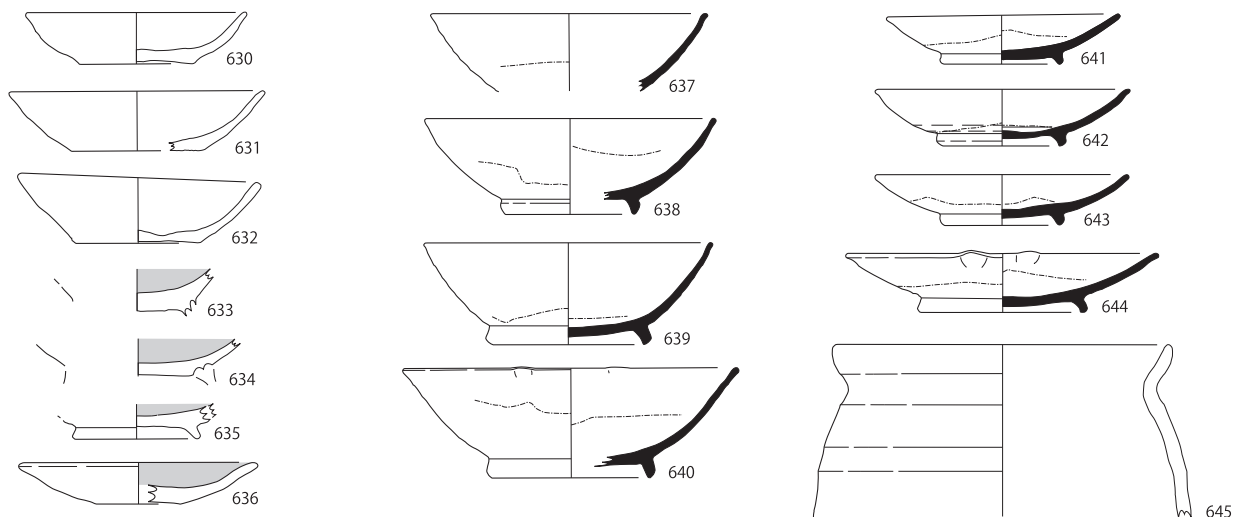


0 S=1/4 10cm

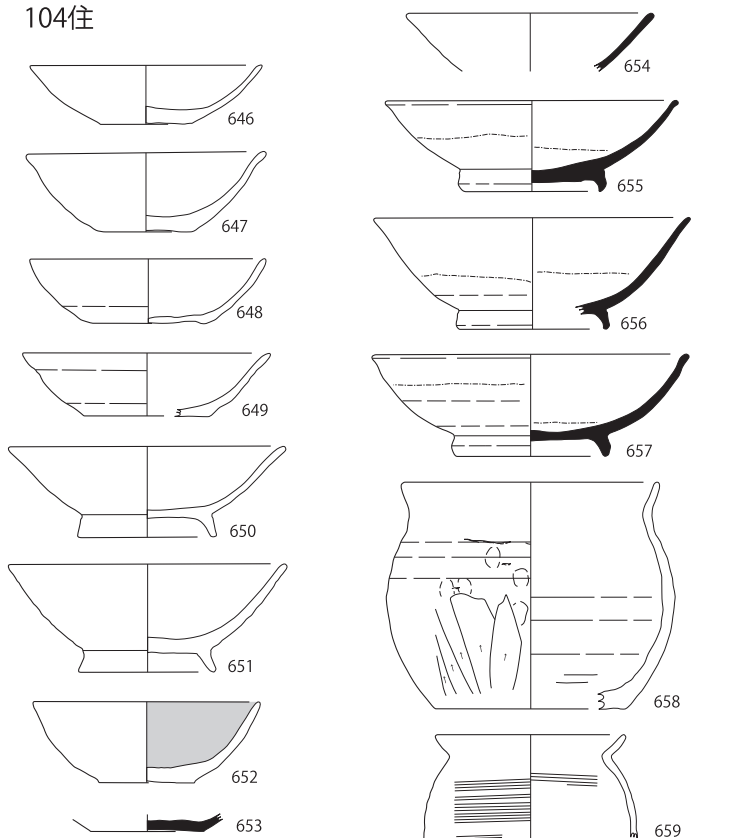
图版 74 土器 (16)



103住



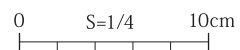
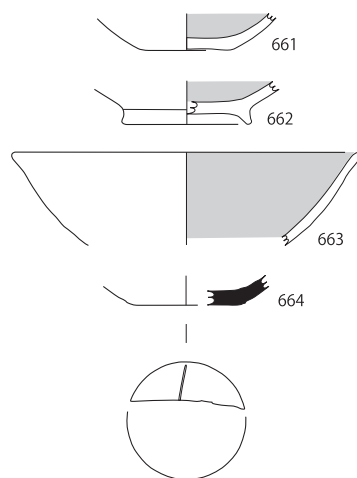
104住



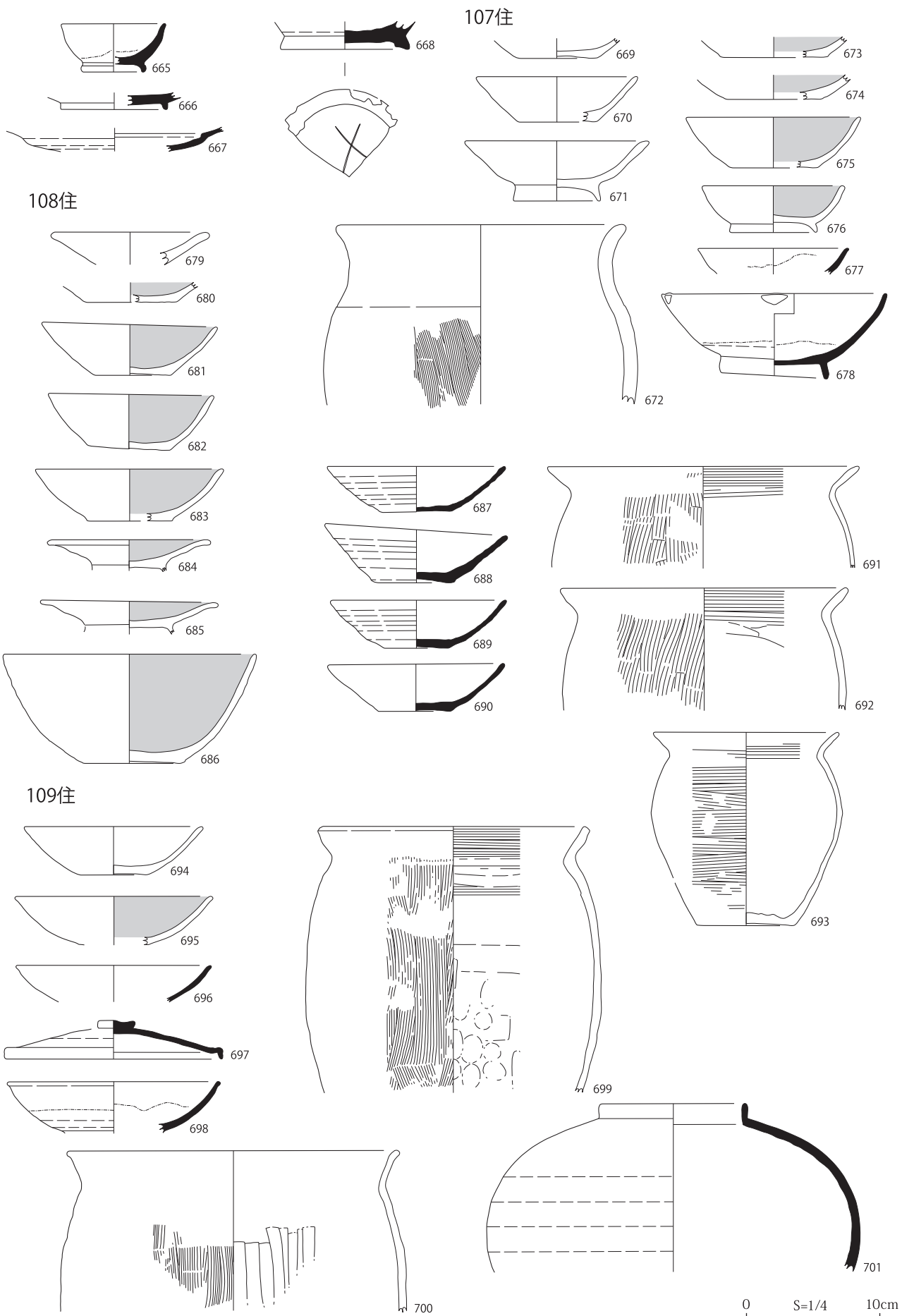
105住



106住



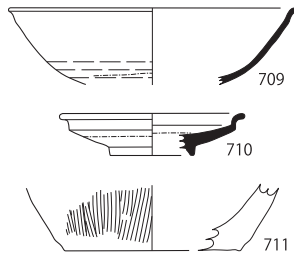
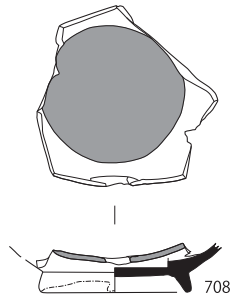
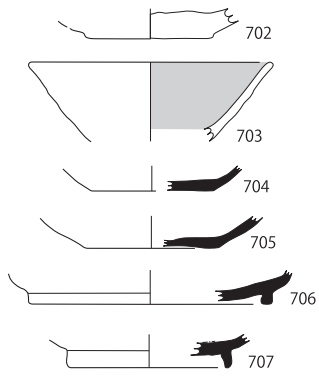
图版 75 土器 (17)



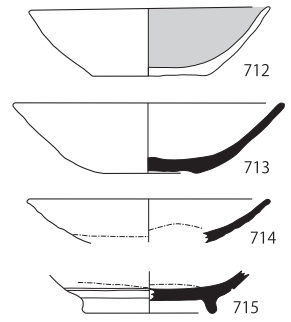
图版 76 土器 (18)



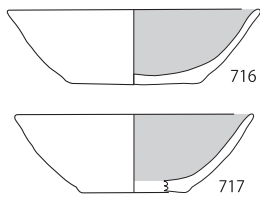
110住



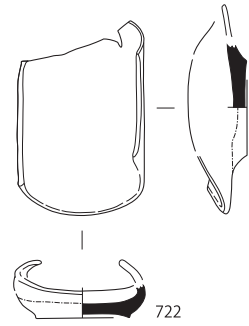
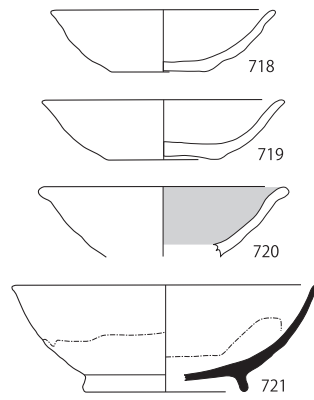
111住



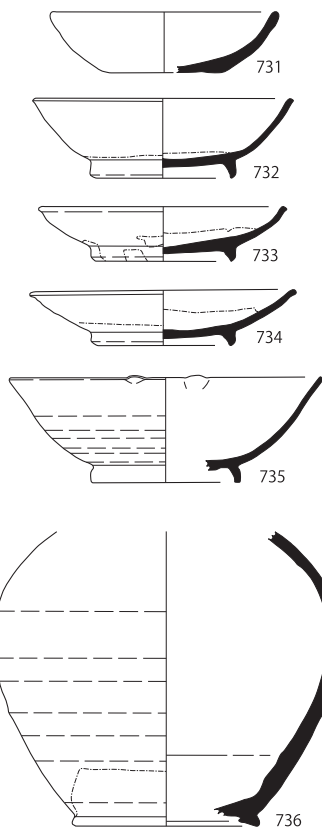
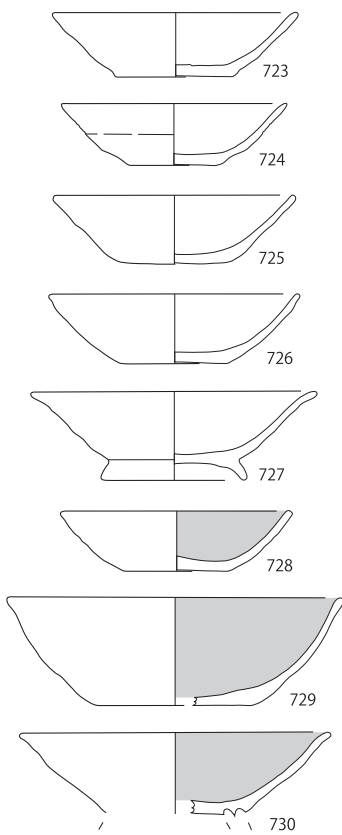
112住



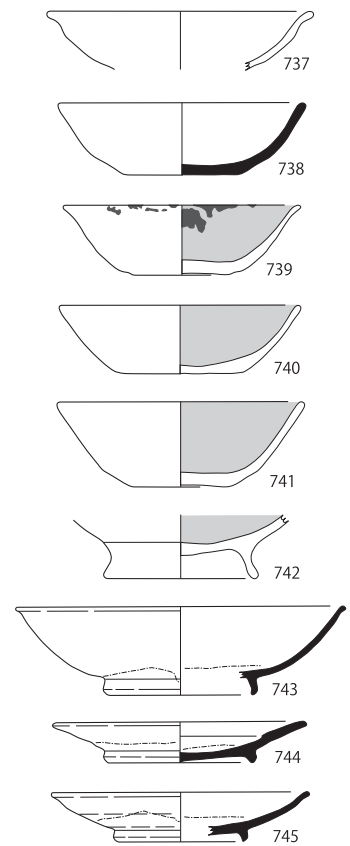
113住



114住

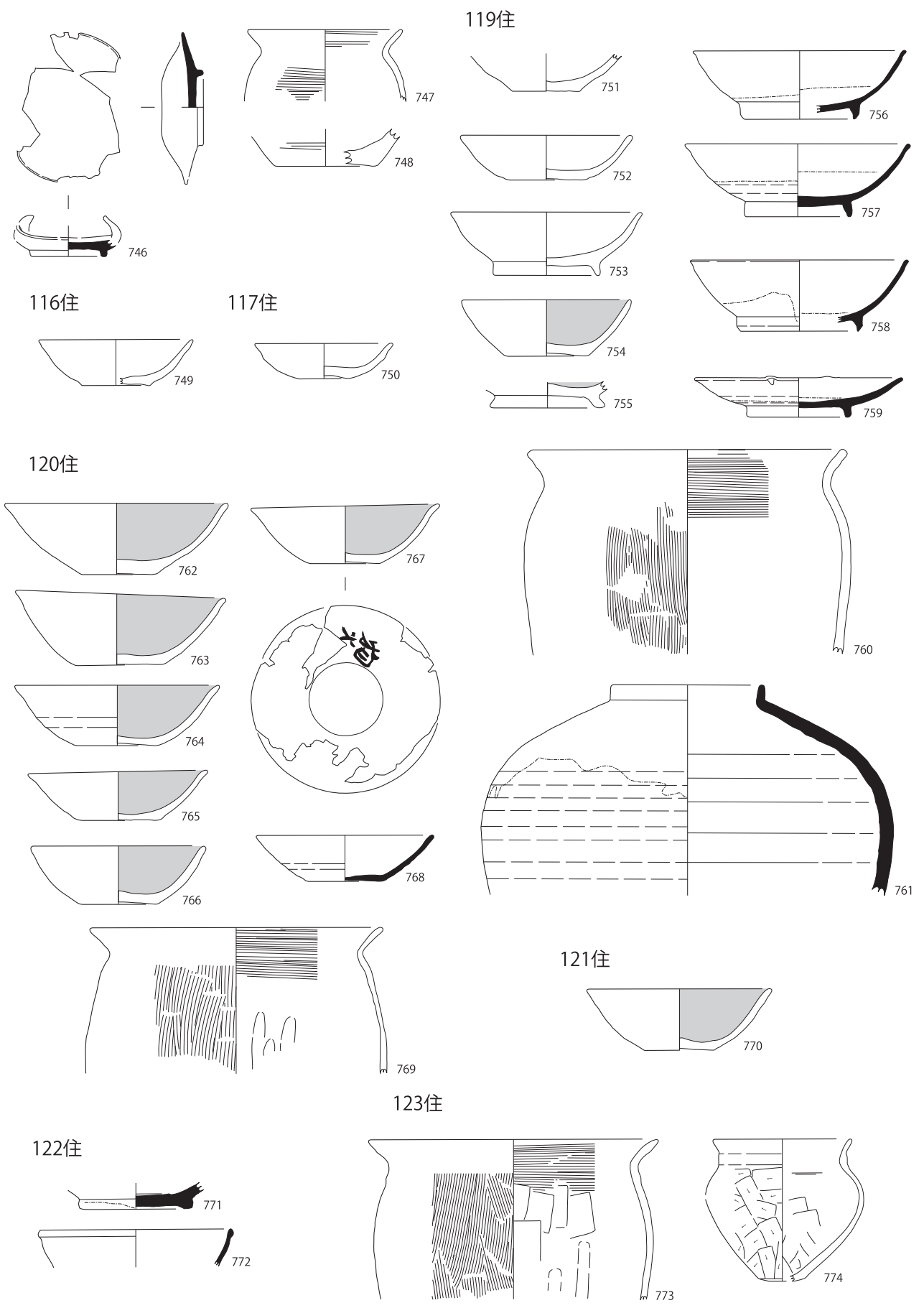


115住



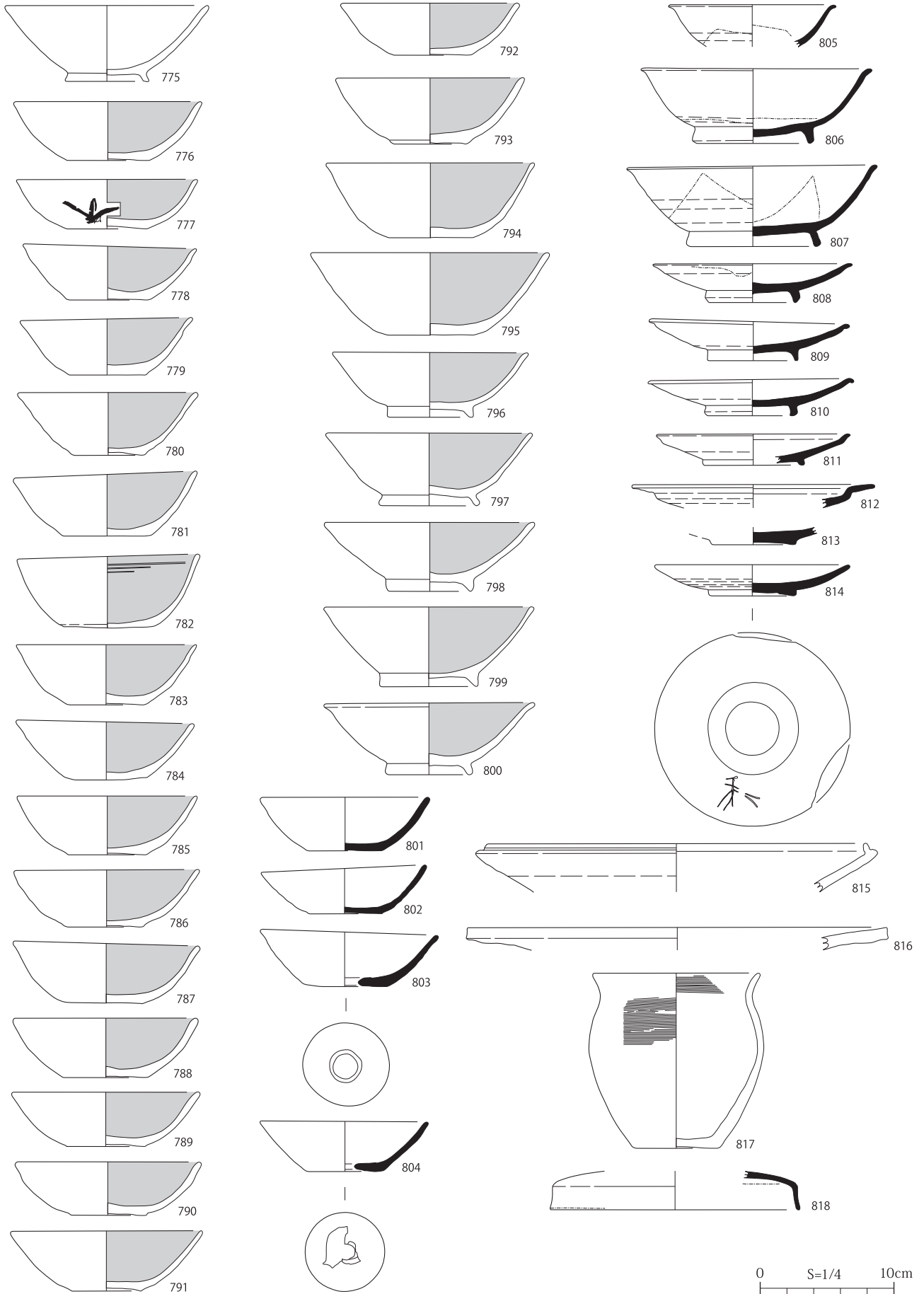
0 S=1/4 10cm

图版 77 土器 (19)



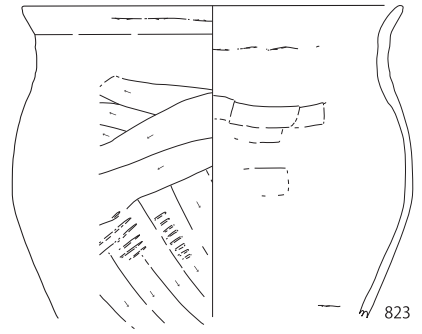
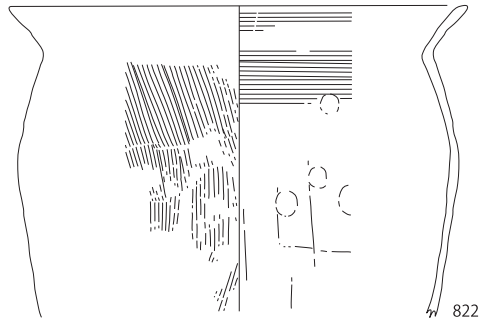
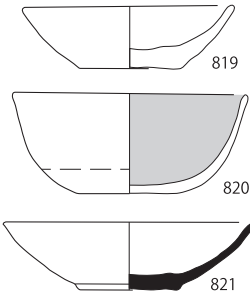
图版 78 土器 (20)

124住

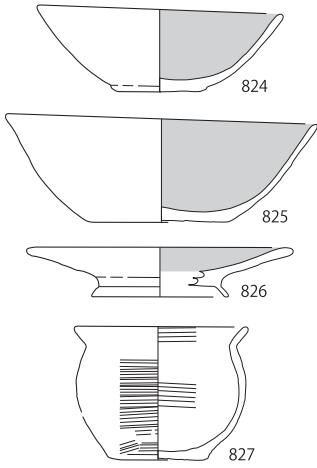


图版 79 土器 (21)

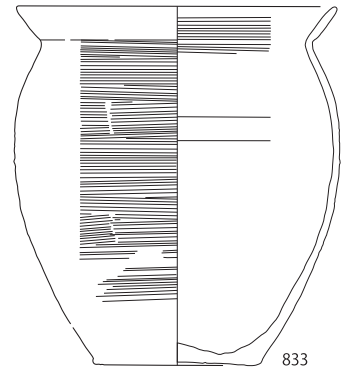
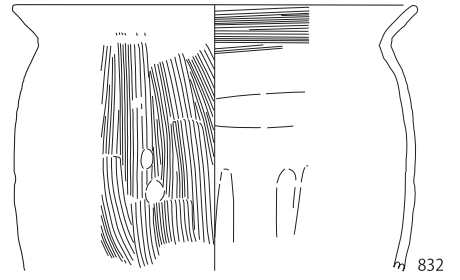
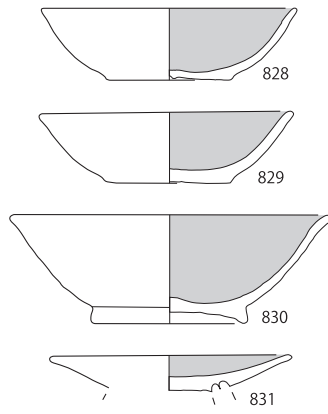
125住



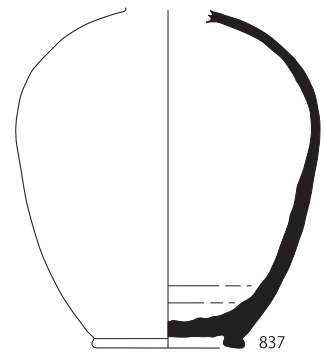
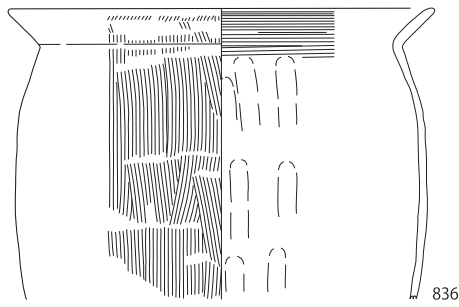
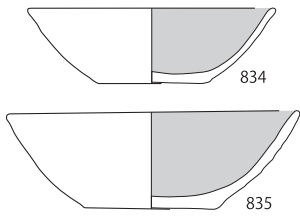
127住



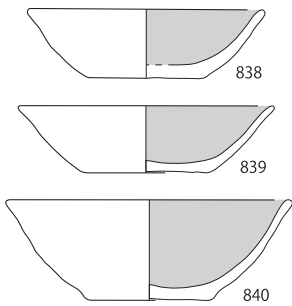
128住



129住



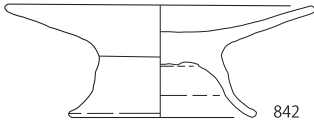
130住



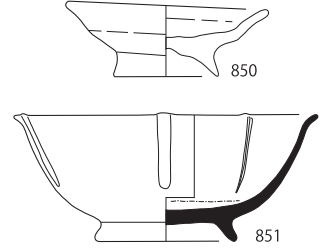
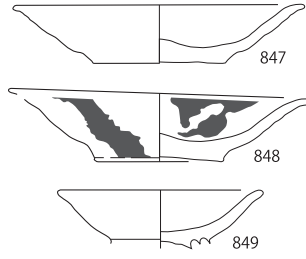
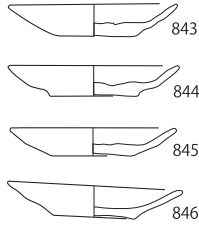
0 S=1/4 10cm

图版 80 土器 (22)

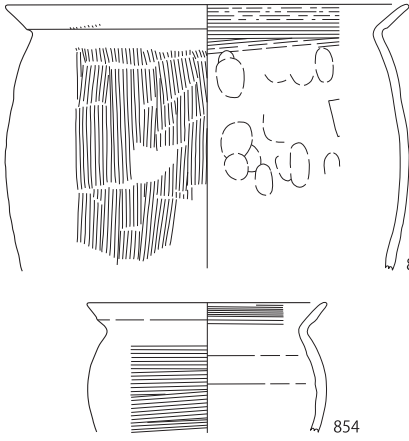
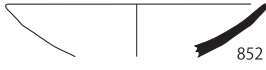
131住



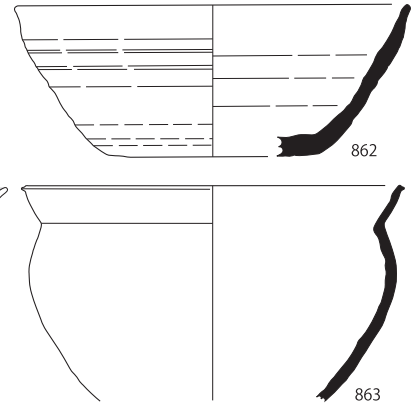
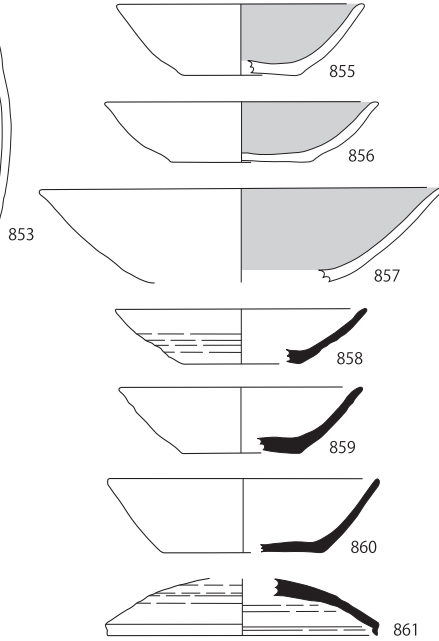
132住



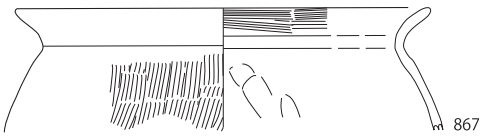
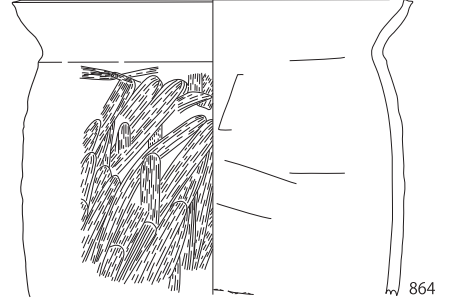
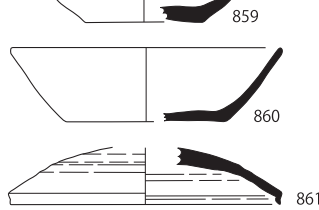
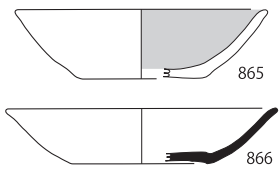
133住



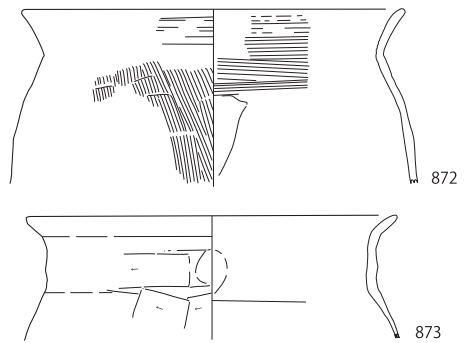
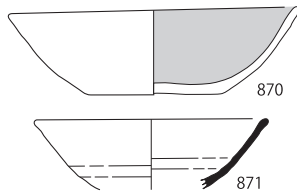
134住



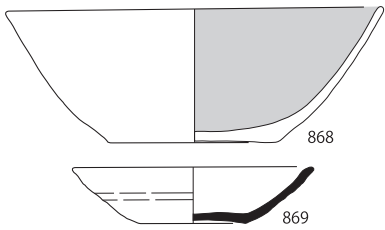
135住



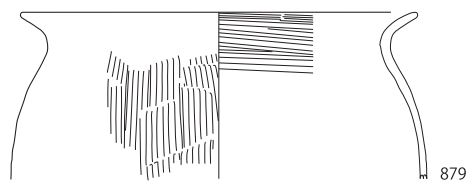
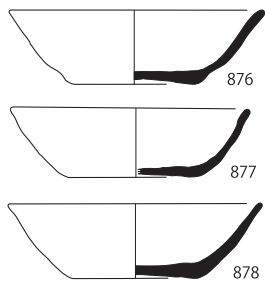
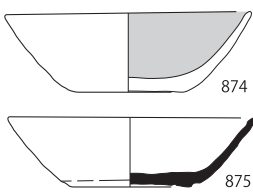
137住



136住



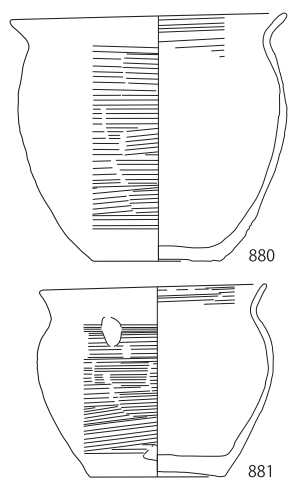
138住



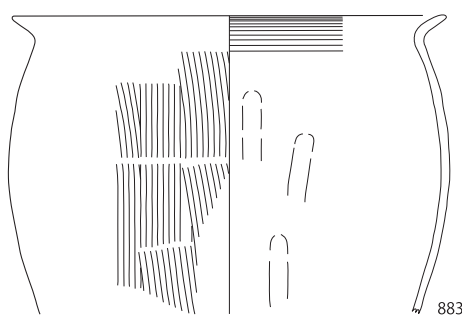
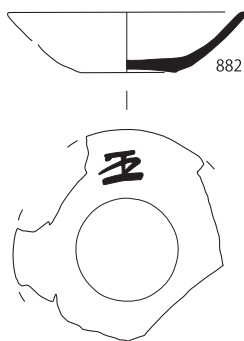
0 S=1/4 10cm

图版 81 土器 (23)

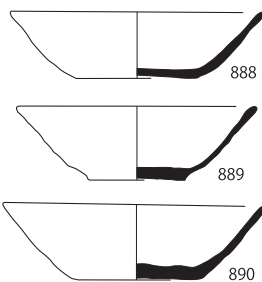
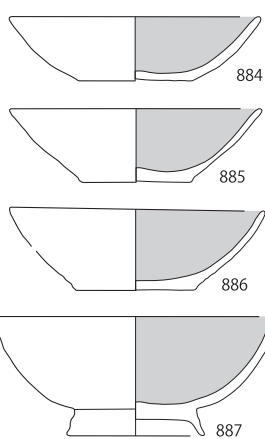




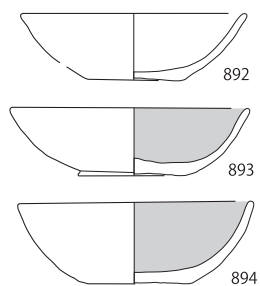
139住



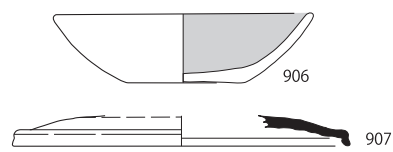
140住



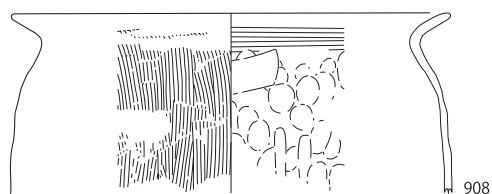
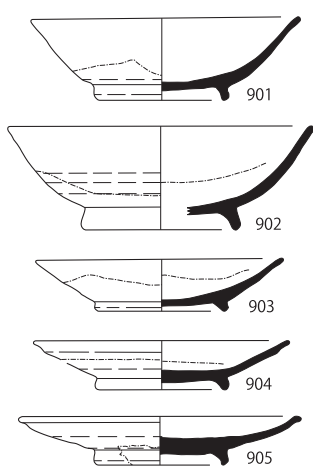
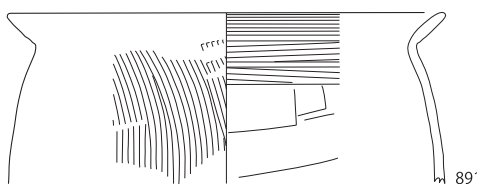
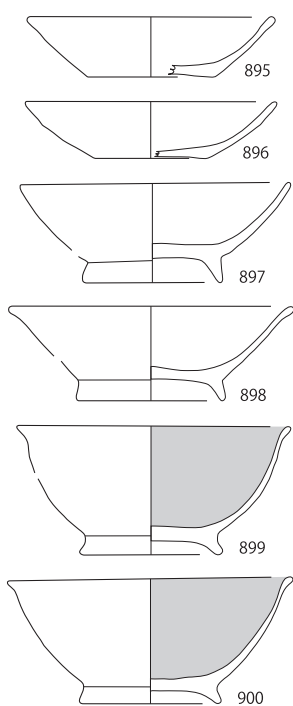
141住



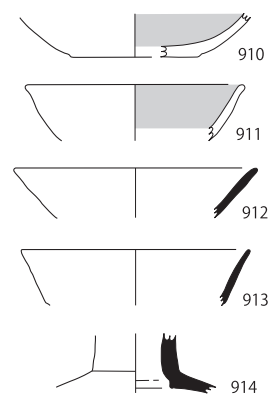
143住



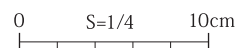
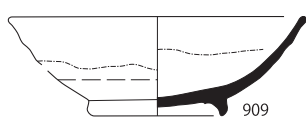
142住



147住

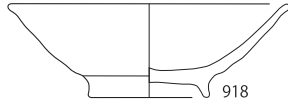
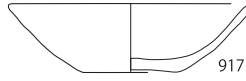
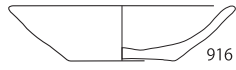
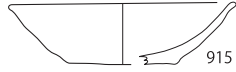


146住

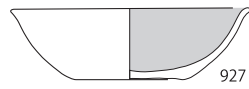
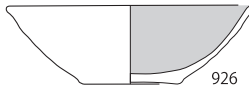
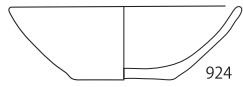


图版 82 土器 (24)

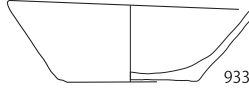
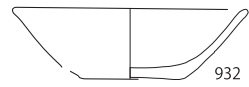
149住



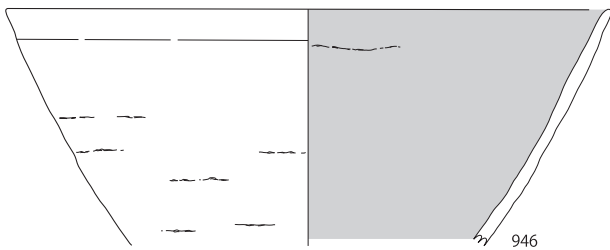
151住



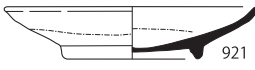
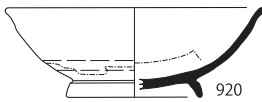
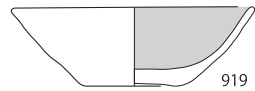
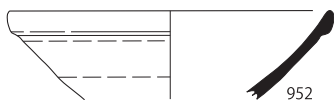
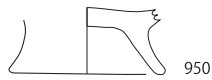
152住



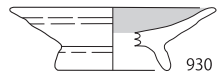
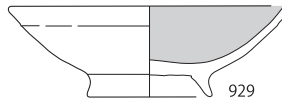
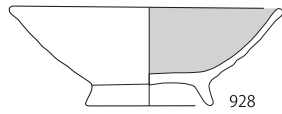
156住



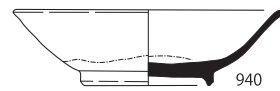
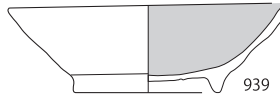
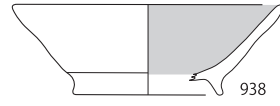
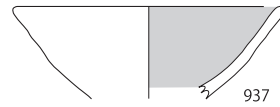
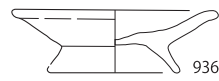
162住



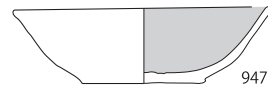
150住



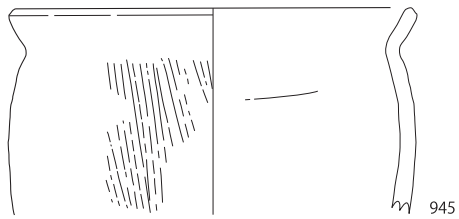
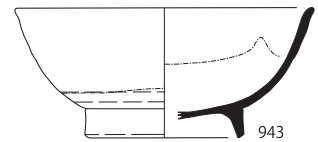
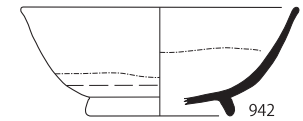
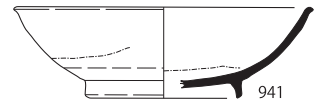
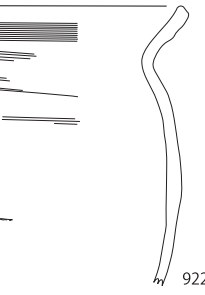
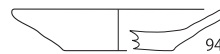
153住



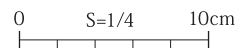
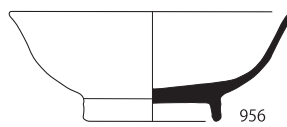
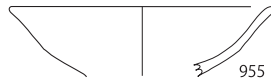
158住



160住

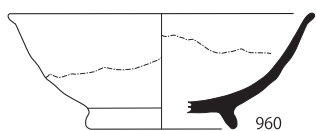


163住



图版 83 土器 (25)

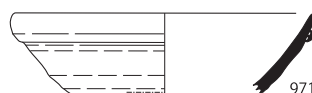
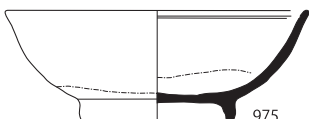
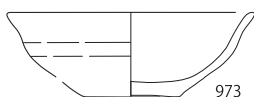
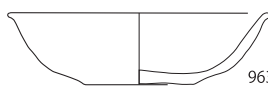
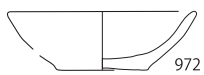
164住



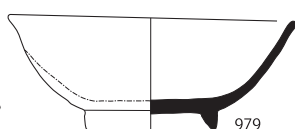
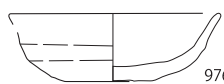
165住



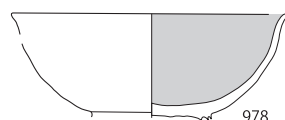
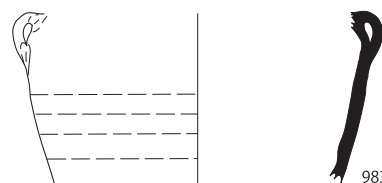
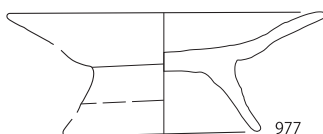
166住



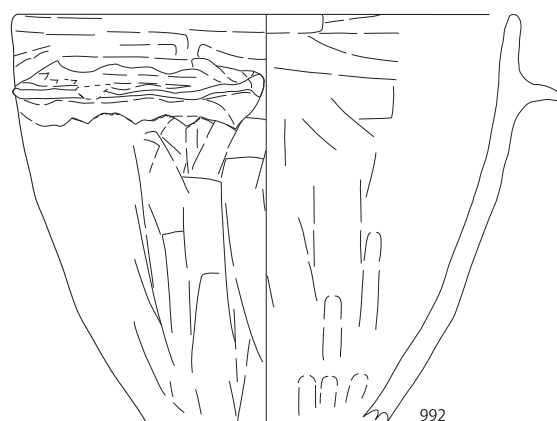
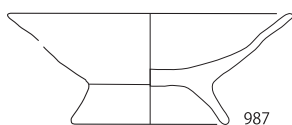
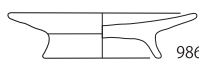
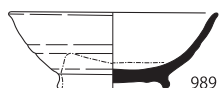
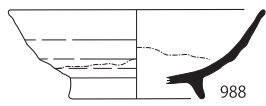
167住



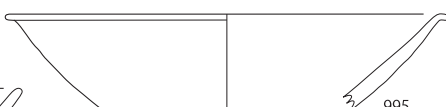
168住



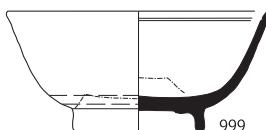
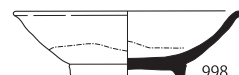
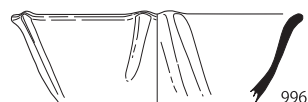
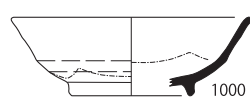
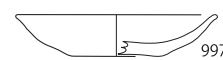
169住



170住



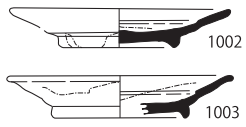
171住



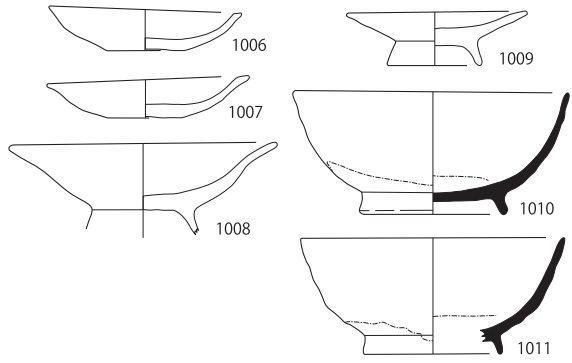
图版 84 土器 (26)

0 S=1/4 10cm

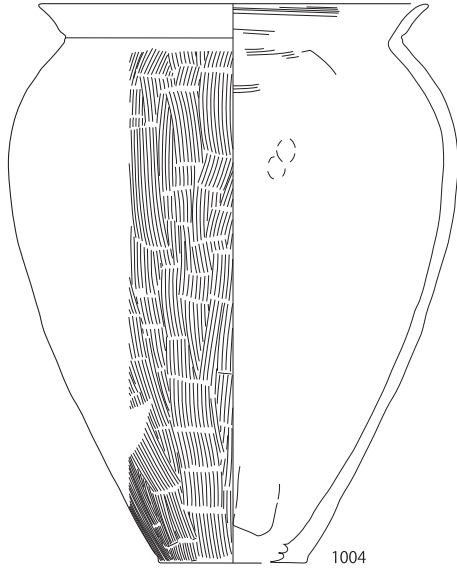
172住



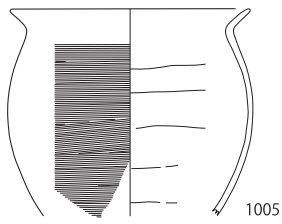
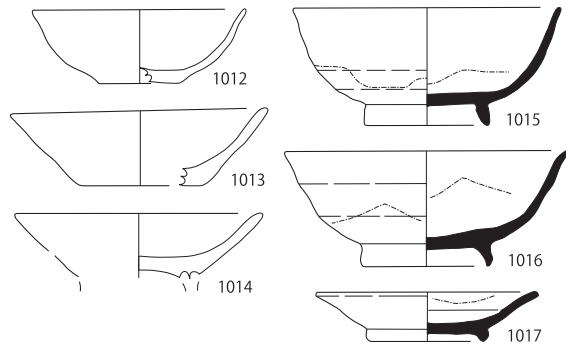
174住



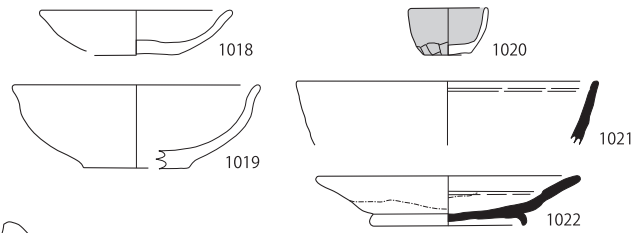
173住



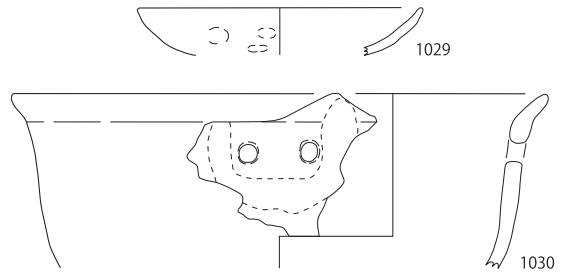
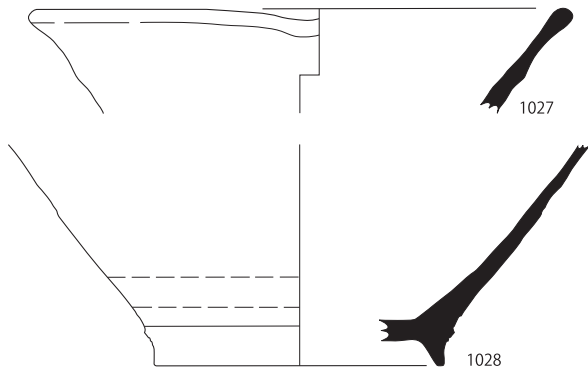
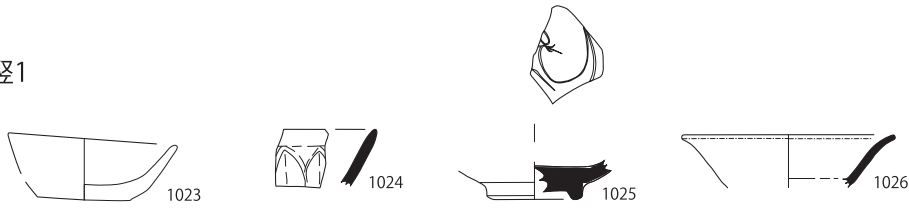
175住



176住



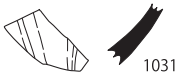
豎1



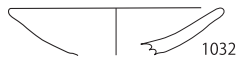
0 S=1/4 10cm

图版 85 土器 (27)

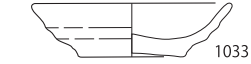
豎4



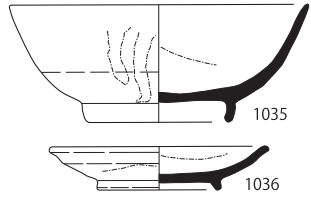
豎6



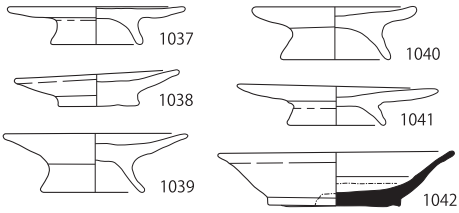
炭2



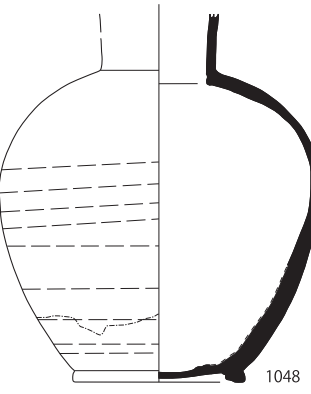
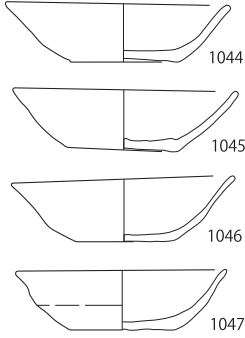
±339



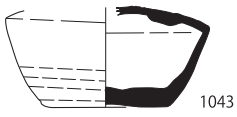
±347



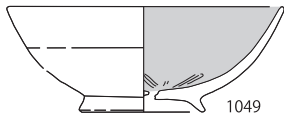
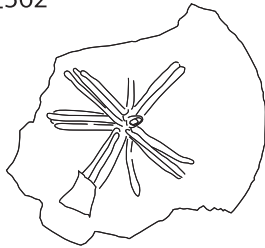
±360



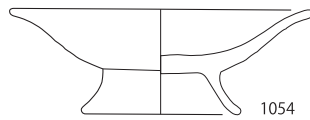
±356



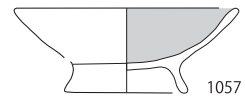
±362



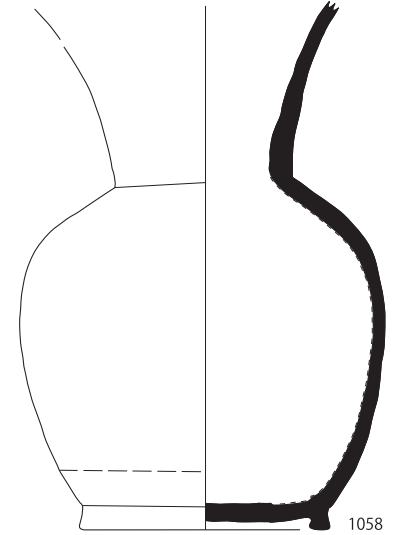
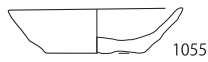
±382



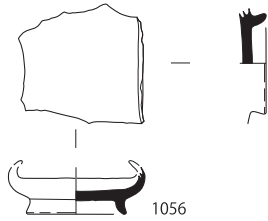
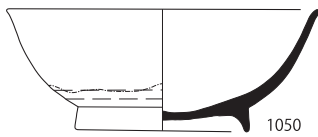
±398



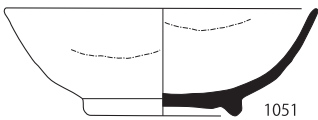
±383



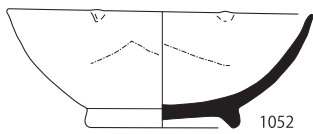
±366



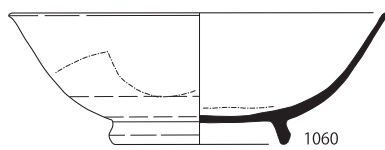
±367



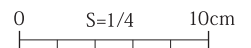
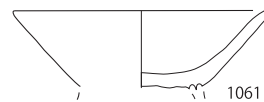
±477



±501



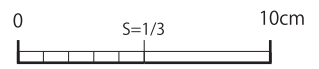
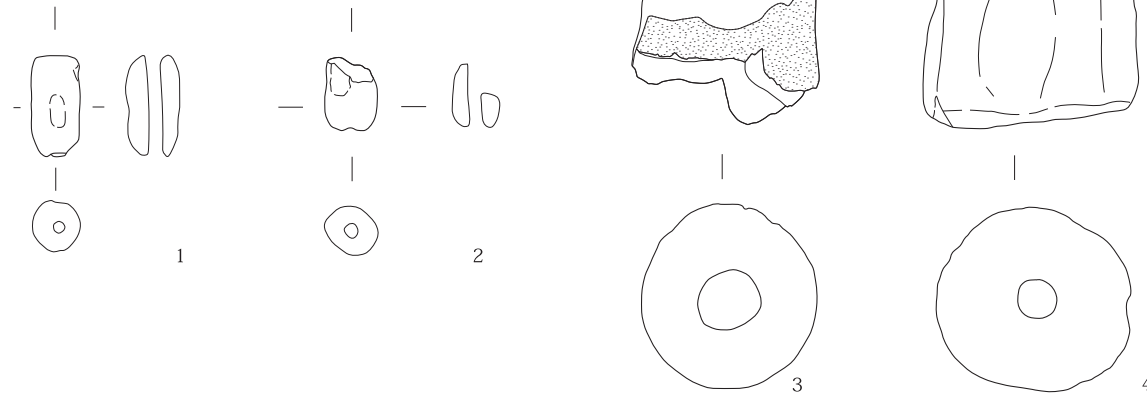
検出面



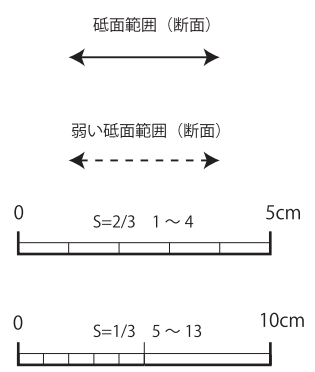
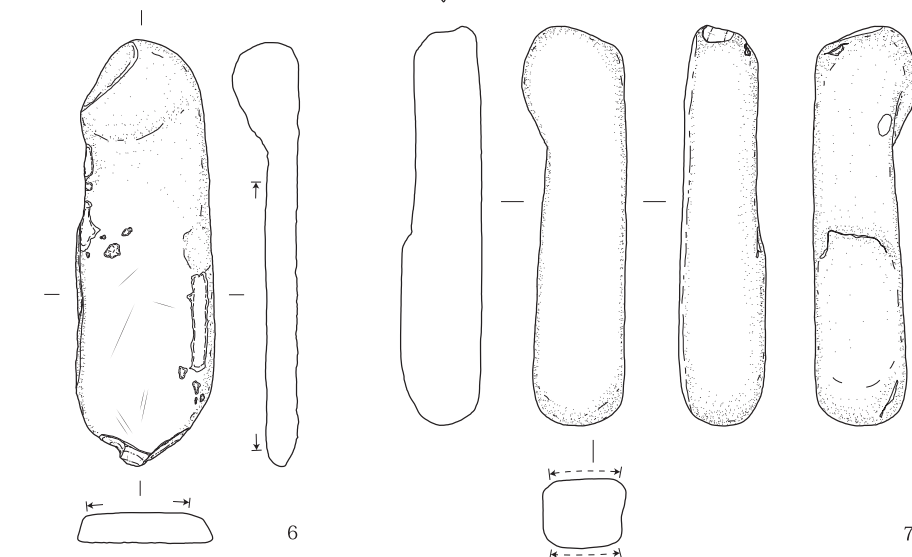
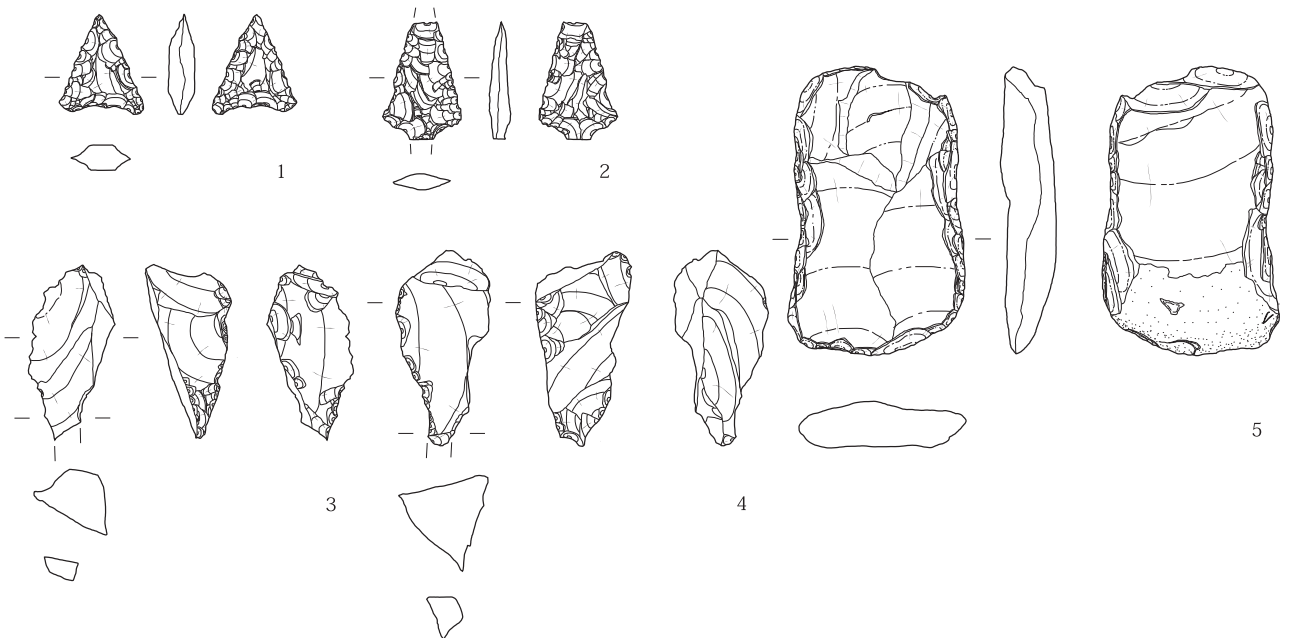
図版 86 土器 (28)



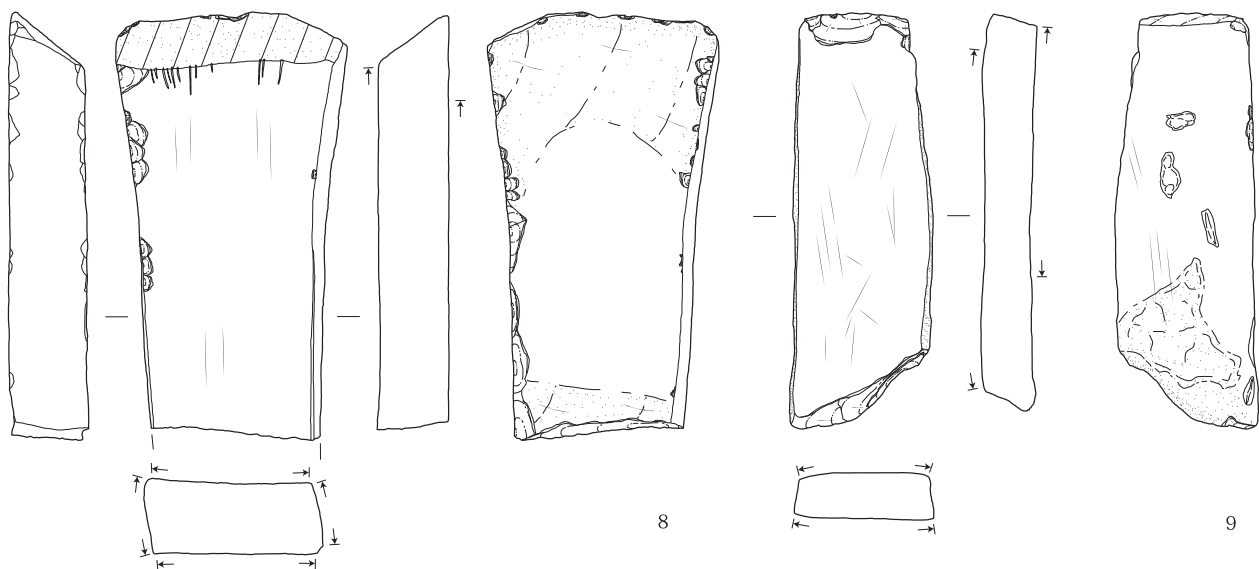
土製品



石器・石製品

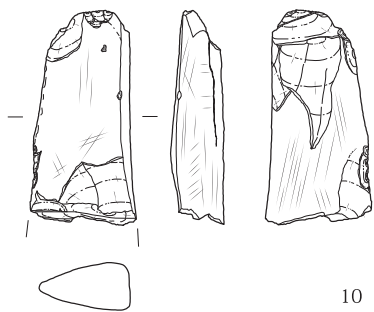


図版 87 土製品、石器・石製品 (1)

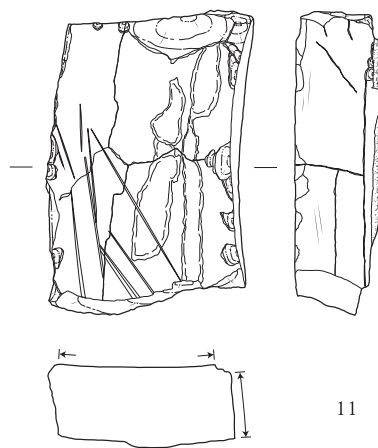


8

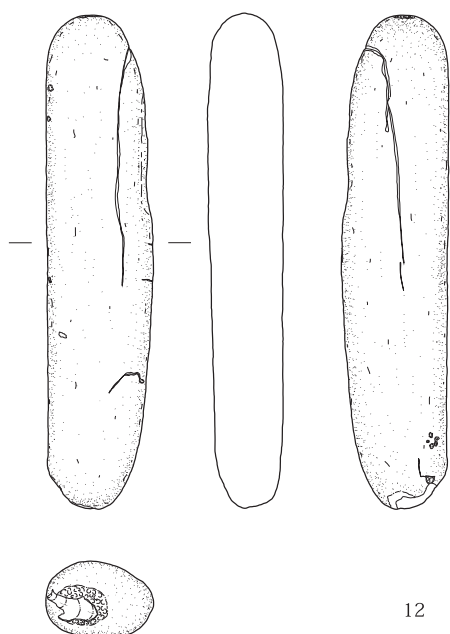
9



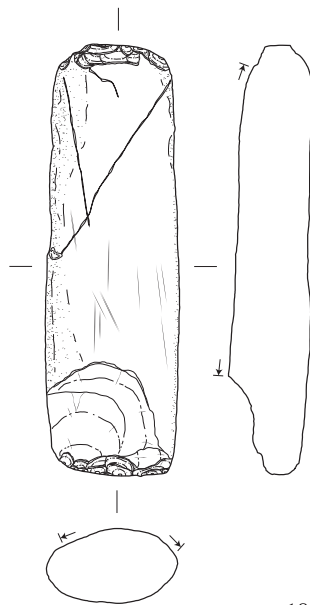
10



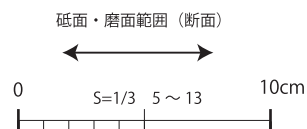
11



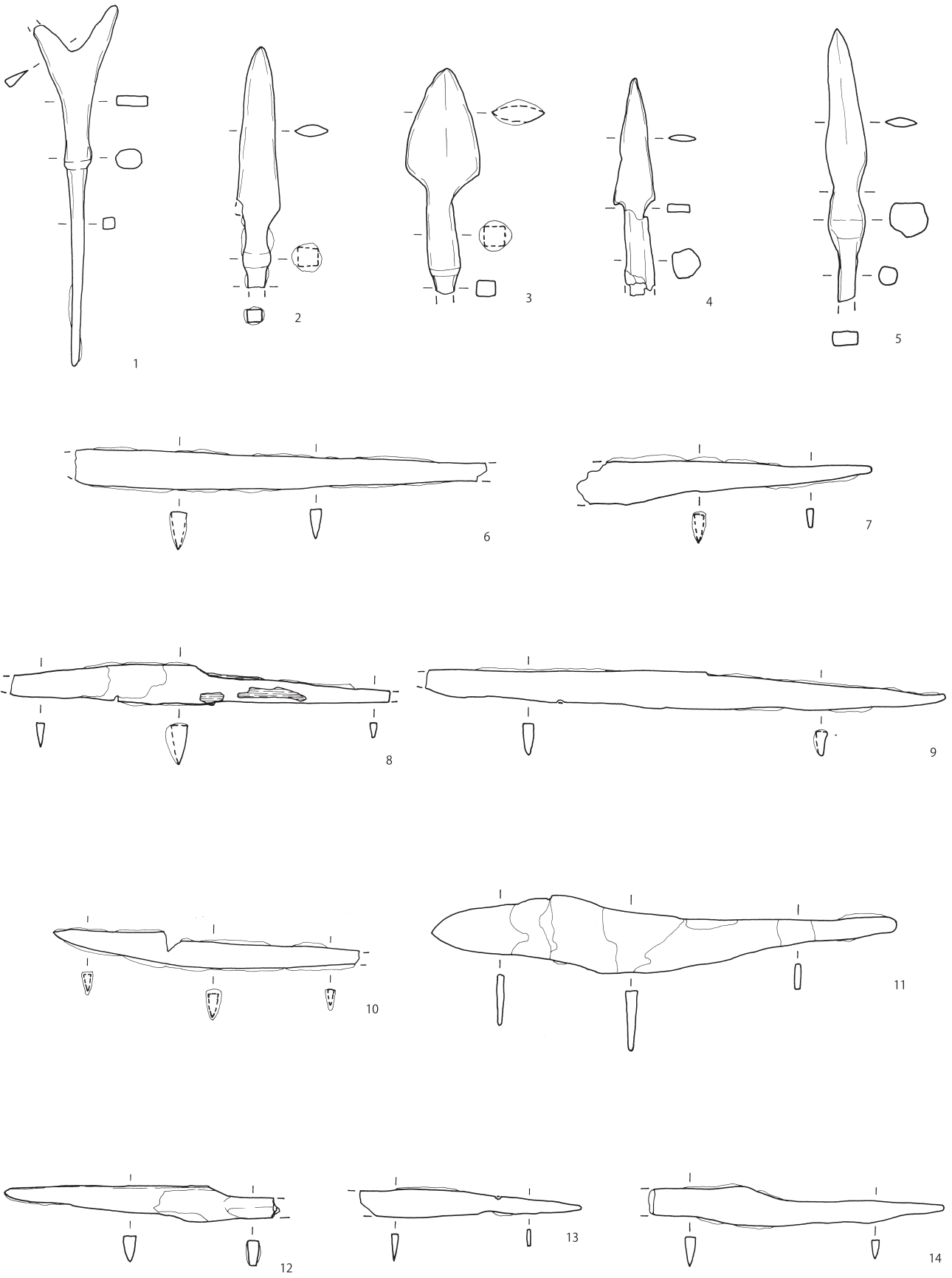
12



13

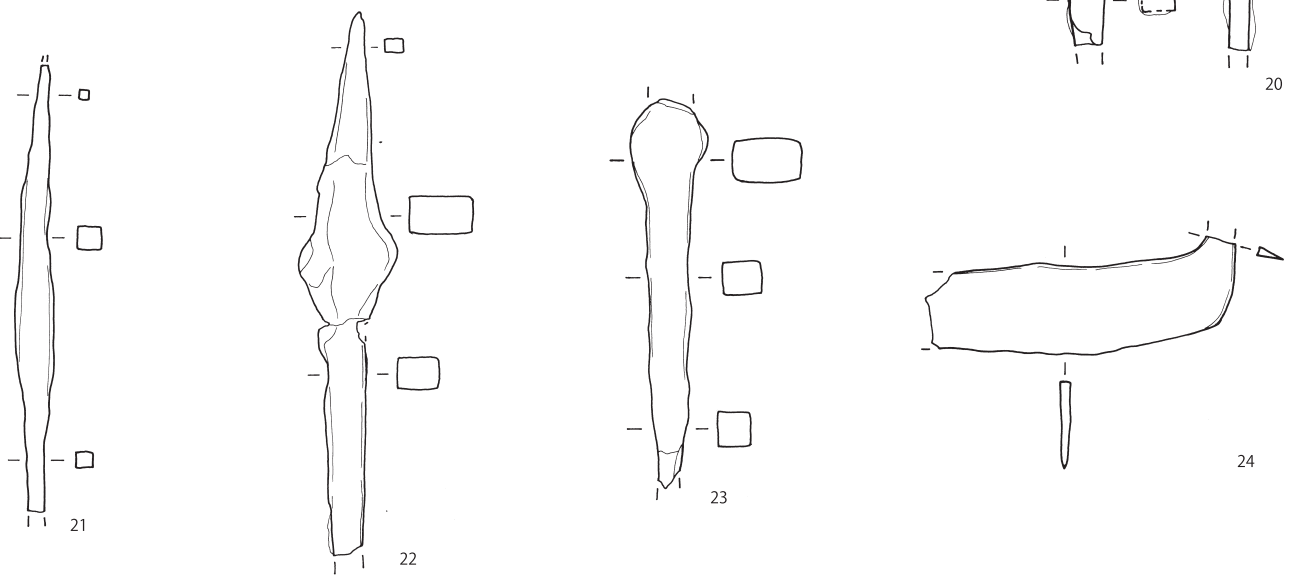
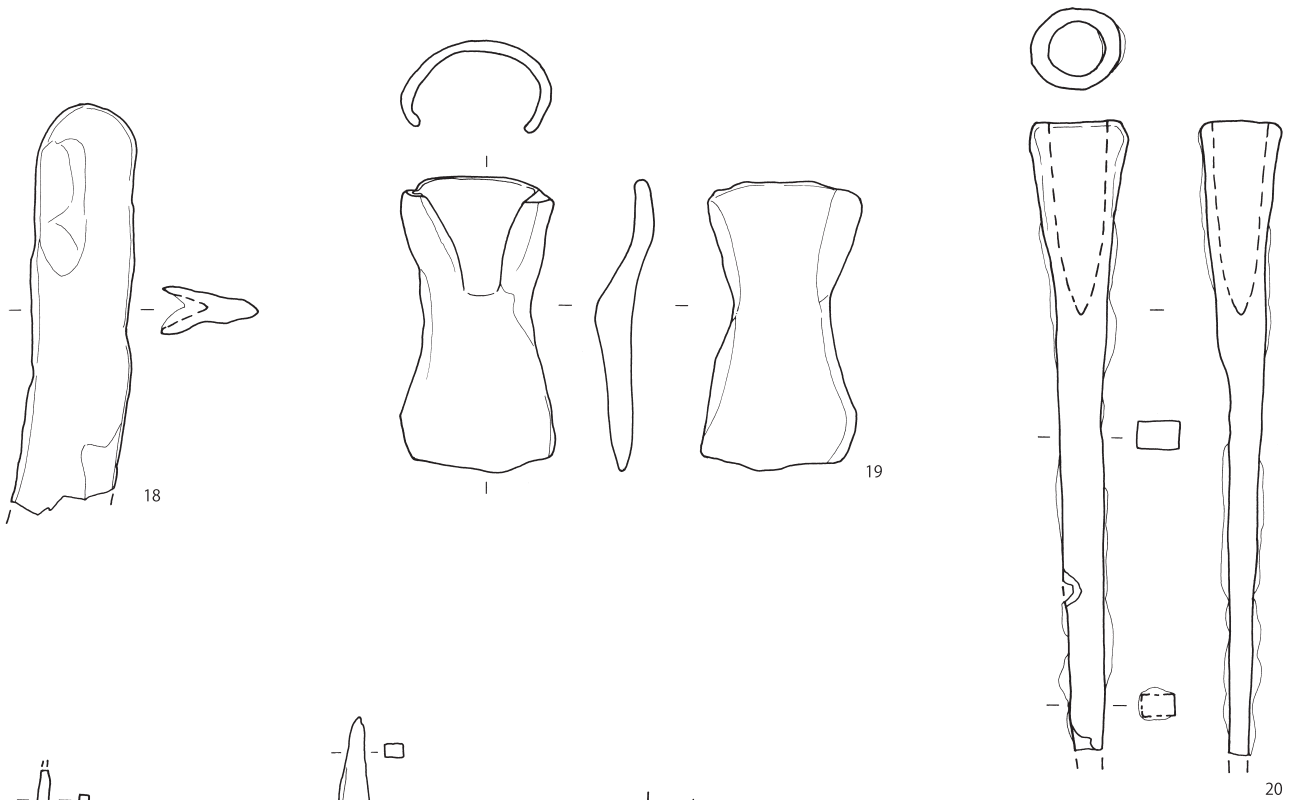
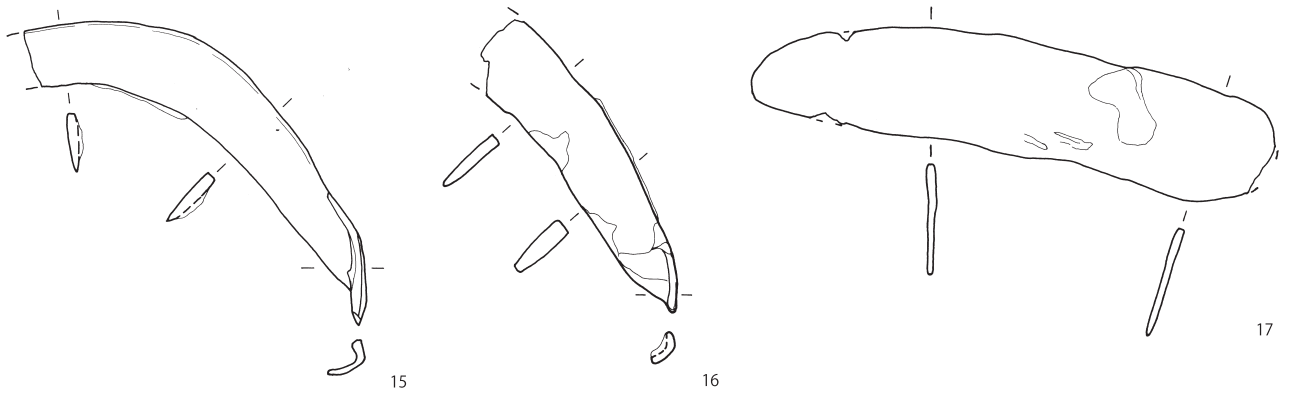


图版 88 石器・石製品 (2)



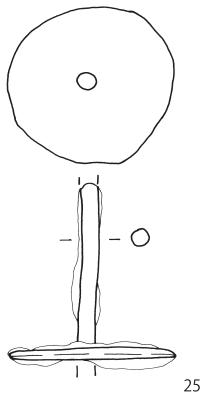
0 S=1/2 5cm

图版 89 金属製品 (1)

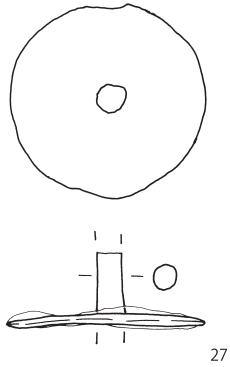


0 S=1/2 5cm

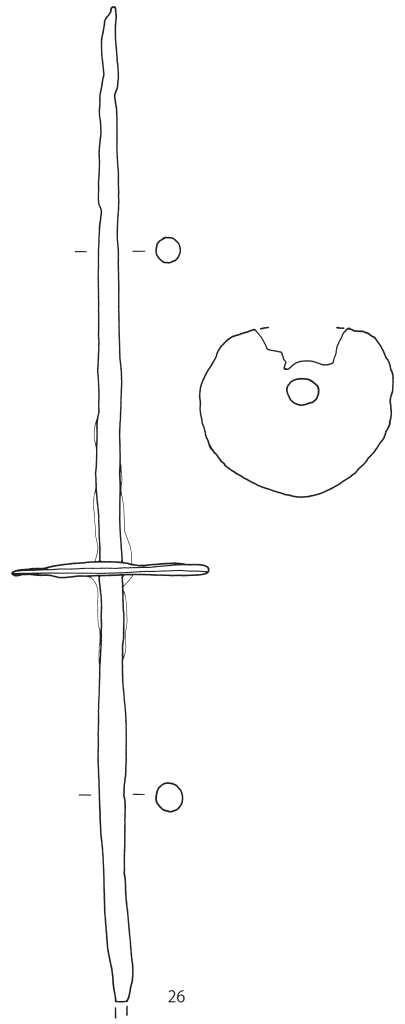
图版 90 金属製品 (2)



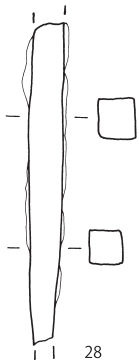
25



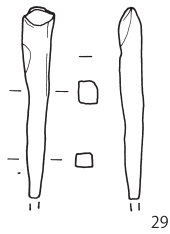
27



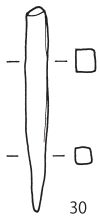
26



28



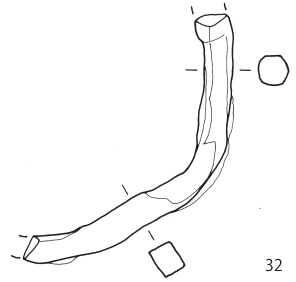
29



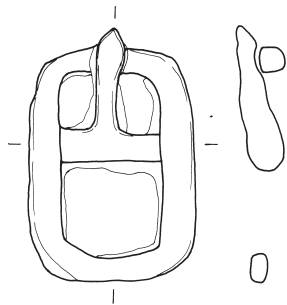
30



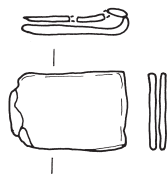
31



32



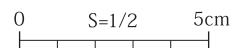
33



34



35



图版 91 金属製品 (3)





図版 92 2~6次調査全体図 (S=1/1,200)

# 写真図版









調査区全景（北が上）





調査地遠景（北西から）



調査地遠景（北東から）





14住 完掘状況 (西から)



14住 カマド検出状況 (西から)



18住 完掘状況 (西から)



18住 焼土・炭化物・骨検出状況 (南西から)



19住 完掘状況 (西から)



19住 カマド検出状況 (南西から)



20住 完掘状況 (南から)



20住 焼土検出状況 (南から)



写真図版 4



27住 遺物出土状況 (西から)



27住 カマド遺物出土状況 (西から)



28住 完掘状況 (西から)



43住 完掘状況 (西から)



44住 完掘状況 (西から)



44住 遺物出土状況 (南から)



64住 遺物出土状況 (南から)



78住 遺物出土状況 (西から)





81 住 遺物出土状況 (西から)



78 住 遺物出土状況 (西から)



80 住 完掘状況 (南から)



86 住 完掘状況 (西から)



92 住 完掘状況 (南から)





102 住 遺物出土状況 (西から)



102 住 カマド遺物出土状況 (西から)



110 住 完掘状況 (北から)



110 住 カマド検出状況 (北から)



120 住 完掘状況 (東から)





124 住 遺物出土状況 (西から)



124 住 遺物出土状況 (西から)



124 住 P12 遺物出土状況 (西から)



132 住 完掘状況 (西から)



124 住 完掘状況 (西から)





138 住 完掘状況 (東から)



138 住 カマド検出状況 (東から)



161 住 完掘状況 (東から)



161 住 焼土・炭化物検出状況 (東から)



縦1 礫出土状況 (南から)





竪 1 完掘状況 (南から)



竪 7 礫出土状況 (北から)



建 1 完掘状況 (南から)



炭 1 炭化物出土状況 (西から)



炭 2 炭化物出土状況 (南から)



炭 3 炭化物出土状況 (南から)



土 339 遺物出土状況 (南から)



土 356 遺物出土状況 (東から)





土 360 遺物出土状況（北から）



土 367 遺物出土状況（東から）



土 383 遺物出土状況（南から）



土 398 遺物出土状況（南から）



土 510 礫出土状況（南から）



炉 1 完掘状況（南西から）



溝 7 完掘状況（南から）



畝 完掘状況（北が上）





第 18 号住居址出土品（平安時代後期）



第 32 号住居址出土品（平安時代前期）



第 34 号住居址出土品 (平安時代前期)



第 37 号住居址出土品 (平安時代前期)





第 44 号住居址出土品（平安時代前期）



第 53 号住居址出土品（平安時代後期）



第 79 号住居址出土品（平安時代後期）



第 81 号住居址出土品（奈良時代）



第 87 号住居址出土品 (平安時代前期)



第 92 号住居址出土品 (平安時代前期)





第 96 号住居址出土品（平安時代後期）



第 108 号住居址出土品（平安時代前期）



第 114 号住居址出土品 (平安時代中期)



第 119 号住居址出土品 (平安時代前期)





第 124 号住居址出土品① (平安時代前期)



第 124 号住居址出土品② (平安時代前期)



第 169 号住居址出土品（平安時代後期）



土 360 出土品（平安時代中期）





10 (15 住)



28 (20 住)



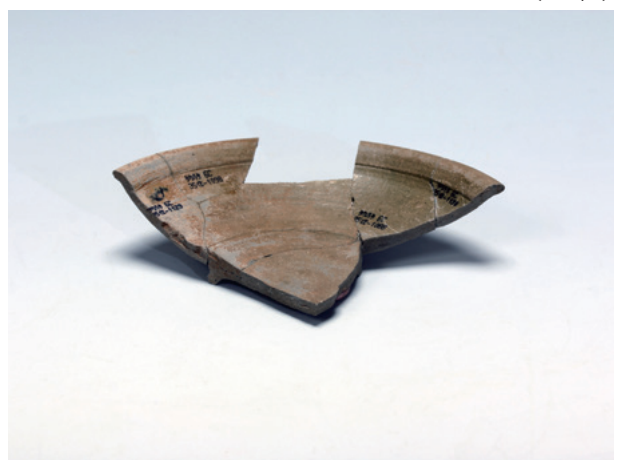
34 (21 住)



83 (31 住)



104 (34 住)



118 (35 住)



152 (42 住)



207 (51 住)



492 (90 住)



515 (91 住)



613 (102 住)



708 (110 住)



708 (110 住)



767 (120 住)



774 (123 住)



777 (124 住)





814 (124 住)



820 (125 住)



842 (131 住)



862 (134 住)



864 (134 住)



875 (138 住)



969 (165 住)



982 (168 住)



1020 (176 住)



1030 (豎 1)



1043 (土 356)



1060 (土 501)



9 (14 住)

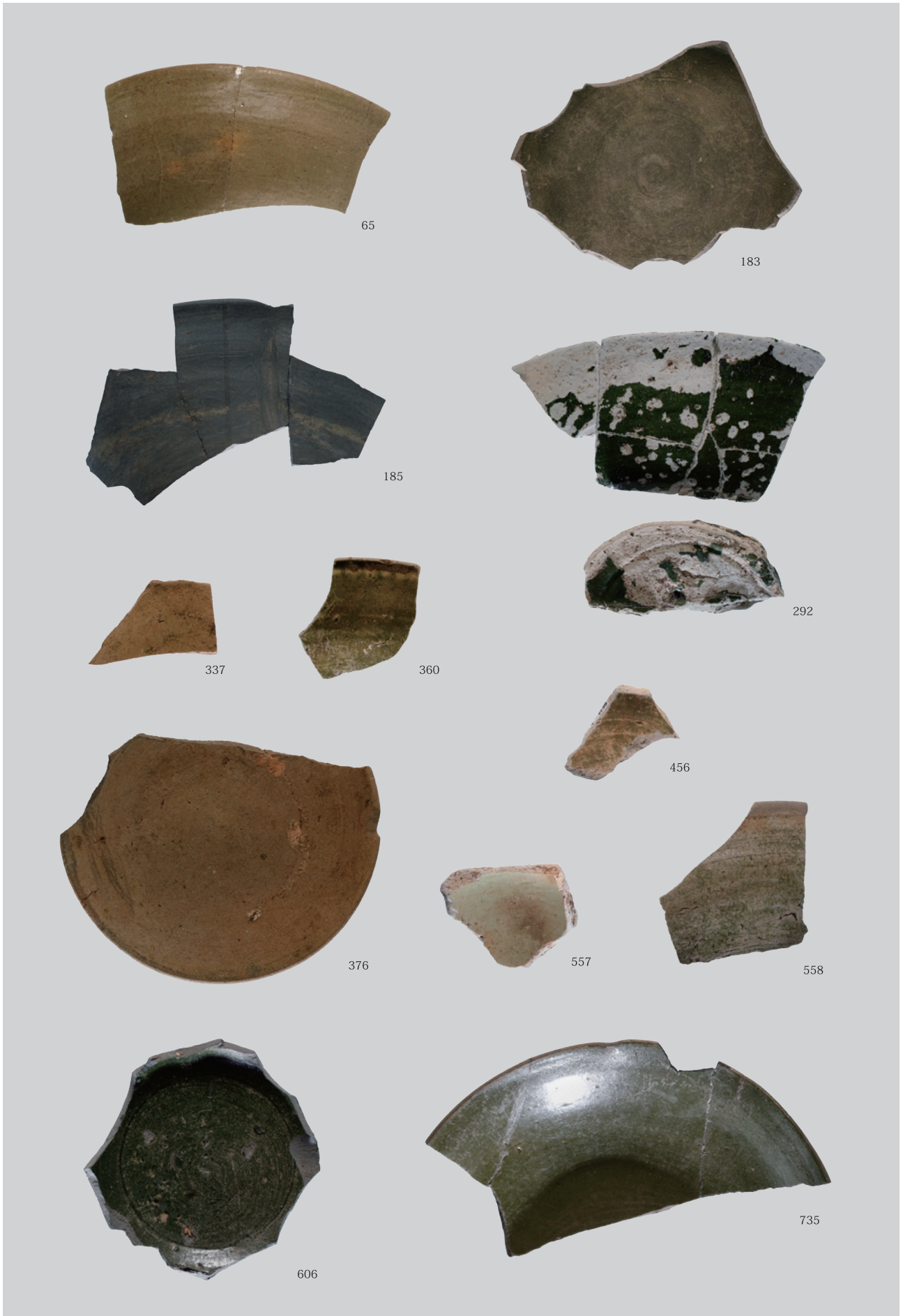


1004 (173 住)

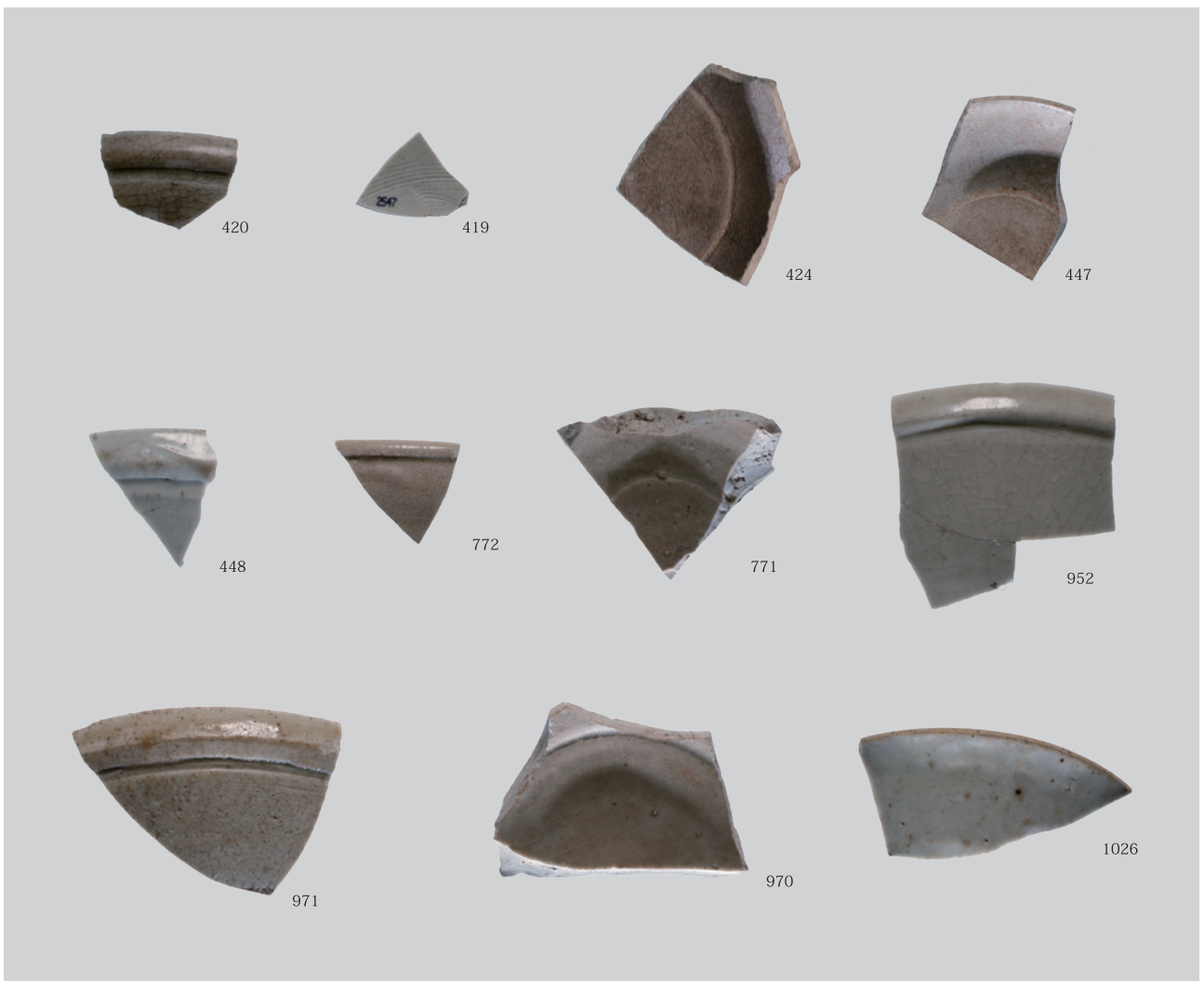


1058 (土 398)





緑釉陶器 (1) (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)



緑釉陶器 (2)、青磁、白磁 (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)





土製品 (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)

石器・石製品 (1～4：S=1/2、5～13：S=1/3、No. は実測図中の番号に同じ)



金属製品 (1) (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)



金属製品 (2) (18 ~ 35 : S=1/2、36 : S=1/1、No. は実測図中の番号に同じ)

# 報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし たかばたけいせき だい6じはつくつちようさほうこくしよ							
書名	長野県松本市 高畑遺跡 第6次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.230							
編著者名	小山奈津実、原田健司、山本紀之							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL 0263-34-3000 (代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL 0263-86-4710)							
発行年月日	2018 (平成30) 年3月27日 (平成29年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
高畑	ながのけんまつもとし 長野県松本市 むらいまちなみ 村井町南 二丁目918番 ほか	20202	295	36度10分 51秒	137度58分 03秒	2014年5月19日 ～ 2016年3月25日	12,652m <sup>2</sup>	松本市村井町南 土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
高畑	集落跡	奈良 ～ 中世	竪穴住居址：157軒 奈良…4軒 平安…151軒 時期不明…2軒 竪穴建物址：5軒 平安…1軒 鎌倉…2軒 時期不明…2軒 竪穴状遺構：1基 (鎌倉) 掘立柱建物址：8棟 平安以降…2棟 鎌倉…2棟 時期不明…5棟 炭焼窯：3基 平安…2基 時期不明…1基 土坑：1015基 炉址：1基 (平安以降) 溝址：12条 平安…1条 時期不明…11条 畝址：16本 (平安以降)	[土器・陶磁器] 土師器 黒色土器 須恵器 軟質須恵器 陶器 (灰釉・無釉・緑釉) 磁器 (青磁・白磁) 土師質土器 [土製品] 土錘 羽口 [石器・石製品] 石鏃 石錘 打製石斧 砥石 磨石 [金属製品] 鏃 刀子 鎌 斧 鑿 紡錘車 釘 鉸具 銭貨				
要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>松本市村井町南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として実施した。</li> <li>奈良時代から中世にかけての集落址を調査し、同時期の土器を中心とする多量の遺物を得た。特に9世紀中葉～10世紀前葉と11世紀中葉～後葉の2時期に最盛が見られる。また、遺構の分布状況から、居住域は時代が下るにつれて北東へ移動したことが窺われる。今回の調査により、本遺跡及び芳川地区の集落の様相を考える上で重要な資料が得られた。</li> </ul>							



---

松本市文化財調査報告 No.230

長野県松本市

高畑遺跡

—第6次発掘調査報告書—

発行日 平成30年3月27日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 精美堂印刷株式会社

---